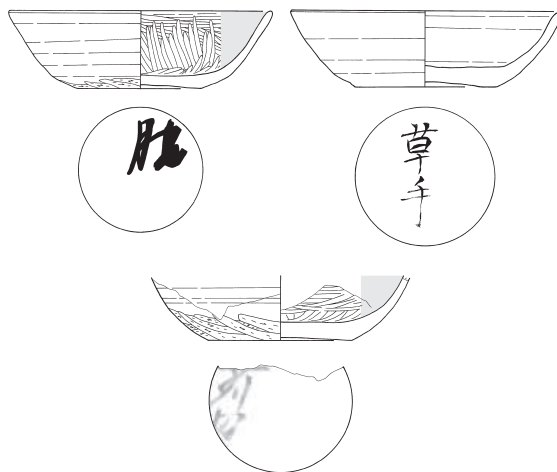


前戸内遺跡

— 経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査 —



2013年（平成25年）3月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

前戸内遺跡

— 経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査 —



1. 調査区全景（1区南・南から）



2. SB10 掘立柱建物跡（平安時代）



1. SI1 竪穴住居跡 (平安時代)



2. SI142 竪穴住居跡 (平安時代)



3. SI194 竪穴住居跡 (平安時代)



4. SX13 廃棄土坑 (平安時代)



5. SB10 掘立柱建物跡 (平安時代)



6. SB127 掘立柱建物跡 (平安時代)



7. SI140 竪穴住居跡 (奈良時代)



8. SX114 粘土採掘坑 (奈良時代)



1. 第1群土器 (奈良時代)



2. 第2群土器 (平安時代)



1. SI3 竪穴住居跡出土土器 (平安時代)



2. SI194 竪穴住居跡出土土器 (平安時代)



3. SX13 廃棄土坑出土土器 (平安時代)



4. 鉄製品・鉄滓 (平安時代)



5. 墨書土器 (平安時代) 上段：S=1/4 中段：任意 下段 (赤外線写真)：任意拡大

序 文

蔵王山麓の豊かな自然に恵まれた私たちの蔵王町は、大昔から大変住み良い土地だったのでしょう。私たちの足もとに埋もれている多くの遺跡が、悠久の時をこえてそのことを力づよく物語っています。

蔵王町の北東部に位置する円田盆地では、平成8年度に大規模なほ場整備事業が計画されました。事業の計画区域には多くの遺跡が含まれていたことから、文化財の保存についての協議が重ねられました。この結果、水田となる部分は盛土によって遺跡を保存し、道路や水路などの工事によってやむを得ず破壊される部分について、平成13年度より記録保存のための発掘調査を行なうことになりました。

本書において皆さまにご報告するのは、平成20・21年度に行なった前戸内遺跡の発掘調査成果についてです。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが発見され、当時の集落が営まれていたことが判明しました。集落内には計画的に建物を配置した場所があり、当時の地域有力者一豪族の居宅であったと考えられます。郡名とみられる「苺田」と記した墨書土器も出土し、当時の円田盆地周辺が苺田郡に属していたことを示す重要な資料です。

これらは、蔵王山麓に暮らした当時の人びとの暮らしぶりの一端を窺い知ることのできる貴重な成果です。本書にまとめられた学術的成果が、広く皆さまに活用され、地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

ほ場整備事業計画の策定と実施にあたっては、宮城県大河原地方振興事務所、蔵王町土地改良区、地元地権者の皆さまより文化財の保存と発掘調査実施へのご理解とご協力をいただきました。地元作業員の皆さまにはさまざまな気象条件の下、野外での発掘作業にあたっていただきました。ご協力を賜りました関係各位の皆さまにあつく心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、先人の残した文化遺産を町民の宝として永く後世に継承していくことは、これからの地域色豊かなまちづくりには欠かせない大切なことでもあります。今後とも、町民各位のご理解とご協力を念願して序といたします。

平成25年3月

蔵王町教育委員会
教育長 佐藤 茂廣

例 言

1. 本書は、蔵王町大字小村崎字前戸内地内に所在する前戸内遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う事前調査として行なったものであり、発掘調査から整理作業および本書の作成に至る一連の業務は、調査原因となった事業の主体者である宮城県大河原地方振興事務所を委託者、蔵王町を受託者とする業務委託契約を締結し、蔵王町教育委員会が平成 20・21 年度に発掘調査・基礎整理作業、平成 23・24 年度に本整理・報告書作成作業を実施した。
3. 本発掘調査と整理作業は蔵王町教育委員会が主体となり、教育総務課文化財保護係が担当した。職員体制は下記のとおりである。

教 育 長 山田 紘（～H22） 佐藤 茂廣（H23～）

教育総務課長 大沼 芳國（～H22） 高野 正人（H23～）

課 長 補 佐 阿部 宏（～H21） 高野 正人（H22） 佐藤 浩明（H23～）

文化財保護係長 佐藤 洋一 主 事 鈴木 雅

文化財臨時職員 庄子 善昭（H17～）・我妻 なおみ・鈴木（山戸）和美（H20～）・安倍 奈々子・古田 和誠（H20）・中沢 祐一（H21～22）・渡邊 香織（H22～）・海藤 元（H24）

発掘調査作業員 我妻 英子・我妻 儀八・我妻 大・浅沼 一郎・芦立 清・太田 忠義・大庭 慶志郎・加藤 初子・加藤 洋一・亀井 勇二・熊坂 信子・小杉 佐和子・後藤 扶美江・小林 四郎・小林 美智子・佐藤 和子・佐藤 貴美子・佐藤 照子・佐藤 福治・佐藤 義晴・眞貝 誠一・鈴木 光一・鈴木 勝・清野 政男・竹内 恂子・樋口 良子・堀内 博・山家 次郎（H20～21）・佐藤 かおる・吉田 三郎（H20）・我妻 武夫・市川 康雄・大沼 さつき・加藤 力・佐藤 摩里恵・鈴木 春夫・竹内 求・武田 憲繁（H21）

室内整理作業員 我妻 英子・小杉 佐和子・小林 四郎・小林 美智子・佐藤 貴美子（H20～21・23～24）・竹内 恂子（H20～21）・佐藤 かおる（H20・23～24）・大庭 慶志郎・佐藤 里栄（H21・23～24）・市川 康雄（H21）・岩佐 若奈・佐藤 恵子・松田 律子（H23～24）・我妻 功康・菅野 慶一・松崎 祐二（H24）

4. 本発掘調査と整理作業・本書の作成に際しては、下記の諸機関・諸氏よりご指導・ご協力を賜った。宮城県教育庁文化財保護課・石黒伸一朗・菅原 祥夫・早瀬 亮介・山田 しょう（敬称略・五十音順）
5. 本発掘調査の整理作業は、下記の調査員が中心となり、調査員全員で協議しながら進めた。
遺構：我妻 なおみ、土師器・須恵器：庄子 善昭・鈴木 和美、木製品・金属製品：庄子 善昭、陶磁器：庄子 善昭・渡邊 香織、弥生土器：渡邊 香織、石器：中沢 祐一、統括：鈴木 雅・庄子 善昭
6. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、遺物実測図の作成およびトレース、遺物拓本、図版レイアウトなどは文化財臨時職員が中心となり、室内整理作業員がこれを助けた。
7. 本発掘調査と整理作業・本書の作成に使用した撮影機材・ソフトウェア等は下記のとおりである。

現場写真撮影 カメラ：NikonD100・NikonD70s / レンズ：AF-S NIKKOR 18-70mm f3.5-4.5G ED

遺物写真撮影 カメラ：NikonD90 / レンズ：AF MICRO NIKKOR 60mm F:2.8 D・AF-S NIKKOR 18-105mm f3.5-5.6G ED VR / ストロボ：SUNPAK auto544・Nissin Di866 MARK II / 赤外線カメラ：RICOH R8 (改) / 赤外線 LED ライト：AE-LED56
撮影ソフトウェア：Nikon Camera Control Pro2 / 現像ソフトウェア：Adobe Photoshop Lightroom3 ver.3.0

遺構実測図トレース、写真画像処理、図版レイアウト

Adobe Photoshop6.0・CS4 / Adobe Illustrator10.0・CS4 / Adobe InDesignCS4

8. 出土炭化物の放射性炭素年代測定は、(株) 加速器分析研究所に委託して行ない、その結果を本書の第 5 章に収録した。
9. 本書の作成は下記の調査員が中心となり、本文は調査員全員の協議を経て鈴木 雅が執筆した。
遺物写真撮影：庄子 善昭、表作製：鈴木 和美、復元画作製：我妻なおみ、本文執筆・編集：鈴木 雅、
校正・照合：佐藤 洋一・鈴木 和美
10. 本発掘調査で出土した遺物および写真・図面等の記録資料については、蔵王町教育委員会が一括して永久保管している。

凡 例

1. 本発掘調査における測量原点の座標値は、日本測地系に基づく平面直角座標第 X 系による。測量成果表は第 6 図に示した。なお、方位は座標北を表している。
2. 本発掘調査では、調査区内に工事用測量基準杭を基準として 3m グリッドを設定し、東西・南北方向に数字を付した。グリッドの局地座標における北は日本測地系に基づく平面直角座標第 X 系における座標北を基準として東に 6.3° の方位である。
3. 本書に掲載した挿図・写真図版のうち、地図・空中写真は下記のものを使用して作成した。
第 3 図：5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査 地形分類図「白石」(宮城県、昭和 58 年調査)
第 4 図：2 万 5 千分の 1 地形図「村田」電子国土配信データ (国土地理院、平成 13 年修正)
第 125 図：都市圏活断層図「白石」電子国土配信データ (国土地理院、平成 11 年調査)
写真図版 1-2：空中写真 電子国土配信データ (国土地理院、昭和 31 年米軍撮影)
4. 本書で使用した土色の記述については、「新版標準土色帖」(小川・竹原 2005) を参照した。
5. 本書で使用した遺構番号は、遺構種別に関わらず調査時に付された連続する番号を使用した。
6. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。
S I：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S A：柱列跡、S E：井戸跡、S K：近世墓・落とし穴状土坑・土坑
S D：溝跡、S X：粘土採掘坑・廃棄土坑・竪穴状遺構・性格不明遺構
7. 遺構・遺物実測図の縮尺は下記の通りで、それぞれ図中にスケールを付して示した。
調査区配置図：1/3,000、調査区設定図：1/1,500、遺構配置図：1/400・1/300
掘立柱建物跡・柱列跡：1/100 (断面図：1/60)、溝跡：1/100・1/200 (断面図：1/60)、竪穴住居跡・
井戸跡・近世墓・落とし穴状土坑・廃棄土坑・土坑・粘土採掘坑・竪穴状遺構・性格不明遺構：1/60
土器・陶磁器・木製品：1/3、石器：2/3・1/3・1/5、金属製品：1/1・1/3
8. 遺構平面図において、柱穴に柱痕跡および柱材抜き取り痕跡、柱材圧痕が確認され、柱の位置・形状・規模等が推定できる場合には、スクリーントーン (15%) で示した。
9. 遺構断面図に付した土層注記表の備考欄では、下記の略号を使用して記載した。
(柱掘)：柱穴掘方埋土、(柱痕)：柱痕跡、(柱抜)：柱材抜き取り痕跡
(堆)：堆積土、(崩)：崩落土、(構)：構築土、(人為)：人為的埋土 (特記ないときは自然堆積土)
10. 遺構の説明では下記の表記方法を使用して記載した。
方位 (例) 北を基準として東に 10 度傾く：「N - 10° - E」
重複関係 (例) A より B が新しい：「A → B」、同時機能：「A = B」、新旧不明：「A - B」
柱間寸法 柱痕跡が確認されなかった柱穴は中心点を基準に計測し、() 付きで示した。

11. 遺物観察表で、器面調整・加工の前後関係が確認でき、Aの痕跡よりBの痕跡が新しい場合「A→B」、前後関係が不明の場合「A・B」のように記載した。また、()内の数値は残存値である。墨書土器で判読不能の文字は□で記載した。
12. 本発掘調査の成果については、下記においてその概要を公表しているが、これと本書の内容が異なる場合には、本書が優先するものである。
前戸内遺跡・西屋敷遺跡 発掘調査成果見学会（平成21年6月13日）
平成21年度宮城県遺跡調査成果発表会（紙上発表）
「蔵王町前戸内遺跡―県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の概要―」
（平成21年12月12日、会場：東北歴史博物館、主催：宮城県考古学会）
13. 引用文献および執筆にあたり参考にした文献については巻末に一括して掲載した。

調査要項

遺 跡 名：前戸内遺跡（宮城県遺跡登録番号：05108 遺跡記号：U A）

所 在 地：宮城県刈田郡蔵王町大字小村崎字前戸内地内

発掘調査面積：3,557.2㎡

調 査 期 間：平成20年11月10日～12月19日、平成21年6月1日～9月30日

調 査 原 因：経営体育成基盤整備事業円田2期地区区画整理工事（県営ほ場整備事業）

調 査 主 体：蔵王町教育委員会 教育長 山田 紘

調 査 担 当：蔵王町教育委員会教育総務課文化財保護係

調 査 員：佐藤 洋一・鈴木 雅（教育総務課文化財保護係）

庄子 善昭・我妻 なおみ・山戸 和美（H20～21）・

安倍 奈々子・古田 和誠（H20）・中沢 祐一（H21）

調 査 指 導：宮城県教育庁文化財保護課

調 査 協 力：宮城県大河原地方振興事務所・蔵王町土地改良区・蔵王町小村崎区

目 次

序 文 例 言 凡 例 調査要項 目 次

第1章 遺跡の概要	1
第1節 遺跡の位置と地理的環境	1
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第2章 調査に至る経緯	9
第3章 調査の方法と経過	10
第4章 調査の結果	15
第1節 基本層序	15
第2節 発見された遺構と遺物	15
1 1区南	16
2 1区北	58
3 2区	74
4 3区	120
5 遺構確認調査区	121
6 その他の遺構と出土遺物	122
7 遺構観察表	124
第5章 自然科学的分析	129
第1節 放射性炭素年代	129
第6章 考察	131
第1節 遺物の特徴と編年的位置づけ	131
第2節 遺構の特徴と機能時期	140
第3節 災害痕跡の評価	151
第7章 総括	153
引用・参考文献	154

写真図版 遺跡全景 …… 1 遺構 …… 2 遺物 …… 35 解 説 報告書抄録

挿図目次

第 1 図	蔵王町の位置	1	第 45 図	SK39・45・46・49・50・66 土坑	54
第 2 図	遺跡の位置と周辺の地形	1	第 46 図	SK42・52~55・57・62 土坑	55
第 3 図	遺跡の位置と周辺の地形区分	2	第 47 図	SD64・67 溝跡、SD64 出土遺物	56
第 4 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第 48 図	SB101 掘立柱建物跡・出土遺物	58
第 5 図	現況測量図・調査区配置図	10	第 49 図	SB102 掘立柱建物跡	59
第 6 図	調査区設定図と主要な遺構の分布	11	第 50 図	SB103 掘立柱建物跡	60
第 7 図	遺構配置図	13	第 51 図	SB145・243~245 掘立柱建物跡	61
第 8 図	1 区遺構配置図	17	第 52 図	SA109・246・247 柱列跡	62
第 9 図	SI1 竪穴住居跡	18	第 53 図	SE106・107 井戸跡、SK108 土坑、SE106・111・112 井戸跡出土遺物	63
第 10 図	SI1 竪穴住居跡出土遺物	19	第 54 図	SE111~113 井戸跡	64
第 11 図	SI2 竪穴住居跡	20	第 55 図	SK119~121・126 土坑	65
第 12 図	SI3・SI14 竪穴住居跡 (1)	21	第 56 図	SD104・105 溝跡	66
第 13 図	SI3・SI14 竪穴住居跡 (2)	22	第 57 図	SD128・129 溝跡	67
第 14 図	SI3・SI14 竪穴住居跡 (3)	23	第 58 図	SX114 粘土採掘坑、SX117 竪穴状遺構	68
第 15 図	SI3・SI14 竪穴住居跡 (4)	24	第 59 図	SX114 粘土採掘坑、出土遺物 (1)	69
第 16 図	SI3 竪穴住居跡出土遺物 (1)	25	第 60 図	SX114 粘土採掘坑出土遺物 (2)	70
第 17 図	SI3 竪穴住居跡出土遺物 (2)	26	第 61 図	SX114 粘土採掘坑出土遺物 (3)	71
第 18 図	SI4 竪穴住居跡 (1)	27	第 62 図	SX117 竪穴状遺構出土遺物	72
第 19 図	SI4 竪穴住居跡 (2)	28	第 63 図	SI125 竪穴住居跡	73
第 20 図	SI4 竪穴住居跡 (3)	29	第 64 図	SI125 竪穴住居跡出土遺物	74
第 21 図	SI4 竪穴住居跡出土遺物	30	第 65 図	2 区遺構配置図	75
第 22 図	SI8 竪穴住居跡	31	第 66 図	SI139 竪穴住居跡・出土遺物	76
第 23 図	SB9 掘立柱建物跡	32	第 67 図	SI140 竪穴住居跡 (1)	77
第 24 図	SB10 掘立柱建物跡	33	第 68 図	SI140 竪穴住居跡 (2)	78
第 25 図	SB10・15・20 掘立柱建物跡出土遺物	34	第 69 図	SI140 竪穴住居跡出土遺物 (1)	79
第 26 図	SB15 掘立柱建物跡	35	第 70 図	SI140 竪穴住居跡出土遺物 (2)	80
第 27 図	SB17・18 掘立柱建物跡	36	第 71 図	SI142 竪穴住居跡・出土遺物	81
第 28 図	SB20・21 掘立柱建物跡	37	第 72 図	SI143 竪穴住居跡 (1)	82
第 29 図	SB22・23 掘立柱建物跡	38	第 73 図	SI143 竪穴住居跡 (2)	83
第 30 図	SB24・25 掘立柱建物跡	39	第 74 図	SI143 竪穴住居跡 (3)	84
第 31 図	SB26・28・229 掘立柱建物跡	40	第 75 図	SI143 竪穴住居跡出土遺物	85
第 32 図	SB30・230 掘立柱建物跡	41	第 76 図	SI156 竪穴住居跡	86
第 33 図	SB231・234・236 掘立柱建物跡	42	第 77 図	SI156 竪穴住居跡出土遺物	87
第 34 図	SB235・237・238 掘立柱建物跡、SA232 柱列跡	43	第 78 図	SI156 竪穴住居跡 (1)	88
第 35 図	SA27・233 柱列跡	44	第 79 図	SI157 竪穴住居跡 (2)	89
第 36 図	SA239~242 柱列跡	45	第 80 図	SI157 竪穴住居跡出土遺物 (1)	90
第 37 図	SE63 井戸跡、SX13 廃棄土坑	46	第 81 図	SI157 竪穴住居跡出土遺物 (2)	91
第 38 図	SK16・58・65 落とし穴状土坑	47	第 82 図	SI159 竪穴住居跡	92
第 39 図	SE63 井戸跡出土遺物	48	第 83 図	SI160・178 竪穴住居跡・出土遺物	93
第 40 図	SX13 廃棄土坑出土遺物 (1)	49	第 84 図	SI194・196 竪穴住居跡	94
第 41 図	SX13 廃棄土坑出土遺物 (2)	50	第 85 図	SI194 竪穴住居跡出土遺物 (1)	95
第 42 図	SK5・6・40・51 土坑、SK6 土坑出土遺物	51	第 86 図	SI194 竪穴住居跡出土遺物 (2)	96
第 43 図	SK7・12・19・31・32・48 土坑、SK7 土坑出土遺物	52	第 87 図	SB127 掘立柱建物跡・出土遺物	97
第 44 図	SK33~38・41・44・47・68 土坑	53	第 88 図	SB146・147 掘立柱建物跡	98
			第 89 図	SB199・228 掘立柱建物跡	99
			第 90 図	SA118 柱列跡・SE183 井戸跡	100
			第 91 図	SK162・163・166 近世墓、SK164・165 土坑、SK166 近世墓出土遺物	101
			第 92 図	SK205~208・224 近世墓、SK208 近世墓出土遺物	102

第93図	SK216・217 近世墓、SK216 近世墓出土遺物	103
第94図	SK135・169・210・211・213・222・225 落とし穴状土坑	104
第95図	SK211 落とし穴状土坑出土遺物	105
第96図	SK130~134 土坑、SK131・132 土坑	106
第97図	SK137・151・152・154・167・168 土坑、SK151 土坑出土遺物	107
第98図	SK170 土坑・出土遺物	108
第99図	SK171~174・176・177・179・180 土坑	109
第100図	SK181・184・185・189~193・195・227 土坑	110
第101図	SK197・198・209・212・215 土坑	111
第102図	SK193・209・227 土坑出土遺物	112
第103図	SK218~221・223・226 土坑、SK226 土坑出土遺物	114
第104図	SD144 溝跡	117
第105図	SD144 溝跡出土遺物	118
第106図	SD161・182・187 溝跡、SD161 溝跡出土遺物	119
第107図	SX153 性格不明遺構	120
第108図	SE122 井戸跡、SK123・124 土坑	121
第109図	T1・T2 区遺構配置図	121
第110図	SD150 溝跡出土遺物	122
第111図	柱穴跡出土遺物	122
第112図	遺構外出土遺物	123
第113図	[参考] 暦年較正年代グラフ	130
第114図	土師器分類図(1)	131
第115図	土師器分類図(2)	132
第116図	ロクロ土師器分類図(1)	133
第117図	ロクロ土師器分類図(2)	134
第118図	須恵器分類図	135
第119図	第2群土器における坏類の底径口径比分布図	139
第120図	IV期遺構配置図(1)	142
第121図	IV期遺構配置図(2)	143
第122図	豪族居宅の建物配置	146
第123図	IV期集落の機能推定	147
第124図	V期遺構配置図	149
第125図	村田断層と前戸内遺跡の位置	152
第126図	土坑状変形の分布とすべり方向	152

表目次

第1表	周辺の遺跡	4
第2表	基本層序	15
第3表	遺構観察表 竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡(1)	124
第4表	遺構観察表 掘立柱建物跡(2)・柱列跡	125

第5表	遺構観察表 井戸跡・近世墓・廃棄土坑・粘土採掘坑・ 落とし穴状土坑・土坑(1)	126
第6表	遺構観察表 土坑(2)・溝跡・性格不明遺構	127
第7表	試料一覧および ¹⁴ C年代	130
第8表	¹⁴ C年代と暦年較正年代	130
第9表	各遺構出土土器の組成	137
第10表	遺構の機能時期と土器群	141

写真目次

写真1	湯坂山B遺跡第3a・b号竪穴住居跡	5
写真2	円田地区出土長頸壺	6
写真3	中沢A遺跡SI4 竪穴住居跡出土土器	6
写真4	窪田遺跡SI101 竪穴住居跡	6
写真5	十郎田遺跡材木堀区画南東隅	7
写真6	都遺跡出土土器・軒平瓦	7

写真7	丈六阿弥陀如来坐像	7
写真8	平沢弥陀の杉	7
写真9	兵衛館跡 北縁土塁・空堀	8
写真10	我妻家住宅	8
写真11	調査前の遺跡現況	12
写真12	発掘調査成果見学会	12
写真13	土坑状変形の分布状況とすべり方向	151
写真14	土坑状変形の確認状況	151

第1章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

宮城県南部の蔵王連峰東麓に位置する蔵王町は、東は村田町と大河原町、西は蔵王連峰をはさんで山形県、南は白石市、北は川崎町と境を接する（第1図）。町域は東西23km、南北13kmで面積は152.85km²を占め、海拔標高は最高点が西端の屏風岳で1,825m、最低点が東南部の松川と白石川の合流点で20mを測る。町域の西部が主に蔵王連峰に連なる山林原野で、東部の松川流域と円田盆地に田園地帯が形成されている。西部は蔵王国立公園に含まれ、遠刈田温泉などが蔵王観光の基地となっているほか、東部の丘陵部を中心に果樹園が営まれ、県内有数の果樹生産地となっている。

前戸内遺跡は宮城県刈田郡蔵王町大字小村崎字前戸内地内に所在する。蔵王町役場の北東約3.9kmに位置し、円田盆地北西部にある標高約100mの低平な舌状丘陵上に立地する遺跡である（第2・3図）。

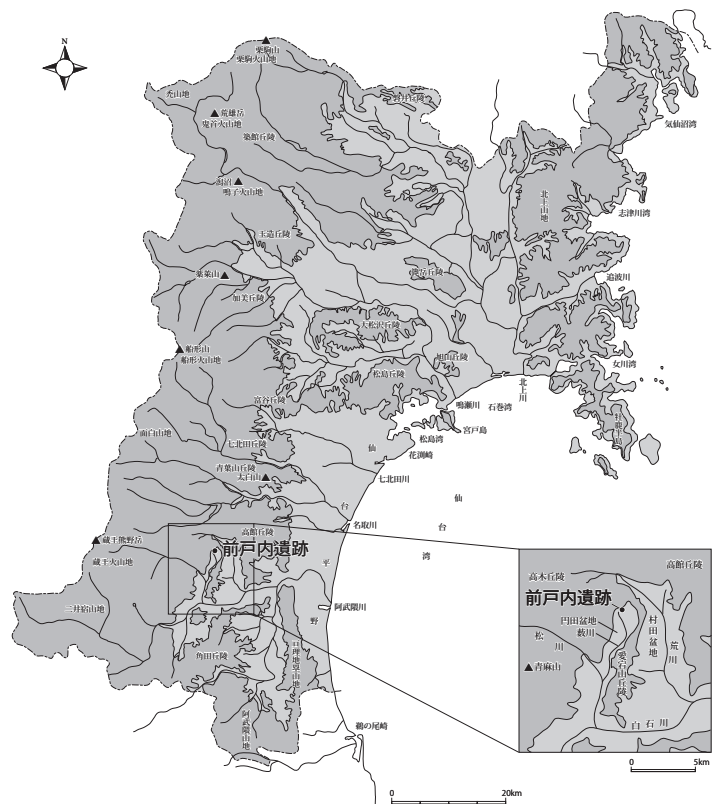
円田盆地は松川の支流である藪川をはじめとする複数の中小河川によって形成された沖積地である。藪川は盆地中央部から東縁に沿って緩やかに蛇行しながら南流し、盆地周囲の丘陵からは無数の小規模な沢が流入している。盆地は南をのぞく三方を丘陵で囲まれており、盆地底面の範囲は東西約1.2km、南北約3.5kmにおよぶ。藪川流域は自然堤防が未発達で、盆地底部に湿地帯を形成しており、盆地の南側は松川との合流地点に向かって開けている。

円田盆地を三方から囲む丘陵のうち、北側から西側にかけては高木丘陵と呼ばれ、蔵王山系の東麓部にあたる。東側は高木丘陵から細長く派生した愛宕山丘陵と呼ばれる小丘陵が南へ延び、さらに東側の村田盆地との地形的な境界をなしている。標高は高木丘陵東端部で約130m、愛宕山丘陵頂部で約170m、盆地南端で約80mである。

愛宕山丘陵はやや急な傾斜をもつ丘陵地で、小規模な沢によって開析された比高差の大きい舌状の小丘陵が連続する。盆地東縁に連なるこの舌状小丘陵上には南部で中沢A遺跡、立目場遺跡、台遺跡、塩沢北遺跡などが立地し、北部では盆地



第1図 蔵王町の位置

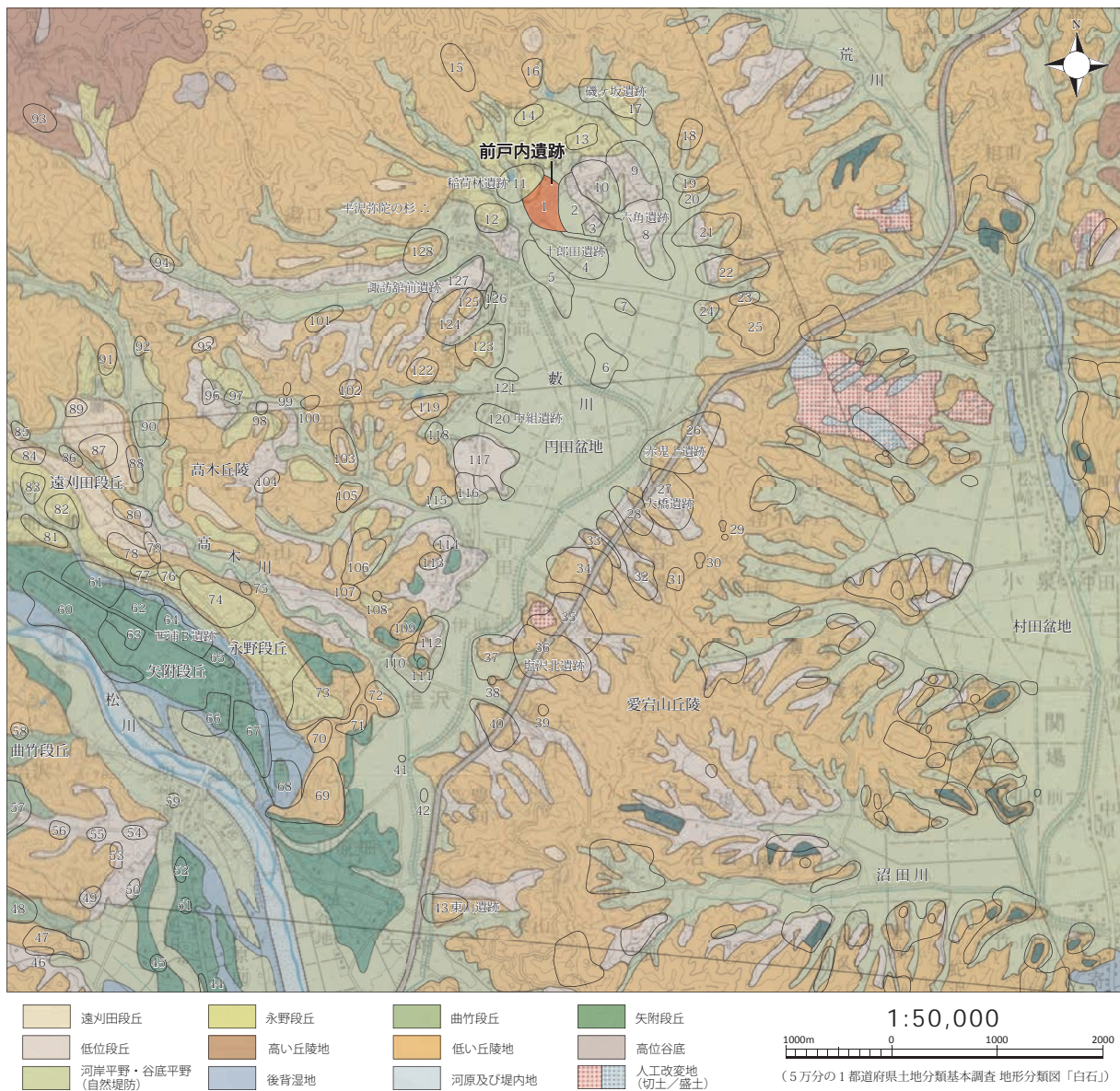


第2図 遺跡の位置と周辺の地形

底面との比高差が小さい丘陵末端部に車地蔵遺跡、鍛冶屋敷遺跡などが立地する。一方、高木丘陵は比較的なだらかな傾斜をもち、特に盆地北部では丘陵端部が緩やかに標高を減じつつ盆地中央部まで達している。盆地北西縁に連なるこの低平な丘陵上には本遺跡のほか六角遺跡、十郎田遺跡、窪田遺跡、都遺跡などが立地し、西縁の中南部では諏訪館前遺跡、宋膳堂遺跡などが立地する。

近代以降に行なわれた耕地整理の結果、遺跡の立地する地形の多くが消失し、円田盆地の大半は水田地帯となった。特に昭和37~38年の藪川堤防改修工事とほ場整備以降、ほぼ現在の景観が形成された。現在の盆地底面の大半は水田として利用され、地形的な変化に乏しい景観を呈しているが、本来は微高地と小規模な沢状の低地とが複雑に入り組んだ景観であった。遺跡の多くは低平な丘陵や微高地上に立地し、明治40年頃までは主に畑地として利用されていた。

本遺跡は、盆地西側の高木丘陵から派生し、盆地北縁から南東方向に細長く延びる舌状丘陵の裾部に立地する。東西は丘陵を開析する沢地形に挟まれ、北西側の丘陵頂部には稲荷林遺跡、南東側の丘陵先端部には十郎田遺跡が隣接する。本遺跡と稲荷林遺跡との間には約17mの比高差があり、段丘崖の様相を呈している。十郎田遺跡は微高地状を呈し、本遺跡の立地する丘陵裾部からなだらかに連続する。また、小規模な沢を隔てて北東側に隣接する舌状丘陵上には西屋敷遺跡、西小屋館跡が立地している。



第3図 遺跡の位置と周辺の地形区分

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

蔵王町における周知の遺跡は現在 190 か所を数える。その多くは町域の東部に分布し、蔵王連峰から派生する丘陵部と青麻山東麓部、松川流域と円田盆地の平野部などに立地する（第3・4図、第1表）。旧石器時代から近世に至るまで多数の遺跡が形成されているが、大略的に見て縄文時代の遺跡は蔵王連峰の東麓部から延びる高木丘陵上と青麻山東麓部の標高 150~250 m 付近に、弥生時代中期以降の遺跡は円田盆地とその周辺の丘陵辺縁部の標高 80~100m 付近に立地する傾向が見られる。

こうした様相の違いは、概ね当時の人びとの生業形態の変化に伴うものと考えられる。縄文時代の食



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡

料獲得の場は主に丘陵地に繁茂した森林であり、弥生時代中期以降の食料生産の場は低湿地に作られた水田であったことを示している。後述するが、町内で最も古い人類活動の痕跡は、青麻山東麓部にある後期旧石器時代の石器出土地である。また、稲作の開始を裏付けるものとしては、円田盆地周辺で確認されている籾殻の圧痕がある弥生土器片や、古墳時代の水田跡がある。円田盆地など低湿地の周辺に立地した縄文時代の集落は現在のところ確認されていないが、低平な丘陵と湿地の入り組んだ盆地北部の一角は、縄文時代には狩猟の場として利用されていたことが分かっている。

以下、各時代・時期における蔵王町周辺の考古学・歴史学的様相を概観する。

第1表 周辺の遺跡（番号は第3・4図に対応）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	前戸内遺跡	集落・散布地	旧石器?・縄文後・弥生・奈良・平安・中世	65	愛宕山遺跡	散布地	縄文前・後・古代
2	西屋敷遺跡	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安・中世	66	西浦遺跡	集落・散布地	縄文早・後・弥生・古代
3	西小屋館跡	城館	中世	67	東浦遺跡	散布地	縄文中・後・弥生・古墳・古代
4	十郎田遺跡	集落・散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	68	下永野B遺跡	散布地	奈良・平安
5	窪田遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	69	矢附館跡	城館	中世
6	都遺跡	集落・官舎?・散布地	縄文後・弥生・古墳・奈良・平安	70	下永向山遺跡	散布地	縄文中・弥生・古代
7	新城館跡	散布地・城館	奈良・平安・中世	71	蟹沢遺跡	散布地	弥生
8	六角遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	72	天王古墳群 天王遺跡	円墳・散布地	縄文早・中・弥生・古墳・古代
9	原遺跡	散布地	縄文・古代	73	上野遺跡	散布地	縄文中・弥生・平安
10	戸ノ内遺跡	集落・散布地	奈良・平安・中世	74	高木遺跡	散布地	縄文中
11	稲荷林遺跡	散布地	縄文早・古墳・奈良・平安	75	高木B遺跡	散布地	縄文
12	平沢館跡	城館	中世	76	鞆堂山遺跡	散布地	縄文中・後・弥生・古代
13	後原遺跡	散布地	古代	77	上曲木A遺跡	散布地	縄文早・弥生・古代
14	大久保遺跡	散布地	古代	78	上曲木B遺跡	散布地	縄文早・中・古代
15	兵衛館跡	城館	中世	79	桔梗山B遺跡	散布地	縄文
16	鹿野遺跡	散布地	古代	80	土橋遺跡	散布地	縄文後・弥生
17	磯ヶ坂遺跡	散布地	縄文・奈良・平安	81	上曲木E遺跡	散布地	縄文前・中
18	清上遺跡	散布地	古代	82	上曲木D遺跡	散布地	縄文前・中
19	三の輪遺跡	散布地	古墳・奈良・平安	83	上曲木C遺跡	散布地	縄文早・中
20	車地蔵遺跡	散布地	近世・古代	84	八幡平遺跡	散布地	縄文前・中・古代
21	鍛冶屋敷遺跡	散布地	縄文中～晩・古代	85	入山遺跡	散布地	縄文前・弥生・古代
22	上葉の木沢遺跡	散布地	古代	86	手代木B遺跡	散布地	縄文早・後・古代
23	山崎遺跡	散布地	縄文早	87	湯坂山B遺跡	集落	縄文中～晩・弥生
24	中葉の木沢遺跡	散布地	縄文・弥生・古代	88	湯坂山遺跡	散布地	縄文中～晩
25	北割山遺跡	散布地	縄文・弥生	89	根無藤遺跡	散布地	縄文早・晩・古代
26	赤鬼上遺跡	集落	弥生・平安・中世	90	円田入B遺跡	散布地	縄文早・中
27	大橋遺跡	集落	縄文後・弥生・古墳・平安	91	根無藤館跡	城館	中世
28	屋木戸内遺跡	散布地	弥生・古代	92	円田入C遺跡	散布地	縄文
29	夕向原古墳群	前方後円墳 円墳	古墳	93	四方坂館跡	城館	中世
30	古峯神社古墳	円墳	古墳	94	町尻遺跡	散布地	縄文
31	愛宕山遺跡	散布地	弥生	95	三本槻A遺跡	散布地	縄文早
32	立目場遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳	96	入青木遺跡	散布地	縄文
33	中沢B遺跡	散布地	弥生・古墳・古代	97	山中遺跡	散布地	平安
34	中沢A遺跡	散布地	縄文早・弥生・古墳・古代～中世	98	青木遺跡	散布地	平安
35	伊原沢下遺跡	集落	古墳	99	角山A遺跡	散布地	古代
36	塩沢北遺跡	集落	弥生・古墳・平安	100	角山B遺跡	散布地	縄文
37	台遺跡	散布地・水田	弥生・古墳・平安・中・近世	101	三本槻B遺跡	散布地	縄文・平安
38	西脇古墳	円墳	古墳	102	新並遺跡	散布地	縄文中
39	中屋敷古墳	円墳	古墳	103	築館館跡	城館	中世
40	大山遺跡	集落	縄文早・弥生・古墳前	104	荻の窪遺跡	散布地	縄文晩・弥生
41	鉦附神社古墳	円墳?	古墳?	105	鳥山遺跡	散布地	縄文中・古代
42	豊向遺跡	散布地	古墳	106	花桶館跡	城館	中世
43	東山遺跡	集落	縄文早・平安	107	見継遺跡	散布地	縄文
44	逆川遺跡	散布地	縄文早・前	108	八幡山古墳群	円墳・方墳	古墳
45	小原遺跡	散布地	縄文晩	109	土ヶ市遺跡	散布地	弥生・古代
46	欠山遺跡	散布地	縄文後	110	戸の内脇遺跡	散布地	縄文早・中・弥生・古墳・平安・中世
47	曲竹小屋館跡	城館	中世	111	宋膳堂古墳	円墳	古墳
48	淡島山遺跡	散布地	縄文後・古代	112	宋膳堂遺跡	散布地	弥生・古墳・平安
49	岩蔵寺遺跡	散布地	縄文晩・古代	113	寺坂遺跡	散布地	平安
50	妙見遺跡	散布地	縄文晩	114	堀の内遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・古代
51	下原遺跡	散布地	縄文中	115	清水遺跡	散布地	弥生・平安
52	上原遺跡	散布地	縄文後	116	白山遺跡	集落・散布地	弥生・古墳
53	清水遺跡	散布地	縄文・弥生	117	本宿前遺跡	集落・散布地	縄文早・弥生・古代・中世
54	日向前遺跡	散布地	縄文早・晩・古代	118	沢遺跡	散布地	古代
55	八卦遺跡	散布地	縄文後	119	北境遺跡	散布地	縄文早・弥生・古代
56	市ノ沢遺跡	散布地	弥生・古代	120	中組遺跡	集落・散布地	縄文早・中・弥生・平安・中～近世
57	鍛冶沢遺跡	散布地	縄文早・中～晩・弥生・古代	121	堂の入遺跡	散布地	弥生・古代・中世
58	馬越遺跡	散布地	縄文中	122	大柿内遺跡	散布地	弥生
59	白九頭龍古墳	古墳	古墳	123	小高遺跡・経塚	散布地・経塚	縄文・弥生・古代・中世
60	十文字遺跡	散布地	縄文中	124	諏訪館遺跡	散布地	弥生・古墳
61	曲木遺跡	散布地	縄文中	125	諏訪館跡	城館	中世
62	寺門前遺跡	散布地	縄文中・後	126	諏訪館横穴墓群	横穴墓?	古墳?
63	谷地遺跡	散布地	縄文中～晩	127	諏訪館前遺跡	集落・散布地	縄文晩・弥生・古墳・平安
64	西浦B遺跡	集落・散布地	縄文中～晩・弥生・平安・近世	128	丈六遺跡	散布地	古代

(1) 旧石器時代

宮地区の持長地遺跡、鉄砲町遺跡、明神裏遺跡、小村崎地区の前戸内遺跡が知られている。持長地遺跡では黄褐色ローム漸移層下部よりナイフ形石器が単独出土し（宮城県教育委員会 1980b）、鉄砲町遺跡では彫刻刀形石器が採集されている。これらは後期旧石器時代後半期のものと考えられる。明神裏遺跡では細石刃と槍先形尖頭器、前戸内遺跡では槍先形尖頭器が採集されており、後期旧石器時代終末期に位置づけられる可能性がある。しかし、いずれも単独出土ないしは採集資料のため、明確な時期や遺跡の性格については不明な点が多い。なお、宮地区の二屋敷遺跡では石刃状剥片を素材としたナイフ形石器に類似する石器が出土しているが、本地域では縄文時代中期末から後期初頭にかけて山形県寒河江川流域の集落から珪質頁岩製の石刃が交易品として搬入されたことが分かっており、層位的裏付けを伴わない石刃製石器の旧石器としての時期判定には注意を要する。

(2) 縄文時代

草創期については明確な遺跡が発見されていない。周辺地域でも白石市福岡深谷地区の高野遺跡で槍先形尖頭器が、同大鷹沢地区の小菅遺跡、戸谷沢遺跡で局部磨製石斧が採集されている程度で、具体的な様相は明らかでない。早期の遺跡には宮地区の明神裏遺跡、沢入D遺跡、円田地区の手代木遺跡、三本槻A遺跡、遠刈田地区の北原尾遺跡、前期の遺跡には宮地区の長峰遺跡、八幡平遺跡、円田地区の入山遺跡、愛宕山遺跡、中期の遺跡には宮地区の上原田遺跡、円田地区の高木遺跡、鞆堂山遺跡、湯坂山B遺跡、後期の遺跡には宮地区の二屋敷遺跡、山田沢遺跡、一本木遺跡、円田地区の西浦B遺跡、晩期の遺跡には宮地区の下別当遺跡、願行寺遺跡、沢北遺跡、曲竹地区の鍛冶沢遺跡などがある。

鞆堂山遺跡では中期中葉の竪穴住居跡5軒、貯蔵穴23基などが発見され、竪穴住居跡は貯蔵穴・柱穴群を挟むように分布していた。湯坂山B遺跡では中期後葉の竪穴住居跡13軒、貯蔵穴8基などが発見され、多量の土器・石器と土笛が出土している（写真1）。西浦B遺跡では後期初頭～前葉の貯蔵穴・掘立柱建物跡群が発見されている（蔵王町教育委員会 2011a）。二屋敷遺跡では中期末の竪穴住居跡5軒、後期初頭～前葉の炉跡2基、土器埋設遺構4基、配石遺構などが発見されている（宮城県教育委員会 1984）。願行寺遺跡では晩期の屈折土偶が採集されている。鍛冶沢遺跡では晩期の土器埋設遺構や弥生時代初頭の再葬墓と、弧状に配置された掘立柱建物跡群が発見されている（宮城県教育委員会 2010）。

遺跡の分布状況をみると、早期の遺跡は小規模なものが多く、高木丘陵から青麻山東麓部にかけての広範囲に点在し、遠刈田地区から白石市福岡深谷地区にかけての不忘山東麓部にまとまった分布域を形成する。前期の遺跡数はやや少なくなるが、高木丘陵上と青麻山東麓部に点在する。中期から後期にかけては高木丘陵上に大きな集落が形成され、集中的な遺跡分布域となっている。一方、青麻山東麓部では後期になると多くの集落が形成され、晩期まで継続する大規模な集落がみられる。

このように、時期による分布域の移動と、微地形選択の志向性に変化は見られるものの、縄文時代のおよそ1万数千年間を通して本地域における生活の拠点は蔵王連峰東麓部から延びる高木丘陵上と、青麻山東麓部にあったと言って良い。なお、円田盆地北部の小村崎地区にある六角遺跡、原遺跡、平沢地区の中組遺跡などでは縄文時代のものと考えられる落とし穴状土坑が確認され、低湿地に面した低平な丘陵裾部が狩猟の場として利用されていたことが分かっている。



写真1 湯坂山B遺跡第3a・b号竪穴住居跡（大木9式期）

(3) 弥生時代

縄文時代晩期から継続する宮地区の沢北遺跡、曲竹地区の鍛冶沢遺跡、これに後続する榊形囲式期の遺跡には宮地区の長峰遺跡、円田地区の清水遺跡、西浦遺跡、塩沢地区の宋膳堂遺跡、東根地区の立目場遺跡、円田式期の遺跡には東根地区の大橋遺跡、塩沢地区の台遺跡、上野遺跡、塩沢北遺跡、小村崎地区の都遺跡、円田地区の西浦遺跡、十三塚式期の遺跡には東根地区の愛宕山遺跡、立目場遺跡、天王山式期の遺跡には東根地区の愛宕山遺跡、塩沢地区の天王遺跡、平沢地区の赤鬼上遺跡などがある。

榊形囲式期以前の遺跡は、鍛冶沢遺跡などのように縄文時代晩期の立地を踏襲しながら、一部円田盆地周縁部の丘陵に立地している。円田式期になると円田盆地周縁部に急速に展開し、遺跡数も急増する。遺構が調査された例は皆無であるが、稲作が受容されたと考えるのに十分な変化と言える。円田地区では伊東信雄氏（1955）による「円田式」命名の標識資料となった長頸壺が出土している（写真2）。十三塚式期から天王山式期にかけてはこうした流れを引き継ぐ一方、愛宕山遺跡のように標高の高い丘陵上に立地する遺跡も見られる。なお、都遺跡（円田式、蔵王町教育委員会 2005）、大橋遺跡（天王山式、宮城県教育委員会 1980b）、中沢A遺跡（蔵王町教育委員会 2007）で出土した土器片の表面には籾殻の圧痕が観察されている。



写真2 円田地区出土長頸壺

(4) 古墳時代

前期（塩釜式期）の遺跡には東根地区の大橋遺跡、伊原沢下遺跡、円田地区の堀の内遺跡、中期（南小泉式期）の遺跡には小村崎地区の都遺跡、窪田遺跡、東根地区の中沢A遺跡、台遺跡があるが、後期（住社式期）の遺跡は明瞭には確認されていない。高塚古墳には宮地区の明神裏古墳、東根地区の夕向原古墳群、古峯神社古墳、塩沢地区の宋膳堂古墳、天王古墳群、西脇古墳、中屋敷古墳、八幡山古墳がある。

古墳時代の遺跡は弥生時代の立地を踏襲し、円田盆地周縁部に集中する。前期の大橋遺跡、伊原沢下遺跡は宮城県内における塩釜式最古段階（宮城県教育委員会 1980b）、中沢A遺跡は南小泉式最古段階の遺跡として知られている（写真3、蔵王町教育委員会 2007）。六角遺跡では塩釜式期、立目場遺跡では塩釜式・南小泉式期、窪田遺跡（写真4）などでは南小泉式期の竪穴住居跡が調査されている。前期の堀の内遺跡では、後北C2-D式に位置づけられる続縄文土器が出土し（蔵王町教育委員会 1997）、北方地域との関係性が窺われる。

また、盆地を取り囲む丘陵上に多くの高塚古墳が築かれている。古峯神社古墳は主軸長38m、夕向原1号墳は主軸長57mの前方後円墳（藤沢 2000）、宋膳堂古墳は直径約30mの円墳で、埴輪が採集されている。明神裏古墳は昭和31年に発掘調査され、凝灰岩板石を用いた箱式石棺が確認されている。



写真3 中沢A遺跡 S14 竪穴住居跡出土土器（南小泉式）



写真4 窪田遺跡 S1101 竪穴住居跡（南小泉式期）

(5) 古代

飛鳥・奈良・平安時代の遺跡として100か所以上が知られ、このうち発掘調査が行なわれた遺跡としては宮地区の二屋敷遺跡、観音堂山遺跡、矢附地区の東山遺跡、塩沢地区の塩沢北遺跡、円田地区の西浦B遺跡、堀の内遺跡、平沢地区の窪田遺跡、都遺跡、赤鬼上遺跡、小村崎地区の戸ノ内遺跡、六角遺跡、十郎田遺跡などがある。また、現在その所在を確認できないが平沢地区の諏訪館横穴墓群がある。

当該期の遺跡は円田盆地周辺に多く分布する一方、町東部の丘陵麓部の広い範囲に分布するようになり、生活領域が拡大したことが窺われる。円田盆地では7世紀後半以降、盆底部に面した低平な舌状丘陵上に集中的に集落を形成する。十郎田遺跡では7世紀後半の材木堀による区画施設を伴う集落跡（写真5、蔵王町教育委員会2011d・e）、六角遺跡では8世紀前半頃の大溝による区画施設を伴う集落跡を確認している（蔵王町教育委員会2008）。都遺跡では8世紀前半の多賀城創建期（奈良時代初頭）に位置づけられる軒平瓦が採集されているのをはじめ、大型の掘立柱建物跡と材木堀による区画施設が確認されており、官衙関連施設が営まれていた可能性がある（写真6、蔵王町教育委員会2005）。これらの集落では、当時の在土師器とは異なる特徴を持つ関東系土師器を保有しており、六角遺跡では関東型カマドをもつ竪穴住居跡も確認されている。関東系土師器は窪田遺跡、堀の内遺跡などでも出土している（蔵王町教育委員会1997・2009a・2011b）。

東山遺跡では、平安時代の土器溜遺構が確認され、灰釉陶器、転用碗のほか、墨書土器が多量に出土している（宮城県教育委員会1981）。また、東山遺跡、西浦B遺跡（蔵王町教育委員会2011a）、観音堂山遺跡（宮城県教育委員会2011）、赤鬼上遺跡（宮城県教育委員会1980a）では、燃烧部から煙道までの全体を石組みで構築するカマド持つ竪穴住居跡が確認され、平安時代の円田盆地周辺に特有のカマド構造とされている（古田2011）。

このほか、平沢地区に現存する丈六阿弥陀如来坐像（写真7、県指定文化財）は平安時代末期の作風とされ、阿弥陀如来を信仰し東北各地に阿弥陀堂を造立したとされる奥州藤原氏との関係性が窺われる。また、丈六阿弥陀堂があったとされる平沢字丈六地区には、阿弥陀堂の参道杉並木として植えられた杉のうち一本が現生し、平沢弥陀の杉（写真8、県指定天然記念物）と呼ばれている。



写真5 十郎田遺跡材木堀区画南東隅 (7世紀中頃～後半)



写真6 都遺跡出土土器 (7世紀中頃～後半)・軒平瓦 (8世紀前半)



写真7 丈六阿弥陀如来坐像 (12世紀・保昌寺)



写真8 平沢弥陀の杉

(6) 中世

城館跡に宮地区の宮城館跡、山家館跡、館の山城跡、曲竹地区の曲竹小屋館跡、円田地区の花楯館跡、棚村館跡、小村崎地区の西小屋館跡、兵衛館跡、平沢地区の諏訪館跡、平沢館跡、矢附地区の矢附館跡などがあり、町東部の丘陵上に多くの城館が築かれている。

兵衛館跡は円田盆地最奥部に立地し、丘陵頂部の平場を画する土塁・空堀が良好に残存する（写真9）。西小屋館跡は土塁と水堀を伴う方形館で、隣接する西屋敷遺跡では区画溝を伴う鎌倉～室町時代の屋敷跡を確認している（蔵王町教育委員会 2012）。山家館跡に隣接する持長地遺跡でも、鎌倉～南北朝時代の屋敷跡が確認されている（宮城県教育委員会 1980b）。館の山城跡に隣接する青竹遺跡では掘立柱建物跡群が確認され、館と一体的に機能した施設の可能性が指摘されている（蔵王町教育委員会 2009b）。小村崎地区の十郎田遺跡では鎌倉時代の屋敷跡を確認している。屋敷内の井戸跡から挽物椀・小皿の荒型が多量に出土し、挽物製作を行っていたことが窺われる（蔵王町教育委員会 2011d・e）。

このほか、宮地区の願行寺遺跡は中世～近世の寺院跡と推定されている。安永風土記に「役小角叔父山之坊願行寺跡」とあり、「宮本坊蓮蔵寺書出」によれば奥州藤原氏の保護を受けて最盛期には四十八坊を有したという。また、前述の白九頭龍古墳には、文治の役（1189）で源頼朝軍に討ち取られた藤原国衡の遺骸を埋葬して弔ったとの伝説が残り、墳頂部には白九頭龍大明神の祠が建てられている。



写真9 兵衛館跡 北縁土塁・空堀

(7) 近世以降

小村崎地区の車地蔵遺跡では掘立柱建物跡、区画溝跡、水場遺構などが確認され、近世の有力者層の屋敷地の一部と考えられる（蔵王町教育委員会 2006）。伊達家家臣の高野家が拝領した平沢地区の平沢要害跡は後世の改変で遺構が現存しないが、江戸期の絵図に本丸・二の丸・水堀と、南側に屈折する大手が見え、小規模ながらも近世城郭のような構造が窺える。また、遠刈田地区の岩崎山金窟址では戦国末期には採掘が開始されていたとみられ、江戸初期には仙台藩主伊達家の命により採掘されていた。

現存する近世の建造物としては、平沢地区の日吉神社本殿（江戸中期）、宮地区の刈田嶺神社本殿（江戸中期、県指定文化財）、曲竹地区の我妻家住宅（写真10、江戸中期、国指定重要文化財）、小村崎地区の奥平家住宅（江戸後期、町指定文化財）などがある。日吉神社は高野家の領地替えの時に伊達郡より遷座され、刈田嶺神社は刈田郡総鎮守として白石城主片倉家の保護を受けた。

また、近世には奥州街道が宮地区を通り、さらに宮宿から分かれて永野宿、猿鼻宿を經由し、四方峠、笹谷峠を越えて山形へ至る羽前街道が通っていた。平沢地区には羽前街道の古道の一部が保存され（旧羽前街道保存地区）、藩政時代の街道の景観を今に伝えている。

近代の遺構としては遠刈田地区の遠刈田製鉄所高炉跡などがある。遠刈田製鉄所高炉は明治時代後期に建設されたもので、近代製鉄遺構としては国内で唯一、基礎部分が現存している。



写真10 我妻家住宅（宝暦3（1753）年建築）

第2章 調査に至る経緯

蔵王町北東部の円田盆地に広がる水田地帯を対象とした経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）では、昭和63年度に盆地南部（円田1期地区）の事業計画が策定され、同年に埋蔵文化財保存協議が実施された。この結果を受け、同年から平成2年度にかけて事業実施区域内に存在する埋蔵文化財包蔵地の遺構確認調査および事前調査が宮城県教育庁文化財保護課により実施された（宮城県教育委員会1989・1990・1991）。一方、盆地中・北部（円田2期地区）の事業計画は平成8年度に策定され、平成12年度には事業年次計画が提示された。約1,325,000㎡に及ぶ広大な事業実施予定区域には多数の埋蔵文化財包蔵地が含まれていたことから、平成8年度より文化財保護側の宮城県教育委員会、蔵王町教育委員会と原因者側の宮城県大河原地方振興事務所、蔵王町土地改良区の四者による埋蔵文化財保存協議が開始された。

平成11年度の協議において事業実施区域内における埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布調査が必要であるとの判断がなされたことを受けて、平成12年度に蔵王町教育委員会が分布調査を実施した結果、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が大きく広がることが判明した。この結果を基に再協議を実施し、埋蔵文化財包蔵地が破壊される面積をできるだけ少なくするよう事業計画を大幅に見直すことが決定した。平成13年度には大河原地方振興事務所より、水田および畑地となる部分については、地下の遺構を保護するよう適宜盛土を行なうとともに、幹線農道以外の作業用道路については未舗装の砂利道として事前調査対象となる破壊範囲をできるだけ減少させる見直し案が提示され、合意に達した。

平成13・14年度には宮城県教育庁文化財保護課と蔵王町教育委員会によって事業実施区域内の遺構確認調査が実施された（宮城県教育委員会2002・2003）。平成12年度の分布調査で遺物の分布が確認された範囲を中心とした幅約2mのトレンチ333か所、計11,669㎡の調査により、事業実施区域内の遺構の分布状況が明らかとなった。この結果を踏まえた協議により、遺構の存在する部分については基本的に盛土による現状保存を行ない、計画田面が遺構面よりも下がる切土部分と、道路・水路の建設に伴って遺構面が掘削される部分について事前調査を実施すること、道路のうち未舗装の砂利道とする計画で遺構面に掘削が及ばない範囲については確認調査を実施した上で盛土による現状保存とすることが決定した。平成14年度には事業実施区域のうち県道の南側部分を平成15・16年度に、北側部分を平成17~21年度に順次施工する事業計画が提示され、これに先立って平成15年度に南側部分を、平成17~20年度に北側部分を対象とする計14遺跡の事前調査計画が策定された。なお、その後の事業計画見直しなどにより、北側部分の調査年度については平成23年度まで延長することで合意している。

蔵王町教育委員会は宮城県教育庁文化財保護課の協力を得て、都遺跡、窪田遺跡（南部）、新城館跡（H15・16年度、蔵王町教育委員会2005）、車地蔵遺跡、鍛冶屋敷遺跡、原遺跡、上葉の木沢遺跡、中葉の木沢遺跡（H17年度、蔵王町教育委員会2006）、六角遺跡（H18・19年度、蔵王町教育委員会2008）、戸ノ内遺跡（H19・20年度、蔵王町教育委員会2009a）、窪田遺跡（北部、H20年度、蔵王町教育委員会2011b）、十郎田遺跡（H19・20年度、蔵王町教育委員会2011d・e）、西屋敷遺跡（H21年度、蔵王町教育委員会2012）の事前調査を実施し、順次発掘調査報告書を刊行してきた。

本書で報告するのは、平成20・21年度に実施した前戸内遺跡の事前調査の結果である。

なお、このほかに磯ヶ坂遺跡（H21年度）、六角・原遺跡（集落道部分、H23年度）の事前調査を実施している。これらについては、平成25年度に発掘調査報告書を刊行して本事業計画にかかわる遺跡の事前調査を終了する計画となっている。

第3章 調査の方法と経過

本遺跡は、円田盆地西側の高木丘陵から派生し、盆地北縁から南東方向に細長く伸びる低平な舌状丘陵上に立地する。遺跡の現況は水田で、地表面に遺物の散布が見られた。

平成8年度に開始された県営ほ場整備事業計画に伴う埋蔵文化財保存協議（事業主側：宮城県大河原地方振興事務所・蔵王町土地改良区、文化財保護側：宮城県教育委員会・蔵王町教育委員会）において本遺跡範囲の半分程度を占める南東部が事業計画範囲に含まれることが判明したため、遺構分布状況と遺構面深度の把握を目的とした遺構確認調査を平成14年度に実施した。

この結果、南東方向に緩く傾斜する舌状丘陵裾部の平坦面（東西約160m、南北約120m、標高約96~99m）で飛鳥～奈良・平安時代と考えられる竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡3棟以上、溝跡8条、土坑6基などが確認され、古代の集落跡が存在することが明らかとなった。

平成17年度には最終的な事業設計案が提示され、田面となる部分は原則として盛土によって遺構面を保護し、止むを得ず切土が発生する道路・水路等の予定範囲について事前調査を実施して文化財保護法上必要な措置としての記録保存を図るという基本方針で合意に達した。

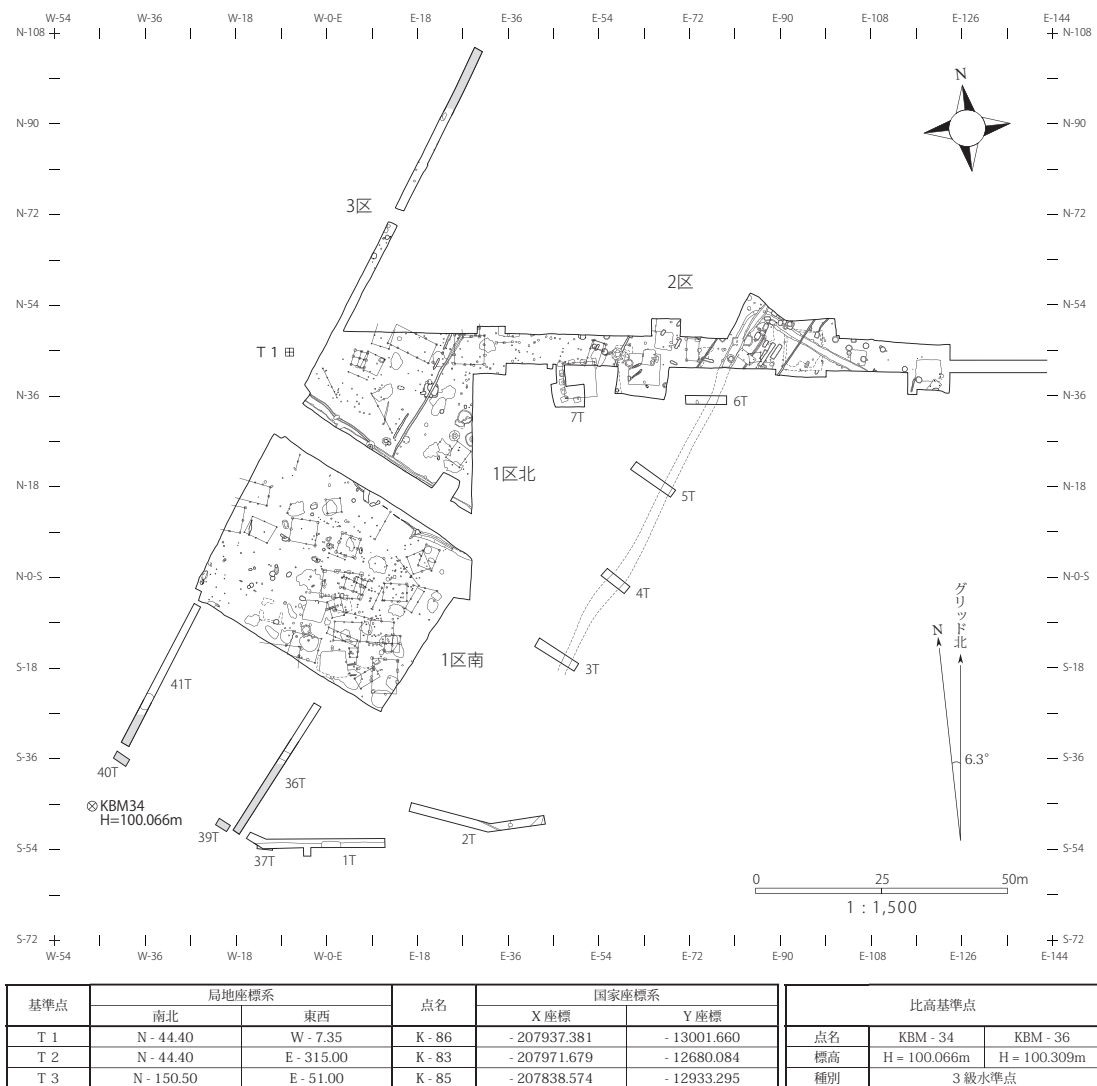


第5図 現況測量図・調査区配置図

本遺跡の事前調査については、平成20年度に業務委託契約（委託者：宮城県大河原地方振興事務所、受託者：蔵王町）を締結し、着手した。調査は当初単年度で完了する計画であったが、事前の遺構確認調査で遺構群の存在が想定されていなかった区域で新たに多数の遺構が確認され、年度内の完了が困難となった。このため、翌平成21年度に改めて本遺跡の一部と西屋敷遺跡の事前調査にかかる業務委託契約を締結し、調査を実施した。

発掘調査は、水路および土砂溜工（沈砂池）の整備によって遺構面が削平される範囲を対象としたものである。遺跡範囲内に計画された沈砂池部分に1区（2828.6㎡）、水路部分に2区（527.0㎡）、小水路部分に3区（201.6㎡）を設定し、順次調査を実施した（第5図）。調査面積は、合計約3,557.2㎡である。調査期間は平成20年11月10日～12月19日（約1.5か月間、1・3区）、平成21年6月1日～9月30日（約4か月間、2区）の計5.5か月間を要した。

発掘調査では重機による表土除去の後、手作業による遺構確認と遺構精査を行なった。確認した遺構は竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡35棟、柱列跡11条、井戸跡8基、近世墓10基、落とし穴状土坑10基、土坑85基、溝跡10条、粘土採掘坑2基、廃棄土坑1基、竪穴状遺構1基、性格不明遺構1基、柱穴多数である（第6図）。本発掘調査の測量基準点は作業道計画路線上に打設された工事用基準杭を機械設置点および方位視準点として使用し、測量基準線に平行・直交する3mグリッドを設定した（第6図）。図面についてはトータルステーションを用いて設定した3mグリッドを利用してすべて手実測



第6図 調査区設定図と主要な遺構の分布

で作成し、遺構は必要に応じて1/20縮尺の平面図・断面図を作成した。また、デジタル一眼レフカメラおよび35mmモノクロームフィルムを用いて、必要に応じて遺構の検出状況と土層断面、完掘状況、遺物の出土状況および調査区全景などの記録写真を撮影した。デジタルデータについてはDVD-ROMに記録して保管している。出土遺物は調査区および遺構、出土層位別に取り上げた。

調査期間中の平成21年6月13日には住民向けの発掘調査成果見学会を開催し、町民および県内研究者など約50名の参加があった。見学会では本遺跡（2区）と並行して発掘調査を進めていた西屋敷遺跡（5区）の発掘調査現場と出土遺物を公開して調査成果の概要を説明した。

整理事業は平成20・21年度にそれぞれ当該年度調査成果の基礎整理のための業務委託契約を締結し、平成20年12月22日～平成21年3月25日（約3.5か月間）、平成21年12月1日～平成22年3月25日（約4か月間）の計約7.5か月間の工程で実施した。本遺跡の調査成果については出土遺物の洗浄と注記、接合と修復の作業を実施したほか、図面と写真などの記録類の基礎的な整理事業を実施した。また、平成20年度にはSX114粘土採掘坑出土炭化物の一部について、（株）加速器分析研究所に委託して放射性炭素年代測定を実施した。

なお、今回の調査区のうち1区南半部の周辺については、調査時点では十郎田遺跡の範囲に含まれていたが、本遺跡と一体をなす遺構群が分布していることが判明した。このため、基礎整理事業の完了を受けて、平成22年6月3日付けで十郎田遺跡北西部の一部を前戸内遺跡の範囲に編入するよう遺跡範囲の変更を行っており、本書では変更後の遺跡範囲に基づいて記載している。

平成23・24年度にはそれぞれ平成20・21年度調査成果の本整理と報告書作成のための業務委託契約を締結し、平成23年12月1日～平成24年3月23日（約4か月間）、平成24年9月1日～平成25年3月25日（約7か月間）の計約11か月間の工程で実施した。本遺跡の調査成果については出土遺物の実測と写真撮影、実測図・遺構図トレース、および本書の執筆・編集と印刷・製本を実施した。

遺構図については、手実測で作成した図面をイメージスキャナとビットマップ画像編集ソフトウェアを用いてデジタル画像化し、調査員が作成した遺構調書を参照しながらパソコン内でベクトル画像編集ソフトウェアを用いてデジタルトレースを行なった。遺物については、洗浄の後に注記を行ない、可能な限り接合と修復を行なった上で遺物調書を作成し、遺物の性格と残存状況などに応じて実測図あるいは拓本を作成した。遺物の実測図・トレース図についてはすべて手作業により作成した。実測図等の作成が終了した遺物については、デジタル一眼レフカメラを用いて写真撮影を行なった。

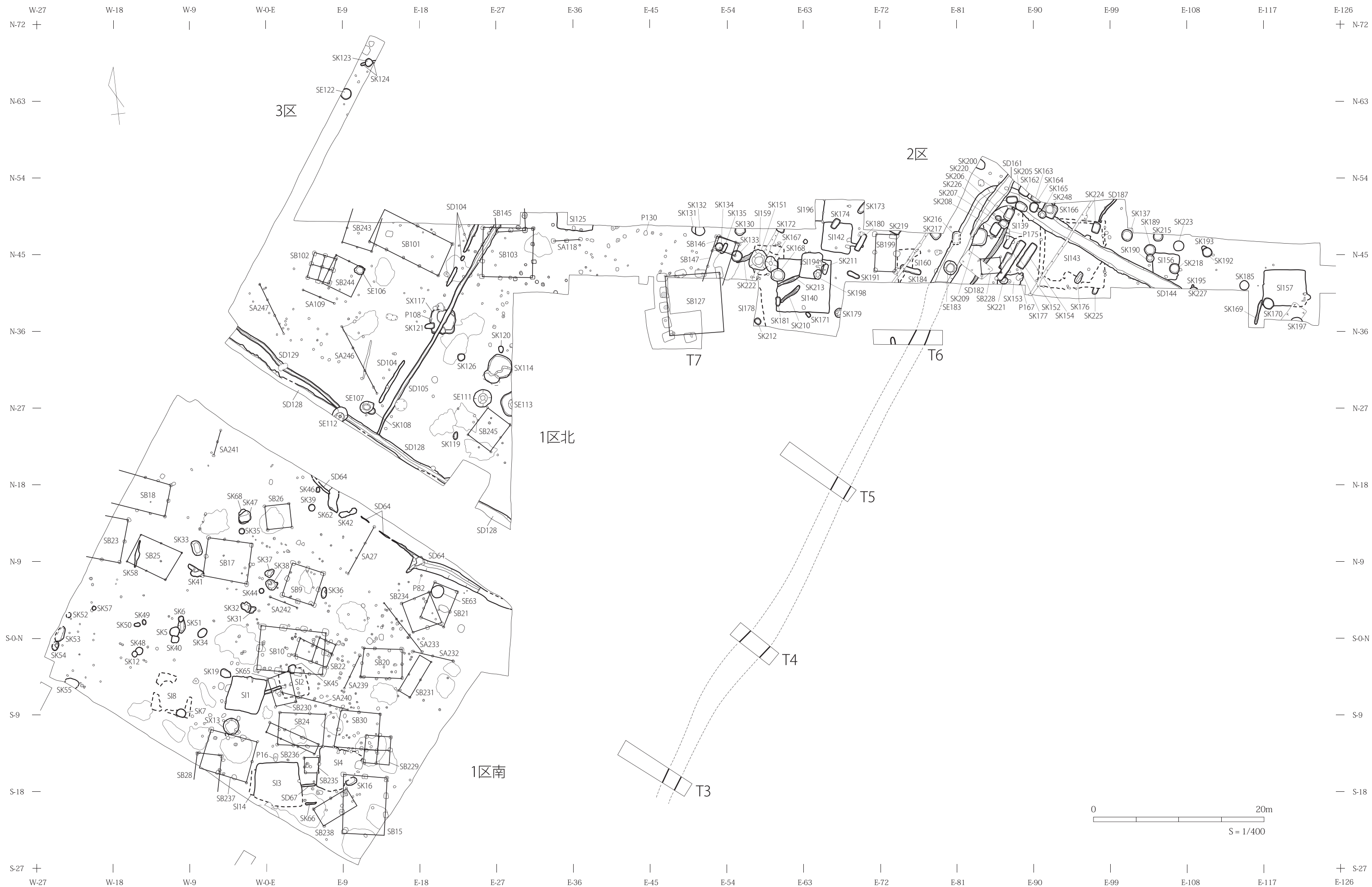
以上の経過を経て作成した遺構・遺物調書をもとに執筆した本文と、遺構・遺物の写真・図面等のレイアウトおよび編集作業をDTPソフトウェアを用いて実施し、本書の印刷・製本を完了した。



写真11 調査前の遺跡現況（東から）



写真12 発掘調査成果見学会



第7図 遺構配置図

第4章 調査の結果

第1節 基本層序

調査区により立地条件と土層の堆積状況に違いが見られるが、基本層序はⅠ～Ⅷ層に大別される。Ⅰ層は表土ないしは現耕作土で、層厚は15~25cm程度である。Ⅱ層は旧表土ないしは旧耕作土で、層厚は10~30cm程度である。近世～近代の陶磁器片などを含む。Ⅲ層は黒ボクと称される黒色火山灰土で、層厚は20~40cm程度である。丘陵斜面部に堆積し、斜面下部では複数の再堆積層を形成する。Ⅳ層はⅢ層下部とⅤ層上部に形成された漸移層で、層厚は20cm程度である。Ⅴ層は黄褐色ローム層で、層厚は30~40cm程度、Ⅵ層は白色粘土層で、層厚は30~50cm程度である。Ⅶ層は猿岩と称される青灰色凝灰質シルトで、層厚は20~40cm程度である。川崎スコリア層（板垣ほか1981）に相当するとみられる。Ⅷ層は砂礫を含む白色粘土層で、層厚は20cm以上である。

調査区内ですべての層序を確認した地点はなく、耕作および削平などによりⅠ層またはⅡ層の直下でⅢ層より下位の層を確認した地点が多かった。遺構はⅢ層上面あるいはⅣ～Ⅶ層の削平面で確認した。以上の状況を考慮すれば、確認した遺構の多くが本来はⅢ層上面から掘り込まれたものと考えられる。

第2表 基本層序

層名	土性	性格	層厚	備考
Ⅰ層	黒褐色シルト	表土・現耕作土	15~25cm	
Ⅱ層	黒色シルト	旧表土・旧耕作土	10~30cm	近世～近代の陶磁器片を含む
Ⅲ層	黒色シルト	黒色火山灰	20~40cm	古代～中世の遺構掘り込み面
Ⅳ層	暗褐色シルト	漸移層	20cm	
Ⅴ層	黄褐色粘質シルト	黄褐色ローム	30~40cm	
Ⅵ層	白色粘土	水成堆積物	30~50cm	
Ⅶ層	青灰色凝灰質シルト	スコリア堆積物	20~40cm	川崎スコリア（Za-Kw・2.6~3.1万年前）
Ⅷ層	白色粘土	水成堆積物	20cm~	砂礫を含む

第2節 発見された遺構と遺物

確認した遺構は、竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡35棟、柱列跡11条、井戸跡8基、近世墓10基、落とし穴状土坑10基、土坑85基、溝跡10条、竪穴状遺構1基、粘土採掘坑2基、廃棄土坑1基、性格不明遺構1基、柱穴多数である。遺構はすべての調査区で確認した。1・2区では古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡群、中世の掘立柱建物跡群、2区では中世の区画溝跡、近世墓群を確認した。

遺物は主に竪穴住居跡、井戸跡、土坑、溝跡などの遺構から出土し、土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器、近世陶磁器、弥生土器、石器、石製品、銅銭、金属製品、鉄滓、木製品などがある。主体を占めるのは土師器、ロクロ土師器、須恵器で、他は少量である。土師器は8世紀中頃～後半（奈良時代中頃）、ロクロ土師器は主に9世紀前葉～中葉（平安時代前葉）のものがある。出土遺物の修復後総量は遺物収納コンテナ（44×60×15cm）で25箱分である。

出土した遺物の年代と出土状況、放射性炭素年代測定結果などから、確認した遺構は8世紀中頃～後半（奈良時代中頃）、9世紀前葉～中葉（平安時代前葉）、14世紀（中世前半）に位置づけられるものがある。年代が明らかな遺構の中で主体を占めるのは、奈良時代中頃の竪穴住居跡・粘土採掘坑、平安時代前葉の竪穴住居跡・掘立柱建物跡群、中世前半の区画溝跡と掘立柱建物跡群である。

以下、発見された遺構と遺物について調査区ごとに詳述する。なお、遺構は全体の様相が把握でき特徴的なもの、遺物が出土しているものについて記述し、章末にすべての遺構の観察表を作成して掲載した。

1.1 区南

遺跡範囲の南部に位置し、長さ約50m、幅約36mの長方形の調査区である。調査区内は東へ向かって僅かに傾斜する平坦面である。遺構確認面は現地表面から深さ15~40cmのIV~V層上面である。遺構は竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡22棟、柱列跡7状、井戸跡1基、落とし穴状土坑3基、土坑33基、溝跡2条、廃棄土坑1基を確認した(第8図、写真図版2~5)。

(1) 竪穴住居跡

【SI1 竪穴住居跡】(第9・10図、写真図版6・35)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK65 → SI1

〔規模・形状〕長辺4.00m、短辺3.80m/方形

〔方向〕カマド中軸線：N-18°-E

〔壁面〕地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大14cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕住居平面形の対角線上で2か所(P4・5)、住居南辺に接して2か所(P1・2)を確認した。柱穴掘方の平面形はP5で隅丸方形を基調とし、長辺40cm、短辺35cmである。深さは15~43cmで、1か所で平面形が直径14cmの円形を呈する柱痕跡、3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居北辺中央に付設する。幅80cm、奥行85cmの燃焼部が残存し、焚口幅は60cm程度と推定される。燃焼部底面は幅46cm、奥行80cmで、床面より5cmほど皿状に窪む。焚口付近の幅18cm、奥行25cmの範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は地山の白色粘土を用いて構築され、長さ22~50cm、幅12~18cm、高さ13cmが残存する。焚口付近のカマド崩落土上面で河原石4点が出土しており、焚口部の構築材であった可能性がある。奥壁は住居北壁より13cmほど張り出す。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形が長軸120cm、短軸90cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ20cmの椀形を呈する。堆積土は2層に細分される。1層は地山粒を含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを含む暗褐色粘質シルトで、1層は自然堆積土、2層は人為的埋土と考

えられる。

〔その他の施設〕北東支柱穴(P5)の南側で柱穴1か所(P3)、カマド左側で土坑1基(K2)を確認した。P3柱穴は掘方の平面形が長辺28cm、短辺16cmの隅丸方形を呈し、深さ26cmである。平面形が直径13cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。K2土坑は平面形が長軸31cm、短軸28cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ12cmの椀形を呈する。堆積土は2層に細分され、1層が均質な黒褐色粘質シルト、2層は小礫を含む黒褐色砂質シルトである。いずれも自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕住居床面直上から須恵器環(第10図1)、カマド燃焼部底面からロクロ土師器環(第10図2)、住居内堆積土から土師器甑(第10図3)、住居掘方埋土からロクロ土師器鉢(第10図4)が出土した。須恵器環(第10図1)は外底面に墨書「草手」がみられる。ロクロ土師器環(第10図2)は外底面に墨書(判読不能)が見られる。土師器甑(第10図3)は無底式の双耳甑である。このほか、土師器小型品・甕などが出土した。土師器小型品は体部と口縁部の境に屈曲を持ち、内面にヘラミガキ調整、外面にヘラケズリ、ヘラミガキ調整を施すものがある。

【SI2 竪穴住居跡】(第11図、写真図版6)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK65 → SI2 → SB10・SB230・SA240・SK45

〔規模・形状〕長辺3.10m以上、短辺2.90m以上/方形

〔方向〕住居東辺：N-6°-W

〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔支柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕不明

〔貯蔵穴〕住居北東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形が長軸168cm、短軸90cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ27cmの逆台形を呈する。堆積土は2層に細分され、1層は白色粘土ブロックを少量含む黒色シルト、2層は白色粘土ブロックを多量に含み、焼土粒を少量含む黒褐色粘質シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器小型品、須恵器環などが出土した。土師器小型品は外面の体部にヘラミガキ調整、赤彩?を施すものがある。

【SI3 竪穴住居跡】(第12~17図、写真図版7・8・36・37)

〔位置〕1区南/平坦面

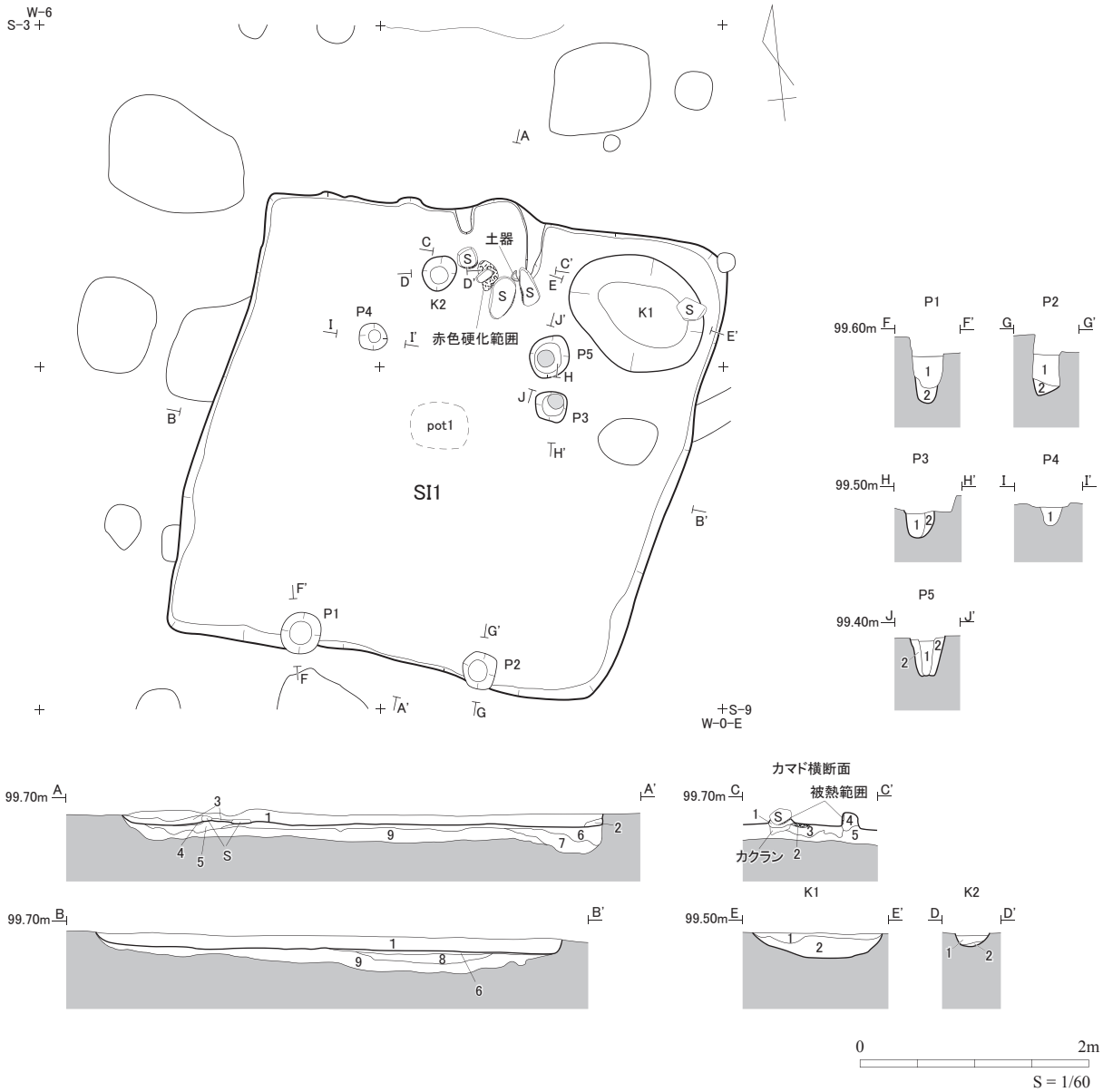
〔重複〕SI14・SD67 → SI3a → SI3b

〔規模・形状〕長辺5.60m、短辺5.50m/方形

〔方向〕カマド中軸線：E-6°-S



第8図 1区遺構配置図



SI1 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (住堆)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (住堆)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒・竈崩落土を含む (竈堆)
4	2.5YR5/4 にぶい赤褐	シルト	焼土層 (竈横断面 2層対応)
5	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒・白色粘土粒などを含む
6	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (住掘・竈横断面 4層対応)
7	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (住掘)
8	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・砂礫を含む (住掘)
9	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (住掘・カマド横断面 5層対応)

SI1 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (竈崩)
2	5YR4/4 にぶい赤褐	シルト	焼土層 (住居主断面 4層対応)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	炭化物粒・焼土ブロック・白色粘土粒を含む (住居主断面 5層対応)
4	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (竈側壁構・住居主断面 6層対応)
5	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (住掘・住居主断面 9層対応)

SI1 竪穴住居跡 P1 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)

SI1 竪穴住居跡 P2 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)

SI1 竪穴住居跡 P3 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒をごく少量を含む (住痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SI1 竪穴住居跡 P4 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	φ 1-2cm の礫を含む (柱抜)

SI1 竪穴住居跡 P5 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (住痕)
2	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・砂を含む (柱掘)

SI1 竪穴住居跡 K1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を含む
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (人為)

SI1 竪穴住居跡 K2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	均質土
2	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	小礫を含む

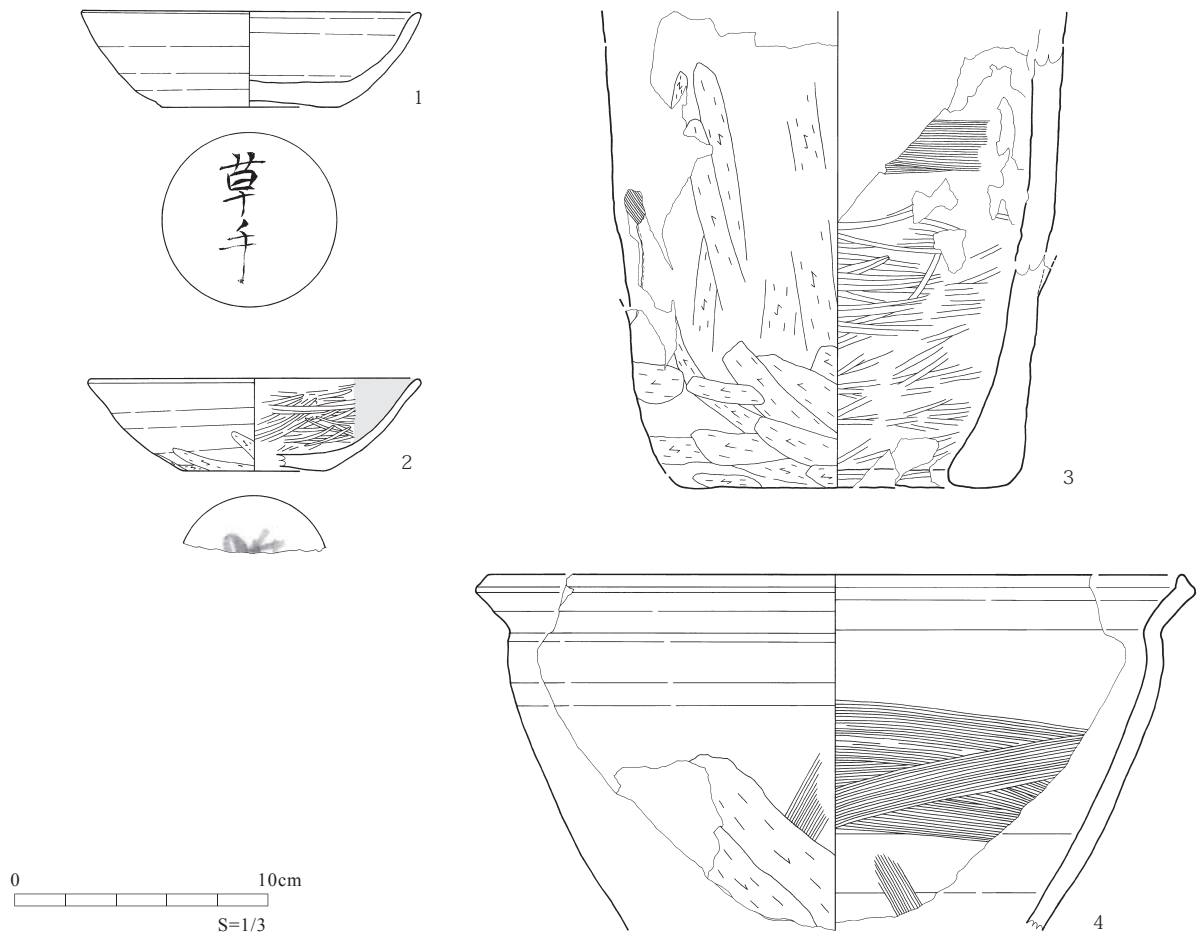
第9図 SI1 竪穴住居跡

〔壁面〕地山を壁とする。残存壁高は最大2cmである。
 〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山・焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。
 〔支柱穴〕8か所確認し、2時期の変遷が考えられる。a期の柱穴（P1a~P4a）は住居平面形の対角線上よりそれぞれ約50cm南側に配置されている。掘方の平面形が長軸（辺）48~60cm、短軸（辺）36~60cmの楕円形・隅丸方形を呈し、深さ44~56cmである。2か所で平面形が直径16~22cmの円形を呈する柱痕跡、3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。b期の柱穴（P1b~P4b）は北側の2か所が住居平面形の対角線上に、南側の2か所は住居南辺に接する位置に配

置されている。掘方の平面形が長軸40~90cm、短軸36~56cmの略円形・楕円形を呈し、深さ44~56cmである。2か所で平面形が直径22~24cmの円形を呈する柱痕跡、2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。また、1か所で掘方底面に礎板石を確認した。

〔周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居東辺南寄りに付設する。幅120cm、奥行76cmの燃烧部が残存し、焚口幅は不明である。燃烧部底面は幅56cm、奥行73cmで、床面とほぼ平坦である。幅56cm、奥行57cmの範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は地山・砂粒などを含むにぶい黄褐色シルトで構築され、長さ42~44cm、幅24cm、高さ1cmが残存する。奥壁は住居東壁と一致する。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI1	床面直上	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(底)回転糸切り→手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 外底面：墨書「草手」	13.5	7.0	3.8	7/8	001	35-1
2	SI1	カマド 燃烧部底面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近)手持ちヘラケズリ、(底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「□」	(13.2)	(6.0)	3.7	1/4	002	35-2
3	SI1	住居内堆積土 Pot.1	土師器	甕 (双耳)	外面：(体)ヘラケズリ、(底端)ヘラケズリ→ミガキ 内面：(体)ヘラナデ→(体下)ヘラミガキ 外面：耳部欠損	-	(13.0)	(18.9)	一部	003	35-3
4	SI1	住居掘方埋土	ロクロ土師器	鉢	外面：ロクロナデ→(体)ヘラナデ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→(体)ヘラナデ	(28.6)	-	(14.1)	一部	004	35-4

第10図 SI1 竪穴住居跡出土遺物

〔炉跡〕住居南側で赤色硬化範囲2か所を確認した。赤色硬化範囲はP2a柱穴・K1土坑より新しい。平面形は長軸30-42cm、短軸22-35cmの楕円形を呈する。

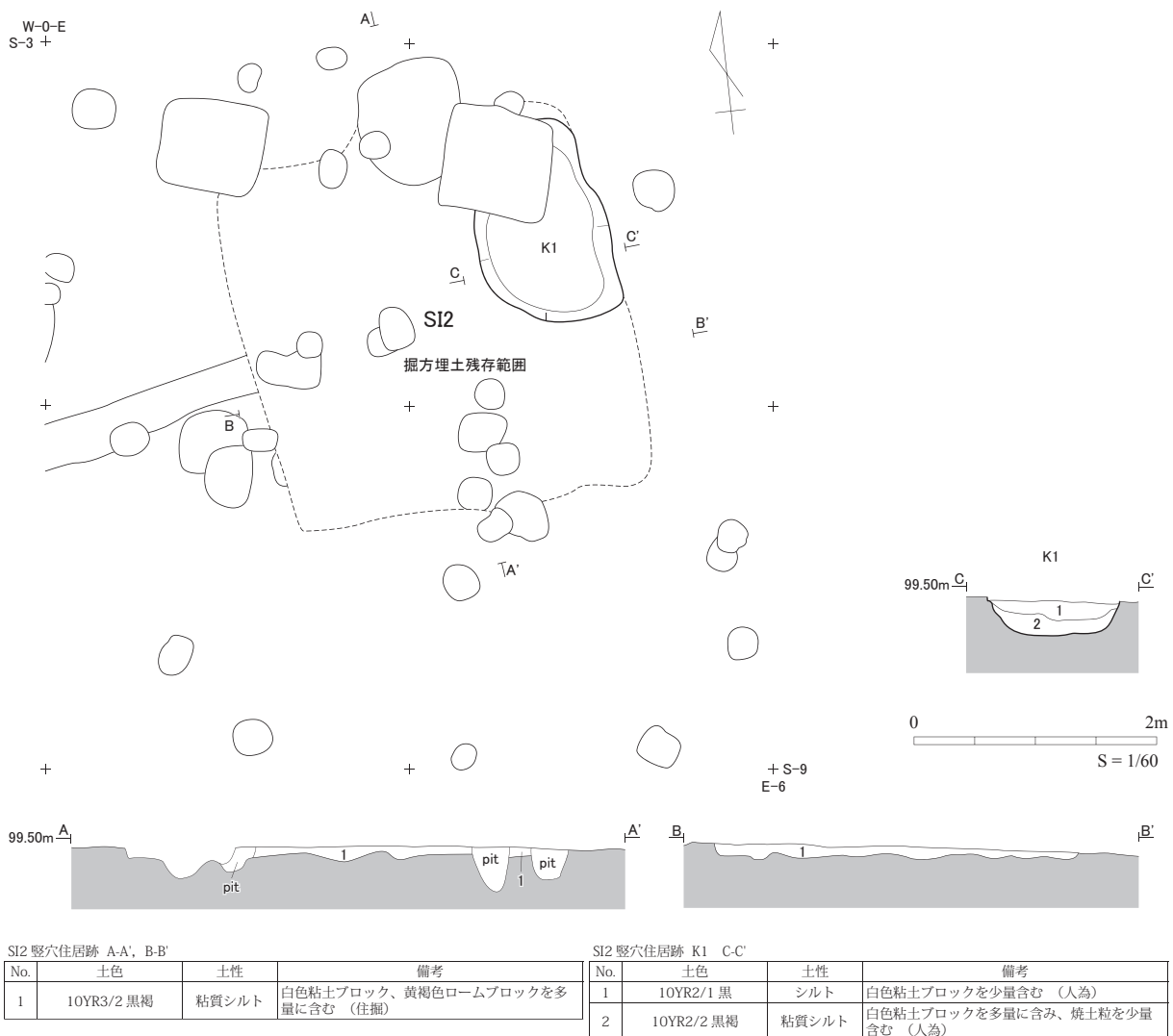
〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅で土坑1基(K1)を確認した。b期の支柱穴(P2b)に壊されている。平面形が長軸176cm、短軸100cmの隅丸方形を基調とし、断面形は深さ22cmの逆台形を呈する。堆積土は地山・焼土粒を少量含む黒褐色シルトである。

〔床下土坑〕15基(K2-16)を確認した。住居中央部に位置し床面から掘り込まれているもの(K14)と、住居内周に位置し掘方底面から掘り込まれているもの(K2-13・15・16)とがある。K14土坑は平面形が長軸194cm、短軸182cmの不整形を呈し、断面形は深さ36cmで壁面が階段状となる不整逆台形を呈する。K2-13・15・16は平面形が長軸56-176cm、短軸44-136cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ8-44cmの不整逆台形または袋状を呈する。重複が

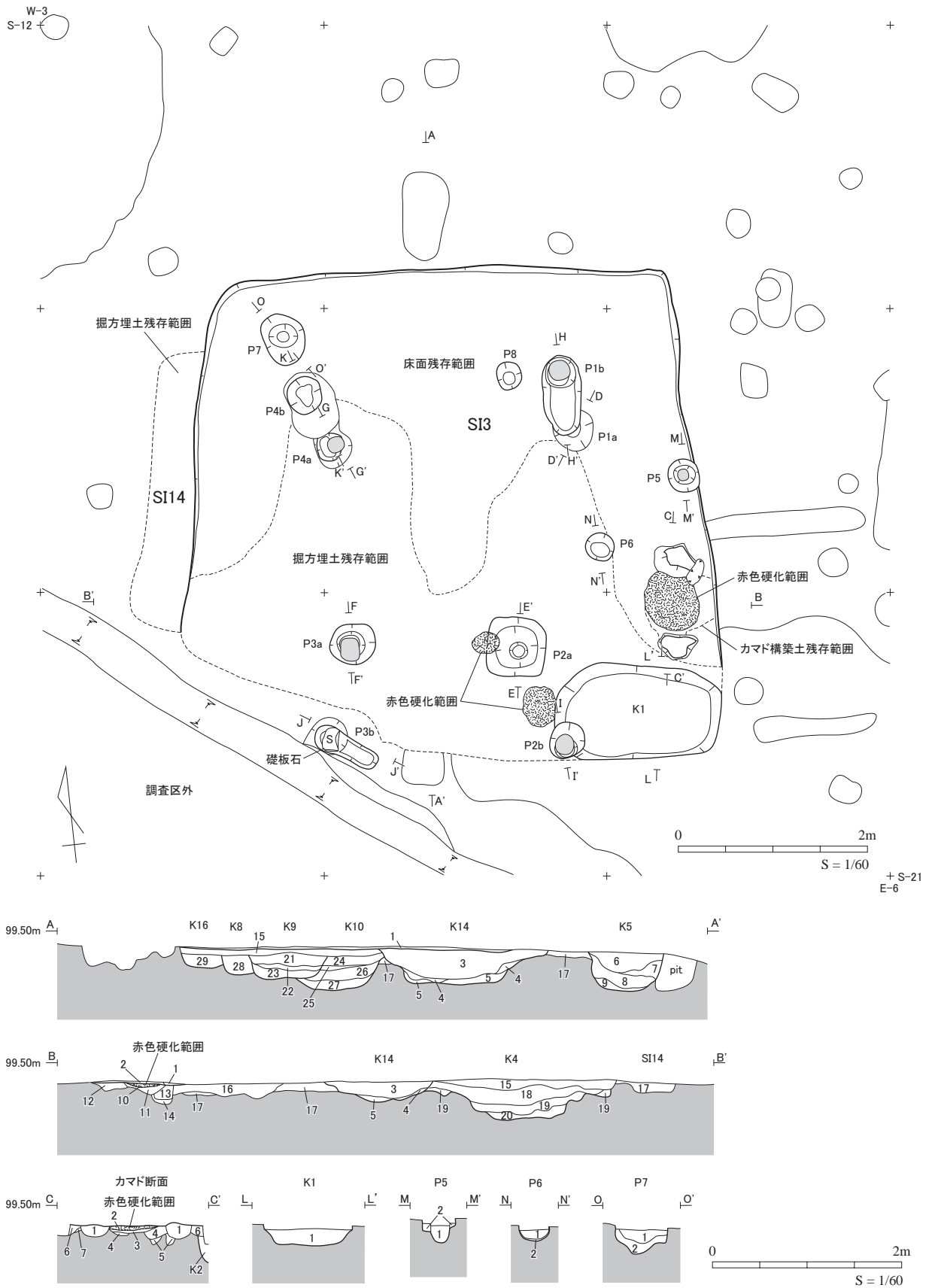
著しく、位置をずらしながら繰り返し掘り込まれている。土坑底面はK4・5・7-16で黄褐色ローム層、K2・3・6で白色粘土層である。堆積土は地山ブロック、焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルト・黄褐色砂質シルトなどで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔その他の施設〕住居北側で2か所(P7・8)、東側で3か所(P5・6・9)の柱穴を確認した。P5柱穴は住居東辺中央に位置し、床面から掘り込まれている。掘方の平面形が長軸35cm、短軸32cmの楕円形を呈し、深さ24cmである。平面形が直径20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。P9柱穴は住居掘方埋土を掘り込んでいるが、カマド構築土に壊されている。P6・7・8柱穴は住居掘方埋土あるいは床下土坑を壊して掘り込まれているが、床面との関係は不明である。

〔出土遺物〕住居内堆積土からロクロ土師器坏(第16図6)、P5柱穴抜き取り痕跡からロクロ土師器甕(第16図9)、K1土坑堆積土からロクロ土師器坏(第16



第11図 SI2 竪穴住居跡



第12図 SI3・14 竪穴住居跡 (1)

図1・4・7・8)、灰釉陶器碗(第17図4)、K9・10土坑堆積土からロクロ土師器環(第16図3)、K12土坑・P1b・P3b柱穴堆積土から須恵器環(第17図2)、住居掘方埋土からロクロ土師器環(第16図2・5)・甕(第16図10)、須恵器環(第17図1・3)が出土した。ロクロ土師器環(第16図5~8)は外底面に墨書が見られ、判読できるものには「苺田」(第16図5)、「草手」(第16図6)がある。このほか、土師器環・小型品・甕、ロクロ土師器甕、須恵器甕、弥生土器が出土した。土師器環は口縁部の内外面にヨコナデ調整、体部の外面にヘラケズリ調整を施し、内面に黒色処理を施さない。

【SI4 竪穴住居跡】(第18~21図、写真図版8・9・38)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SB15・SK16→SI4→SB24・SB30・SB229・SB235-SB238

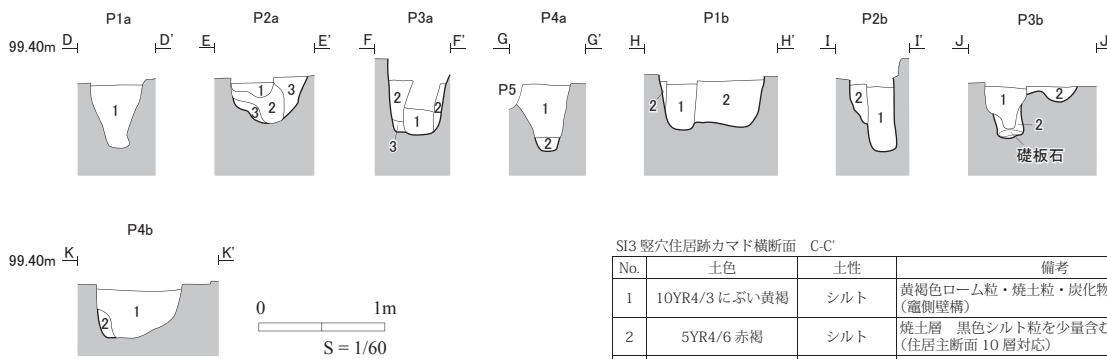
〔規模・形状〕長辺5.00m、短辺4.60m以上/方形

〔方向〕カマド中軸線:N-2°-E

〔壁面〕地山を壁とする。残存壁高は最大4cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、住居北西隅周辺のみ残存する。床面を覆う堆積土は地山・焼土ブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕8か所確認し、2時期の変遷が考えられる。a期の柱穴(P1a-P4a)は北側の2か所が住居平



SI3 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む (住堆)
2	7.5YR4/6 褐	シルト	焼土ブロックを多量に含む (竈跡)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を少量含む (人為・K14 堆)
4	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を層状に含む (人為・K14 堆)
5	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒・砂粒を含む (人為・K14 堆)
6	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、焼土粒を含む (人為・K5 堆)
7	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロック・黒色シルトブロック・焼土粒を含む (人為・K5 堆)
8	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む (人為・K5 堆)
9	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒、砂粒を含む (人為・K5 堆)
10	5YR4/6 赤褐	シルト	焼土層 黒色シルト粒を少量含む (カマド横断面2層対応)
11	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルト粒を含む (竈構・カマド横断面3層対応)
12	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルトを多量に含む (竈構・カマド横断面4層対応)
13	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (P9 柱痕)
14	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (P9 柱掘)
15	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む (住掘)
16	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロック、焼土粒・炭化物粒を少量含む (住掘)
17	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・濁褐色シルトブロックを含む (SI4 住掘)
18	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む (人為・K4 堆)
19	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (人為・K4 堆)
20	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	白色粘土粒を含む (人為・K4 堆)
21	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む (人為・K9 堆)
22	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K9 堆)
23	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・砂粒を含む (人為・K9 堆)
24	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (人為・K10 堆)
25	10YR2/3 黒褐	シルト	焼土粒を層状に含む (人為・K10 堆)
26	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (人為・K10 堆)
27	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・にぶい黄褐色砂質シルトブロックを含む (人為・K10 堆)
28	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K8 堆)
29	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為・K16 堆)

SI3 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒・砂粒を含む (竈側壁構)
2	5YR4/6 赤褐	シルト	焼土層 黒色シルト粒を少量含む (住居主断面10層対応)
3	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルト粒を含む (竈構・住居主断面11層対応)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルトを多量に含む (竈構・住居主断面12層対応)
5	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒褐色シルトブロックを含む (竈構)
6	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)
7	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI3 竪穴住居跡 P1a D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (柱抜)

SI3 竪穴住居跡 P2a E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SI3 竪穴住居跡 P3a F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・砂粒を含む (柱掘)
3	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SI3 竪穴住居跡 P4a G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)

SI3 竪穴住居跡 P1b H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SI3 竪穴住居跡 P2b I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI3 竪穴住居跡 P3b J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)

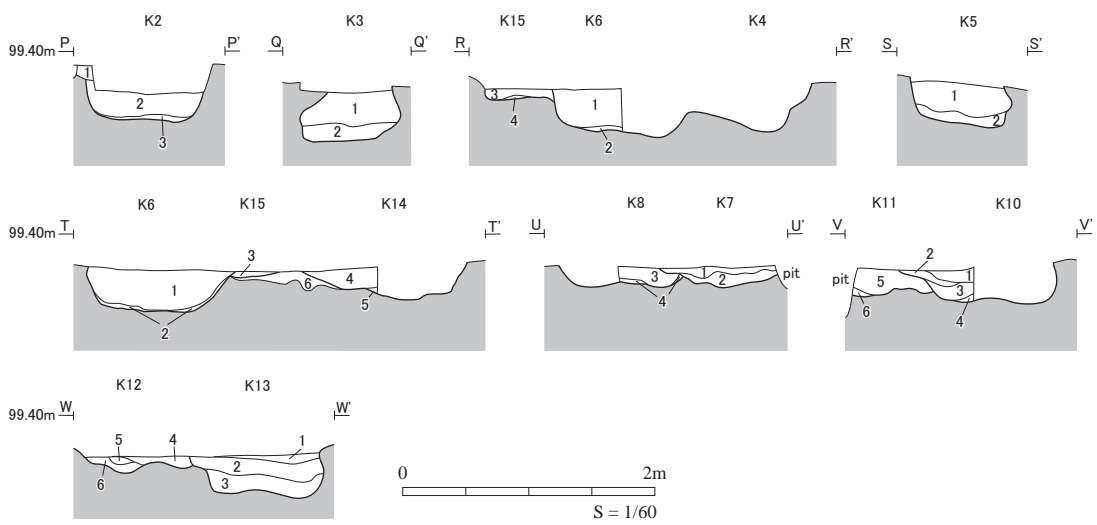
SI3 竪穴住居跡 P4b K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (柱抜)
2	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI3 竪穴住居跡 K1 L-L'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む

第13図 SI3・14 竪穴住居跡(2)



第14図 SI3・14 竪穴住居跡 (3)

面形の対角線上に、南側の2か所が住居南辺に接する位置に配置されている。掘方の平面形が長軸（辺）22~44cm、短軸（辺）30~42cmの隅丸方形・不整楕円形を呈し、深さ44~68cmである。1か所で平面形

SI3 竪穴住居跡 P5 M-M'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
SI3 竪穴住居跡 P6 N-N'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR5/6 黄褐	シルト	黒色シルトブロックを含む (柱掘)
SI3 竪穴住居跡 P7 O-O'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む (人為)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
SI3 竪穴住居跡 K2 P-P'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒・白色粘土ブロックを含む (人為)
3	10YR4/4 褐	砂質シルト	白色粘土粒を含む (人為)
SI3 竪穴住居跡 K3 Q-Q'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む (人為)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土ブロックを層状に含む
SI3 竪穴住居跡 K4・K6・K15 R-R'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為・K6 堆)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K6 堆)
3	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (人為・K15 堆)
4	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K15 堆)
SI3 竪穴住居跡 K5 S-S'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・白色粘土粒・炭化物粒を含む (人為・住居主断面8層対応)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を少量含む (人為・住居主断面9層対応)
SI3 竪穴住居跡 K6・K14・K15 T-T'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為・K6 堆)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K6 堆)
3	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (人為・K15 堆)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (人為・K14 堆・住居主断面3層対応)
5	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・砂粒を少量含む (人為・K14 堆)
6	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (SI14 堆・住掘・住居主断面17層対応)
SI3 竪穴住居跡 K7・K8 U-U'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (人為・K7 堆)
2	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・砂粒を含む (人為・K7 堆)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む (人為・K8 堆)
4	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K8 堆)
SI3 竪穴住居跡 K10・K11 V-V'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、焼土粒を少量含む (人為・K10 堆)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・にぶい黄褐色シルトを含む (人為・K10 堆)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (人為・住居主断面25層対応)
4	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K10 堆)
5	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・褐色土ブロック・焼土粒を含む (人為・K11 堆)
6	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・K11 堆)
SI3 竪穴住居跡 K12・K13 W-W'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒・焼土粒を含む 炭層 (人為・K13 堆)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を多量に含む (人為・K13 堆)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む (人為・K13 堆)
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む (人為・K12 堆)
5	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	焼土粒・黄褐色ローム粒・炭化物粒を多量に含む (人為・K12 堆)
6	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (人為・K12 堆)

第15図 SI3・14 竪穴住居跡 (4)

が直径15cmの円形を呈する柱痕跡、2か所で柱材底面の圧痕、3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。b期の柱穴(P1b~P4b)はa期の配置を踏襲し、それぞれ20~40cm南側へ移している。掘方の平面形が長軸32~60cm、短軸30~48cmの隅丸方形・不整楕円形を呈し、深さ38~47cmである。3か所で平面形が直径13~17cmの円形を呈する柱痕跡、2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

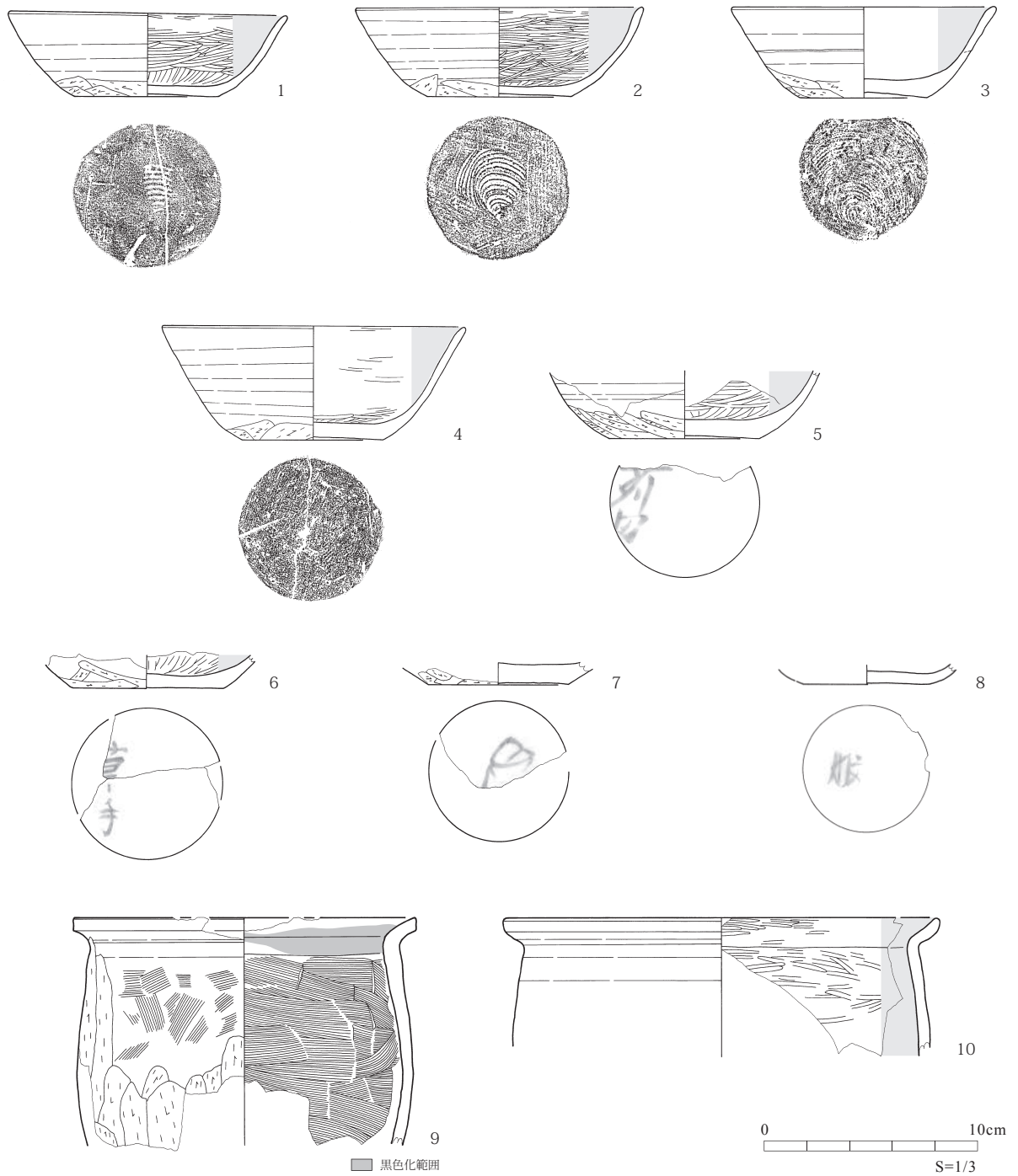
〔周溝・壁材〕住居西壁と北・南壁の一部に沿って周溝を確認した。P4a・b柱穴、P7・11・12柱穴、K6土坑より古い。上幅8~33cm、底幅4~20cmで、横断面形は深さ13~22cmのU字形を呈する。堆積土は2層に細分され、いずれも地山ブロックを含む黒褐色シルトである。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居北辺中央付近に付設する。幅110cm、奥行64cmの燃焼部の痕跡が残存し、焚口幅は不明である。燃焼部底面は幅52cm、奥行64cm程度と推定される。幅18cm、奥行20cmの範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は地山・焼土ブロックを多量に含む極暗褐色粘質シルトで構築され、長さ46~66cm、幅32~43cmの基部が残存する。奥壁は住居北壁と一致するとみられる。

〔貯蔵穴〕なし

〔床下土坑〕10基(K1~4・7・8・10~13)を確認した。床面から掘り込まれているもの(K2)と、掘方底面から掘り込まれているもの(K11)とがある。K1・3・7・8・10・12・13土坑については住居床面が残存しないため、掘り込み面は不明である。平面形が長軸55~284cm、短軸46~174cmの楕円形・不整形を呈し、断面形は深さ11~44cmのU字形・不整逆台形を呈する。土坑底面はいずれも白色粘土層である。堆積土は地山・焼土ブロック、炭化物粒、凝灰岩片などを含む黒褐色・暗褐色シルト、暗褐色粘質シルトなどで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔その他の施設〕住居床面で土坑3基(K5・6・9)、柱穴10か所(P5~8・11~16)、住居掘方底面で柱穴2か所(P9・10)を確認した。K5土坑は住居北西側、K6土坑は住居北西隅、K9土坑は住居中央付近に位置し、平面形が長軸55~100cm、短軸42~76cmの楕円形・不整隅丸方形を呈し、断面形は深さ16~22cmの逆台形・不整逆台形を呈する。堆積土は地山・焼土ブロック、炭化物粒を含む黒色・黒褐色・褐灰色シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。柱穴は住居外周付近に位置するもの(P7・11~16)と、北側主柱穴の南側に位置するもの(P5・8)、南側主柱穴の北側に



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI3	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.1	6.8	3.9	略完形	082	36-2
2	SI3	住居掘方埋土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.5	6.7	4.2	6/7	005	36-3
3	SI3	K9・K10 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→無調整 内面：ミガキ→黒色処理	(12.5)	(6.0)	4.3	1/2	007	36-4
4	SI3	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	14.3	6.6	5.4	6/7	010	36-5
5	SI3	住居掘方埋土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「菊田」	-	(7.0)	(3.2)	一部	006	37-1
6	SI3	住居内堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「草手」	-	7.2	(1.6)	一部	011	37-2
7	SI3	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「□」	-	(6.6)	(1.1)	一部	012	36-6
8	SI3	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 平行ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「□」	-	6.0	(1.0)	一部	013	36-7
9	SI3	P5 採取痕跡	ロクロ土師器	甕	外面：(□) ロクロナデ→(胴) ナデ→手持ちヘラケズリ 内面：(□) ロクロナデ→(胴) ヘラナデ、(頸) 帯状に黒色化	(16.1)	-	(10.7)	一部	017	37-3
10	SI3	住居掘方埋土	ロクロ土師器	甕	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(20.5)	-	(6.5)	一部	016	37-5

第16図 SI3 竪穴住居跡出土遺物(1)

位置するもの（P6）がある。平面形は長軸 22~63cm、短軸 15~60cm の楕円形・不整楕円形を呈し、深さ 14~40cm である。

〔出土遺物〕 P1b 柱穴抜き取り痕跡から土師器小型甕（第 21 図 1）、P2a 柱穴堆積土からロクロ土師器甕（第 21 図 4）、K1 土坑堆積土からロクロ土師器甕（第 21 図 3）、K10 土坑堆積土から転用砥（第 21 図 5）、住居掘方埋土からロクロ土師器坏（第 21 図 2）が出土した。このほか、土師器坏・甕、須恵器甕などが出土した。土師器坏は口縁部と体部の境に屈曲を持ち、内外面にヘラミガキ調整を施すものがある。

〔SI8 竪穴住居跡〕（第 22 図、写真図版 9）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SI8 → SK7

〔規模・形状〕 長辺 4.60m 以上、短辺 4.50m 以上／方形

〔方向〕 住居西辺：N-21° -E

〔壁面・床面・堆積土〕 残存しない。住居掘方埋土の一部が残存する。

〔主柱穴〕 住居南辺に接する位置で 2 か所を確認した。掘方の平面形が長軸（辺）30~48cm、短軸（辺）32cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 34~38cm である。2 か所で平面形が直径 15~17cm の円形を呈す

る柱痕跡、1 か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材／カマド・貯蔵穴〕 不明

〔出土遺物〕 住居掘方埋土から内面に黒色処理を施す土師器坏などが出土した。

〔SI14 竪穴住居跡〕（第 12 図、写真図版 7）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SI14 → SI3a → SI3b

〔規模・形状〕 長辺 2.70m 以上、短辺 0.60m 以上／方形

〔方向〕 住居西辺：N-13° -E

〔壁面・床面・堆積土〕 残存しない。住居掘方埋土の一部が残存する。

〔主柱穴〕 不明

〔周溝・壁材／カマド・貯蔵穴〕 不明

〔出土遺物〕 なし

（2）掘立柱建物跡

〔SB9 掘立柱建物跡〕（第 23 図、写真図版 5・10）

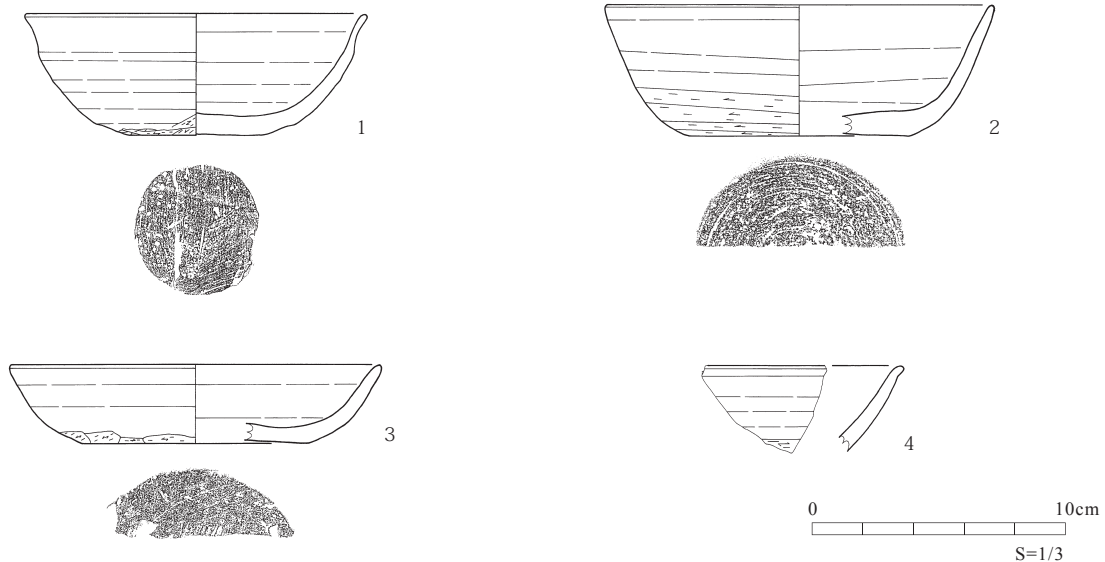
〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 桁行 2 間（4.10m）、梁行 2 間（4.00m）

／南北棟側柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-12° -E



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI3	住居掘方埋土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ、（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 内外面：焼けはじけ（外面著しい）	(13.6)	(5.2)	4.8	1/4	008	37-6
2	SI3	K12・P1b・P3b 堆積土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→（体下）回転ヘラケズリ、（底）切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(15.4)	(8.7)	5.2	1/4	015	37-7
3	SI3	住居掘方埋土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ、（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(14.8)	(9.0)	3.1	1/5	009	37-8
4	SI3	K1 堆積土	灰釉陶器	碗	外面：ロクロナデ→（体下）回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 内外面：灰釉	-	-	(3.4)	一部	014	37-4

第 17 図 SI3 竪穴住居跡出土遺物（2）

〔柱穴〕8か所確認した。掘方の平面形は長辺50~62cm、短辺40~50cmの隅丸方形を基調とし、深さ18~34cmである。8か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2か所で掘方底面に平面形が直径14~24cmの円形を呈する柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕

東側柱列：北から(200) - (210) cm

南側柱列：西から(200) - (200) cm

〔出土遺物〕土師器の破片が出土した。

【SB10 掘立柱建物跡】

(第24・25図、写真図版5・10・38)

〔位置〕1区南／平坦面

〔重複〕SI2・SK45 → SB10 - SB230

〔規模・形状〕桁行3間(7.70m)、

梁行2間(4.90m)／東西棟側柱建物

〔方向〕南側柱列：W-10° -N

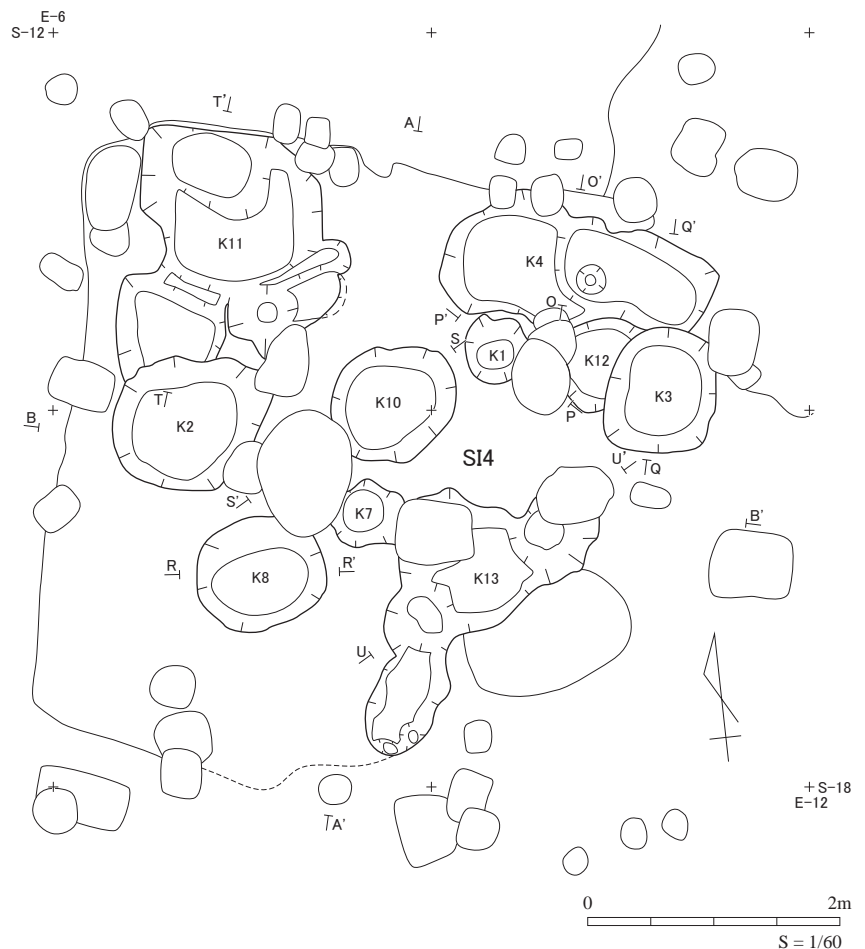
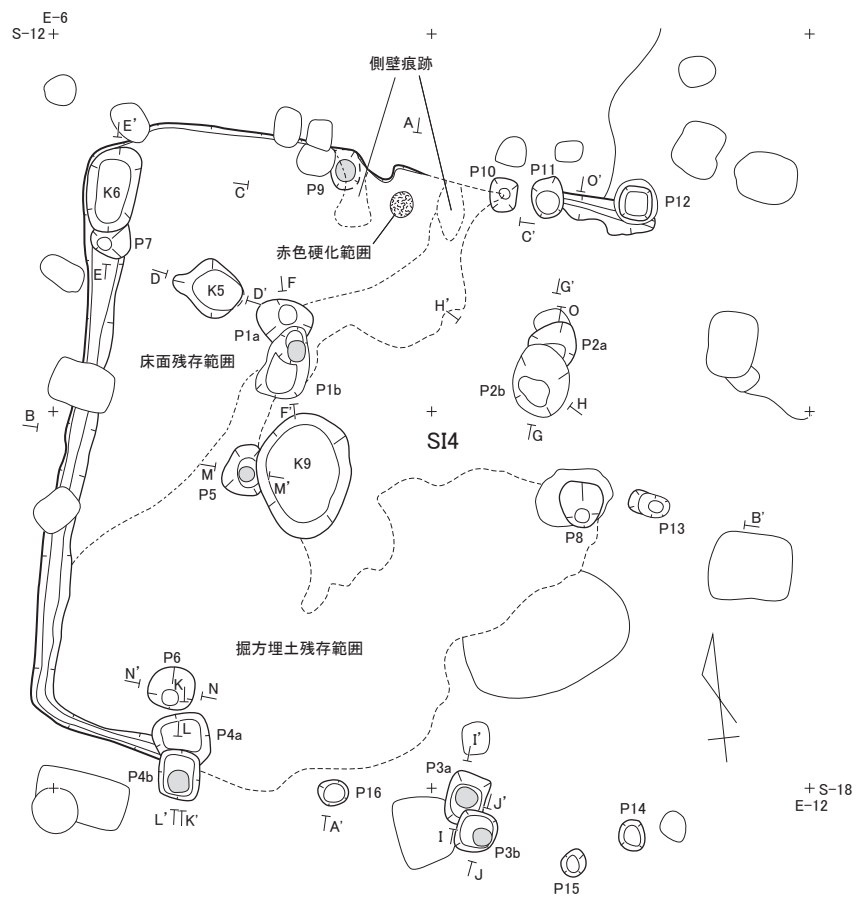
〔柱穴〕10か所確認した。掘方の平面形は長辺76~88cm、短辺64~86cmの隅丸方形を基調とし、深さ18~56cmである。9か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、いずれも掘方底面に平面形が直径18~28cmの円形を呈する柱材圧痕を確認した。また、1か所で平面形が直径20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕

南側柱列：西から270-240-260cm

東側柱列：北から240-250cm

〔出土遺物〕P2柱穴抜き取り痕跡からロクロ土師器環(第25図2)、P8柱穴堆積土からロクロ土師器環(第25図1)が出土した。このほか、土師器甕、ロクロ土師器甕、須恵器環などが出土した。



第18図 SI4 竪穴住居跡(1)

【SB15 掘立柱建物跡】(第25・26図、写真図版3・

10・11・38)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SB15 → SI4 - SB238・SK16

〔規模・形状〕桁行3間(6.90m)、梁行2間(5.10m)
/南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列:N-6°-E

〔柱穴〕9か所確認した。掘方の平面形は長辺40-68cm、短辺26-58cmの隅丸方形を基調とし、深さ10-36cmである。7か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、1か所で掘方底面に平面形が直径20cmの柱材圧痕を確認した。また、4か所で平面形が直径14-20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列:北から(240)-(210)-(240)cm
北側柱列:西から250-260cm

〔出土遺物〕P6柱穴掘方埋土から須恵器坏蓋(第25図3)が出土した。このほか、土師器坏・甕、ロクロ土師器坏・甕などが出土した。

【SB17 掘立柱建物跡】

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK41 → SB17

〔規模・形状〕桁行3間(5.20m)、梁行2間(4.60m)
/東西棟側柱建物

〔方向〕北側柱列:W-15°-N

〔柱穴〕9か所確認した。掘方の平面形は長軸20-66cm、短軸20-44cmの略円形・楕円形を呈し、深さ2-30cmである。9か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、1か所で掘方底面に平面形が直径18cmの円形を呈する柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列:西から(190)-(166)-(164)cm
西側柱列:北から(220)-(240)cm

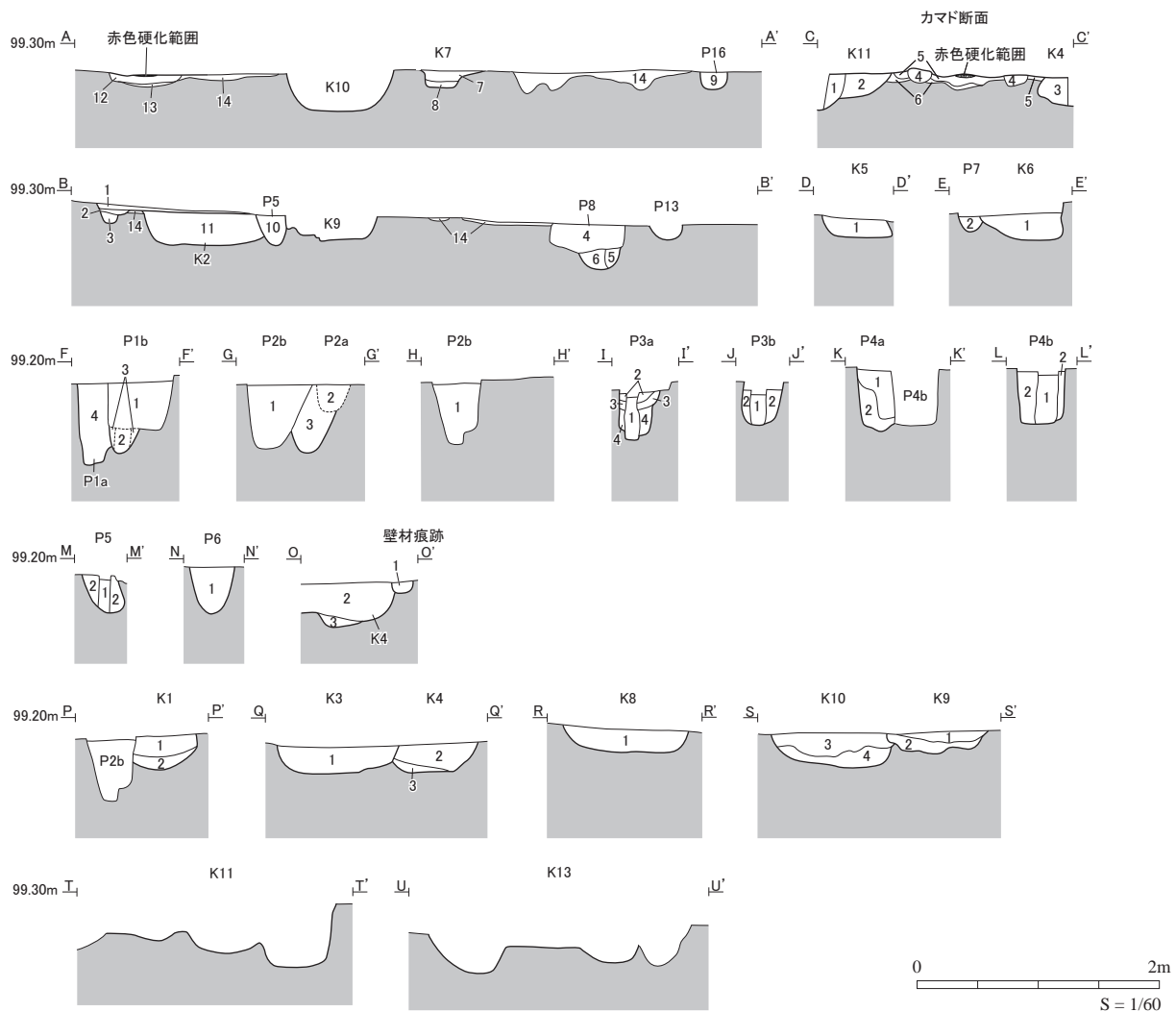
〔出土遺物〕なし

【SB18 掘立柱建物跡】(第27図、写真図版5・10・11)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕桁行2間(3.70m)、梁行2間(3.36m)



第19図 SI4 竪穴住居跡(2)

以上／側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-10° -E

〔柱穴〕7か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸24~40cm、短軸22~36cmの略円形・楕円形を呈し、深さ4~30cmである。1か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、6か所で平面形が直径8~20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕東側柱列：北から180-190cm

南側柱列：西から156-180cm

〔出土遺物〕なし

【SB20 掘立柱建物跡】(第25・28図、写真図版5・11・38)

〔位置〕1区南／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕桁行3間(4.90m)、梁行2間(3.40m)

／東西棟側柱建物

〔方向〕南側柱列：W-8° -N

〔柱穴〕10か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸30~60cm、短軸20~46cmの略円形・隅丸方形を呈し、深さ14~52cmである。9か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2か所で平面形が直径16~18cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕南側柱列：西から(190) - (150) - (150) cm

東側柱列：北から(170) - (170) cm

〔出土遺物〕P6柱穴抜き取り痕跡からロクロ土師器坏(第25図4)が出土した。このほか、土師器坏などが出土した。

S14 竪穴住居跡 A-A'、B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	焼土小ブロック・炭化物粒・黄褐色ロームブロックを含む(住堀)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(壁材抜)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	暗褐色シルトブロックを多量に含む(壁材掘)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、焼土小ブロックをごく少量含む(P8柱抜)
5	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土(P8柱痕)
6	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む(P8柱掘)
7	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む、焼土小ブロック・炭化物粒を含む(人為・K7堆)
8	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土小ブロックを含む(人為・K7堆)
9	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(P16堆)
10	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む(P5柱掘)
11	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(人為・K2堆)
12	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(竈構)
13	10YR7/6 明黄褐	粘土	黒褐色シルトブロックをごく少量含む(住掘)
14	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(住掘)

S14 竪穴住居跡方マド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土小ブロックを多量に含む、炭化物粒を含む(人為・K11堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	暗褐色シルトブロックをごく少量含む(人為・K11堆)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土小ブロックを多量に含む、炭化物粒を含む(人為・K4堆)
4	7.5YR2/3 暗褐	粘質シルト	焼土小ブロック・白色粘土小ブロック・黄褐色ロームブロックを多量に含む(竈側壁構)
5	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(竈底面構・主断面12層対応)
6	10YR5/8 黄褐	粘質シルト	黒色シルトブロックをごく少量含む(竈底面構・主断面13層対応)

S14 竪穴住居跡 P1a・b F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(P1b柱抜)
2	-	-	(P1b柱痕)
3	-	-	(P1b柱掘)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む(P1a柱抜)

S14 竪穴住居跡 P2a・b G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む、焼土小ブロックをごく少量含む(P1b柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	炭化物粒・焼土粒を含む(P2a柱抜)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む、焼土小ブロックをごく少量含む(P2a柱掘)

S14 竪穴住居跡 P2b H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む、焼土小ブロックをごく少量含む(柱抜)

S14 竪穴住居跡 P3a I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む(柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む(柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
4	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む(柱掘)

S14 竪穴住居跡 P3b J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土(柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱掘)

S14 竪穴住居跡 P4a K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む(柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む(柱掘)

S14 竪穴住居跡 P4b L-L'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む(柱掘)

S14 竪穴住居跡 P5 M-M'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(柱掘)

S14 竪穴住居跡 P6 N-N'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む(柱抜)

S14 竪穴住居跡 K6・P7 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	暗褐色シルトブロックを含む(人為・K6堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む(P7柱抜)

S14 竪穴住居跡 K5 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	暗褐色シルトブロックを含む(人為・K5堆)

S14 竪穴住居跡 壁材痕跡 K4 O-O'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む(壁材抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む、焼土小ブロック・炭化物粒をごく少量含む(人為・K4堆)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む(人為・K4堆)

S14 竪穴住居跡 K1 P-P'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 黒褐	シルト	焼土ブロックを多量に含む、白色粘土ブロックを含む(人為・K1堆)
2	10YR3/4 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む、黒色シルトブロックをごく少量含む(人為・K1堆)

S14 竪穴住居跡 K3・K4 Q-Q'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	暗褐色シルト小ブロックをごく少量含む(人為・K3堆)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む、焼土小ブロック・炭化物粒をごく少量含む(人為・K4堆)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む(人為・K4堆)

S14 竪穴住居跡 K8 R-R'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含み、焼土粒をごく少量含む(人為・K8堆)

S14 竪穴住居跡 K9・K10 S-S'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土ブロック・炭化物粒を含み、黄褐色ロームブロックを少量含む(人為・K9堆)
2	10YR4/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・焼土ブロック・炭化物粒を含む(人為・K9堆)
3	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、焼けた凝灰岩片を含む(人為・K10堆)
4	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(人為・K10堆)

第20図 S14 竪穴住居跡(3)

【SB21 掘立柱建物跡】(第28図、写真図版5・11)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SB21 - SB234・SE63

〔規模・形状〕桁行2間(4.40m)、梁行1間(3.00m)
/南北棟側柱建物

〔方向〕東側柱列:N-27°-E

〔柱穴〕6か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸26~40cm、短軸22~34cmの略円形・隅丸方形を呈し、深さ22~30cmである。3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、3か所で平面形が直径12~14cmの円形を

呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕東側柱列:北から(250)-190cm

南側柱列:300cm

〔出土遺物〕なし

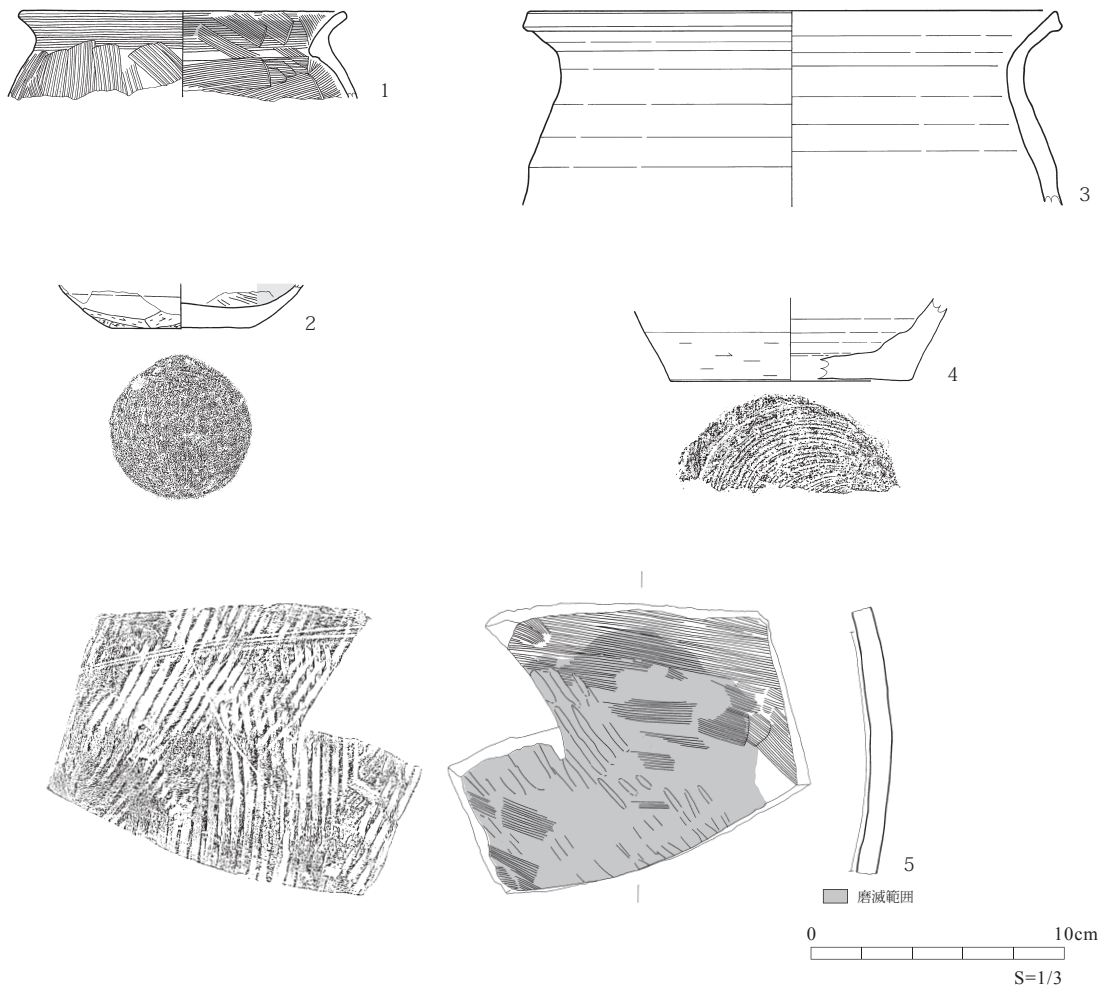
【SB22 掘立柱建物跡】(第29図、写真図版5・11)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SB22 - SB10

〔規模・形状〕桁行2間(3.90m)、梁行1間(170cm)
/張出付東西棟側柱建物/北面張出1間(1.20m)

〔方向〕南側柱列:W-26°-N



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SI4	P1b 抜き取り痕跡	土師器	小型甕	外面:(口)ヨコナデ→(胴)ハケメ 内面:(口)ヨコナデ→ヘラナデ、(胴)ハケメ→ヘラナデ 内面:(口)黒色付着物	(13.0)	-	(3.6)	一部	022	38-1	
2	SI4	住居掘方埋土	ロクロ土師器	坏	外面:(体)ロクロナデ→(底付近)手持ちヘラケズリ、(底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 内面:被熱により黒色処理消失 内外面:橙色(7.5YR6/6)に変色・磨滅著しい	-	(5.5)	(1.7)	一部	019	38-2	
3	SI4	K1 堆積土	ロクロ土師器	甕	内外面:ロクロナデ	(21.4)	-	(7.7)	一部	023	38-4	
4	SI4	P2a 堆積土	ロクロ土師器	甕	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ、(底)回転糸切り→無調整 内面:ロクロナデ	-	(9.4)	(3.3)	一部	020	38-3	
No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
5	SI4	K10 堆積土 1層	転用砥	須恵器 (甕)	砥面数:1 内面を砥面とする 下端・左側:欠損 (外面:平行タタキ→線刻 内面:平行アテ具痕→ナデ)	(14.4)	(11.6)	0.9	(185)	一部	021	38-5

第21図 SI4 竪穴住居跡出土遺物

〔柱穴〕 身舎で6か所、張出で2か所確認した。身舎柱穴掘方の平面形は長軸26~56cm、短軸23~38cmの楕円形を呈し、深さ18~46cmである。6か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2か所で平面形が直径12~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 南側柱列：(190) - (200) cm
東側柱列：(170) cm

〔出土遺物〕 土師器が出土した。

【SB23 掘立柱建物跡】(第29図、写真図版11)

〔位置〕 1区南/平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 桁行2間(5.20m)、梁行1間(2.20m)

以上/南北棟側柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-19° -E

〔柱穴〕 4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸40~44cm、短軸40~44cmの略円形・楕円形を呈し、深さ12~20cmである。1か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、3か所で平面形が直径10~20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、1か所で掘方底面に凝灰岩礫による根石を確認した。

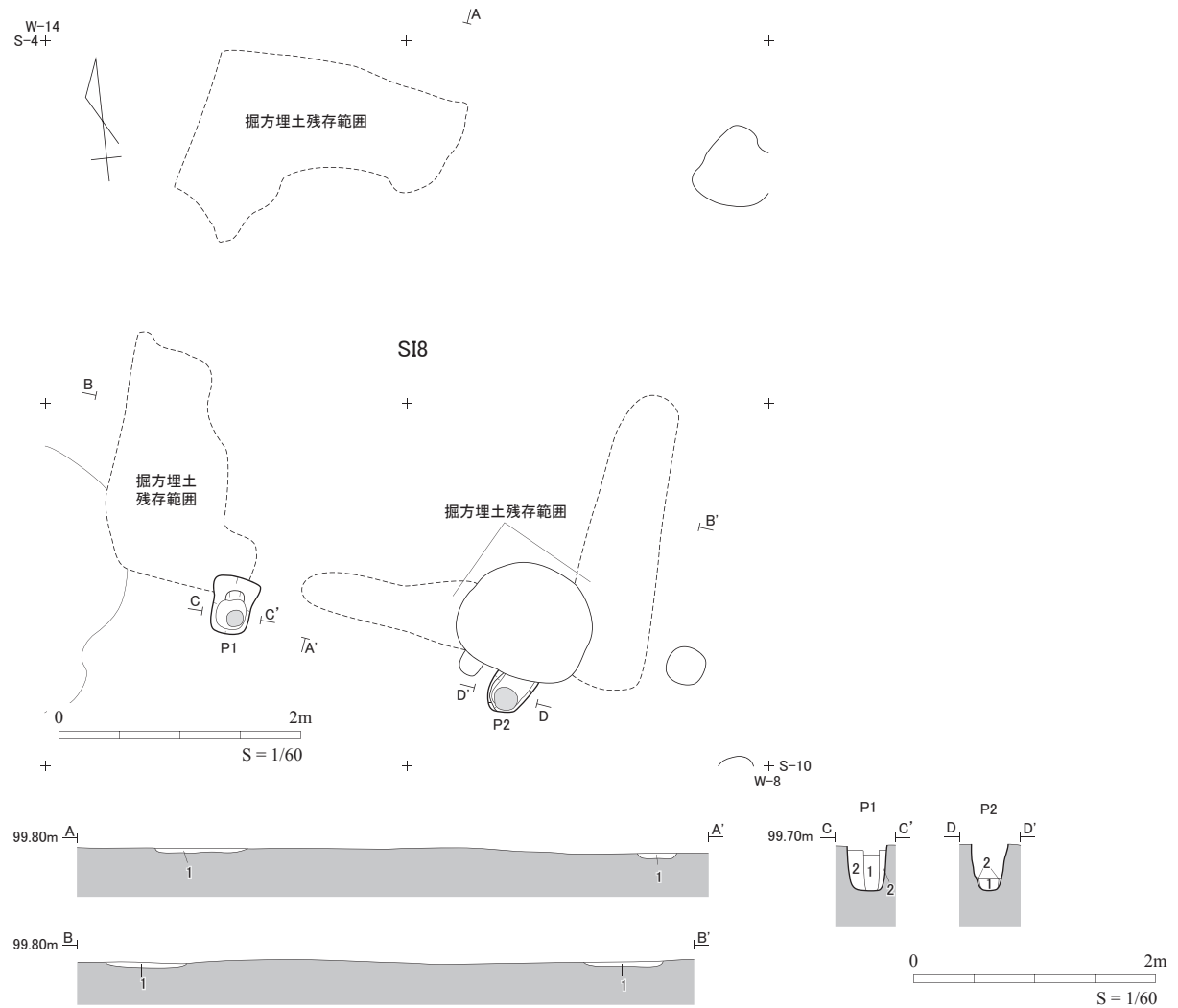
〔柱間寸法〕 東側柱列：北から260- (260) cm
南側柱列：(220) cm

〔出土遺物〕 なし

【SB24 掘立柱建物跡】(第30図、写真図版4・11・12)

〔位置〕 1区南/平坦面

〔重複〕 SI4 → SB24 - SB236



SI8 竪穴住居跡 A-A', B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI8 竪穴住居跡 P1 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI8 竪穴住居跡 P2 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (住掘)

第22図 SI8 竪穴住居跡

〔規模・形状〕桁行3間(5.40m)、梁行2間(3.90m)
／東西棟側柱建物

〔方向〕南側柱列：W-8°-N

〔柱穴〕9か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~50cm、短軸18~30cmの楕円形・隅丸方形を呈し、深さ6~22cmである。9か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕南側柱列：西から(190)-(170)-(180)cm
西側柱列：北から(190)-(180)cm

〔出土遺物〕なし

【SB25 掘立柱建物跡】(第30図、写真図版12)

〔位置〕1区南／平坦面

〔重複〕SB25 - SK58

〔規模・形状〕桁行2間(5.20m)、梁行1間(3.70m)
／東西棟側柱建物

〔方向〕北側柱列：W-28°-N

〔柱穴〕6か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~26cm、短軸12~20cmの略円形・楕円形・隅丸方形を呈し、深さ10~20cmである。6か所で平面形が

直径10~14cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から254~266cm

東側柱列：370cm

〔出土遺物〕なし

【SB26 掘立柱建物跡】(第31図、写真図版5・12)

〔位置〕1区南／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕桁行1間(2.94m)、梁行1間(2.80m)
／側柱建物

〔方向〕南側柱列：W-0°

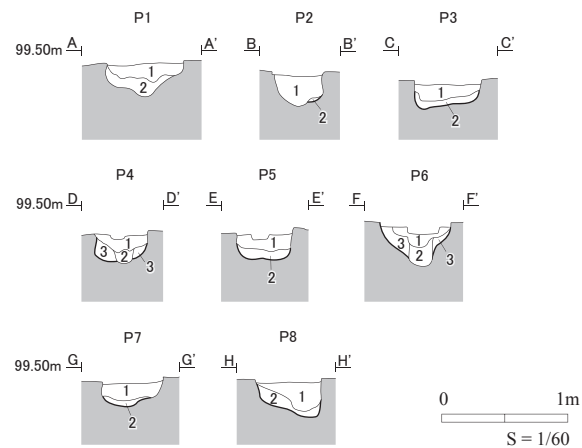
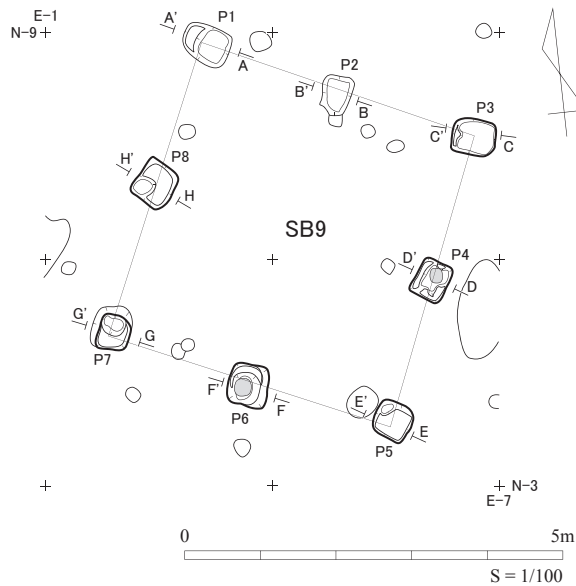
〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸30~34cm、短軸24~32cmの略円形・楕円形を呈し、深さ10~20cmである。3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、1か所で平面形が直径18cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕南側柱列：(294)cm、東側柱列：(280)cm

〔出土遺物〕なし

【SB28 掘立柱建物跡】(第31図、写真図版4・12)

〔位置〕1区南／平坦面



SB9 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・粒をごく少量含む (柱抜)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を多量に含む (柱抜)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

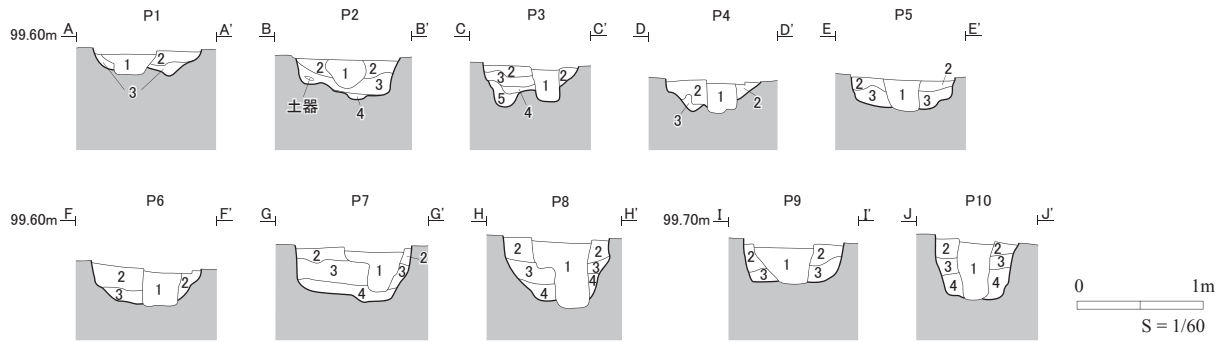
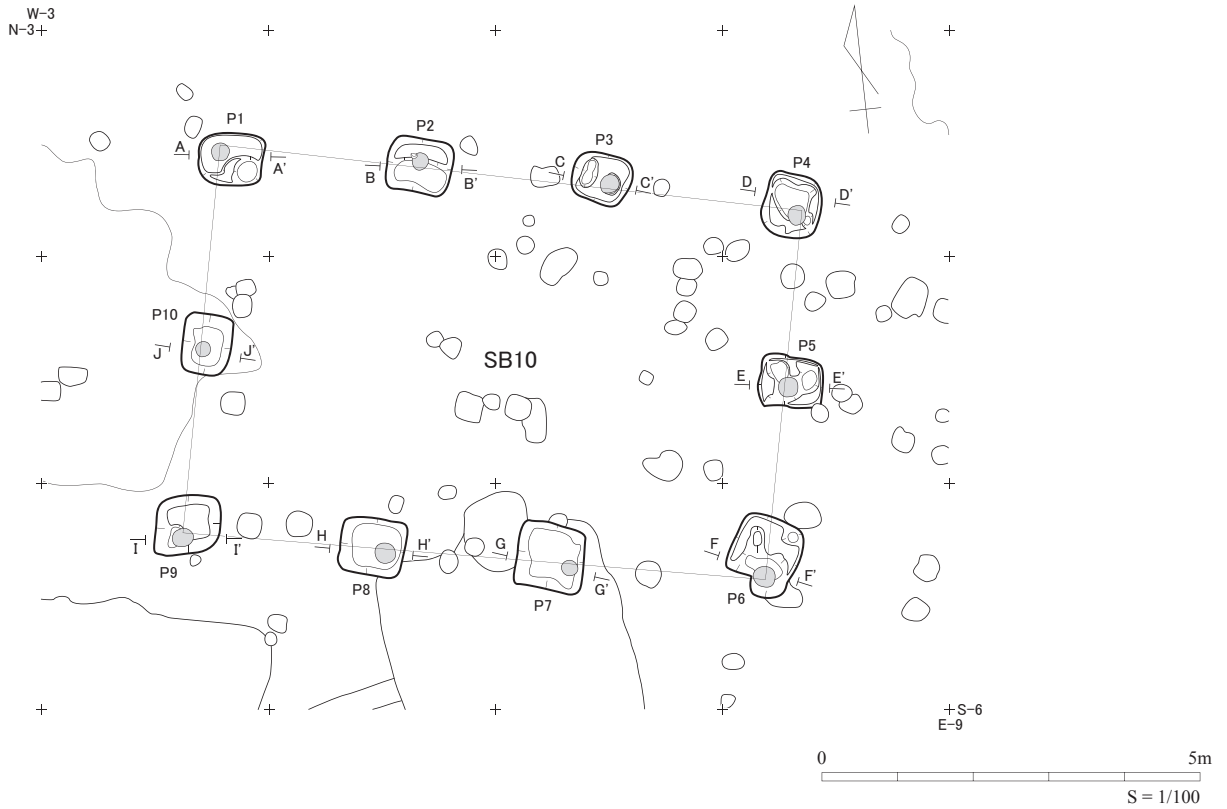
SB9 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB9 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

第23図 SB9 掘立柱建物跡



SB10 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	2.5Y3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	焼土ブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
4	2.5Y3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱掘)
5	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (柱掘)
3	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む (柱掘)
4	2.5Y3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P9 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱抜)
2	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱掘)
3	2.5Y3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB10 掘立柱建物跡 P10 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
3	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、白色粘土粒を少量含む (柱掘)
4	2.5Y3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む、白色粘土粒を少量含む (柱掘)

第24図 SB10 掘立柱建物跡

〔重複〕 SB28 - SB237

〔規模・形状〕 桁行1間 (2.90m)、梁行1間 (1.70m) 以上／側柱建物

〔方向〕 北側柱列：W-12° -N

〔柱穴〕 3か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸36~40cm、短軸24~38cmの隅丸方形・楕円形を呈し、深さ10~24cmである。2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、1か所で平面形が直径16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列：(290) cm、東側柱列：(170) cm

〔出土遺物〕 土師器、須恵器が出土した。

【SB30 掘立柱建物跡】 (第32図、写真図版4・12)

〔位置〕 1区南／平坦面

〔重複〕 SI4 → SB30 → SB229

〔規模・形状〕 桁行2間 (4.70m)、梁行2間 (4.30m) 東西棟側柱建物

〔方向〕 北側柱列：W-12° -N

〔柱穴〕 7か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~48cm、短軸14~36cmの略円形・楕円形を呈し、深さ18~36cmである。すべての柱穴で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列：西から (220) - (250) cm

西側柱列：北から (230) - (200) cm

〔出土遺物〕 土師器、ロクロ土師器が出土した。

【SB229 掘立柱建物跡】 (第31図、写真図版3・12)

〔位置〕 1区南／平坦面

〔重複〕 SI4 → SB30 → SB229 - SB10・SA240

〔規模・形状〕 桁行2間 (3.08m)、梁行2間 (2.88m) 南北棟総柱建物

〔方向〕 西側柱列：N-15° -E

〔柱穴〕 8か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸28~54cm、短軸27~48cmの楕円形・隅丸方形を呈し、深さ13~25cmである。4か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2か所で掘方底面に平面形が直径12~13cmの円形を呈する柱材圧痕を確認した。また、5か所で平面形が直径14~20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 西側柱列：北から 162-146cm

北側柱列：西から (140) - (140) cm

〔出土遺物〕 ロクロ土師器が出土した。

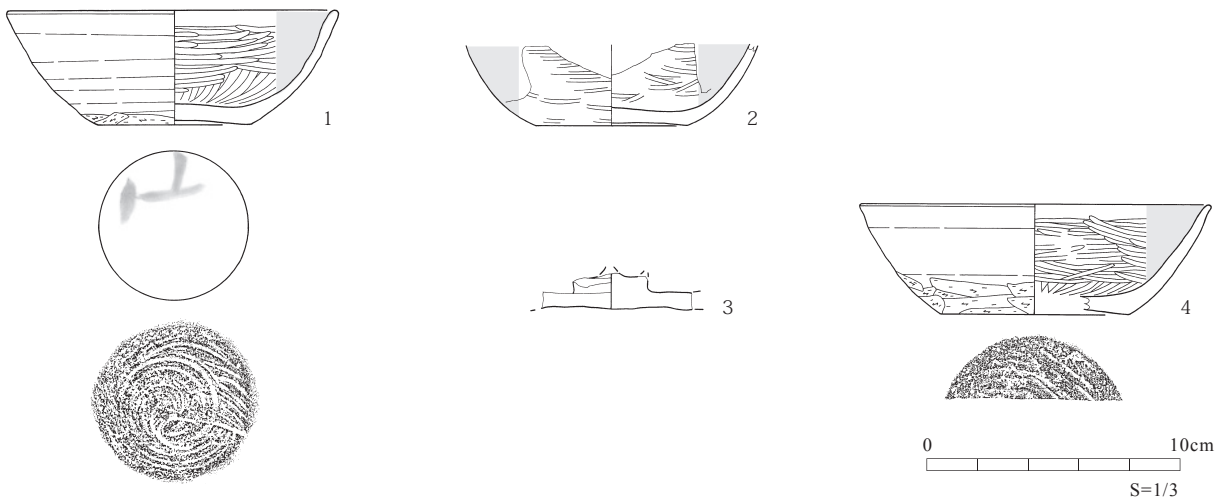
【SB230 掘立柱建物跡】 (第32図、写真図版4・12)

〔位置〕 1区南／平坦面

〔重複〕 SI2・SK65 → SB230

〔規模・形状〕 桁行2間 (3.51m)、梁行1間 (2.28m)

南北棟側柱建物



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SB10	P8 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(底) 墨書「□」	13.2	6.0	4.5	1/2	064	38-8
2	SB10	P2 採取痕跡	ロクロ土師器	坏	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 外面：(底) 底切り離し不明→ヘラミガキ→黒色処理	-	(6.0)	(3.2)	一部	065	38-9
3	SB15	P6 掘方埋土	須恵器	蓋	内外面：ロクロナデ つまみ部径 (3.0) cm 坏蓋	-	-	(1.4)	一部	066	38-7
4	SB20	P6 採取痕跡	ロクロ土師器	坏	外面：(体) ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	(7.4)	4.4	1/3	067	38-6

第25図 SB10・15・20 掘立柱建物跡出土遺物

〔方向〕 東側柱列：N-11° -W

〔柱穴〕 6か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸26~32cm、短軸23~28cmの楕円形を呈し、深さ18~46cmである。2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2か所で平面形が直径14~17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：北から (141) - (210) cm
北側柱列：(228) cm

〔出土遺物〕 なし

【SB231 掘立柱建物跡】 (第33図、写真図版5)

〔位置〕 1区南／平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 桁行2間 (4.92m)、梁行1間 (1.56m)

／南北棟側柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-38° -E

〔柱穴〕 5か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~26cm、短軸19~25cmの円形・楕円形を呈し、深さ14~37cmである。5か所で平面形が直径12~20cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：北から 248-244cm
南側柱列：156cm

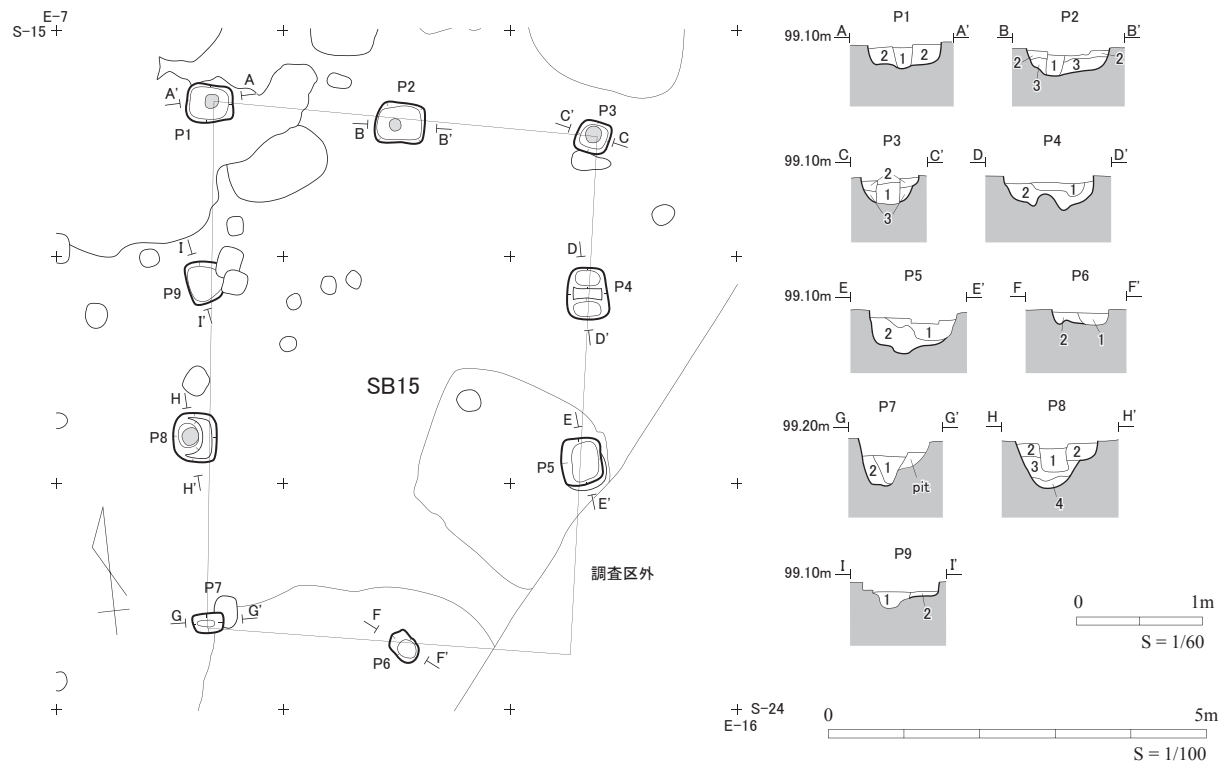
〔出土遺物〕 なし

【SB234 掘立柱建物跡】 (第33図、写真図版5・12)

〔位置〕 1区南／平坦面

〔重複〕 SB234 - SB21

〔規模・形状〕 桁行1間 (3.86m)、梁行2間 (3.54m)



SB15 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)
3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム大ブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム大ブロック・粒を含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

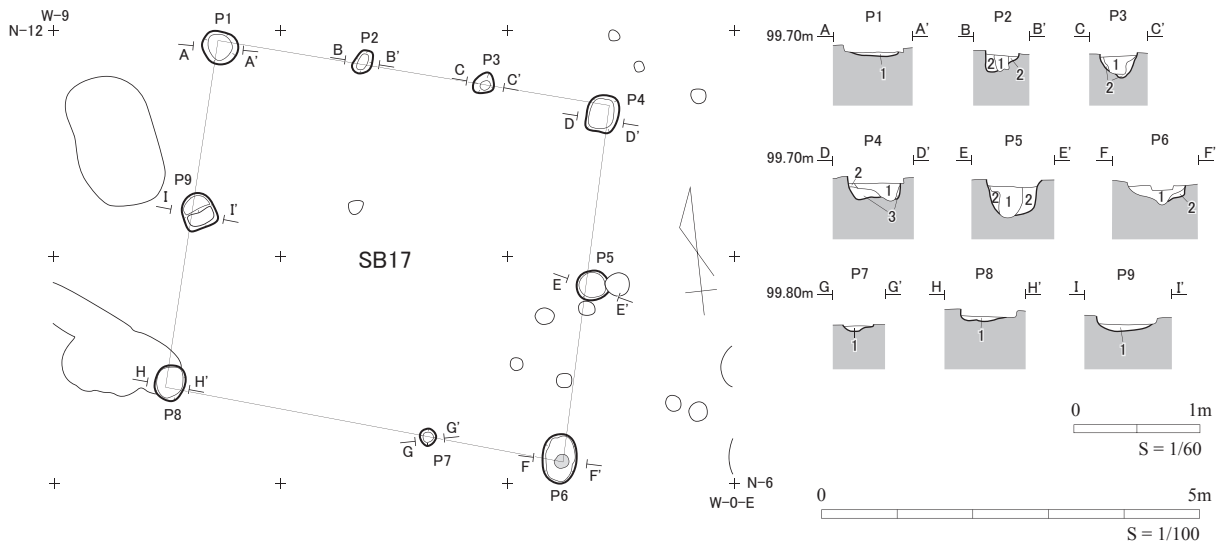
SB15 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB15 掘立柱建物跡 P9 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第26図 SB15 掘立柱建物跡



SB17 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を多量に含む (柱拔)

SB17 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を含む (柱拔)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを中央部に多量に含み、白色粘土粒を含む (柱拔)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱拔)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱拔)
2	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱拔)
2	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P7 G-G'

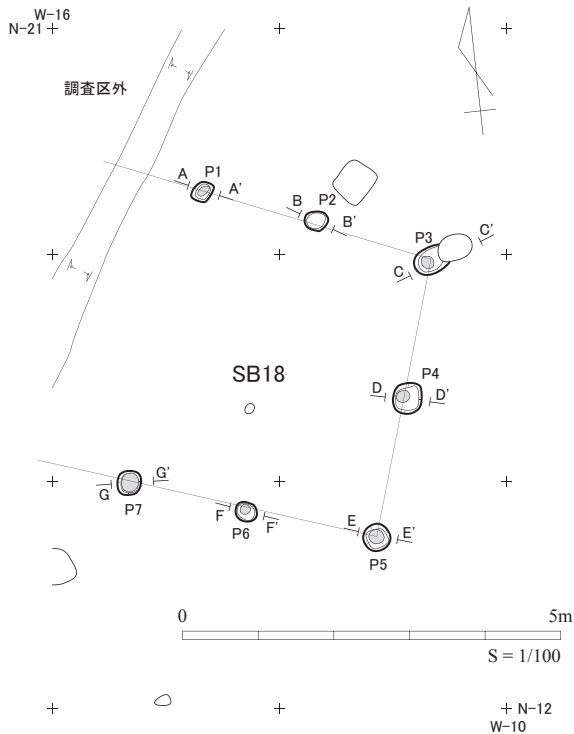
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SB17 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱拔)

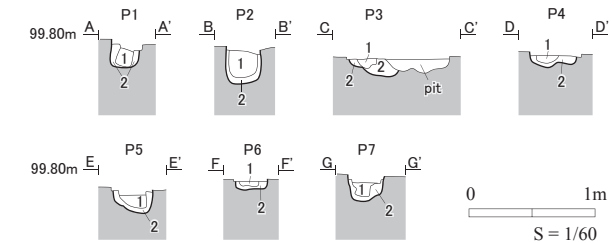
SB17 掘立柱建物跡 P9 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱拔)



SB18 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)



SB18 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を少量含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含み、白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB18 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含み、白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB18 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB18 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

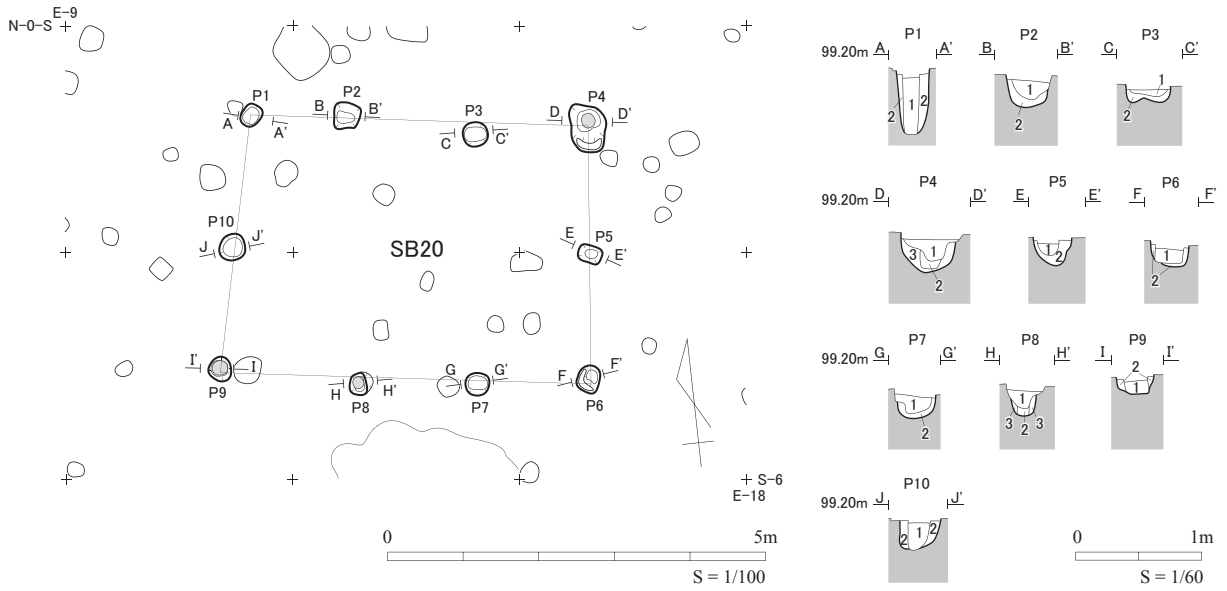
SB18 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB18 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (柱痕)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第27図 SB17・18 掘立柱建物跡



SB20 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/3 極暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	7.5YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P9 I-I'

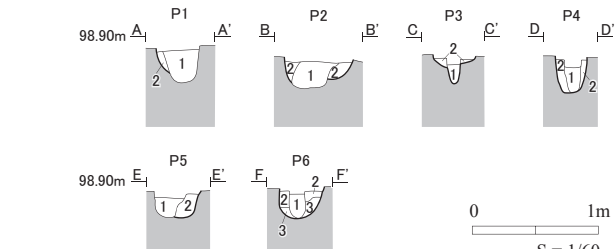
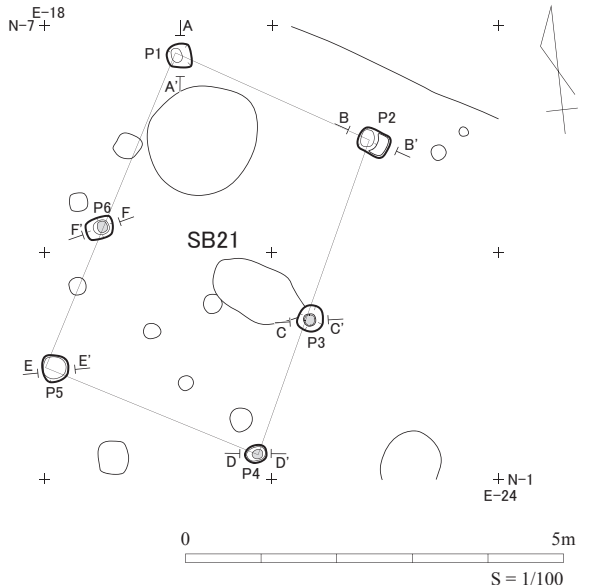
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P10 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB21 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	5Y3/1 オリーブ黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR5/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

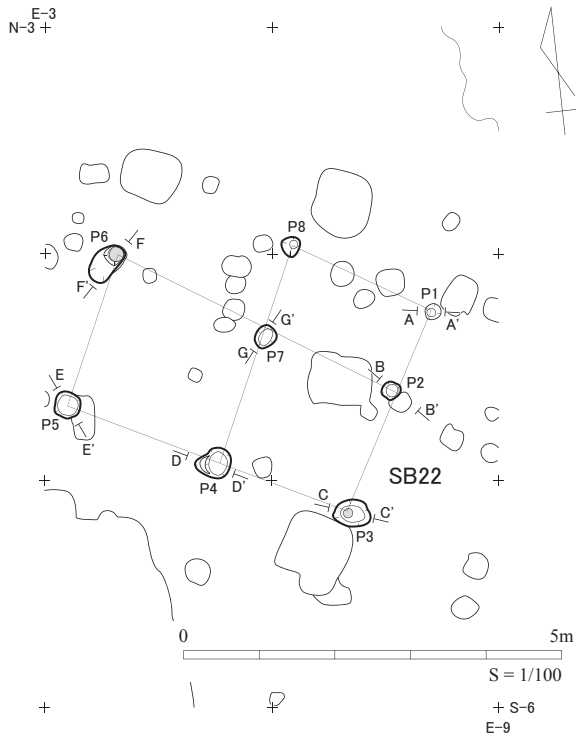
SB21 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第28図 SB20・21 掘立柱建物跡

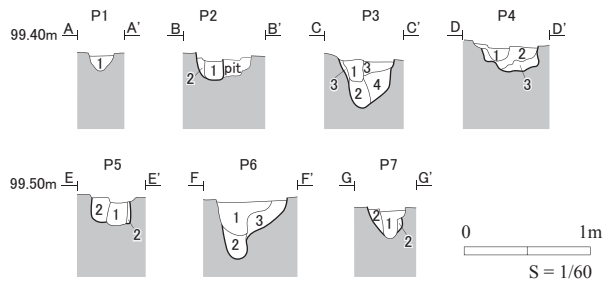


SB22 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を少量含む (柱抜)

SB22 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量、炭化物粒をごく少量含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SB22 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む、白色粘土ブロックをごく少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)
4	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む、白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

SB22 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB22 掘立柱建物跡 P5 E-E'

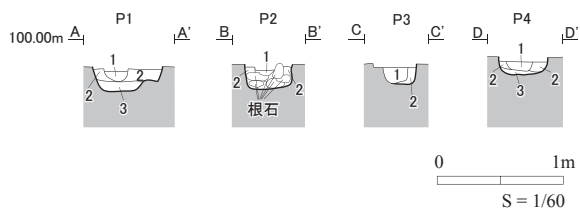
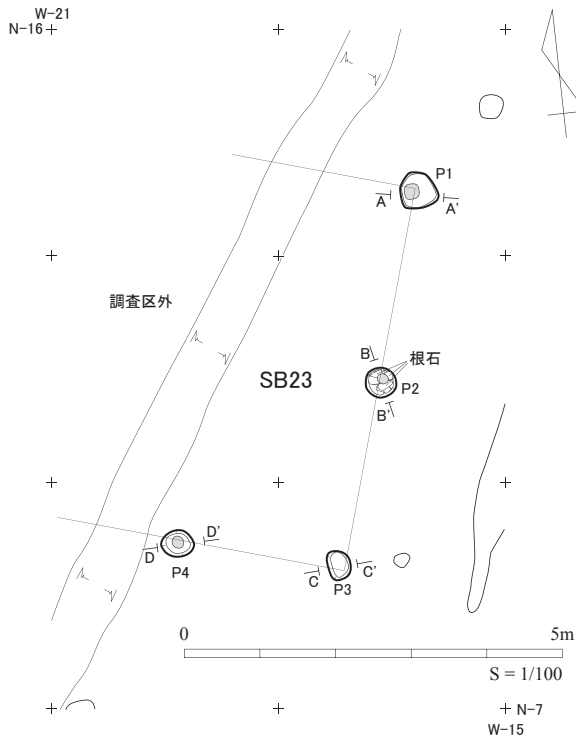
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB22 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB22 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SB23 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱掘)

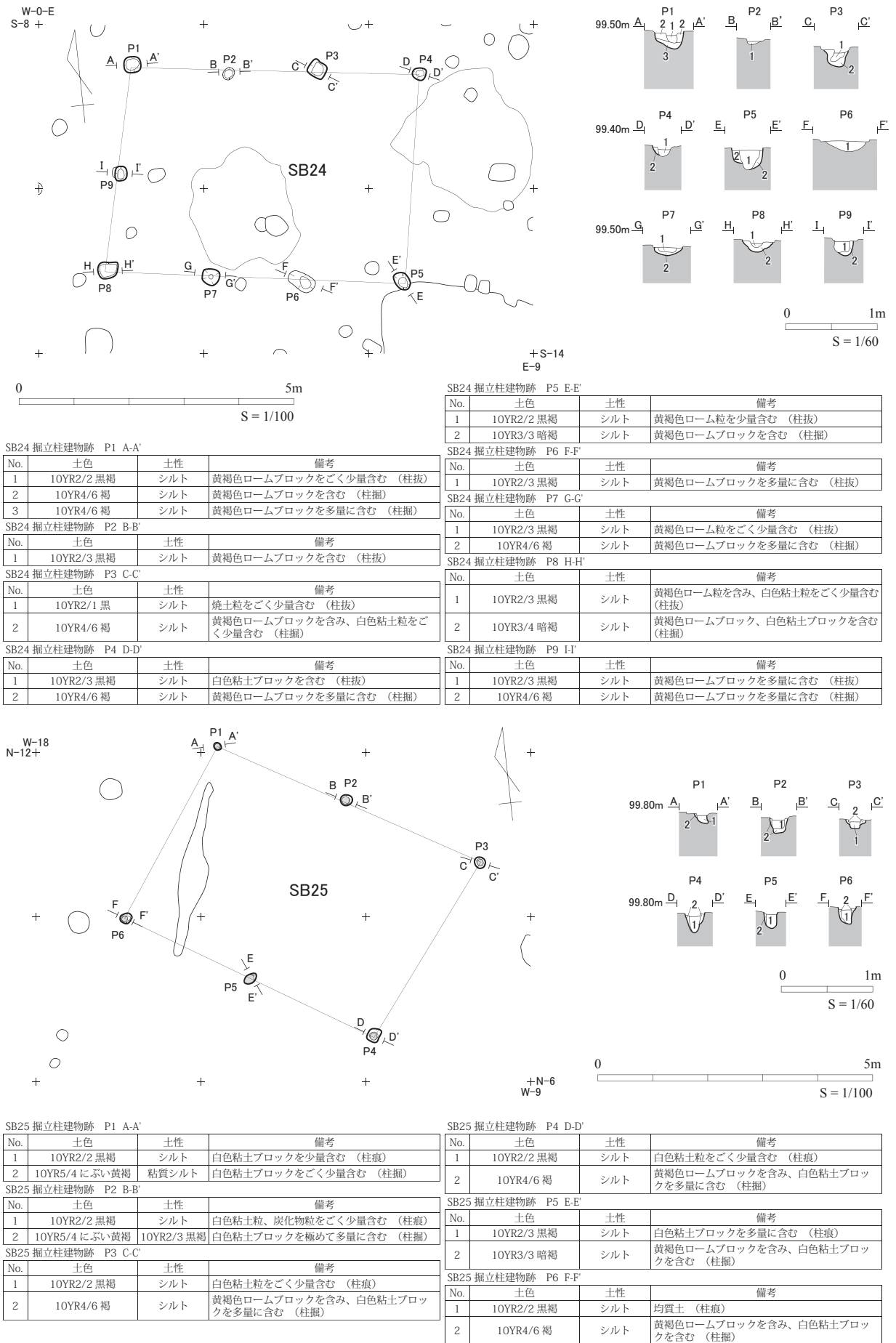
SB23 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

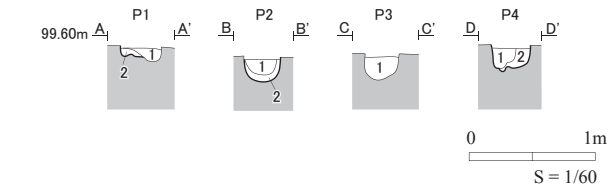
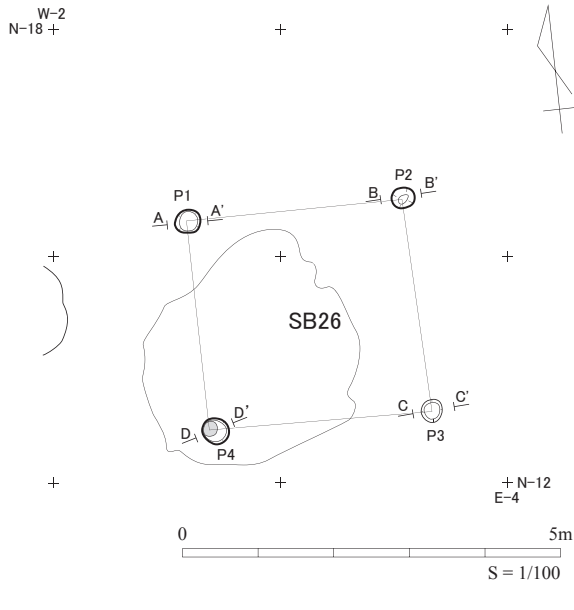
SB23 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

第29図 SB22・23 掘立柱建物跡



第30図 SB24・25 掘立柱建物跡



SB26 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB26 掘立柱建物跡 P2 B-B'

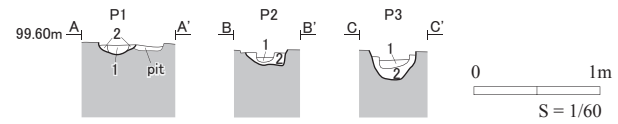
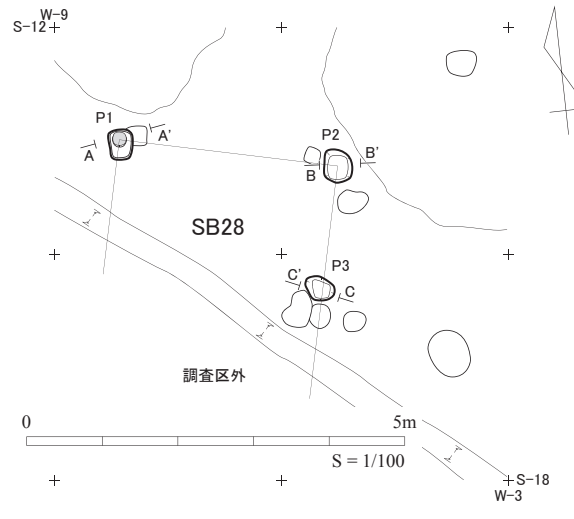
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含み、白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB26 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックをごく少量含む (柱抜)

SB26 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)



SB28 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	砂粒を含む (柱痕)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	砂粒を多量に含む (柱掘)

SB28 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB28 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB229 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB229 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB229 掘立柱建物跡 P4 C-C'

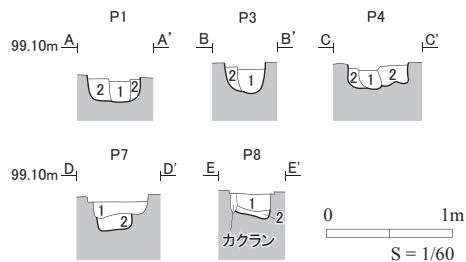
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック、焼土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む、焼土粒を少量含む (柱掘)

SB229 掘立柱建物跡 P7 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB229 掘立柱建物跡 P8 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)



第31図 SB26・28・229 掘立柱建物跡

／南北棟側柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-15° -W

〔柱穴〕 6か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸23~33cm、短軸21~32cmの略円形・隅丸方形を呈し、深さ18~34cmである。4か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：(386) cm

北側柱列：西から(163) - (191) cm

〔出土遺物〕 なし

【SB235 掘立柱建物跡】 (第34図、写真図版3・4)

〔位置〕 1区南／平坦面

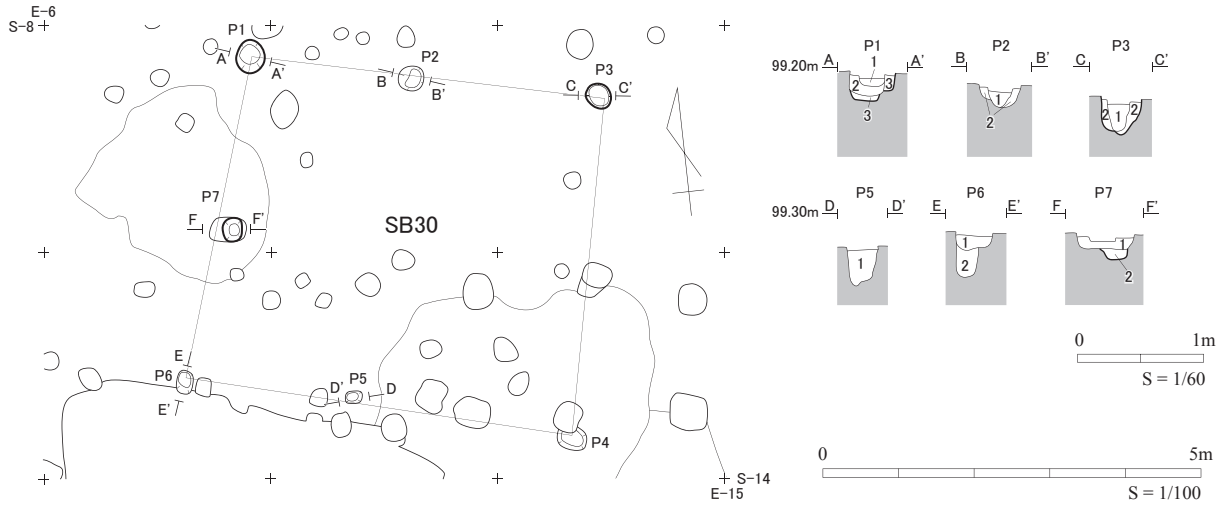
〔重複〕 SI4 → SB235

〔規模・形状〕 桁行1間(1.84m)、梁行1間(1.60m)

／側柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-4° -E

〔柱穴〕 4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸



SB30 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
3	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB30 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)

SB30 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB30 掘立柱建物跡 P5 D-D'

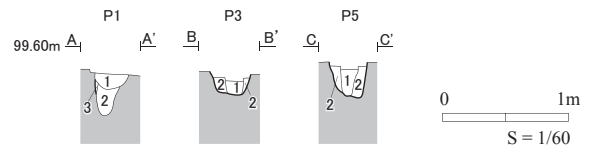
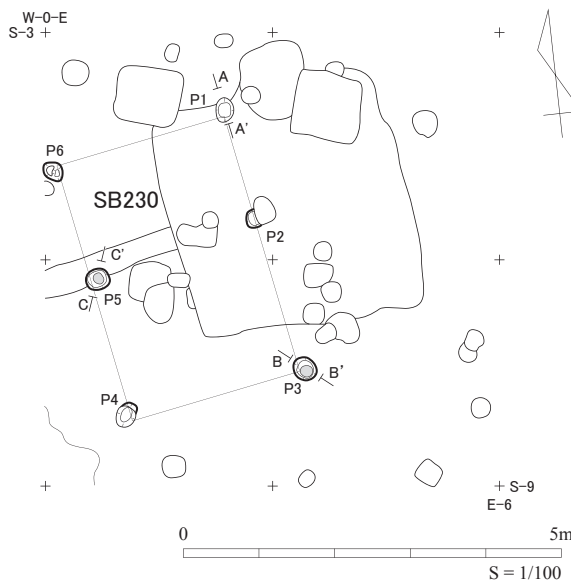
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)

SB30 掘立柱建物跡 P6 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)

SB30 掘立柱建物跡 P7 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	砂粒を含む (柱掘)



SB230 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、白色粘土ブロックを含む (柱掘)

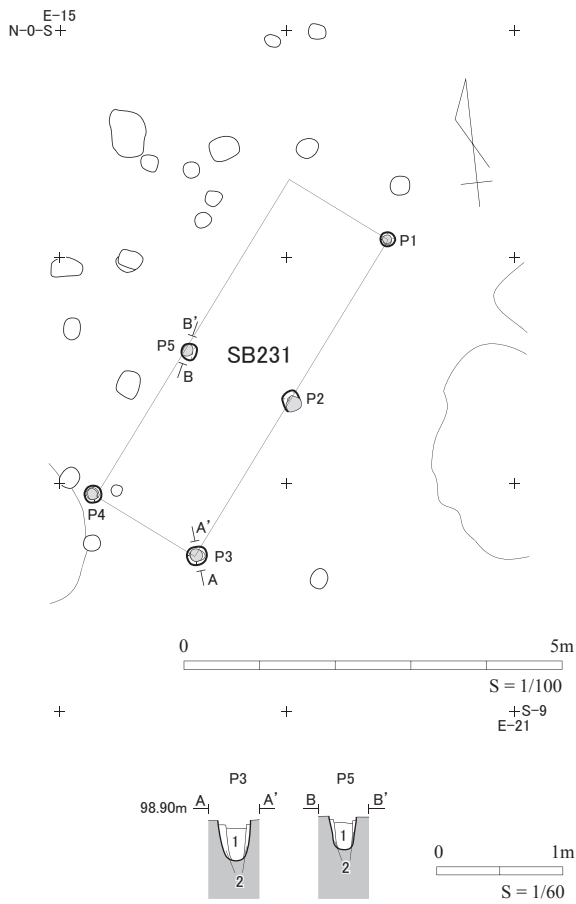
SB230 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB230 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第32図 SB30・230 掘立柱建物跡

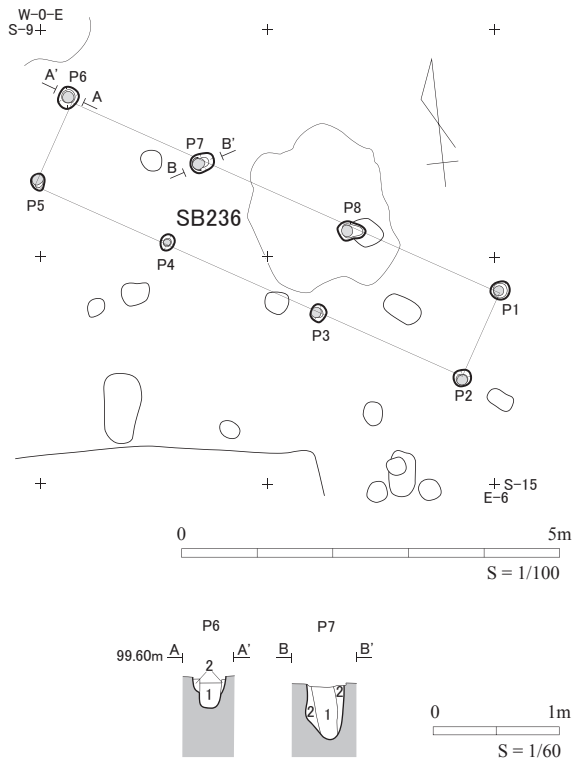


SB231 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB231 掘立柱建物跡 P5 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

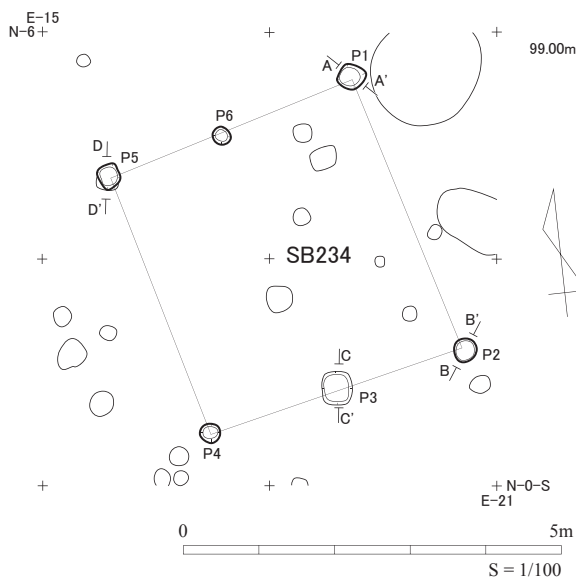


SB236 掘立柱建物跡 P6 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB236 掘立柱建物跡 P7 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む、白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)



SB234 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB234 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックをごく少量含む (柱掘)

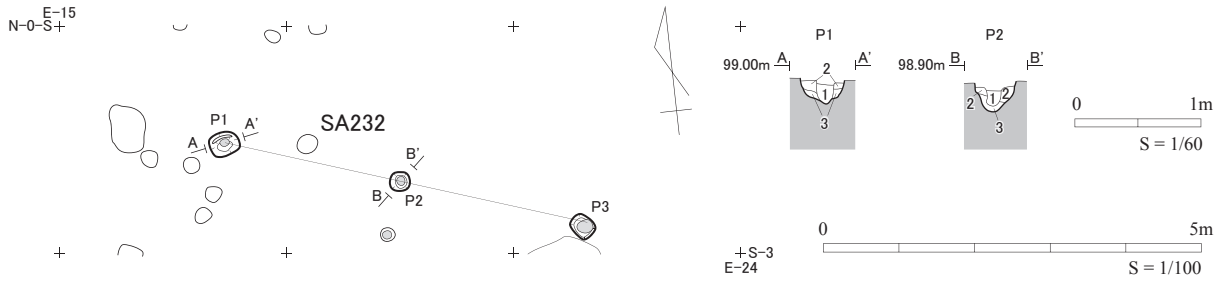
SB234 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	均質土 (柱痕)
3	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB234 掘立柱建物跡 P5 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含み、白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

第33図 SB231・234・236 掘立柱建物跡

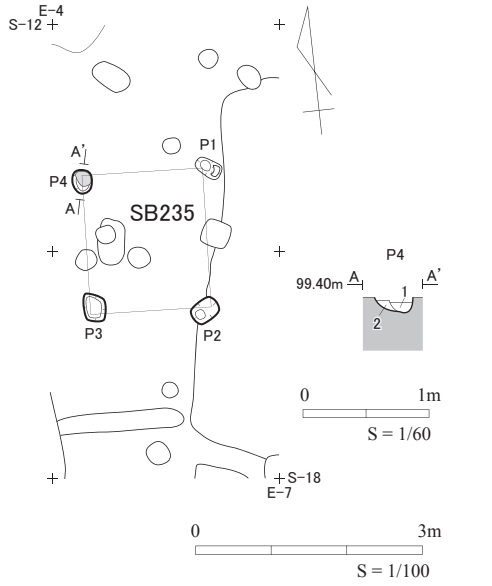


SA232 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	2.5Y2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	2.5Y2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)
3	2.5Y3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

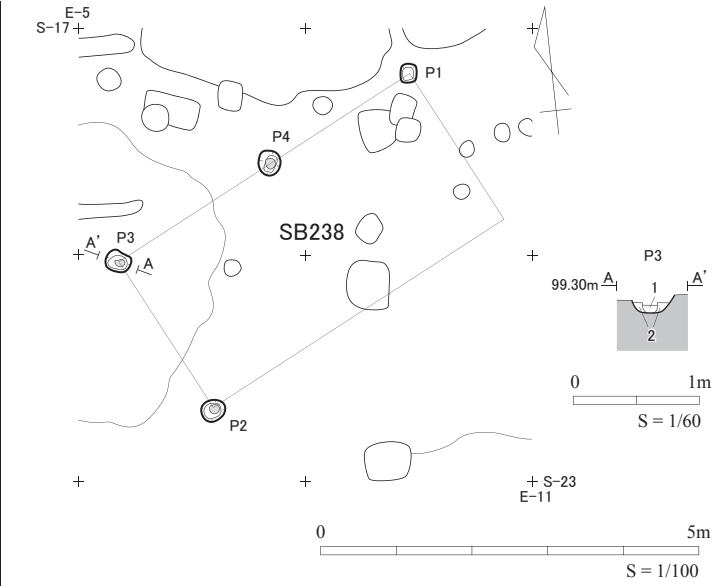
SA232 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)



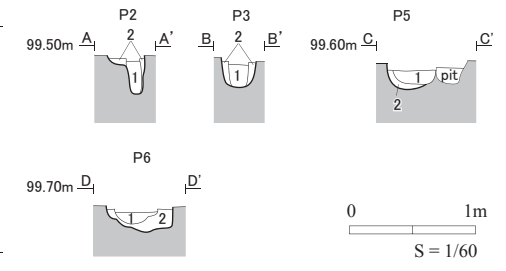
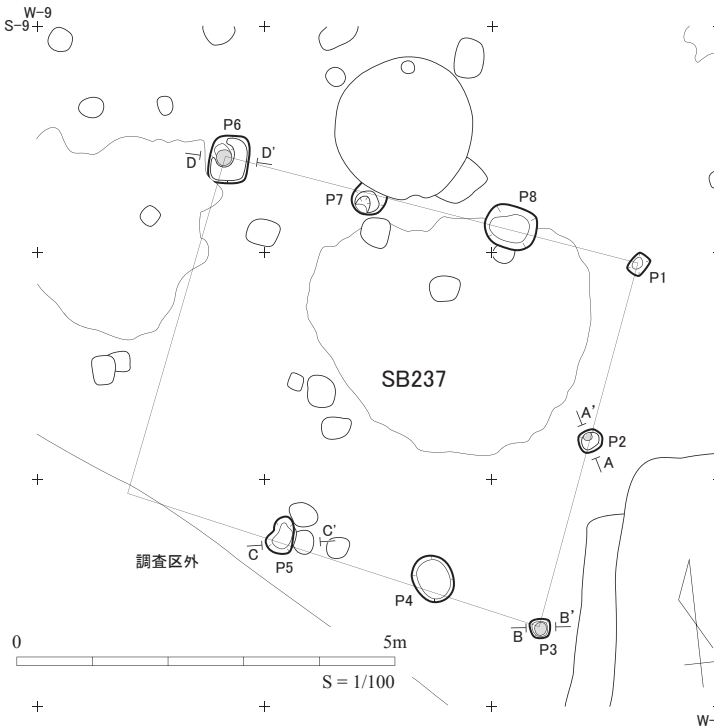
SB235 掘立柱建物跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB238 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB237 掘立柱建物跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB237 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB237 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB237 掘立柱建物跡 P6 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ローム大ブロックを多量に含む (柱掘)

第34図 SB235・237・238 掘立柱建物跡、SA232 柱列跡

32~36cm、短軸 26~28cm の楕円形・隅丸方形を呈し、深さ 13~35cm である。2 か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、1 か所で平面形が直径 22cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：(184) cm、北側柱列：(160) cm

〔出土遺物〕 なし

【SB236 掘立柱建物跡】(第 33 図、写真図版 4・12)

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SB236 - SB24

〔規模・形状〕 桁行 3 間 (6.20m)、梁行 1 間 (1.20m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕 北側柱列：W-30° -N

〔柱穴〕 8 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸

20~37cm、短軸 16~25cm の略円形・楕円形を呈し、深さ 13~46cm である。8 か所で平面形が直径 9~16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列：西から 188-212-220cm

東側柱列：120cm

〔出土遺物〕 なし

【SB237 掘立柱建物跡】(第 34 図写真図版 4・12)

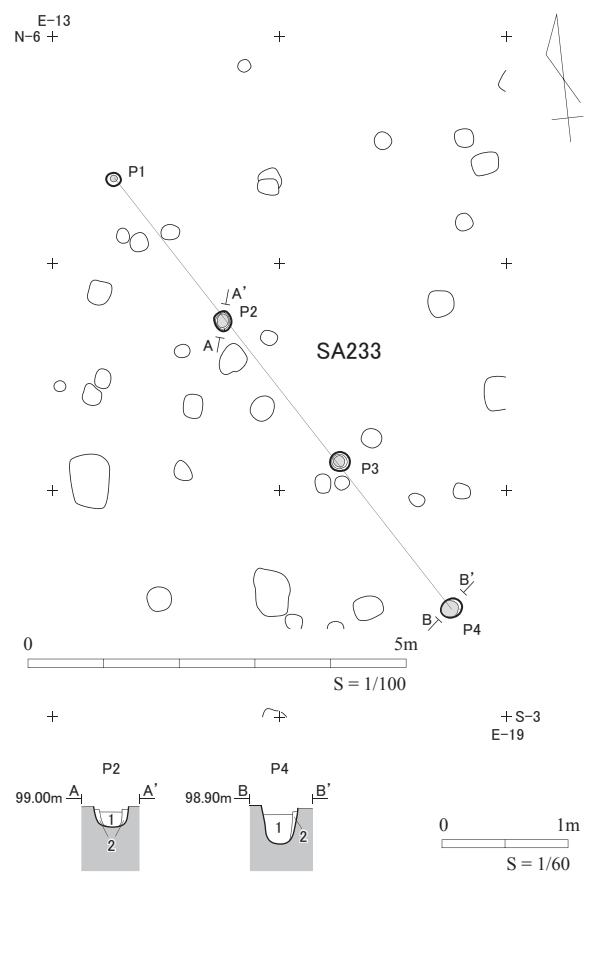
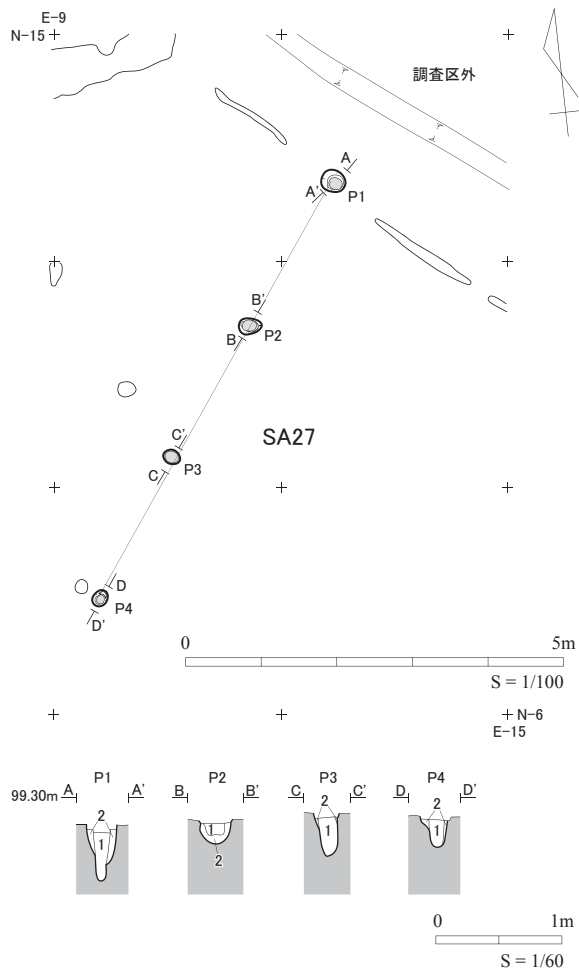
〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SB237 → SX13 - SB28

〔規模・形状〕 桁行 3 間 (5.66m)、梁行 2 間 (4.96m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕 東側柱列：W-21° -N

〔柱穴〕 8 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸



SA27 柱列跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)
2	2.5Y3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SA27 柱列跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SA27 柱列跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SA233 柱列跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA233 柱列跡 P2 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA233 柱列跡 P4 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第 35 図 SA27・233 柱列跡

28~68cm、短軸 22~57cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 14~33cm である。2 か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2 か所で平面形が直径 12~17cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列：西から (202) - (196) - (168) cm
東側柱列：北から (236) - 260cm

〔出土遺物〕 土師器・須恵器小型品が出土した。

【SB238 掘立柱建物跡】 (第 34 図、写真図版 3)

〔位置〕 1 区南 / 平坦面

〔重複〕 SB238 - SI4・SB15

〔規模・形状〕 桁行 2 間 (4.60m)、梁行 1 間 (2.32m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕 西側柱列：W-27° -S

〔柱穴〕 4 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 26~34cm、短軸 21~28cm の楕円形・隅丸方形を呈し、深さ 14~17cm である。3 か所で平面形が直径 13~14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列：西から 240- (220) cm
西側柱列：232cm

〔出土遺物〕 土師器杯・甕、ロクロ土師器杯が出土した。

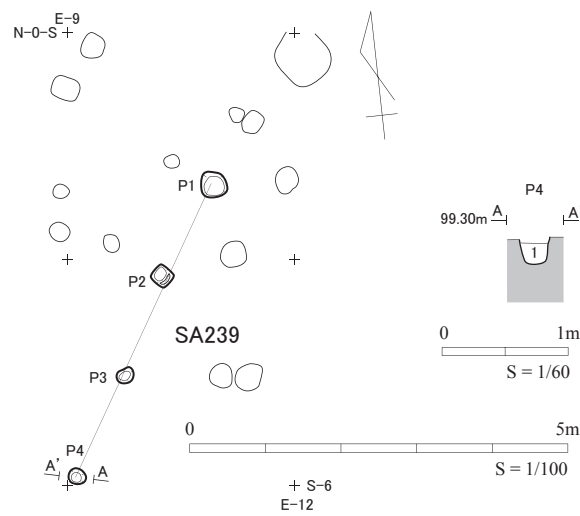
(3) 柱列跡

【SA27 柱列跡】 (第 35 図、写真図版 5・12)

〔位置〕 1 区南 / 平坦面

〔重複〕 SA27 - SD64

〔規模・形状〕 南北 3 間 (6.30m)



SA239 柱列跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA240 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA240 柱列跡 P4 B-B'

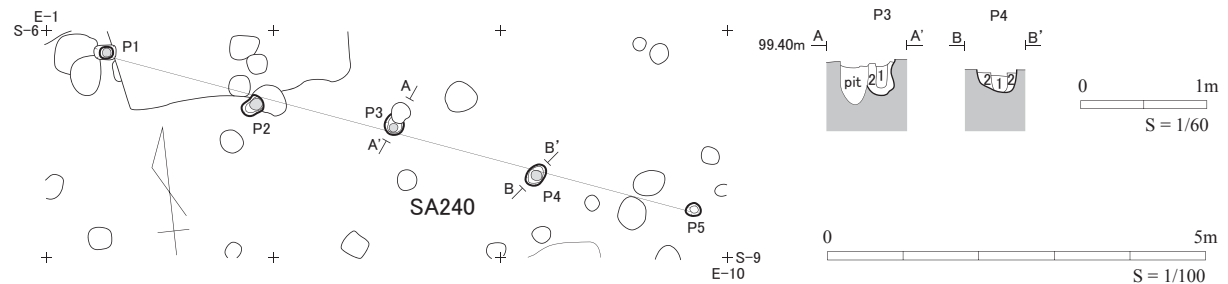
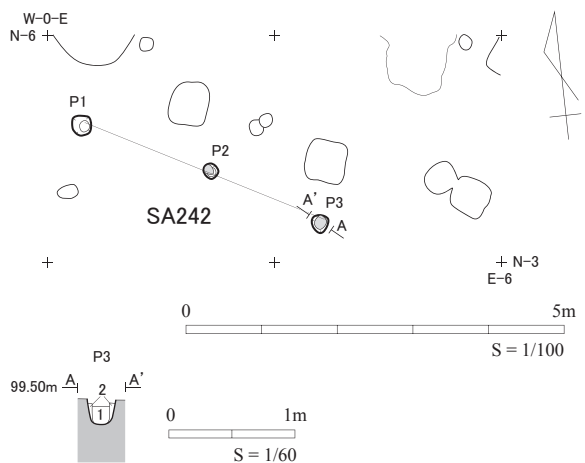
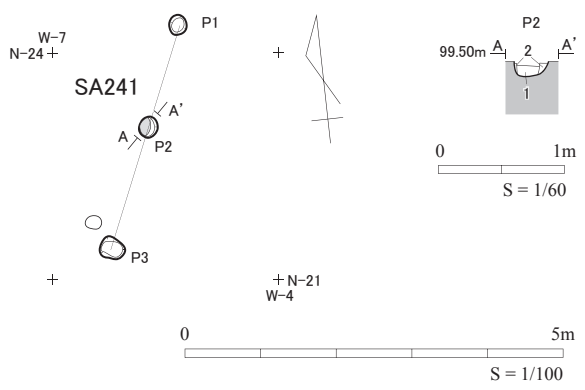
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA241 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SA242 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



第 36 図 SA239~242 柱列跡

〔方向〕 N-37° -E

〔柱穴〕 4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸22~32cm、短軸16~29cmの略円形・楕円形を呈し、深さ20~40cmである。4か所で平面形が直径14~18cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北から220-200-210cm

〔出土遺物〕 なし

【SA232 柱列跡】 (第34図、写真図版5・12)

〔位置〕 1区南/平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 東西2間 (4.88m)

〔方向〕 W-19° -N

〔柱穴〕 3か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸26~38cm、短軸25~32cmの隅丸方形を基調とし、深さ14~26cmである。3か所で平面形が直径11~21cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 西から238-250cm

〔出土遺物〕 なし

【SA233 柱列跡】 (第35図、写真図版5・42)

〔位置〕 1区南/平坦面

〔重複〕 なし

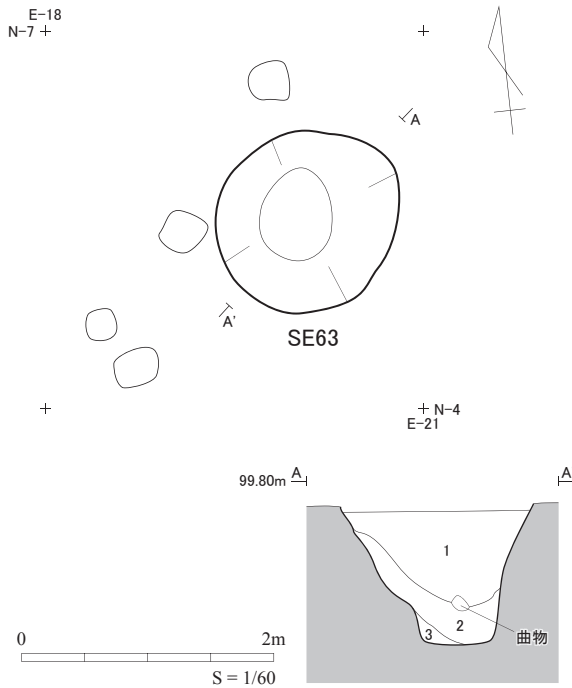
〔規模・形状〕 南北3間 (7.24m)

〔方向〕 N-32° -W

〔柱穴〕 4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸18~30cm、短軸18~25cmの略円形・楕円形を呈し、深さ17~30cmである。4か所で平面形が直径10~24cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、P1柱穴の掘方底面に平面形が一辺4cmの方形を呈し、下端が杭状に加工された柱材の一部 (写真図版42-9) が残存していた。

〔柱間寸法〕 北から238-240-246cm

〔出土遺物〕 土師器が出土した。

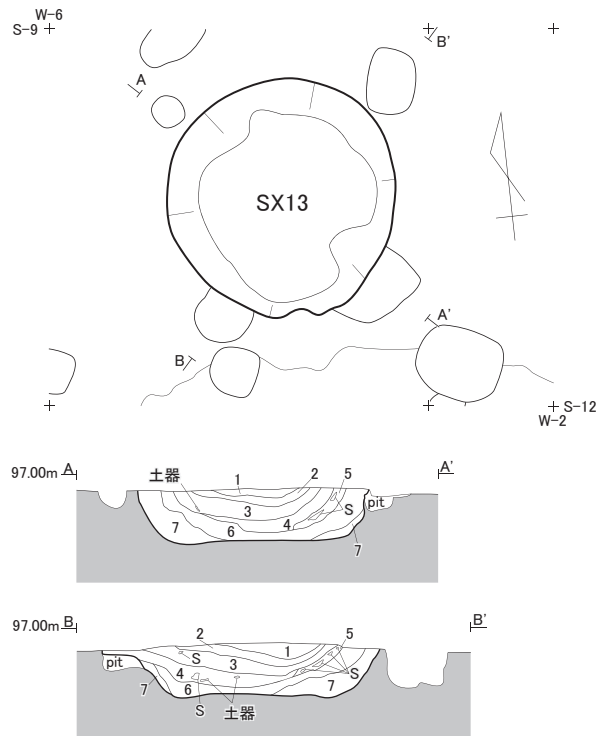


SE63 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (人為)
2	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、礫を少量含む (人為)
3	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)

SX13 廃棄土坑 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、焼土ブロック・粒、炭化物粒を少量含む (人為)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に焼土ブロックをごく少量含み、炭化物粒を含む (人為)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒、焼土粒を少量含み、炭化物粒をごく少量含む (人為)



No.	土色	土性	備考
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含み、焼土粒、炭化物粒を多量に含む (人為)
5	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土ブロック・粒、被熱により赤色化した石を多量に含み、炭化物粒を含む (人為)
6	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含み、焼土粒・炭化物片、骨片を含む (人為)
7	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、黄褐色ローム粒を多量に含む 骨片出土 (人為)

第37図 SE63 井戸跡、SX13 廃棄土坑

【SA239 柱列跡】(第36図)

〔位置〕1区南／平坦面
 〔重複〕なし
 〔規模・形状〕南北3間(4.25m)
 〔方向〕N-32°-E
 〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸23~34cm、短軸20~33cmの略円形・隅丸方形を呈し、深さ14~28cmである。2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北から(137)-(140)-(148)cm
 〔出土遺物〕土師器が出土した。

【SA240 柱列跡】(第36図、写真図版4・12)

〔位置〕1区南／平坦面
 〔重複〕SI2 → SA240 - SB30・SB230
 〔規模・形状〕東西4間(7.68m)
 〔方向〕W-20°-N
 〔柱穴〕5か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸18~32cm、短軸16~24cmの円形・楕円形・隅丸方形を呈し、深さ18~30cmである。1か所で柱材の抜き取り痕跡、4か所で平面形が直径13~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から208-182-164-(214)cm
 〔出土遺物〕なし

【SA241 柱列跡】(第36図、写真図版5)

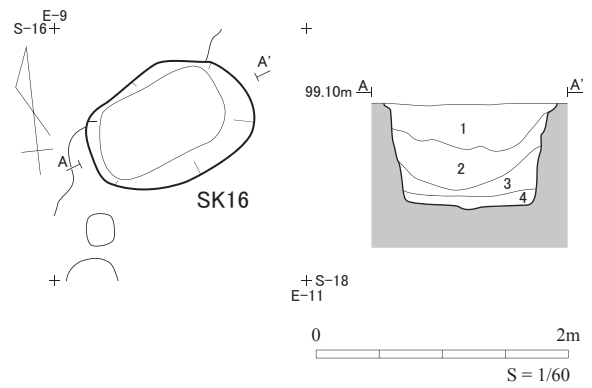
〔位置〕1区南／平坦面
 〔重複〕なし
 〔規模・形状〕南北2間(3.08m)
 〔方向〕N-24°-E
 〔柱穴〕3か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸25~33cm、短軸24~27cmの円形・不整楕円形を呈し、深さ8~21cmである。1か所で平面形が長軸26cm、短軸14cmの楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北から(140)-(168)cm
 〔出土遺物〕なし

【SA242 柱列跡】(第36図、写真図版5)

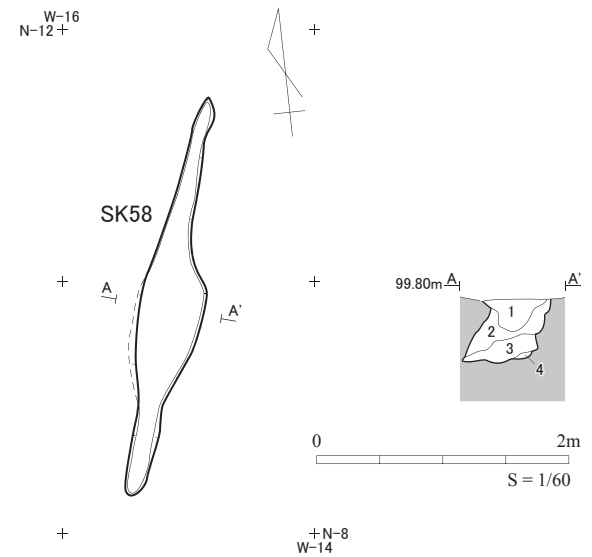
〔位置〕1区南／平坦面
 〔重複〕なし
 〔規模・形状〕東西2間(3.40m)
 〔方向〕W-29°-N
 〔柱穴〕3か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~27cm、短軸17~25cmの略円形・隅丸方形を呈し、深さ12~26cmである。2か所で平面形が直径15~17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から(176)-164cm
 〔出土遺物〕なし



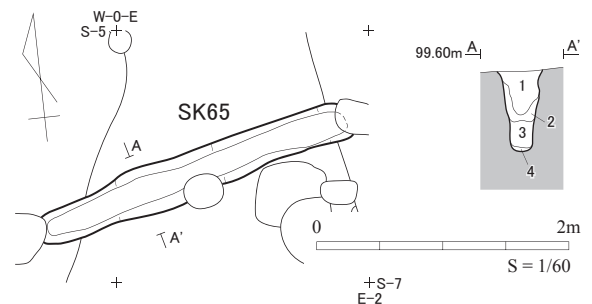
SK16 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(崩)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む



SK58 落とし穴状土坑 A-A'

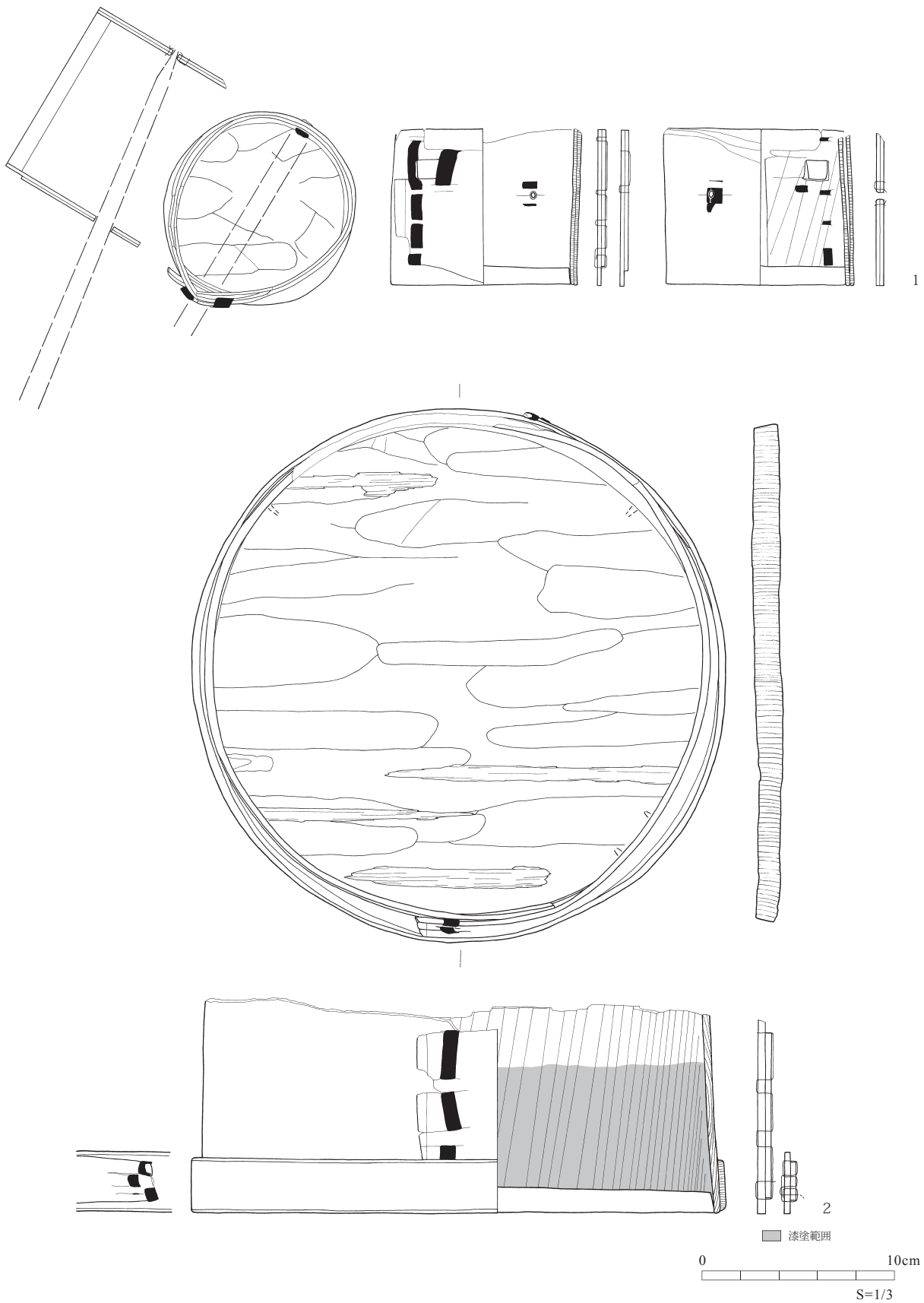
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(崩)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む
4	10YR3/2 黒褐	シルト	砂粒を極めて多量に含む(崩)



SK65 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含み、白色粘土ブロックを多量に含む(崩)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロックを含む
4	10YR5/4 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む(崩)

第38図 SK16・58・65 落とし穴状土坑



No.	遺構名	層位	種類	器種	製作技法・特徴	登録	写真
1	SE63	底面	木製品	曲物柄杓	直径：9.8cm 高さ：8.1cm 底板厚：1.0cm 側板厚：0.2cm 榿皮綴じ 柄部欠損 側板：柾目材 底板：柾目材 側板上部：長方形穿孔（1.10×1.25cm）・釘穴（約0.3cm、内面から穿孔）	401	39
2	SE63	堆積土2層	木製品	曲物	直径27.9cm、高さ11.2cm、底板厚1.2~1.5cm 側材厚0.3~0.4cm 榿皮綴じ 内面：黒漆塗 底板：柾目材 側板：板目材・柾目材 側板内面：縦方向の切り込み 側板下部：竹釘？（約0.4cm角）5か所貫入（底板固定）	402	40

第39図 SE63 井戸跡出土遺物

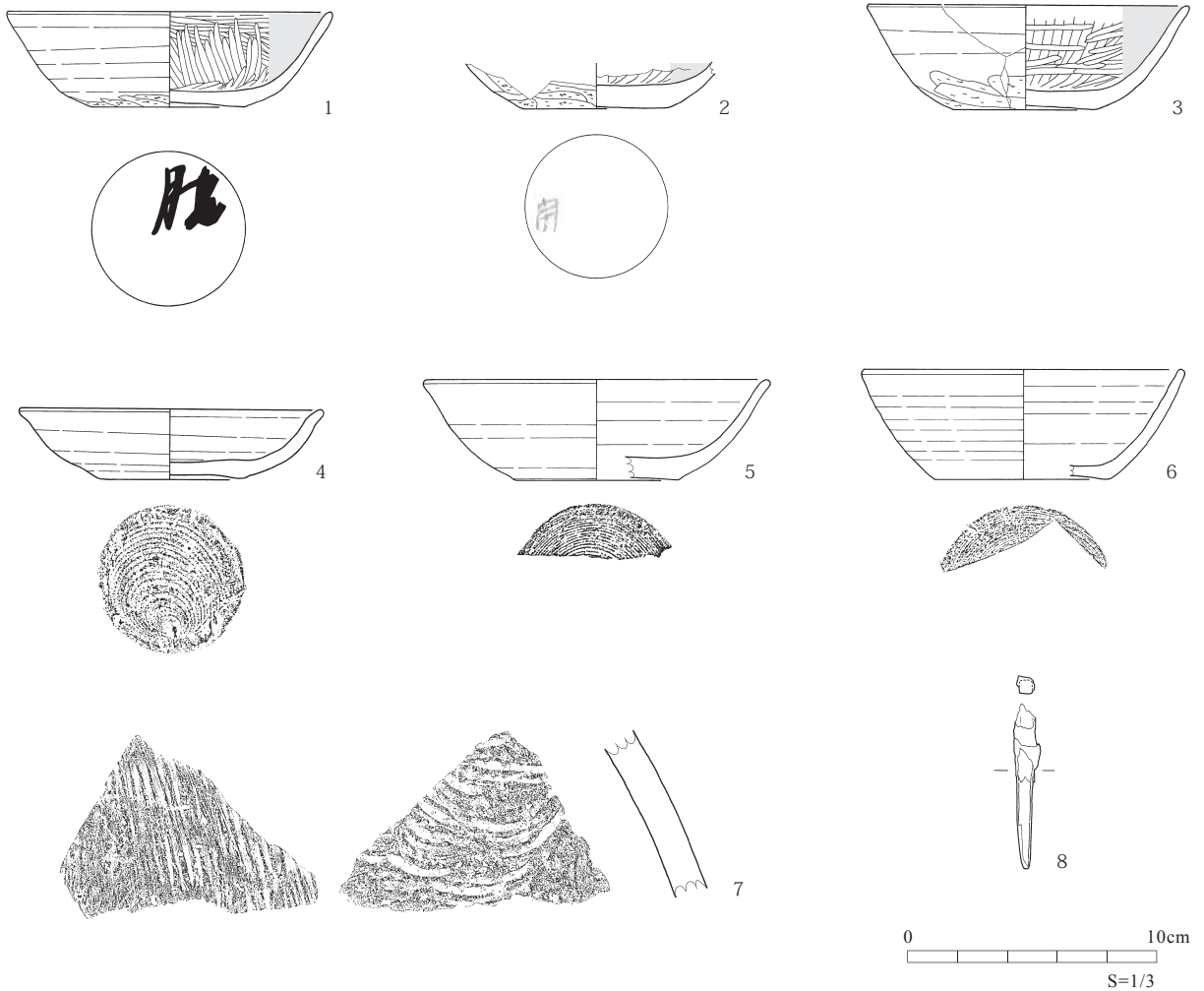
(4) 井戸跡

【SE63 井戸跡】(第37・39図、写真図版13・39・40)
 [位置] 1区南/平坦面
 [重複] SE63 - SB21
 [規模・形状] 平面形が長軸154cm、短軸140cmの楕円形を呈し、深さ110cmである。下部が円筒形を呈し、上部が逆台形状に開く。井戸側は確認されなかった。
 [堆積土] 黒色粘質シルトで、3層に細分される。1層は少量の地山粒、2層は多量の地山ブロックと少量

の礫、3層は多量の地山ブロックを含む。1・2層は人為的埋土、3層は壁際の崩落土と考えられる。
 [出土遺物] 堆積土2層から木製曲物容器(写真図版39-2)、底面から木製曲物柄杓(写真図版39-1)が出土した。このほか、土師器・須恵器環が出土した。

(5) 廃棄土坑

【SX13 廃棄土坑】(第37・40・41図、写真図版14・41・42)
 [位置] 1区南/平坦面



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SX13	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ→縦方向ヘラミガキ→(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「勝」	13.2	6.2	3.8	2/3	057	41-2	
2	SX13	堆積土5層	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「口」	-	5.8	(1.9)	一部	059	41-4	
3	SX13	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) ヘラ切り?→手持ちヘラケズリ 内面：(底~口) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体下) 墨書「口」 内面：(口) 磨滅	13.0	5.8	4.2	5/6	055	41-3	
4	SX13	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ、(底) 回転糸切り→無調整	12.3	5.9	3.9	5/6	054	41-5	
5	SX13	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ、(底) 回転糸切り→無調整	(14.0)	(6.8)	4.1	1/3	061	41-6	
6	SX13	堆積土5層	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ (底) 回転糸切り→無調整 内外面：緋だすき	(13.0)	(7.0)	4.4	1/3	056	41-7	
7	SX13	堆積土5層	須恵器	甕	外面：平行タタキ 内面：同心円文アテ具痕	-	-	(6.4)	一部	060	41-8	
No.	遺構名	層位	種類	材質	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
8	SX13	堆積土5層	釘	鉄	頭部欠損	(66.5)	5.0	5.5	(6.7)	一部	308	42-3

第40図 SX13 廃棄土坑出土遺物 (1)

〔重複〕SB237 → SX13

〔規模・形状〕平面形が長軸 190cm、短軸 182cm の略円形を呈し、断面形は深さ 40cm の逆台形を呈する土坑で、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕7層に細分される。1層は少量の地山・焼土ブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルト、2層は多量の地山ブロックとごく少量の焼土ブロック、炭化物粒を含む暗褐色シルト、3層は少量の地山・焼土粒を含む黒褐色シルト、4層は多量の焼土・炭化物粒と地山粒を含む黒褐色シルト、5層は多量の焼土ブロックと焼礫、炭化物粒を含む暗褐色シルト、6層はごく少量の地山粒と焼土粒、炭化物片、骨片を含む黒褐色シルト、7層は多量の地山粒と地山ブロック、骨片を含む黒色シルトで、全て人為的埋土と考えられる。堆積土中層の3-5層には遺物を多く含み、下層の6-7層には骨片を含む。

〔出土遺物〕堆積土5層からロクロ土師器環（第40

図2）・甕（第41図1）、鉄釘（第40図8）、須恵器環（第40図6）・甕（第40図7）、堆積土からロクロ土師器環（第40図1・3）・甕（第41図2）、須恵器環（第40図4・5）が出土した。ロクロ土師器環（第40図1-3）は外底面あるいは外面の体下部に墨書が見られ、判読できるものには「勝」（第40図1）がある。このほか、土師器環・小型品・甕が出土した。

（6）落とし穴状土坑

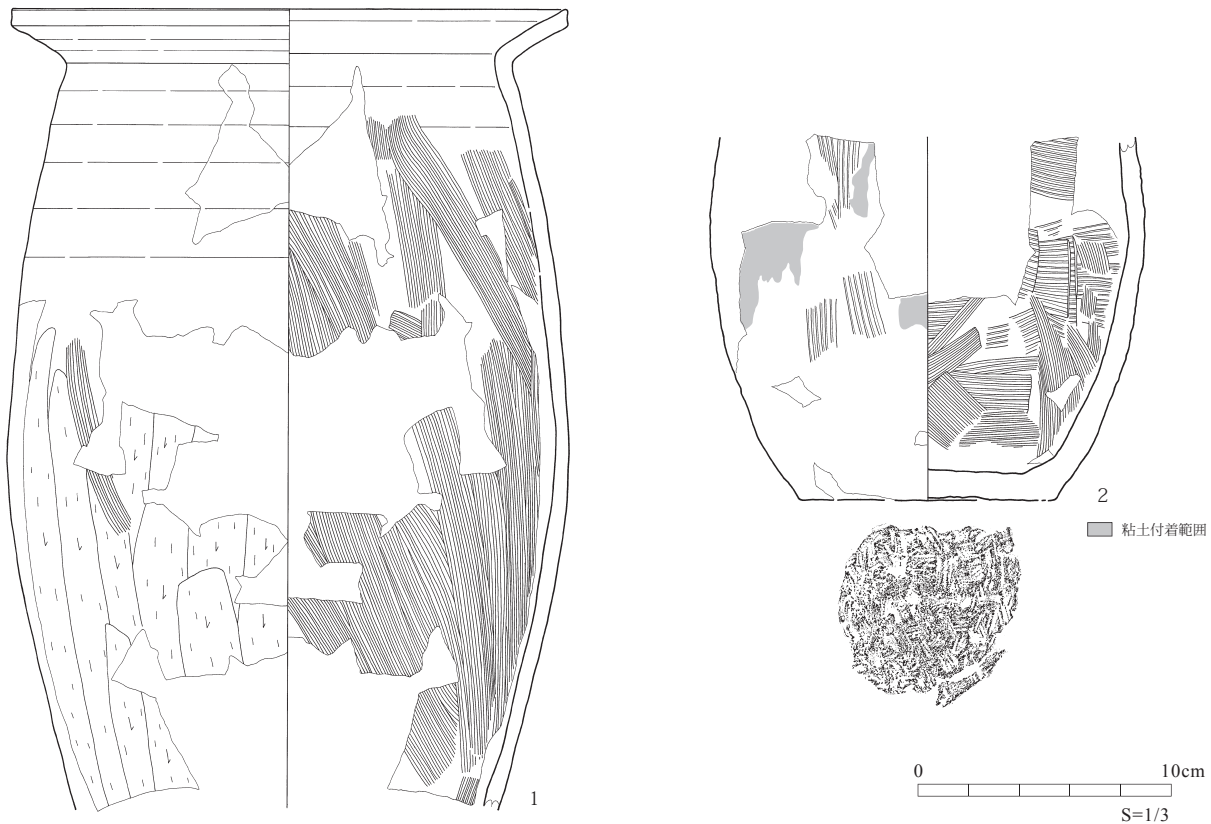
【SK16 落とし穴状土坑】（第38図、写真図版13）

〔位置〕1区南／平坦面

〔重複〕SK16 → SI4

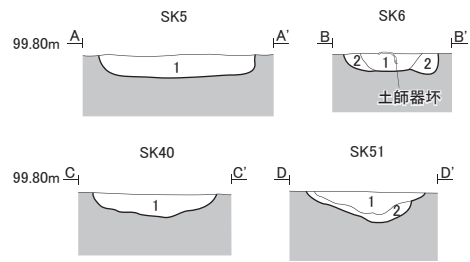
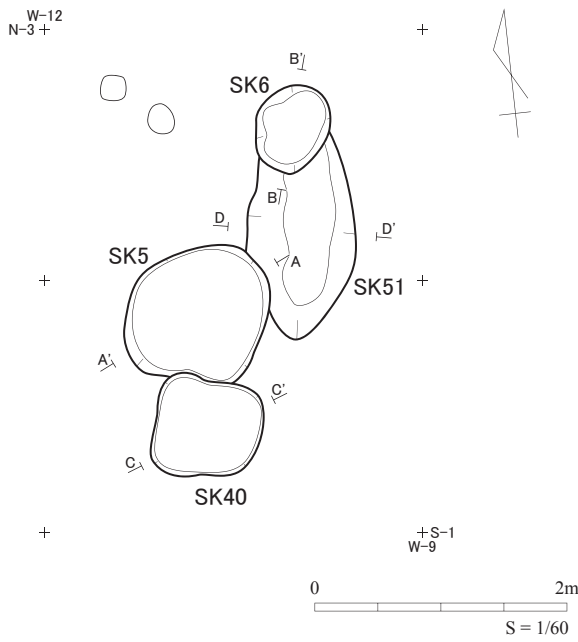
〔規模・形状〕平面形が長軸 130cm、短軸 92cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 82cm の箱形を呈する。

〔堆積土〕4層に細分される。1・2層は地山粒をごく少量含む黒色・黒褐色シルト、3層は地山ブロックを極めて多量に含む黒褐色粘質シルト、4層は地山ブ

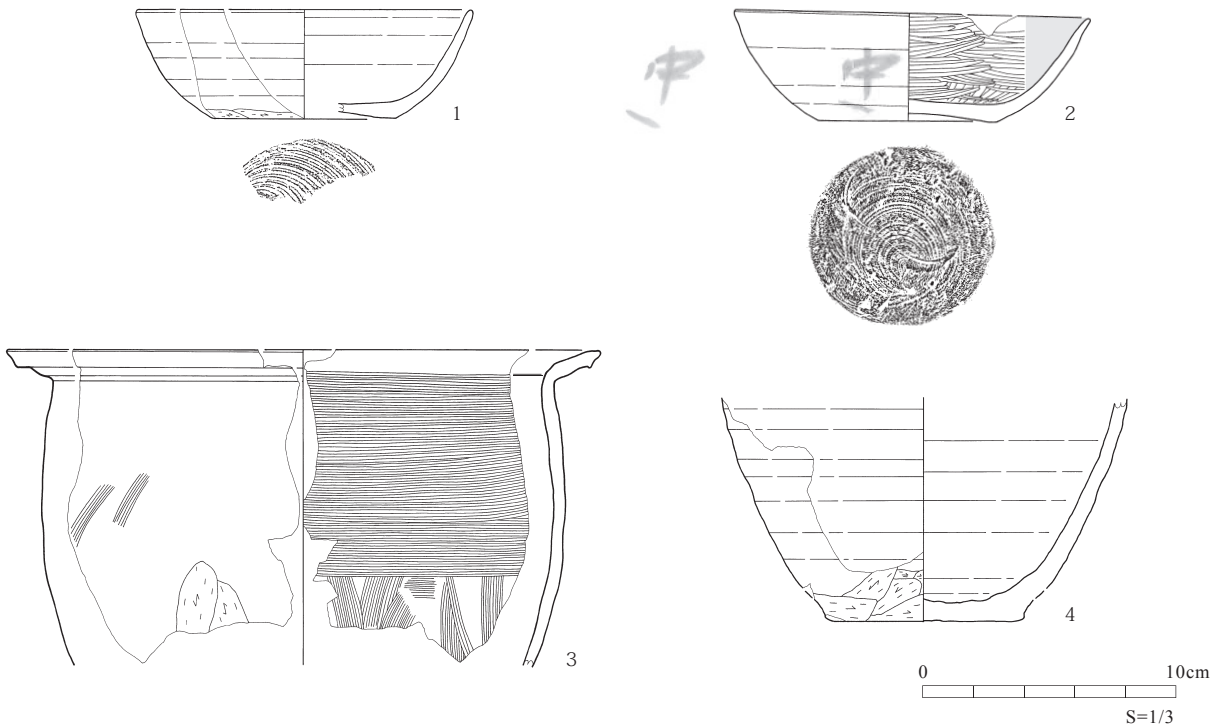


No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SX13	堆積土5層	ロクロ土師器	甕	外面：ロクロナデ→(胴)ヘラケズリ→ナデ 内面：ロクロナデ→(胴)ヘラナデ	(22.1)	-	(31.9)	一部	058	42-1
2	SX13	堆積土	土師器	甕	外面：ハケメ、(底)網代痕 内面：ハケメ→ナデ 外面：(胴)粘土付着→被熱	-	(10.2)	(14.4)	一部	062	42-2

第41図 SX13 廃棄土坑出土遺物（2）



SK5 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック、炭化物粒を含む (人為)
SK6 土坑 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	焼土粒・炭化物粒を含む (人為)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
SK40 土坑 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む
SK51 土坑 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	砂質ロームブロックを少量含む
2	10YR3/3 暗褐	シルト	砂質ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (人為)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK6	堆積土1層	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→無調整 内面：ロクロナデ→(底～体下) 平滑	(13.4)	(7.3)	4.3	1/8	068	38-11
2	SK6	堆積土1層	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、(底) 回転系切り→無調整 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体) 正位の墨書「中」?	14.1	7.0	4.3	略完形	071	38-10
3	SK6	堆積土1層	ロクロ土師器	甗	外面：(口) ロクロナデ、(胴) ヘラケズリ・ナデ 内面：(口) ロクロナデ→(胴) ナデ・ヘラナデ	(23.6)	-	(12.5)	一部	070	38-12
4	SK6	堆積土1層	ロクロ土師器	甗	外面：ロクロナデ→(胴下～底) ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 胎土：小礫を多く含む	-	(7.9)	(8.9)	一部	072	38-13

第42図 SK5・6・40・51土坑、SK6土坑出土遺物

ロックを含む黒褐色粘質シルトで、1・2・4層は自然堆積土、3層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SK58 落とし穴状土坑】(第38図、写真図版13)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK58 - SB25

〔規模・形状〕平面形が長軸320cm、短軸50cmの溝状を呈し、断面形は深さ52cmの不整形を呈する。

〔堆積土〕黒褐色シルトで、4層に細分される。1・3層はごく少量の地山粒、2層は極めて多量の地山黄褐色

色ロームブロック、4層は極めて多量の砂粒を含む。1・3層は自然堆積土、2・4層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

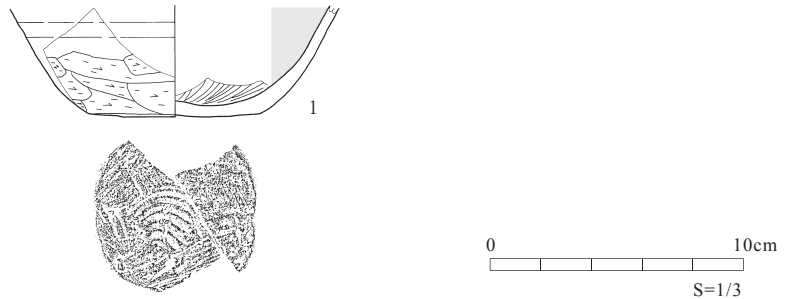
【SK65 落とし穴状土坑】(第38図、写真図版13)

〔位置〕1区南/平坦面

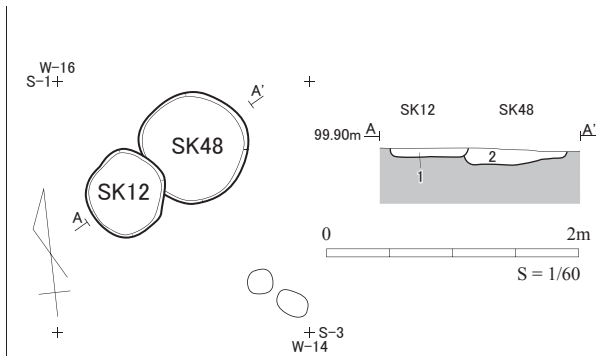
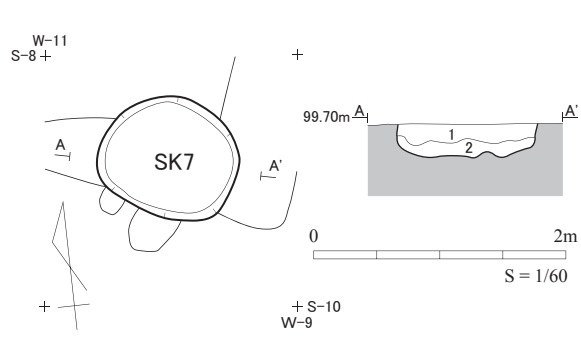
〔重複〕SK65 → SI1・SI2・SB230

〔規模・形状〕平面形が長軸208cm以上、短軸38cmの溝状を呈し、断面形は深さ62cmのU字形を呈する。

〔堆積土〕4層に細分される。1層は地山ブロック・粒を少量含む黒褐色シルト、2層は地山ブロックを多



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK7	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理	-	(6.8)	(4.4)	一部	069	37-9

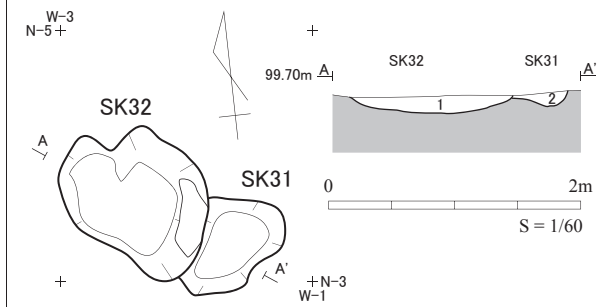
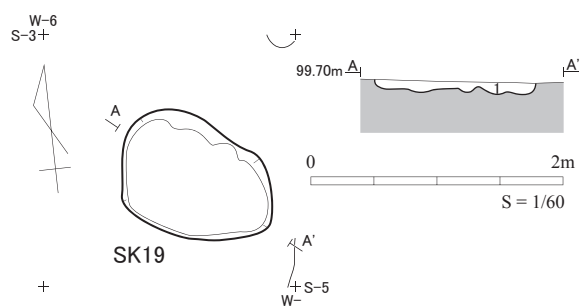


SK7 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・白色粘土粒を多量に含む (人為)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、焼土粒、白色粘土粒を含む (人為)

SK12・SK48 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (SK12 堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・暗褐色土ブロックを含む (SK48 堆)



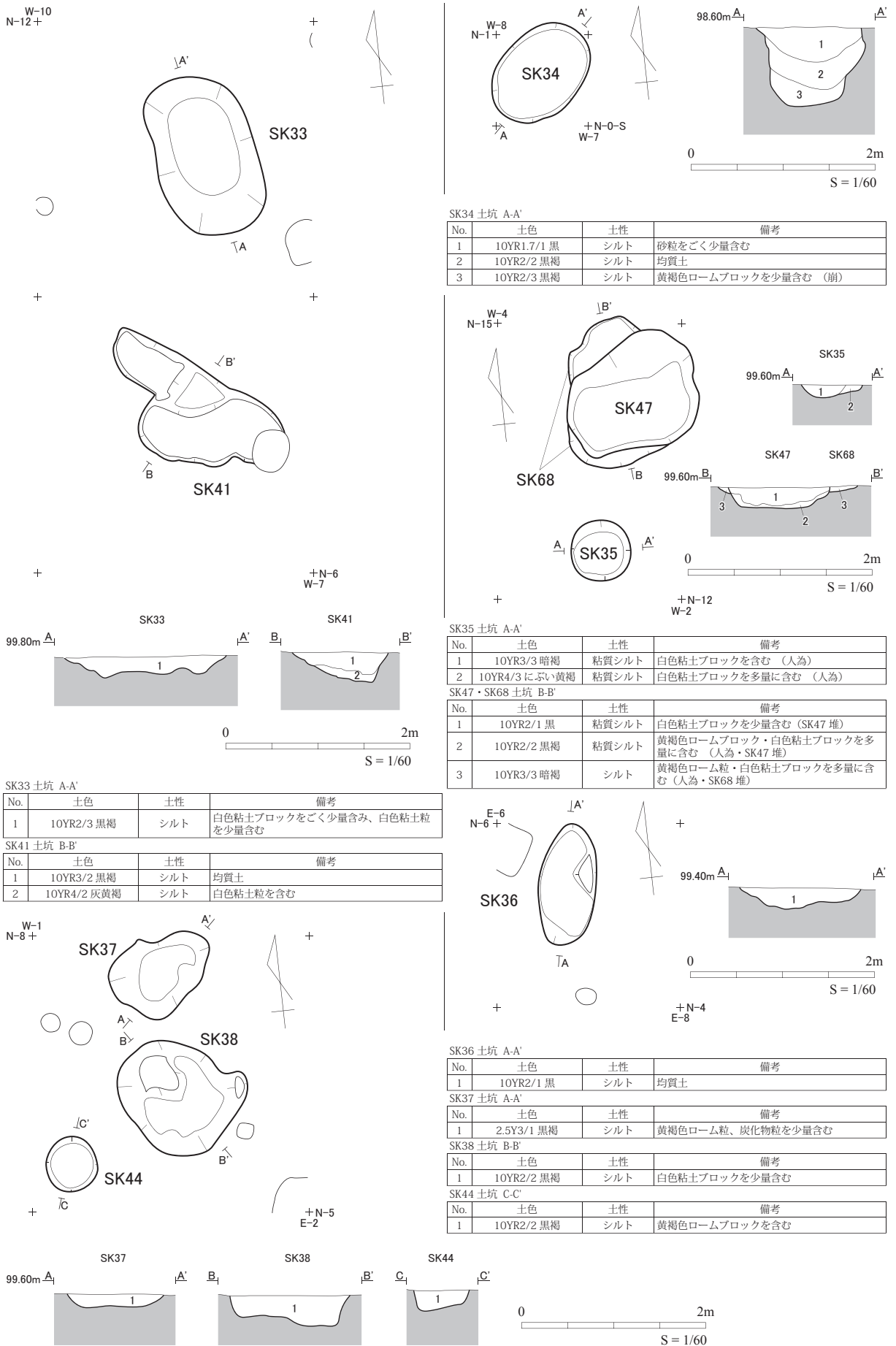
SK19 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含み、焼土粒をごく少量含む (人為)

SK31・SK32 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (SK32 堆)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (SK31 堆)

第43図 SK7・12・19・31・32・48 土坑、SK7 土坑出土遺物



第44図 SK33~38・41・44・47・68 土坑

量に含む暗褐色粘質シルト、3層は地山ブロックを含む暗褐色シルト、4層は白色粘土ブロックを多量に含むにぶい黄褐色粘質シルトで、1・3層は自然堆積土、2・4層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

(7) 土坑

〔SK5 土坑〕(第42図)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK51 → SK5 → SK40

〔規模・形状〕平面形が長軸122cm、短軸114cmの楕円形を呈し、断面形は深さ18cmのU字形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕ロクロ土師器甕が出土した。

〔SK6 土坑〕(第42図、写真図版13・38)

〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SK51 → SK6

〔規模・形状〕平面形が長軸70cm、短軸58cmの楕円形を呈し、断面形は深さ16cmのU字形を呈する。

〔堆積土〕2層に細分される。1層は焼土・炭化物粒を含む黒褐色シルト、2層は地山ブロックを含む暗褐色シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土1層からロクロ土師器坏(第42図2)・甕(第42図3・4)、須恵器坏(第42図1)が出土した。このほか、土師器坏、ロクロ土師器甕が出土した。

〔SK7 土坑〕(第43図、写真図版13・37)

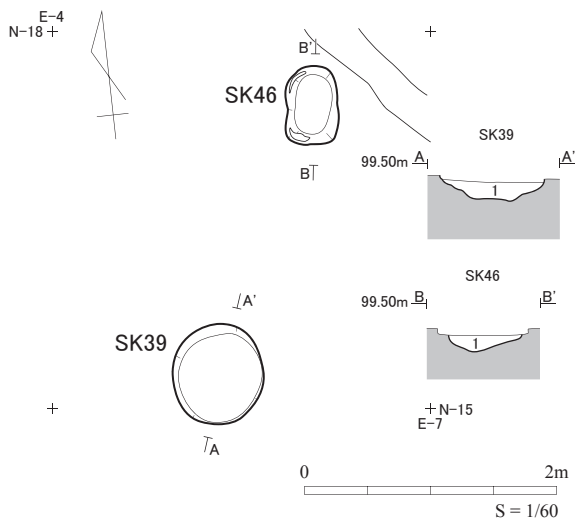
〔位置〕1区南/平坦面

〔重複〕SI8 → SK7

〔規模・形状〕平面形が長軸110cm、短軸100cmの楕円形を呈し、断面形は深さ28cmのU字形を呈する。

〔堆積土〕2層に細分される。1層は地山ブロック、焼土・白色粘土粒を多量に含む暗褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを多量に含み、焼土粒、白色粘土粒を含む黒色粘質シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土からロクロ土師器坏(第43図1)、

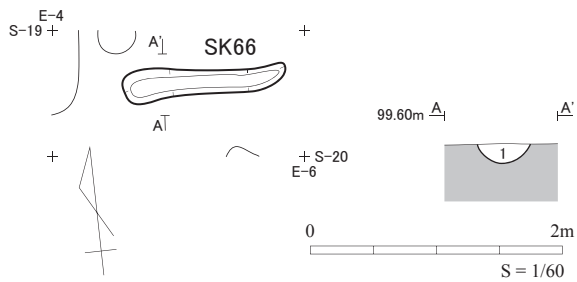


SK39 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を含む (人為)

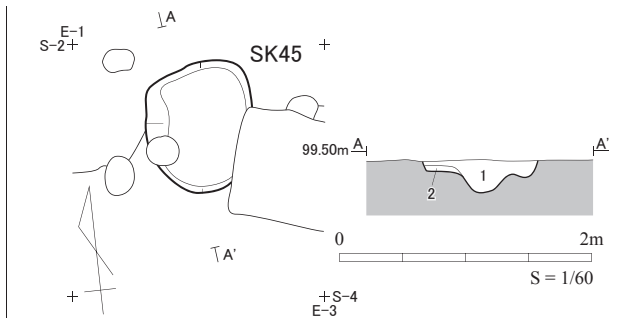
SK46 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (人為)



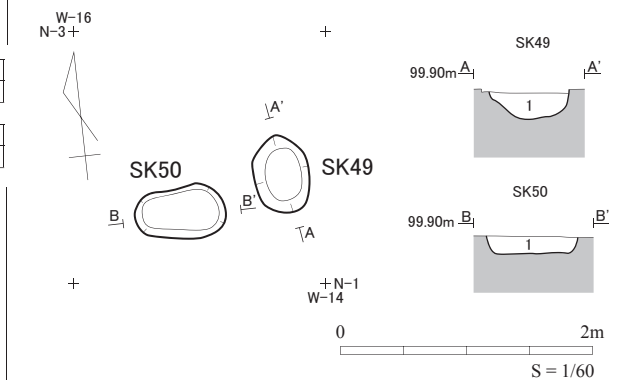
SK66 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



SK45 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒を多量に含む (人為)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含み、焼土粒・炭化物粒を少量含む (人為)



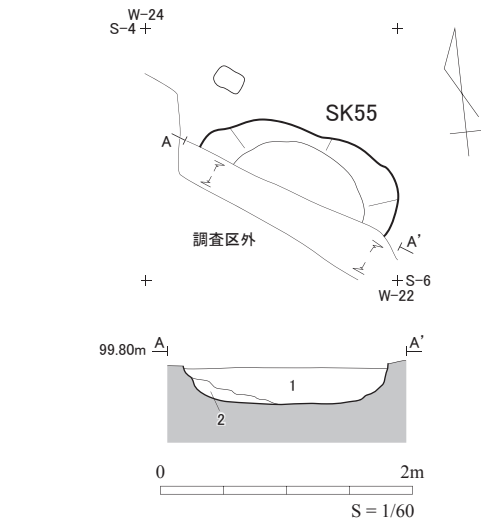
SK49 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色砂質ロームブロック、暗褐色シルトブロックを含む (人為)

SK50 土坑 B-B'

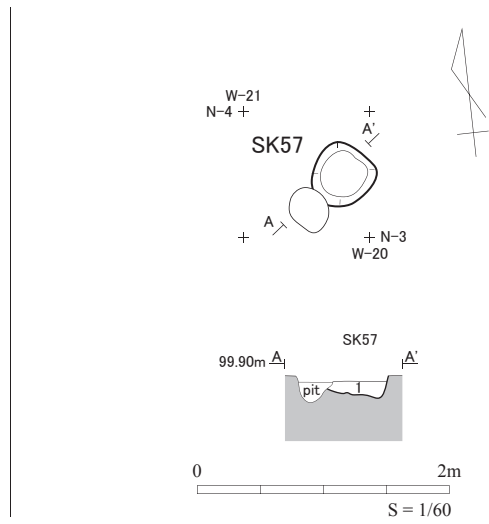
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (人為)

第45図 SK39・45・46・49・50・66 土坑



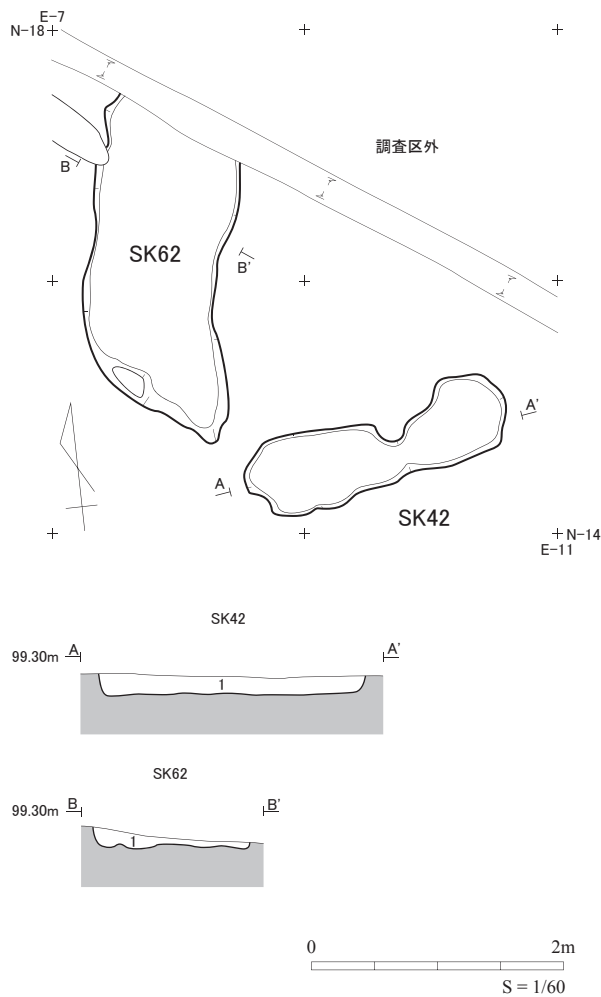
SK55 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)



SK57 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	暗褐色土・黒色シルトブロックを含む (人為)

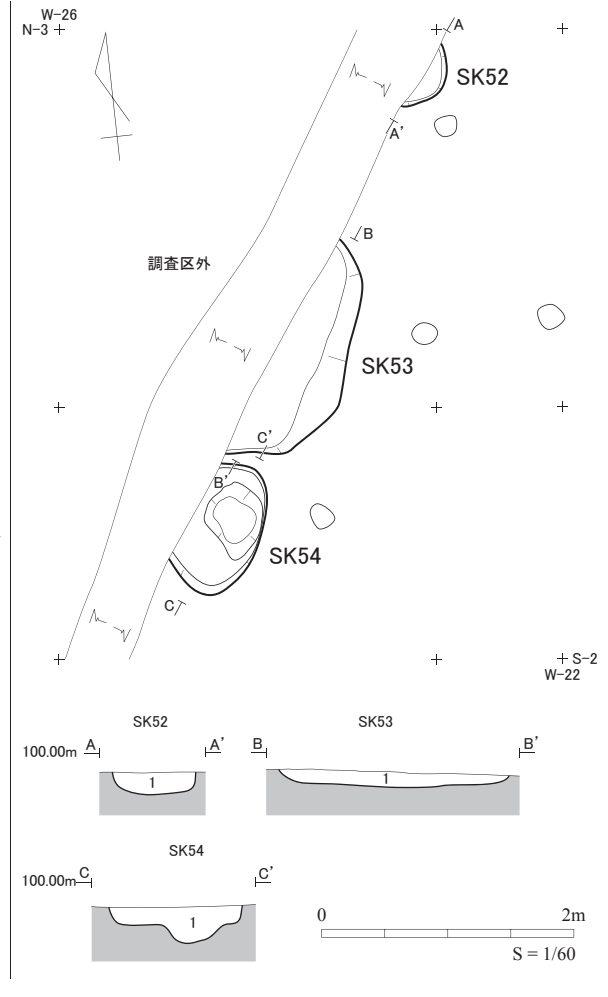


SK42 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む

SK62 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)



SK52 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む

SK53 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

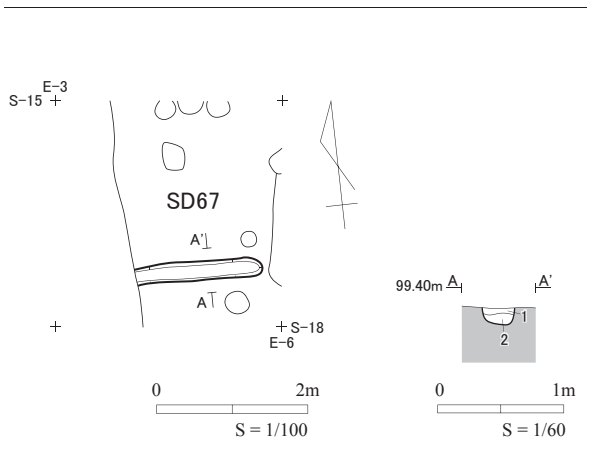
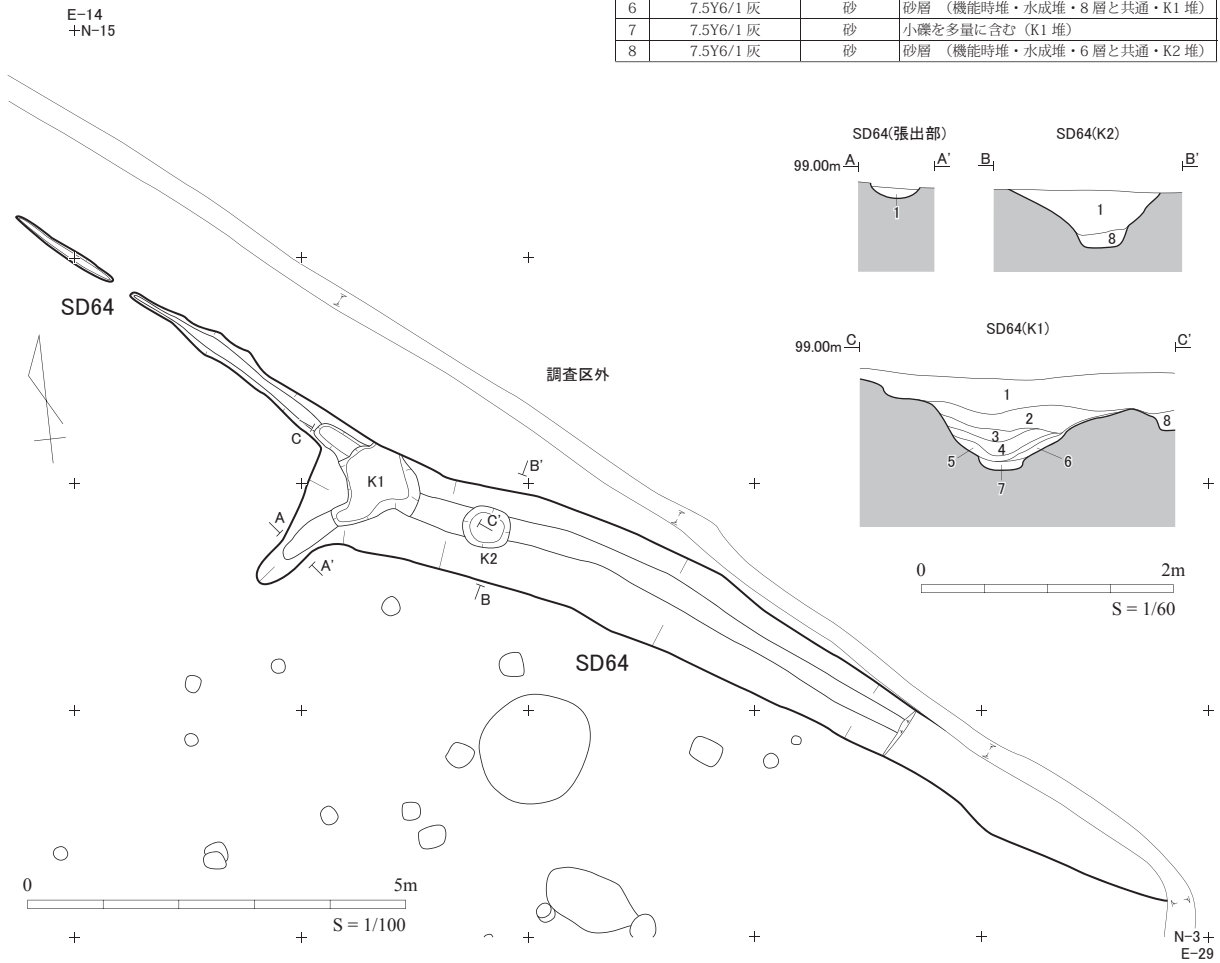
SK54 土坑 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

第46図 SK42・52~55・57・62土坑

SD64 溝跡 A-A', B-B', C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む、有機物を含む (K1 堆)
3	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、炭化物粒を含む (K1 堆)
4	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (K1 堆)
5	2.5Y4/1 黄灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (K1 堆)
6	7.5Y6/1 灰	砂	砂層 (機能時堆・水成堆・8層と共通・K1 堆)
7	7.5Y6/1 灰	砂	小礫を多量に含む (K1 堆)
8	7.5Y6/1 灰	砂	砂層 (機能時堆・水成堆・6層と共通・K2 堆)



SD67 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



0 3cm S=1/1

No.	遺構名	層位	種類	銭名	特徴	法量 (mm・g)			残存	登録	写真
						径	厚	重			
1	SD64	堆積土1層	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」	24.0	1.3	3.7	完形	306	37-11

第47図 SD64・67 溝跡、SD64 溝跡出土遺物

須恵器甕（写真図版 37-10）が出土した。このほか、土師器坏、焼けたスサ入り粘土塊が出土した。

【SK34 土坑】（第 44 図、写真図版 13）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 平面形が長軸 122cm、短軸 86cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 86cm の U 字形を呈する。

〔堆積土〕 3 層に細分される。1 層は砂粒をごく少量含む黒色シルト、2 層は均質な黒褐色シルト、3 層は地山ブロックを少量含む黒褐色シルトで、1・2 層は自然堆積土、3 層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕 なし

【SK45 土坑】（第 45 図）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SI2 → SK45 → SB10

〔規模・形状〕 平面形が長軸 106cm、短軸 82cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 26cm の逆台形を呈するが中央部が窪む。

〔堆積土〕 2 層に細分される。1 層は地山・焼土ブロック、炭化物粒を多量に含む暗褐色粘質シルト、2 層は地山ブロックを含み、少量の焼土・炭化物粒を含むにぶい黄褐色粘質シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。

【SK47 土坑】（第 44 図）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SK68 → SK47

〔規模・形状〕 平面形が長軸 156cm、短軸 124cm の不整隅丸方形を呈し、断面形は深さ 22cm の逆台形を呈する。

〔堆積土〕 2 層に細分される。1 層は地山ブロックを少量含む黒色粘質シルト、2 層は地山ブロックを多量に含む黒褐色粘質シルトで、1 層は自然堆積土、2 層は人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器甕が出土した。

【SK66 土坑】（第 45 図）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 平面形が長軸 130cm、短軸 26cm の溝状を呈し、断面形は深さ 5cm の椀形を呈する。

〔堆積土〕 地山ブロックを含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 ロクロ土師器坏が出土した。

（8）溝跡

【SD64 溝跡】（第 47 図、写真図版 14・37）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SK62 → SD64 - SA27・SK42

〔規模・形状〕 北西—南東方向に延びる。延長 28.5m を確認し、両端が調査区外へ延びている。中央付近の底面で 2 か所の掘り込み（K1・2）を確認した。K1 は平面形が長軸 120cm、短軸 110cm の不整形を呈し、断面形が深さ 92cm の U 字形を呈する。K2 は K1 の 0.6m 南東側に位置し、平面形が長軸 65cm、短軸 55cm の楕円形を呈し、断面形が深さ 22cm の U 字形を呈する。溝跡は K1 より南東側では上幅 118~144cm、底幅 20~38cm で、横断面形は深さ 22~40cm の逆台形を呈する。K1 より北西側では上幅 6~40cm、底幅 6~20cm で、横断面形は深さ 12cm の椀形を呈する。また、K1 から南西側へ張り出す上幅 40cm、底幅 20cm、横断面形が深さ 12cm の椀形を呈する溝跡の一部を確認した。

〔堆積土〕 溝跡の堆積土（1 層）は地山ブロック・粒を少量含む黒色粘質シルトである。K1 の堆積土（2~7 層）は 6 層に細分され、2 層は少量の地山ブロックと植物遺体を含む黒褐色シルト、3 層は少量の地山粒と炭化物粒を含む黒色粘質シルト、4 層は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、5 層は地山ブロックを多量に含む黄灰色粘質シルト、6 層は灰色砂層、7 層は小礫を多量に含む灰色砂層である。K2 には灰色砂層（6 層）が堆積している。1~4 層は自然堆積土、5 層は崩落土、6・7 層は機能時の堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土 1 層から銅銭（寛永通宝）（第 47 図 1）、須恵器甕の破片が出土した。

【SD67 溝跡】（第 47 図）

〔位置〕 1 区南／平坦面

〔重複〕 SD67 → SI3a・SI3b

〔規模・形状〕 東西方向に延びる。長さ 1.66m を確認し、西側は SI3 住居跡に壊されている。上幅 24~26cm、底幅 14~18cm で、横断面形が深さ 12cm の U 字形を呈する。

〔堆積土〕 2 層に細分される。1 層は地山粒を少量含む黒褐色シルト、2 層は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、1 層は自然堆積土、2 層は人為的埋土と考えられる。

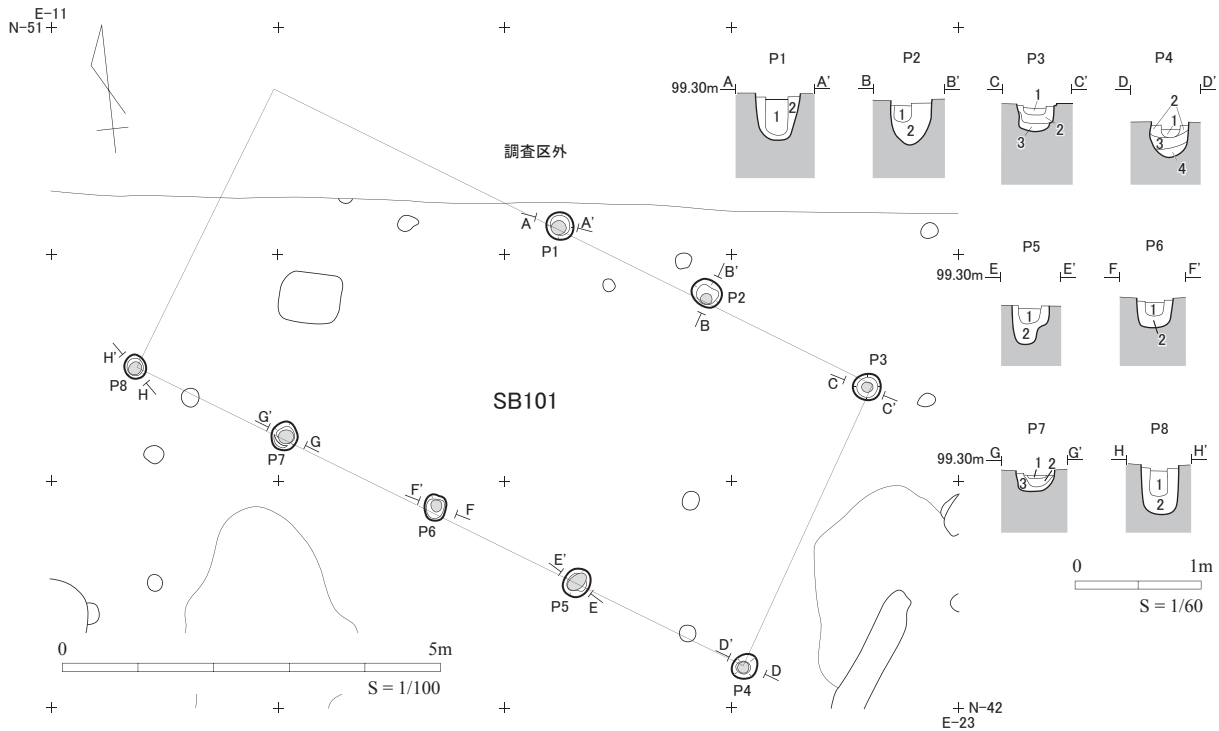
〔出土遺物〕 なし

2.1 区北

遺跡範囲の南部に位置し、長さ約36m、幅約34mの不整四角形の調査区である。調査区内は東へ向かって僅かに傾斜する平坦面である。遺構確認面は現地表面から深さ15~40cmのⅣ~Ⅴ層上面である。遺構は掘立柱建物跡7棟、柱列跡3条、井戸跡5基、土坑5基、溝跡4条、粘土採掘坑2基、竪穴状遺構1基を確認した(第8図、写真図版15)。

(1) 掘立柱建物跡

【SB101 掘立柱建物跡】(第48図、写真図版15・16・42)
 [位置] 1区北/平坦面
 [重複] SB101 - SB243
 [規模・形状] 桁行4間(9.00m)、梁行1間(4.00m) / 東西棟側柱建物
 [方向] 東側柱列: W-32°-N
 [柱穴] 8か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸31~39cm、短軸28~36cmの円形を基調とし、深さ



SB101 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む(柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック・炭化物粒を含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を少量含む(柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)
4	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P5 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P6 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P7 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を少量含む(柱痕)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む(柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB101 掘立柱建物跡 P8 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)



No.	遺構名	層位	種類	銭名	特徴	法量 (mm・g)			残存	登録	写真
						径	厚	重			
1	SB101	P3 確認面	銅銭	至大通寶	銭文「至大通寶」	23.2	1.4	1.9	完形	305	42-8

第48図 SB101 掘立柱建物跡・出土遺物

17~39cmである。8か所で平面形が直径15~19cmの円形または長軸22~28cm、短軸16~18cmの楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 南側柱列：西から220-220-212-248cm
東側柱列：400cm

〔出土遺物〕 P3柱穴確認面から銅銭（至大通宝、第48図1）が出土した。このほか、土師器環が出土した。

【SB102 掘立柱建物跡】（第49図、写真図版15・16）

〔位置〕 1区北／平坦面

〔重複〕 SB102 - SB244

〔規模・形状〕 桁行2間（2.98m）、梁行2間（2.72m）
／南北棟総柱建物

〔方向〕 東側柱列：N-22° -E

〔柱穴〕 9か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸42~52cm、短軸39~52cmの隅丸方形及び楕円形を呈し、深さ23~45cmである。7か所で柱材の抜き取り痕跡、3か所で平面形が直径14~20cmの円形を呈する柱痕跡、2か所で柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：北から（140） - （158）cm
北側柱列：西から（134） - 142cm

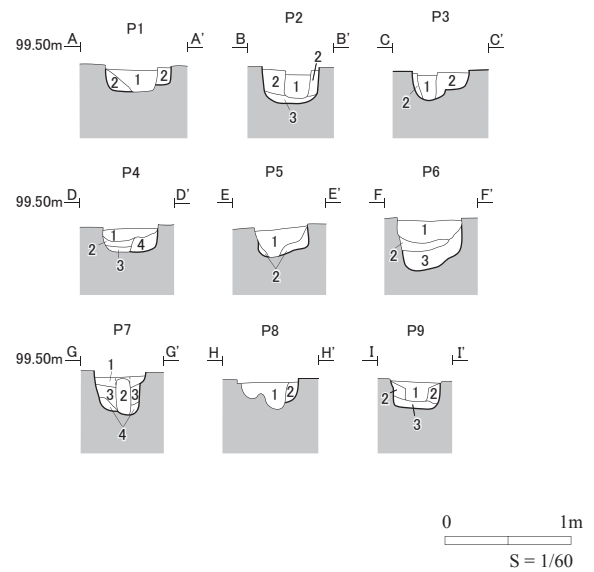
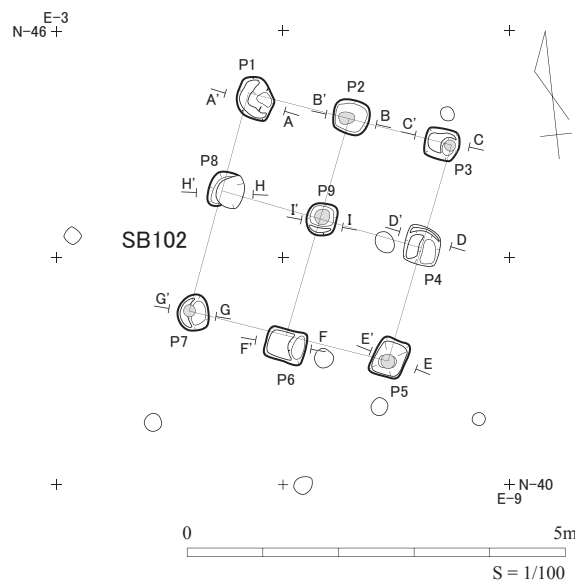
〔出土遺物〕 ロクロ土師器が出土した。

【SB103 掘立柱建物跡】（第50図、写真図版15~17）

〔位置〕 1区北／平坦面

〔重複〕 SB145 - SB103 → SD105

〔規模・形状〕 桁行3間（5.88m）、梁行3間（5.80m）
／南北棟側柱建物



SB102 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
4	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P5 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P6 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P7 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P8 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB102 掘立柱建物跡 P9 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を含む (柱掘)
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (柱掘)

第49図 SB102 掘立柱建物跡

〔方向〕西側柱列：N-7°-E

〔柱穴〕12か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸40~54cm、短軸37~50cmの隅丸方形を基調とし、深さ13~34cmである。8か所で柱材の抜き取り痕跡、4か所で平面形が直径15~20cmの円形を呈する柱痕跡、7か所で柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から(196)-(214)-178cm
北側柱列：西から186-194-200cm

〔出土遺物〕土師器、須恵器高台付杯が出土した。

【SB145 掘立柱建物跡】(第51図、写真図版17)

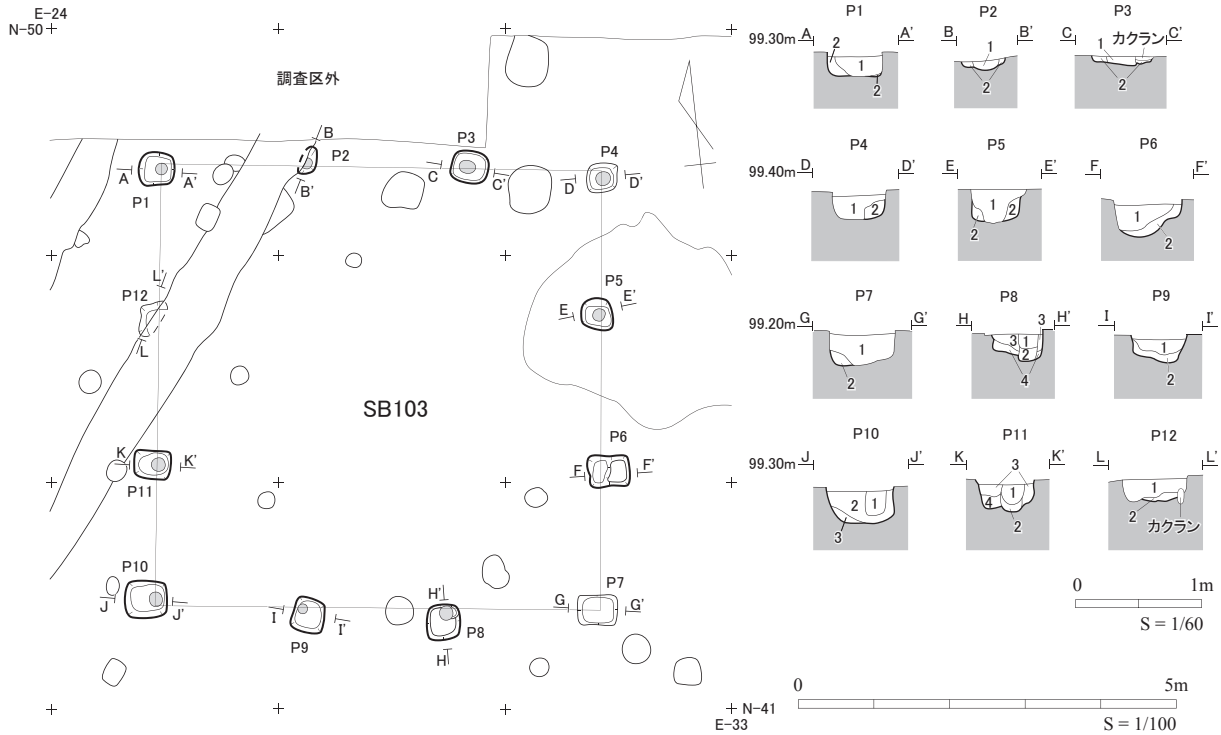
〔位置〕1区北/平坦面

〔重複〕SB103 - SB145 → SD105

〔規模・形状〕桁行2間(3.60m)、梁行1間(1.82m)
以上/東西棟側柱建物

〔方向〕南側柱列：W-4°-N

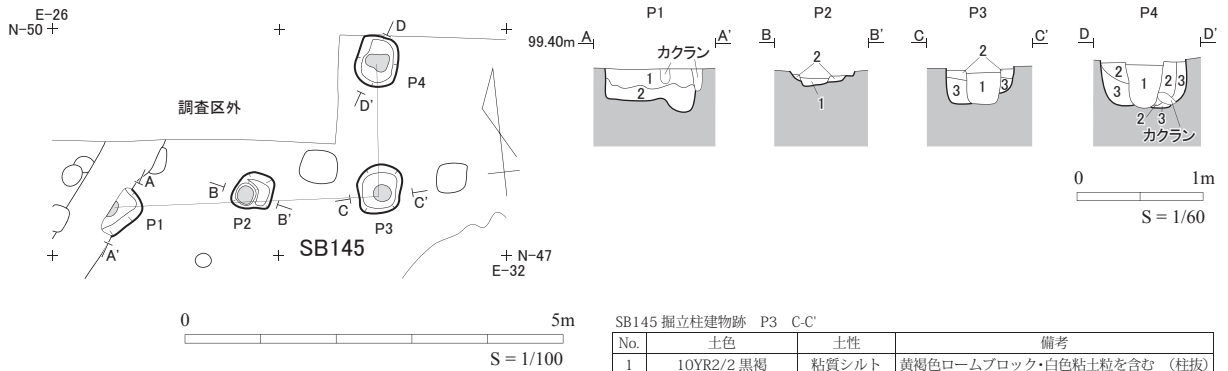
〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸40~66cm、短軸38~56cmの隅丸方形を基調とし、深さ17~42cmである。2か所で柱材の抜き取り痕跡、



SB103 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む(柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む(柱痕)
2	10YR5/6 黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む(柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P5 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む(柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P6 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む(柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SB103 掘立柱建物跡 P7 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む、白色粘土ブロックをごく少量含む(柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P8 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR6/6 明黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、白色粘土粒、黒色シルトブロックを少量含む(柱抜)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む(柱痕)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む(柱掘)
4	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P9 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱掘)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P10 J-J'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックをごく少量含む(柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P11 K-K'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む(柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックをごく少量含む(柱掘)
4	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)
SB103 掘立柱建物跡 P12 L-L'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む(柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

第50図 SB103 掘立柱建物跡



SB145 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を多量に含む (柱掘)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB145 掘立柱建物跡 P2 B-B'

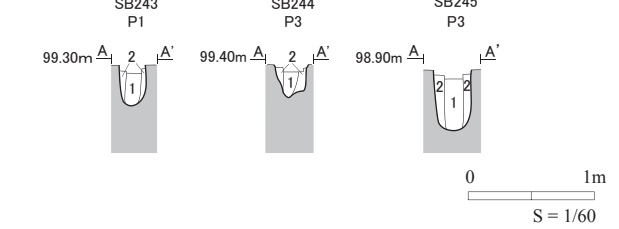
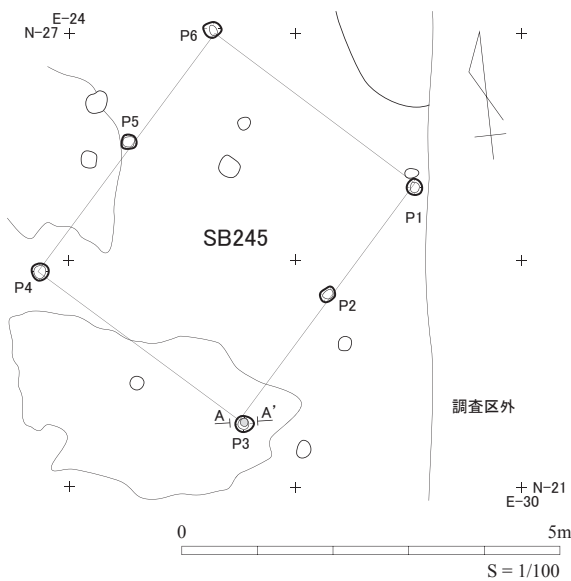
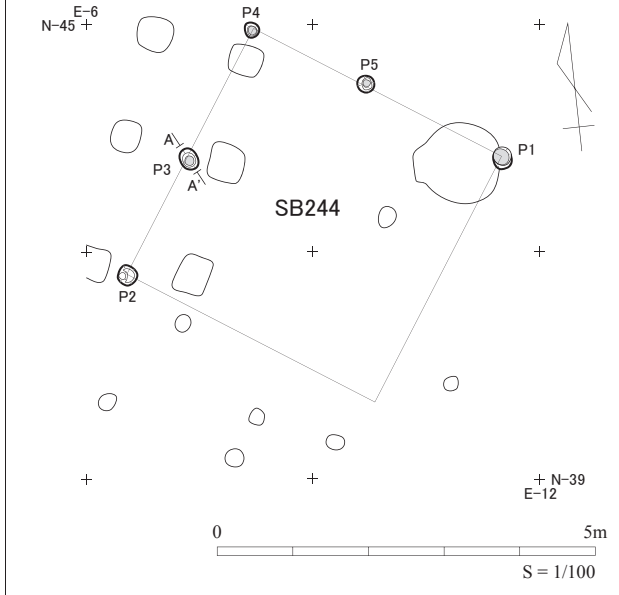
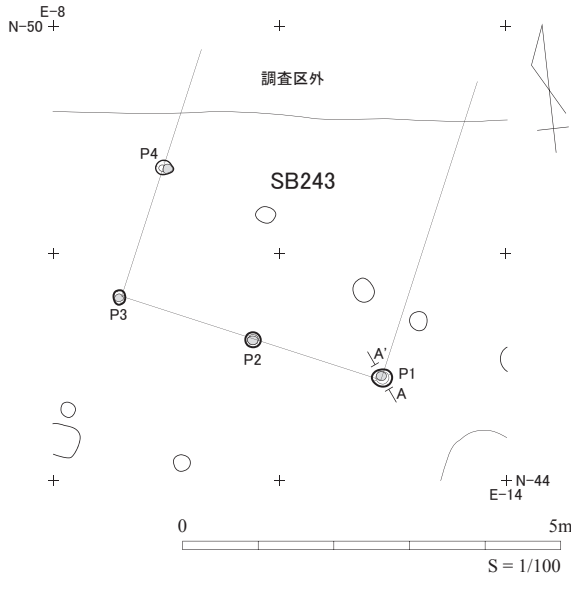
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB145 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SB145 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒、炭化物粒を含む 黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む、炭化物粒を含む (柱掘)
3	10YR5/6 黄褐	シルト	白色粘土粒・黒色シルトブロックを含む (柱掘)



SB243 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック、白色粘土ブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック、白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB244 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒、白色粘土粒を多量に含む (柱掘)

SB245 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第51図 SB145・243~245 掘立柱建物跡

1 か所で平面形が直径 23cm の円形を呈する柱痕跡、
2 か所で柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕 南側柱列：西から 176-184cm
東側柱列：182cm

〔出土遺物〕 なし

【SB243 掘立柱建物跡】(第 51 図、写真図版 15)

〔位置〕 1 区北／平坦面

〔重複〕 SB243 - SB101

〔規模・形状〕 桁行 2 間 (3.63m)、梁行 1 間 (1.77m)
以上／東西棟側柱建物

〔方向〕 西側柱列：W-24° -N

〔柱穴〕 4 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸
20-24cm、短軸 16-24cm の円形及び楕円形を基調
とし、深さ 7-34cm である。4 か所で平面形が直径
12-14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 南側柱列：西から 185-178cm
西側柱列：177cm

〔出土遺物〕 なし

【SB244 掘立柱建物跡】(第 51 図、写真図版 15・17)

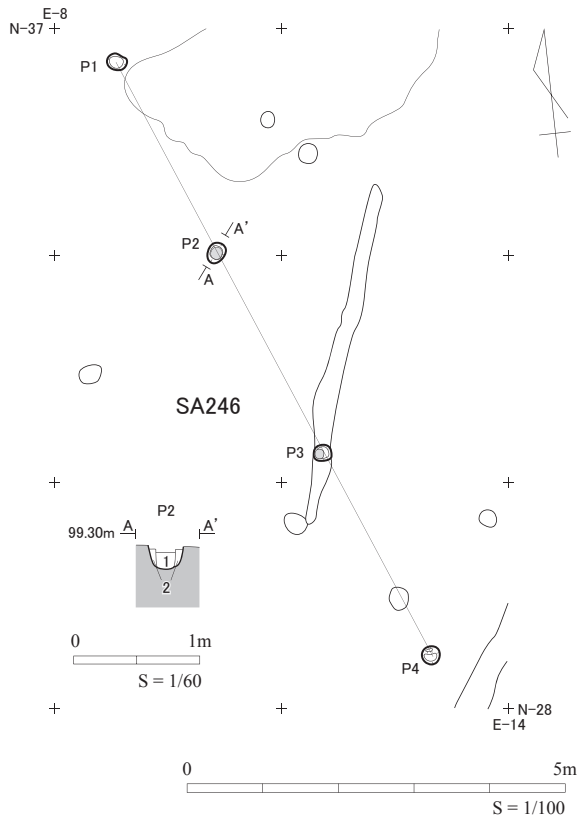
〔位置〕 1 区北／平坦面

〔重複〕 SB244 → SE106 - SB102

〔規模・形状〕 桁行 2 間 (3.75m)、梁行 2 間 (3.66m)
／東西棟側柱建物

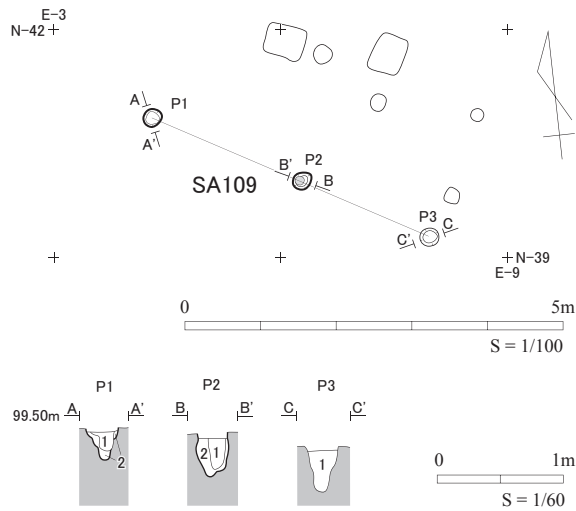
〔方向〕 西側柱列：W-34° -N

〔柱穴〕 5 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸



SA246 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SA109 柱列跡 P1 A-A'

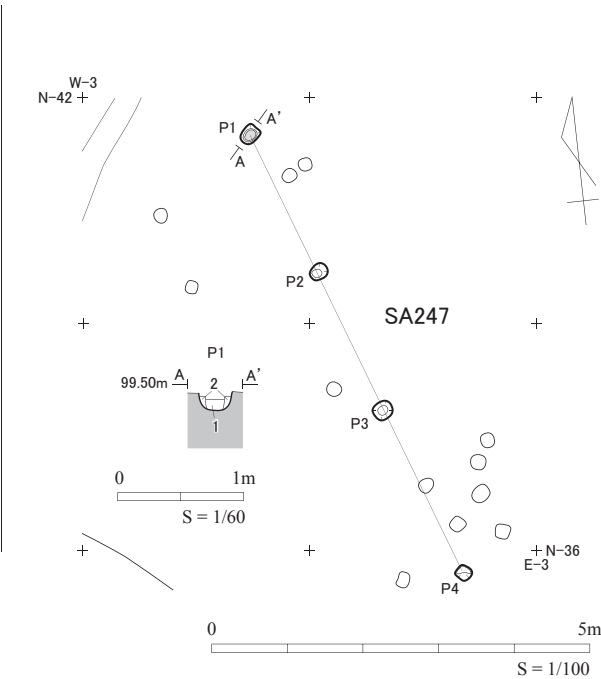
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA109 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒、白色粘土ブロックを含む (柱掘)

SA109 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)



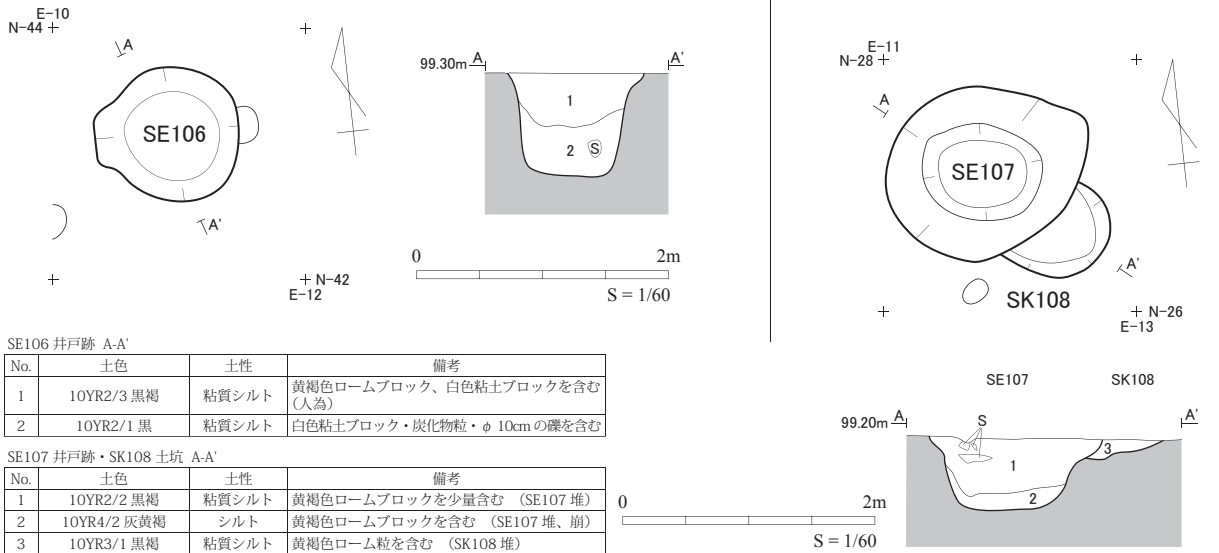
SA247 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第 52 図 SA109・246・247 柱列跡

21~29cm、短軸 18~24cm の楕円形・隅丸方形を呈し、深さ 15~33cm である。1 か所で柱材の抜き取り痕跡、3 か所で平面形が直径 12~17cm の円形または一辺 8~10cm の方形を呈する柱痕跡を確認した。
 [柱間寸法] 北側柱列：西から 172-203cm
 西側柱列：北から 192- (174) cm
 [出土遺物] なし

【SB245 掘立柱建物跡】(第 51 図、写真図版 15)
 [位置] 1 区北/平坦面
 [重複] なし
 [規模・形状] 桁行 2 間 (3.96m)、梁行 1 間 (3.34m) / 南北棟側柱建物
 [方向] 西側柱列：N-44° E
 [柱穴] 6 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 20~25cm、短軸 16~24cm の円形・楕円形を呈し、深

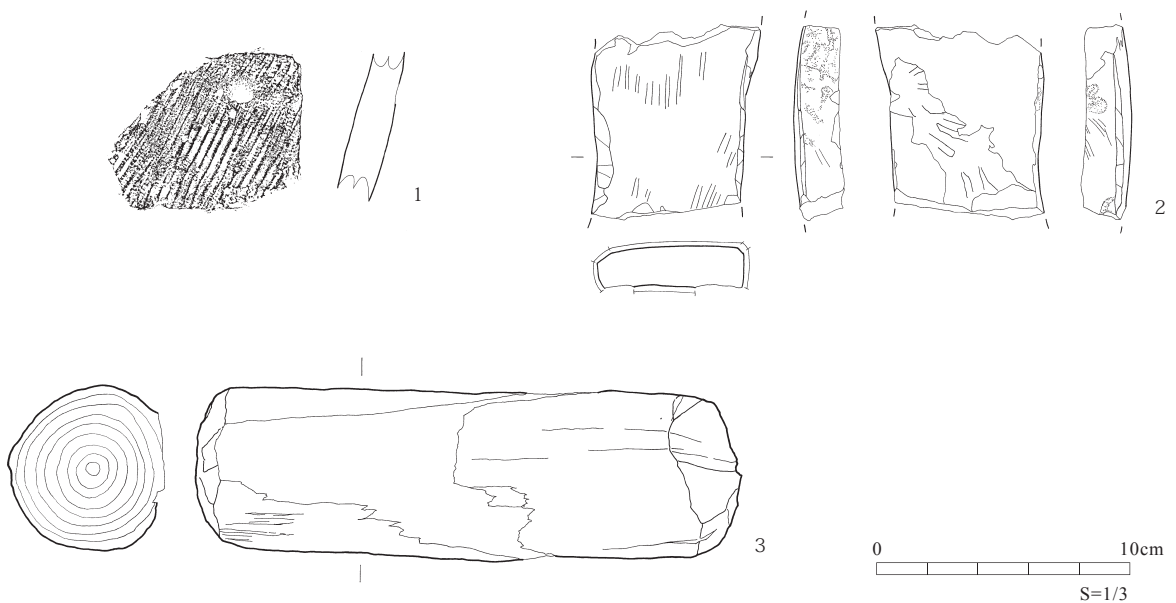


SE106 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック、白色粘土ブロックを含む(人為)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒・φ 10cm の礫を含む

SE107 井戸跡・SK108 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (SE107 堆)
2	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (SE107 堆、崩)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (SK108 堆)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SE106	堆積土	須恵器	甕	外面：平行タタキ 内面：ナデ→ハケメ	-	-	(5.9)	一部	099	42-5

No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
2	SE112	堆積土	転用砥	須恵器(裏?)	砥面数：6 上下端部：折損 (外面：平行タタキ 内面：同心円文アテ具痕)	77.5	67.5	16.5	103.5	一部	220	42-7

No.	遺構名	層位	種類	器種	製作技法・特徴	登録	写真
3	SE111	堆積土	木製品	木錘	長さ：21.7cm 直径：6.1-6.5cm 円柱状 芯持ち材 両端部手斧?調整	405	42-6

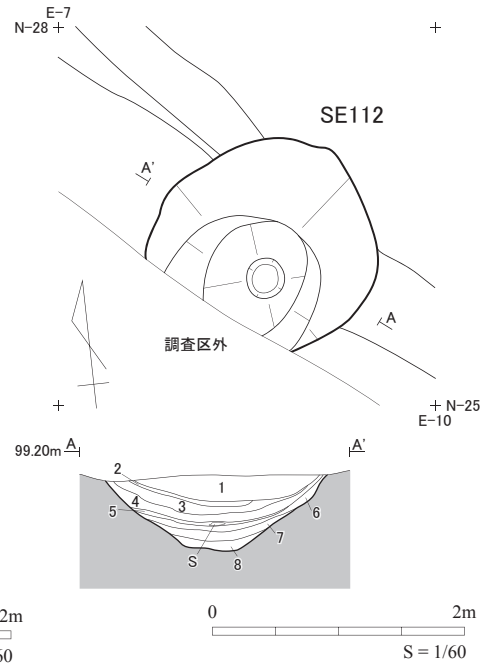
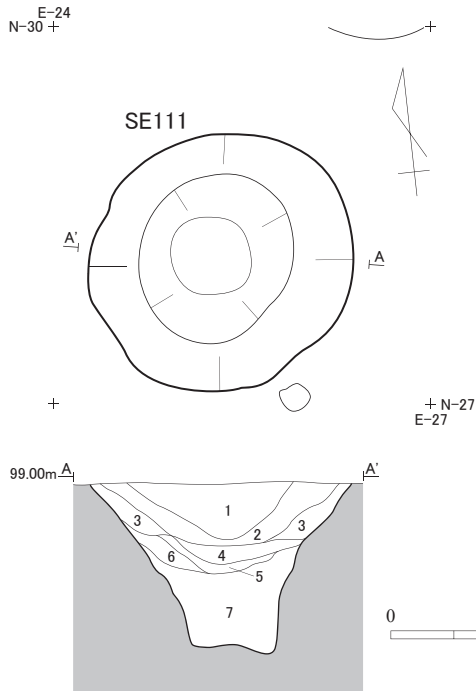
第 53 図 SE106・107 井戸跡、SK108 土坑、SE106・111・112 井戸跡出土遺物

さ 14~40cm である。1 か所で平面形が直径 12cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。
 [柱間寸法] 東側柱列：北から (192) - (204) cm
 北側柱列：(3.34) cm
 [出土遺物] なし

(3) 柱列跡

[SA109 柱列跡] (第 52 図、写真図版 17)
 [位置] 1 区北/平坦面

[重複] なし
 [規模・形状] 東西 2 間 (4.06m)
 [方向] W-29° -N
 [柱穴] 3 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 20~25cm、短軸 20~25cm の略円形・楕円形を呈し、深さ 20~30cm である。2 か所で柱材の抜き取り痕跡、1 か所で平面形が直径 10cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。
 [柱間寸法] 西から (216) - (190) cm
 [出土遺物] なし

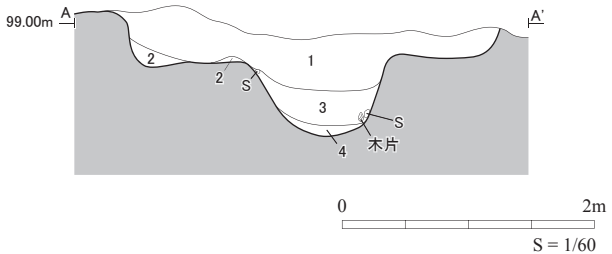
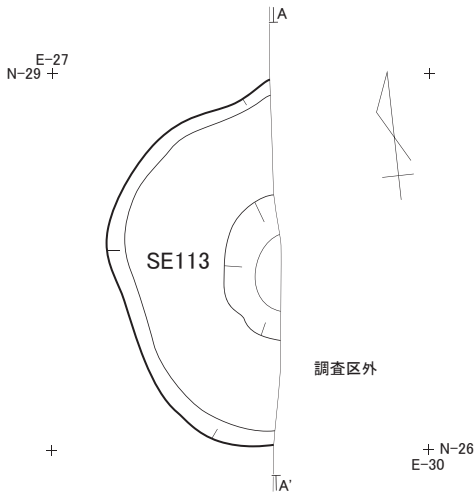


SE111 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	7.5YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、砂粒を多量に含む
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (人為)
5	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
6	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (人為)
7	5Y2/1 黒	粘質シルト	砂粒を含み、礫を多量に含む (人為)

SE112 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	炭化物粒・植物遺体を含む
2	7.5YR3/1 黒褐	粘質シルト	均質土
3	10YR2/2 黒褐	砂質シルト	砂粒を含む
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土
5	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	礫を含む
6	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土
7	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	均質土
8	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	均質土



SE113 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	炭化物粒・焼土粒を少量含む (人為)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩?)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	砂粒・礫を含み、木片を含む (人為)
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土 (井機能時堆)

第 54 図 SE111~113 井戸跡

【SA246 柱列跡】(第52図)

〔位置〕1区北/平坦面
 〔重複〕なし
 〔規模・形状〕南北3間(8.94m)
 〔方向〕N-22°-W
 〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸24~26cm、短軸20~23cmの略円形・楕円形を呈し、深さ16~29cmである。2か所で平面形が直径13~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。
 〔柱間寸法〕北から(290)-300-(304)cm
 〔出土遺物〕なし

【SA247 柱列跡】(第52図)

〔位置〕1区北/平坦面
 〔重複〕なし
 〔規模・形状〕南北3間(6.40m)
 〔方向〕N-20°-W
 〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸20~26cm、短軸18~22cmの楕円形・隅丸方形を呈し、深さ15~36cmである。1か所で平面形が直径17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。
 〔柱間寸法〕北から(202)-(202)-(236)cm
 〔出土遺物〕なし

(4) 井戸跡

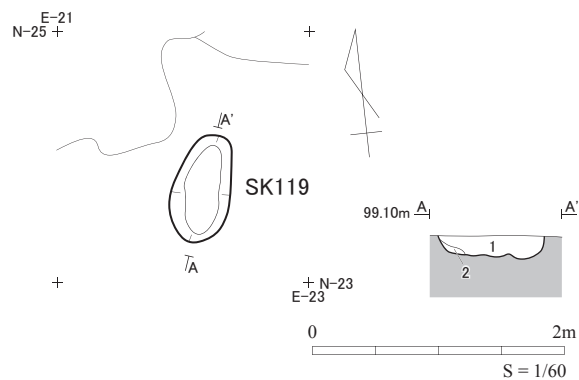
【SE106 井戸跡】(第53図、写真図版17・42)

〔位置〕1区北/平坦面
 〔重複〕SB244 → SE106
 〔規模・形状〕平面形が長軸112cm、短軸104cmの不整形円形を呈し、深さ80cmである。断面形は下部がU字形を呈し、上部が朝顔形に開く。井戸側は確認されなかった。
 〔堆積土〕2層に細分される。1層は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロック、炭化物粒、礫を含む黒色粘質シルトで、1層は人為的埋土、2層は自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土2層上面から木製曲物側板(写真図版42-4)、堆積土から須恵器甕(第53図1)が出土した。

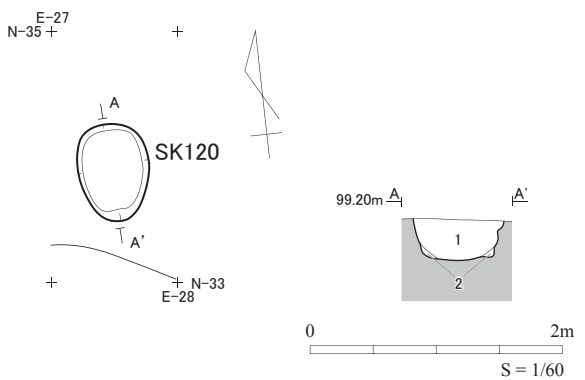
【SE107 井戸跡】(第53図、写真図版17)

〔位置〕1区北/平坦面
 〔重複〕SK108 → SE107
 〔規模・形状〕平面形が長軸168cm、短軸136cmの不整形円形を呈し、深さ45cmである。断面形は下部がU字形を呈し、上部が朝顔形に開く。井戸側は確認されなかった。



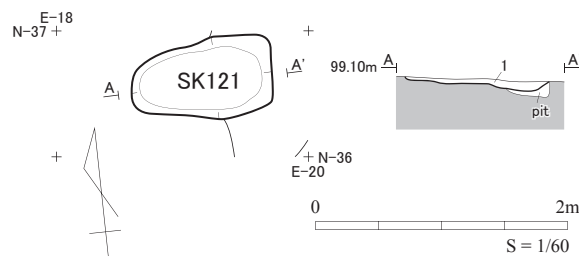
SK119 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒、白色粘土粒を含む
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



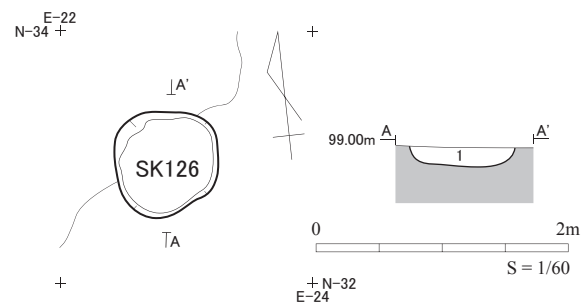
SK120 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	焼土粒をごく少量含む
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)



SK121 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック、白色粘土ブロック、炭化物粒を含む (人為)



SK126 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

第55図 SK119~121・126 土坑

〔堆積土〕2層に細分される。1層は礫と地山ブロックを少量含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトで、1層は自然堆積土、2層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SE111 井戸跡】(第53・54図、写真図版17・42)

〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸218cm、短軸198cmの略円形を呈し、深さ140cmである。断面形は下部が逆台形を呈し、上部が朝顔形に開く。井戸側は確認されなかった。

〔堆積土〕7層に細分される。1層は地山粒を少量含む暗褐色シルト、2層は地山ブロックと砂粒を多量に含む暗褐色シルト、3層は地山粒を少量含む黒褐色シルト、4層は地山ブロックを少量含む黒褐色粘質シルト、5層は地山ブロックを含む黒褐色シルト、6層は地山粒を少量含む黒色粘質シルト、7層は砂粒と礫を多量に含む黒色粘質シルトで、1~3層は自然堆積土、4~7層は人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から木錘(第53図3)が出土した。

【SE112 井戸跡】(第53・54図、写真図版17・42)

〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕SD128・SD129 → SE112

〔規模・形状〕平面形が長軸176cm、短軸154cm以上の略円形を呈し、深さ65cmである。断面形は逆台形を呈する。井戸側は確認されなかった。

〔堆積土〕8層に細分される。均質な黒色・黒褐色粘質シルトで、1層は炭化物粒と植物遺体、3層は砂粒、5層は礫を含む。いずれも自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から転用砥(第53図2)が出土した。

【SE113 井戸跡】(第54図、写真図版17)

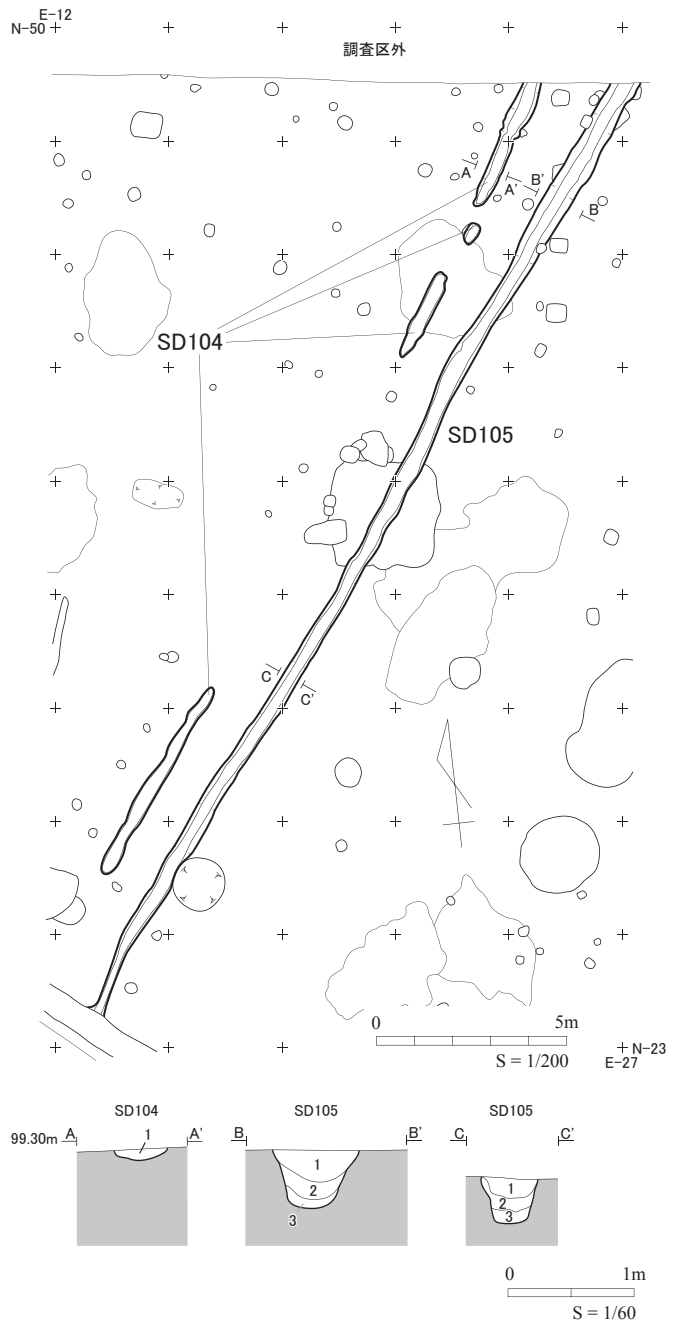
〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸288cm以上、短軸130cm以上の略円形を呈し、深さ79cmである。断面形は中位に段を持ち、下部がU字形、上部が逆台形を呈する。井戸側は確認されなかった。

〔堆積土〕4層に細分される。1層は炭化物・焼土粒を少量含む黒褐色シルト、2層は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト、3層は砂粒と礫、木片を含む黒褐色シルト、4層は均質な黒色粘質シルトで、1・3層は人為的埋土、2層は崩落土、3層は井戸機能時の堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕土器器が出土した。



SD104 溝跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム、白色粘土ブロックを含む (人為)
SD105 溝跡 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを多量に含む (人為)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを少量含む (人為)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを含む (人為)
SD105 溝跡 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒をごく少量含む (人為)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を少量含む、焼土粒を多量に含む (人為)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)

第56図 SD104・105 溝跡

(5) 土坑

【SK120 土坑】(第55図)

〔位置〕1区北/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸78cm、短軸56cmの楕円形を呈し、断面形は深さ40cmの逆台形を呈する。

〔堆積土〕2層に細分される。1層は焼土粒をごく少量含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを多量に含む暗褐色粘質シルトで、1層は自然堆積土、2層は崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器・須恵器が出土した。

(6) 溝跡

【SD104 溝跡】(第56図、写真図版18)

〔位置〕1区北/平坦面

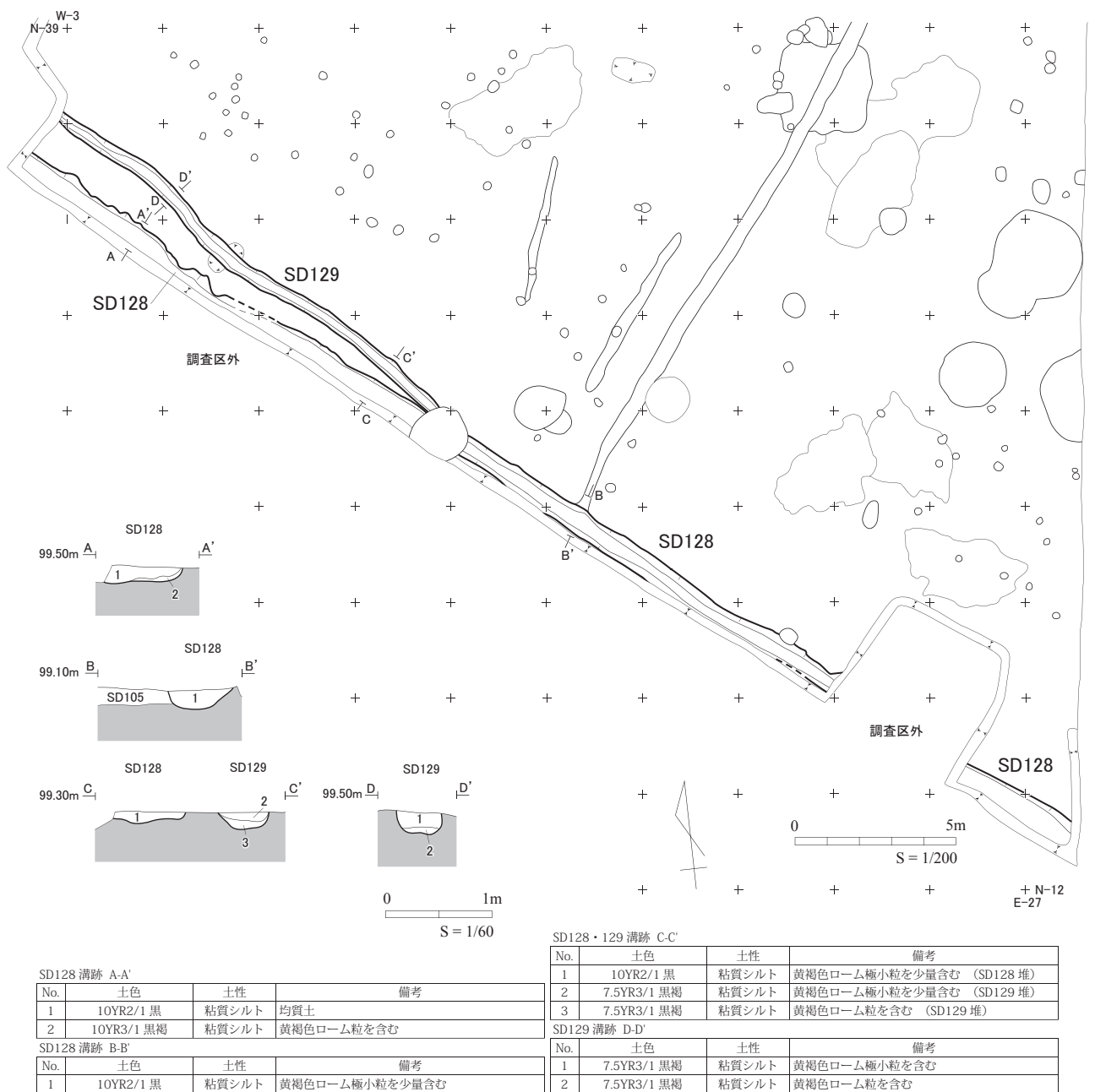
〔重複〕なし

〔規模・形状〕北東-南西方向に直線的に延びる。

SD105 溝跡と芯々で160~200cmの間隔を保持して平行する。延長23.90mを確認し、さらに調査区外の北東へ延びている。上幅30~40cm、底幅20~35cmで、横断面形は深さ8~15cmの皿形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトである。

〔出土遺物〕土師器が出土した。



第57図 SD128・129 溝跡

【SD105 溝跡】(第56図、写真図版18)

〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕SB103・SB145・SX117 → SD105 → SD128

〔規模・形状〕北東－南西方向に直線的に延びる。SD104 溝跡と芯々で160~200cmの間隔を保って平行する。延長28.20mを確認し、さらに調査区外の北東へ延びている。南東端はSD128 溝跡に壊されている。上幅30~50cm、底幅20~32cmで、横断面形は深さ30~50cmの逆台形を呈する。

〔堆積土〕3層に細分される。地山ブロックを含む黒色・

黒褐色粘質シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

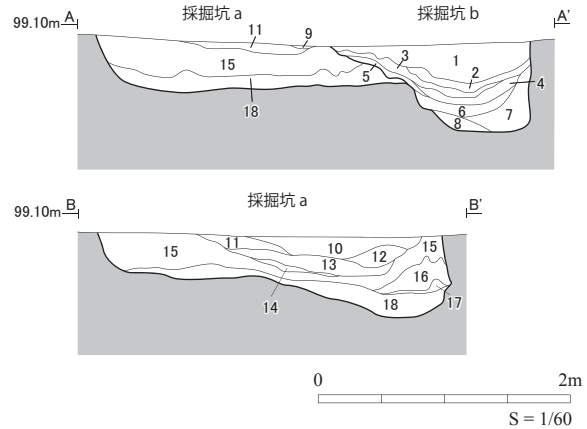
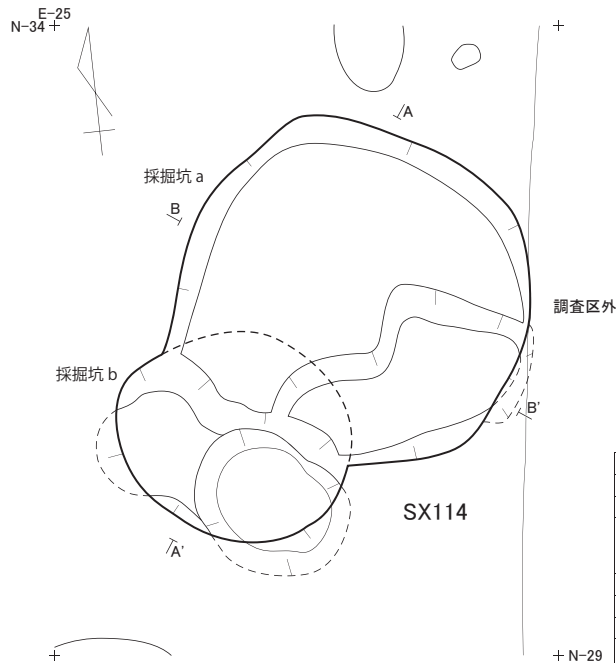
〔出土遺物〕土師器環、須恵器甕、弥生土器が出土した。

【SD128 溝跡】(第57図、写真図版18)

〔位置〕1区北／平坦面

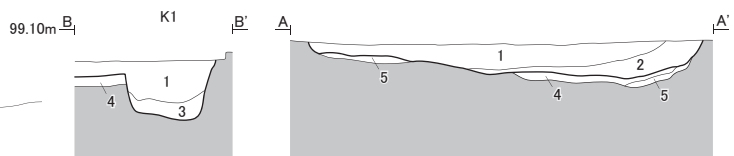
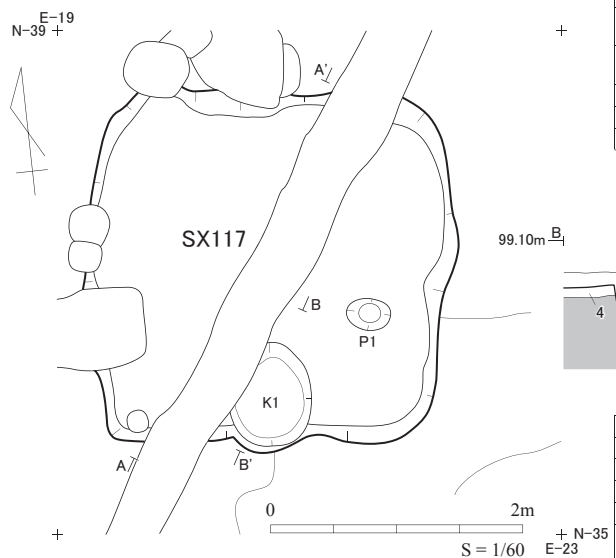
〔重複〕SD105・SD129 → SD128 → SE112

〔規模・形状〕北西－南東方向に直線的に延びる。延長39.50mを確認し、さらに調査区外の北西・南東方向へ延びている。SD104・105 溝跡と直行し、SD105 溝跡を壊している。上幅24~30cm、底幅8~18cmで、横断面形は深さ17cmの逆台形を呈する。



SX114 粘土採掘坑 A-A', B-B'

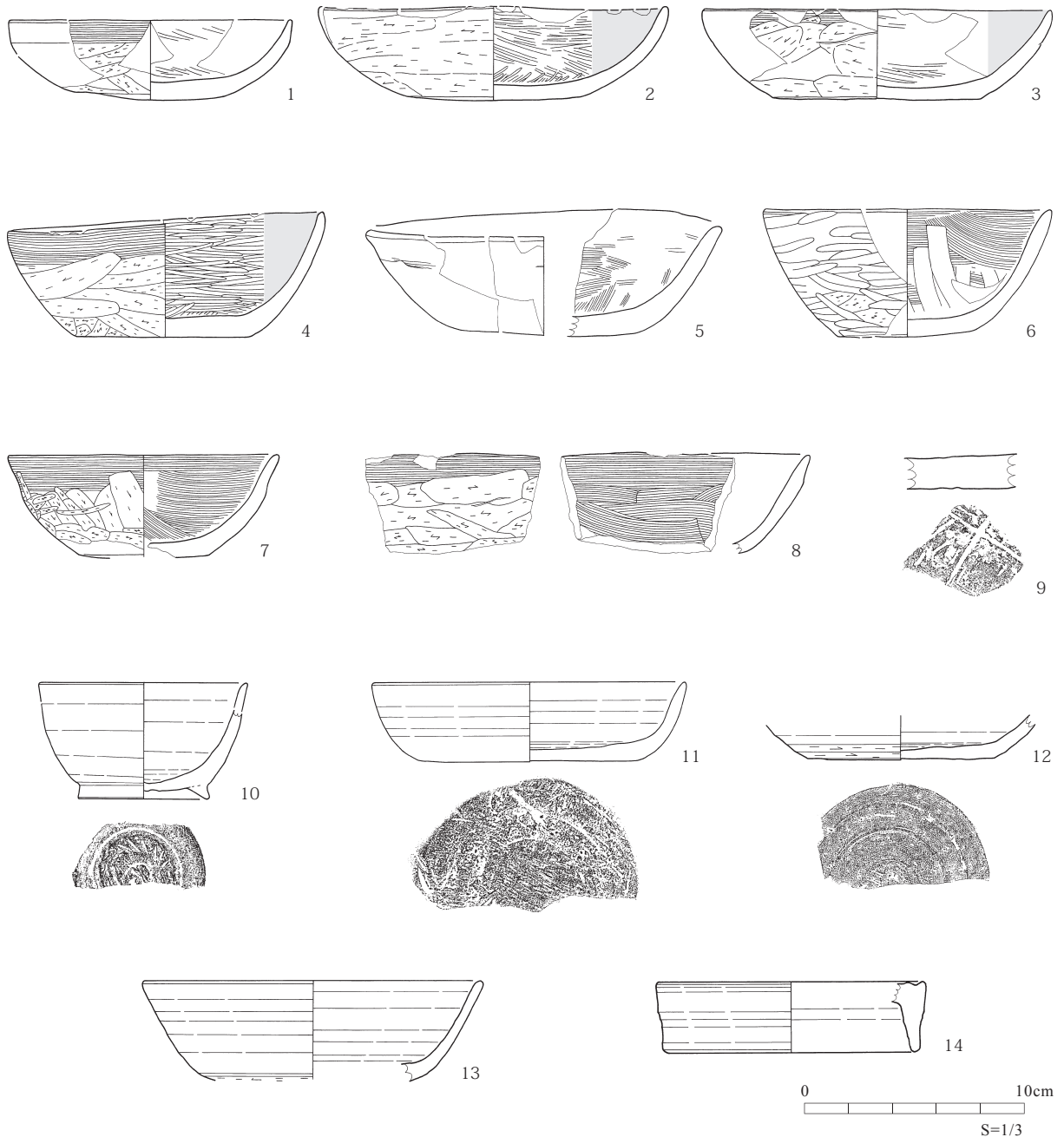
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を少量含む (b堆)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	焼土粒をごく少量含む (b堆)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	焼土ブロック (2.5YR4/8 赤褐) を多量に含み、炭化物粒を含む 層下部に灰層 (5YR3/1 暗青灰) (人為、b堆)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (b堆)
5	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックをレンズ状に含む (b堆)
6	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為、b堆)
7	10YR5/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロック・砂粒を多量に含む (人為、b堆)
8	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為、b堆)
9	2.5YR4/8 赤褐	シルト	焼土ブロックを多量に含む (人為、a堆)
10	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・凝灰岩粒を少量含み、炭化物粒を多量に含む (人為、a堆)
11	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為、a堆)
12	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為、a堆)
13	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒、焼土粒を少量含む (人為、a堆)
14	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロック・砂粒を多量に含む (人為、a堆)
15	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、炭化物粒・焼土粒を少量含む (a堆)
16	7.5Y4/2 灰褐	シルト	焼土粒を多量に含み、炭化物粒を含む (人為、a堆)
17	10YR5/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (人為)
18	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (人為)



SX117 竪穴状遺構, K1 A-A', B-B'

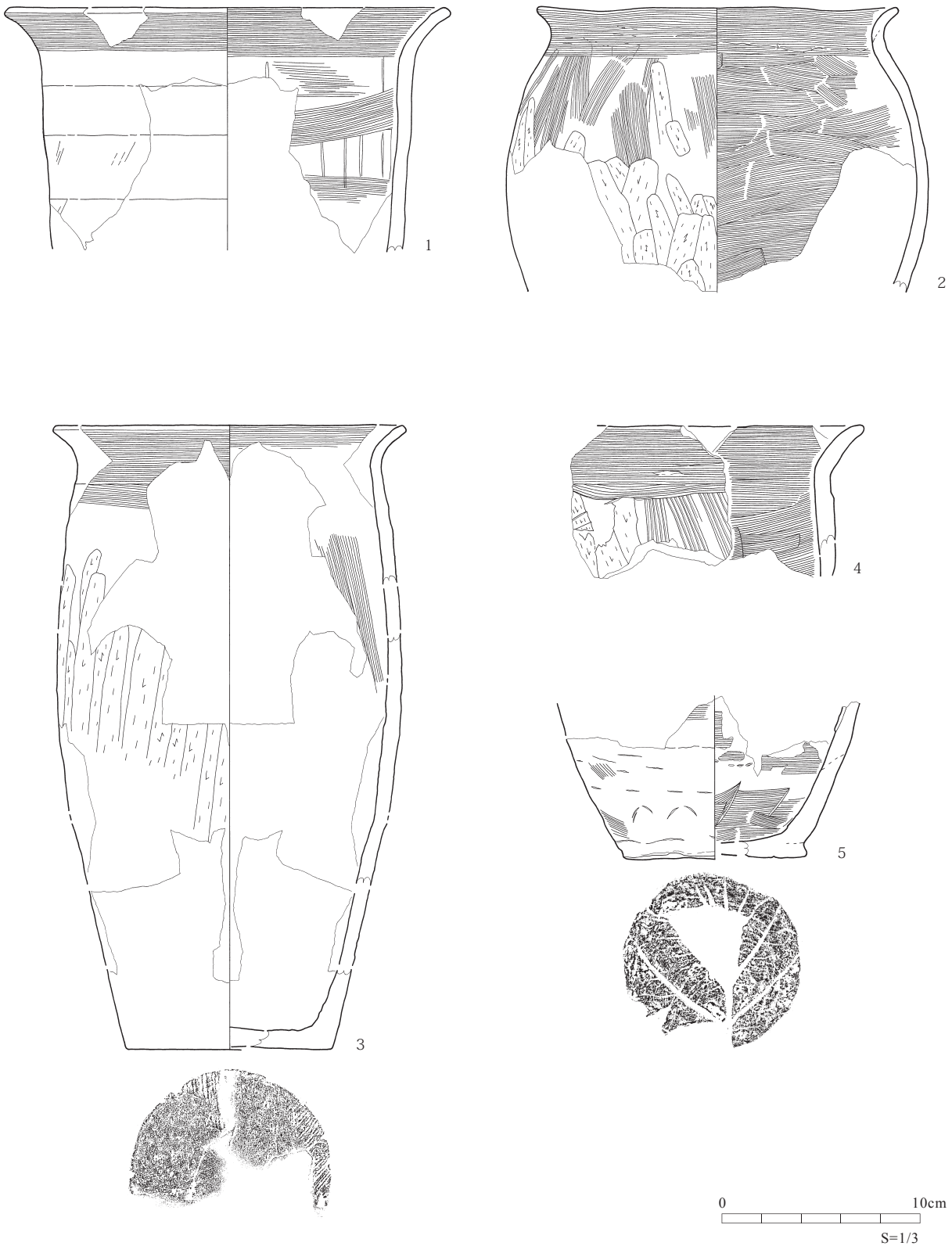
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを少量含む
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを含む
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (K1)
4	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを含む (掘方)
5	10YR4/4 褐色	粘質シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを少量含む (掘方)

第58図 SX114 粘土採掘坑, SX117 竪穴状遺構



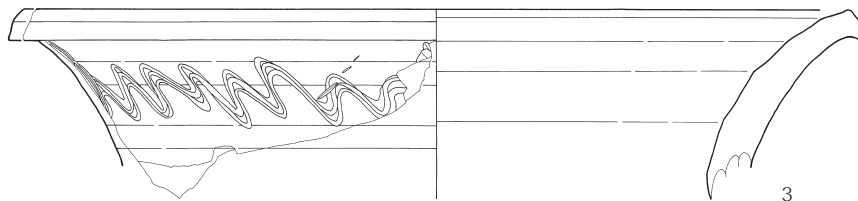
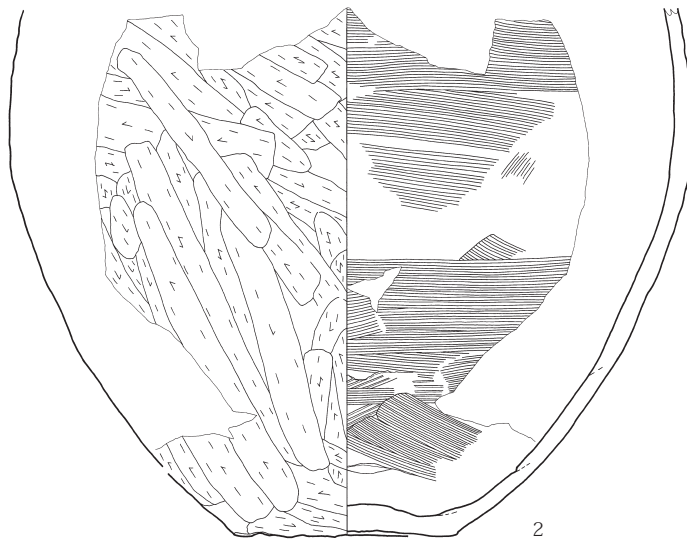
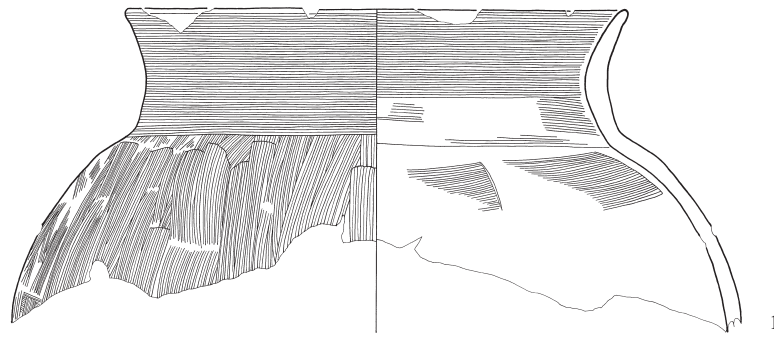
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SX114	堆積土下層	土師器	坏	外面：(体~底) 手持ちヘラケズリ→(口) ヨコナデ 内面：ヘラミガキ	(13.0)	-	(3.6)	1/3	049	43-2
2	SX114	堆積土	土師器	坏	外面：ケズリ (底) ケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ→(底) 平行ヘラミガキ→黒色処理	(16.0)	(7.9)	4.3	1/3	039	43-4
3	SX114	堆積土上層	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ→(体~底) 手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 内面：一部被熱により黒色処理消失	(16.0)	(9.5)	4.2	1/5	050	43-3
4	SX114	堆積土	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ→(体~底) 手持ちヘラケズリ 内面：(口) ヨコナデ→(底) 平行ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→(体下) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 内面：一部被熱により黒色処理消失・橙色 (2.5 Y 6/6) に変色?	14.5	8.0	5.3	6/7	044	43-5
5	SX114	堆積土	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ→(体) ヘラミガキ、(底) ミガキ? 内面：(体) ナデ→(体) ヘラミガキ 内外面：(口) 焼けはじけ	16.3	8.1	4.6 -5.8	3/4	045	43-6
6	SX114	堆積土	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ・(体) ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：(体) ナデ→(口) ヨコナデ→(体下~底) ヘラミガキ 内外面：被熱により劣化	13.2	6.4	5.9	1/2	036	43-7
7	SX114	堆積土上層	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ→(体~底) ヘラケズリ 内面：(体) ナデ→(口) ヨコナデ	(12.4)	(6.0)	(4.7)	一部	034	43-9
8	SX114	堆積土 16層	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ→(体) 手持ちヘラケズリ 内面：(口) ヨコナデ→(体) ヘラナデ	-	-	(4.5)	一部	033	43-8
9	SX114	堆積土	土師器	甕?	外面：(底) ヘラ書き「×」	-	-	-	一部	037	43-10
10	SX114	堆積土上層	須恵器	高台付 坏	外面：ロクロナデ (底) ヘラ切り→高台取付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(9.6)	6.0	(5.3)	1/2	035	44-2
11	SX114	堆積土 5層	須恵器	坏	外面：ロクロナデ (底) ヘラ切り?→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(14.4)	(10.1)	3.7	1/2	031	44-1
12	SX114	堆積土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ (底) 静止糸切り?→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	-	(8.6)	(2.1)	一部	043	44-4
13	SX114	堆積土上層	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(15.5)	-	(4.5)	一部	051	44-3
14	SX114	堆積土上層	須恵器	蓋	内外面：ロクロナデ 天井部径 (12.3) cm 蓋蓋	(11.7)	-	(3.2)	一部	052	44-5

第 59 図 SX114 粘土採掘坑出土遺物 (1)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SX114	堆積土	土師器	甕	外面：(口) ヨコナデ (胴) ハケメ→横方向ナデ (回転?) 内面：(口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ 工具痕	(22.6)	-	(12.3)	一部	047	44-7
2	SX114	堆積土	土師器	甕	外面：(口~胴) ハケメ→ヘラケズリ→(口) ヨコナデ 内面：(胴) ヘラナデ→(口) ヨコナデ	(18.4)	-	(14.5)	一部	046	44-9
3	SX114	堆積土上層	土師器	甕	外面：(口) ヨコナデ (胴) ヘラケズリ (底) ヘラナデ 内面：(口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ	(17.9)	(10.4)	31.7	1/4	038	45-1
4	SX114	堆積土上層	土師器	甕	外面：(胴) ハケメ→ナデ (段形成) → (胴) ヘラケズリ・(口) ヨコナデ 内面：(胴) ヘラナデ→(口) ヨコナデ	-	-	(7.8)	一部	041	45-2
5	SX114	堆積土上層	土師器	甕	外面：(胴) ナデ (底) 木葉痕 内面：ヘラナデ・ナデ 破断面：煤付着	-	9.3	(8.3)	一部	040	45-3

第60図 SX114 粘土採掘坑出土遺物(2)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SX114	堆積土 5 層	土師器	甕	外面：(口～胴) ナデ→ハケメ→(口) ヨコナデ 内面：(胴) ヘラナデ→(口) ヨコナデ	(20.0)	-	(12.9)	一部	032	44-6
2	SX114	堆積土	土師器	甕	外面：(胴) ヘラケズリ (底) 木葉痕→棒状圧痕 内面：ハケメ→ヘラナデ	-	8.9	(21.0)	一部	048	44-8
3	SX114	堆積土	須恵器	甕	外面：ロクロナデ→波状文→ナデ 内面：ロクロナデ	(34.0)	-	(7.5)	一部	042	44-10

第 61 図 SX114 粘土採掘坑出土遺物 (3)

〔堆積土〕2層に細分される。1層は均質な黒色粘質シルト、2層は地山粒を含む黒褐色粘質シルトで、いずれも自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SD129 溝跡】(第57図、写真図版18)

〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕SD129 → SE112・SD128

〔規模・形状〕北西－南東方向にやや蛇行しながら延びる。延長15.30mを確認し、さらに調査区外の北西側へ延びている。SD128溝跡と並行して延び、南東端はSD128溝跡・SE112井戸跡に壊されている。上幅10~20cm、底幅4~12cmで、横断面形は深さ20cmの逆台形及びU字形を呈する。

〔堆積土〕2層に細分される。地山粒を含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

(7) 粘土採掘坑

【SX114 粘土採掘坑】(第58-61、写真図版19・43-45)

〔位置〕1区北／平坦面

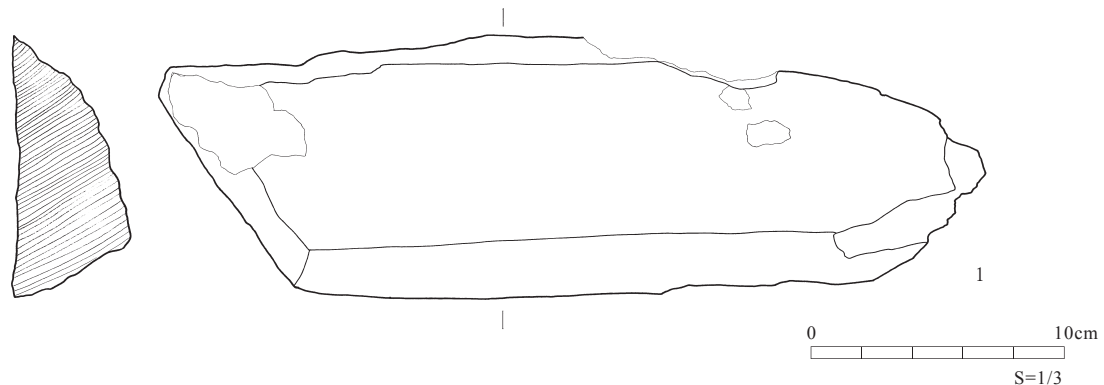
〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形は長軸360cm、短軸282cmの規模で、2基の採掘坑が重複して掘られている。採掘坑aは平面形が長軸282cm、短軸255cmの楕円形を呈する。断面形は深さ40cmの逆台形を呈するが、南東側は深さ63cmの椀形に掘り込まれ、壁面は一部挟れている。採掘坑bは採掘坑aの埋没後に掘られており、平面形が長軸190cm、短軸162cmの楕円形を呈する。断面形は深さ71cmの逆台形に掘り込まれ、壁面は一部挟れている。

〔堆積土〕採掘坑aは10層に細分される(9~18層)。9層は焼土ブロックを多量に含む赤褐色シルト、10層は少量の地山ブロック、凝灰岩粒と多量の炭化物粒を含む黒褐色シルト、11層は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト、12層は地山ブロックを多量に含む灰黄褐色シルト、13層は少量の地山ブロック、炭化物・焼土粒を含む灰黄褐色シルト、14層は地山ブロック、砂粒を多量に含む灰黄褐色シルト、15層は少量の地山ブロック・粒、炭化物・焼土粒を含む黒褐色シルト、17層は少量の地山粒を含む褐灰色粘質シルト、18層は地山ブロック・粒を多量に含む暗褐色シルトである。15層は自然堆積土、これ以外は人為的埋土と考えられる。

採掘坑bは8層に細分される(1~8層)。1層は少量の地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルト、2層はごく少量の焼土粒を含む黒色粘質シルト、3層は多量の焼土ブロックと炭化物粒を含む黒褐色シルトで、層下部に灰層がみられる。4層は地山粒を含む黒褐色シルト、5層は地山ブロックをレンズ状に含む暗褐色シルト、6層は地山ブロックを多量に含む暗褐色シルト、7層は地山ブロック、砂粒を多量に含む褐灰色シルト、8層は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトである。3・6~8層は人為的埋土、1~2・4~5層は自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土5層から土師器甕(第61図1)、須恵器坏(第59図11)、堆積土16層から土師器坏(第59図8)、堆積土上層から土師器坏(第59図3・7)・甕(第60図3・4・5)、須恵器坏(第59図13)・高台付坏(第59図10)・壺蓋(第59図14)、堆積土下層から土師器坏(第59図1)、堆積土から土師



No.	遺構名	層位	種類	器種	製作技法・特徴	登録	写真
1	SX117	K1 堆積土	木製品	不明木材	長さ:(32.8) cm 幅:(10.4) cm 厚さ:4.8cm 柾目材	407	45-7

第62図 SX117 竪穴状遺構出土遺物

器坏（第59図2・4・5・6）・甕（第60図1・2、第61図2）・甕？（第59図9）、須恵器坏（第59図12）・甕（第61図3）が出土した。

このほか、堆積土から土師器坏・鉢・甕、須恵器坏が出土した。土師器坏は内面に黒色処理を施すものと、施さないものがある。前者は外面の体部に段を持ち、口縁部にヨコナデ、体部にヘラケズリ調整を施す。後者には口縁部～体部の内外面にヨコナデ調整を施し、器面調整と胎土・焼成の状態が第59図6に類似するものと、胎土に砂粒を多く含むものがある。土師器鉢は内外面の口縁部にヨコナデ、体部にナデ調整を施す。甕は無底式で内外面にナデ調整を施す。須恵器坏は静止糸切りによる底部の切り離し後に外面の体下部～底部外周に回転ヘラケズリ調整を施すもの、底部の切り離し方法が不明で外面の体下部～底部に手持ちヘラケズリ調整を施すものがある。

また、確認面から土師器坏、須恵器坏蓋が出土した。土師器坏は内面に黒色処理を施し、胎土・焼成の状態が第59図6に類似する。須恵器坏蓋はSI140 竪穴住居跡の第69図6と接合関係を持つ。

〔自然科学的分析〕SX114a（13・18層）、SX114b（4層）出土炭化物3点を試料として放射性炭素年代測定（AMS測定）を行ない、その結果を第5章に記載している。

（8）竪穴状遺構

〔SX117 竪穴状遺構〕（第58・62図、写真図版18・45）

〔位置〕1区北／平坦面

〔重複〕SX117 → SK121・SD105

〔規模・形状〕長辺280cm、短辺270cm／隅丸方形

〔方向〕東辺：N-9°-E

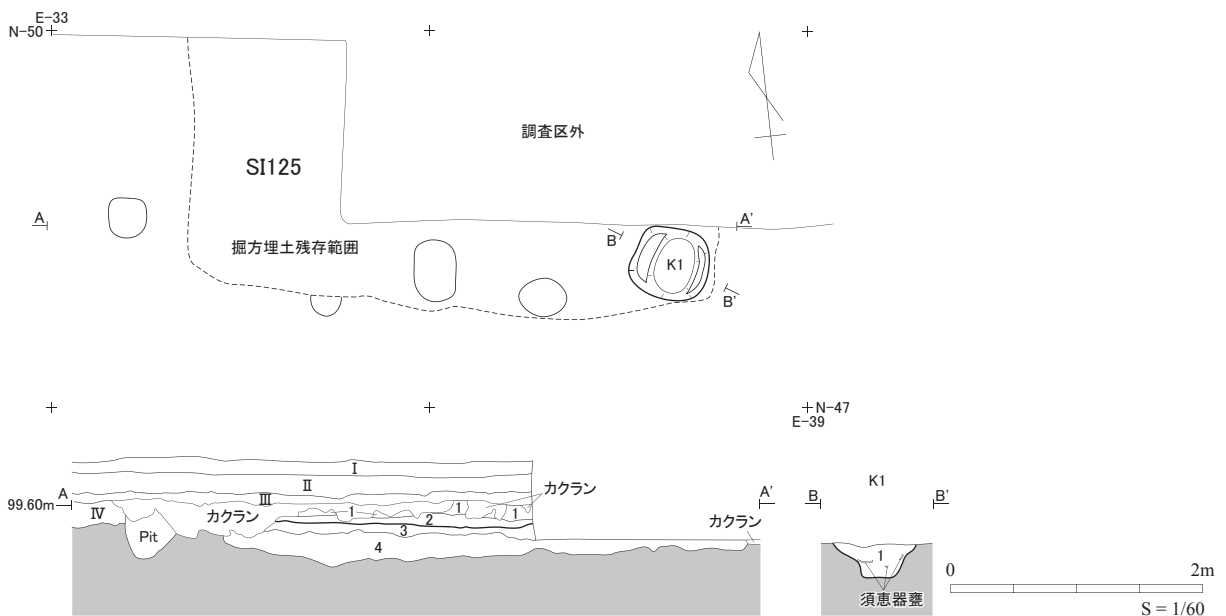
〔壁面〕地山を壁として外傾気味に立ち上がる。残存壁高は最大18cmである。

〔床面・堆積土〕地山および掘方埋土を床とする。やや凹凸が見られ、北東側へ向かってわずかに傾斜している。床面を覆う堆積土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔柱穴〕南東寄りの床面で柱穴1か所（P1）を確認した。平面形が長軸35cm、短軸25cmの楕円形を呈し、深さ31cmである。堆積土は地山ブロックを含む黒色粘質シルトで、柱痕跡は確認されなかった。

〔土坑〕南辺中央の床面で土坑1基（K1）を確認した。平面形が長軸88cm、短軸65cmの楕円形を呈し、断面形は深さ35cmのU字形を呈する。堆積土は地山粒をごく少量含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から不明木材（第62図1）、鉄滓（写真図版45-8）が出土した。このほか、堆積土から土師器坏・鉢が出土した。土師器坏は内面に黒色処理を施し、外面の体部に段を持つものがある。



SI125 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	炭化物粒をごく少量含む（住堆）
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒・焼土ブロックを含む（住堆）
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む（住掘）
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住掘）

SI125 竪穴住居跡 K1 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含み、炭化物粒を多量に含む（人為）

第63図 SI125 竪穴住居跡

3.2区

遺跡範囲の南東部に位置し、東西約158m、南北約6~16mの調査区である。調査区内のうち西側95mは東へ向かって僅かに傾斜する平坦面で、これより東側では東向き緩斜面となり、調査区東端で湿地性堆積土の発達する沢地形となる。遺構確認面は現地表面から深さ15~40cmのIV~V層上面である。遺構は竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡6棟、柱列跡1条、井戸跡1基、近世墓10基、落とし穴状土坑7基、土坑45基、溝跡4条、性格不明遺構1基を確認した(第65図、写真図版20)。

(1) 竪穴住居跡

【SI125 竪穴住居跡】(第63・64図、写真図版21・45)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕なし

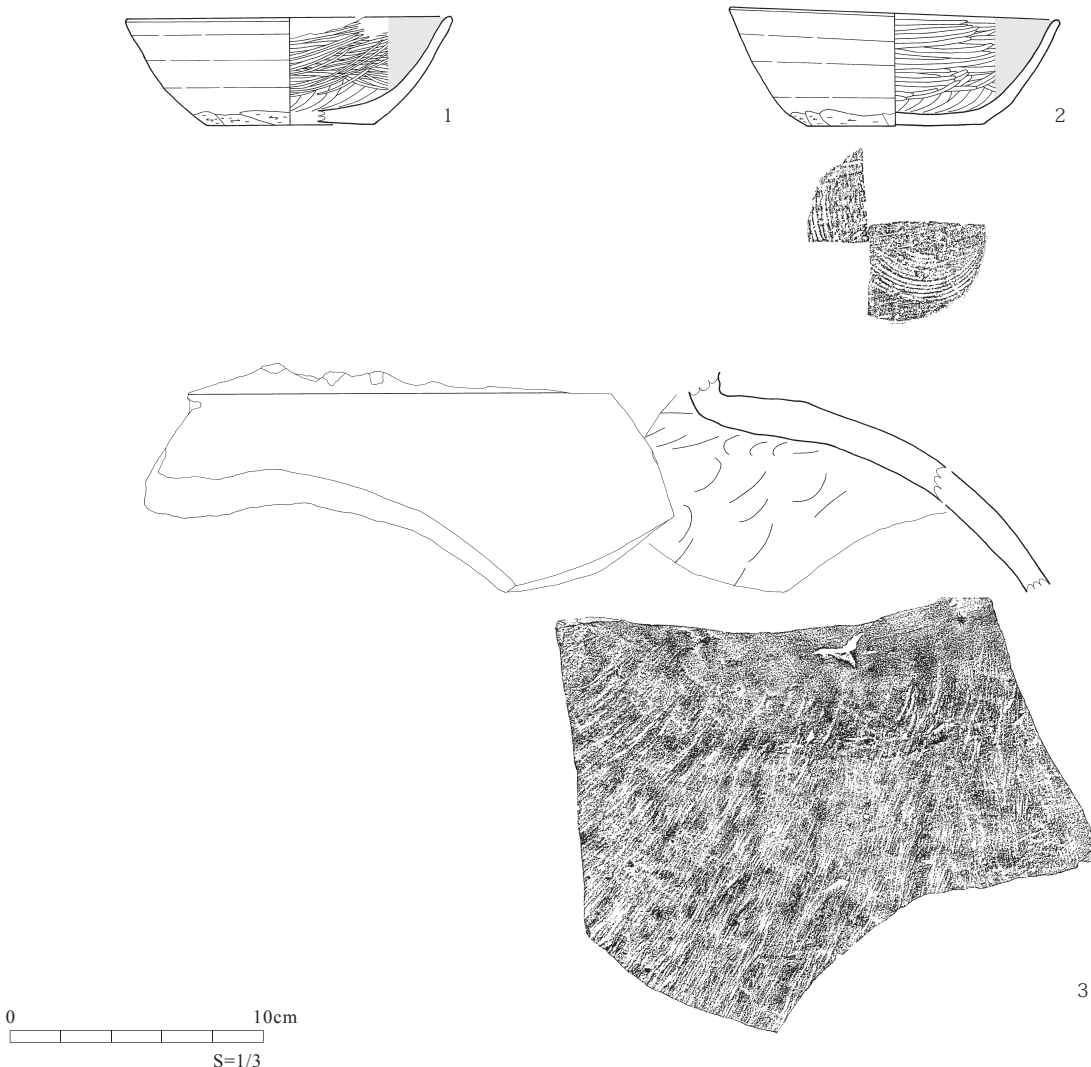
〔規模・形状〕長辺4.20m以上、短辺2.00m以上/方形

〔方向〕住居西辺：N-7°-E

〔壁面〕残存しない

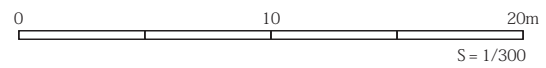
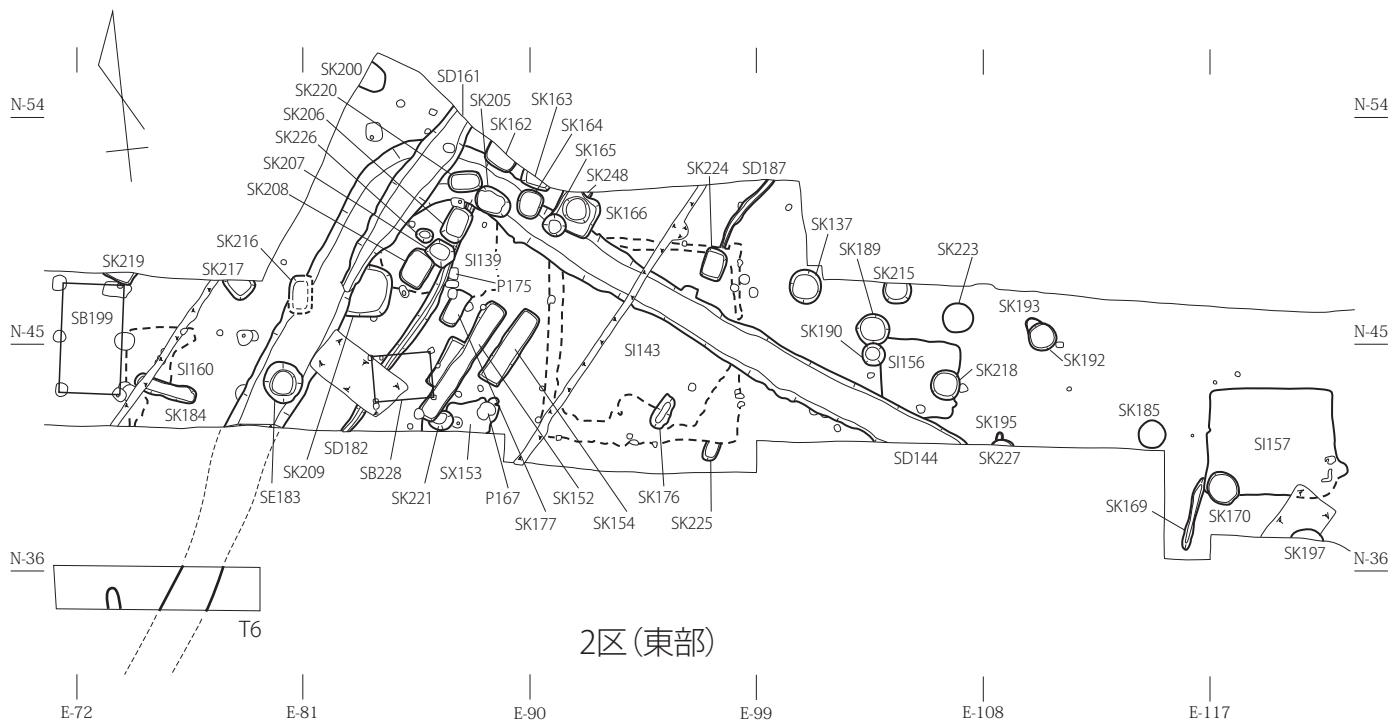
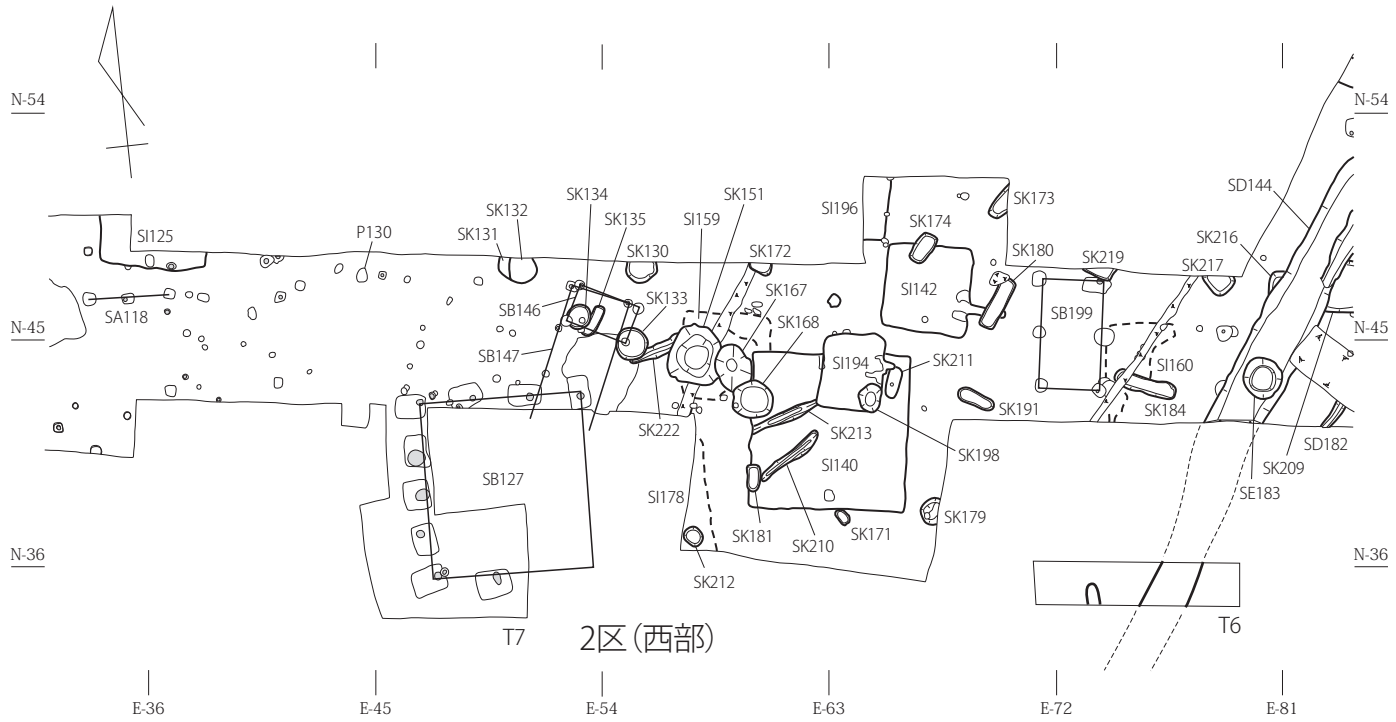
〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山・炭化物粒、焼土ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴・周溝・壁材〕不明



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI125	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.0	6.6	4.3	1/4	025	45-5
2	SI125	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.1	7.0	4.5	3/4	024	45-4
3	SI125	K1 堆積土	須恵器	甕	外面：ロクロナデ→自然釉 内面：アテ具痕 内面：(頸) ユビオサエ	-	-	(8.7)	一部	026	45-6

第64図 SI125 竪穴住居跡出土遺物



第 65 図 2 区遺構配置図

〔カマド〕不明

〔貯蔵穴〕住居南東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形が長軸60cm、短軸58cmの隅丸方形を呈し、断面形は深さ30cmの逆台形を呈する。位置・形状から貯蔵穴の可能性が考えられる。堆積土は地山ブロック・粒と多量の炭化物粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕K1土坑堆積土からロクロ土師器坏(第64図1・2)、須恵器甕(第64図3)、土師器、凝灰岩切石片が出土した。

【SI139 竪穴住居跡】(第66図、写真図版21・47)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SI139→SK177・SK206・SK207・SK208・SK209・SK226・SD144・SD161・SD182

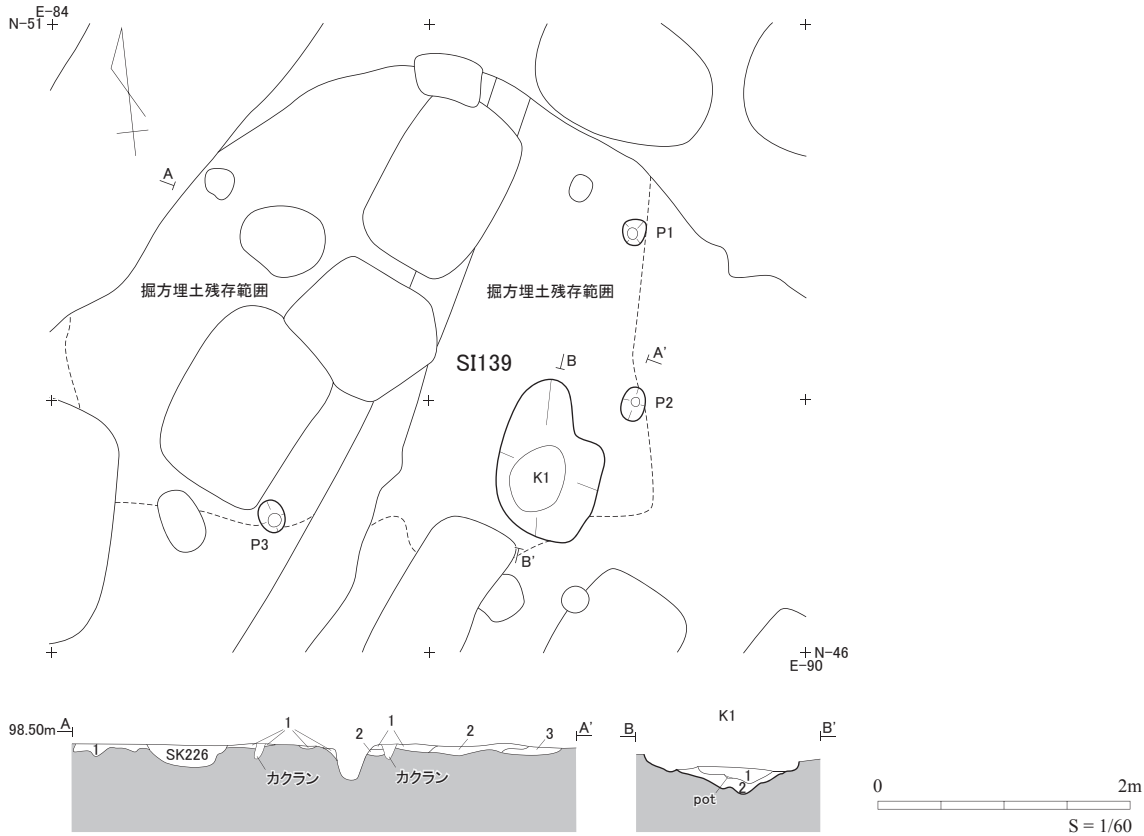
〔規模・形状〕長辺4.60m以上、短辺3.60m以上/方形

〔方向〕住居東辺:N-6°-E

〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔主柱穴・周溝・壁材〕不明

〔壁柱穴〕住居東辺で2か所(P1・2)、南辺で1か所(P3)の柱穴を確認した。掘方の平面形は長軸20-27cm、

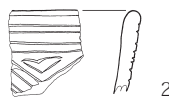
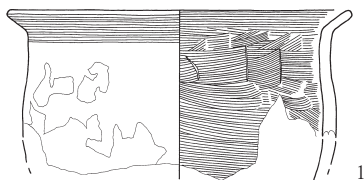


SI139 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (住掘)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土小ブロック・炭化物粒を含む (住掘)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を含む (住掘)

SI139 竪穴住居跡 K1 B-B'

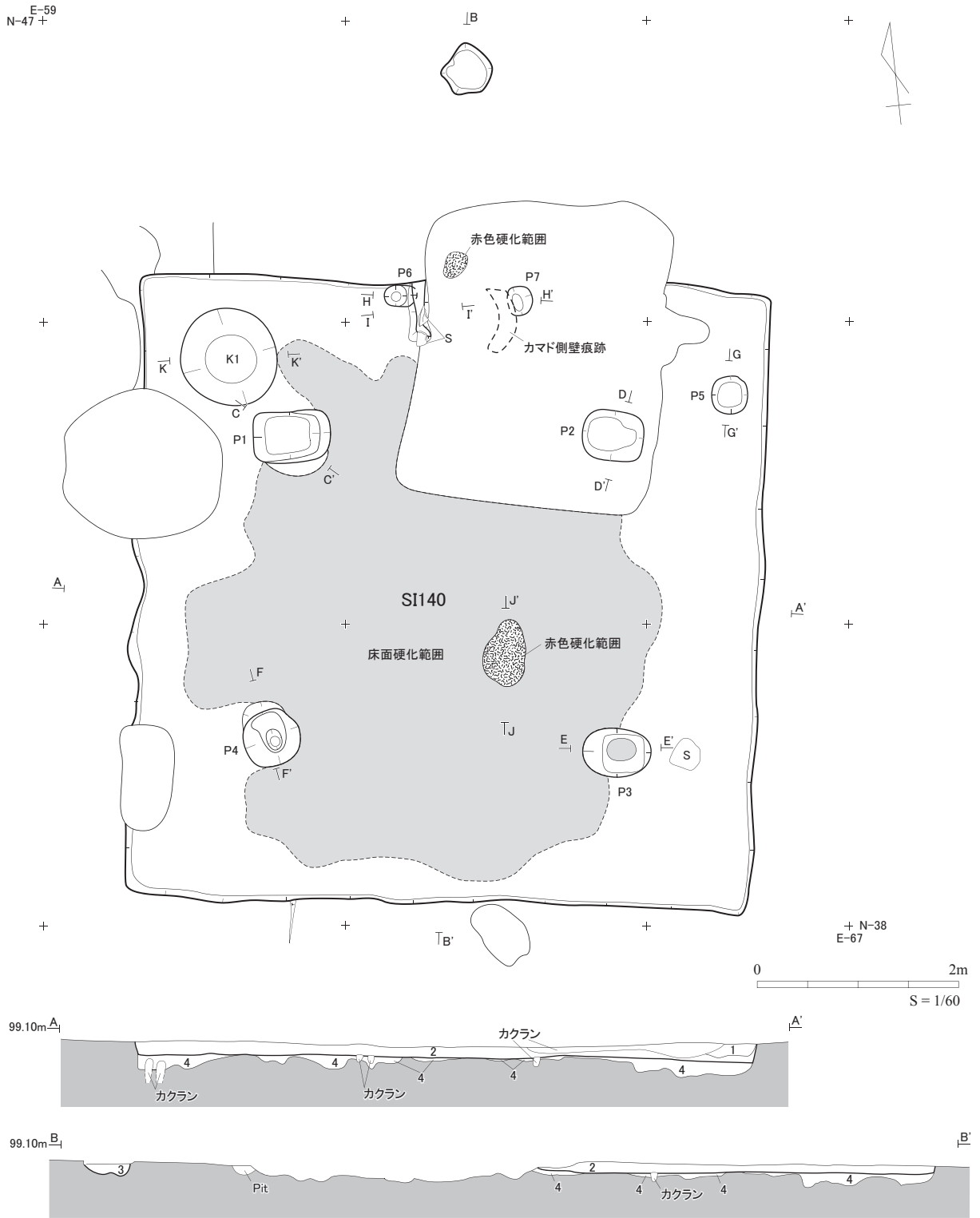
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、黄褐色ローム粒を少量含む (人為)



0 10cm S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI139	K1 堆積土	土師器	小型甕	外面：指ナデ→(□)ヨコナデ 内面：(□)ヨコナデ→(胴)ヘラナデ	(13.6)	-	(6.7)	一部	100	47-1
2	SI139	K1 堆積土	弥生土器	鉢	外面：平行沈線文・V字状沈線文 内面：ミガキ			(3.3)	口縁部	509	47-2

第66図 SI139 竪穴住居跡・出土遺物



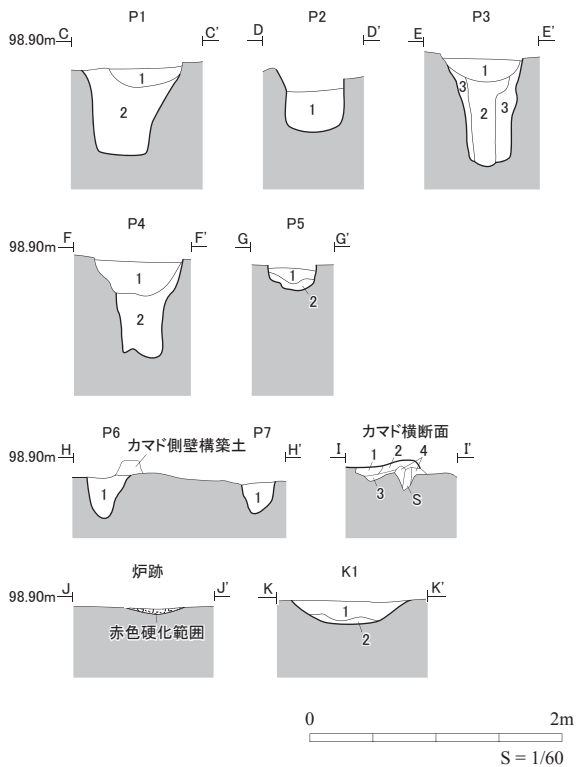
SI140 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (住堆)	3	10YR5/6 黄褐	粘土	白色粘土ブロック・粒を含む (煙出し Pit 崩?)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (住堆)	4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (住掘)

第 67 図 SI140 竪穴住居跡 (1)

短軸 18-21cm の楕円形を呈し、深さ 20cm である。
 [カマド] 不明
 [貯蔵穴] 住居南東側の掘方底面で土坑 1 基 (K1) を確認した。平面形は長軸 130cm、短軸 82cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 35cm の播鉢形を呈する。堆積土は 2 層に細分される。1 層は地山粒をごく少量含む黒褐色シルト、2 層は地山ブロックを多量に含む暗褐色シルトで、1 層は自然堆積土、2 層は人為的埋土と考えられる。
 [出土遺物] K1 土坑堆積土から土師器小型甕 (第 66 図 1)、弥生土器鉢 (第 66 図 2) が出土した。このほか、土師器坏、ロクロ土師器坏・高台付坏・甕が出土した。
【SI140 竪穴住居跡】 (第 67-70 図、写真図版 21・22・46)
 [位置] 2 区 / 平坦面
 [重複] SI159・SK210・SK211・SK213 → SI140 → SI194・SK168・SK181・SK198
 [規模・形状] 一辺 6.30m / 方形
 [方向] カマド中軸線 : N-7° - E
 [壁面] 地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 20cm である。
 [床面・堆積土] 住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。中央部の東西 4.75m、南北 5.10m の範囲で床面の硬化が認められる。床面を覆う堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積

土と考えられる。
 [主柱穴] 住居平面形の対角線上で 4 か所 (P1~4) 確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 (辺) 60-78cm、短軸 (辺) 48-58cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 15-43cm で、1 か所で平面形が直径 14cm の円形を呈する柱痕跡、3 か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。
 [周溝・壁材] なし
 [カマド] 住居北辺中央に付設する。燃烧部の一部と煙出しピットが残存する。燃烧部は幅 112cm、奥行 65cm 以上である。左側壁の一部と右側壁の痕跡が残存し、焚口幅は 55cm 程度と推定される。燃烧部底面は残存しないが、住居北壁よりやや張り出す位置に幅 20cm、奥行 30cm の範囲で赤色硬化範囲が認められ、燃烧部底面の痕跡の可能性はある。側壁は地山・焼土・炭化物粒を含む黄褐色粘土で構築され、左側壁で長さ 64cm、幅 21cm、高さ 4cm が残存する。左側壁の構築土中から砂岩礫片、先端部から被熱により赤色化した凝灰岩製の柱状切石が出土した。前者はカマド側壁構築時の骨材、後者は焚口部の構築材と考えられる。奥壁は残存しないが、赤色硬化範囲の位置から住居北壁より 35cm 以上張り出していた可能性がある。また、カマド側壁基部の両脇で柱穴各 1 か所を確認した。カマド側壁の構築に先行して住居掘方底面から掘り込まれている。柱穴掘方の平面形は長軸 28-32cm、短軸



SI140 竪穴住居跡カマド横断面 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・焼土粒を含む (住掘)
2	10YR5/6 黄褐	粘土	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む (竈構)
3	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (竈側壁構築材据)
4	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (竈側壁構築材据)
SI140 竪穴住居跡 P1 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)
SI140 竪穴住居跡 P2 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)
SI140 竪穴住居跡 P3 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・黒色シルトブロックを含む (柱痕)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む (柱掘)
SI140 竪穴住居跡 P4 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)
SI140 竪穴住居跡 P5 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む
SI140 竪穴住居跡 P6・P7 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む
SI140 竪穴住居跡 K1 K-K'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)

第 68 図 SI140 竪穴住居跡 (2)

24~32cmの楕円形を呈し、深さ25~32cmである。
 [炉跡] 住居中央やや南東よりの位置で赤色硬化範囲を確認した。平面形は長軸66cm、短軸40cmの不整楕円形を呈する。
 [貯蔵穴] カマド左側の住居北西隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形は長軸102cm、短軸97cmの略円形を呈し、断面形は深さ19cmの逆台形を呈する。堆積土は2層に細分される。いずれも地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。
 [その他の施設] 住居北東側の床面で柱穴1か所(P5)を確認した。掘方の平面形は長軸38cm、短軸36cmの略円形を呈し、深さ21cmである。
 [出土遺物] 住居床面直上から土師器環(第69図2)、P4柱穴抜き取り痕跡から凝灰岩製の砥石(第70図1)、

K1土坑堆積土から弥生土器(第69図6)、住居内堆積土から土師器環(第69図1・3)・甕(第69図5)、須恵器環蓋(第69図4)、弥生土器(第69図7)、排土から流紋岩製のスクレイパー(第70図2)が出土した。須恵器環蓋はSX114粘土採掘坑出土のものと同接合関係がある。このほか、須恵器環・甕、黒耀石・珪質頁岩・頁岩・石英製の剥片、焼けたスサ入り粘土塊が出土した。

【SI142 竪穴住居跡】(第71図、写真図版22・23・47・48)

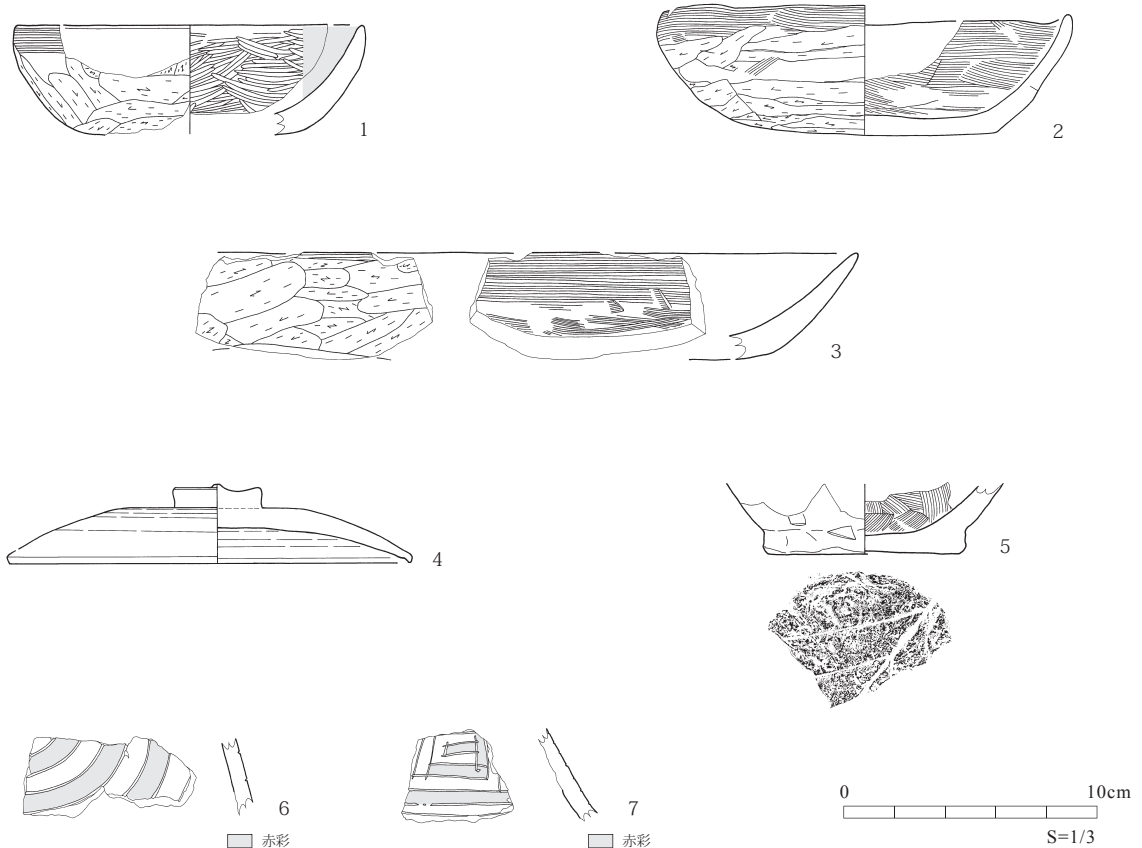
[位置] 2区/平坦面

[重複] SI142 → SK174・SK180

[規模・形状] 長辺3.50m、短辺3.40m/方形

[方向] カマド中軸線:E-15°-S

[壁面] 地山を壁として床面からはほぼ垂直に立ち上がる。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI140	堆積土	土師器	環	外面:(口)ヨコナデ→(体)ヘラケズリ、(底)一部ケズリ 内面:(底)平行ヘラミガキ→(体)斜め方向ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	-	(4.3)	一部	095	46-4
2	SI140	床面直上	土師器	環	外面:(口)ヨコナデ・(底)ヘラケズリ→(体)ヘラケズリ 内面:(体)ヘラナデ→(口)ヨコナデ・(体)ナデ	16.2	10.1	4.2 -5.2	4/5	092	46-2
3	SI140	堆積土	土師器	環	外面:(口)ヨコナデ→(体~底)ヘラケズリ 内面:(口)ヨコナデ・ヘラナデ→(底)ナデ 器形の歪み著しい	-	-	(4.3)	一部	096	46-3
4	SI140	堆積土	須恵器	蓋	内外面:ロクロナデ 外面:(口)重ね焼き痕 つまみ部径3.6cm 坏蓋	16.1	-	3.1	6/5	091	46-5
5	SI140	堆積土	土師器	甕	外面:ヘラナデ?・(底)木葉痕 内面:ヘラナデ	-	(8.0)	(2.8)	一部	098	46-6
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)			残存	登録	写真
6	SI140	K1・SK152 堆積土	弥生土器	壺	外面:渦巻文・赤彩 内面:ナデ	(3.1)			体部	507	46-8
7	SI140	堆積土	弥生土器	壺	外面:雷文・区画内赤彩 内面:ナデ	(3.7)			頸部	508	46-7

第69図 SI140 竪穴住居跡出土遺物(1)

残存壁高は最大27cmである。

〔床面・堆積土〕地山・住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。中央部の東西1.35m、南北0.90mの範囲で床面の硬化が認められ、カマド左側の東西0.85m、南北1.25mの範囲で白色粘土による貼床が構築されている。床面を覆う堆積土は地山・焼土粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居東辺中央南寄りに付設する。燃烧部・煙道・煙出しピットが残存する。燃烧部は幅124cm、奥行64cmで、焚口幅は側壁先端間で60cmである。燃烧部底面は幅43cm、奥行43cmで、床面より5cmほど皿状に窪む。焚口側の幅40cm、奥行28cmの範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は地山の白色粘土を用いて構築され、長さ46~58cm、幅36~42cm、高さ10~21cmが残存する。左右の側壁先端部に凝灰岩製の円盤状礫が埋設されている。右側(写真図版48-2)は32.0×20.0×10.5cm、左側(写真図版48-3)は22.0×21.0×10.0cmである。これらはカマド側壁骨材および焚口部の構築材と考えられる。また、焚口前庭部の床面で二つに折損した凝灰岩切石(写真図版48-1)を確認した。74.0×15.0×11.5cmの四角柱状を呈する。側面が被熱により赤色化し、下面に煤状の炭化物の付着が見られることから、焚口天井部に横架された構築材と考えられる。奥壁は住居東壁と一致し、奥壁から幅38cm、奥行70cm以上の煙道がのびている。煙道底面はほぼ平坦

である。また、奥壁から105cmの位置に煙出しピットを確認した。平面形は長軸40cm、短軸30cmの楕円形を呈し、深さ38cmである。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形は長軸74cm、短軸60cmの楕円形を呈し、断面形は深さ52cmの逆台形を呈する。堆積土は3層に細分される。1層は地山粒を含む黒色シルト、2層は地山粒を含む黒褐色シルト、3層は地山粒を含む褐色粘質シルトである。1層は自然堆積土、2層はカマド構築土起源の人為的埋土、3層は人為的埋土と考えられる。

〔その他の施設〕住居掘方底面で柱穴1か所(P1)を確認した。平面形は直径23cmの略円形を呈し、深さ22cmである。柱材の抜き取り痕跡を確認し、堆積土は住居掘方埋土と共通する。

〔出土遺物〕住居床面直上から須恵器杯(第71図1)、住居内堆積土から凝灰岩製の砥石(第71図2)が出土した。このほか、土師器杯・甕、ロクロ土師器杯・甕、須恵器高台付杯・甕、弥生土器の破片が出土した。須恵器甕は頸部の外面にロクロナデ→櫛描波状文を施すものがある。

【SI143 竪穴住居跡】(第72-75図、写真図版23・24・47)

〔位置〕2区/平坦面

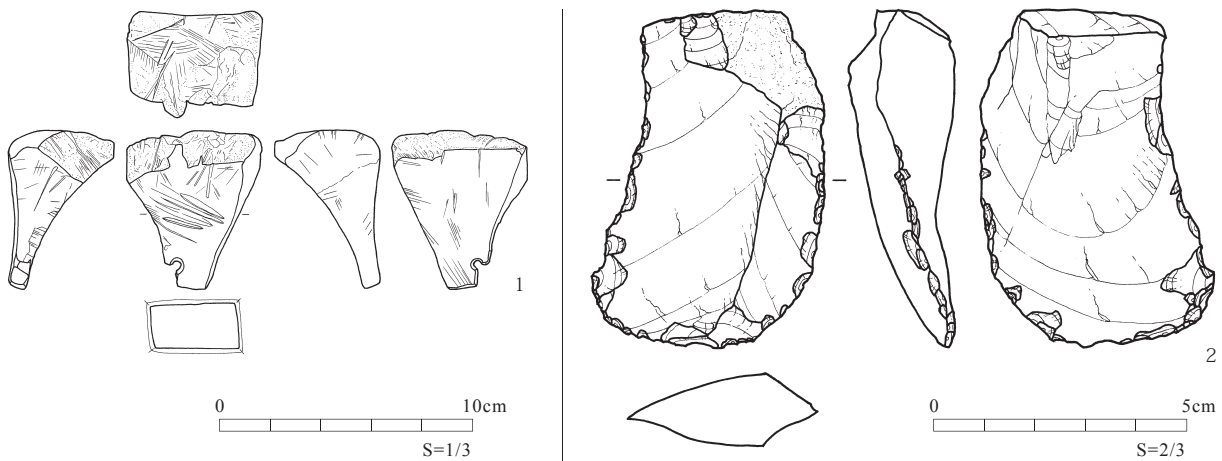
〔重複〕SK225・SD187→SI143→SK176・SK224・SD144

〔規模・形状〕一辺7.88m/方形

〔方向〕北壁カマド中軸線:N-5°-W

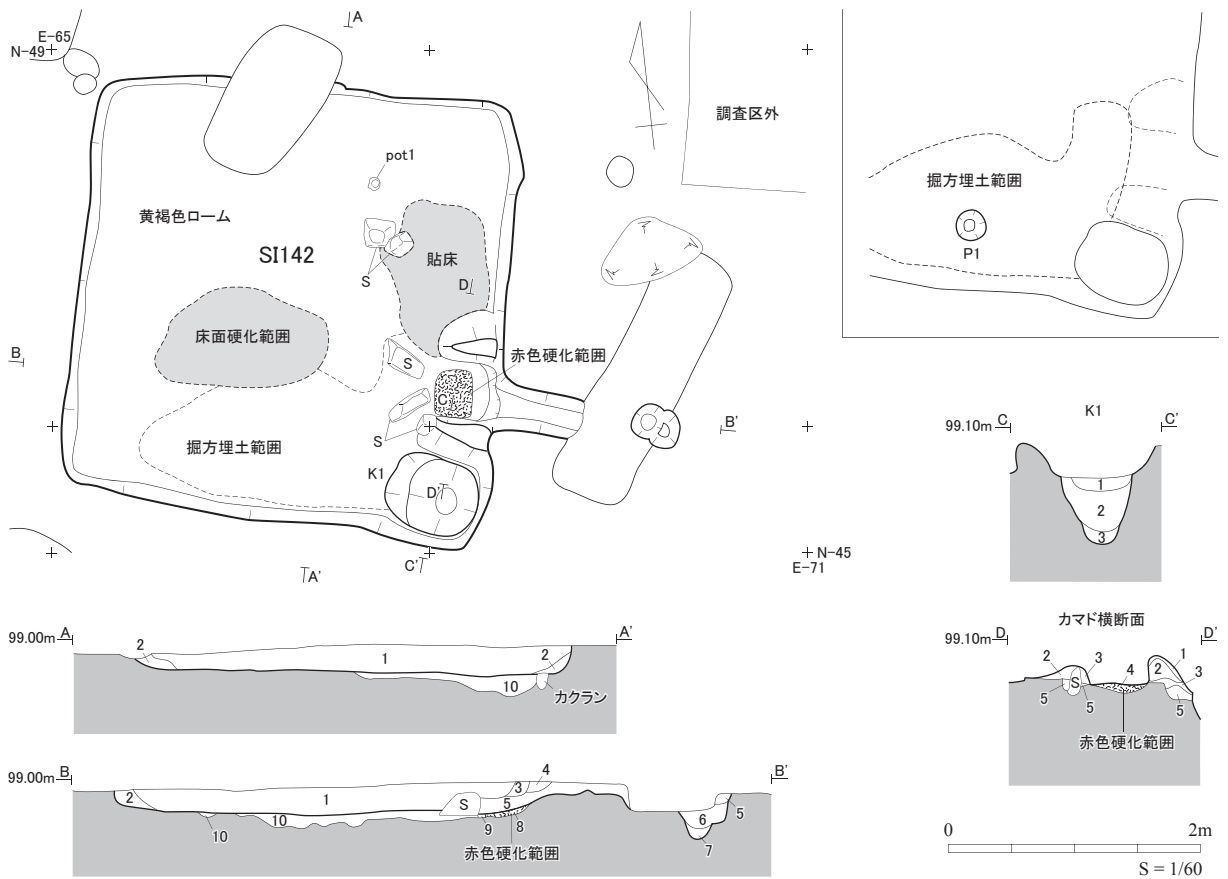
〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔支柱穴〕住居平面形の対角線上で4か所(P1-4)



No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SI140	P4 採取痕跡	砥石	凝灰岩	砥面数: 5 上端: 礫面 下部: 折損 溝状研磨痕 穿孔→欠損	63.0	53.5	41.8	100.5	一部	201	46-10
2	SI140	排土	スクレイパー	流紋岩	単剥離面打面 背面: 一部自然面 末端~両側縁: 両面に不規則な小剥離痕	67.0	46.0	18.5	40.2	完形	202	46-9

第70図 SI140 竪穴住居跡出土遺物(2)



SI142 竪穴住居跡 A-A', B-B'

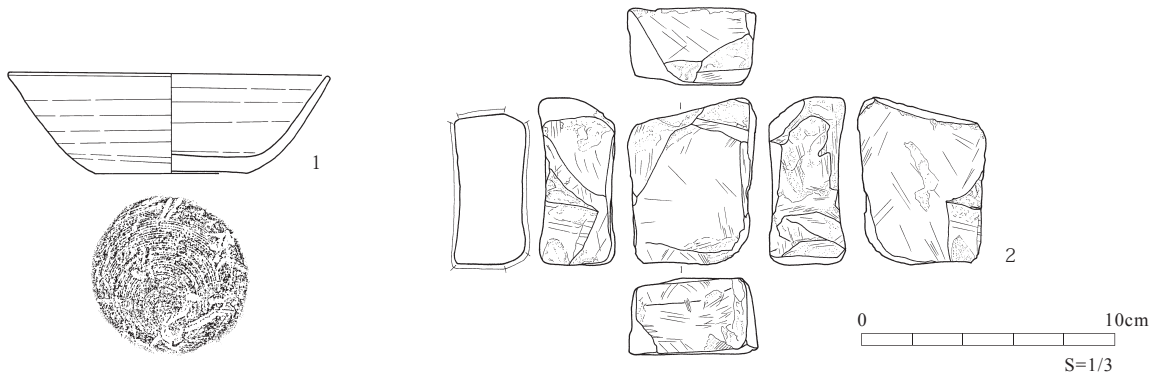
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含み、黒色シルト粒を含む
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (崩)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・焼土粒を含む
4	2.5Y6/4 にぶい黄	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒・焼土粒を含む (竈崩)
5	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (竈崩)
6	2.5Y6/4 にぶい黄	粘土	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロック・黒色シルトブロックを含む (煙出し Pit 崩)
7	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (煙出し Pit 機能時堆)
8	5YR4/8 赤褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む 焼土層
9	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒・焼土粒を含む (竈崩)
10	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、黒色シルト粒を含む (住掘)

SI142 竪穴住居跡カマド横断面 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロック・粒、焼土粒を少量含む (竈崩)
2	2.5Y7/4 浅黄	粘土	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒・暗褐色シルトブロックを含む (竈崩)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む (竈崩)
4	2.5YR4/6 赤褐	シルト	焼土層
5	10YR4/6 褐	粘質シルト	暗褐色シルトブロックを含む (竈側壁構築材据)

SI142 竪穴住居跡 K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む 一部竈構築土起源か (人為)
3	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)



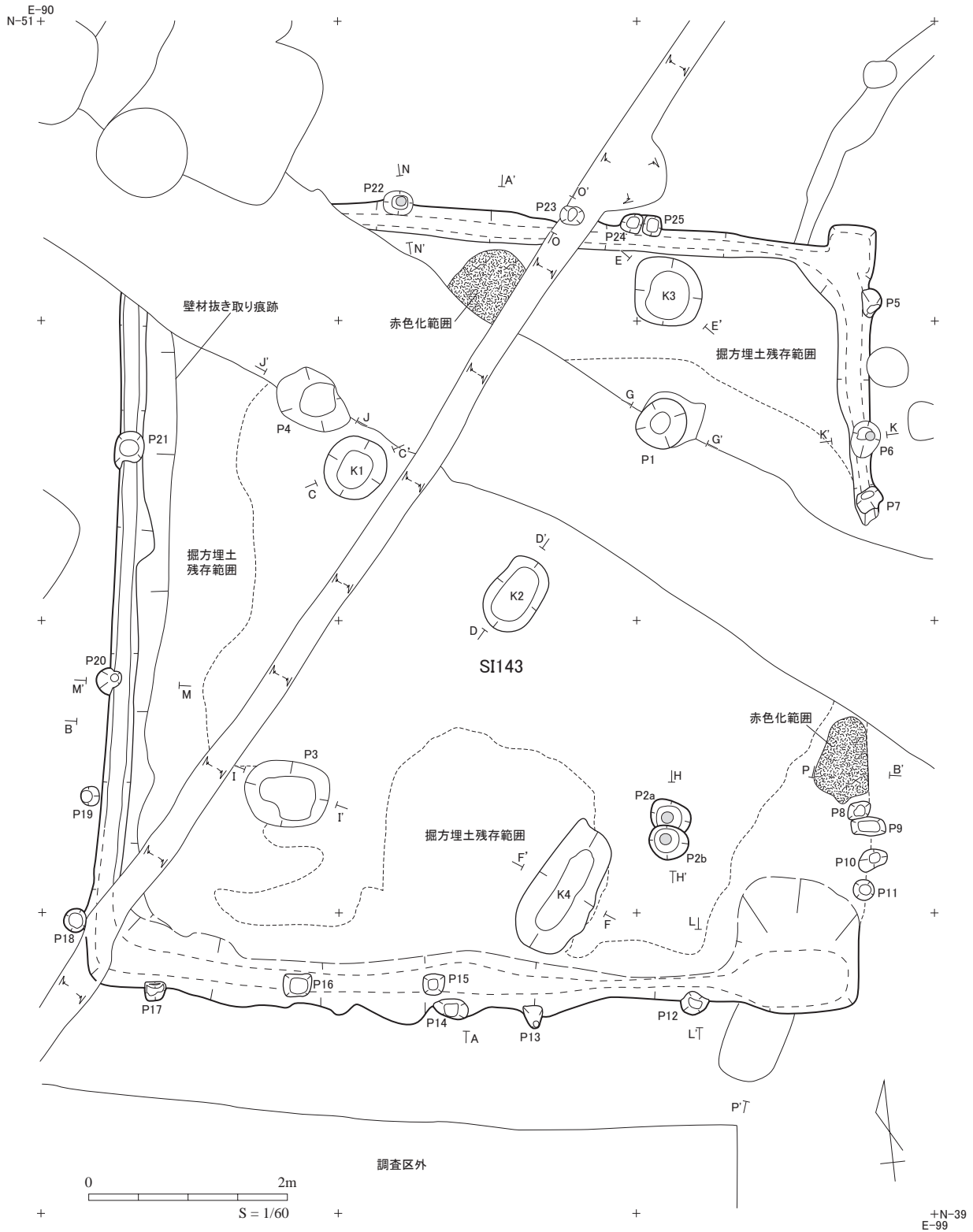
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI142	住居床面直上 Pot.1	須恵器	坏	外面：ロクロナデ、(底)回転糸切り→無調整 内面：ロクロナデ	12.7	6.0	4.0	2/3	075	47-12

No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
2	SI142	堆積土	砥石	凝灰岩	砥面数：7 各砥面：凹部に分割面一部残存	67.0	51.0	29.2	105.0	完形	203	47-13

第71図 SI142 竪穴住居跡・出土遺物

を確認した。南東側で2時期の変遷が確認できる(P2a・b)。柱穴掘方の平面形は長軸42~85cm、短軸30~66cmの略円形・楕円形を呈し、深さ56~60cmである。2か所で平面形が直径7~22cmの円形を呈する柱痕跡、5か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。〔壁柱穴〕住居東辺で7か所(P5~11)、南辺で6か

所(P12~17)、西辺で4か所(P18~21)、北辺で4か所(P22~25)確認した。掘方の平面形は長軸18~36cm、短軸17~30cmの略円形・楕円形を呈し、深さ17~41cmである。2か所で平面形が6~12cmの円形を呈する柱痕跡、19か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。



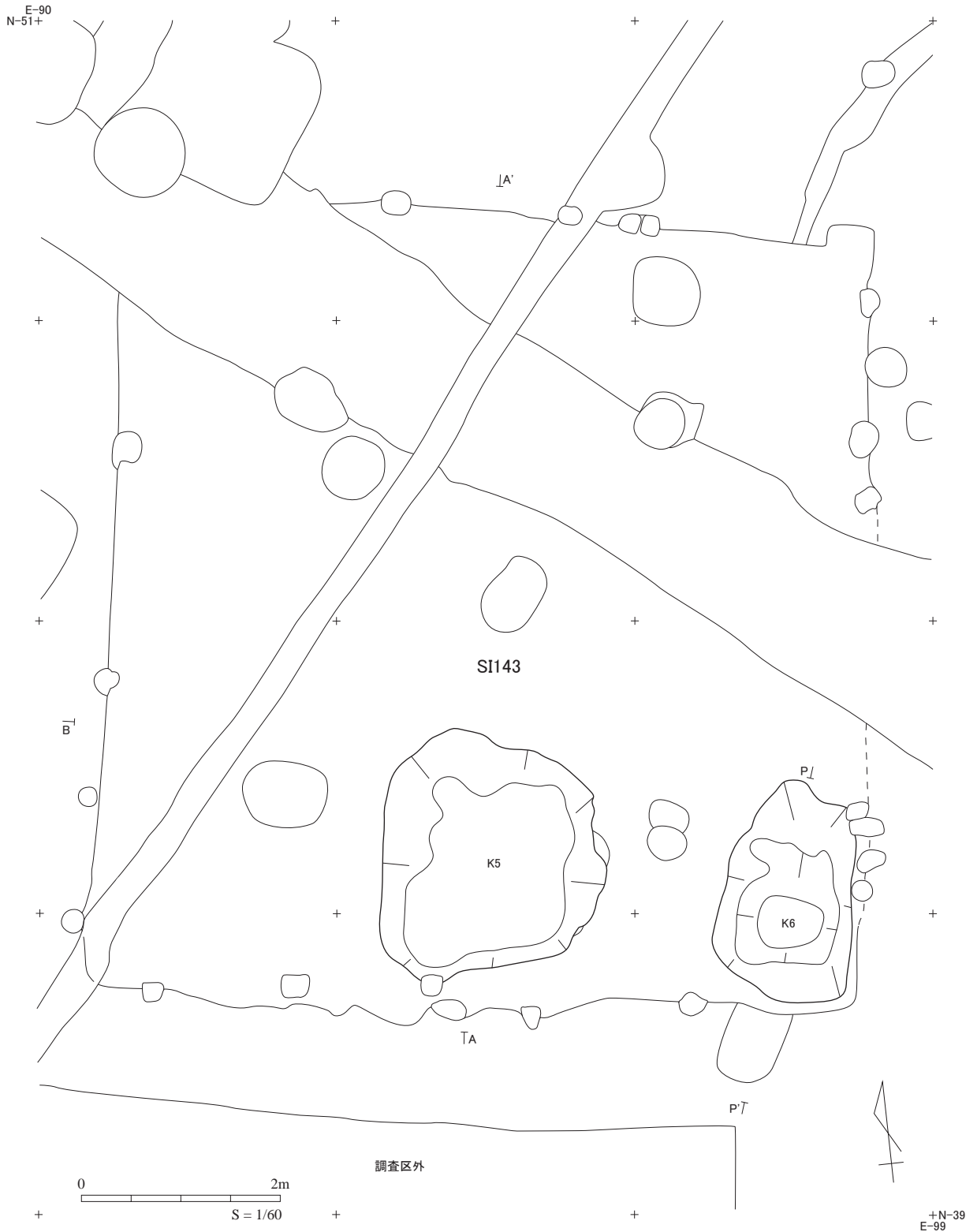
第72図 SI143 竪穴住居跡(1)

〔周溝・壁材〕幅 23~32cm の壁材掘方が住居東辺の南側を除いて全周する。壁材痕跡は確認されず、住居西辺では住居内側から掘り込まれた壁材の抜き取り痕跡が確認されている。抜き取り痕跡の堆積土は壁柱穴のものと同通し、同時に抜き取られたと考えられる。

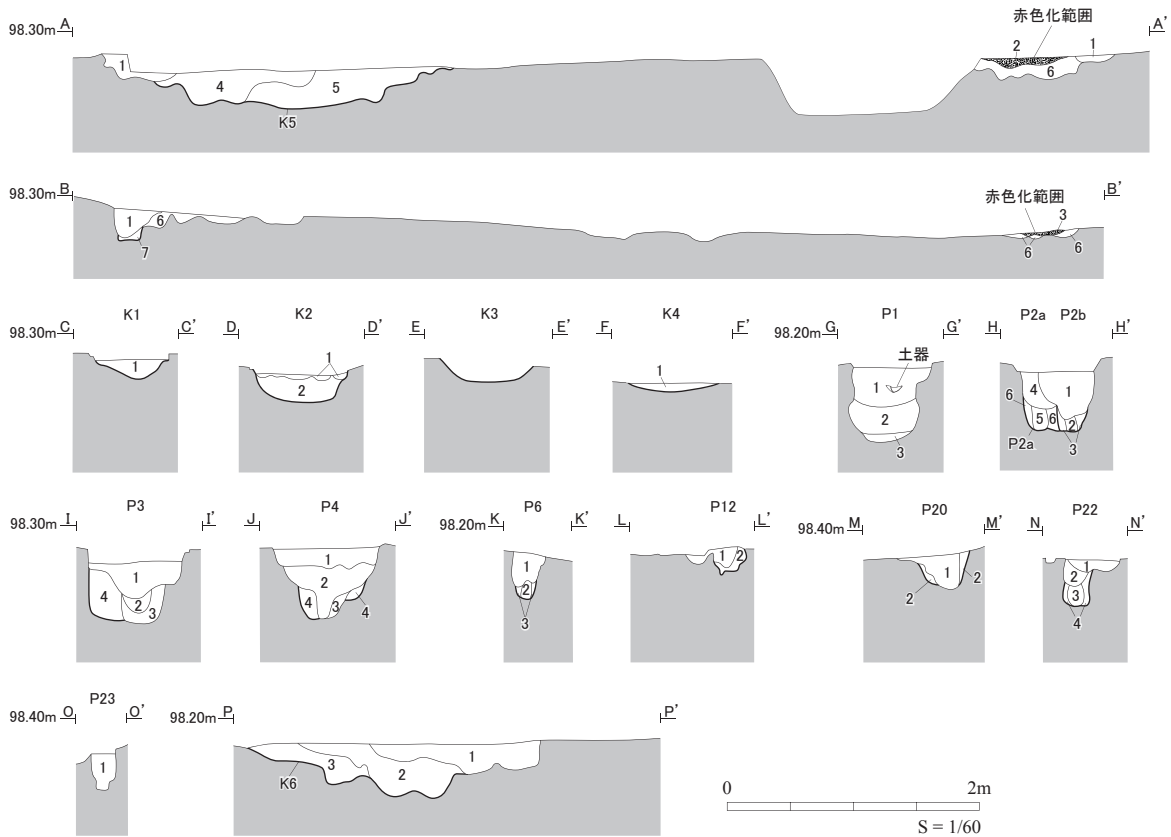
〔カマド〕住居北辺中央の幅 92cm、奥行 74cm、東辺

やや南寄りの幅約 88cm、奥行 56cm の範囲で焼土ブロックを多量に含む暗褐色シルトを確認した。位置関係からカマド燃焼部底面の痕跡と考えられる。

〔貯蔵穴〕住居北東側で土坑 1 基 (K3) を確認した。北側のカマド痕跡との位置関係から、貯蔵穴と考えられる。平面形は長軸 78cm、短軸 64cm の略円形を呈し、



第 73 図 SI143 竪穴住居跡 (2)



SI143 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、黄褐色ロームブロックを少量含む (壁材抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土ブロックを多量に含み、黄褐色ローム粒を少量含む (竈底面構?)
3	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土ブロックを多量に含み、黄褐色ローム粒を少量含む (竈底面構?)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (住掘・人為・K5 堆)
5	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘・人為・K5 堆)
6	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘・人為)
7	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (壁材掘)

SI143 竪穴住居跡 K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/3 極暗褐	粘質シルト	焼土粒を多量に含み、黄褐色ローム粒を少量含む (人為)

SI143 竪穴住居跡 K2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SI143 竪穴住居跡 K4 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (人為)

SI143 竪穴住居跡 P1 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱抜)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱抜)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)

SI143 竪穴住居跡 P2ab H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、黄褐色ローム粒をごく少量含む (P2b 柱抜)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (P2b 柱抜)
3	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (P2b 柱掘)
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (P2a 柱抜)
5	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (P2a 柱痕)
6	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (P2a 柱掘)

SI143 竪穴住居跡 P3 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱抜)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
4	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI143 竪穴住居跡 P4 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
4	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI143 竪穴住居跡 P6 K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒多量に含み、黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SI143 竪穴住居跡 P12 L-L'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SI143 竪穴住居跡 P20 M-M'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (壁材抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (壁材掘)

SI143 竪穴住居跡 P22 N-N'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/4 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
4	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

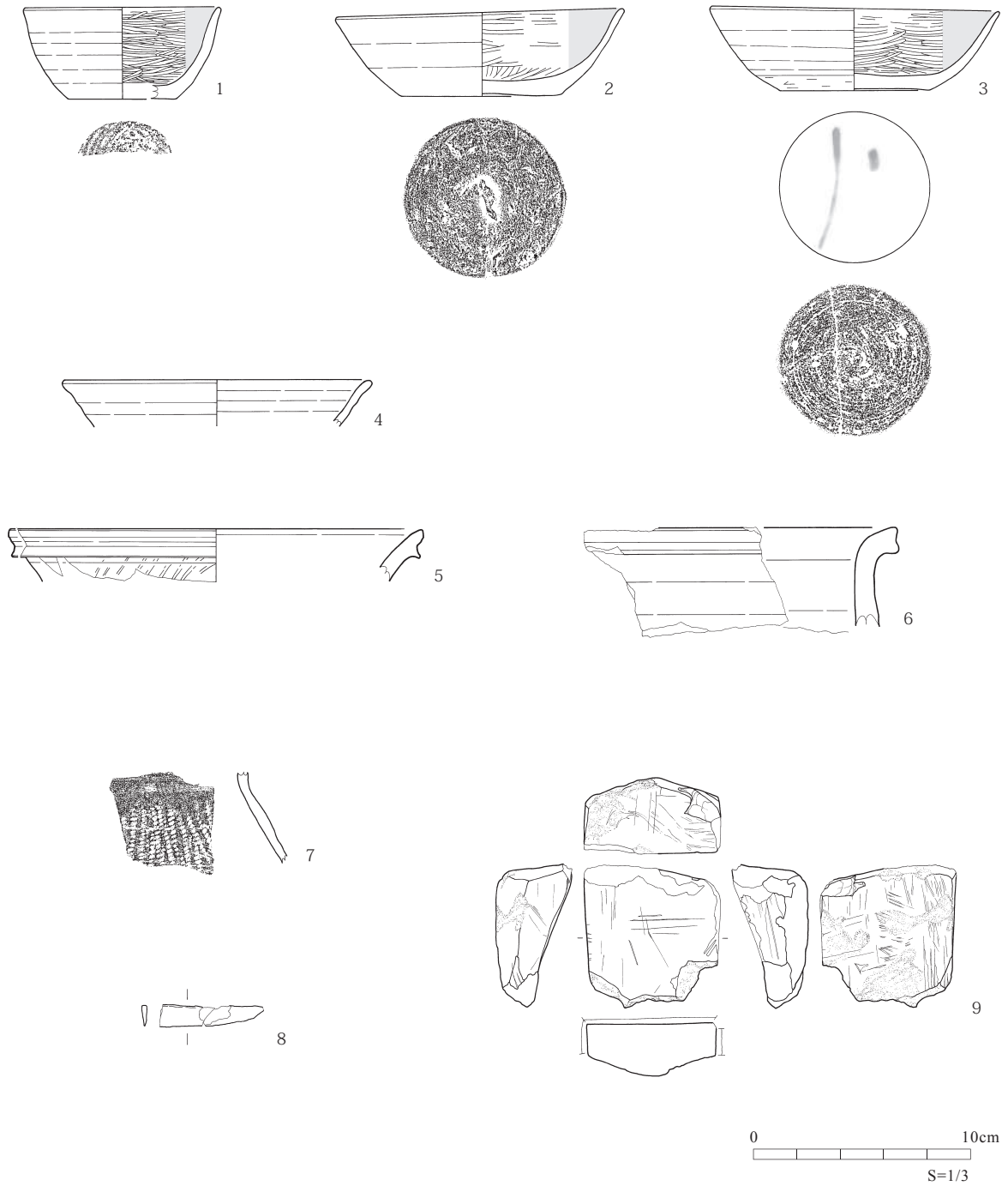
SI143 竪穴住居跡 P23 O-O'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱抜)

SI143 竪穴住居跡 K6 P-P'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、焼土粒をごく少量含む (壁材抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含み、焼土粒をごく少量含む (住掘・人為・K6 堆)
3	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘・人為・K6 堆)

第74図 SI143 竪穴住居跡 (3)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SI143	K3 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ・(底) 平行?ヘラミガキ→黒色処理	(9.2)	(5.0)	4.2	一部	103	47-3	
2	SI143	P1 採取痕跡	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、(底) ヘラ切り→無調整 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.4	7.4	3.9	3/4	094	47-4	
3	SI143	K4 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ、(底) 切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ・(底) 平行ヘラミガキ→黒色処理 外面：(底) 墨書「口」	13.4	6.9	3.8	4/5	104	47-5	
4	SI143	K4 堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ	(14.4)	-	(2.2)	一部	102	47-6	
5	SI143	K3 堆積土	須恵器	甕	外面：平行タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(19.2)	-	(2.4)	一部	101	47-7	
6	SI143	確認面	須恵器	甕	内外面：ロクロナデ	-	-	(5.0)	一部	027	47-8	
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)			残存	登録	写真	
7	SI143	K2 堆積土	弥生土器	甕	外面：頸部ナデ・縄文 (RL) 内面：ナデ	(4.2)						一部
No.	遺構名	層位	種類	材質	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
8	SI143	P2b 採取痕跡	刀子	鉄		刀身部：両端欠損	長	幅	厚			
						(48.0)	9.0	2.0	(2.9)			
No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
9	SI143	確認面	砥石	凝灰岩		砥面数：6 裏面：砥面の凹部に分割面一部残存 下部：欠損→磨滅	長	幅	厚			
						(66.1)	63.5	33.5	(140.0)			

第 75 図 SI143 竪穴住居跡出土遺物

断面形は深さ 20cm の逆台形を呈する。堆積土は地山粒を含む暗褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。
 [床下土坑] 住居掘方底面で土坑 2 基 (K5・6) を確認した。K5 土坑は住居南側中央に位置し、平面形が長軸 256cm、短軸 226cm の不整形を呈し、断面形は深さ 30cm の皿形を呈する。底面は黄褐色ローム層で、凹凸が著しい。堆積土は 2 層に細分され、1 層は地山ブロック・粒を多量に含む黒褐色シルト、2 層は地山ブロックを多量に含む暗褐色シルトである。いずれも人為的埋土と考えられ、2 層は住居掘方埋土と類似する。K6 土坑は住居南東隅に位置し、平面形が長軸 226cm、短軸 140cm の不整形を呈し、断面形は深さ 42cm の挿鉢状を呈する。底面は黄褐色ローム層で、壁面は凹凸が著しい。堆積土は 2 層に細分され、1 層は多量の地山ブロック・粒と少量の焼土粒を含む暗褐色粘質シルト、2 層は地山ブロックを多量に含む褐色粘質シルトである。いずれも人為的埋土と考えられる。
 [その他の施設] 土坑 3 基 (K1・2・4) を確認した。K1 土坑は住居北西側に位置し、平面形が長軸 67cm、短軸 60cm の略円形を呈し、断面形は深さ 19cm の挿鉢形を呈する。堆積土は多量の焼土粒と少量の地山粒を含む極暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。K2 土坑は住居中央部に位置し、平面形が長軸 100cm、短軸 52cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 30cm の逆台形を呈する。堆積土は 2 層に細分され、1 層は地山粒を含む黒褐色シルト、2 層は地山ブロッ

クを多量に含む褐色シルトである。いずれも人為的埋土と考えられる。K4 土坑は住居南側中央やや東寄りに位置し、平面形が長軸 135cm、短軸 70cm の不整形楕円形を呈し、断面形は深さ 6cm の皿形を呈する。堆積土は地山ブロックを少量含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

[出土遺物] P1 柱穴抜き取り痕跡からロクロ土師器坏 (第 75 図 2)、P2b 柱穴抜き取り痕跡から鉄製刀子 (第 75 図 8)、K2 土坑堆積土から弥生土器甕 (第 75 図 7)、K3 土坑堆積土からロクロ土師器坏 (第 75 図 1)・須恵器甕 (第 75 図 5)、K4 土坑堆積土からロクロ土師器坏 (第 75 図 3)・須恵器坏 (第 75 図 4)、遺構確認面から須恵器甕 (第 75 図 6)、凝灰岩製の砥石 (第 75 図 9) が出土した。ロクロ土師器坏は外底面に墨書 (判読不能) が見られるものがある (第 75 図 1)。このほか、土師器坏・甕、ロクロ土師器甕、須恵器坏・坏蓋、弥生土器が出土した。

【SI156 竪穴住居跡】 (第 76・77 図、写真図版 26・49)

[位置] 2 区 / 平坦面

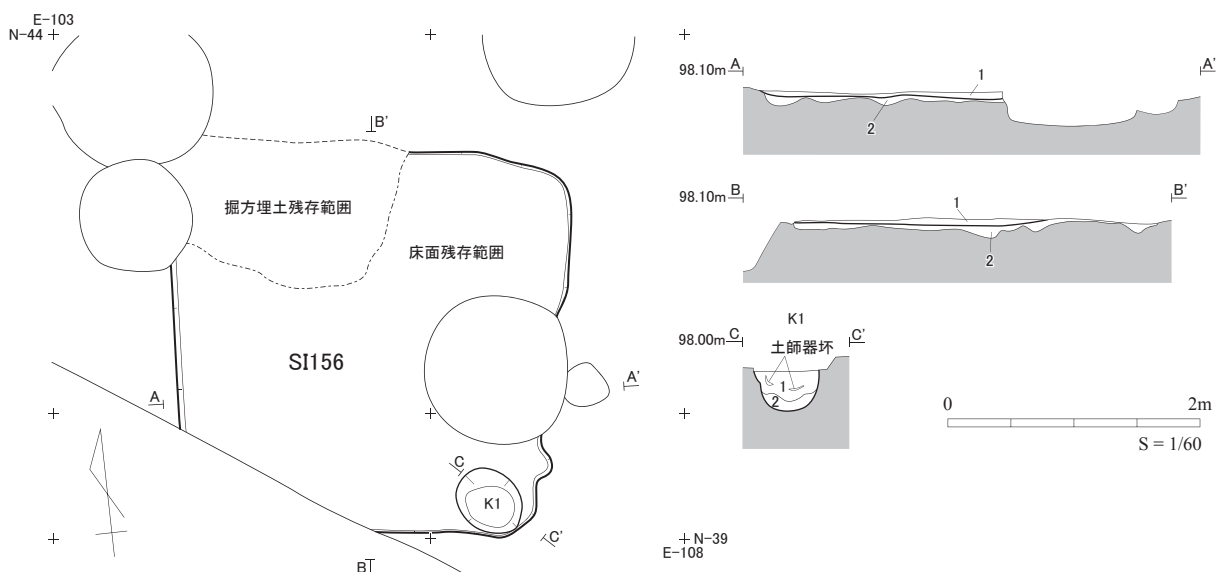
[重複] SI156 → SK189・SK190・SK218・SD144

[規模・形状] 一辺 3.10m / 方形

[方向] 住居西辺: N-3° -E

[壁面] 残存しない

[床面・堆積土] 住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山粒を少量含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。



SI156 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (住堆)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI156 竪穴住居跡 K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、黄褐色ロームブロックを含む (人為)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

第 76 図 SI156 竪穴住居跡

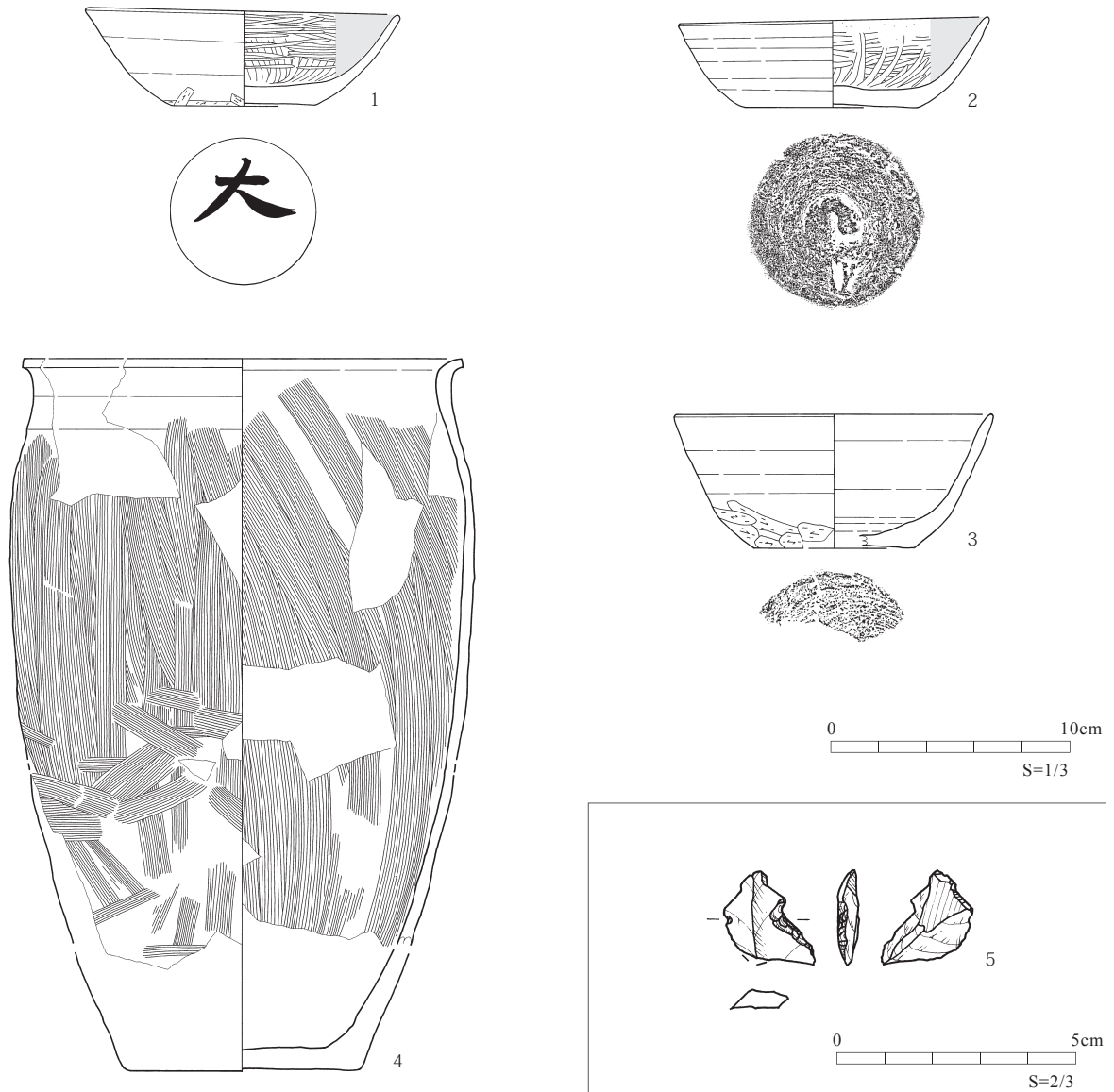
〔支柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕不明

〔貯蔵穴〕住居南東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形が長軸60cm、短軸46cmの楕円形を呈し、断面形は深さ36cmのU字形を呈する。堆積土は2層に細分され、1層は地山ブロック・粒を含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを多量に含む暗褐色粘質

シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕住居床面直上からロクロ土師器甕(第77図4)、K1土坑堆積土からロクロ土師器坏(第77図1・2)、須恵器坏(第77図3)、遺構確認面から珪質頁岩製の二次加工剥片(第77図5)が出土した。ロクロ土師器坏は外底面に墨書「大」が見られるものがある(第77図1)。このほか、土師器甕、ロクロ土師



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI156	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「大」	13.2	6.1	4.0	4/5	110	49-1
2	SI156	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ、(底) ヘラ切り→無調整 内面：(体) 横方向ヘラミガキ→(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理	13.0	7.1	3.6	略完形	111	49-2
3	SI156	K1 堆積土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(13.4)	(6.7)	5.6	1/4	112	49-3
4	SI156	床面直上	ロクロ土師器	甕	外面：ロクロナデ→ヘラナデ、(底) ナデ? 内面：ロクロナデ→ヘラナデ?	(18.6)	(9.9)	30.0	1/2	113	49-5

No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
5	SI156	確認面	二次加工剥片	黒色頁岩	左側縁：一部欠損 右側縁：裏面からノッチ状の小剥離痕	19.5	19.5	4.4	1.1	略完形	204	49-4

第77図 SI156 竪穴住居跡出土遺物

器坏、不明鉄製品の破片が出土した。土師器坏は内面に黒色処理を施すものと、内外面をヨコナデ調整で仕上げるものがある。

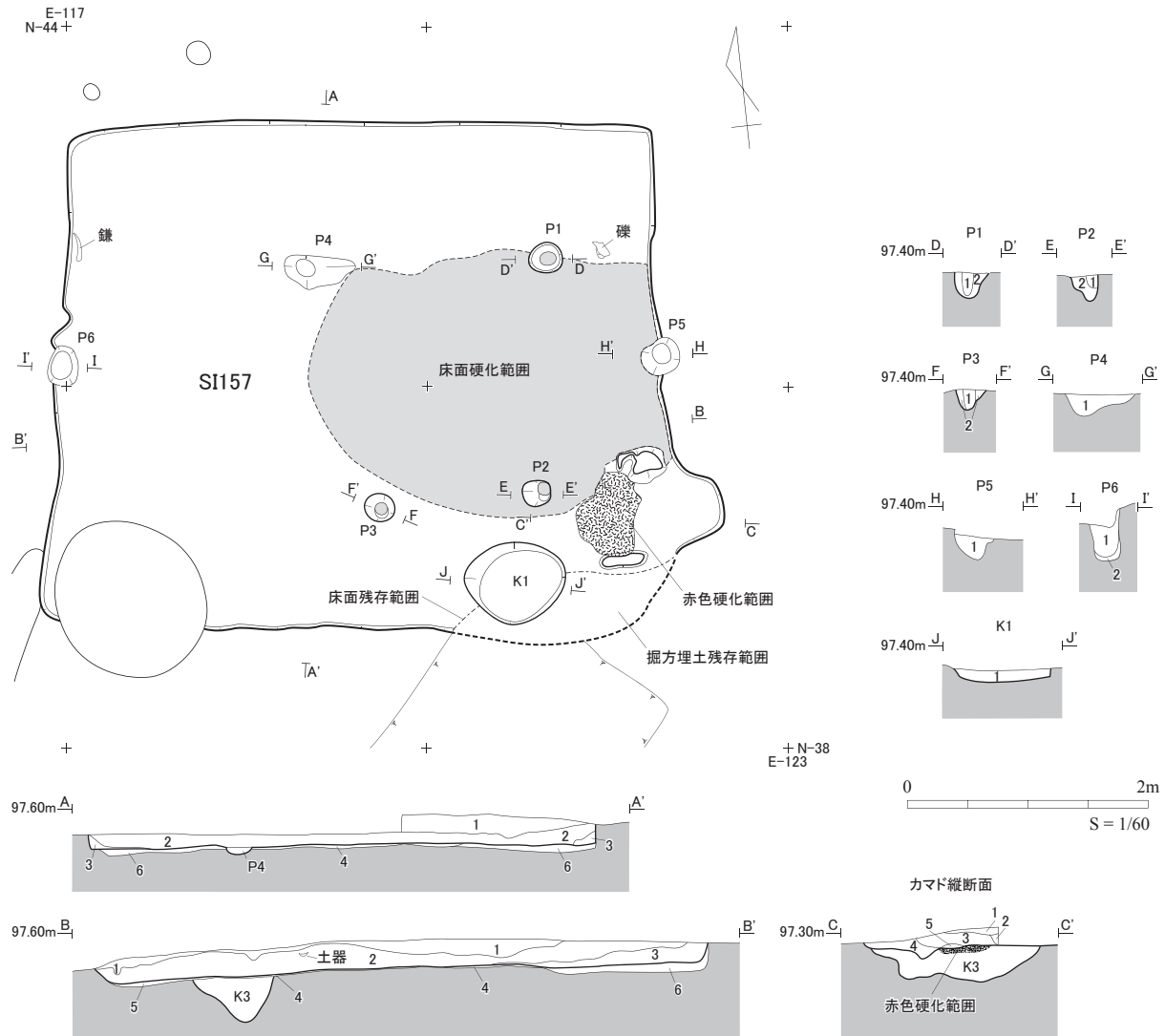
【SI157 竪穴住居跡】(第78-81図、写真図版25・50・51)
 [位置] 2区/平坦面

[重複] SK169 → SI157 → SK170

[規模・形状] 長辺 5.10m、短辺 4.30m / 方形

[方向] カマド中軸線：E-7° - S

[壁面] 地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 20cm である。



SI157 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住堆)
2	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (住堆)
3	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (住堆)
4	7.5YR4/6 褐	シルト	黒色シルトブロックを少量含む 上面(床面)が踏圧による硬化(住掘)
5	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む、焼土粒・炭化物粒を少量含む (住掘)
6	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI157 竪穴住居跡カマド縦断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/2 黒褐	シルト	焼土粒を少量含む
2	7.5YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、焼土粒をごく少量含む (住居断面2層対応)
3	5YR4/3 に近い赤褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む、焼土粒を極めて多量に含む
4	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
5	7.5YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む、焼土粒・炭化物粒をごく少量含む (竈崩)

SI157 竪穴住居跡 P1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	7.5YR4/3 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI157 竪穴住居跡 P2 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	7.5YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI157 竪穴住居跡 P3 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	7.5YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱掘)

SI157 竪穴住居跡 P4 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)

SI157 竪穴住居跡 P5 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)

SI157 竪穴住居跡 P6 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック、黒色シルトブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)

SI157 竪穴住居跡 K1 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR4/3 褐	粘土	黄褐色ロームブロック、焼土粒、黒褐色シルトブロックを多量に含む、炭化物粒を含む

第78図 SI157 竪穴住居跡 (1)

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、東向きにやや傾斜する。住居中央部から東辺にかけての東西2.9m、南北2.2mの範囲で床面の硬化を確認した。床面を覆う堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕床面硬化範囲を囲むように4か所（P1~4）確認した。東側のP1・2は住居東辺から70~100cm、西側のP3・4は住居西辺から180~210cmに位置し、全体に東寄りに位置する。柱穴掘方の平面形は長軸26~60cm、短軸24~28cmの略円形・不整楕円形を呈し、深さ18~23cmである。3か所で平面形が直径10~15cmの円形を呈する柱痕跡、1か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

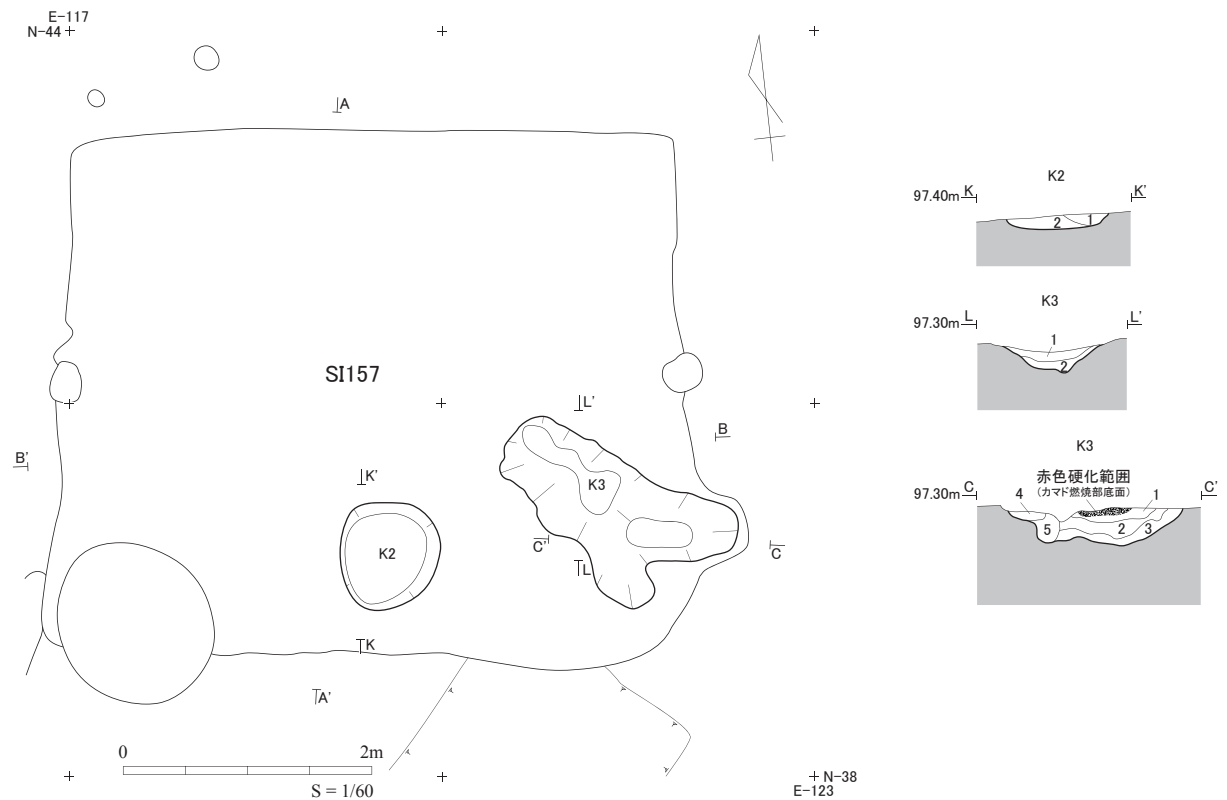
〔壁柱穴〕住居東辺中央で1か所（P5）、西辺中央で1か所（P6）確認した。掘方の平面形は長軸32~34cm、短軸26~28cmの楕円形を呈し、深さ27~44cmである。2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居東辺南寄りに付設する。幅95cm、奥行123cmの燃烧部が残存し、焚口幅は不明である。燃烧部底面は幅60cm、奥行120cmで、床面とほぼ平坦である。焚口側の幅60cm、奥行50cmの範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は地山の白色粘土で構築され、長さ40cm、幅10~30cm、高さ6~10cmが残存する。奥壁は住居東壁より42cmほど張り出す。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅付近で土坑1基（K1）を確認した。平面形は長軸85cm、短軸66cmの楕円形を呈し、断面形は深さ10cmの逆台形を呈する。堆積土は地山ブロック、焼土・炭化物粒を含む暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕住居南東側で土坑2基（K2・3）を確認した。K2土坑は平面形が長軸90cm、短軸80cmの楕円形を呈し、断面形は深さ11cmの逆台形を呈する。堆積土は2層に細分される。いずれも地山ブロックを含む褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。K3土坑は平面形が長軸112cm、短軸80cmの不整形を呈し、



No.	土色	土性	備考
1	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 上面が硬化（人為）
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（人為）

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を少量含む
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (C-C'断面3層対応)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（K3堆）
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む（K3堆）
3	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (L-L'断面2層対応)
4	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含み、黄褐色ロームブロックを少量含む（K3壁崩）
5	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック主体（K3壁崩）

第79図 SI157 竪穴住居跡（2）

断面形は深さ 45cm の逆台形を呈する。底面は凹凸が著しい。堆積土は 6 層に細分される。東半部では 1 層は地山粒を少量含む褐色シルト、2 層は地山ブロック・粒を含む暗褐色シルト、3 層は地山ブロック・粒を多量に含む褐色シルト、4 層は地山粒を多量に含む褐色シルト、5 層は地山ブロックを主体とする褐色シルトで、1-3 層は人為的埋土、4・5 層は壁際の崩落土と考えられる。また、西半部では上部に地山ブロック、炭化物粒を少量含む黒褐色シルトが堆積し、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕住居床面直上から鉄製鎌先（第 80 図 6）、凝灰岩製の砥石（第 81 図 1・3）、住居内堆積土からロクロ土師器環（第 80 図 1・2・3）、凝灰岩製の砥石（第 81 図 2）、住居掘方埋土から弥生土器壺（第 80 図 4・

5）が出土した。ロクロ土師器環（第 80 図 1-3）は外底面あるいは外面の体下部に墨書が見られ、判読可能なものには「三□□」（第 80 図 1）がある。また、第 80 図 2 は外面の口縁部～体部に油煙の付着が見られる。このほか、土師器環・甕、須恵器環、弥生土器、焼けたスサ入り粘土塊が出土した。

【SI159 竪穴住居跡】（第 82 図、写真図版 26）

〔位置〕2 区／平坦面

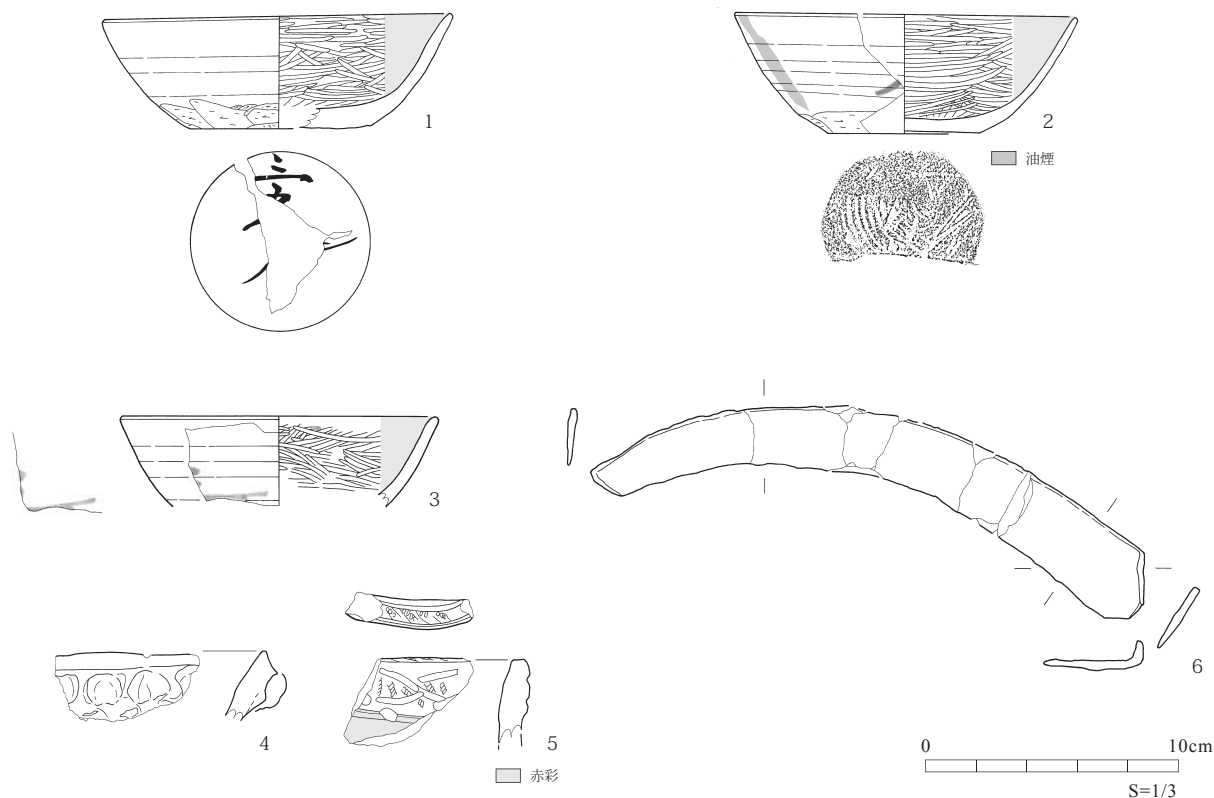
〔重複〕SK222 → SI159 → SI140・SK151・SK167・SK168

〔規模・形状〕長辺 3.50m 以上、短辺 3.40m 以上／方形

〔方向〕住居東辺：N-7° -E

〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔支柱穴〕住居平面形の対角線上で 4 か所確認した（P1~4）。柱穴掘方の平面形は長軸 24-50cm、短軸



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真					
						口径	底径	器高								
1	SI157	堆積土	ロクロ土師器	環	外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ、（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：（底）放射状ヘラミガキ→（体）横・斜め方向ヘラミガキ→黒色処理 外底面：墨書「三□□」？ 外面：（口-体）油煙	13.9	7.1	4.5	5/6	105	50-1					
2	SI157	堆積土 1 層	ロクロ土師器	環	外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ、（底）回転系切り→手持ちヘラケズリ 内面：（底）放射状ヘラミガキ→（体）横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：（体）墨書「□」 外面：（口-体）油煙	13.6	6.0	4.7	1/2	106	50-2					
3	SI157	堆積土	ロクロ土師器	環	外面：ロクロナデ 内面：（体）縦方向ヘラミガキ→横・斜め方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：（体）墨書「□」	(12.6)	-	(3.6)	一部	108	50-3					
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)			残存	登録	写真					
4	SI157	堆積土 1 層	弥生土器	壺	外面：（口）隆帯貼付・指頭圧痕 内面：ナデ	(2.8)						口縁部	505	50-5		
5	SI157	住居掘方埋土	弥生土器	壺	外面：（口）縄文・連弧文・赤彩 内面：ナデ	(3.5)			口縁部	506	50-4					
No.	遺構名	層位	種類	材質	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真				
6	SI157	床面直上	鎌	鉄	両端欠損 基端部：曲折	長	幅	厚	重				(225.5)	29.0	3.0	(63.0)

第 80 図 SI157 竪穴住居跡出土遺物（1）

24~38cmの楕円形を呈し、深さ25~70cmである。1か所で平面形が直径20cmの円形を呈する柱痕跡、3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド〕不明

〔貯蔵穴〕住居北東隅付近で土坑1基(K1)を確認した。平面形は長軸34cm、短軸32cmの略円形を呈し、断面形は深さ6cmの皿形を呈する。堆積土は地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。〔出土遺物〕遺構確認面から土師器、須恵器が出土した。

【SI160 竪穴住居跡】(第83図、写真図版24)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SI160 → SB199・SK184

〔規模・形状〕長辺3.80m以上、短辺2.50m以上/方形

〔方向〕住居西辺：N-8°-E

〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔主柱穴〕4か所確認した(P1~4)。柱穴掘方の平面形は長軸30~36cm、短軸22~32cmの隅丸方形・楕円形を呈し、深さ36~50cmである。4か所で平面形が直径12~22cmの円形を呈する柱痕跡、3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド・貯蔵穴〕不明

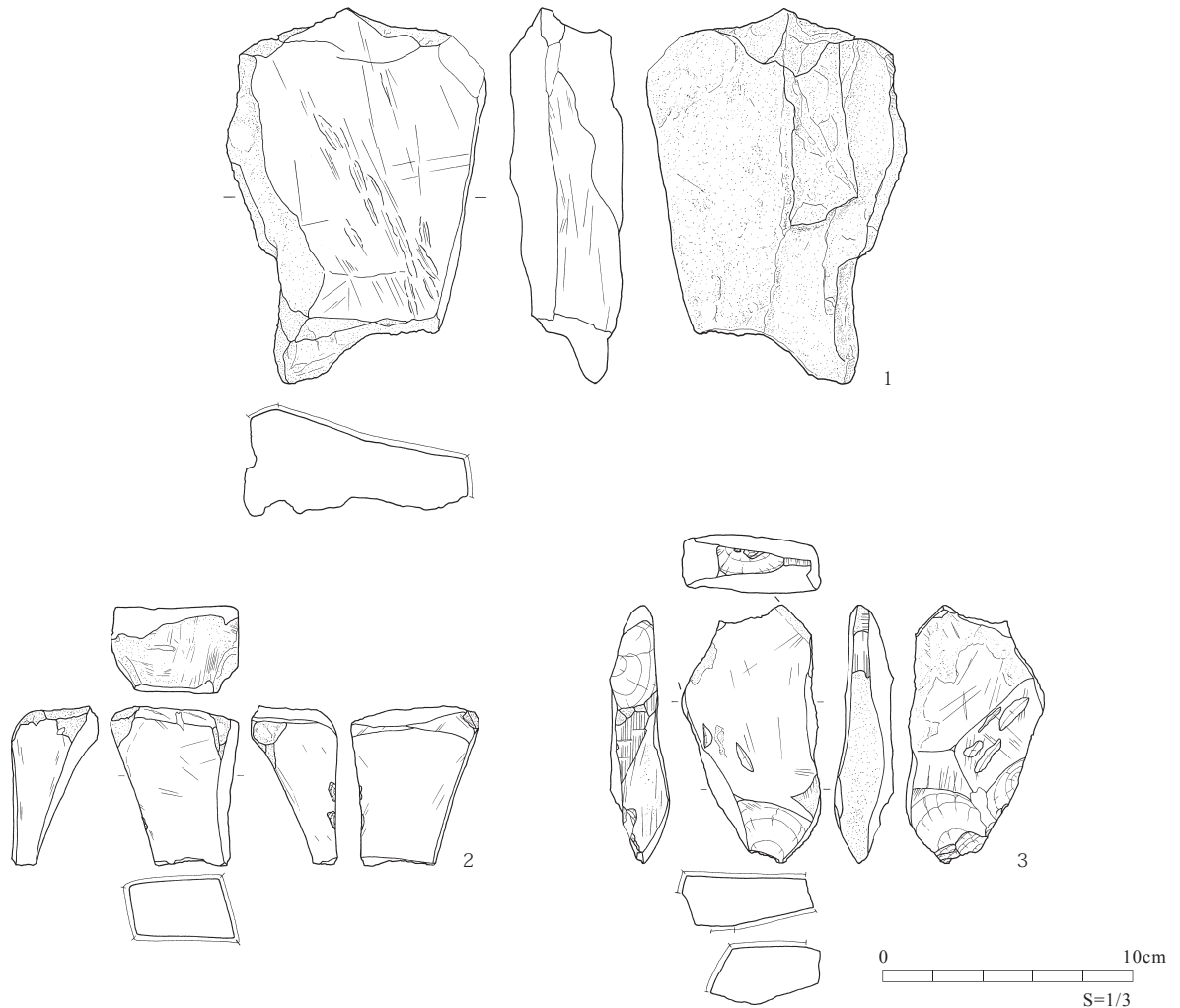
〔出土遺物〕P3柱穴確認面から土師器が出土した。

【SI178 竪穴住居跡】(第83図、写真図版25・49)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SI178 → SK212

〔規模・形状〕長辺4.70m以上、短辺1.40m以上/方形



No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SI157	住居床面直上	砥石	凝灰岩	砥面数：3 溝状研磨痕 裏面：欠損→使用による磨滅	151.0	105.0	41.5	556.0	完形	205	50-6
2	SI157	堆積土	砥石	凝灰岩	砥面数：5 下部：折損	(64.0)	51.0	34.2	(101.5)	一部	207	50-8
3	SI157	住居床面直上	砥石	凝灰岩	砥面数：7 各砥面：凹部に整形時の剥離痕 両端：欠損→剥離成形→使用による磨滅	103.5	56.0	23.8	131.0	一部	206	50-7

第81図 SI157 竪穴住居跡出土遺物(2)

〔方向〕住居東辺：N-2° -W

〔壁面〕地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は8cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土または貼床面を床とし、南向きにやや傾斜する。床面を覆う堆積土は地山極小粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕不明

〔周溝・堆積土〕住居北辺の一部で周溝を確認した。幅32cmで、断面形は深さ8cmのU字形である。堆積土は住居内堆積土と共通し、壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド・貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕遺構確認面から土師器杯（第83図1）が出土した。内面にナデ調整、黒色処理を施す。外面は体部に粘土紐の輪積み痕跡を残し、口縁部にヨコナデ調整を施す。底部には糸切り痕が見られる。

【SI194 竪穴住居跡】（第84-86図、写真図版27-52・53）

〔位置〕2区／平坦面

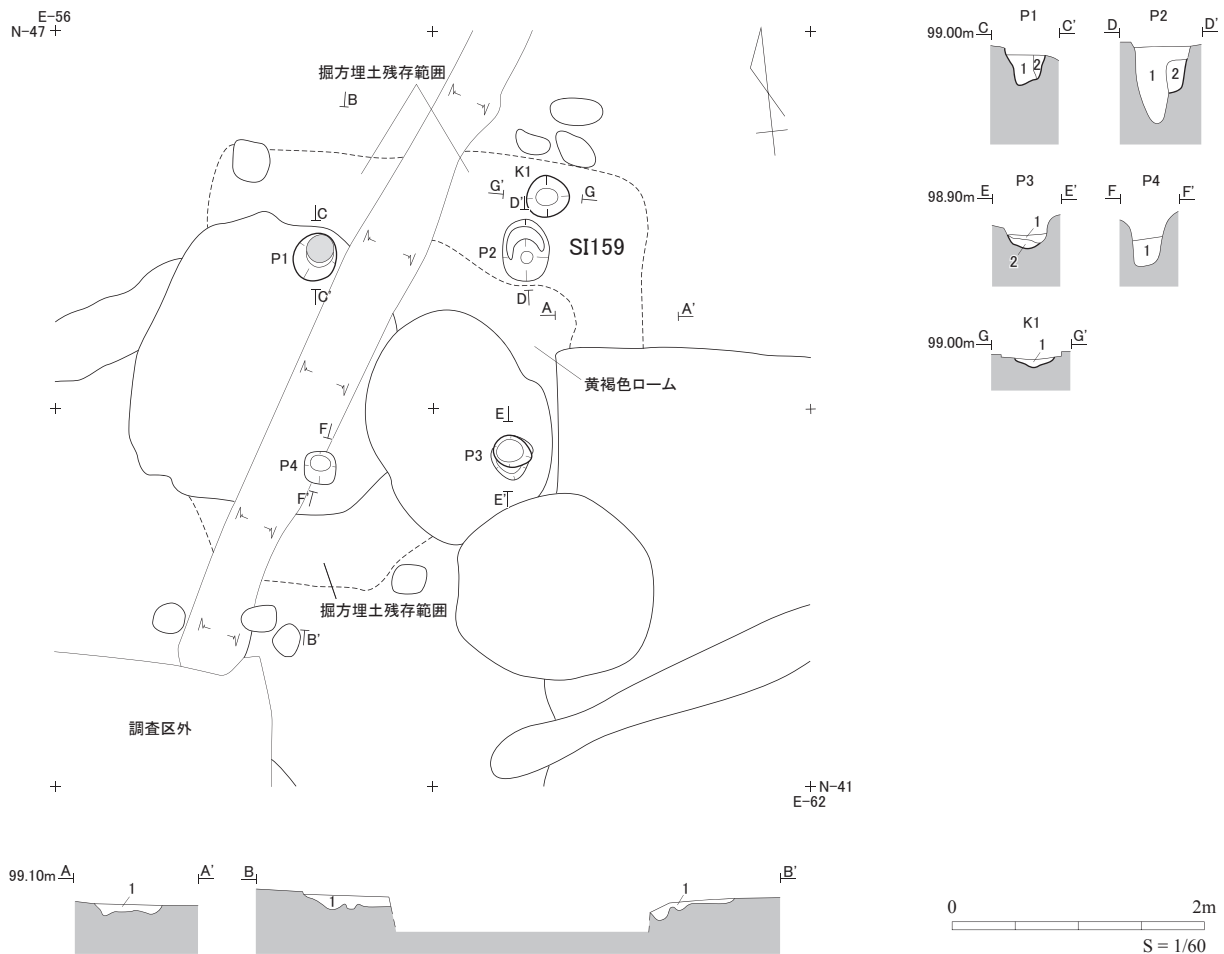
〔重複〕SI140・SK211・SK213 → SI194 → SK198

〔規模・形状〕長辺3.08m、短辺2.46m／方形

〔方向〕カマド中軸線：E-8° -S

〔壁面〕地山を壁として緩やかに立ち上がる。残存壁高は最大11cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土・地山を床とする。ほぼ平坦で、住居中央部から東辺にかけての東西1.45m、



SI159 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを含む（住掘）

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む（柱痕）
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む（柱掘）

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む（柱抜）
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む（柱掘）

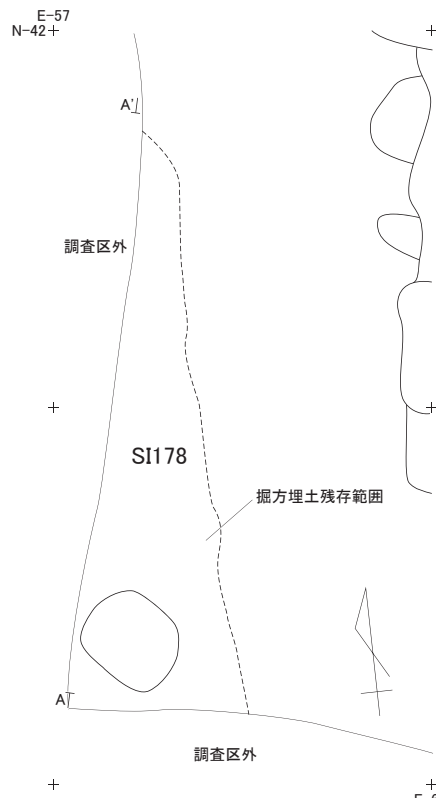
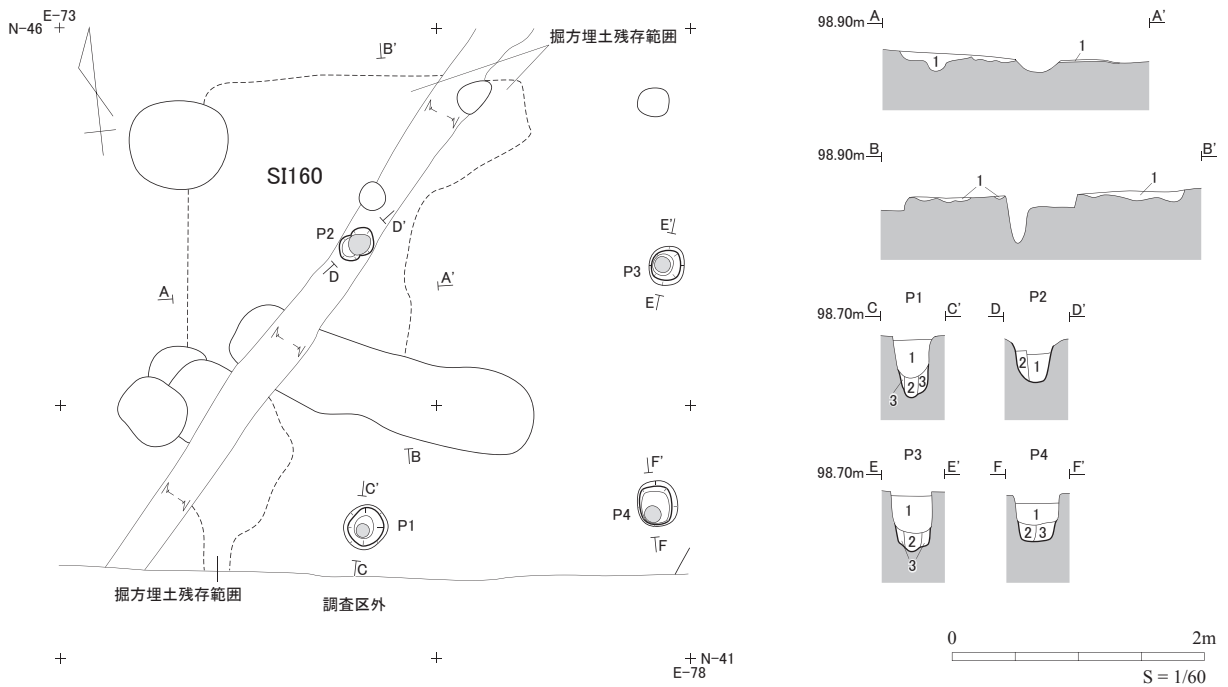
SI159 竪穴住居跡 P3 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む（柱抜）
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む（柱掘）

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む（柱抜）

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・粒を含み、黄褐色ローム粒を少量含む

第82図 SI159 竪穴住居跡



SI160 竪穴住居跡 A-A', B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

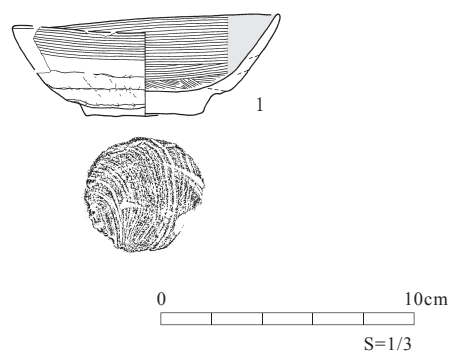
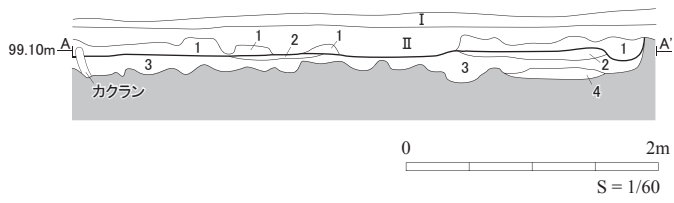
SI160 竪穴住居跡 P1 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)

SI160 竪穴住居跡 P2 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI160 竪穴住居跡 P3 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱抜)
2	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

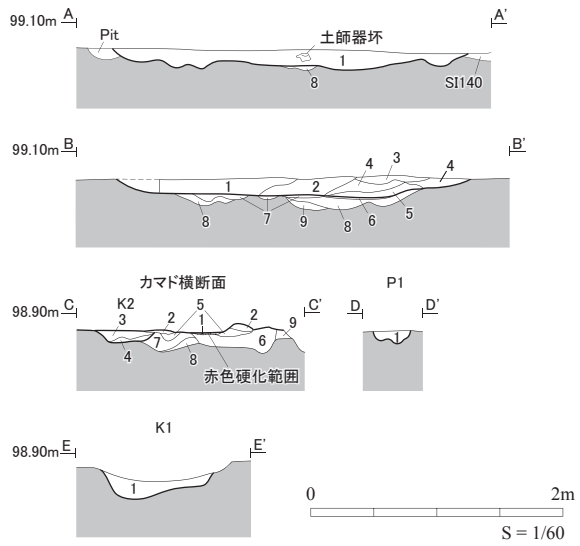
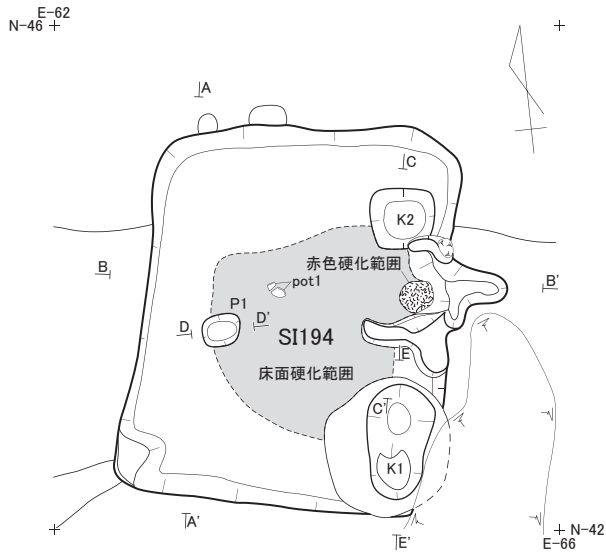
SI160 竪穴住居跡 P4 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱痕)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI178 竪穴住居跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム極小粒を含む (住堆)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、白色粘土粒・焼土粒を含む (住貼)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (住掘)
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (住掘)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI178	確認面	土師器	坏	外面：(口) ヨコナデ、(底) 糸切り→無調整 内面：ナデ→(体~口) ヨコナデ→黒色処理	(10.6)	4.6	3.3 -4.0	1/3	088	49-6

第 83 図 SI160・178 竪穴住居跡、SI178 竪穴住居跡出土遺物



SI194 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を含み、焼土粒・炭化物粒を少量含む (住掘)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	濁黄褐色シルトブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (住掘)
3	7.5YR4/4 褐	シルト	焼土粒・黄褐色ローム粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (竈崩)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	焼土粒・白色粘土ブロックを含む (竈崩)
5	5YR4/4 にぶい赤褐	シルト	焼土粒・白色粘土ブロック・黒色シルトブロックを含む (竈崩)
6	2.5Y4/4 オリーブ褐	粘土	焼土粒・黒色シルトブロックを含む (竈側壁構・竈横断面2層対応)
7	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・炭化物粒を含む (住掘)
8	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘・竈横断面5層対応)
9	10YR4/4 褐	粘質シルト	黒色シルト粒を含む (住掘・竈横断面8層対応)

SI194 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

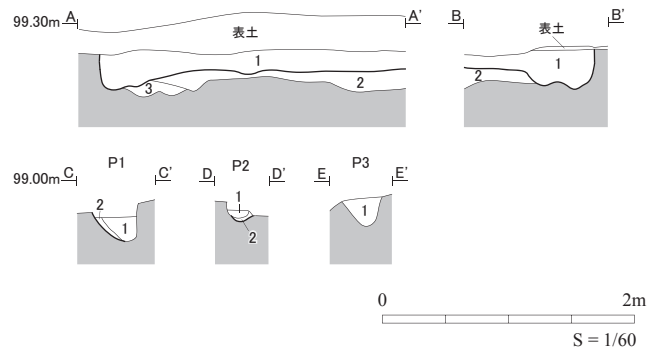
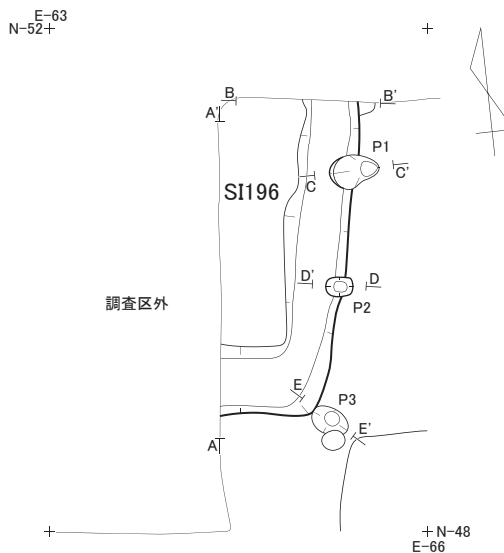
No.	土色	土性	備考
1	5YR3/6 暗赤褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルト粒を含む 焼土層
2	2.5Y4/4 オリーブ褐	粘土	焼土粒・黒色シルトブロックを含む (竈側壁構・主断面6層対応)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む (K2 堆)
4	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルト粒を含む 旧竈構築土起源? (K2 堆)
5	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルト粒を含む
6	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む (住掘・主断面8層対応)
7	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)
8	10YR5/8 黄褐	粘質シルト	黒色シルトブロックを少量含む (住掘)
9	10YR4/4 褐	粘質シルト	黒色シルト粒を含む (住掘・主断面9層対応)

SI194 竪穴住居跡 P1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・黒色シルト粒を含む (人為)

SI194 竪穴住居跡 K1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・黒色シルト粒を含む



SI196 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒、白色粘土ブロックを含む (住掘)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルト粒を少量含む (住掘)

SI196 竪穴住居跡 P1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱拔)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

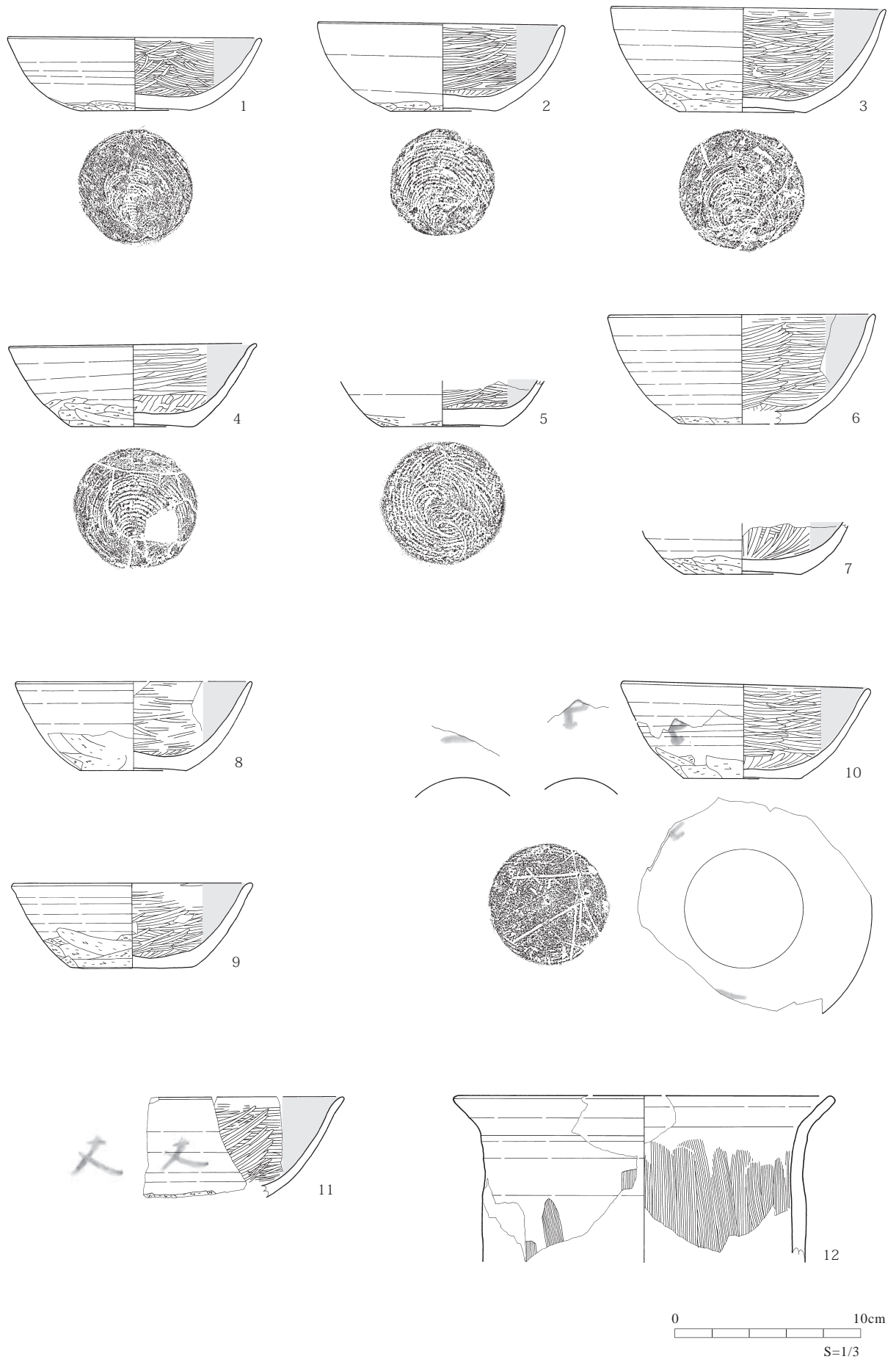
SI196 竪穴住居跡 P2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱拔)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

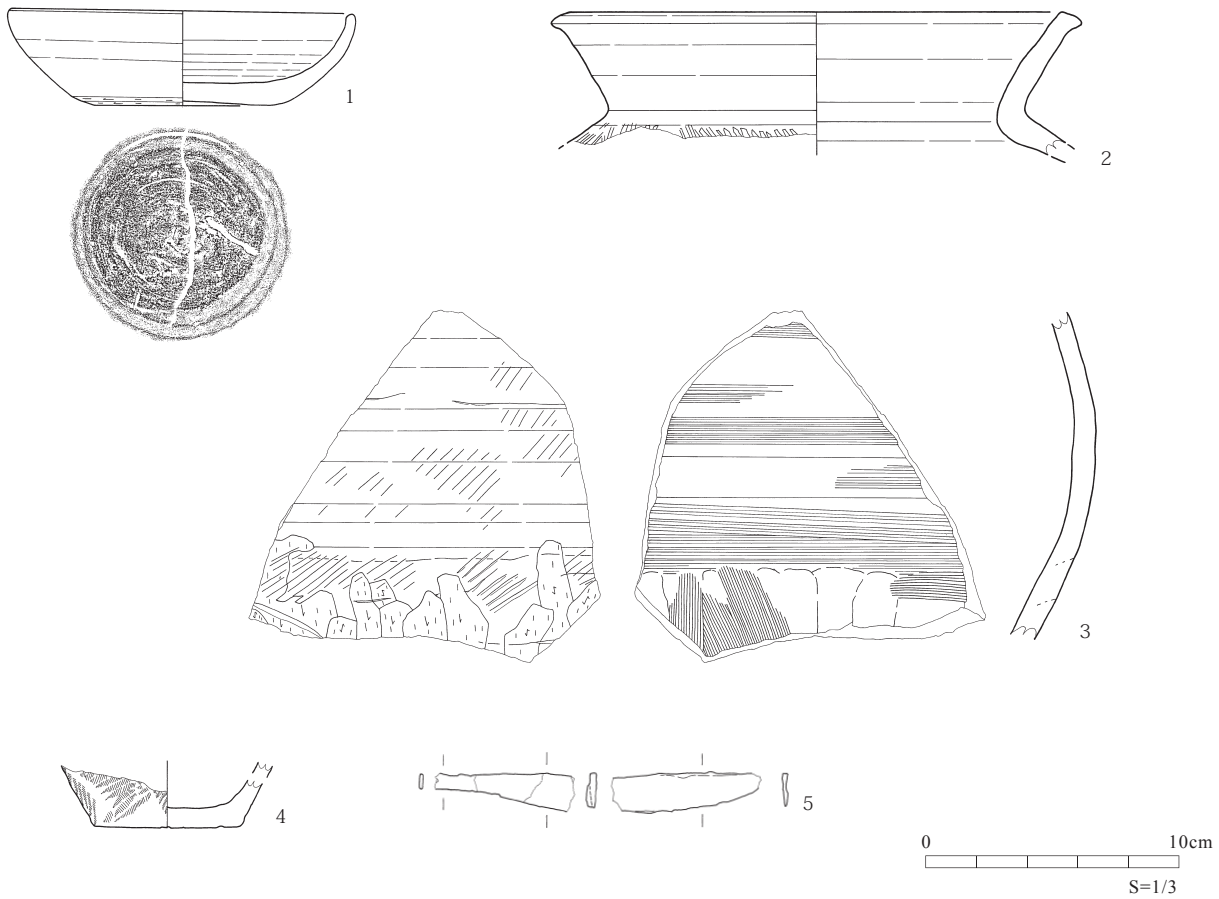
SI196 竪穴住居跡 P3 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱拔)

第84図 SI194・196 竪穴住居跡



第85図 SI194 竪穴住居跡出土遺物（1）



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI194	K1 堆積土	須恵器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ、(底) 回転糸切り→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	13.8	7.1	3.7	6/7	085	53-10
2	SI194	K1 堆積土	須恵器	甕	外面：(口) ロクロナデ、(胴) 平行タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(21.0)	-	(5.7)	一部	077	53-8
3	SI194	K2 堆積土	須恵器	甕	外面：平行タタキ→ロクロナデ→(胴下) ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→回転ハケメ→(胴下) 指オサエ→(胴下) ナデ	-	-	(13.0)	一部	079	53-11

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)	残存	登録	写真

No.	遺構名	層位	種類	材質	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
						5	SI194	堆積土	刀子			

(第85図)

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 内面：(口・底中央) 磨滅	13.7	5.9	4.0	2/3	081	52-2
2	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	13.4	5.7	4.7	2/3	084	52-3
3	SI194	住居床面直上 Pot.1	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	14.9	6.8	5.6	5/6	083	52-4
4	SI194	カマド崩落土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理？ 内面：被熱により黒色消失？	13.4	6.7	4.5	略完形	090	53-1
5	SI194	確認面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り(重複)→無調整？ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外底面：やや磨滅	-	(6.6)	(2.5)	一部	086	53-2
6	SI194	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.5)	(6.9)	5.9	1/5	087	53-4
7	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ→(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理	-	6.3	(2.8)	一部	080	53-6
8	SI194	K1 堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 内外面：被熱により明黄褐色 (10YR6/6) に変色(外面：焼けはじけ、内面：黒色処理消失)	(12.8)	(5.8)	4.9	1/5	078	53-5
9	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ、(底) ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理	(13.0)	(6.6)	4.6	1/2	089	52-6
10	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ→(体) 横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体) 正位の墨書「中」？・「一」？	(13.5)	6.4	4.9	2/3	093	52-5
11	SI194	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ→斜め方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体) 正位の墨書「丈」	-	-	(5.4)	一部	076	53-3
12	SI194	堆積土	ロクロ土師器	甕	外面：ロクロナデ→ヘラナデ 内面：ロクロナデ→ヘラナデ	(20.6)	-	(9.0)	一部	097	53-7

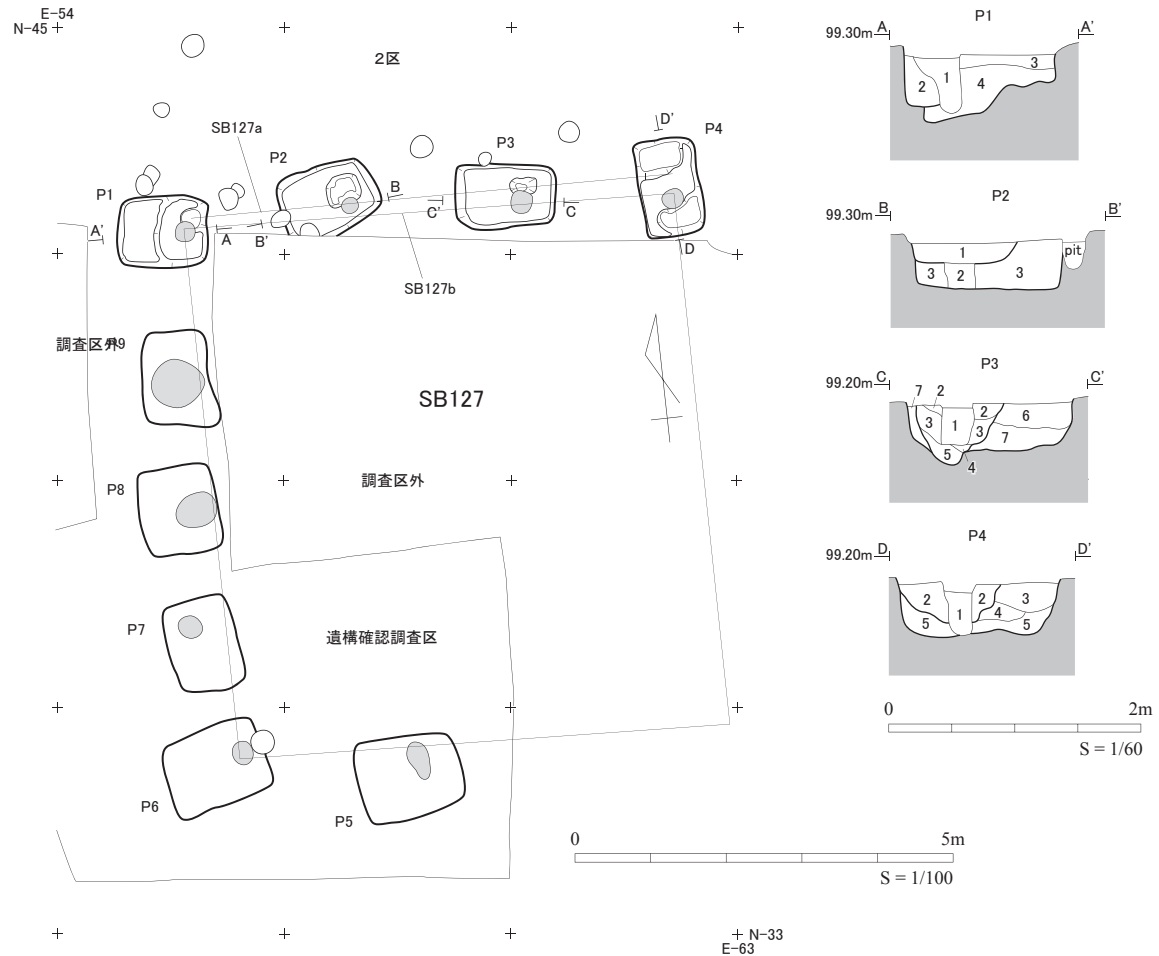
第86図 SI194 竪穴住居跡出土遺物(2)

南北 1.70m の範囲で床面の硬化を確認した。床面を覆う堆積土は地山ブロック・粒、焼土・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕住居西側中央付近で 1 か所 (P1) 確認した。平面形は長軸 29cm、短軸 24cm の楕円形を呈し、深さ 10cm である。柱材の抜き取り痕跡の可能性はある。〔周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居東辺中央付近に付設し、燃焼部と煙

道が残存する。燃焼部は幅 112cm、奥行 66cm で、焚口幅は不明である。燃焼部底面は幅 52cm、奥行 54cm で、床面とほぼ平坦である。奥壁側の幅 25cm、奥行 28cm の範囲に赤色硬化面が形成されている。側壁は焼土粒、黒色シルトブロックを含むオリーブ褐色粘土で構築され、長さ 36~68cm、幅 13~24cm、高さ 6~16cm が残存する。奥壁は住居東壁と一致する。煙道は残存長が奥壁から 50cm で、幅 26cm、深さ 6cm である。なお、側壁は K2 土坑の上面に構築されてお



SB127 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (b 期柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (b 期柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多く含む (a 期柱掘)
4	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (a 期柱掘)

SB127 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを含む (b 期柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (b 期柱抜)
3	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・黒色シルトブロックを多量に含む (b 期柱掘)

SB127 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (b 期柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (b 期柱掘)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (b 期柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (b 期柱掘)
5	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (b 期柱掘)
6	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (a 期柱掘)
7	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム大ブロックを多量に含む (a 期柱掘)

SB127 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (b 期柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (a 期柱抜)
3	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (a 期柱掘)
4	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (a 期柱掘)
5	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロック主体 (a 期柱掘)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器高 (cm)	残存	登録	写真
1	SB127b	P4 堆積土	弥生土器	甕または壺				
			器面調整・施文・特徴					
			外面：縄文 (LR)・結節文 内面：ナデ→ミガキ		(4.2)	体部	512	51-2

第 87 図 SB127 掘立柱建物跡・出土遺物

り、側壁構築土下に焼土を含む土層 (C-C' 断面 4~6 層) が見られることから、カマドの作り替えが行われた可能性が考えられる。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅で土坑 1 基 (K1) を確認した。平面形は長軸 91cm、短軸 53cm の隅丸方形を呈し、断面形は深さ 20cm の逆台形を呈する。堆積土は地山・焼土粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。また、カマド左側の住居北東隅付近で土坑 1 基 (K2) を確認した。旧カマドに伴う貯蔵穴と考えられる。カマド左側壁より古く、平面形は長軸 52cm、短軸 48cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 10cm の逆台形を呈する。堆積土は 2 層に細分され、1 層は地山ブロック・焼土粒を含む黒褐色シルト、2 層は地山・焼土粒を含む暗褐色シルトである。いずれも人為的埋土と考えられ、旧カマド構築土起源の可能性はある。

〔出土遺物〕住居床面直上からロクロ土師器坏 (第 85 図 3)、カマド崩落土からロクロ土師器坏 (第 85 図 4)、K1 土坑堆積土からロクロ土師器坏 (第 85 図 6・8)、須恵器坏・甕 (第 86 図 1・2)、K2 土坑堆積土から須恵器甕 (第 86 図 3)、住居内堆積土からロクロ土師器坏 (第 85 図 1・2・7・9・10・11)、甕 (第 85 図 12)、

鉄製刀子 (第 86 図 5)、弥生土器 (第 86 図 4)、遺構確認面からロクロ土師器坏 (第 85 図 5) が出土した。ロクロ土師器坏は外面の体部に墨書「丈」が見られるもの (第 85 図 11)、墨書「中」?・「一」?が見られるもの (第 85 図 10) がある。このほか、土師器坏・甕、須恵器坏、流紋岩製の剥片が出土した。土師器坏は内外面にミガキ調整→赤彩を施すものがある。

【SI196 竪穴住居跡】(第 84 図、写真図版 27)

〔位置〕2 区/平坦面

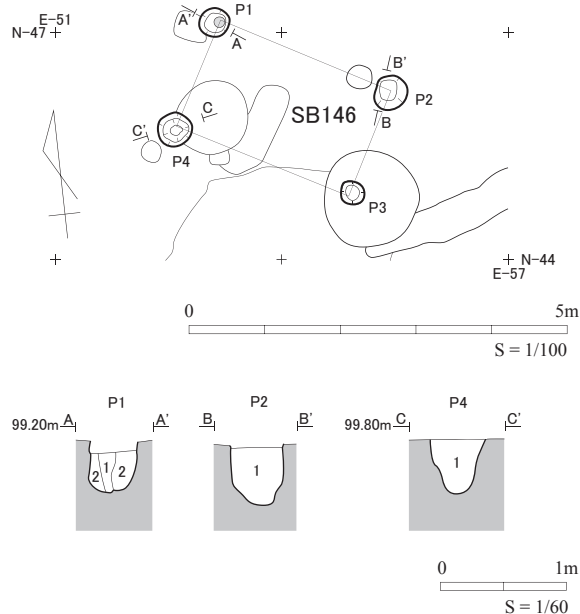
〔重複〕なし

〔規模・形状〕長辺 2.50m 以上、短辺 0.70m 以上/方形

〔方向〕住居東辺: N-13° -E

〔壁面〕地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大で 20cm である。

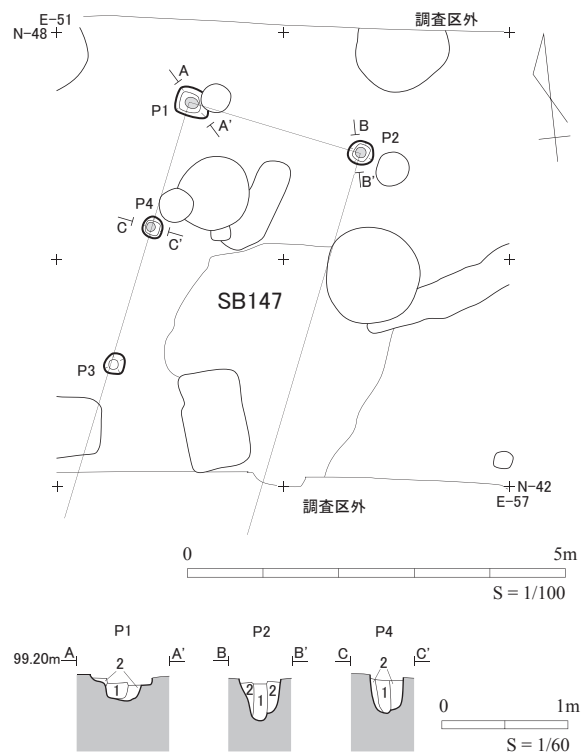
〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。



SB146 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB146 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む

SB146 掘立柱建物跡 P4 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含み、黄褐色ローム粒を多量に含む



SB147 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む、黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB147 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを底面にごく少量含む、黄褐色ローム粒をごく少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB147 掘立柱建物跡 P4 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第 88 図 SB146・147 掘立柱建物跡

〔支柱穴〕 不明

〔壁柱穴〕 住居東辺で3か所 (P1~3) 確認した。平面形は長軸 20~40cm、短軸 14~27cm の楕円形を呈し、深さ 17~30cm である。3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕 住居壁面に沿って幅 35~52cm の周溝を確認した。断面形は深さ 18cm の不整なU字形である。堆積土は住居内堆積土と共通し、壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド・貯蔵穴〕 不明

〔出土遺物〕 住居掘方埋土から土師器が出土した。内外面にヘラミガキ調整、赤彩を施すものがある。

は平坦なものと、階段状に掘削されているものがある。3か所で平面形が長軸 20~27cm、短軸 13~23cm の楕円形を呈する柱材の抜き取り痕跡および柱材圧痕を確認した。

〔柱間寸法〕 西側柱列：北から (188) - (172) - (156) - (180) cm
北側柱列：西から 210 - 233 - (200) cm

〔出土遺物〕 なし

【SB127b 掘立柱建物跡】 (第 87 図、写真図版 28・51)

〔位置〕 2区 / 平坦面

〔重複〕 SB127a → SB127b - SB147

〔規模・形状〕 桁行 4 間 (6.96m)、梁行 3 間 (6.52m) / 南北棟側柱建物

(2) 掘立柱建物跡

【SB127a 掘立柱建物跡】 (第 87 図、写真図版 28)

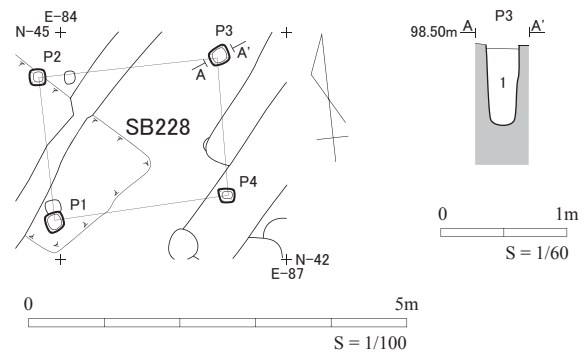
〔位置〕 2区 / 平坦面

〔重複〕 SB127a → SB127b - SB147

〔規模・形状〕 桁行 4 間 (6.96m)、梁行 3 間 (6.43m) / 南北棟側柱建物

〔方向〕 西側柱列：N-2° -W

〔柱穴〕 9か所確認し、4か所で掘り下げを行なった。柱穴掘方の平面形は長軸 118~132cm、短軸 80~92cm の隅丸方形を呈し、深さ 49~56cm である。掘方底面



SB228 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SB199 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR2/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒、黒色シルトを含む (柱掘)
3	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB199 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、黄褐色ロームブロックを多量に含む
4	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SB199 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SB199 掘立柱建物跡 P4 D-D'

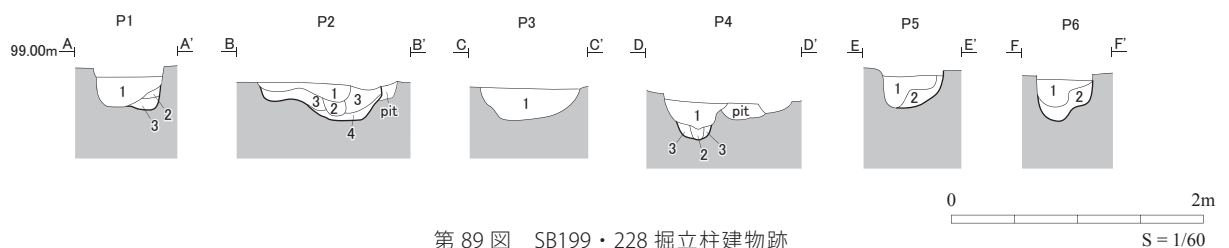
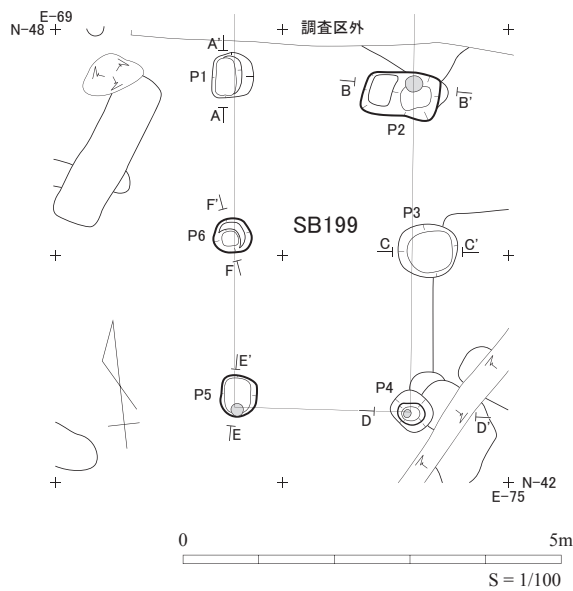
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)
3	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒主体 (柱掘)

SB199 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB199 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱掘)



第 89 図 SB199・228 掘立柱建物跡

〔方向〕西側柱列：N-2° -W

〔柱穴〕9か所確認し、4か所で掘り下げを行なった。柱穴掘方はSB127a 掘立柱建物跡の柱材抜き取り穴を利用しており、柱位置を約20cm南側へ移している。柱材はいずれも抜き取られており、抜き取り痕跡から推定される柱材の平面形は直径22-26cmの円形である。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から(188) - (172) - (156) - (180) cm
北側柱列：西から222 - 226 - 204cm

〔出土遺物〕P4 柱穴堆積土から弥生土器(第87図1)が出土した。このほか、土師器小型品、ロクロ土師器坏が出土した。

〔SB146 掘立柱建物跡〕(第88図、写真図版28)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SB147・SK133・SK134・SK135 → SB146

〔規模・形状〕桁行1間(2.38m)、梁行1間(1.56m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕北側柱列：W-30° -N

〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸38-44cm、短軸38-44cmの不整円形を呈し、深さ42-47cmである。1か所で平面形が直径14cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：(238) cm、西側柱列：(156) cm

〔出土遺物〕なし

〔SB147 掘立柱建物跡〕(第88図、写真図版28)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SB147 → SB146 - SB127・SK134・SK135

〔規模・形状〕桁行2間(3.60m)以上、梁行1間(2.38m) / 南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-23° -E

〔柱穴〕4か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸36-46cm、短軸28-36cmの不整円形を呈し、深さ20-34cmである。3か所で平面形が直径12-17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から172- (188) cm

北側柱列：238cm

〔出土遺物〕なし

〔SB199 掘立柱建物跡〕(第89図、写真図版28・29)

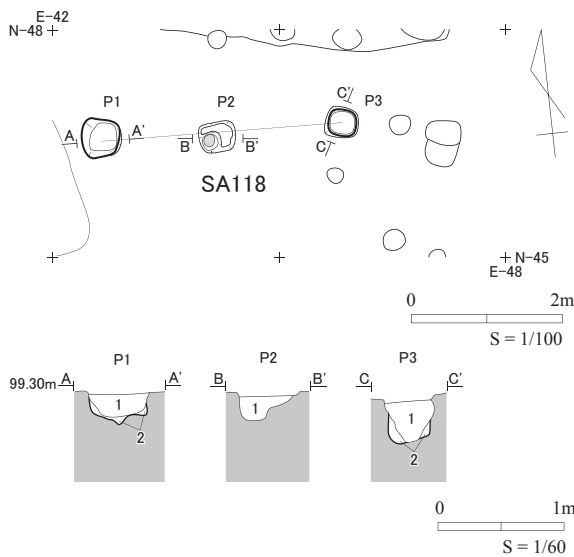
〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SI160 → SB199 → SK219

〔規模・形状〕桁行2間(4.40m)以上、梁行1間(2.30m) / 南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-6° -E

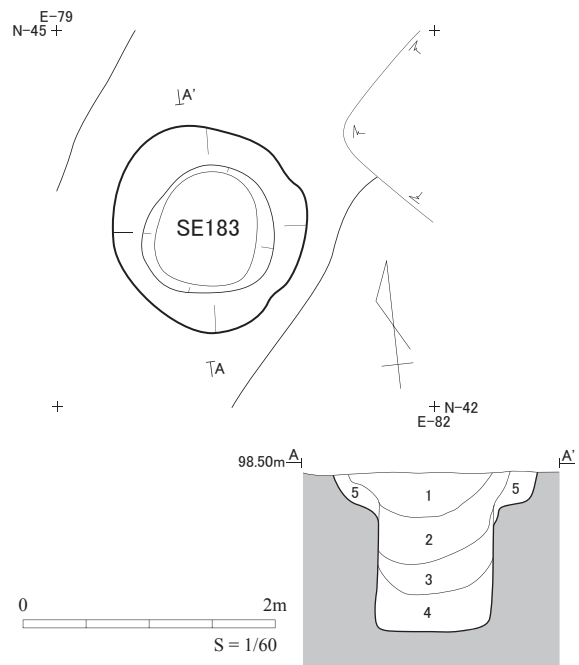
〔柱穴〕6か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸50-110cm、短軸44-70cmの隅丸方形を基調とし、



SA118 柱列跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA118 柱列跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)

SA118 柱列跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SE183 井戸跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (5層起源)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む
5	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	均質土 (掘)

第90図 SA118 柱列跡・SE183 井戸跡

深さ 28~36cm である。6 か所で柱材の抜き取り痕跡を確認し、2 か所で平面形が直径 10~22cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 東側柱列：北から (220) - (220) cm
南側柱列：230cm

〔出土遺物〕 土師器甕が出土した。

【SB228 掘立柱建物跡】 (第 89 図)

〔位置〕 2 区 / 平坦面

〔重複〕 SB228 → SK152

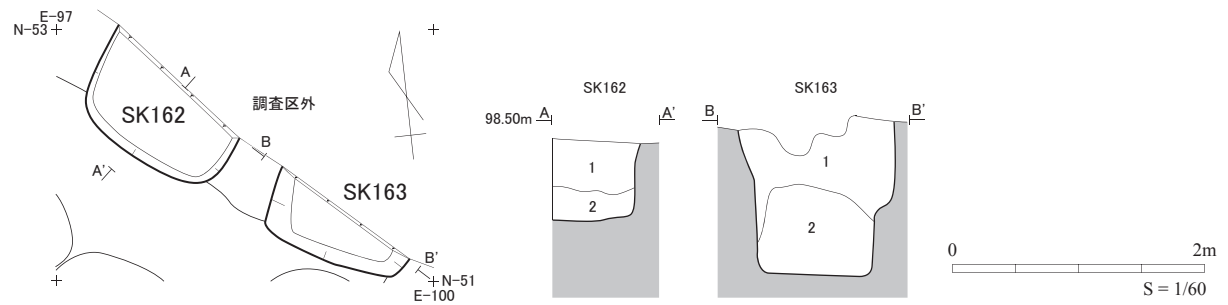
〔規模・形状〕 桁行 1 間 (2.43m)、梁行 1 間 (1.92m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕 北側柱列：W-0°

〔柱穴〕 4 か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 20~26cm、短軸 18~24cm の方形を呈し、深さ 45~64cm である。柱痕跡は確認されなかった。

〔柱間寸法〕 北側柱列：(192) cm、西側柱列：(243) cm

〔出土遺物〕 なし

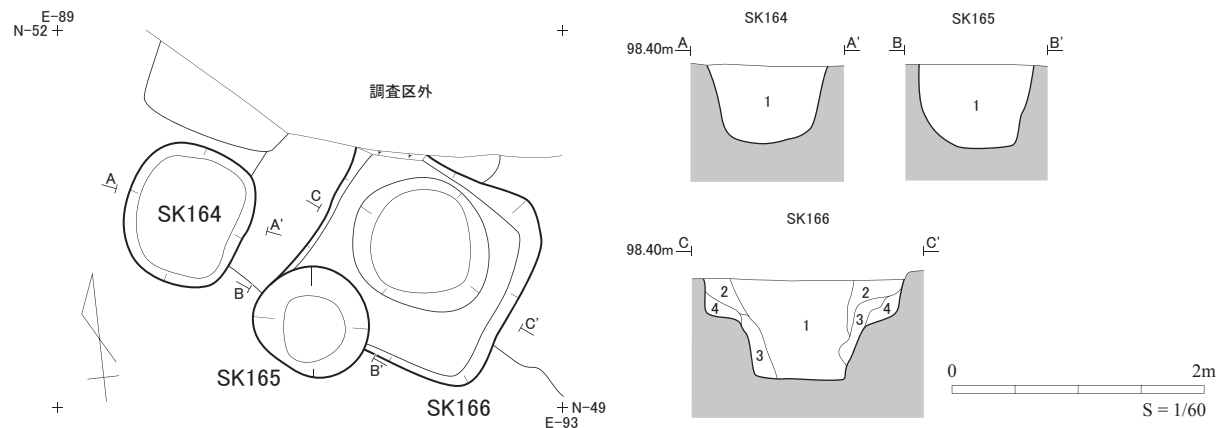


SK162 近世墓 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを極めて多量に含む (人為)

SK163 近世墓 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを含む (人為)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	φ 5-25cm の礫を多量に含む (人為)



SK164 土坑 A-A'

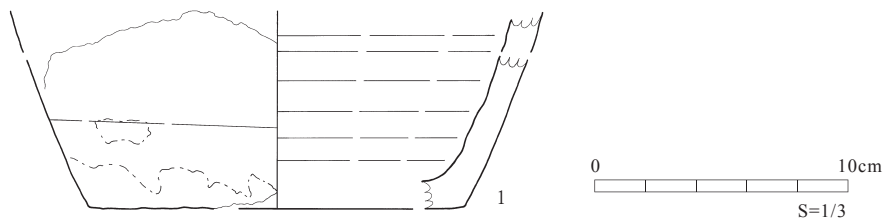
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)

SK165 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)

SK166 近世墓 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為・崩)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (掘方)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (掘方)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック主体 (掘方)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)	残存	登録	写真
1	SK166	堆積土 1 層	近世陶器	甕	内外面：ロクロナデ→灰釉 底径 (14.9) cm 塩内焼 (19 世紀)	(7.8)	胴下 ~底部	603	54-1

第 91 図 SK162~166 近世墓、SK166 近世墓出土遺物

(3) 柱列跡

〔SA118 柱列跡〕(第90図、写真図版28・29)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕東西2間(3.20m)

〔方向〕W-1°-N

〔柱穴〕3か所確認した。柱穴掘方の平面形は長軸48-52cm、短軸38-49cmの隅丸方形を呈し、深さ27-34cmである。3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から(156)-(166)cm

〔出土遺物〕土師器が出土した。

(4) 井戸跡

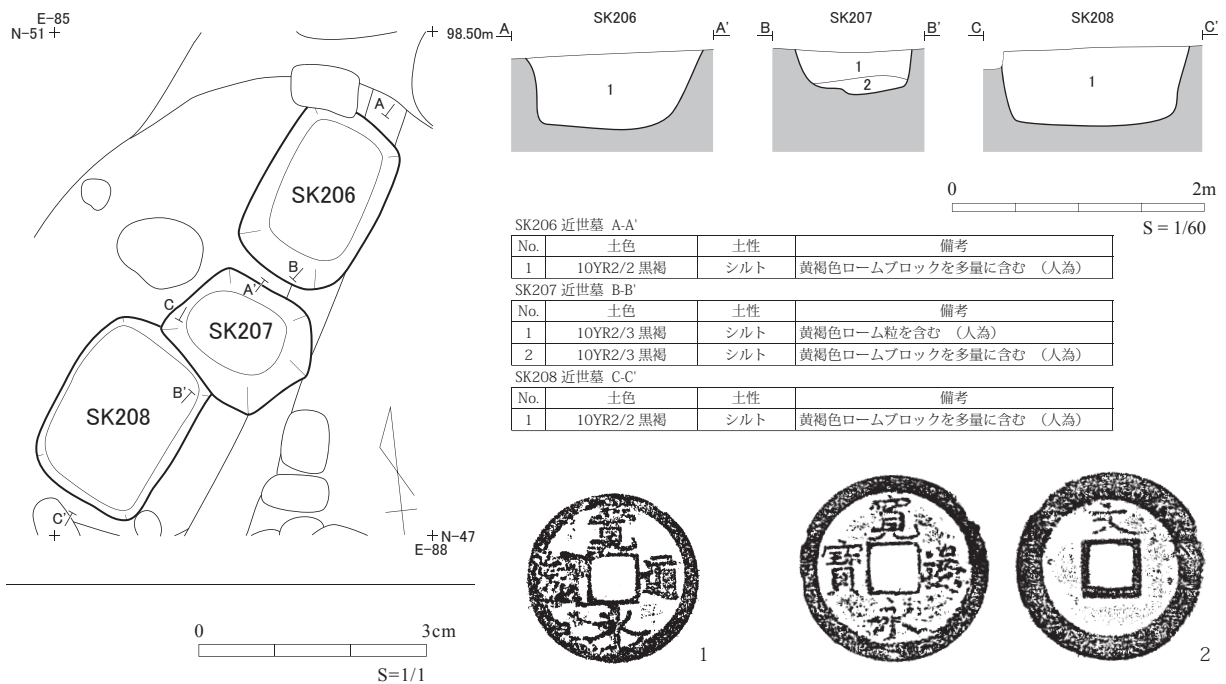
〔SE183 井戸跡〕(第90図、写真図版29)

〔位置〕2区/平坦面

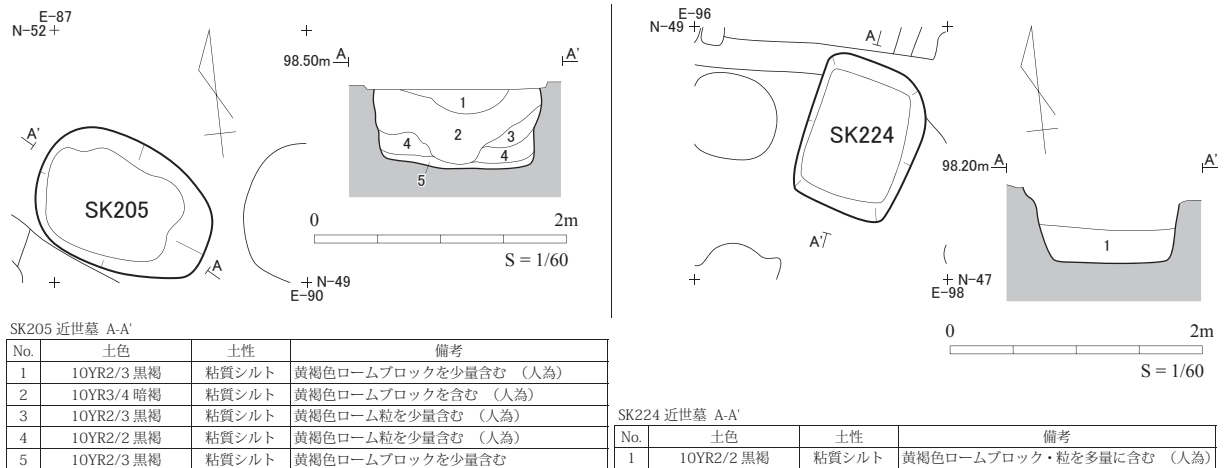
〔重複〕SD144 → SE183

〔規模・形状〕掘方の平面形が長軸164cm、短軸150cmの不整形円形を呈し、深さ126cmである。下部が円筒形を呈し、上部が逆台形に開く。上部の外周部分で掘方埋土の残存を確認した。井戸側は確認されなかった。

〔堆積土〕5層に細分される。1-4層は均質な黒褐色シルトあるいは地山ブロックを含む黒褐色シルト・黒色粘質シルトで、自然堆積土あるいは崩落土と考えら



No.	遺構名	層位	種類	銭名	特徴	法量 (mm・g)			残存	登録	写真
						径	厚	重			
1	SK208	堆積土	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」	22.7	1.0	2.6	完形	313a	54-4
2	SK208	堆積土	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」 背文「文」	25.2	1.3	2.3	完形	313b	54-6



第92図 SK205~208・224 近世墓, SK208 近世墓出土遺物

れる。5層は均質な黄褐色粘質シルトで、井戸側の掘方埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から弥生土器（第105図3）が出土した。弥生土器はSD144溝跡出土のものと同接合関係がある。このほか、土師器環、須恵器環・甕が出土した。

〔5〕近世墓

〔SK162近世墓〕（第91図）

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SD144 → SK162

〔規模・形状〕平面形が長軸130cm、短軸72cm以上の隅丸方形を呈し、断面形は深さ66cmの箱形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕2層に細分される。地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕須恵器、不明鉄製品が出土した。

〔SK163近世墓〕（第91図、写真図版54）

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SD144 → SK163

〔規模・形状〕平面形が長軸121cm、短軸50cm以上の隅丸方形を呈し、深さ105cmである。下部が箱形、上部は逆台形を呈し、東壁の中位に段を形成する。底面は平坦である。

〔堆積土〕2層に細分される。地山ブロック・粒、礫を多量に含む黒褐色・暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から銅銭（寛永通宝、写真図版57-1-4）が出土した。このほか、土師器甕、須恵器環、近世陶器碗が出土した。近世陶器碗は内外面に灰釉が見られ、大堀相馬産とみられる。

〔SK166近世墓〕（第91図、写真図版29・54）

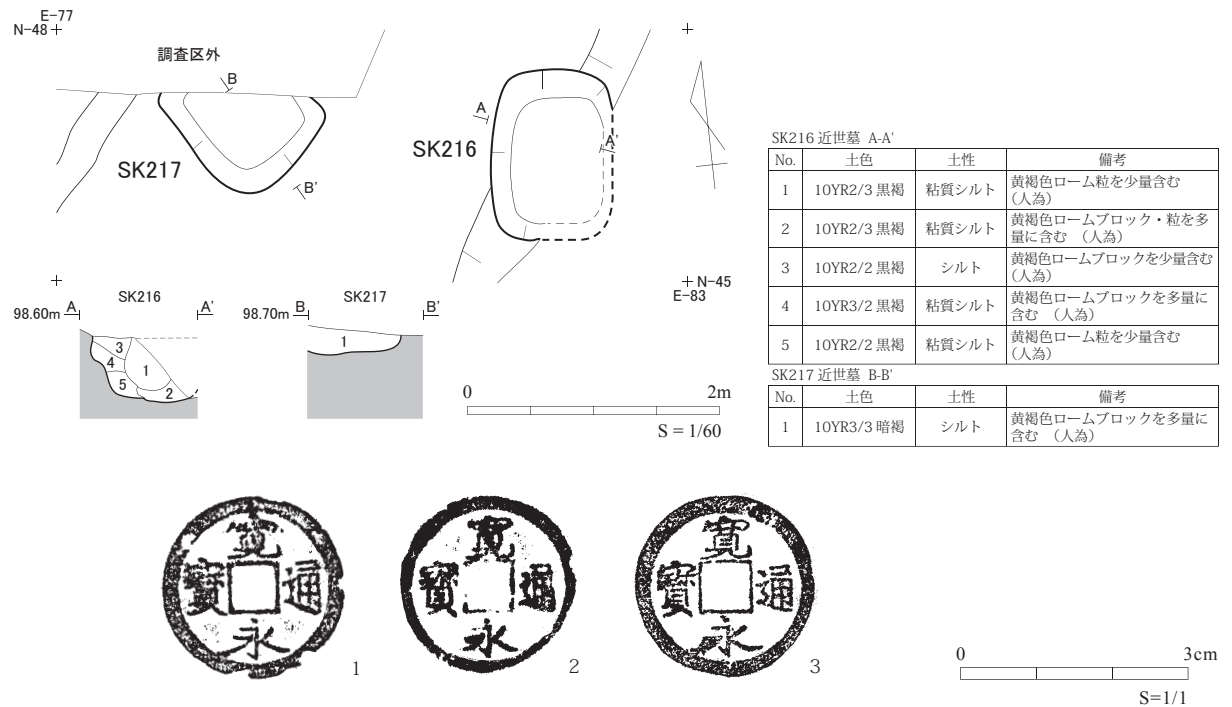
〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SK248・SD144 → SK166 → SK165

〔規模・形状〕平面形が長軸164cm、短軸164cmの隅丸方形を呈し、深さ78cmである。下部が円筒形、上部は逆台形を呈し、中位に段を形成する。底面は平坦である。

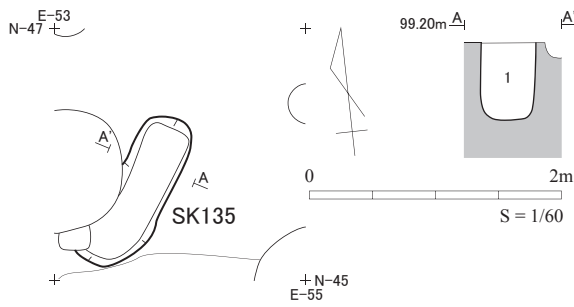
〔堆積土〕4層に細分される。1層は地山ブロックを含む黒褐色シルト、2-4層は地山ブロックを多量に含む黒褐色・暗褐色シルトである。いずれも人為的埋土で、2-4層は埋葬時の埋土、1層は崩落土の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕堆積土1層から近世陶器甕（第91図1）、堆積土から銅銭（寛永通宝、写真図版53-9）が出土した。近世陶器甕（第91図1）は内外面に灰釉が見られ、村田塩内産（19世紀）とみられる。このほか、土師器甕、弥生土器が出土した。



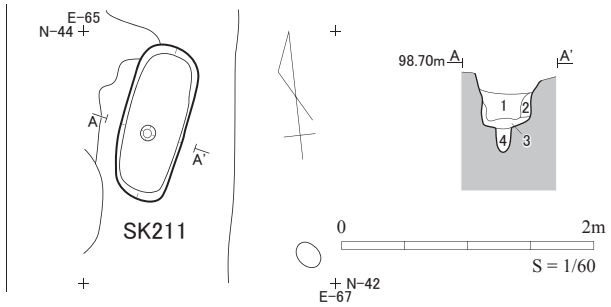
No.	遺構名	層位	種類	銭名	特徴	法量 (mm・g)			残存	登録	写真
						径	厚	重			
1	SK216	堆積土	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」	24.6	1.2	2.8	完形	311a	55-2
2	SK216	堆積土	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」裏面に3枚固着	23.9-24.9	1.2	11.6	完形	312a	55-3
3	SK216	堆積土	銅銭	寛永通寶	銭文「寛永通寶」裏面に2枚固着	24.2-24.5	1.1-1.2	8.8	完形	312b	55-4

第93図 SK216・217近世墓、SK216近世墓出土遺物



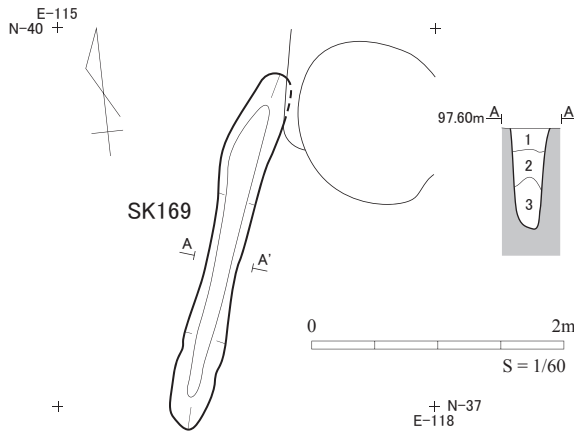
SK135 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (人為)



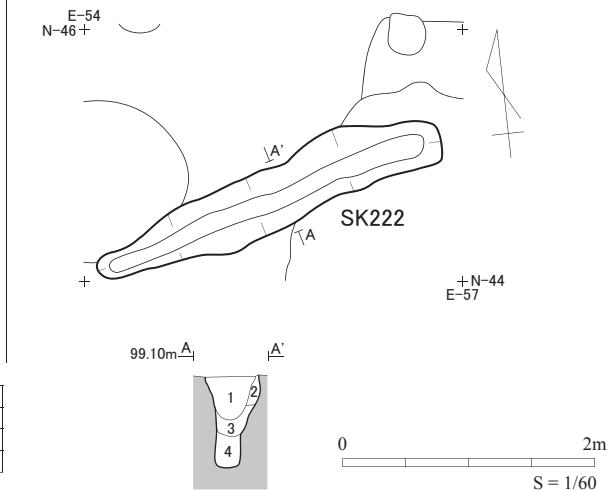
SK211 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロック主体 (壁崩)
3	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	暗褐色シルトブロックを少量含む (人為)
4	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	暗褐色シルトブロックを含む (人為)



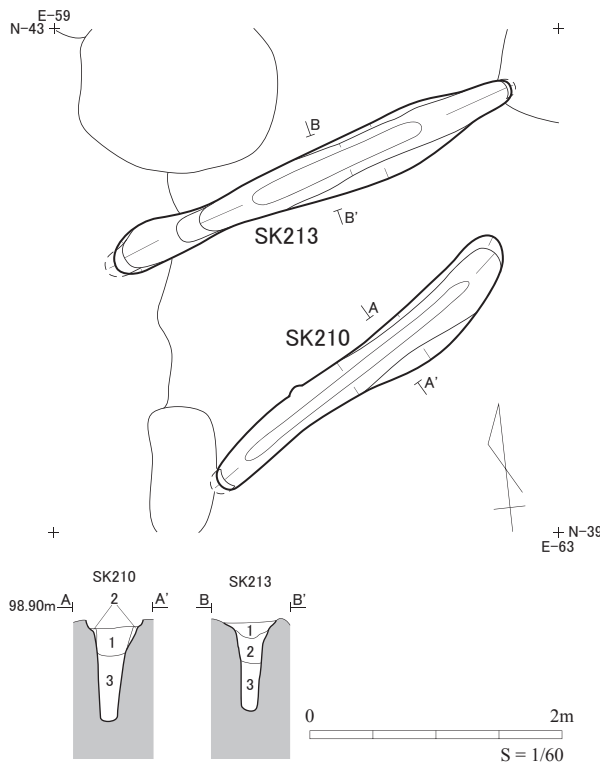
SK169 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	φ 1 cm の黄褐色ローム粒を少量含む
2	7.5YR4/4 褐	粘質シルト	均質土
3	7.5YR4/4 褐	粘質シルト	φ 1 cm の黄褐色ロームブロックを多量に含む



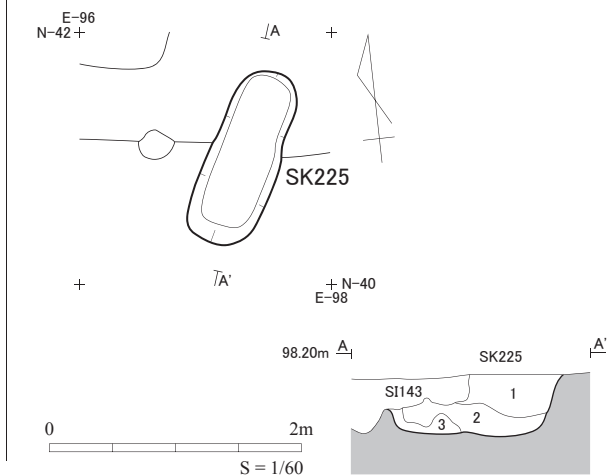
SK222 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒をごく少量含む
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む
4	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



SK213 落とし穴状土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック主体
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む



SK225 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (人為)
3	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SK210 落とし穴状土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・黒色シルトブロックを含む
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黒色シルト粒を含む
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・黒色シルトブロックを含む

第94図 SK135・169・210・211・213・222・225 落とし穴状土坑

【SK205 近世墓】(第92図、写真図版54)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SD144 → SK205

〔規模・形状〕平面形が長軸144cm、短軸105cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ70cmの箱形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕5層に細分される。地山ブロック・粒を含む黒褐色・暗褐色粘質シルトで、いずれも人為的埋土で、3~5層は埋葬時の埋土、1~2層は崩落土の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から銅・竹製の煙管の一部(写真図版54-7)が出土した。このほか、土師器甕、ロクロ土師器坏、須恵器坏・小型甕・甕が出土した。

【SK206 近世墓】(第92図、写真図版29)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SI139・SD182 → SK206

〔規模・形状〕平面形が長軸148cm、短軸94cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ64cmの逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器、ロクロ土師器坏が出土した。

【SK207 近世墓】(第92図、写真図版29・54)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SI139・SK208・SD182 → SK207

〔規模・形状〕平面形が長軸108cm、短軸93cmの不整形方形を呈し、断面形は深さ36cmの逆台形を呈する。底面は平坦で、北側に段を形成する。

〔堆積土〕2層に細分される。地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から銅製の煙管吸い口(写真図版54-9)、竹製の煙管羅字(写真図版54-8)が出土した。

このほか、土師器甕、ロクロ土師器坏、弥生土器が出土した。

【SK208 近世墓】(第92図、写真図版29・54)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SI139 → SK208 → SK207

〔規模・形状〕平面形が長軸150cm、短軸102cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ64cmの逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から銅銭(寛永通宝、第92図1・2)が出土した。このほか、土師器、ロクロ土師器甕、須恵器、弥生土器が出土した。

【SK216 近世墓】(第93図、写真図版55)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SD144 → SK216

〔規模・形状〕平面形が長軸136cm以上、短軸94cm以上の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ52cmの不整形逆台形を呈する。底面は皿状に浅く窪む。

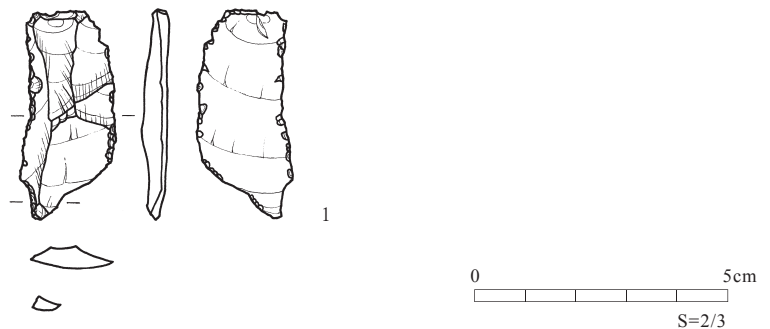
〔堆積土〕5層に細分される。地山ブロック・粒を含む黒褐色シルト・粘質シルトで、いずれも人為的埋土で、3~5層は埋葬時の埋土、1~2層は崩落土の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から銅・竹製の煙管の一部(写真図版55-7)、銅製の煙管雁首(写真図版55-8)、銅銭(寛永通宝、第93図1~3、写真図版54-11・12)が出土した。銅銭(写真図版55-1)は植物種子(米?)の付着が見られる。このほか、土師器・ロクロ土師器坏、須恵器坏が出土した。

【SK217 近世墓】(第93図)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕なし



No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SK211	堆積土	石錐	珪質頁岩	単剥離面打面 両側縁：不規則な小剥離痕 下端：左側縁に腹面から、右側縁に背面からの加工により錐部作出	41.5	19.5	4.8	3.4	完形	212	56-1

第95図 SK211 落とし穴状土坑出土遺物

〔規模・形状〕平面形が長軸 112cm 以上、短軸 98cm 以上の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 22cm の逆台形を呈する。底面は皿状に浅く窪む。

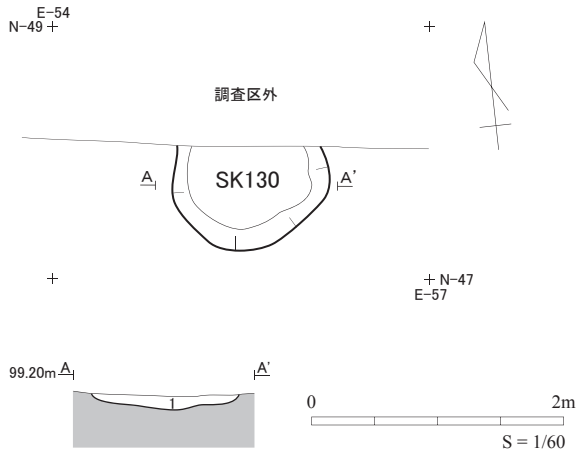
〔堆積土〕地山ブロックを多量に含む暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から須恵器甕が出土した。外面に並行タタキ調整を施す。このほか、土師器が出土した。

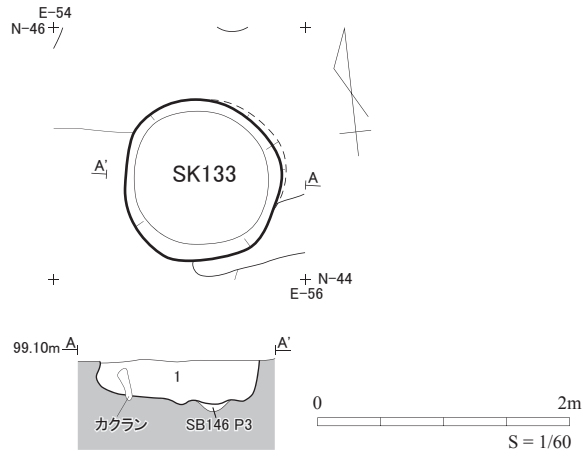
〔SK224 近世墓〕(第 92 図、写真図版 29)

〔位置〕2 区／平坦面

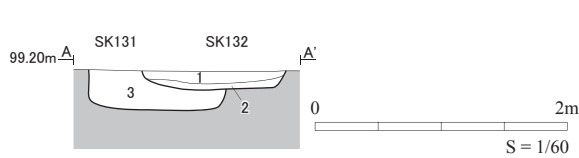
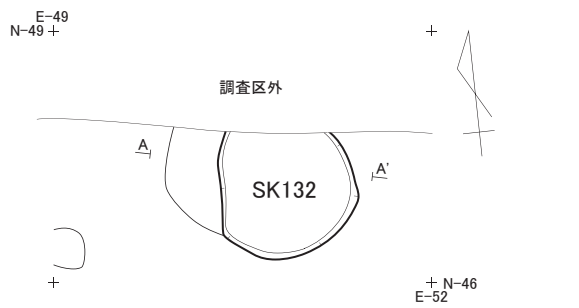
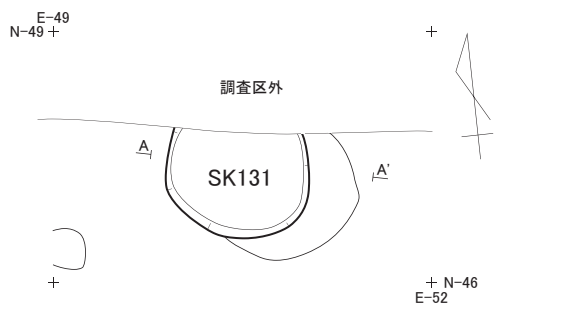
〔重複〕SI143 → SK224



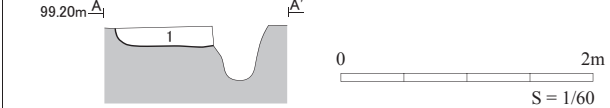
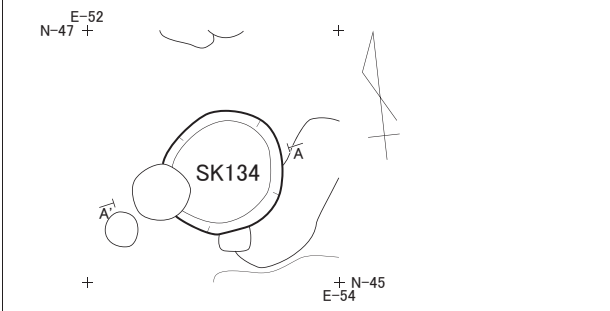
SK130 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む



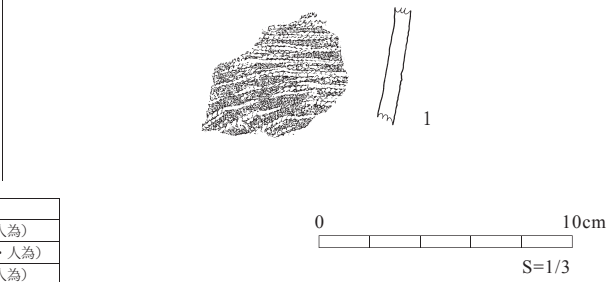
SK133 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (人為)



SK131・SK132 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (SK132 堆・人為)
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK132 堆・人為)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (SK131 堆・人為)

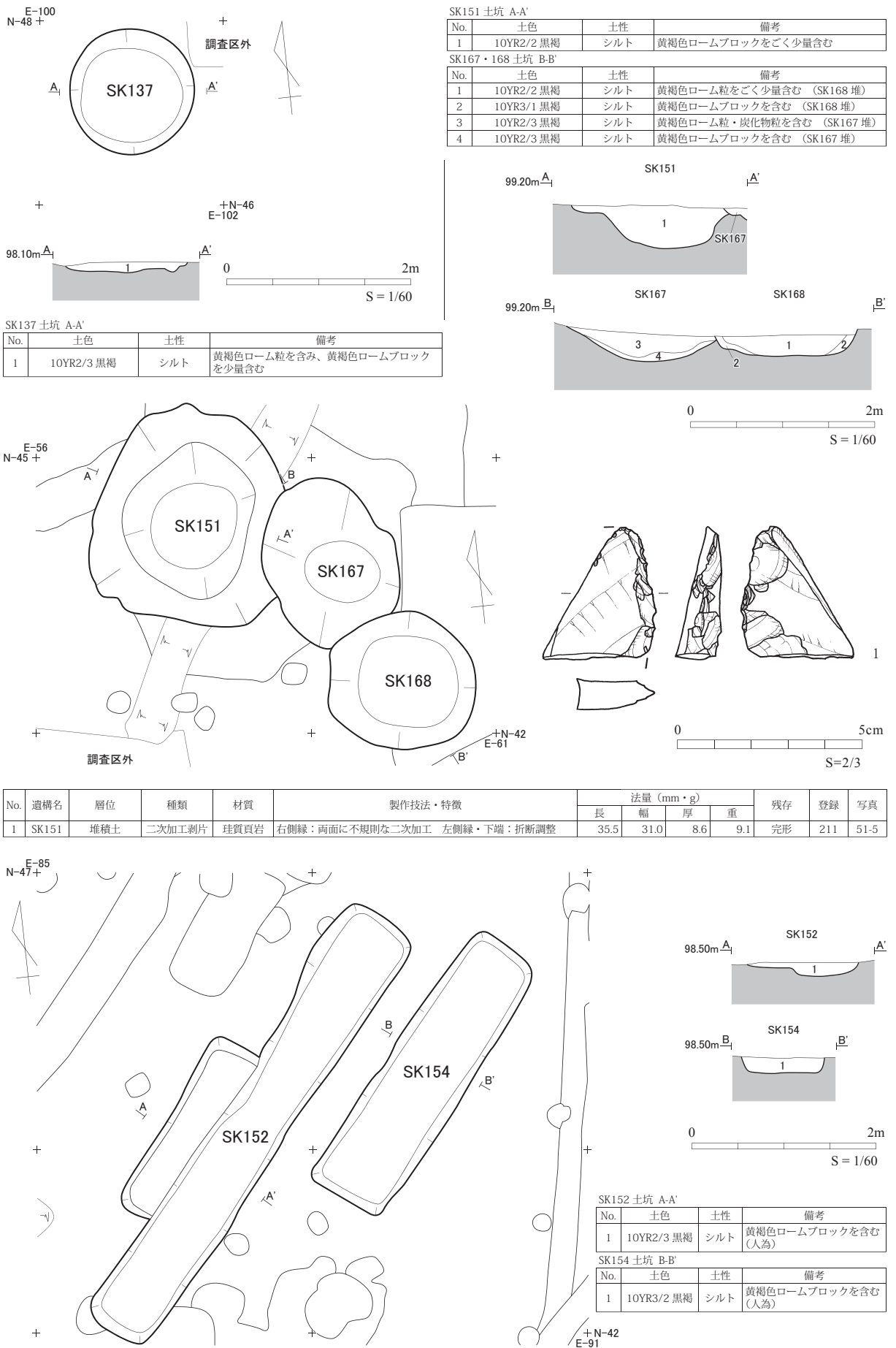


SK134 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)	残存	登録	写真
1	SK131 SK132	堆積土	弥生土器	甕または壺	外面：縄文 (LR) 内面：ミガキ	(4.7)	体部	513	51-3

第 96 図 SK130~134 土坑, SK131・132 土坑出土遺物



第 97 図 SK137・151・152・154・167・168 土坑, SK151 土坑出土遺物

〔規模・形状〕平面形が長軸 118cm、短軸 90cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 58cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を多量に含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器・ロクロ土師器坏、不明鉄製品が出土した。

(6) 落とし穴状土坑

〔SK135 落とし穴状土坑〕(第 94 図、写真図版 29)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK135 → SB146・SK134 - SB147

〔規模・形状〕平面形が長軸 132cm、短軸 44cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 63cm の U 字形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山粒を少量含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

〔SK169 落とし穴状土坑〕(第 94 図、写真図版 30)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK169 → SI157

〔規模・形状〕平面形が長軸 290cm、短軸 36cm の溝状を呈し、断面形は深さ 80cm の V 字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕3 層に細分される。1 層は地山粒を少量含む黒褐色シルト、2 層は均質な褐色粘質シルト、3 層は地山ブロックを多量に含む褐色粘質シルトで、いずれも自然堆積土あるいは崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

〔SK210 落とし穴状土坑〕(第 94 図、写真図版 30)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK210 → SI140

〔規模・形状〕平面形が長軸 300cm、短軸 46cm の溝状を呈し、断面形は深さ 80cm の V 字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕3 層に細分される。地山ブロック・粒を含む黒褐色・暗褐色シルトで、いずれも自然堆積土あるいは崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

〔SK211 落とし穴状土坑〕(第 94・95 図、写真図版 30・56)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK211 → SI140・SI194

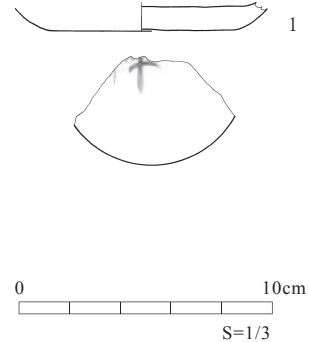
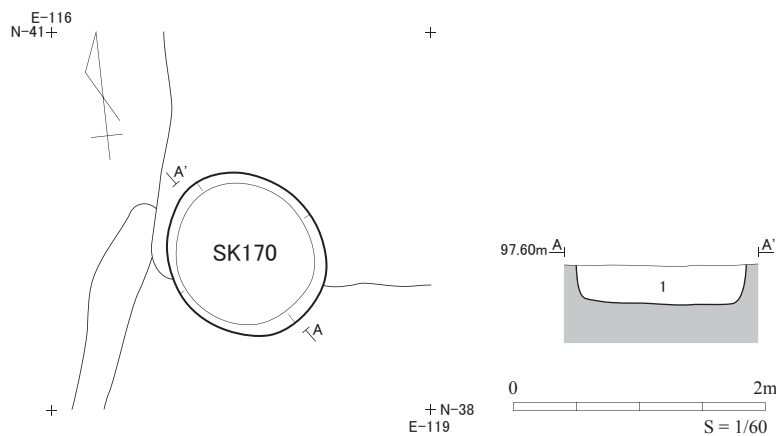
〔規模・形状〕平面形が長軸 124cm、短軸 50cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 45cm の U 字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでおり、中央付近に平面形が直径 12cm の略円形を呈し、深さ 15cm の小穴が掘られている。

〔堆積土〕4 層に細分される。1 層は地山粒を少量含む暗褐色シルト、2 層は地山ブロックを主体とする褐色シルト、3・4 層は地山ブロックを含む黄褐色粘質シルトで、1 層は自然堆積土、2 層は崩落土、3・4 層は人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から珪質頁岩製の石錐(第 95 図 1)が出土した。

〔SK213 落とし穴状土坑〕(第 94 図、写真図版 30)

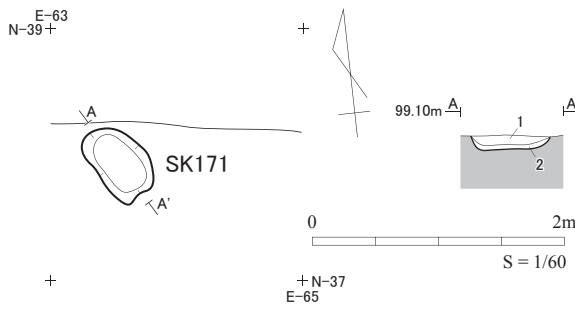
〔位置〕2 区／平坦面



SK170 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1 黒褐	砂質シルト	φ 0.5-1cmの黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)

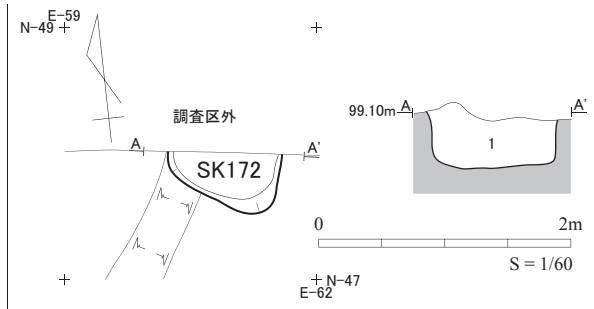
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK170	確認面	須恵器	坏	外面：ロクロナデ、切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 外底面：墨書「□」	-	(7.6)	(1.1)	一部	116	51-4

第 98 図 SK170 土坑・出土遺物



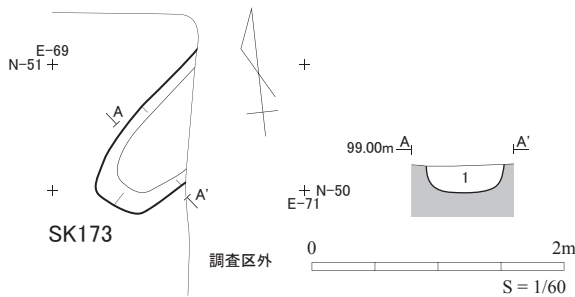
SK171 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



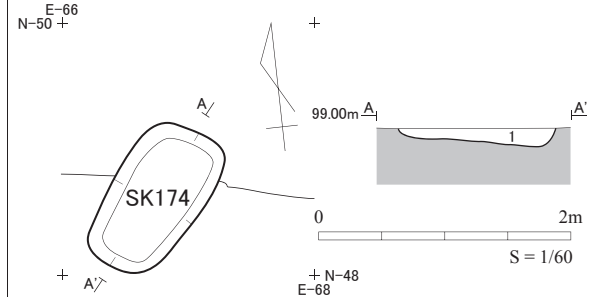
SK172 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)



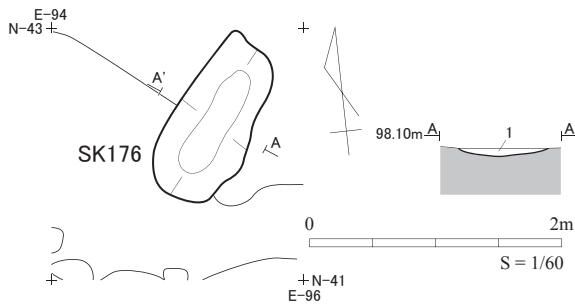
SK173 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (人為)



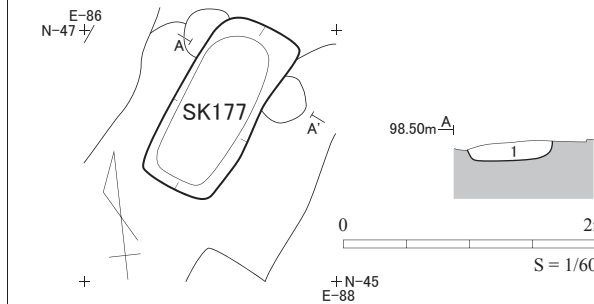
SK174 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)



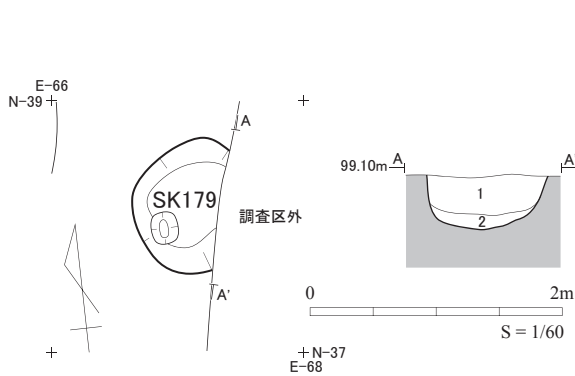
SK176 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックをごく少量含む (人為)



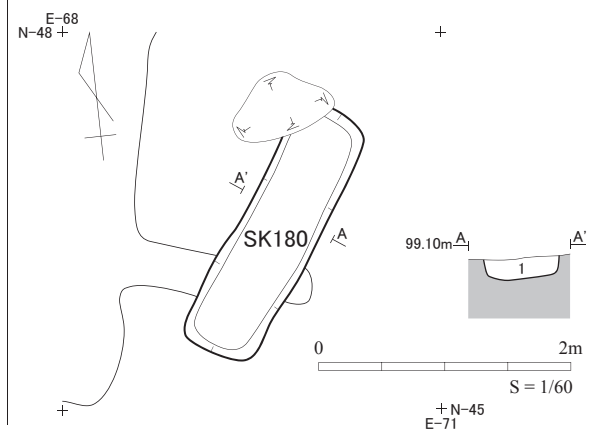
SK177 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)



SK179 土坑 A-A'

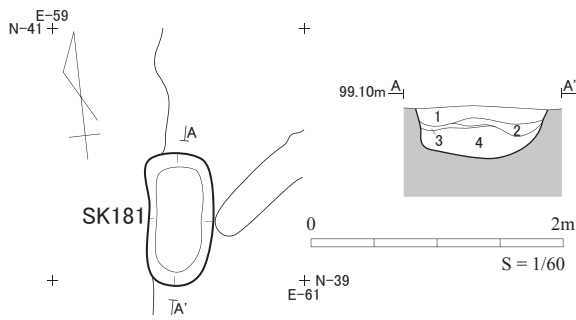
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



SK180 土坑 A-A'

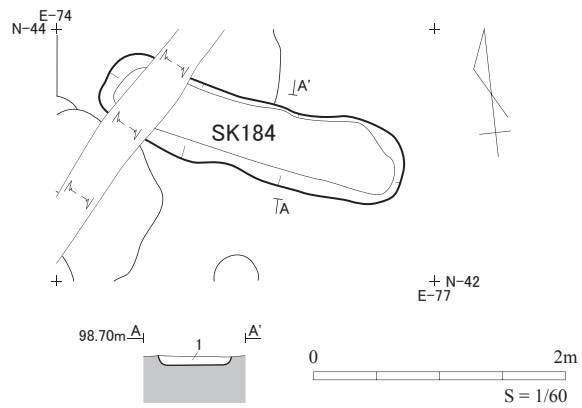
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

第99図 SK171~174・176・177・179・180 土坑



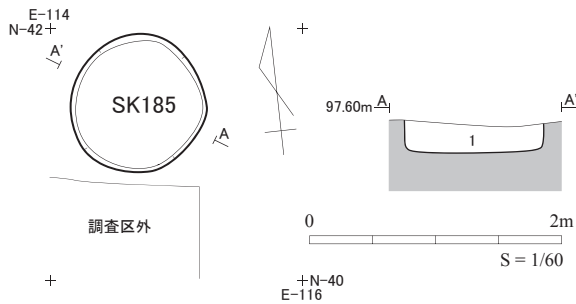
SK181 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



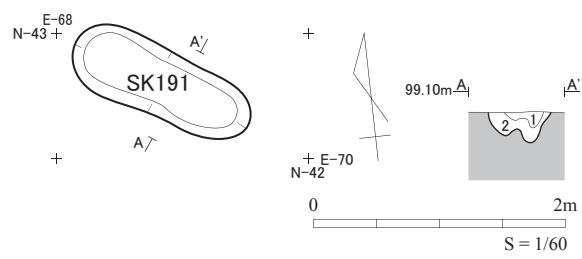
SK184 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む (人為)



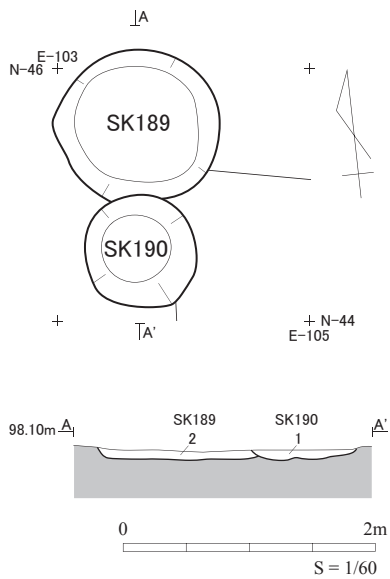
SK185 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1 黒褐	砂質シルト	φ 0.5-1cmの黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)



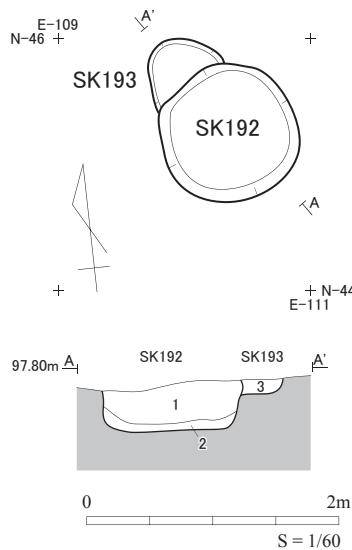
SK191 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	炭化物粒を多量に含む (人為)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、炭化物粒を多量に含む (人為)



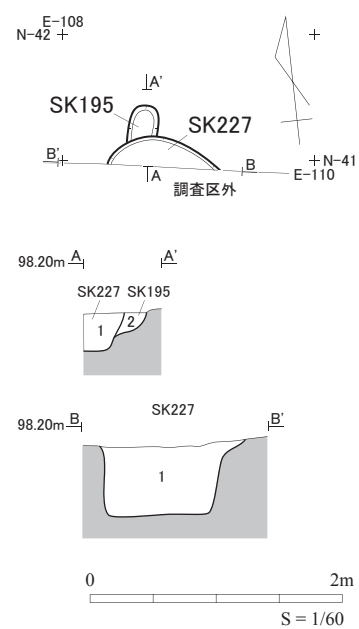
SK189・SK190 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (人為・SK190 堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為・SK189 堆)



SK192・SK193 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1 黒褐	シルト	φ 0.5-3cmの黄褐色ローム粒を多量に含む (SK192 堆・人為)
2	7.5YR4/3 暗褐	シルト	φ 1-5cmの黄褐色ローム粒・ブロックを多量に含む (SK192 堆・人為)
3	7.5YR3/4 暗褐	シルト	φ 1cmの黄褐色ローム粒を含む (SK193 堆)



SK195・SK227 土坑 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	φ 0.5-3cmの黄褐色ローム粒・ブロックを多量に含む (人為・SK227 堆)
2	7.5YR3/2 黒褐	シルト	φ 0.5cmの黄褐色ローム粒を含む (SK195 堆)

第100図 SK181・184・185・189~193・195・227 土坑

〔重複〕 SK213 → SI140

〔規模・形状〕 平面形が長軸 354cm、短軸 46cm の溝状を呈し、断面形は深さ 73cm のV字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕 3層に細分される。地山ブロック・粒を含む黒褐色・暗褐色シルトで、自然堆積土あるいは崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕 なし

【SK222 落とし穴状土坑】 (第94図、写真図版30)

〔位置〕 2区/平坦面

〔重複〕 SK222 → SI159・SK133・SK151

〔規模・形状〕 平面形が長軸 290cm、短軸 50cm の溝状を呈し、断面形は深さ 72cm のV字形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 4層に細分される。1層は地山ブロック・粒をごく少量含む黒褐色シルト、2層は地山ブロック

を含む暗褐色シルト、3層は地山粒を含む暗褐色粘質シルト、4層は地山ブロックを多量に含む褐色粘質シルトで、いずれも自然堆積土あるいは崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕 なし

【SK225 落とし穴状土坑】 (第94図、写真図版30)

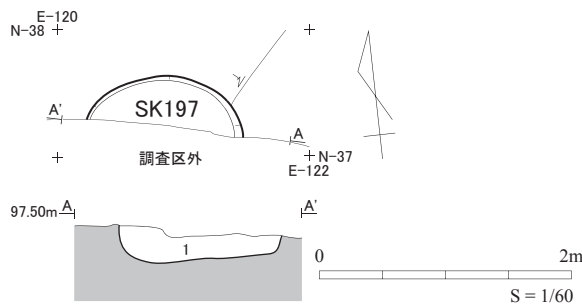
〔位置〕 2区/平坦面

〔重複〕 SK225 → SI143

〔規模・形状〕 平面形が長軸 142cm、短軸 58cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 50cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

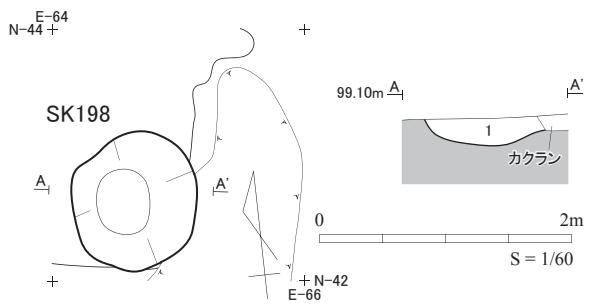
〔堆積土〕 3層に細分される。1層は地山粒を少量含む黒褐色粘質シルト、2・3層は地山ブロックを多量に含む黒褐色・暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 なし



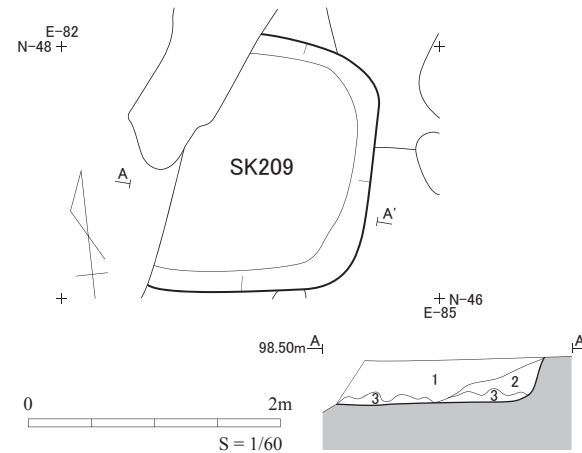
SK197 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	φ 1cm の黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)



SK198 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

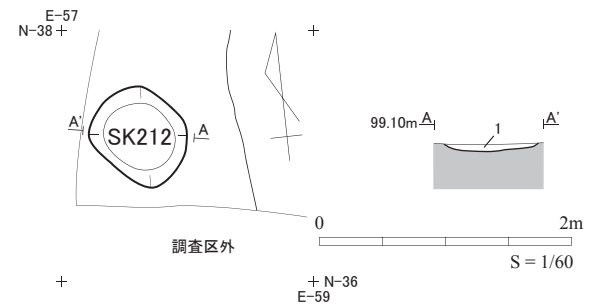


SK209 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (人為)
3	10YR5/8 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

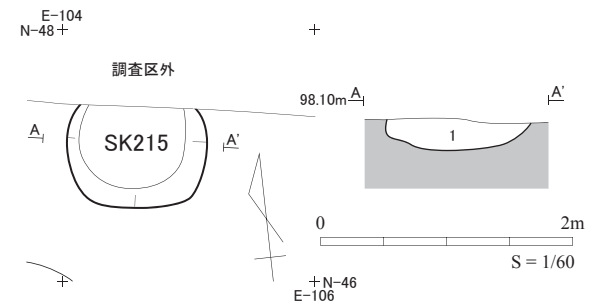
SK215 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む、黄褐色ローム粒を含む (人為)



SK212 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



第101図 SK197・198・209・212・215 土坑



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SK193	堆積土 1層	ロクロ土師器	坏	外面：(ロクロナデ) → 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明 → 手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ → (体) 横方向ヘラミガキ → 黒色処理 外底面：墨書「□」	-	(6.0)	(1.6)	一部	114	51-7	
2	SK227	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ → 手持ちヘラケズリ、切り離し不明 → 手持ちヘラケズリ 内面：(底) 放射状ヘラミガキ → (体) 横方向ヘラミガキ → 黒色処理 外底面：墨書「□」	-	(6.0)	(1.8)	一部	115	51-8	
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
3	SK209	堆積土	須恵器	甕	外面：平行タタキ → 一部ナデ 内面：平行アテ具痕 → ナデ	口径	底径	器高	一部	118	55-14	
4	SK209	堆積土	ロクロ土師器	鉢	外面：格子タタキ → ロクロナデ 内面：ロクロナデ 内外面：(上部) 黒色付着物 外面：(下部) 被熱による赤色化・剥離	(23.9)	-	(14.1)	一部	117	55-15	
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
5	SK209	堆積土	弥生土器	鉢?	外面：平行沈線文・V字状沈線文 内面：ナデ	(3.0)			口径部	510	55-11	
6	SK209	堆積土	弥生土器	壺	外面：重三角文・縄文 (LR)・赤彩 内面：ミガキ	(4.0)			体部	511	55-12	
No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
7	SK209	堆積土	スクレイパー	珪質頁岩	下端：腹面からの急角度剥離 上部：折損	長	幅	厚	重	一部	213	55-13
						13.5	26.0	9.7	2.5			

第102図 SK193・209・227 土坑出土遺物

(7) 土坑

【SK132 土坑】(第 96 図、写真図版 51)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK131 → SK132

〔規模・形状〕平面形が長軸 118cm、短軸 100cm 以上の略円形を呈し、断面形は深さ 15cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕2 層に細分される。地山ブロックを含む褐色・黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕SK131・132 堆積土から弥生土器(第 96 図 1)が出土した。このほか、土師器、ロクロ土師器坏、須恵器坏が出土した。

【SK133 土坑】(第 96 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SB146・SK222 → SK133

〔規模・形状〕平面形が長軸 131cm、短軸 123cm の略円形を呈し、断面形は深さ 35cm の U 字形を呈する。底面はやや凹凸が見られる。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕ロクロ土師器坏が出土した。

【SK134 土坑】(第 96 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK135 → SK134 → SB146 - SB147

〔規模・形状〕平面形が長軸 102cm、短軸 92cm の略円形を呈し、断面形は深さ 17cm の U 字形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器甕が出土した。

【SK137 土坑】(第 97 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸 138cm、短軸 124cm の略円形を呈し、断面形は深さ 10cm の皿形を呈する。底面はやや凹凸が見られる。

〔堆積土〕地山粒とブロックを少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器坏が出土した。

【SK151 土坑】(第 97 図、写真図版 31・51)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SI159・SK222 → SK151 → SK167

〔規模・形状〕平面形が長軸 250cm、短軸 230cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 46cm の逆台形を呈する。底面は皿状に窪んでいる。

〔堆積土〕地山ブロックをごく少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から鉄滓(椀形滓、写真図版 53-12)、珪質頁岩製の二次加工剥片(第 97 図 1)が出土した。このほか、土師器鉢、ロクロ土師器坏、弥生土器、黒耀石製の剥片、砂岩製の砥石、焼礫が出土した。黒耀石は漆黒で斑晶の見られるもので、蛍光 X 線分析による原産地推定(杉原ほか 2011)で秋保地区土蔵系と判定されている。

【SK152 土坑】(第 97 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SB228・SK221・SX153 → SK152

〔規模・形状〕北東-南西方向に長い長方形の北西側に長方形の張り出し部を持つ。SK154 土坑と並列する。平面規模は長方形部分で長軸 534cm、短軸 90cm、張り出し部分で長軸 218cm、短軸 55cm である。横断面形は深さ 16cm の逆台形を呈し、深さ 7cm の張り出し部との間に段を形成する。底面は皿状に窪み、張り出し部は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から弥生土器(第 69 図 6)が出土した。SI140 竪穴住居跡出土のものと同接関係がある。このほか、ロクロ土師器坏、弥生土器が出土した。

【SK154 土坑】(第 97 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕北東-南西方向に長い長方形を呈する。SK152 土坑と並列する。平面規模は長軸 324cm、短軸 94cm である。横断面形は深さ 16cm の逆台形を呈し、底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器坏・甕が出土した。

【SK164 土坑】(第 91 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SD144 → SK164

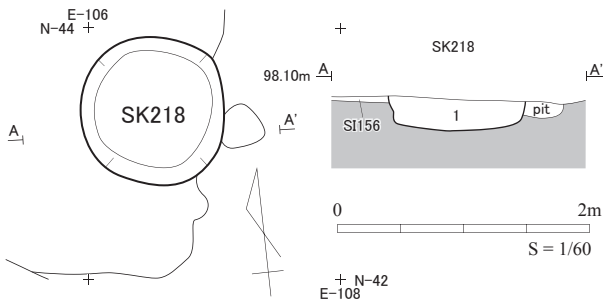
〔規模・形状〕平面形が長軸 110cm、短軸 98cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 60cm の逆台形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕地山粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕ロクロ土師器坏・甕が出土した。

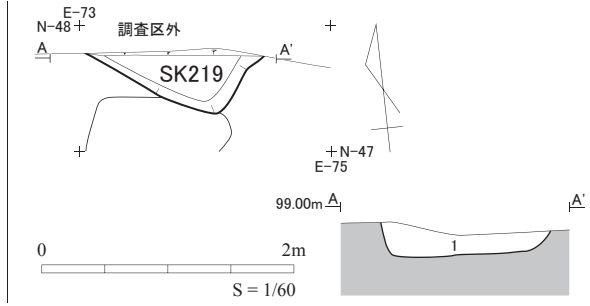
【SK167 土坑】(第 97 図、写真図版 31)

〔位置〕2 区／平坦面



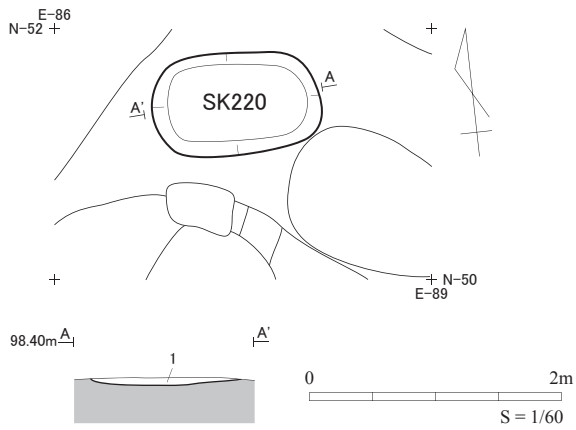
SK218 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を均一に含む (人為)



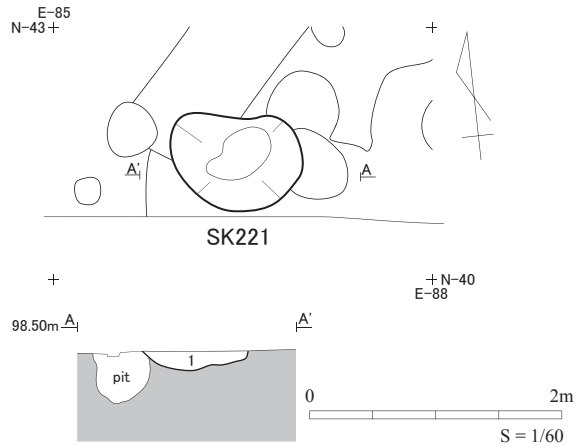
SK219 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む



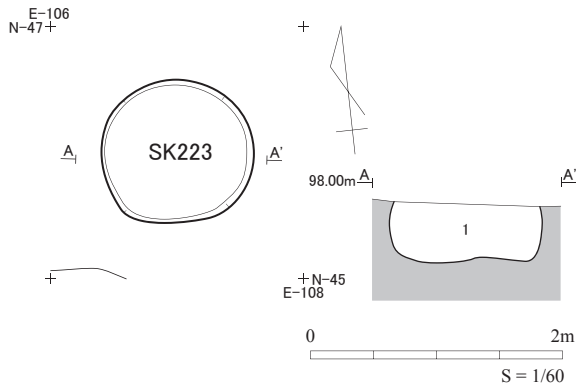
SK220 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む (人為)



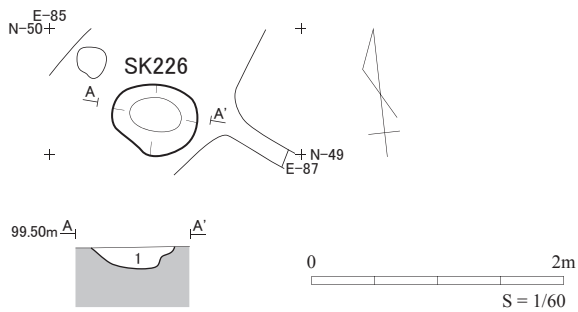
SK221 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒をごく少量含む、10YR2/1 黒色シルト粒を少量含む (人為)



SK223 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む、黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)



SK226 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (人為)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)	残存	登録	写真
1	SK226	堆積土	磁器	碗 (中型丸碗)	外面: 染付 (草花文) → 透明釉 内面: 透明釉 口径 (11.4) cm 肥前 (18 世紀?)	(5.0)	口縁 ~ 体部	604	55-9

第 103 図 SK218~221・223・226 土坑, SK226 土坑出土遺物

〔重複〕 SI159・SK151 → SK167 → SK168

〔規模・形状〕 平面形が長軸 186cm、短軸 130cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 37cm の皿形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 2層に細分される。地山・炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 ロクロ土師器環、須恵器が出土した。

【SK168 土坑】 (第 97 図、写真図版 31)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI140・SI159・SK167 → SK168

〔規模・形状〕 平面形が長軸 164cm、短軸 150cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 30cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 2層に細分される。地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器が出土した。

【SK170 土坑】 (第 98 図、写真図版 51)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI157 → SK170

〔規模・形状〕 平面形が長軸 130cm、短軸 120cm の略円形を呈し、断面形は深さ 30cm のU字形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 地山粒を多量に含む黒褐色砂質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 遺構確認面から須恵器環 (第 98 図 1) が出土した。このほか、ロクロ土師器環、須恵器環が出土した。

【SK174 土坑】 (第 99 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI142 → SK174

〔規模・形状〕 平面形が長軸 126cm、短軸 74cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 14cm の逆台形を呈する。底面は平坦で南へ向かって傾斜している。

〔堆積土〕 地山粒を多量に含む黒色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器環が出土した。

【SK177 土坑】 (第 99 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI139 → SK177

〔規模・形状〕 平面形が長軸 148cm、短軸 70cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 15cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器環が出土した。

【SK180 土坑】 (第 99 図、写真図版 31)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI142 → SK180

〔規模・形状〕 平面形が長軸 214cm、短軸 62cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 16cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 地山粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器環、ロクロ土師器環が出土した。

【SK181 土坑】 (第 100 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI140 → SK181

〔規模・形状〕 平面形が長軸 104cm、短軸 52cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 42cm のU字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕 4層に細分される。1・3・4層は地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで人為的埋土、2層は均質な黒褐色シルトで自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器環、弥生土器が出土した。

【SK184 土坑】 (第 100 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI160 → SK184

〔規模・形状〕 平面形が長軸 246cm、短軸 66cm の長楕円形を呈し、断面形は深さ 70cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器環、ロクロ土師器環、須恵器環が出土した。

【SK189 土坑】 (第 100 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI156 → SK189 → SK190

〔規模・形状〕 平面形が長軸 132cm、短軸 120cm 以上の略円形を呈し、断面形は深さ 6cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕 地山粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 ロクロ土師器環が出土した。

【SK191 土坑】 (第 100 図)

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 平面形が長軸 154cm、短軸 58cm の長楕円形を呈し、断面形は深さ 24cm の逆台形を呈する。底面は凹凸が著しい。

〔堆積土〕 2層に細分される。地山・炭化物粒を多量

に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕須恵器甕が出土した。

【SK193 土坑】(第 100・102 図、写真図版 51)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK193 → SK192

〔規模・形状〕平面形が長軸 68cm 以上、短軸 38cm 以上の楕円形を呈し、断面形は深さ 11cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山粒を含む暗褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土 1 層からロクロ土師器坏 (第 102 図 1) が出土した。外底面に墨書(判読不能)が見られる。このほか、土師器、須恵器坏蓋が出土した。

【SK209 土坑】(第 101・102 図、写真図版 31・55)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SI139 → SK209 → SD144・SD161

〔規模・形状〕平面形が長軸 204cm、短軸 150cm 以上の隅丸方形を呈し、断面形は深さ 36cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕3 層に細分される。1 層は地山粒を少量含む黒褐色粘質シルト、2・3 層は地山ブロック・粒を含む黒褐色・黄褐色粘質シルトで、1 層は自然堆積土、2・3 層は人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土からロクロ土師器甕(第 102 図 4)、須恵器甕(第 102 図 3)、弥生土器(第 102 図 5・6)、珪質頁岩製のスクレイパー(第 102 図 7)が出土した。このほか、土師器坏・甕、須恵器、赤碧玉・珪質頁岩製の剥片が出土した。

【SK218 土坑】(第 103 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SI156 → SK218

〔規模・形状〕平面形が直径 116cm の略円形を呈し、断面形は深さ 26cm の逆台形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を含む暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器甕、ロクロ土師器坏、頁岩製の剥片が出土した。

【SK219 土坑】(第 103 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SB199 → SK219

〔規模・形状〕平面形が長軸 140cm 以上、短軸 50cm 以上の隅丸方形を呈するとみられ、断面形は深さ 28cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を少量含む黒褐色シルト

で、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器が出土した。

【SK221 土坑】(第 103 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SX153 → SK221 → SK152

〔規模・形状〕平面形が長軸 105cm、短軸 74cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 14cm の皿形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕地山・炭化物粒をごく少量含む黒褐色シルトで、人為堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕ロクロ土師器坏が出土した。

【SK223 土坑】(第 103 図)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸 122cm、短軸 114cm の略円形を呈し、断面形は深さ 50cm の U 字形を呈する。壁面はやや抉れており、底面はやや起伏が見られる。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器坏、不明鉄製品が出土した。

【SK226 土坑】(第 103 図、写真図版 55)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SI139 → SK226

〔規模・形状〕平面形が長軸 68cm、短軸 52cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 28cm の逆台形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から磁器碗(第 103 図 1)、銅銭(寛永通宝、写真図版 55-10)が出土した。磁器碗は中型の丸碗で外面に染付草花文、内外面に透明釉が見られる。肥前産(18 世紀)とみられる。

【SK227 土坑】(第 100・102 図、写真図版 51)

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SK195 → SK227

〔規模・形状〕平面形が長軸 78cm 以上、短軸 24cm 以上の楕円形を呈し、断面形は深さ 55cm の円筒形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土からロクロ土師器坏(第 102 図 2)が出土した。外底面に墨書(判読不能)が見られる。このほか、須恵器坏が出土した。

(8) 溝跡

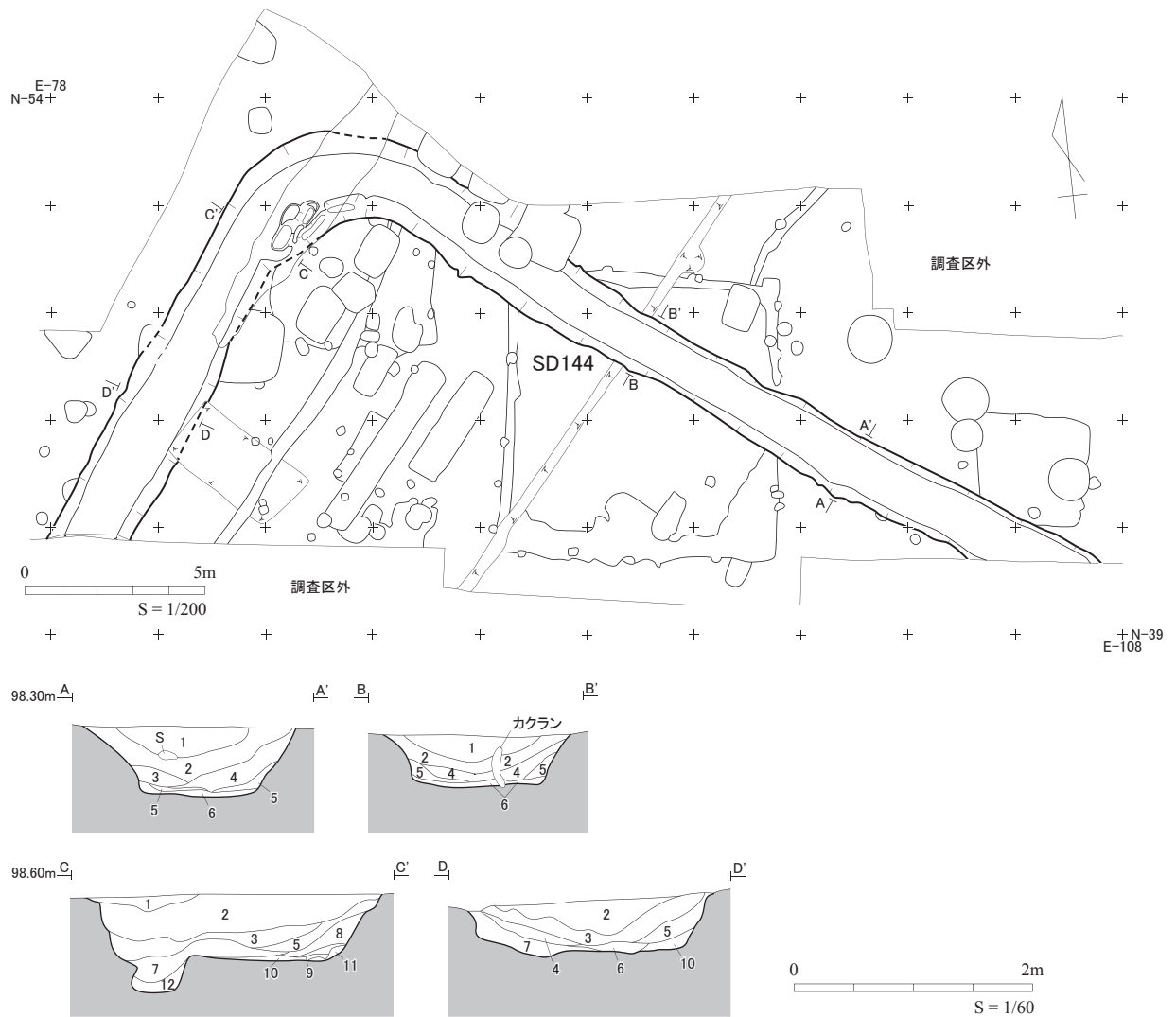
〔SD144 溝跡〕(第104・105図、写真図版31・32・56)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SI139・SI143・SI156・SK209・SD182 → SD144
→ SE183・SK162・SK163・SK164・SK165・SK166・SK205・SK216・SK220・SD161

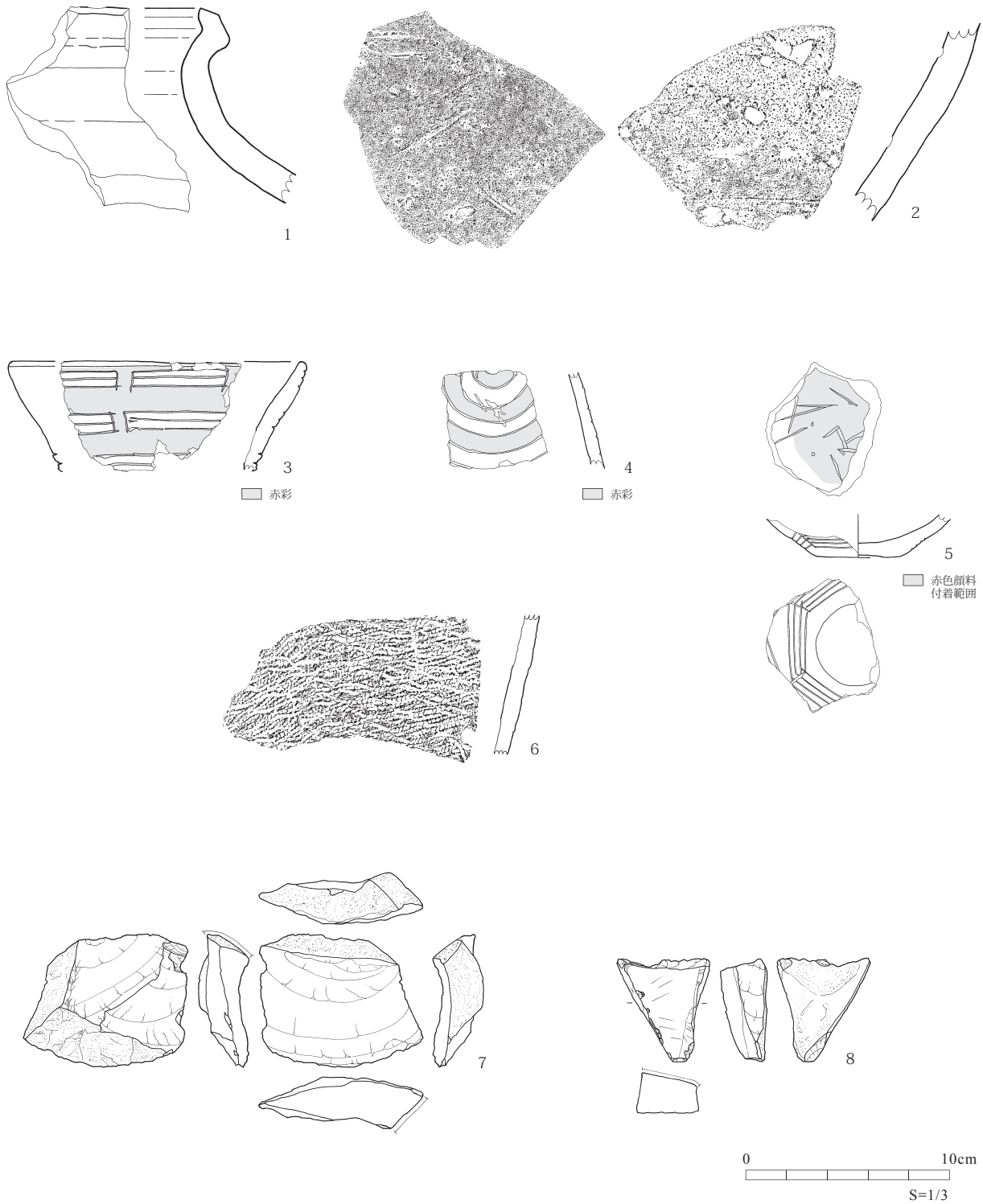
〔規模・形状〕L字形に延び、区画を形成していると思われる。南東から北西方向へ直線的に23.00m延び(北辺)、北西端で約90°の角度で屈折して南西方向へ直線的に12.00m延びる(西辺)。調査区外の南

東・南西側へさらに延びている。遺構確認調査T3-6区で確認した溝跡はSD144溝跡西辺の延長部分と考えられる(第6図)。区画の規模は北辺23.5m以上、西辺78m以上と推定される。上幅136-272cm、底幅104-160cmで、横断面形が深さ40-80cmの逆台形を呈する。底面はほぼ平坦であるが、一部凹凸が見られる。〔堆積土〕北辺で6層、西辺で12層に細分される。いずれも底面付近に機能時堆積土がみられ、廃絶後は自然埋没していると考えられる。北辺1-5層は地山ブロック・粒を含む黒褐色・暗褐色・褐色シルトで、



SD144 溝跡 A-A', B-B'				No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む	3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (壁崩)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む	4	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (壁崩)
3	10YR4/4 褐	シルト	暗褐色シルトブロックをごく少量含む (壁崩)	5	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックをごく少量含む	6	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む
5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極めて多量に含む (壁崩)	7	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む
6	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (機能時堆)	8	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (壁崩)
SD144 溝跡 C-C', D-D'				9	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
1	10YR3/1 黒褐	シルト	均質土	10	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (機能時堆)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む	11	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (機能時堆)
				12	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む

第104図 SD141 溝跡



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・施文・特徴	器高 (cm)	残存	登録	写真			
1	SD144	堆積土	中世陶器	甕	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ナデ	(10.1)	口縁 ~体部	601	56-5			
2	SD144	堆積土	中世陶器	甕	外面：ヘラナデ→自然釉 内面：ナデ→自然釉	(19.7)	体部	602	56-6			
3	SD144	堆積土	弥生土器	壺	外面：集合沈線文（平行沈線→縦方向沈線）→区画内ミガキ・区画外赤彩 内面：ナデ、一部ミガキ 口径：(14.8) cm	(5.4)	口縁部	501	56-7			
4	SD144	堆積土	弥生土器	壺	外面：渦文 赤彩	(3.8)	体部	502	56-8			
5	SD144	堆積土	弥生土器	鉢	外面：集合沈線文（平行沈線→縦方向沈線）→区画内ミガキ 内面：ヘラナデ、(底) 赤色顔料付着 底径：(4.1) cm	(2.1)	底部	503	56-9			
6	SD144	堆積土	弥生土器	甕	外面：縄文・結節文 内面：ナデ	(6.9)	体下半部	504	56-10			
No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
7	SD144	堆積土	砥石	石英質砂岩	砥面数：2 砥面を平坦打面として連続的に剥片剥離	65.5	81.0	19.5	102.7	一部	209	56-11
8	SD144	堆積土	砥石	石英質砂岩	砥面数：1 裏面：節理→側縁：剥離（折断調整?）	51.0	46.0	21.2	40.4	一部	208	56-12

第105図 SD144 溝跡出土遺物

自然堆積土あるいは崩落土、6層は地山ブロックを含む暗褐色シルトで機能時堆積土と考えられる。また、西辺1~9層は地山ブロック・粒を含む黒褐色・暗褐色粘質シルトで自然堆積土あるいは崩落土、10~12層は地山ブロック・粒を含む暗褐色・黄褐色粘質シルトで機能時堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から中世陶器甕（第105図1・2）、弥生土器（第105図3-6）、石英質砂岩製の砥石（第105図7・8）が出土した。弥生土器（第105図3）

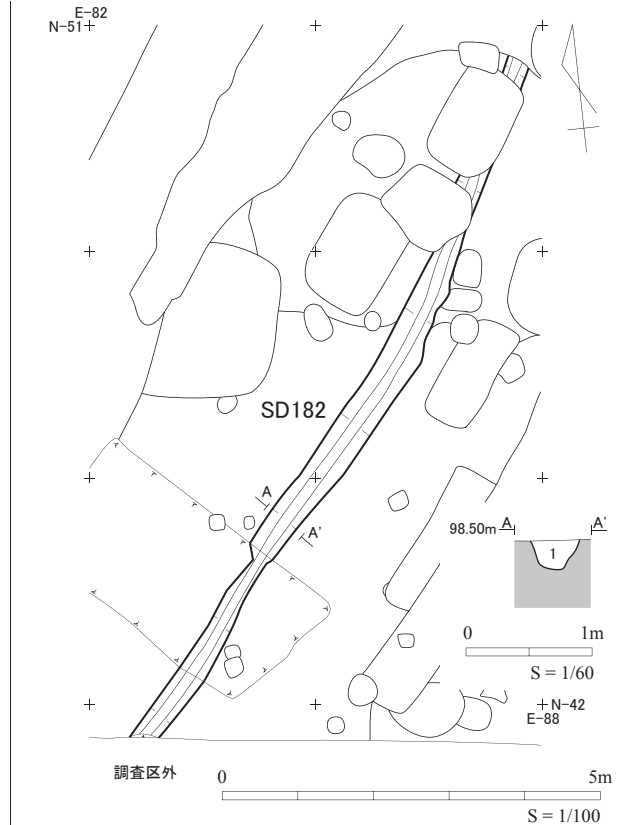
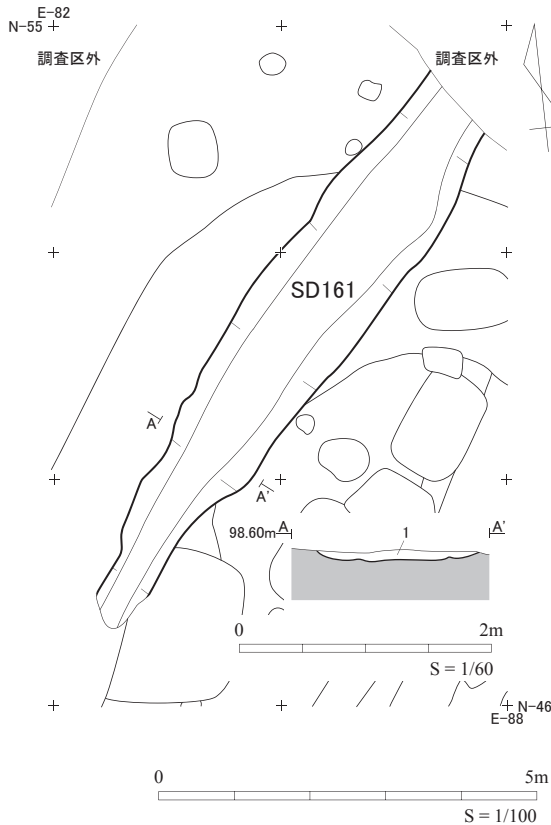
はSE183井戸跡出土のものと接合関係がある。このほか、土師器環・甕、ロクロ土師器小型品、須恵器環・甕・小型品、中世陶器甕・鉢？、焼礫が出土した。

【SD161 溝跡】（第106図、写真図版56）

〔位置〕 2区／平坦面

〔重複〕 SI139・SK209・SD144 → SD161

〔規模・形状〕 北東—南西方向に直線的に延びる。南西側は削平により消失しており、北東側は調査区外へさらに延びている。長さ8.36mを確認した。上

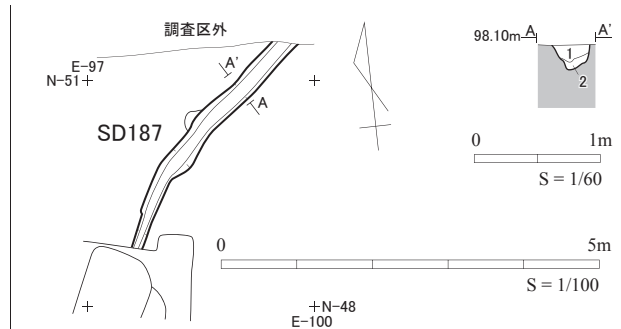
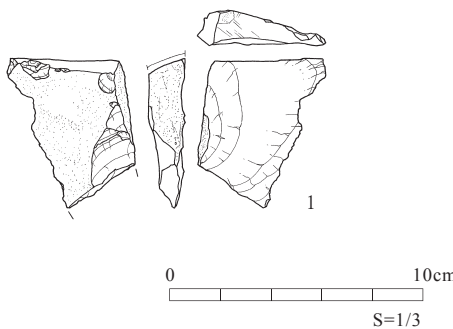


SD161 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む

SD182 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒をごく少量含む



SD187 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (人為)

No.	遺構名	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SD161	堆積土	砥石	凝灰岩	砥面数：1 砥面を側縁に取り込む剥離 端部：折損	(59.5)	(51.0)	13.7	(27.0)	一部	210	56-2

第106図 SD161・182・187 溝跡，SD161 溝跡出土遺物

幅 53~154cm、底幅 30~110cm で、横断面形は深さ 3~8cm の皿形を呈する。底面は皿状に窪んでいる。
〔堆積土〕地山粒をごく少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から凝灰岩製の砥石（第 106 図 1）が出土した。このほか、土師器、ロクロ土師器坏、須恵器甕が出土した。

【SD182 溝跡】（第 106 図）

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SI139 → SD182 → SK206・SK207・SD144 - SB228

〔規模・形状〕北東-南西方向に僅かに蛇行しながら延びる。北東側は SD144 溝跡に壊されており、南西側は調査区外へさらに延びている。長さ 10.20m を確認した。上幅 18~54cm、底幅 10~16cm で、横断面形は深さ 24cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山粒をごく少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器坏、ロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕、弥生土器が出土した。

【SD187 溝跡】（第 106 図）

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SD187 → SI143

〔規模・形状〕北東-南西方向に蛇行しながら延びる。南西側は SI143 竪穴住居跡に壊されており、北東側は

調査区外へさらに延びている。長さ 3.40m を確認した。上幅 13~27cm、底幅 4~16cm で、横断面形は深さ 20cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕2 層に細分される。1 層は地山粒を含む黒褐色シルトで自然堆積土、2 層は地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

（9）性格不明遺構

【SX153 性格不明遺構】（第 107 図、写真図版 31）

〔位置〕2 区／平坦面

〔重複〕SX153 → SK152・SK221

〔規模・形状〕平面形が長軸 260cm 以上、短軸 140cm 以上の不整形を呈し、南側は調査区外へ延びている。断面形は深さ 24cm の逆台形を呈し、底面は凹凸が著しい。竪穴住居跡に伴う掘方埋土の可能性が考えられるが、関連する施設の痕跡は確認されなかった。

〔堆積土〕多量の地山ブロックを含む暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕須恵器坏が出土した。

4.3 区

遺跡範囲の南部に位置し、長さ約 62m、幅約 2m の長方形の調査区である。調査区内は北東側へ向かってわずかに傾斜する平坦面で、調査区北端で湿地性堆積層を確認した。遺構確認面は現地表面から深さ 30~40cm の IV ~ V 層上面である。遺構は調査区中央部で井戸跡 1 基、土坑 2 基を確認した（第 7 図、写真図版 33）。

（1）井戸跡

【SE122 井戸跡】（第 108 図、写真図版 33）

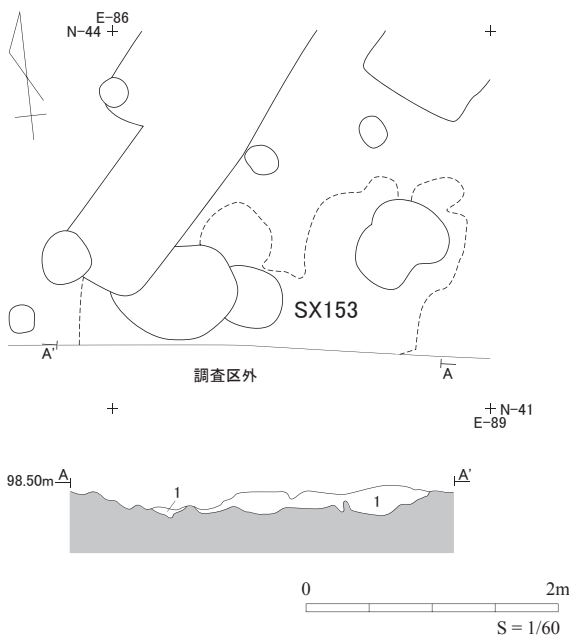
〔位置〕3 区／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸 122cm、短軸 118cm の略円形を呈し、断面形は深さ 50cm の逆台形を呈する。外周部分で掘方埋土の残存を確認した。井戸側材は残存していない。

〔堆積土〕4 層に細分される。1~3 層は地山ブロック・粒、小礫を含む黒色・黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。4 層は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、井戸側の掘方埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし



SX153 性格不明遺構 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含み、灰白色粘土ブロックを少量含む（人為）

第 107 図 SX153 性格不明遺構

(2) 土坑

【SK123 土坑】(第 108 図、写真図版 33)

〔位置〕3 区／平坦面

〔重複〕SK124 → SK123

〔規模・形状〕平面形が長軸 98cm、短軸 84cm の略円形を呈し、断面形は深さ 12cm の逆台形を呈する。底面は凹凸が見られ、北側へ傾斜している。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SK124 土坑】(第 108 図、写真図版 33)

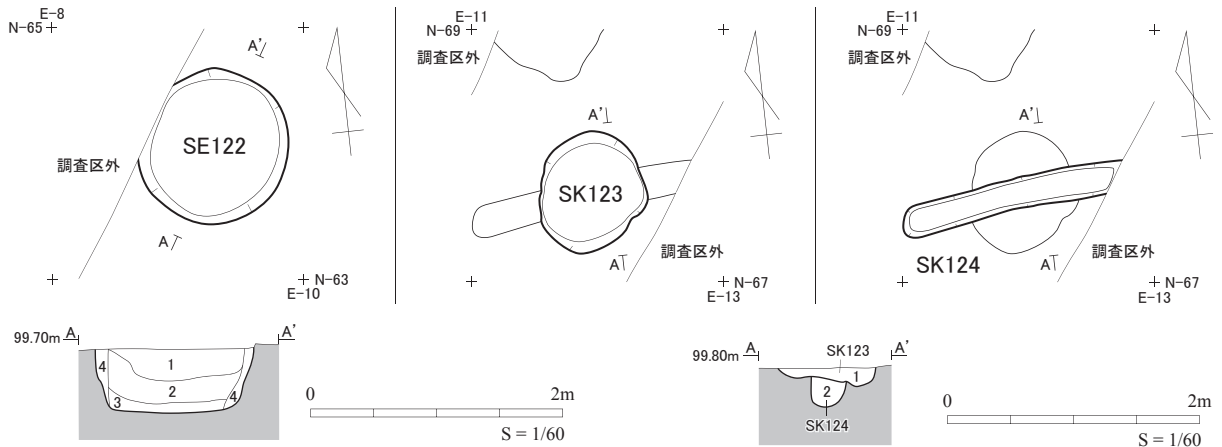
〔位置〕3 区／平坦面

〔重複〕SK124 → SK123

〔規模・形状〕平面形が長軸 172cm 以上、短軸 25cm の溝形を呈し、断面形は深さ 22~30cm の U 字形を呈する。底面は皿状に浅く窪んでいる。

〔堆積土〕地山粒を含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし



SE122 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	φ 1-3mm の小礫を含む
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (掘方)

SK123・SK124 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (SK123 堆)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (SK124 堆)

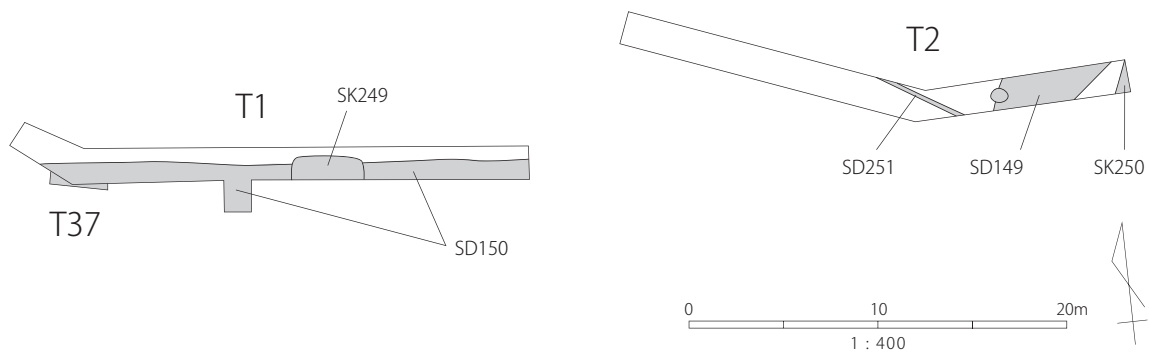
第 108 図 SE122 井戸跡, SK123・124 土坑

5. 遺構確認調査区

調査区周辺の遺構分布状況と遺構面深度の把握を目的として、遺構確認調査を実施した(第 6 図)。本発掘調査とあわせて 2008 年度に実施した T1~7 区、十郎田遺跡の発掘調査とあわせて 2007 年度に実施した T36・37・39~41 区を合わせて報告する。

T1 区では溝跡 1 条、土坑 1 基、T2 区では溝跡 2 条、土坑 1 基、T3-6 区では溝跡各 1 条、T7 区では掘立柱建物跡 1 軒、T36 区では溝跡 1 条、T41 区では土坑 1 基などを確認した。

T1 区で確認した SD150 溝跡は東西方向に直線的に 26m 以上延びており、幅 1.5m 以上の比較的規模の大きい溝跡と考えられる(第 109 図)。T3~6 区で確認した

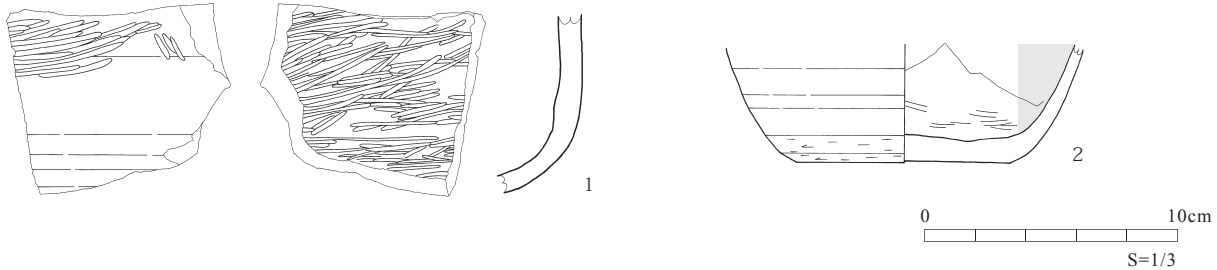


第 109 図 T1・T2 区遺構配置図

溝跡は、2区で確認したSD144溝跡西辺の延長部分と考えられ、区画の西辺が78m以上であることを確認した。T2区で確認したSD149溝跡とSD144溝跡との関係は不明である。T7区では、2区で確認したSB127掘立柱建物跡の延長部分を確認し、東西3間、

南北4間の規模を持つ側柱建物であることが判明した(第87図)。

遺物はSD149溝跡の確認面から土師器、SD150溝跡の確認面からロクロ土師器坏(第110図2)、須恵器不明品(第110図1)、須恵器甕が出土した。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SD150	確認面	須恵器	不明	外面：ロクロナデ・一部工具によるロクロナデ→ヘラミガキ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ 最大径：(23.0) cm	-	-	(7.6)	一部	029	56-4
2	SD150	確認面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ、(底) 切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	-	(8.5)	(4.7)	一部	030	56-3

第110図 SD150溝跡出土遺物

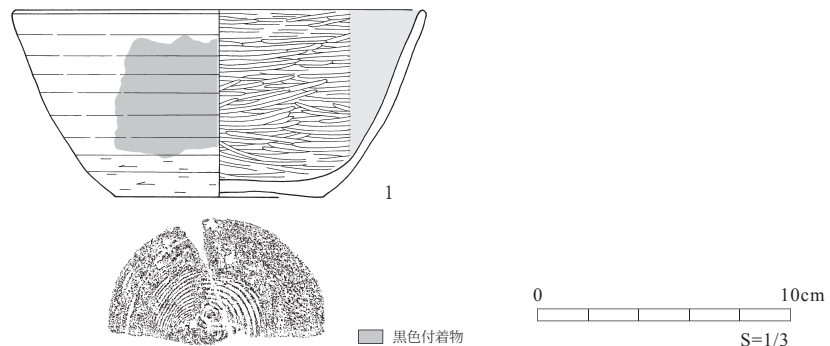
6. その他の遺構と出土遺物

(1) 組み合わない柱穴跡

調査区のほぼ全域で確認しており、1区北・南、2区西部にかけての範囲にまとまって分布する。これらは掘立柱建物跡の分布する範囲と一致することから、多くは掘立柱建物を構成していたものと考えられる。

1区南P16柱穴跡の掘方埋土からは須恵器中型品が出土した。第110図1と特徴が類似する。1区南P82柱穴の掘方底面に下端部が杭状に加工された柱

材の一部(写真図版57-8)が残存していた。1区北P108柱穴跡の柱痕跡・掘方埋土からは鉄滓、不明鉄製品が出土した。2区P130柱穴跡の堆積土からはロクロ土師器坏(第111図1)が出土した。2区P167柱穴跡の堆積土からはロクロ土師器坏、須恵器坏・甕、焼けたスサ入り粘土塊が出土した。2区P175柱穴跡の柱材抜き取り痕跡からは油煙の付着が見られるロクロ土師器坏が出土した。このほか、土師器坏・甕・小型品、ロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕・中型品、弥生土器、珪質頁岩・流紋岩製の剥片が出土した。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	P130	堆積土	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近) 回転ヘラケズリ、(底) 回転糸切り→回転ヘラケズリ 内面：(体) 横方向ヘラミガキ・(底) ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体) 黒色付着物	(16.4)	(8.3)	7.4	1/4	028	57-1

第111図 柱穴跡出土遺物

(2) 遺構外出土遺物

3区遺構確認面からロクロ土師器坏（第112図3）、珪質頁岩製の篋形石器（第112図4）が出土した。1区北の遺構確認面からロクロ土師器坏（第112図1）が出土した。また、ロクロ土師器坏（第112図2）が調査区付近で表面採集された。

このほか、表土・遺構確認面・攪乱から土師器坏・甕、ロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕・短頸壺、弥生土器、近世陶器（大堀相馬産）が出土した。

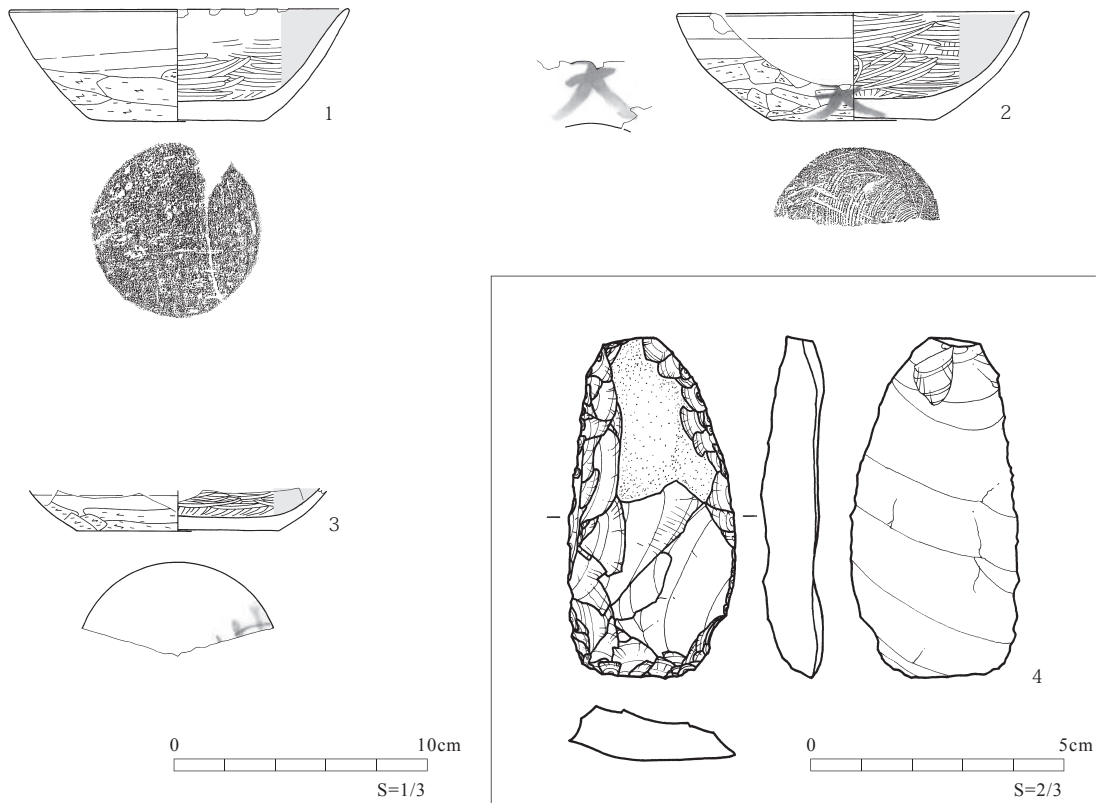
土師器坏は内面に黒色処理を施すものと施さないものがあり、前者は回転糸切りによる底部の切り離し後に外底面に手持ちヘラケズリ調整を施すもの、外面にヘラミガキ調整を施すものがある。また、判読できないが外底面に墨書が見られるものがある。後者は内面にヘラミガキ、外面にヘラケズリ調整を施す。土師器不明品には体部の内面にナデ調整、外面にヘラミガキ

調整を施すもの、内外面にヘラミガキ調整→赤彩を施すものがある。土師器甕は外底面に木葉痕の見られるものがある。

ロクロ土師器坏は内面に黒色処理を施し、外底面に静止糸切りまたは回転糸切り痕が見られるもの、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体下部にヘラケズリ調整を施すもの、底部の切り離し方法が不明で体下部～底部にヘラケズリ調整を施すものがある。また、外面の体下部に墨書（判読不能）が見られるものがある。

須恵器坏は回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体下部に手持ちあるいは回転ヘラケズリ調整を施すものがある。須恵器甕は外面に平行タタキ調整を施す。

近世陶器碗は内外面に灰釉が見られ、大堀相馬産とみられる。



No.	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
					口径	底径	器高			
1	遺構確認面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下)手持ちヘラケズリ、(底)静止糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(体)横方向ヘラミガキ→黒色処理 内面：(底・体上半)磨滅著しい	13.5	6.8	4.5	1/3	053	57-3
2	表採	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(体下)手持ちヘラケズリ、(底)回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：(底)放射状ヘラミガキ→(体)横方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(体)正位の墨書「天」?	(14.0)	(6.5)	4.3	1/3	063	57-4
3	遺構確認面	ロクロ土師器	坏	外面：ロクロナデ→(底付近)手持ちヘラケズリ、(底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：(底)放射状ヘラミガキ→(体)横・斜め方向ヘラミガキ→黒色処理 外面：(底)墨書「□」	-	(8.0)	(1.7)	一部	074	57-5

No.	層位	種類	材質	製作技法・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
					長	幅	厚	重			
4	遺構確認面	スクレイパー	珪質頁岩	単剥離面打面 背面：一部自然面 下端～両側縁：整形剥離	67.5	33.0	10.0	25.4	完形	214	57-6

第112図 遺構外出土遺物

第3表 遺構観察表 竪穴住居跡 竪穴状遺構・竪穴状建物跡 (1)

区	遺構名	位置	方向	規模 (m)		残存壁高 (cm)	構造		施設	床下土坑	その他施設	出土遺物	重複関係	時期	図
				長	短		主柱穴	壁柱穴							
1区南	SI1	平地面	竊軸：N-18°-E	4.00	3.80	14	4か所	なし	北1	北東1	なし	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SK65より新	IV	9
1区南	SI2	平地面	竊軸：N-6°-W	(3.10)	(2.90)	-	なし	-	-	北東1	なし	土師器・須恵器	SK65より新、SB10・SB230・SA240・SK45より古	III	11
1区南	SI3a	平地面	竊軸：E-6°-S	-	-	-	4か所	-	-	北東1	なし	-	SI4・SI14・SD67より新、SI3bより古	IV	12
1区南	SI3b	平地面	竊軸：E-6°-S	5.60	5.50	2	4か所	なし	東1	南東1	竊跡2か所 柱穴5か所	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・灰釉陶器	SI3a・SI4・SI14・SD67より新	IV	12
1区南	SI4a	平地面	竊軸：N-2°-E	-	-	-	4か所	-	-	-	なし	-	SB15・SK16より新 SI4b・SB15・SK16より新	IV	18
1区南	SI4b	平地面	竊軸：N-2°-E	5.00	(4.60)	4	4か所	なし	北1	なし	柱穴12か所 土坑3基	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SB24・SB30・SB229・SB235より古	IV	18
1区南	SI8	平地面	西辺：N-21°-E	(4.60)	(4.50)	-	2か所	-	-	-	なし	-	SK7より古	IV	22
1区南	SI14	平地面	西辺：N-13°-E	(2.70)	(0.60)	-	-	-	-	南東1	-	なし	なし	IV	12
2区	SI125	平地面	西辺：N-7°-E	(4.20)	(2.00)	-	-	-	-	南東1	-	土師器・ロクロ土師器・須恵器・凝灰岩切石	SK177・SK206・SK207・SK208・SK209・SK226・SD144・SD161・SD182より古	IV	63
2区	SI139	平地面	東辺：N-6°-E	(4.60)	(3.60)	-	-	3か所	-	-	土坑1基	弥生土器・土師器・ロクロ土師器	SK177・SK206・SK207・SK208・SK209・SK226・SD144・SD161・SD182より古	IV	66
2区	SI140	平地面	竊軸：N-7°-E	6.30	6.30	20	4か所	なし	北1	北西1	なし	竊跡1か所 柱穴1か所	SI159・SK210・SK211・SK213より新 SI194・SK168・SK181・SK198より古	II	67
2区	SI142	平地面	竊軸：E-15°-S	3.50	3.40	27	なし	なし	東1	南東1	なし	SK174・SK180より古	IV	71	
2区	SI143	平地面	北竊軸：N-5°-W	7.88	7.88	-	4か所	21か所	北1・東1	北東1	2基	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・磁石	SK225・SD187より新、SK176・SK224・SD144より古	IV	72
2区	SI156	平地面	西辺：N-3°-E	3.10	3.10	-	なし	なし	なし	南東1	なし	土師器・ロクロ土師器・須恵器・石器・不明鉄製品	SK189・SK190・SK218・SD144より古	IV	76
2区	SI157	平地面	竊軸：E-7°-S	5.10	4.30	20	4か所	2か所	東1	南東1	2基	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・石器	SK169より新、SK170より古	IV	78
2区	SI159	平地面	東辺：N-7°-E	(3.50)	(3.40)	-	4か所	なし	-	1	なし	土師器・須恵器	SK222より新、SI140・SK151・SK167・SK168より古	II	82
2区	SI160	平地面	西辺：N-8°-E	(3.80)	(2.50)	-	-	-	-	-	なし	土師器	SK222より新、SI140・SK151・SK167・SK168より古	II	83
2区	SI178	平地面	東辺：N-2°-W	(4.70)	(1.40)	-	4か所	なし	-	-	なし	土師器	SK212より古	III	83
2区	SI194	平地面	竊軸：E-8°-S	3.08	2.46	11	1か所	なし	東1	北東1 南東1	なし	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・石器・刀子	SI140・SK211・SK213より新、SK198より古	IV	84
2区	SI196	平地面	東辺：N-13°-E	(2.50)	(0.70)	20	-	3か所	-	-	なし	土師器	なし	II	84

竪穴状遺構

区	遺構名	位置	方向	規模 (m)		残存壁高 (cm)	構造	底面	横断面形	断面	施設		出土遺物	重複関係	時期	図
				長	短						床面	主柱穴				
1区北	SX117	平地面	東辺：N-9°-E	2.80	2.70	18	2.80	円方	逆台形	円方	なし	なし	土師器・鉄滓・不明木材	SK121・SD105より古	II	58

竪穴状建物跡 (1)

区	遺構名	位置	方向	構造	間数	総長	柱間寸法 (北・西より)		平面形	断面	底面	構造		出土遺物	重複関係	時期	図
							桁行×梁行 (m)	梁行 (cm)				床面	主柱穴				
1区南	SB9	平地面	N-12°-E	南北棟側柱建物	2×2	(4.10)×(4.00)	200 - (210)	270 - 240 - 260	円方	逆台形	円方	なし	なし	なし	なし	IV	23
1区南	SB10	平地面	W-10°-N	東西棟側柱建物	3×2	7.70×4.90	270 - (210) - (240)	250-260	円方	逆台形	円方	なし	土師器	なし	なし	IV	24
1区南	SB15	平地面	N-6°-E	南北棟側柱建物	3×2	(6.00)×5.10	(240) - (210) - (240)	(220) - (240)	円方	逆台形	円方	なし	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI2・SK45より新	IV	24	
1区南	SB17	平地面	W-15°-N	東西棟側柱建物	3×2	(5.20)×(4.60)	(190) - (166) - (164)	156 - 180	略円形・楕円形	逆台形	略円形	なし	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI4より古	IV	26	
1区南	SB18	平地面	N-10°-E	側柱建物	2×(2)	3.70×(3.36)	180 - 190	(170) - (170)	略円形・楕円形	逆台形	略円形	なし	なし	SK41より新	IV	27	
1区南	SB20	平地面	W-8°-N	東西棟側柱建物	3×2	(4.90)×(3.40)	(190) - (150) - (150)	(300)	略円形・楕円形	逆台形	略円形	なし	土師器・ロクロ土師器	なし	なし	IV	28
1区南	SB21	平地面	N-27°-E	南北棟側柱建物	2×1	(4.40)×(3.00)	(250) - 190	(170)	楕円形	逆台形	楕円形	なし	土師器	なし	なし	V	28
1区南	SB22	平地面	W-26°-N	北面突出付 東西棟側柱建物	2×1	(3.90)×(1.70) 突出(1.20)	(190) - (200)	(220)	楕円形	逆台形	楕円形	なし	土師器	なし	なし	V	29
1区南	SB23	平地面	N-19°-E	南北棟側柱建物	2×(1)	(5.20)×(2.20)	280 - (260)	(190) - (180)	楕円形・楕円形	逆台形	楕円形	なし	なし	なし	なし	IV	29
1区南	SB24	平地面	W-8°-N	東西棟側柱建物	3×2	(5.40)×(3.80)	(190) - (170) - (180)	370	楕円形・楕円形	逆台形	楕円形	なし	土師器	SI4より新	IV	30	
1区南	SB25	平地面	W-28°-N	東西棟側柱建物	2×1	5.20×3.70	254 - 266	370	楕円形・楕円形	逆台形	楕円形	なし	なし	なし	なし	V	30

第4表 遺構観察表 掘立柱建物跡(2)・柱列跡

区	遺構名	位置	方向	構造	間数		総長	柱間寸法(北・西より)		桁行(cm)	梁行(cm)	身舎柱穴(cm)				出土遺物	重複関係	時期	図	
					桁×梁	間数		長軸	短軸			深さ	柱礎跡径							
1区南	SB26	平地面	W-0°	側柱建物	1×1	1	294	294	(294)	280	(280)	30~34	24~32	10~20	18	なし	なし	III	31	
1区南	SB28	平地面	W-12°-N	側柱建物	1×1	1	(290) × (170)	(290)	(170)	(170)	(170)	36~40	24~38	10~24	16	土師器・須恵器	なし	IV	31	
1区南	SB29	平地面	W-12°-N	東西棟側柱建物	2×2	2	(470) × (430)	(220) - (250)	(230) - (200)	(230)	(200)	20~48	14~36	18~36	-	土師器・須恵器	なし	IV	32	
1区南	SB229	平地面	N-15°-E	南北棟側柱建物	2×2	2	3.08 × 2.88	162 - 146	(140) - (140)	(140)	(140)	28~54	27~48	13~25	14~20	ロクロ土師器	なし	IV	31	
1区南	SB230	平地面	N-11°-W	南北棟側柱建物	2×1	1	(351) × (228)	(141) - (210)	(228)	(228)	(228)	26~32	23~28	18~46	14~17	なし	なし	III	32	
1区南	SB231	平地面	N-38°-E	南北棟側柱建物	2×1	1	4.92 × 1.56	248 - 244	(163) - (191)	(163)	(191)	20~26	19~25	14~37	12~20	なし	なし	V	33	
1区南	SB234	平地面	N-15°-W	南北棟側柱建物	1×2	2	(386) × (354)	(386)	(354)	(354)	(354)	23~33	21~32	18~34	-	なし	なし	III	33	
1区南	SB235	平地面	N-4°-E	側柱建物	1×1	1	(184) × (160)	(184)	(160)	(160)	(160)	32~36	26~28	13~35	22	なし	なし	IV	34	
1区南	SB236	平地面	W-30°-N	東西棟側柱建物	3×1	1	6.20 × 1.20	188 - 212 - 220	(202) - (196) - (168)	(202)	(196)	20~37	16~25	13~46	9~16	なし	なし	V	33	
1区南	SB237	平地面	W-21°-N	東西棟側柱建物	3×2	2	(566) × (496)	(202) - (196) - (168)	(236) - 260	(236)	(260)	28~68	22~57	14~33	12~17	土師器・須恵器	なし	IV	34	
1区南	SB238	平地面	W-27°-S	東西棟側柱建物	2×1	1	(460) × 232	240 - (220)	232	(220)	(220)	26~34	21~28	14~17	13~14	土師器・ロクロ土師器	なし	III	34	
1区北	SB101	平地面	W-32°-N	東西棟側柱建物	4×1	1	9.00 × 4.00	220 - 220 - 212 - 248	400	400	400	31~39	28~36	17~39	15~19	土師器・至大御宝	なし	V	48	
1区北	SB102	平地面	N-22°-E	南北棟側柱建物	2×2	2	2.98 × (272)	(140) - (158)	(134) - (142)	(134)	(142)	42~52	39~52	23~45	14~20	ロクロ土師器	なし	IV	49	
1区北	SB103	平地面	N-7°-E	南北棟側柱建物	3×3	3	5.88 × 5.80	(196) - (214) - 178	186 - 194 - 200	(196)	(200)	40~54	37~50	13~34	15~20	土師器・須恵器	なし	IV	50	
1区北	SB145	平地面	W-4°-N	東西棟側柱建物	2×(1)	2	3.60 × (182)	176 - 184	182	(182)	(182)	40~66	38~56	17~42	23	なし	なし	IV	51	
1区北	SB244	平地面	W-24°-N	東西棟側柱建物	2×2	2	3.75 × (366)	185 - 178	177	(174)	(174)	20~24	16~24	7~34	12~14	なし	なし	V	51	
1区北	SB245	平地面	N-4°-E	南北棟側柱建物	2×1	1	(396) × (334)	(192) - (204)	(334)	(204)	(204)	20~25	16~24	14~40	12	なし	なし	V	51	
2区	SB127a	平地面	N-2°-W	南北棟側柱建物	4×3	3	(696) × (643)	(188) - (172) - (156) - (180)	210 - 233 - (200)	(188)	(200)	118~132	80~92	49~56	-	土師器・ロクロ土師器	なし	IV	87	
2区	SB127b	平地面	N-2°-W	南北棟側柱建物	4×3	3	(696) × 632	(188) - (172) - (156) - (180)	222-226 - 204	(188)	(180)	38~44	38~44	42~47	14	なし	なし	IV	87	
2区	SB146	平地面	W-30°-N	東西棟側柱建物	1×1	1	(238) × (156)	172 - (188)	(238)	(156)	(156)	不整形	36~46	28~36	20~34	12~17	なし	なし	V	88
2区	SB147	平地面	N-23°-E	南北棟側柱建物	(2) × 1	1	(360) × 238	172 - (188)	238	(238)	(238)	36~46	28~36	20~34	12~17	なし	なし	V	88	
2区	SB199	平地面	N-6°-E	南北棟側柱建物	(2) × 1	1	(440) × 230	(220) - (220)	230	(220)	(220)	50~110	44~70	28~36	10~22	土師器	なし	IV	89	
2区	SB228	平地面	W-0°	東西棟側柱建物	1×1	1	(243) × (192)	(243)	(192)	(192)	(192)	20~26	18~24	45~64	-	なし	なし	IV	89	

区	遺構名	位置	方向	構造	間数	総長(m)	柱間寸法(北・西より)(cm)		平面形	長軸	短軸	深さ	柱礎跡径	出土遺物	重複関係	時期	図	
							柱間寸法(北・西より)	柱間寸法(北・西より)										
1区南	SA27	平地面	N-37°-E	南北柱列	3間	6.30	220 - 200 - 210	220 - 200 - 210	略円形・楕円形	20~32	16~29	10~40	14~18	なし	なし	V	35	
1区南	SA232	平地面	W-19°-N	東西柱列	2間	4.88	238 - 250	238 - 250	略円形・楕円形	26~38	25~32	14~26	11~21	なし	なし	IV	34	
1区南	SA233	平地面	N-32°-W	南北柱列	3間	7.24	238 - 240 - 246	238 - 240 - 246	略円形・楕円形	18~30	18~25	17~30	10~24	土師器	なし	なし	35	
1区南	SA239	平地面	N-32°-E	南北柱列	3間	(4.25)	(137) - (140) - (148)	(137) - (140) - (148)	略円形・楕円形	23~34	20~33	14~28	-	土師器	なし	なし	V	36
1区南	SA240	平地面	W-20°-N	東西柱列	4間	(7.68)	208 - 182 - 164 - (214)	208 - 182 - 164 - (214)	円形・楕円形・四角形	18~32	16~24	18~30	13~16	なし	なし	V	36	
1区南	SA241	平地面	N-24°-E	南北柱列	2間	(3.08)	(140) - (168)	(140) - (168)	楕円形・不整形楕円形	25~33	24~27	8~21	-	なし	なし	IV	36	
1区南	SA242	平地面	W-29°-N	東西柱列	2間	(3.40)	(176) - 164	(176) - 164	略円形・楕円形	20~27	17~25	12~26	15~17	なし	なし	V	36	
1区北	SA109	平地面	W-29°-N	東西柱列	2間	(4.06)	(216) - (190)	(216) - (190)	略円形・楕円形	20~25	20~25	20~30	10	なし	なし	V	52	
1区北	SA246	平地面	N-22°-W	南北柱列	3間	(8.94)	(290) - 300 - (304)	(290) - 300 - (304)	略円形・楕円形	24~26	20~23	16~29	13~16	なし	なし	なし	52	
1区北	SA247	平地面	N-20°-W	南北柱列	3間	(6.40)	(202) - (202) - (236)	(202) - (202) - (236)	楕円形・楕円形	20~26	18~22	15~36	17	なし	なし	なし	52	
2区	SA118	平地面	W-1°-N	東西柱列	(2間)	(3.20)	(156) - (166)	(156) - (166)	楕円形	48~52	38~49	27~34	-	土師器	なし	IV	90	

第5表 遺構観察表 井戸跡・近世墓・廃棄土坑・粘土採掘坑・落とし穴状土坑・土坑(1)

井戸跡

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区南	SE63	平坦面	楕円形	上部：逆台形 下部：円筒形	平坦	154	140	110	土師器・須恵器・曲物		V	37
1区北	SE106	平坦面	不整形	上部：朝顔形 下部：U字形	平坦	112	104	80	須恵器・曲物側板	SB224より新	V	53
1区北	SE107	平坦面	不整形	上部：朝顔形 下部：U字形	平坦	168	136	45	なし	SK108より新	—	53
1区北	SE111	平坦面	略円形	上部：朝顔形 下部：逆台形	平坦	218	198	140	木錘	なし	—	54
1区北	SE112	平坦面	(略円形)	逆台形	皿状	176	(154)	65	須恵器転用砥	SD128・SD129より新	中～近世	53
1区北	SE113	平坦面	(略円形)	上部：逆台形 下部：U字形	皿状	(288)	(130)	79	土師器	なし	—	54
2区	SE183	平坦面	不整形	上部：逆台形 下部：円筒形	平坦	164	150	126	弥生土器・土師器・須恵器	SD144より新	中～近世	90
3区	SE122	平坦面	略円形	逆台形	平坦	122	118	50	なし	なし	—	108

近世墓

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
2区	SK162	平坦面	(隅丸方形)	(箱形)	皿状	130	(72)	66	須恵器・不明鉄製品	SD144より新	VI	91
2区	SK163	平坦面	(隅丸方形)	上部：逆台形 下部：箱形	平坦	121	(50)	105	土師器・須恵器・近世陶器・寛永通宝	SD144より新	VI	91
2区	SK166	平坦面	(隅丸方形)	上部：逆台形 下部：円筒形	平坦	164	164	78	弥生土器・土師器・近世陶器・不明鉄製品・寛永通宝	SK248・SD144より新、SK165より古	VI	91
2区	SK205	平坦面	隅丸長方形	箱形	皿状	144	105	70	土師器・ロクロ土師器・須恵器・煙管	SD144より新	VI	92
2区	SK206	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	148	94	64	土師器・ロクロ土師器	SI139・SD182より新	VI	92
2区	SK207	平坦面	不整形	逆台形	平坦(段有)	108	93	36	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・煙管	SI139・SK208・SD182より新	VI	92
2区	SK208	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	150	102	64	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・寛永通宝	SI139より新、SK207より古	VI	92
2区	SK216	平坦面	(隅丸長方形)	(不整逆台形)	(皿状)	(136)	(94)	52	土師器・ロクロ土師器・須恵器・煙管・寛永通宝	SD144より新	VI	93
2区	SK217	平坦面	(隅丸長方形)	(逆台形)	(皿状)	(112)	(98)	22	土師器・須恵器	なし	VI	93
2区	SK224	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	118	90	58	土師器・ロクロ土師器・不明鉄製品	SI143より新	VI	92

廃棄土坑

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区南	SX13	平坦面	略円形	逆台形	平坦	190	182	40	土師器・ロクロ土師器・須恵器・鉄釘	SB237より新	IV	37

粘土採掘坑

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区北	SX114a	平坦面	楕円形	逆台形	平坦	282	255	63	土師器・須恵器	SX114bより古	II	58
1区北	SX114b	平坦面	楕円形	逆台形	平坦	190	162	71	土師器	SX114aより新	II	58

落とし穴状土坑

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区南	SK16	平坦面	楕円形	箱形	平坦	130	92	82		SI4より古	I	38
1区南	SK58	平坦面	溝状	不整逆台形	皿状・西向傾斜	320	50	52	なし		I	38
1区南	SK65	平坦面	溝状	U字形	平坦	(208)	38	62	なし	SI1・SI2・SB230より古	I	38
2区	SK135	平坦面	隅丸長方形	U字形	平坦	132	44	63	なし	SB146・SK134より古	I	94
2区	SK169	平坦面	溝状	V字形	皿状	290	36	80	なし	SI157より古	I	94
2区	SK210	平坦面	溝状	V字形	皿状	300	46	80	なし	SI140より古	I	94
2区	SK211	平坦面	隅丸長方形	U字形	皿状	124	50	45	石器	SI140・SI194より古	I	94
2区	SK213	平坦面	溝状	V字形	皿状	354	46	73	なし	SI140より古	I	94
2区	SK222	平坦面	溝状	V字形	平坦	290	50	72	なし	SI159・SK133・SK151より古	I	94
2区	SK225	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	142	58	50	なし	SI143より古	I	94

土坑(1)

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区南	SK5	平坦面	楕円形	U字形	平坦	122	114	18	ロクロ土師器	SK51より新、SK40より古	IV	42
1区南	SK6	平坦面	楕円形	U字形	凹凸	70	58	16	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SK51より新	IV	42
1区南	SK7	平坦面	楕円形	U字形	凹凸	110	100	28	土師器・ロクロ土師器・須恵器・粘土塊	SI8より新	IV	43
1区南	SK12	平坦面	略円形	U字形	平坦	70	62	6	なし	SK48より新	IV	43
1区南	SK19	平坦面	楕円形	逆台形	凹凸	134	88	10	なし	なし	IV	43
1区南	SK31	平坦面	不整形楕円形	皿形	皿状	96	(64)	12	なし	SK32より古	IV	43
1区南	SK32	平坦面	不整形楕円形	皿形	皿状	130	90	14	なし	SK31より新	IV	43
1区南	SK33	平坦面	楕円形	逆台形	凹凸	176	108	22	なし	なし	IV	44
1区南	SK34	平坦面	楕円形	U字形	平坦	122	86	86	なし	なし	IV	44
1区南	SK35	平坦面	略円形	皿形	皿状	66	64	14	なし	なし	—	44
1区南	SK36	平坦面	楕円形	皿形	凹凸	130	62	20	なし	なし	—	44
1区南	SK37	平坦面	不整形楕円形	皿形	平坦	116	84	34	なし	なし	IV	44
1区南	SK38	平坦面	不整形楕円形	逆台形	凹凸	140	110	16	なし	なし	IV	44
1区南	SK39	平坦面	略円形	逆台形	平坦	80	72	16	なし	なし	—	45
1区南	SK40	平坦面	不整形隅丸方形	皿形	皿状	100	90	18	なし	SK5より新	IV	42
1区南	SK41	平坦面	不整形楕円形	逆台形	平坦・北西傾斜	(204)	104	32	なし	SB17より古	IV	44
1区南	SK42	平坦面	不整形楕円形	逆台形	平坦	216	64	11	なし	なし	—	46
1区南	SK44	平坦面	略円形	逆台形	平坦・南向傾斜	60	54	17	なし	なし	IV	44
1区南	SK45	平坦面	(楕円形)	逆台形	平坦	106	82	26	土師器・須恵器	SI2より新、SB10より古	III	45
1区南	SK46	平坦面	隅丸長方形	楕形	皿状	62	38	20	なし	なし	—	45
1区南	SK47	平坦面	不整形隅丸方形	逆台形	平坦	156	124	22	土師器	SK68より新	—	44
1区南	SK48	平坦面	略円形	U字形	平坦・南向傾斜	88	(77)	12	なし	SK12より古	IV	43
1区南	SK49	平坦面	楕円形	楕形	皿状	60	42	20	なし	なし	IV	45
1区南	SK50	平坦面	楕円形	U字形	平坦	70	44	3	なし	なし	IV	45
1区南	SK51	平坦面	(長楕円形)	楕形	皿状	(164)	84	22	なし	SK5・SK6より古	IV	42
1区南	SK52	平坦面	(楕円形)	U字形	平坦	(60)	(16)	16	なし	なし	IV	46
1区南	SK53	平坦面	(不整形楕円形)	皿形	平坦	(192)	(64)	6	なし	なし	IV	46

第6表 遺構観察表 土坑(2)・溝跡・性格不明遺構

土坑(2)

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
1区南	SK54	平坦面	(楕円形)	U字形	平坦・楕形	106	(56)	28	なし	なし	IV	46
1区南	SK55	平坦面	(楕円形)	U字形	平坦	162	(54)	28	なし	なし	IV	46
1区南	SK57	平坦面	不整隅丸方形	逆台形	凹凸・北向傾斜	(47)	45	18	なし	なし	IV	46
1区南	SK62	平坦面	不整楕円形	皿形	凹凸	(232)	117	14	なし	SD64より古	—	46
1区南	SK66	平坦面	溝形	楕形	皿状	130	26	5	ロクロ土師器	なし	IV	45
1区南	SK68	平坦面	(不整楕円形)	(皿形)	(皿状)	165	(98)	(6)	なし	SK47より古	—	44
1区北	SK108	平坦面	(楕円形)	(皿形)	(皿状)	82	(46)	15	なし	SE107より古	—	53
1区北	SK119	平坦面	楕円形	皿形	凹凸	88	48	24	なし	なし	—	55
1区北	SK120	平坦面	楕円形	逆台形	平坦	78	56	40	土師器・須恵器	なし	—	55
1区北	SK121	平坦面	不整形方形	皿形	平坦・東向傾斜	112	64	8	なし	SK117より新	—	55
1区北	SK126	平坦面	不整隅丸方形	皿形	平坦	90	80	15~20	なし	なし	—	55
2区	SK130	平坦面	(略円形)	皿形	皿状	122	(84)	10~15	なし	なし	IV	96
2区	SK131	平坦面	(略円形)	U字形	平坦	114	(80)	29~32	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SK132より古	IV	96
2区	SK132	平坦面	略円形	逆台形	平坦	118	(100)	15	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器	SK131より新	IV	96
2区	SK133	平坦面	略円形	U字形	凹凸	131	123	35	ロクロ土師器	SB146・SK222より新	IV	96
2区	SK134	平坦面	略円形	U字形	平坦	102	92	17	土師器	SK135より新、SB146より古	IV	97
2区	SK137	平坦面	略円形	皿形	凸凹	138	124	10	土師器	なし	IV	97
2区	SK151	平坦面	不整楕円形	逆台形	皿状	250	230	46	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・石器・砥石・焼礫・鉄滓	SI159・SK222より新、SK167より古	IV	97
2区	SK152	平坦面	張出付長方形	逆台形	平坦	534	90	16	弥生土器・ロクロ土師器	SB228・SK221・SX153より新	中~近世	97
2区	SK154	平坦面	長方形	逆台形	平坦	324	94	16	土師器	なし	中~近世	97
2区	SK164	平坦面	楕円形	逆台形	皿状	110	98	60	ロクロ土師器	SD144より新	VI	91
2区	SK165	平坦面	略円形	U字形	平坦	90	82	66	なし	SK166・SD144より新	VI	91
2区	SK167	平坦面	楕円形	皿形	平坦	186	130	37	ロクロ土師器・須恵器	SI159・SK151より新、SK168より古	IV	97
2区	SK168	平坦面	楕円形	逆台形	平坦	164	150	30	土師器	SI140・SI159・SK167より新	IV	97
2区	SK170	平坦面	略円形	U字形	平坦	130	120	30	ロクロ土師器・須恵器	SI157より新	IV	98
2区	SK171	平坦面	不整楕円形	逆台形	平坦	66	42	12	なし	なし	—	99
2区	SK172	平坦面	楕円形	円筒形	平坦	92	48	36	なし	なし	—	98
2区	SK173	平坦面	(長楕円形)	U字形	平坦	(100)	(66)	21	なし	なし	中~近世	99
2区	SK174	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦・南西向斜	126	74	14	土師器	SI142より新	中~近世	99
2区	SK176	平坦面	不整楕円形	皿形	皿状	145	70	7	土師器・須恵器	SI143より新	—	99
2区	SK177	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	148	70	15	土師器	SI139より新	中~近世	99
2区	SK179	平坦面	(略円形)	U字形	皿状	110	70	46	なし	なし	—	99
2区	SK180	平坦面	隅丸長方形	逆台形	平坦	214	62	16	土師器・ロクロ土師器	SI142より新	中~近世	99
2区	SK181	平坦面	隅丸長方形	U字形	皿状	104	52	42	弥生土器・土師器・須恵器	SI140より新	—	100
2区	SK184	平坦面	長楕円形	逆台形	平坦	246	66	70	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI160より新	中~近世	100
2区	SK185	平坦面	略円形	円筒形	平坦	110	108	26	なし	なし	IV	100
2区	SK189	平坦面	略円形	逆台形	平坦	132	(120)	6	ロクロ土師器	SI156より新、SK190より古	IV	100
2区	SK190	平坦面	略円形	皿形	凹凸	92	(90)	80	なし	SI156・SK189より新	IV	100
2区	SK191	平坦面	長楕円形	逆台形	凹凸	154	58	24	須恵器	なし	中~近世	100
2区	SK192	平坦面	略円形	U字形	平坦	115	110	40	なし	SK193より新	IV	100
2区	SK193	平坦面	(楕円形)	(逆台形)	(平坦)	(68)	(38)	11	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SK192より古	IV	100
2区	SK195	平坦面	(楕円形)	U字形	皿状・南向傾斜	(26)	22	19	なし	SK227より古	—	100
2区	SK197	平坦面	(略円形)	U字形	平坦・東向傾斜	(124)	(40)	21	なし	なし	IV	101
2区	SK198	平坦面	略円形	皿形	皿状	113	99	23	なし	SI140・SI194より新	—	101
2区	SK200	平坦面	(楕円形)	-	-	(112)	(86)	-	なし	なし	—	65
2区	SK209	平坦面	(隅丸方形)	(逆台形)	平坦	204	(150)	36	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・石器	SI139より新、SD144・SD161より古	IV	102
2区	SK212	平坦面	楕円形	皿形	平坦	78	64	5	なし	SI178より新?	—	101
2区	SK215	平坦面	(楕円形)	逆台形	皿状	110	(80)	26	なし	なし	IV	101
2区	SK218	平坦面	略円形	逆台形	皿状	116	116	26	土師器・ロクロ土師器・石器	SI156より新	IV	103
2区	SK219	平坦面	(隅丸方形)	逆台形	平坦	(140)	(50)	28	土師器	SB199より新	IV	103
2区	SK220	平坦面	楕円形	皿形	平坦	134	80	6	なし	SD144より新	VI	103
2区	SK221	平坦面	不整楕円形	皿形	皿状	105	74	14	ロクロ土師器	SX153より新、SK152より古	IV	103
2区	SK223	平坦面	略円形	U字形	凹凸	122	114	50	土師器・ロクロ土師器・須恵器・不明鉄製品	なし	IV	103
2区	SK226	平坦面	楕円形	逆台形	皿状	68	52	28	磁器・寛永通宝	SI139より新	VI	103
2区	SK227	平坦面	(楕円形)	円筒形	(平坦)	(78)	(24)	55	ロクロ土師器・須恵器	SK195より新	IV	100
2区	SK248	平坦面	-	-	-	(59)	(21)	-	なし	SK166より古	—	65
3区	SK123	平坦面	略円形	逆台形	凹凸・北向傾斜	98	84	12	なし	SK124より新	—	108
3区	SK124	平坦面	溝形	U字形	皿状	(172)	25	22~30	なし	SK123より古	—	108

溝跡

区	遺構名	位置	方向	規模				断面形	出土遺物	重複関係	時期	図
				検出長 (m)	上幅 (cm)	底幅 (cm)	深 (cm)					
1区南	SD64	平坦面	NW-SE	28.5	6~144	6~38	12~40	逆台形	須恵器・寛永通宝	SK62より新	VI	47
1区南	SD67	平坦面	W-E	1.66	24~26	14~18	12	U字形	なし	SI3a・SI3bより古	IV	47
1区北	SD104	平坦面	NE-SW	23.90	30~40	20~35	8~15	皿形	土師器	なし	中~近世	56
1区北	SD105	平坦面	NE-SW	28.20	30~50	20~32	30~50	逆台形	弥生土器・土師器・須恵器	SB103・SB145・SX117より新 SD128より古	中~近世	56
1区北	SD128	平坦面	NW-SE	39.50	24~30	8~18	17	逆台形	なし	SD105・SD129より新、SE112より古	中~近世	57
1区北	SD129	平坦面	NW-SE	15.30	10~20	4~12	20	逆台形・U字形	なし	SE112・SD128より古	中~近世	57
2区	SD144	平坦面	SE-NW NE-SW (L字型)	35.00 (北辺:23.00) (西辺:12.00)	136~272	104~160	40~80	逆台形	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器・中世陶器・砥石・焼礫・寛永通宝	SI139・SI143・SI156・SK209・SD182より新、SE183・SK162・SK163・SK164・SK165・SK166・SK205・SK216・SK220・SD161より古	V	104
2区	SD161	平坦面	NE-SW	8.36	53~154	30~110	3~8	皿形	土師器・ロクロ土師器・須恵器・砥石	SI139・SK209・SD144より新	中~近世	106
2区	SD182	平坦面	NE-SW	10.20	18~54	10~16	24	逆台形	弥生土器・土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI139より新、SK206・SK207・SD144より古	V	106
2区	SD187	平坦面	NE-SW	3.40	13~27	4~16	20	逆台形	なし	SI143より古	—	106

性格不明遺構

区	遺構名	位置	形状			規模 (cm)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	短	深				
2区	SX153	平坦面	(不整形)	不整皿形	凹凸	(260)	(140)	24	須恵器	SK152より古・SK221より古	IV	107

第5章 自然科学的分析

第1節 放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1. 測定対象試料

前戸内遺跡は、宮城県刈田郡蔵王町大字小村崎字前戸内地内（北緯 38° 07' 37"、東経 140° 41' 09"）に所在する。測定対象試料は、1区北で確認した SX114 粘土採掘坑から出土した炭化物 3点である（第7表）。

2. 測定の意義

SX114 粘土採掘坑では奈良時代の土師器・須恵器が比較的まとまって出土しており、関東系土師器とみられるものも含まれている。本遺構および出土遺物の帰属時期は、同様に関東系土師器を出土する周辺遺跡の検討においても重要な意味を持つことから、年代測定によって、その年代を明らかにしたい。

3. 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2)酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、AaA と記載する（第7表）。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3)試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。
- (4)液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6)グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、そ

れをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4. 測定方法

測定機器は、加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1)年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。
- (2)¹⁴C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には（AMS）と注記する（第7表）。
- (4)pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。
- (5)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（ $1\sigma = 68.2\%$ ）あるいは 2 標準偏差（ $2\sigma = 95.4\%$ ）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ¹⁴C 年代値である。

なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6. 測定結果

SX114 出土試料 3 点の ¹⁴C 年代は、1270 ± 30yrBP、1250 ± 30yrBP、1300 ± 30yrBP である (第7表)。3 点の暦年較正年代 (1 σ) は、665 ~ 808AD に含まれる (第8表)。試料は炭化の不十分な脆弱な小破片であり、おそらく木片と推定される。樹木などの場合には、測定対象が属した年輪に応じて ¹⁴C 年代に差がある。つまり、内側の年輪ほど、樹木の枯死・伐採年代を遡る年代となることを考慮する必要がある。

試料の炭素含有率は、通常の炭化物に比べてやや低く、IAAA-82801 が 37% であり、他の 2 点が 55% 程であった。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と判断される。

文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

第7表 試料一覧および ¹⁴C 年代

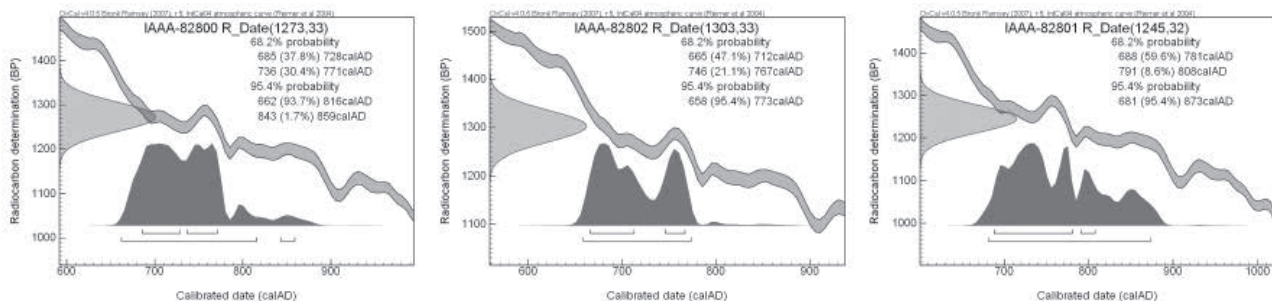
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-82800	UA08SX114-01	SX114a 粘土採掘坑 B-B' 断面 18 層	炭化物	AaA	-27.97 ± 0.68	1,270 ± 30	85.34 ± 0.36		
IAAA-82801	UA08SX114-02	SX114a 粘土採掘坑 B-B' 断面 13 層	炭化物	AaA	-30.02 ± 0.93	1,250 ± 30	85.63 ± 0.35		
IAAA-82802	UA08SX114-03	SX114b 粘土採掘坑 A-A' 断面 4 層	炭化物	AaA	-28.23 ± 0.83	1,300 ± 30	85.02 ± 0.35		

[#2735]

第8表 ¹⁴C 年代と暦年較正年代

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82800	1,320 ± 30	84.82 ± 0.33	1,273 ± 33	685AD - 728AD (37.8%) 736AD - 771AD (30.4%)	662AD - 816AD (93.7%) 843AD - 859AD (1.7%)
IAAA-82801	1,330 ± 30	84.75 ± 0.31	1,245 ± 32	688AD - 781AD (59.6%) 791AD - 808AD (8.6%)	681AD - 873AD (95.4%)
IAAA-82802	1,360 ± 30	84.45 ± 0.32	1,303 ± 33	665AD - 712AD (47.1%) 746AD - 767AD (21.1%)	658AD - 773AD (95.4%)

[参考値]



第113図 [参考] 暦年較正年代グラフ

第6章 考察

これまで記載した本遺跡の発掘調査結果を踏まえて、あらためて遺構と遺物について検討を加え、遺構の時期と変遷、遺跡の性格などについて考察する。なお、今回の発掘調査で発見された遺構と遺物は縄文時代から近世までのものがあるが、主体となるのは古代のものである。

第1節 遺物の特徴と編年的位置づけ

出土した遺物は、土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器、近世陶磁器、弥生土器、石器、石製品、銅銭、金属製品、鉄滓、木製品などがある。このうち、主体を占めるのは土師器、ロクロ土師器、須恵器で、他は少量である。土師器には古墳時代中期の南小泉式がごく少量含まれるものの、土師器のほとんどとロクロ土師器、須恵器は奈良・平安時代のものである。ここでは、出土状況などからある程度の一括性が認められる奈良・平安時代の土師器、ロクロ土師器、須恵器について分類を行ない、編年的な位置付けを試みることにする。

なお、宮城県内の古代の土器についてはこれまでの調査・研究によって、いくつかの編年が提示されている(氏家 1957・1967、白鳥 1980、加藤 1989 など)。本遺跡出土土器に関連する最近の論考として、村田晃一氏による宮城県中・南部を対象とした古墳時代後期～奈良時代の編年(2007)、多賀城周辺地域を対象とした平安時代の編年(1994)、柳澤和明氏による多賀城内の施釉陶器を含む平安時代の編年(1994)などが挙げられる。本遺跡出土土器の検討にあたっては、これらの先行研究を適宜参照しながら進めることにする。

1. 古代の土器類の分類

古代の土器類には土師器、ロクロ土師器、須恵器がある。これらを器種と器形、器面調整の状態によって以下のように分類する。

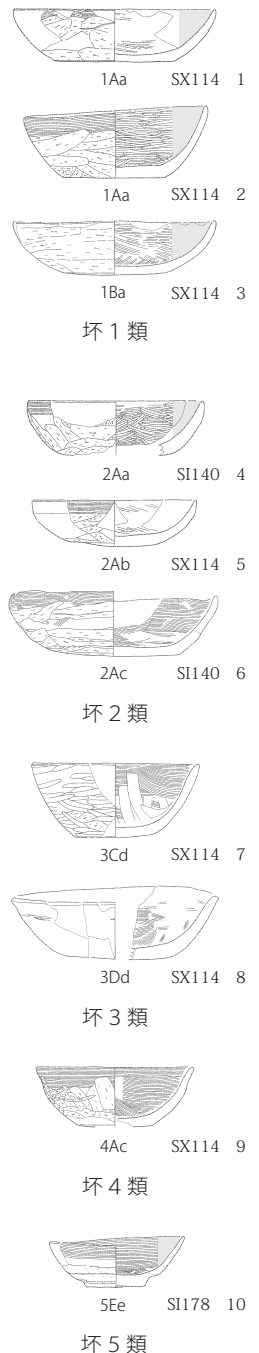
(1) 土師器

土師器のうち整形にロクロを用いていないもので、坏、小型甕、甕、甑がある。これらの中には、器形と器面調整の状態によってさらに細分されるものがあり、以下のように分類した(第114・115図)。

【坏】 器形によって1~5類に分類した。さらに、器面調整の類型について外面にA~E、内面にa~eの細分項目を設け、これらの組み合わせで各細分類の特徴を示した。

(器面調整の類型)

- 外面 A類 口縁部にヨコナデ調整、体部から底部にヘラケズリ調整を施す。
 B類 口縁部から底部までヘラケズリ調整を施す。
 C類 口縁部から底部までヘラケズリ調整の後にヘラミガキ調整を施す。
 D類 口縁部にヨコナデ調整、体部から底部にヘラミガキ調整を施す。
 E類 口縁部にヨコナデ調整を施し、体部に粘土紐の輪積み痕を残す。



第114図 土師器分類図(1)

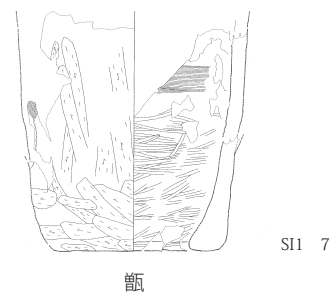
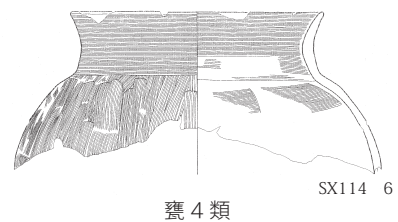
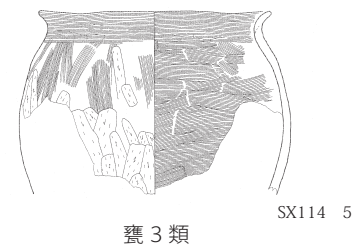
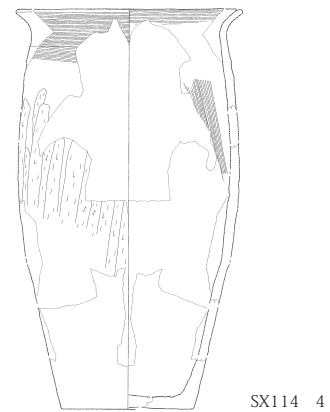
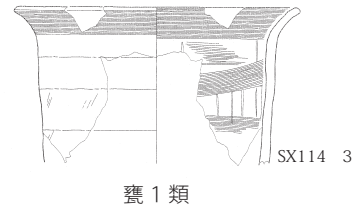
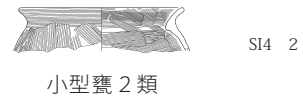
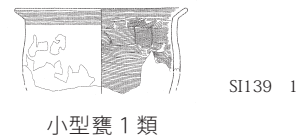
- 内面 a類 ヘラミガキ調整の後に黒色処理を施す。
 b類 ヘラミガキ調整を施す。
 c類 ヨコナデ調整を施す。
 d類 ヨコナデ調整の後にヘラミガキ調整を施す。
 e類 ヨコナデ調整の後に黒色処理を施す。
- 坏 1 類 平底あるいは平底気味の丸底で体部から口縁部まで緩やかに内弯する。器面調整の類型には Aa・Ba 類がある。いずれも外面はヘラケズリ調整主体で、内面を黒色処理で仕上げる。
- 坏 2 類 平底あるいは平底気味の丸底で体部から口縁部まで緩やかに内弯する。口縁部と体部の境に弱い稜を形成する。器面調整の類型には Aa・Ab・Ac 類がある。いずれも外面はヘラケズリ調整主体であるが、内面は黒色処理で仕上げるものと、ヘラミガキ調整あるいはヨコナデ調整で仕上げるものがある。
- 坏 3 類 平底気味の丸底で体部から口縁部まで直線的に外傾する。器面調整の類型には Cd・Dd 類がある。いずれも内外面をヘラミガキ調整で仕上げる。
- 坏 4 類 平底で体部が内弯し、口縁部が外反する。器面調整の類型には Ac 類がある。外面はヘラケズリ調整主体で、内面をヨコナデ調整で仕上げる。
- 坏 5 類 平底で体部から口縁部まで直線的に外傾する。底部が高台状に肥厚し、外底面に糸切り痕が見られる。器面調整の類型には Ee 類がある。外面はナデ調整主体で、内面をヨコナデ調整で仕上げる。

【小型甕】 甕類のうち口径 20cm 以下のものを小型甕とし、器形によって 1~2 類に分類した。

- 小型甕 1 類 胴部上半が直立し、口縁部が短く外傾する。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の外面にユビナデ調整を施す。
- 小型甕 2 類 胴部上半が球胴状を呈し、口縁部が短く外反する。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の外面にハケメ調整を施す。

【甕】 甕類のうち口径 20cm 以上のものである。器形によって 1~4 類に分類した。

- 甕 1 類 長胴で胴部上半が直立気味に外傾し、口縁部が短く外反する。頸部との境に胴部最大径をもつ。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の外面に横方向のナデ調整を施す。
- 甕 2 類 長胴で胴部が緩やかに内弯し、口縁部が短く外反する。口径と胴部最大径がほぼ同じである。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の外面に縦方向のヘラケズリ調整を施す。



第 115 図 土師器分類図 (2)

甕3類 球胴で頸部がくの字状に屈曲して口縁部が短く外反する。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の外面にハケメ調整の後、縦方向のヘラケズリ調整を施す。

甕4類 球胴で頸部が直立し、口縁部が短く外反する。口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部上半の外面に縦方向のハケメ調整を施す。

【甑】 無底式で胴部下半が円筒形を呈する。外面の胴下部に耳部を持つとみられる。胴部の外面にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整を施す。

(2) ロクロ土師器

土師器のうち整形にロクロを用いているもので、坏、鉢、甕がある。これらの中には、器形と器面調整の状態によってさらに細分されるものがあり、以下のように分類した(第116・117図)。

【坏】 器形によって1~2類に分類した。すべて内面を黒色処理で仕上げる。さらに、底部の切り離し・再調整の類型について、ロクロ台からの切り離し方法にA~D、切り離し後の再調整にa~cの細分項目を設け、これらの組み合わせで各細分類の特徴を示した。

(底部の切り離し・再調整の類型)

切り離し A類 回転糸切りによる。

B類 ヘラ切りによる。

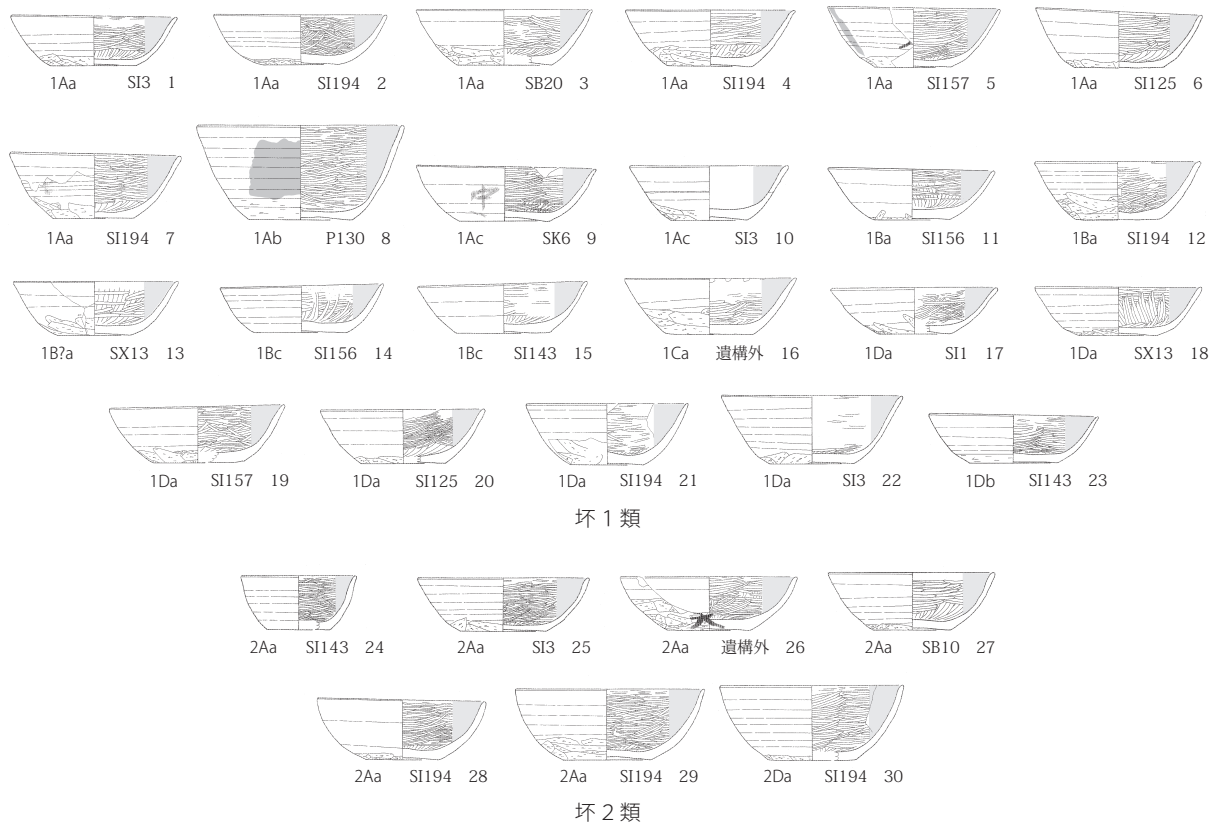
C類 静止糸切りによる。

D類 再調整により不明。

再調整 a類 手持ちヘラケズリによる。

b類 回転ヘラケズリによる。

c類 再調整を施さない。



第116図 ロクロ土師器分類図(1)

坏1類 体部から口縁部まで直線的に外傾する。底径口径比 0.43~0.55。底部の切り離し・再調整の類型には Aa・Ab・Ac・Ba・Bc・Ca・Da・Db 類がある。底部の切り離し方法が明らかなものでは回転糸切りとヘラ切りが 2:1 の比率で用いられている。ほとんどが切り離し後に再調整を施し、手持ちヘラケズリによるものが多数、回転ヘラケズリによるものがごく少数、再調整を施さないものが少数である。

坏2類 体部から口縁部まで内弯気味に外傾する。底径口径比 0.43~0.54。底部の切り離し・再調整の類型には Aa・Da 類がある。底部の切り離し方法が明らかなものはすべて回転糸切りで、いずれも切り離し後に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。

【鉢】 体部が逆八の字形を呈する。体部上端部が内弯して頸部がくの字状に屈曲し、口縁部が短く外傾する。体部外面に格子タタキ調整を施すもの、体部外面の下半にヘラケズリ調整を施すものがある。

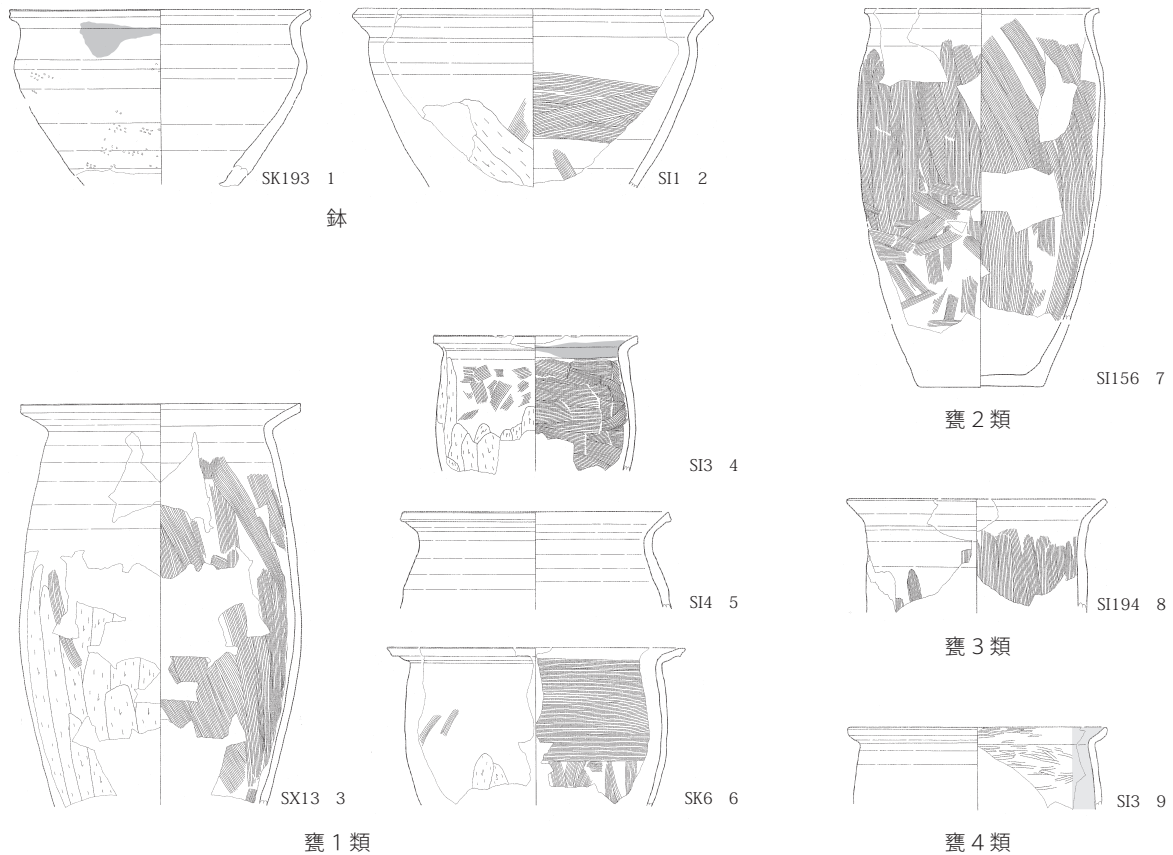
【甕】 器形によって 1~4 類に分類した。胴部下半と底部が不明な資料が多いため、主に胴部上半と口縁部の形態によって分類した。

甕1類 長胴で胴部に丸みのある楕円形を呈し、口縁部が外傾する。胴部外面の下半にヘラケズリ調整を施す。

甕2類 長胴で胴部に丸みのある楕円形を呈し、口縁部が短く外反する。胴部外面にヘラナデ調整を施す。

甕3類 胴部上半が直立し、口縁部が外傾する。

甕4類 胴部上半が直立気味に内弯し、口縁部が内弯気味に外傾する。内面にヘラミガキ調整の後、黒色処理を施す。



第117図 ロクロ土師器分類図(2)

(3) 須恵器

坏、高台付坏、坏蓋、壺蓋、甕がある。これらの中には、器形と器面調整の状態によってさらに細分されるものがあり、以下のように分類した(第118図)。

【坏】 器形によって1~4類に分類した。さらに、底部の切り離し・再調整の類型について、ロクロ台からの切り離し方法にA~D、切り離し後の再調整にa~cの細分項目を設け、これらの組み合わせで各細分類の特徴を示した。

(底部の切り離し・再調整の類型)

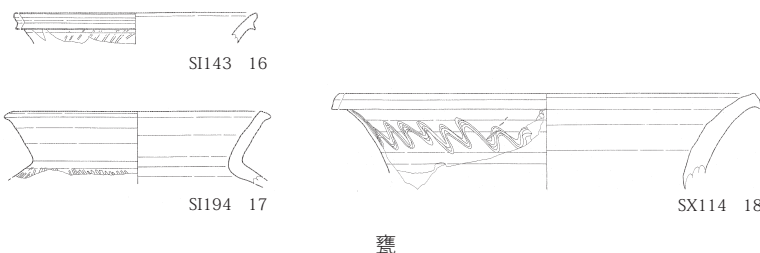
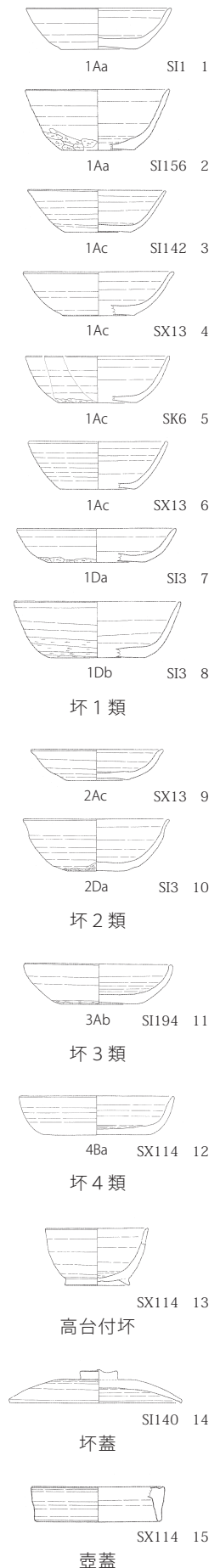
- 切り離し A類 回転糸切りによる。
- B類 ヘラ切りによる。
- C類 静止糸切りによる。
- D類 再調整により不明。
- 再調整 a類 手持ちヘラケズリによる。
- b類 回転ヘラケズリによる。
- c類 再調整を施さない。

坏1類 体部下端が丸みを持って立ち上がり、体部から口縁部まで直線的に外傾する。底径口径比0.47~0.61。底部の切り離し・再調整の類型にはAa・Ac・Da・Db類がある。底部の切り離し方法が明らかなものはすべて回転糸切りで、切り離し後に再調整を施さないものがほとんどである。再調整の方法は手持ちヘラケズリによるものが少数、回転ヘラケズリによるものがごく少数である。

坏2類 体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する。底径口径比0.38~0.48。底部の切り離し・再調整の類型にはAc・Da類がある。底部の切り離し方法が明らかなものは回転糸切りで、切り離し後に再調整を施さないもの、手持ちヘラケズリによる再調整を施すものがある。

坏3類 体部下端が丸みを持って立ち上がり、口縁部が内弯する。底径口径比0.51。底部の切り離し・再調整の類型はAb類である。底部の切り離し方法は回転糸切りで、切り離し後に回転ヘラケズリによる再調整を施す。

坏4類 体部下端が丸みを持って立ち上がり、体部から口縁部まで直立気味に外傾する。底径口径比0.7。底部の切り離し・再調整の類型はBa類である。底部の切り離し方法はヘラ切りで、切り離し後に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。



第118図 須恵器分類図

- 【高台付坏】 口径が小さく器高が高い小鉢状の器形で、体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部は直立気味に外傾する。ヘラ切りによる底部の切り離し後に、八の字状に開く高台が付加されている。
- 【坏蓋】 体部が直線的に外傾し、口縁端部に短い折り返しを持つ。中央部が突出する環状つまみを持つ。
- 【壺蓋】 天井部と体部がほぼ直角に屈曲し、体部から口縁部まで直立する。つまみ形状は不明。
- 【甕】 口頸部が外反し、口縁端部は上下につまみ出されて縁带状となる。胴部形状は不明。

2. 土器群の設定と編年的位置づけ

前項で分類した土器類について、遺構ごとにまとめると第9表のようになる。これらの中で、ある程度の点数的なまとまりを持った遺構出土土器と言えるのは、SI3・SI140・SI143・SI194 竪穴住居跡、SX13 廃棄土坑、SX114 粘土採掘坑などの出土土器類である。これらの各遺構ごとのタイプの組み合わせの相異に着目して土器群を設定すると、SI140 竪穴住居跡、SX114 粘土採掘坑出土土器を基準資料とし、土師器坏 1~4 類、須恵器坏 4 類を含む第1群土器、SI3・SI143・SI194 竪穴住居跡、SX13 廃棄土坑出土土器を基準資料とし、ロクロ土師器 1・2 類、須恵器坏 1~3 類を含む第2群土器の2群に大別される。以下に各土器群の特徴をまとめ、編年的位置および地域性などについて検討する。また、第2群土器には後述するように墨書土器を含むことから、その内容についてもここで検討を加える。

(1) 第1群土器

SI140 竪穴住居跡、SX114 粘土採掘坑出土土器で構成される。土師器坏 1~4 類、甕 1~4 類、須恵器坏 4 類、高台坏坏、坏蓋、壺蓋、甕がある。このうち、土師器には製作技法と形態的特徴から二つのグループが識別できる。一つは、内面に黒色処理技法を用いる坏を主要器種とする伝統的な在地の土器であり、もう一つは、内面に黒色処理技法を用いずヨコナデ調整で仕上げる坏を主要器種とする外来の土師器である。以下に、それぞれの特徴をまとめ、編年的位置などについて検討する。

在地の土師器 土師器坏は平底あるいは平底気味の丸底で、外面の体部に段を持たず、内面の体部と底部の境に屈曲が見られないものである。坏 1 類は体部から口縁部まで緩やかに内弯し、外面がヘラケズリ調整主体で、内面を黒色処理で仕上げるもので、国分寺下層式（氏家 1967・加藤 1989）の範疇に含まれる。蔵王町堀の内遺跡第2群土器（蔵王町教育委員会 1997）・六角遺跡第3群土器（蔵王町教育委員会 2008）に類例が見られる。これらのうち坏類の器形に着目すると、堀の内遺跡では体部下端に段を形成する盤状坏が主体であり古相を示すのに対して、六角遺跡では無段の丸底坏が主体となっており、本群土器では丸底坏に平底化が見られる。このことから、<堀の内2群→六角3群→前戸内1群>という一応の変遷が考えられ、本群土器は六角3群土器にやや後出する様相を持つものと言える。堀の内2群土器は7世紀末~8世紀前半、六角3群土器は8世紀前半~中頃に位置づけられている。村田晃一氏（2007）による編年では7段階に該当し、漆紙文書を伴う多賀城市山王遺跡 SD180B 溝跡出土土器（多賀城市埋蔵文化財調査センター 1991）、陸奥国分寺創建期瓦・多賀城跡政庁第Ⅱ期瓦を伴う利府町郷楽遺跡 11・14 号住居跡出土土器（宮城県教育委員会・利府町教育委員会 1990）などから8世紀中頃~後半の年代が与えられている。

また、須恵器坏 4 類は底径が大きく、底部はヘラ切りの後に再調整を施すが、再調整は粗い手持ちヘラケズリと軽いナデによるものである。利府町春日大沢窯跡群の硯沢窯跡 B 地区 9 号窯跡（宮城県教育委員会 1987）、石巻市須恵窯跡群の代官山遺跡 1 号窯跡（河南町教育委員会 1993）に類例が見られる。硯沢 9 号窯跡は8世紀中葉、代官山 1 号窯跡は8世紀第3四半期に位置づけられている。

以上のことから、本群土器は国分寺下層式後半段階に比定され、その年代は8世紀中頃~後半と考えられる。なお、SX114 粘土採掘坑における放射性炭素年代測定（AMS 測定、第5章）では、暦年校正年代（1σ）は 665~808AD と示され、やや幅が広いものの本群土器の年代観と齟齬はない。

外来の土師器 在地の土師器とは異なる製作技法あるいは形態的特徴を有するものとして、坏2~4類、甕2~4類がある。これらは前述した在地の土師器と共伴関係にあるが、国分寺下層式の範疇には含まれないものであり、外来の土師器と考えられる。関東地方の土師器と類似した特徴が見られることから、東北地方南部で関東系土師器と呼称されている土器群に包括されるものと考えられる。

坏2~4類は、内面に黒色処理技法を用いずヨコナデ調整で仕上げるものが主体である。坏2類は平底あるいは平底気味の丸底で体部から口縁部まで緩やかに内弯し、外面の口縁部と体部の境に弱い稜を形成する。坏3類は、平底気味の丸底で体部から口縁部まで直線的に外傾する。坏4類は平底で体部が内弯し、口縁部が外反する。甕2類は、長胴で胴部が緩やかに内弯し、口縁部が短く外反する。外面の頸部に段を持たず、胴部に縦方向のヘラケズリ調整を施す。甕3類は、球胴で頸部がくの字状に屈曲して口縁部が短く外反する。外面の胴部にハケメ調整の後、縦方向のヘラケズリ調整を施す。甕4類は球胴で頸部が直立し、口縁部が短く外反する。外面の胴部上半はハケメ調整である。

これらと共通する特徴を持つ土師器は、蔵王町六角遺跡第2・3群土器、堀の内遺跡第2群土器、窪田遺跡SI1住居跡（蔵王町教育委員会2011b）、栗原市御駒堂遺跡第2群土器（宮城県教育委員会1982）、石巻市角山遺跡SI54・SI130住居跡（宮城県教育委員会2005）などに認められ、六角3群・御駒堂2群に坏2・3類、甕2・4類、角山SI130住居跡に坏3類、堀の内2群に坏3・4類、六角2群に坏4類、角山SI54住居跡・窪田SI1住居跡に甕4類の類例が指摘できる。これらの土器の年代は、7世紀末~8世紀中頃の間それぞれ位置づけられている。

本群土器の年代は、在地の土師器の特徴から8世紀中頃~後半と考えられるが、上述のような既出の関東系土師器の年代観の中に収まるものか、8世紀後半以降のものかについては、当地域周辺での類例の増加を待ってさらに検討を加える必要がある。

（2）第2群土器

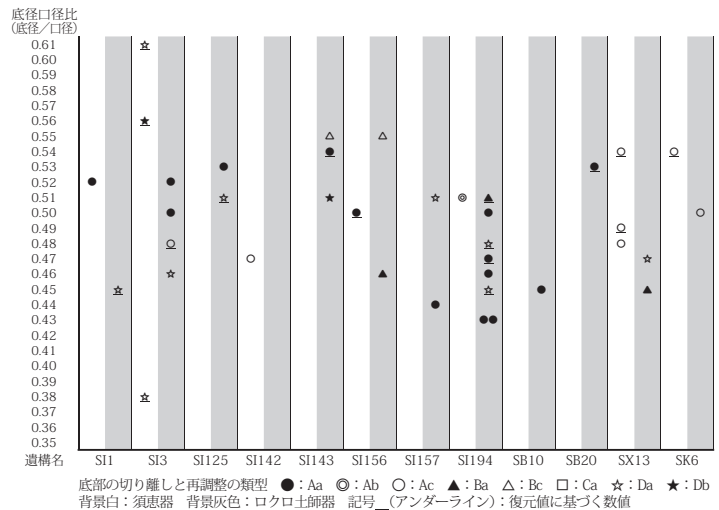
SI3・SI143・SI194 竪穴住居跡、SX13 廃棄土坑出土土器を基準資料とし、これと同様の特徴を持つSI1・SI125・SI142・SI156・SI157 竪穴住居跡、SB10・SB20 掘立柱建物跡、SK6 土坑、P130 柱穴跡出土土器で構成される。ロクロ土師器坏1・2類、鉢、甕1~4類、須恵器坏1~3類、甕がある。

このうち、ロクロ土師器は表杉の入式（氏家1957）の範疇に含まれる。ほぼ平安時代全般に対応するものとされた表杉の入式期は、須恵器・赤焼土器を含む坏類の形態と製作技法から細分が行なわれ（8~12世紀代の多賀城跡出土土器をA-F群に分ける白鳥1980など）、時期が降るほど口径に占める底径の比率（底径口径比）が小さくなる傾向や、ロクロ台からの切り離し後に再調整が行なわれなくなる傾向などが明らかにされた。その後、集落跡などを含めた資料の蓄積を踏まえて検討が進められている（多賀城周辺地域の9~11世紀代の土器を1~8群に分ける村田1994など）。

本群土器のロクロ土師器には、坏1類77%、坏2類23%が組成する。底径口径比は0.43~0.55である。ロクロ台からの切り離し方法は回転糸切り74%、ヘラ切り26%である。底部の再調整は85%で行なわれている。再調整の方法は手持ちヘラケズリ96%、回転ヘラケズリ4%である。また、須恵器坏は、坏1類73%、坏2類18%、坏3類9%が組成する。底径口径比は0.38~0.61である。ロクロ台からの切り離し方法はすべて回転糸切りで、底部の再調整は55%で行なわれている。再調整の方法は手持ちヘラケズリ67%、回転ヘラケズリ33%である。

このような組成を示す土器群の例は、大河原町台ノ山遺跡第8号住居跡（宮城県教育委員会1980a）、白石市青木遺跡第21号住居跡（宮城県教育委員会1980c）などがある。前述の村田晃一氏の編年では2群土器段階に該当し、漆紙文書を伴う多賀城跡第60次調査SE2101B井戸跡3層出土土器などから9世紀第1四半期後半~第2四半期の年代が与えられている。斎野裕彦氏（1994）は、仙台市南小泉

遺跡における須恵器坏の底径口径比と底部の再調整の類型から、9世紀代の土器を4段階に分けている。これによると、底部に再調整を施すものと、回転糸切り無調整のものがあり、底径口径比0.55-0.46のものは9世紀前葉～中葉とされており、本群土器の特徴と一致する(第119図)。本群土器はロクロ土師器主体であるが、ロクロ土師器の製作技法は須恵器坏のそれと連動することが複数の先行研究で示されている。



第119図 第2群土器における坏類の底径口径比分布図

須恵器は、坏1類が仙台市台原・小田原窯跡群の五本松窯跡C群窯跡(仙台市教育委員会1987)、石巻市須江窯跡群の関ノ入遺跡11号窯跡(河南町教育委員会2004)、いわき市梅ノ作窯跡群の梅ノ作窯跡7号窯跡(いわき市教育委員会2003)、会津若松市荻ノ窪窯跡(会津坂下町教育委員会2000)など、坏2類は関ノ入11号窯跡、会津若松市大戸窯跡群の上雨屋12号窯跡(会津若松市教育委員会1993)などに類例が見られる。関ノ入11号・梅ノ作7号窯跡は9世紀第1四半期、上雨屋12号窯跡は9世紀第1~2四半期、荻ノ窪窯跡は9世紀第2四半期、五本松C群窯跡は9世紀第3四半期に位置づけられている。

以上のことから、本群土器は表杉の入式前半段階に比定され、その年代は9世紀前葉～中葉と考えられる。**墨書土器** 本群土器のうち須恵器坏2点、ロクロ土師器坏26点の合計28点で墨書を確認した。出土場所で見ると竪穴住居跡16点、土坑7点、掘立柱建物跡1点、遺構外4点である。墨書のある部位は外底面18点、外面体部7点(正位4点、不明3点)である。肉眼観察および赤外線デジタル撮影によって判読できた墨書文字は、「草手」・「(中)」が各2点、「苺田」・「勝」・「大」・「丈」・「(天)」・「(一)」・「三□□」が各1点である。墨書は筆が細く早い筆運びで書かれたものが多く、肉太のものは少ないことから、比較的筆使いに慣れた書き手によるものが多いとみられる。

本遺跡周辺での墨書土器の出土例としては、白石市青木遺跡で「大里」・「大村」・「大」・「村」・「千」・「仁」・「上」・「月」・「(財)集」・「工」・「肩」、御所内遺跡で「大里」、松田遺跡で「千」、家老内遺跡で「三」・「大」・「上」・「上井」・「新宅」・「新」・「宅」・「旬」・「貯」・「日」・「旬」、明神脇遺跡で「二万」・「(財集)」・「曹司」、蔵王町持長地遺跡で「吉」・「財」・「長田」、東山遺跡で「万」・「田」・「三」・「万田」・「田万」・「子田」・「今万」・「今万田」、赤鬼上遺跡・十郎田遺跡で「本」、七ヶ宿町小梁川遺跡で「三」・「丈」・「慈」・「下屋」・「山本」、小梁川東遺跡で「弥」などがある。いずれも平安時代のもので、ロクロ土師器坏の外面体部に正位で書かれたものが多い。出土場所は住居跡あるいは土坑が多く、住居跡の場合はカマド・貯蔵穴周辺が多い。墨書は筆が細く早い筆運びで書かれたものは少数で、肉太のものが多いことから、筆使いに慣れた書き手によるものは少なく、半ば記号化された文字を記したものが多かったと考えられる。

これらと比較すると、竪穴住居跡や土坑からの出土が多い点では共通するが、本群土器に伴う墨書土器は少数ながら須恵器坏が含まれること、墨書のある部位は外面体部よりも外底面に多いこと、比較的筆使いに慣れた書き手によるものが多いとみられることなどが特徴として挙げられる。共通して書かれている文字としては「大」・「丈」・「三」がある。この他の「(中)」・「勝」・「(天)」・「(一)」についても類例としては散見されるものであるが、一字のみということもあり十分に意味を限定できない。二字の墨書のうち、「苺田」は多賀城市市川橋遺跡で3例(多賀城市埋蔵文化財調査センター2003)が知られているほか、陸奥国分寺所要瓦に「苺」の刻字がある。「草手」については管見の限りでは類例がない。

「苅田」は地名あるいは人名と考えられる。続日本紀の養老5（721）年10月14日条に「陸奥国柴田郡の二郷を分割して苅田郡を置く」、神護景雲3（769）年3月13日条には「苅田郡の相伴巨人足に相伴刈田臣という氏姓を賜う」という記事がある。円田盆地周辺は7世紀後半頃に設置されたとみられる当初の柴田郡に属したが、苅田郡が分置された際にいずれの郡域に属したのかは明確でない。平安時代（10世紀）の和名類聚抄には「刈田郡篤借・那（刈）田・坂田・三田郷」の記載があるが、円田盆地との関係は不明である。中世文書に円田盆地周辺の郷村名を見ると、応永9（1402）年「刈田郡平沢郷」、天文7（1538）年「刈田郡小紫・平沢・円田・矢付」、天文13（1544）年「刈田庄小紫郷」、天文15（1546）年「柴田郡平沢邑」、天文24（1555）年「刈田庄平沢・円田、柴田庄塩沢」、文禄3（1594）年「刈田郡平沢・円田・塩沢・小紫（小村崎）」などがあり、多くは刈田郡であるが一部は柴田郡に属した時期があったことが知られる（蔵王町史編纂委員会1987）。

以上、古代から中世にかけての刈田郡に関わる古記録を概観したが、平安時代に円田盆地周辺が刈田・柴田のいずれの郡域に属したのかを明示するものはない。本資料は、「苅田」の文字を記した考古資料としては市川橋遺跡と並んで最古段階のものであり、本遺跡で発見されたことを考慮すれば、平安時代に円田盆地周辺が刈田郡に属していたことを示す有力な証拠となりうると考えられる。

「草手」は、近世の用例を見ると、田畑の「草取り」・「草刈り」の作業、あるいは肥料その他に利用される「草木」を指す語として用いられている。また、農民が入会地となっている草刈場から得る稗・萱・菰などの草木に賦課された軽租を「草手」・「草代」・「野手」などと称し、中世には荘園領主が荘内に「草手」を賦課していた例が知られている（宮崎2003）。康和4（1102）年9月4日の東大寺般若会支度下行日記では「楽人草手料」として「桶八柄二口」が支給されている（東京大学史料編纂所2011a）。康元元（1256）年10月10日の日野資宣下文では、田所（荘官）の本庄宗光が荘務のため上洛するにあたり、その経費負担は、荘内に「夫役・草手」を賦課して充てるよう、荘園領主（領家）の日野資宣が若山荘の番頭・百姓に、下文をもって命じている（東京大学史料編纂所2011b）。

本資料の「草手」の意味については、比較的筆使いに慣れた書き手によるものとみられることや、後述するような集落の性格などから、除草の作業や単に草木を指したものではなく、在地有力者が軽租として徴収した「草手」、あるいは居宅内で消費する草木の調達にかかる労務の対価として支給された「草手」を指した可能性を考えて良いと思われる。その場合、「草手」と墨書された土器は、「草手」の收受あるいは支給に際して、米などの計量に用いられた可能性が考えられる。

第2節 遺構の特徴と遺跡の性格

確認した遺構は、竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡35棟、柱列跡11条、井戸跡8基、近世墓10基、落とし穴状土坑10基、土坑85基、溝跡10条、竪穴状遺構1基、粘土採掘坑2基、廃棄土坑1基、性格不明遺構1基、柱穴多数である。これらの遺構について、第1節で検討した出土土器の年代と、各遺構の配置状況および新旧関係などから機能時期を推定し、各時期の遺跡の性格について考える。

1. 遺構の時期と特徴

確認した遺構について、第1節で検討した出土土器の年代と、各遺構の配置状況および新旧関係などから機能時期を推定すると、第10表に示すようにⅠ～Ⅵ期の遺構期に分類できる。掘立柱建物跡については出土する遺物が小片であることが多く、遺物から遺構期を特定することが難しいことから、周辺の出土遺物および建物構造と方位、柱穴の規模・形状などから分類を試みた。ここでは、各遺構期の特徴と想定される遺跡の性格を述べる。

第10表 遺構の機能時期と土器群

遺構期	時代・時期	年代	土器群	所属遺構
I期	縄文～弥生時代	—	—	1区南 SK16・SK58・SK65
				2区 SK135・SK169・SK210・SK211・SK213・SK222・SK225
II期	奈良時代中頃	8世紀中頃～後半	第1群土器	1区北 SX114a・SX114b ・SX117
				2区 SI140 ・SI159・SI160・SI196
III期	平安時代初頭	8世紀末～9世紀初頭	+	1区南 SI2・SB26・SB230・SB234・SB238・SK45
				2区 SI178
IV期	平安時代前葉前半	9世紀前葉～中葉	第2群土器	1区南 SI1・SI3a・SI3b・SI4a・SI4b ・SI8・SI14・SB9・ SB10 ・SB15・SB17・SB18・ SB20 ・SB23・SB24・SB28・SB30・SB229・SB235・SB237・SA232・SA241・ SX13 ・SK5・ SK6・SK7 ・SK12・SK19・SK31・SK32・SK33・SK34・SK37・SK38・SK40・SK41・SK44・SK48・SK49・SK50・SK51・SK52・SK53・SK54・SK55・SK57・SK66・SD67
				1区北 SB102・SB103・SB145・SB243
				2区 SI125 ・SI139・ SI142・SI143・SI156・SI157・SI194 ・SB127a・SB127b・SB199・SB228・SA118・SK130・SK131・SK132・SK133・SK134・SK137・SK151・SK167・SK168・SK170・SK185・SK189・SK190・SK192・SK193・SK197・SK209・SK215・SK218・SK219・SK221・SK223・SK227・SX153
				1区南 SB21・SB22・SB25・SB231・SB236・SA27・SA239・SA240・SA242・SE63
V期	中世前半	14世紀	中世陶器 至大通寶	1区北 SB101 ・SB244・SB245・SA109・SE106
				2区 SB146・SB147・ SD144 ・SD182
VI期	近世後半	18-19世紀	近世陶磁器 寛永通寶	1区南 SD64
				2区 SK162・ SK163 ・SK164・SK165・ SK166・SK205 ・SK206・ SK207・SK208・SK216 ・SK217・SK220・SK224・ SK226
機能時期不確定		中世～近世		1区北 SE112・SD104・SD105・SD128・SD129
				2区 SE183・SK152・SK154・SK173・SK174・SK177・SK180・SK184・SK191・SD161
		不明		1区南 SA233・SK35・SK36・SK39・SK42・SK46・SK47・SK62・SK68
				1区北 SA246・SA247・SE107・SE111・SE113・SK108・SK119・SK120・SK121・SK126
				2区 SD187・SK171・SK172・SK176・SK179・SK181・SK195・SK198・SK200・SK212・SK248
				3区 SE122・SK123・SK124

※太字は出土土器群・年代測定・遺構の新旧関係による判定、細字は出土土器の大まかな特徴（土師器・ロクロ土師器など）・遺構の特徴（規模・形状、柱穴掘方の規模・形状など）と配置関係（分布・方位）などによる推定を示す。また、下線は年代測定試料が所属する遺構を示す。

(1) I期（縄文～弥生時代）

落とし穴状土坑10基があり、狩猟場としての性格が考えられる。落とし穴状土坑は本遺跡のほか、六角遺跡、原遺跡、戸ノ内遺跡など円田盆地北縁部の遺跡で多数確認されている。いずれも機能時期を特定できる遺物は出土していないが、遺構の性格から調査区周辺に集落が形成される以前のものと思われる。円田盆地北部における集落の形成時期は弥生時代中期ないしは古墳時代前期であることから、狩猟場として利用されたのは概ね縄文～弥生時代と考えられる。円田盆地西方の高木丘陵上に立地する複数の縄文時代の集落との関連性を想定すれば、縄文時代中～後期が可能性の一つとして考えられる。

落とし穴状土坑は、平面形が溝状、横断面形がV字形を呈するもの（1類、6基）と、平面形が小判形、横断面形がU字形を呈するもの（2類、4基）に分けられる。1類は1区南に2基、2区に4基、2類は1区南に1基、2区に3基が分布し、分布状況に類型間の偏在性は見られない。各遺構の長軸方向で見ると、分布範囲の重複する2区のSK210・SK213・SK222（1類）でN-15~20°-E、SK135・SK211・SK225（2類）でN-50~60°-Eであり、それぞれ斉一性がある。配置状況に類型間で異なる志向性が認められることから、これらの機能時期には少なくとも2時期以上の変遷があると考えられる。

(2) II期（8世紀中頃～後半）

竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構1基、粘土採掘坑2基があり、1区北、2区に分布する。1群土器を伴うことから、機能時期は8世紀中頃～後半と考えられる。SI140竪穴住居跡は一辺6.3mの規模で、北壁にカマドを付設する。土師器坏・甕、須恵器坏・坏蓋・甕が出土している。SX117竪穴状遺構は長辺2.8mの規模で、土師器、鉄滓が出土している。SX114粘土採掘坑は2時期の重複があり、長軸1.9~2.8mの

規模である。白色粘土層を挟り込むように掘り込まれ、人為的に埋め戻されている。円田盆地周辺の古代の竪穴住居跡では、カマド構築土や貼床材としての白色粘土を採掘したと考えられる床下土坑がしばしば見られるが、SX114 粘土採掘坑はこれよりも規模が大きい。堆積土中に焼土・炭化物を多く含むことから、採掘した粘土などを使用した土器の製作・焼成が付近で行われた可能性が考えられる。土師器環・鉢・甕・甑、須恵器環・高台環・壺蓋・甕が出土した。

確認した遺構が少数であるため不明な点が多いが、やや大型の竪穴住居があること、土器製作を窺わせる粘土採掘坑を伴うこと、土器の組成は在地色が希薄で関東系土師器が主体的であること、当地域では類例の少ない須恵器壺蓋を伴うこと、鉄滓が出土していることなどが特徴として挙げられる。以上のことから、Ⅱ期にはいわゆる関東系移民を主要な構成員とする集落が形成され、集落内では土器製作や小鍛冶などの生産活動が行なわれていた可能性が考えられる。

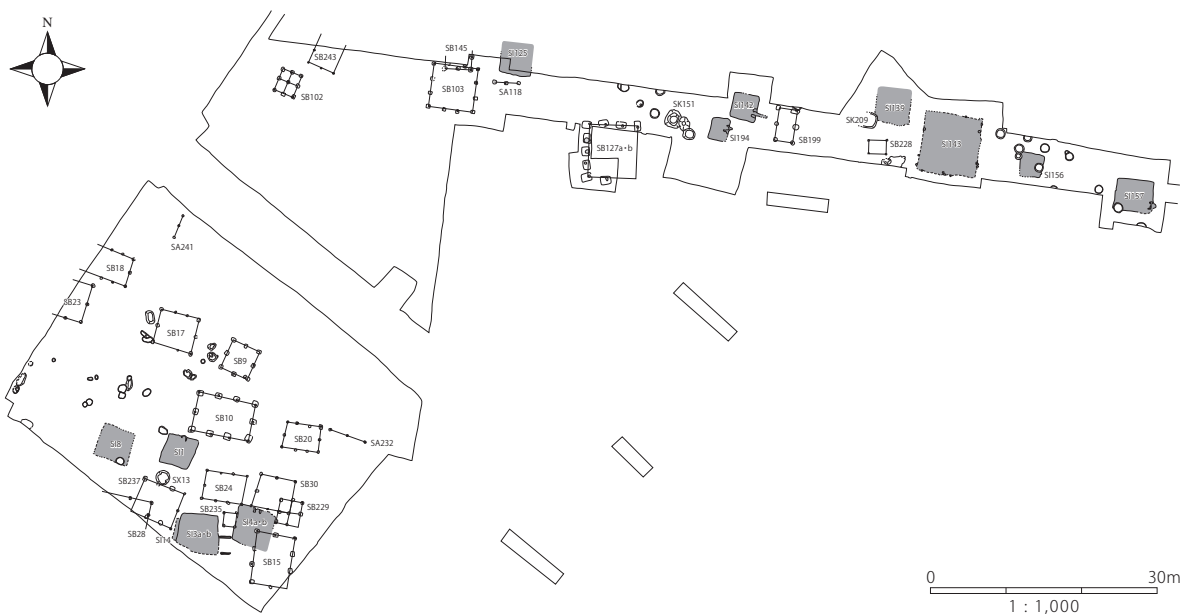
(3) Ⅲ期 (8世紀末～9世紀初頭)

竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 4 棟、土坑 1 基があり、1 区南、2 区に分布する。土師器環・甕、ロクロ土師器環、須恵器環の破片が少量出土している。ロクロ調整・非ロクロ調整の土師器を伴うこと、SI2 竪穴住居跡はⅣ期の SB10 掘立柱建物跡に壊されていることから、機能時期は 8 世紀末～9 世紀初頭と推定される。竪穴住居跡と掘立柱建物跡の主軸方向は N-0°-15°-W で、ほぼ南北方向からやや西偏する。SI2 竪穴住居跡は長辺 3.1m、SI178 竪穴住居跡は長辺 4.7m 以上の規模であるが、床面が残存しないためカマド位置は不明である。掘立柱建物跡は桁行 1~2 間、総長 2.9~4.6m の規模で、柱穴掘方の平面形は長軸 30cm 前後の略円形・楕円形を呈するものが主体である。

以上のことから、Ⅲ期には散漫に分布する竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落が形成されていたと考えられる。確認した遺構・遺物は少数であるため、集落の様相には不明な点が多い。

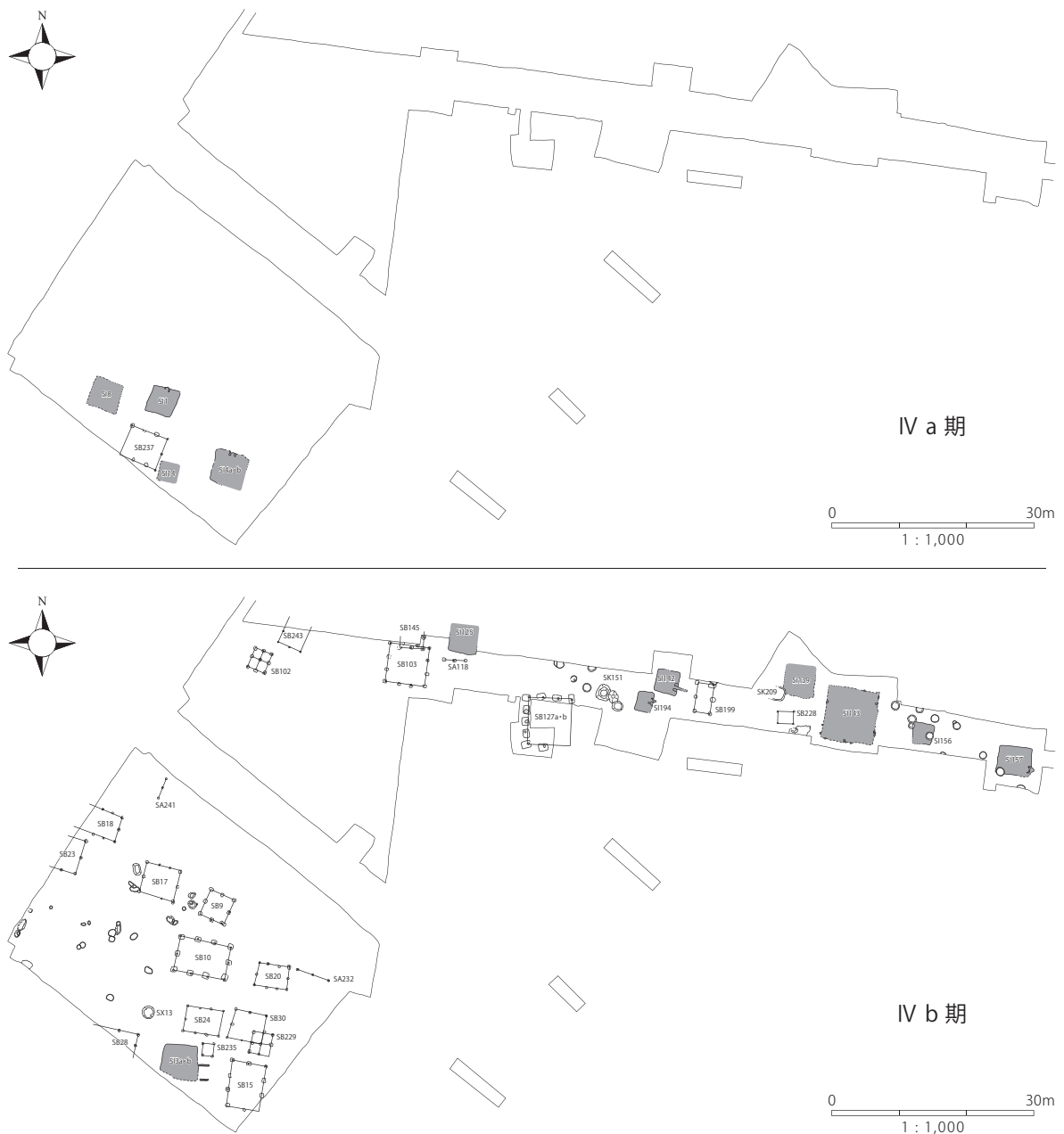
(4) Ⅳ期 (9世紀前葉～中葉)

竪穴住居跡 14 軒、掘立柱建物跡 21 棟、柱列跡 3 条、廃棄土坑 1 基、土坑 47 基、性格不明遺構 1 基、溝跡 1 条があり、1 区南・北、2 区に分布する。2 群土器を伴うことから、機能時期は 9 世紀前葉～中葉と考えられる。遺構の重複関係には < SI4 → SB30 → SB229 >、< SI4 → SB15 >、< SB28・SB237 >、



第 120 図 Ⅳ期遺構配置図 (1)

<SB103・SB145>などが見られ、2~3時期程度の変遷が考えられる。主軸方向は竪穴住居跡でN-2~21°-E、掘立柱建物跡でN-0~24°-Eで、ほぼ南北方向からやや東偏し、仔細に見るとやや東偏するA群(SI1、SI4a・b、SI8、SI14、SB9、SB102、SB237、SB243)と、これ以外でより南北方向に近いB群とに区別される。A群のSI4a・b竪穴住居跡はB群のSB15掘立柱建物跡に壊されていることから<A群→B群>の新旧関係が指摘でき、A群のSB9掘立柱建物跡とB群のSB17掘立柱建物跡は南辺が揃うことから一部は併存しながら変遷していると考えられる。このことから、IV期の遺構群はA群の竪穴住居跡5軒と掘立柱建物跡1棟で構成されるIV a期、A群の掘立柱建物跡3棟とB群で構成されるIV b期に概ね細分することが可能と考えられる(第121図)。IV a期の遺構群は1区南に分布し、竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡1棟、IV b期の遺構群は1区南・2区に分布し、竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡20棟、柱列跡3条、廃棄土坑1基、土坑47基などで構成される。土坑群については必ずしも明瞭に時期区分できるものではないが、新旧関係と配置状況から主にB群の遺構に伴うものと考えて大過ないと思われるので、IV b期に位置づけておく。



第121図 IV期遺構配置図(2)

竪穴住居跡 長辺 3.1~7.9m、短辺 2.5~7.9m の規模で、1 区南に 7 軒、2 区に 7 軒が分布する。時期別に見ると IV a 期は 1 区南に 5 軒、IV b 期は 1 区南に 2 軒、2 区に 7 軒が分布する。住居の規模は IV a 期では長辺 4.0~5.0m と齊一的であるが、IV b 期では長辺 3.1~3.5m の小型住居、5.1~5.6m の中型住居、7.9m の大型住居が見られ、機能の分化が窺われる。カマドの付設される位置は IV a 期で北壁 2 軒、IV b 期で東壁 5 軒、北壁 1 軒である。いずれもカマドの焚口に向かって右側の住居隅に貯蔵穴を伴う。貯蔵穴は浅い皿状を呈するものが主体であるが、IV b 期の SI142・SI125 竪穴住居跡では播鉢状に深く掘り込まれており、貯水施設など通常の貯蔵穴とは異なる用途が推定される。

床下土坑は IV a 期の SI4b 竪穴住居跡で 10 基、IV b 期の SI3b 竪穴住居跡で 15 基、SI143 竪穴住居跡で 2 基、SI157 竪穴住居跡で 2 基を確認した。床下土坑は六角遺跡 SI424・SI601 竪穴住居跡（蔵王町教育委員会 2008）、窪田遺跡 SI302・SI303・SI305 竪穴住居跡（蔵王町教育委員会 2011b）、十郎田遺跡 SI207・SI217・SI218 竪穴住居跡（蔵王町教育委員会 2011d）など円田盆地周辺の飛鳥~平安時代の住居跡にしばしば見られ、特に平安時代の住居跡には複数基の土坑を伴う例が多い。住居の構築・改築時に掘られており、カマド構築土や貼床材としての白色粘土を採掘したと考えられる。

遺物は IV a 期の住居跡で土師器小型甕・甑、ロクロ土師器坏・鉢・甕、須恵器坏・甕、転用砥が出土している。SI1 竪穴住居跡から多く出土している。ロクロ土師器・須恵器坏には墨書の見られるものがあり、外底面に「草手」と墨書された須恵器坏がある。IV b 期の住居跡では土師器甕、ロクロ土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・高台付坏・坏蓋・甕、灰釉陶器碗、鉄製刀子・鎌先・不明品、砥石が出土している。SI3・SI194 竪穴住居跡から多く出土し、鉄製品・砥石は SI142・SI143・SI156・SI157・SI194 竪穴住居跡から出土している。ロクロ土師器坏には口縁部に油煙の付着が見られるもの、外底面に「苅田」、「草手」、「大」、「(中)」、「一」、「三□□」、外面の体部に「丈」と墨書されたものがある。

掘立柱建物跡 桁行 1.8~7.7m、梁行 1.6~5.8m の規模で、間数で見ると 1×1 間:3 棟、2×1 間:4 棟、2×2 間:5 棟、3×2 間:6 棟、3×3 間:1 棟、4×3 間:2 棟である。1 区南に 13 棟、1 区北に 4 棟、2 区に 4 棟が分布する。時期別に見ると IV a 期は 1 区南に 1 棟、IV b 期は 1 区南に 12 棟、1 区北に 2 棟、2 区に 6 棟が分布する。建物の規模は IV a 期では 2×3 間で桁行 5.7m が 1 棟、IV b 期では 1×1 間で桁行 1.8~2.4m が 2 棟、2×1 間で桁行 4.4m が 1 棟、2×2 間で桁行 3.0~4.7m が 3 棟、2×3 間で桁行 5.2~7.7m が 6 棟、3×3 間で梁行 5.9m が 1 棟、3×4 間で梁行 7.0m が 1 棟などである。建物の構造は、IV b 期の SB102・SB229 掘立柱建物跡が 2×2 間の総柱建物であるほかは、すべて側柱建物である。

IV a 期の掘立柱建物は、SI1 竪穴住居南側に建てられた SB237 掘立柱建物 1 棟のみであるが、IV b 期には正方形建物に SB127・SB103 掘立柱建物跡、長方形建物に SB10・SB15 掘立柱建物跡などやや大型で規格的な柱穴掘方を持つ建物が複数棟建てられ、逆 L 字形に配置される建物群を形成する。

また、SB9 掘立柱建物は A 群の方位で建てられ、これと南辺を合わせて西隣に建てられる SB17 掘立柱建物は B 群の方位で建てられている。このことから、SB9 掘立柱建物は IV b 期の中でも初期の建物と見られ、その後に順次建物が追加されたことが窺える。また、2×3 間の側柱建物の SB30 掘立柱建物は 2×2 間の総柱建物の SB229 掘立柱建物に建て替えられている。

遺物は SB10・SB15・SB20・SB102・SB127b・SB237 掘立柱建物跡などでロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・坏蓋が出土している。

土坑 1 区南で廃棄土坑 (SX13) を確認した。IV a 期の SB237 掘立柱建物跡を壊しており、IV b 期に伴うと考えられる。平面形が直径約 1.9m の略円形を呈する土坑で、堆積土中に焼土・地山ブロック、焼礫、焼骨・炭化木片を含み、ロクロ土師器・須恵器、鉄釘などが出土している。ロクロ土師器坏には「勝」と墨書されたものがある。堆積土はすべて人為的埋土と考えられることから、不要物を一括廃棄した土坑と考えられる。平面形が円形を基調とする土坑は IV b 期の 2 区にも多数分布し、いずれも堆積土が

人為的埋土でロクロ土師器などが出土していることから、同様の性格を持つ土坑の可能性がある。

このほか、2区のSK151土坑では鉄滓、砥石、焼礫などが出土している。鉄滓は典型的な椀形滓の形状を呈しており、鍛冶炉の炉底に溜まった鍛冶滓と考えられる。鍛冶炉と推定できる遺構は確認されていないが、集落内で鉄製品の製作・補修のための小鍛冶が行なわれていたと考えられる。鉄製品関連の遺物は、複数の竪穴住居跡などから鉄製刀子・鎌先・鉄釘・不明品、砥石が出土している。

IV a・b期の遺構群 以上に述べたIV a・b各期の遺構群の配置状況と特徴および変遷について概観する。

IV a期の遺構群は、比較的散漫な配置状況である。南側に竪穴住居4軒と掘立柱建物1棟がある。遺物の出土状況から見れば、SI1竪穴住居が中心的な施設と目され、その南面に隣接して2×3間のSB237掘立柱建物が建てられている。SI1竪穴住居では「草手」と墨書された須恵器坏が出土している。

IV b期になると、比較的濃密な配置状況を呈する遺構群が展開する。南側の施設群は竪穴住居1軒、掘立柱建物11棟などで構成され、より一体性のある配置状況となる。竪穴住居は1軒のみとなるが、替わって複数棟の掘立柱建物がやや計画的に配置されている。建物群は逆L字形の配置を呈している。SI3竪穴住居はIV a期の竪穴住居よりもやや大型化し、出土遺物も豊富である。掘立柱建物は2×3間が5棟、2×2間が2棟などで、このうち2×2間のSB10掘立柱建物は隅丸方形で規格かつ大型の柱穴掘方を持ち、際立った優位性が窺える。2×2間で総柱建物のSB229掘立柱建物は倉庫の可能性が考えられる。また、北東側には竪穴住居7軒、掘立柱建物5軒などで構成される施設群が新たに配置される。竪穴住居は長辺3m前後の小型住居、5m前後の中型住居、約8mの大型住居が見られ、機能の分化が窺える。SI143大型住居は残存状況が良好でないが、SI194小型住居はカマド底面が良く焼けており、出土遺物が豊富である。3×3間のSB103掘立柱建物、3×4間のSB127掘立柱建物は平面形が正方形を呈しており、南側の施設群に建てられた掘立柱建物とは異なる機能が想定される。特にSB127掘立柱建物は、南側の施設群で優位なSB10掘立柱建物よりもさらに大型の柱穴掘方を持つ。SI3竪穴住居では「苜田」、「草手」と墨書されたロクロ土師器坏が出土しているほか、複数の竪穴住居などで墨書土器が出土している。また、小鍛冶が行なわれたことを示す椀形滓が出土し、刀子・鎌先などの鉄製品も出土している。

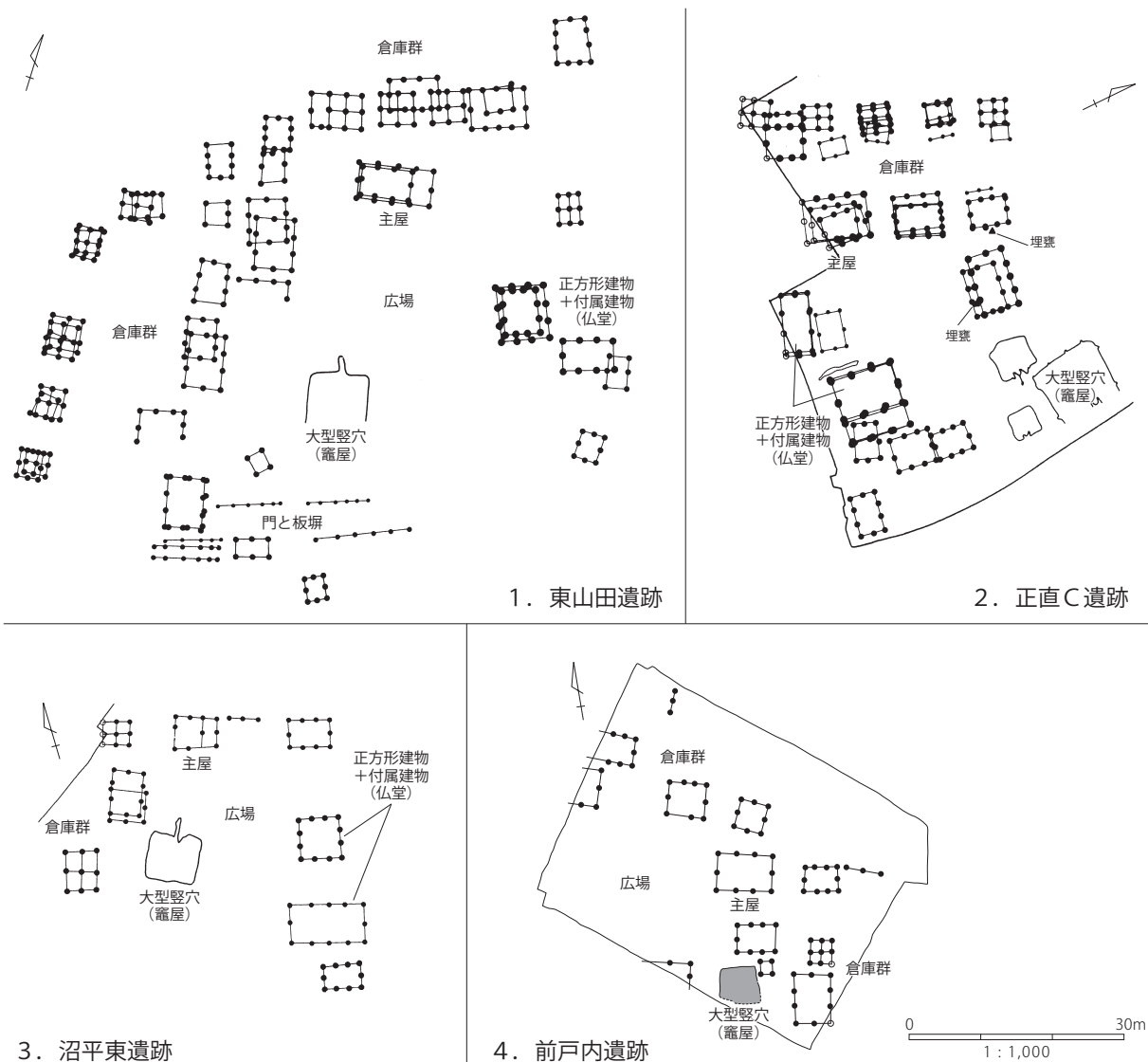
以上のことから、IV期の遺構群は2時期に概ね細分でき、IV a期には散漫に分布する竪穴住居と少数の掘立柱建物で構成される集落、IV b期には計画的に配置された規格性のある掘立柱建物群と竪穴住居群で構成される集落が形成されていたと考えられる。IV a・b期は連続的に変遷しており、「草手」の墨書土器を伴うことなど類似した特徴が指摘できることから、IV a期を集落の形成期、IV b期を発展期として捉えることが適当と考えられる。集落内には掘立柱建物を逆L字形に配置する一角が形成され、中心施設や倉庫とみられる建物があることから、一般集落とは異なる性格が窺われる。

豪族居宅の検討 これまでの検討から、IV b期の集落には逆L字形に配置された掘立柱建物群で構成される一角が形成されていることが判明した。遺構群は調査区外へ続いていることから、南へ開くコ字形の配置と見ることも出来そうである。こうした建物配置をとる遺構群は加美町壇の越遺跡（宮城県教育委員会 2003）、利府町郷楽遺跡（宮城県教育委員会・利府町教育委員会 1990）、福島県楢葉町鍛冶屋遺跡（福島県教育委員会 2000）、郡山市正直C遺跡（福島県文化センター 1995）、東山田遺跡（菅原 1998）、須賀川市沼平東遺跡（福島県教育委員会 1981）などに類例が見られ、竪穴住居を主体に構成される一般集落とは異なる特殊な性格を有することが窺われる。菅原祥夫氏（1998）は、正直C遺跡・東山田遺跡など陸奥南部にみられる規格的配置の倉庫群を備えた建物群を「官衙風建物群」と呼び、富豪層居宅と位置づけている。さらに、こうした居宅の類例は関東地方にも多数確認され、その中には腰帯具や「郷長」銘の墨書土器を伴う例があることから、一部に官と関わる性格を有したことも指摘されている。また、近年の東北各地での類例の蓄積を踏まえて全体的な動向と地域性を検討し、律令期の豪

族居宅の起点は大化前代の国造居宅に求められ、その後に官衙内の官人居宅に採用されたこと、8世紀後半以降に集落内に斉一性の強い豪族居宅が普及すること、9世紀後半以降は律令制崩壊の進行と共に太平洋側は衰退し、日本海側では発展する二極分化となり、10世紀中頃に終末を迎えることなどを明らかにしている（菅原 2007・2008）。以下、これに基づいてIV b期集落の性格を検討してみたい。

典型的な律令期型豪族居宅のモデルとして菅原氏が提示する東山田遺跡（第122図1）では、全体景観として①掘立柱建物主体で下向きコ字形の規格的配置、②建物規模は2×3間を基本、③建て替え・補修は必要に応じて行なわれ、全体の変遷は捉え難い、④瓦葺建物の不存在、内部施設として⑤総柱建物と側柱建物の2種類で構成される倉庫群、⑥多量の食器を保有する大型竪穴建物（竈屋）、⑦主屋は周囲の建物と規模・構造が特段変わらない、⑧上位ランクの居宅には正方形建物+付属建物のセットが認められ、居宅内併置の仏堂の可能性が高い—などの特徴が基本構造として挙げられている。

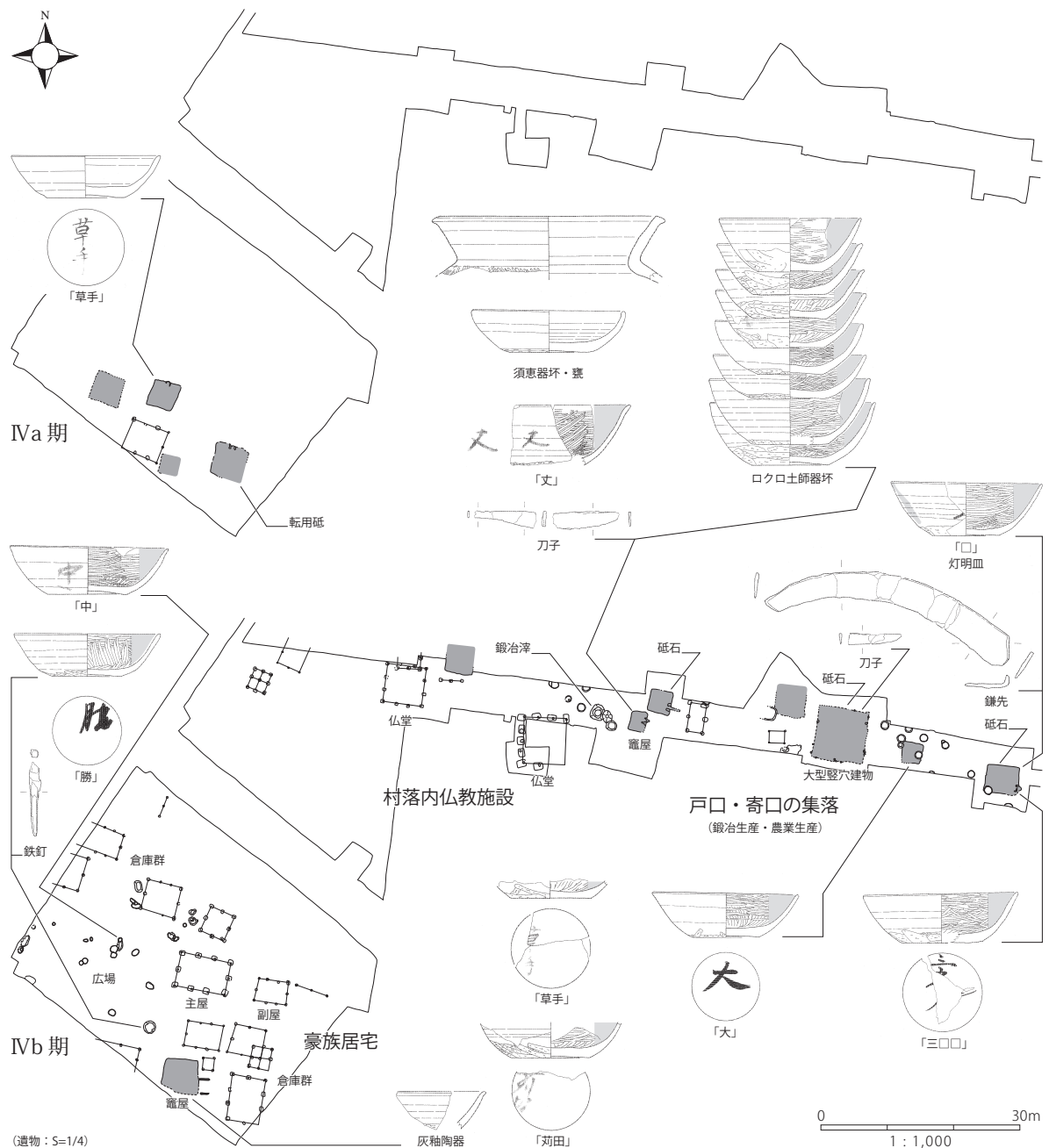
上記の基本構造をIV b期集落の遺構群に当てはめてみると、南側の一角に①掘立柱建物を主体として逆L字形なしいは下向きコ字形に配置された官衙風建物群（第122図4）があり、②建物規模は2×3間を基本としている。③IV b期の建物群はIV a期のものを残しながら順次整備されたことが窺える。④瓦葺建物は存在しない。⑤南東側に総柱建物と側柱建物が並び、2種類で構成される倉庫群の一部と考えられる。⑥IV a期よりもやや大型の竪穴建物があり、環類を中心に保有する。⑦中央付近に主屋と考



第122図 豪族居宅の建物配置（1~3：菅原 1998 を一部改変）

えられる掘立柱建物があり、柱穴掘方が大型ではあるが建物規模・構造としては周囲と変わらない—など多くの共通点が認められ、豪族居宅としての要件を備えた遺構群であると考えられる（第123図）。

なお、前述の菅原氏の論考（1998）では、⑥居宅内の竪穴建物については、「厨」・「酒坏」の墨書土器を伴う事例から、居住者の生活や酒宴・儀礼などの場に食膳を提供した竈屋と考えられている。また、⑧居宅内に正方形建物+付属建物のセットを伴う事例については、仏教関連遺物を伴う事例や、房総地方の村落内仏教施設に類似した建物配置が認められることなどから仏教施設と考えられている。IVb期の官衙風建物群の中にこうした建物配置は認められないが、北東側の遺構群には2棟の正方形建物がある。調査区の制約から付属建物の有無については確認できず、また仏教関連遺物の出土もないため根拠は薄い。村落内仏教施設に設けられた仏堂の可能性が考えられる。また、主屋の東隣に建てられた一回り小さい建物は、南辺を揃えることから主屋に伴う副屋と考えられ、主屋の背面から西へ連なる建物群も倉庫群と見ることが出来る。主屋の南西側には建物が配置されない空き地があり、廃棄



第123図 IV期集落の機能推定

土坑から墨書土器を含む食膳具が出土していることから、酒宴や儀礼が行われた可能性が考えられる。居宅内での儀礼行為は、居宅主に集落民を結集させる舞台装置として機能したと推測されている。このように、IV b 期の官衙風建物群についても単純な居住施設の範囲を超えた諸機能を持つことが想定されるが、これらの建物群を囲む区画施設は認められず、付近には集落域が展開している。このような敷地全体の区画施設の欠如と集落内立地は、郡衙関連施設との大きな相違点として指摘されている。

ところで、「豪族」は古代史の立場から「①農業を中心とする大規模な経営を②世襲的に営んでいた③有力者たち」(青木 1974)と定義され、考古学的には「①大規模農業経営—背後に大規模な耕地や戸口・寄口となる集落を抱えること、②世襲的権力—居宅は継続使用されるか、世代交代の時点で移転があること、③有力者の存在を示す遺構・遺物—経済的・社会的・行政的に優位な遺物がみられること」(田中 2003)と説明されている。IV b 期集落で見れば、①集落の立地する円田盆地北部では、微高地と複雑に入り組む埋没谷地形が耕地として開発されたと考えられ、居宅の北東側に展開する住居群は居宅の運営を補完した工人や農業従事者の集落と考えられる、②居宅内の施設は順次整備されたが、同位置での建て替えはなく、短期間で廃絶している、③遺構群の特殊性については既述のとおりであるが、遺物について見ると須恵器の保有はあまり多くないが、小片ながら灰釉陶器を保有すること、墨書土器を多数保有し、郡名と見られる「苜田」や軽租の徴収を窺わせる「草手」などの墨書が見られ、それらは比較的筆使いに慣れた書き手によるものとみられること、集落内で鍛冶生産が行なわれ、居宅主の管理下にあったとみられることなどから、経済的・社会的・行政的な優位性が認められる—などの点が指摘でき、居宅主は在地社会において優位な立場にあった豪族と見て差し支えないと考えられる。居宅および集落が短期間で廃絶している点については、周辺を含めて後続する9世紀後半代の集落が未確認であることから在地社会に何らかの再編が起こっている可能性があり、今後の調査の進展を待って検討を加える必要がある。

豪族居宅の一部に設置された倉庫群については、郡衙の出先機能(郷倉・借倉など)と見做され、個人に帰属する豪族居宅が律令制における地方末端支配を実態として担ったと考えられている(菅原 2007)。地方豪族が「末端の官人」と「地域支配の要」という二つの側面を持つ存在だったことは、古代の官人と地方豪族について腰帯具の分析や国司・郡司等の館・居宅の分析など多方面から検討した田中広明氏(2003)によっても明らかにされている。前述の東山田遺跡の居宅主を富豪層と考える菅原氏は、彼らが同時に官人としての性格を備え、郡司ないしそれに準ずるクラスであったと推定し、沼平東遺跡(第122図3)など相似形の小規模な居宅主は、郷長・有力百姓クラスに比定している。沼平東遺跡の居宅では、併置された倉庫は少数であり、出土遺物にも特殊品は含まれない。IV b 期集落の居宅で見ると、出土品に特殊品は多くなく、居宅の規模も沼平東遺跡などと同程度と見られることから、居宅主は郷長・有力百姓クラスであったと考えられる。

以上のことから、IV期には竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落が形成されており、集落形成期のIV a 期から発展期のIV b 期への変遷が見られた。IV b 期の集落南部には掘立柱建物を主体に配置する官衙風建物群が形成されており、郷長・有力百姓クラスの豪族居宅と考えられる。また、同時に集落北東部に形成される竪穴住居を主体とする遺構群は、居宅の運営を補完した工人や農業従事者である戸口・寄口の集落であったと考えられる。居宅内には倉庫群が配置され、集落の一角には仏堂の可能性が考えられる正方形建物が配置されるなど、各遺構群には多様な機能が窺われることから、律令制下における在地の拠点集落が形成されていたものと考えられる。

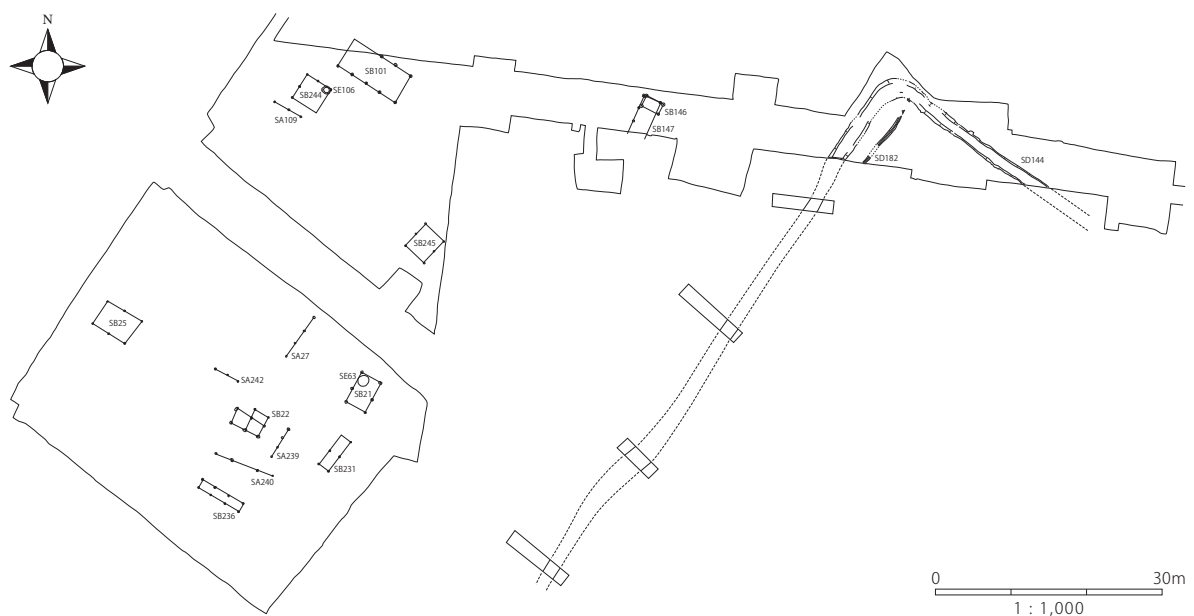
(5) V期 (14世紀)

掘立柱建物 10 棟、柱列跡 5 条、井戸跡 2 基、溝跡 2 条があり、1 区南・北、2 区に分布する。中世陶器甕、銅銭（至大通宝）、曲物が出土している。中世陶器甕の口縁部形態は 13 世紀後半頃の操業と考えられている白石市一本杉窯跡群（宮城県教育委員会 1996）に類例が見られ、至大通宝は初鋳 1,310 年の元銭である。曲物は柄杓（直径 9.8cm）と内面漆塗の容器（直径 27.9cm）がある。美里町一本柳遺跡（宮城県教育委員会 2001）などに類例が見られ、13 世紀中葉～14 世紀代に位置づけられている。以上のことから、機能時期は 14 世紀代と推定される。

建物の主軸方向は N-26-44° -E で、東偏している。掘立柱建物跡は桁行 1-4 間、総長 2.4-9.0m の規模で、柱穴掘方の平面形は直径 25-30cm 前後の円形を基調とするものが多い。また、これらの建物群の東側に方形の区画を形成するとみられる溝跡（SD144）がある。溝は L 字形に延びる北辺と西辺を確認し、上幅 136-272cm で横断面形が深さ 40-80cm の逆台形を呈する。溝の方位は北辺で E-36° -S、西辺で N-35° -E で、西側の建物群の主軸方向と共通する。遺構確認調査の結果を含めれば北辺 23.5m 以上、西辺 78m 以上の区画を形成していると考えられるが、区画内の遺構配置については不明である。

本遺跡に隣接する十郎田遺跡では、主屋とみられる二面・四面廂付建物などを配置する 13 世紀後半頃の屋敷が確認されており（蔵王町教育委員会 2011d・e）、溝による東西 125m 程度の方角区画を伴ったと考えられる。また、有力国人層の居館と推定される西小屋館跡に隣接する西屋敷遺跡では、溝による東西約 40m、南北 40m 以上の方角区画内に多数の建物を配置する 13 世紀後半～15 世紀前半頃の屋敷が確認され、国人領主の家臣クラスの屋敷と考えられる（蔵王町教育委員会 2012）。

V 期の遺構群のうち東側の溝区画については区画内の状況が不明ながら、上述の屋敷を区画する溝と規模・形状などが類似しており、同クラスの屋敷を構成している可能性が考えられる。西側の建物群については、配置やその構造から具体的な性格を推定することは難しいが、やや大型で柱筋の通りが良く規格的な配置をとる北西側の SB101・SB244 掘立柱建物跡、SA109 柱列跡については区画を伴わない小規模な屋敷の可能性が考えられ、この他の建物については耕作地に伴う作業小屋などの機能が推定される。区画施設を伴わず、配置される建物も少数で廂付建物を含まない点などから、溝で区画される屋敷の居住者よりも階層は低く、彼らに従属する下級武士あるいは百姓クラスの屋敷と考えられる。



第 124 図 V 期遺構配置図

(6) VI期 (18~19世紀)

近世墓 10 基、土坑 4 基、溝跡 1 条があり、1 区南、2 区に分布する。近世陶器碗・甕、煙管、古銭（寛永通宝）が出土している。近世陶器碗は大堀相馬産（18~19 世紀）、甕は村田塩内産（19 世紀）で、遺構の時期は 18~19 世紀と考えられる。また、1 区南の溝跡（SD64）と平行・直交する 1 区北の溝跡 4 条（SD104・SD105・SD128・SD129）についても同時期に機能した可能性がある。これらに伴う建物は確認されないことから、道の側溝あるいは耕作地の用水路などの性格が考えられる。溝跡の方位は前段階の V 期の区画の方位と共通し、SD128・SD129 溝跡は調査前まで使用されていた農道（1 区南・北間）とほぼ重なることから、V 期に形成された地割が基本的に現在まで引き継がれていたと考えられる。また、近世墓・土坑墓群は 2 区中央部の一角に集中し、耕作地が広がる微高地上の一角に墓域が設けられていたと考えられる。

2. 各時期の様相と遺跡の性格

I 期（縄文～弥生時代）には、落とし穴状土坑群が形成され、狩猟場として利用されている。同様の落とし穴状土坑群は近隣の六角遺跡、原遺跡、戸ノ内遺跡などでも確認されていることから、円田盆地北縁部の低丘陵が広く落とし穴狩を行なう狩猟場として利用されていたことが窺える。盆地西方の丘陵上に営まれる集落との関連性を想定すれば、機能時期の一つとして縄文時代中～後期が考えられる。

その後、遺構は確認されていないが、弥生時代中期（円田式期）、古墳時代中期（南小泉式期）とみられる遺物がごく少数出土しており、付近で何らかの人間活動が断続的に行われた可能性がある。

II 期（8 世紀中頃～後半）には、竪穴住居 4 軒、竪穴状遺構 1 基、粘土採掘坑 1 基などで構成される集落が営まれた。竪穴住居にはやや大型のものがあり、保有する土器群は在地色が希薄で関東系土師器が主体的である。また、粘土採掘坑は土器製作との関連が窺われ、竪穴状遺構からは鉄滓が出土している。このことから、関東系移民を主要な構成員とする集落が営まれ、土器製作や小鍛冶などの生産活動が行なわれていた可能性が考えられる。

III 期（8 世紀末～9 世紀初頭）には、竪穴住居 2 軒、掘立柱建物 4 棟、土坑 1 基などで構成される集落が営まれたと考えられるが、保有する土器群や集落の様相は不明な点が多い。

IV 期（9 世紀前葉～中葉）になると、初めに竪穴住居 4 軒、掘立柱建物 1 棟などで構成される集落が営まれ、続いて掘立柱建物 19 棟と竪穴住居 8 軒など多数の施設からなる集落へと発展する。発展期の集落では、南西の一角に郷長・有力百姓クラスの豪族居宅と考えられる官衙風建物群が、居宅とやや距離を置いた北東側には竪穴住居群が形成されている。竪穴住居群とその周辺では鉄滓や鉄製品、砥石が出土し、集落の居住者は居宅の運営を補完した工人や農業従事者であったと考えられる。居宅の内部には主屋、倉庫群とみられる建物のほか、竈屋と考えられる竪穴建物が広場を囲むように配置され、集落の一角には仏堂の可能性のある正方形建物などが建てられるなど、各遺構群には多様な機能が窺えることから、律令制下における在地の拠点集落としての性格が考えられる。

また、IV 期の土器群には墨書土器 28 点がある。比較的筆使いに慣れた筆致のものが多く、居宅主や集落の性格の一端を示している。判読できた墨書文字には「苧田」、「草手」、「勝」、「大」、「丈」などがあるが、このうち「苧田」については郡名の可能性が高く、平安時代に円田盆地周辺が刈田郡に属していたことを示す有力な証拠と考えられる。文献に示された苧田・柴田郡の郡界が明らかになっていない古代の円田盆地においては、貴重な発見と言える。また、「草手」については、居宅主が農民から草刈場の用益料として徴収した軽租、あるいは居宅内で消費する草木の調達にかかる労務に応じて支給された対価を指した可能性が考えられ、当時の集落内における豪族と農民の関係を示す資料と考えられる。

V 期（14 世紀）には、溝による区画を伴う有力者の屋敷が形成され、西隣にはこの屋敷の居住者に

従属する下級武士あるいは百姓クラスの小規模な屋敷が営まれた。

VI期（18~19世紀）には、溝で区画された耕作地が営まれ、微高地上の一角には墓域が設けられた。道の側溝あるいは耕作地の用水路は前段階のV期の地割を踏襲し、近世を経て現在まで引き継がれた。

本遺跡における人間活動の様相は、以上に述べたような変遷が考えられた。なお、本遺跡では、今回の調査区の北西側の沢地で槍先形尖頭器が採集され、後期旧石器時代終末～縄文時代草創期初頭に属する可能性が指摘されているが（蔵王町史編纂委員会 1987）、今回の調査では当該期の遺物は確認されなかった。本遺跡の一角は縄文時代には狩猟場として利用され、集落形成の端緒は8世紀中頃に求められた。関東系移民の集落であり、周辺遺跡の状況も含めて円田盆地北部の歴史的動向を反映していると考えられる。また、本遺跡における集落変遷の中で特筆されるのは、9世紀前葉～中葉に出現する豪族居宅を含む集落である。平安時代の律令型在地拠点集落の典型例とも言えるものであり、当時の在地社会における集落景観や律令支配の実態を考える上で重要な成果と考えられる。また、中世には屋敷地として利用され、周辺遺跡を含めて盆地北部の広範囲に屋敷群が営まれたことが明らかになった。

第3節 災害痕跡の評価

今回の調査では、調査区内の32か所で堆積層の土坑状の変形が確認された（写真13・14、第126図）。後世の削平により残存状況に差があるが、平面形は長楕円形を呈し、大きいもので長軸5~6mである。重複関係では調査区内で確認したどの遺構よりも古く、奈良・平安時代の集落や、弥生時代以前とみられる2区SK222落とし穴状土坑が掘られる以前に形成されている。平面的な検出状況は長軸付近に黄褐色ローム～白色粘土があり、これを挟む両側周縁部に半月～三日月形に暗褐色土が観察される。

このような土坑状変形は、これまでも遺跡の発掘調査においてしばしば確認されており、樹木の転倒に伴って樹木根系に保持された地表付近の堆積物が回転力を伴ってすべり、その後埋没した風倒木痕と解釈されてきた。しかしながら、土坑状変形が狭い範囲に密集して確認される場合でも、すべり方向が想定される卓越風向と調和的でなく、土塊の軟X線写真の観察では樹木根系の痕跡が認められず、草本ないしは小低木の根痕が見られるといった事例が報告されている。このため、従来「風倒木痕」と解釈されてきた事例の一部は、地表付近の堆積層中にパッチ状に分布する含水比の異なる堆積物などが、地震動による水平せん断応力の影響で転倒した地震痕跡の可能性がある（松田・井上 2005）。

本遺跡周辺の地形環境を地震地形との関係で見ると、調査地点の西側を円田盆地西縁に沿って村田断層が南北に延びている（第125図）。村田断層は近年の調査で新たに認定された断層で、蔵王町小村崎から白石市を経て福島市西部に至る福島盆地西縁断層帯（延長約57km）の北端部に位置する（今泉ほか 2000）。また本断層との連続性は不明だが、北東側には利府町から仙台市を経て村田町に至る



写真13 土坑状変形の分布状況とすべり方向

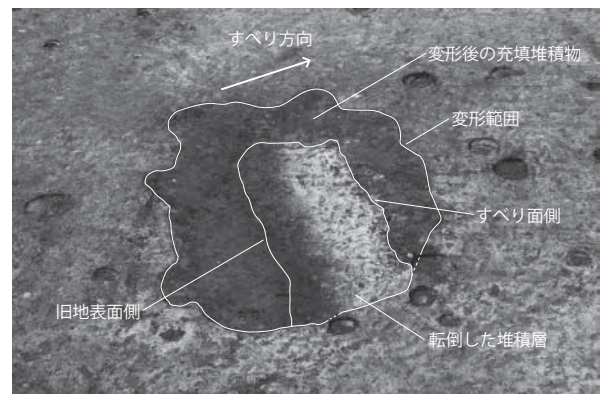
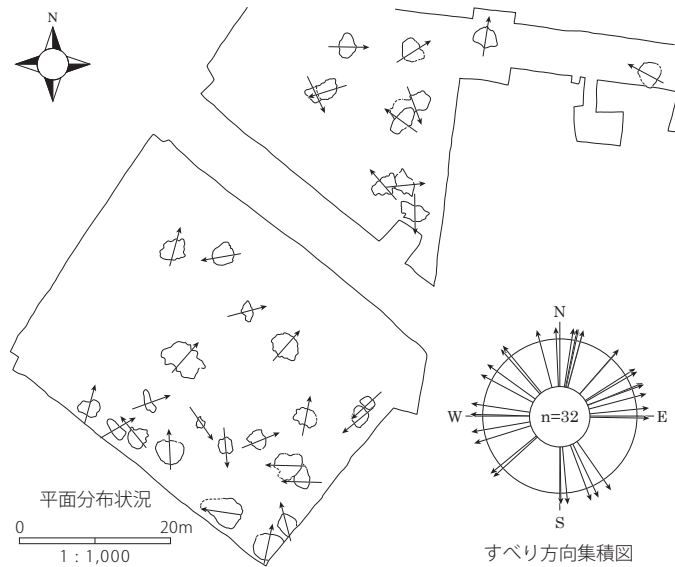


写真14 土坑状変形の確認状況



第125図 村田断層と前戸内遺跡の位置



第126図 土坑状変形の分布とすべり方向

長町一利府線断層帯（延長約40km）が連なる。いずれも断層の北西側が相対的に隆起する逆断層で、それぞれの断層帯が一つの活動区間として活動した場合、長町一利府線断層帯はマグニチュード7.0~7.5程度、福島盆地西縁断層帯はマグニチュード7.8程度の地震を起こす可能性があるとされている（地震調査研究推進本部地震調査委員会2002・2005）。村田断層はこうした大規模な断層帯の一部であることから、活動時には非常に強い地震動が発生し、地表付近へも甚大な影響を与えたことが推定される。

本遺跡の土坑状変形について平面的な検出状況からすべり方向を推定すると、明瞭な卓越方向がなく、複数時期の累積を考慮したとしても同一地点における風害痕跡としては異常である（写真13、第126図）。転倒している土塊中に明瞭な樹木根系の痕跡は認められない。また、調査区内の基本層序を見ると白色粘土層の下位には液状化しやすい砂礫層が堆積し、その上面は起伏があり部分的に白色粘土層の下面に食い込むような堆積状況が認められた。このことから、地震動の影響によって液状化した砂礫層上面をすべり面として、地表付近の堆積物が転倒した地震痕跡の可能性が考えられる。この土坑状変形の形成時期については、黒色火山灰起源の旧表土を含む堆積層が転倒し、生じた空隙に同様の黒色土が充填されていること（写真14）、弥生時代以前とみられる遺構に先行することからおおむね10,000~1,700yrBPの間と考えられる。周辺で大きな地震を引き起こす要因の一つとなりうる前述の村田断層を含む福島盆地西縁断層帯の活動時期は最新が約2,200~1,800yrBP、一つ前が10,000yrBP前後と考えられており（地震調査研究推進本部地震調査委員会2005）、このいずれかの活動と関係している可能性が想定できる。

今回確認した土坑状変形について、地震痕跡としての可能性やその形成時期をより厳密に検討するには、土坑状変形内の堆積物および底面の観察・記録、分析用試料採取、周辺における噴砂・地割れ痕跡などの確認が必須であった。しかし調査時点では調査者にそうした認識が欠如し、遺構群形成以前の自然現象と判断されたことから掘り下げを行なわなかった。これまで各地の遺跡でも地震に伴う断層、地すべり、噴砂、津波堆積物のほか、火山噴出物や洪水堆積物など様々な災害痕跡が認識されてきたが、これらをもとに地域の災害履歴を解明して将来の防災に役立てる取り組みは希薄と言わざるを得ないのが現状だった。東日本大震災の発生後、広範囲に堆積層の掘り下げを行なう遺跡の発掘調査で面的に確認される災害痕跡の分析が地域の災害履歴を解明する有力な手段として再認識され、考古学と地震学・自然地理学などの研究者による学際的研究が本格化している。今後、遺跡の発掘調査においては、通常の遺構調査に加えて災害痕跡の認識・公表が必要であると同時に、そうした自然史的イベントと人間活動との関わりを具体的に解明していくことも重要な課題として位置づけておく必要がある。

第7章 総括

1. 前戸内遺跡は、宮城県南部の刈田郡蔵王町大字小村崎字前戸内地内に所在する。遺跡は蔵王町東部の円田盆地北西部に形成された標高約 100m の低平な舌状丘陵上に立地している。
2. 今回の発掘調査は県営ほ場整備事業を原因とする事前調査として実施した。調査区は遺跡範囲の南東部を東西方向に横断する水路・沈砂池の予定地であり、発掘調査面積は 3557.2㎡である。
3. 確認した遺構は竪穴住居跡 20 軒、掘立柱建物跡 35 棟、柱列跡 11 条、井戸跡 8 基、近世墓 10 基、落とし穴状土坑 10 基、土坑 85 基、溝跡 10 条、竪穴状遺構 1 基、粘土採掘坑 2 基、廃棄土坑 1 基、性格不明遺構 1 基、柱穴多数である。
4. 出土した遺物は、土師器（国分寺下層系・関東系）、ロクロ土師器（表杉ノ入式）、須恵器（8・9 世紀、転用砥）、灰釉陶器、中世陶器（13 世紀後半）、近世陶磁器（18・19 世紀）、弥生土器（円田式）、石器（石錐、スクレイパー、二次加工剥片）、石製品（砥石）、銅銭（至大通宝、寛永通宝）、金属製品（鉄釘、鉄製鎌先、鉄製刀子）、鉄滓、木製品（曲物柄杓・容器）である。このうち、主体を占めるのは竪穴住居跡や土坑から出土した奈良時代の土師器・須恵器と、平安時代のロクロ土師器・須恵器である。
5. 発掘調査結果を検討した結果、下記のことが明らかとなった。
 - ・縄文時代とみられる落とし穴状土坑 10 基が確認され、低湿地の水場に面した微高地が縄文時代の落とし穴猟の狩猟場として利用されていたことが判明した。
 - ・奈良時代中頃の竪穴住居跡 4 軒、粘土採掘坑 1 基などが確認され、集落が営まれていたことが判明した。出土土器には関東系土師器が主体的に含まれており、関東系移民の存在が窺われる。
 - ・平安時代初頭の竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 4 棟などが確認され、小規模な集落が営まれていたことが判明した。
 - ・平安時代前葉の竪穴住居跡 14 軒、掘立柱建物跡 21 棟などが確認され、まとまった集落が営まれていたことが判明した。集落内には主屋、倉庫などと考えられる掘立柱建物が逆 L 字形に配置される一角があり、有力者の居宅と考えられる。墨書土器 28 点が確認され、「苜田」、「草手」などの文字が判読された。
 - ・中世前半の掘立柱建物跡 10 棟、溝跡 2 条などが確認され、屋敷が営まれていたことが判明した。
 - ・近世後半の近世墓 10 基、溝跡 1 条などが確認され、耕作地が営まれる微高地の一角に墓域が設けられていたことが判明した。
6. 奈良時代の関東系土師器を伴う集落は、当時の律令政府による対蝦夷政策の一端を反映したものと考えられる。円田盆地北部における伝統的在地社会の変化を知る上で重要な成果である。
7. 平安時代の有力者居宅を含む集落は、当時の律令型在地拠点集落の典型例と考えられる。陸奥国南部地域の在地社会における集落景観や律令支配の実態を考える上できわめて重要な成果である。
8. 今回の発掘調査成果は、円田盆地周辺に居住した当時の人びとの具体的な暮らしぶりを知る上で貴重な手掛かりとなるものである。

引用・参考文献

- 会津坂下町教育委員会 2000 『会津坂下町内発掘調査報告書（荻ノ窪窯跡）』会津坂下町文化財調査報告書 51
- 会津若松市教育委員会 1993 『会津大戸窯（上雨屋窯跡）』会津若松市文化財調査報告書 32
- 青木和夫 1974 『古代豪族』日本の歴史 5 小学館
- 赤羽一郎・中野晴久 1995 「中世常滑焼の生産地編年」『常滑焼と中世社会』永原慶二編 小学館
- 板垣直俊・豊島正幸・寺戸恒夫 1981 「仙台およびその周辺に分布する愛島軽石層」東北地理 37 東北地理学会
- 伊東信雄 1955 「各地域の弥生式土器―東北―」『日本考古学講座 4』河出書房
- 今泉俊文・松多信尚・渡辺満久・澤祥・中田高・宇根寛・丹波俊二 2000 1:25,000 都市圏活断層図「白石」国土地理院技術資料 D.1-No.375
- いわき市教育委員会 2003 『梅ノ作瓦窯跡群』いわき市埋蔵文化財調査報告書 98
- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」歴史 14 東北大学史学会
- 氏家和典 1967 「陸奥国分寺跡出土の丸底坏をめぐって」『山形県の考古と歴史 柏倉亮吉教授還暦記念論文集』山教史学会
- 大阪府近つ飛鳥博物館 2006 『年代のものさし』大阪府近つ飛鳥博物館図録 40
- 小山正忠・竹原秀男 2005 『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修 富士平工業
- 加藤道男 1989 「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢Ⅱ』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会 東出版寧楽社
- 河南町教育委員会 1993 『須江窯跡群 代官山遺跡 - 奈良, 平安時代の須恵器生産遺跡 - 』河南町文化財調査報告書 6
- 河南町教育委員会 2004 『関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書 13
- 斎野裕彦 1994 「出土遺物の検討と遺構群の変遷」『南小泉遺跡 第22次・23次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書 192 仙台市教育委員会
- 蔵王町史編纂委員会 1987 『蔵王町史 資料編Ⅰ』
- 蔵王町史編纂委員会 1989 『蔵王町史 資料編Ⅱ』
- 蔵王町史編纂委員会 1993 『蔵王町史 民俗生活編』
- 蔵王町史編纂委員会 1994 『蔵王町史 通史編』
- 蔵王町教育委員会 1990 『堀ノ内遺跡』蔵王町文化財調査報告書
- 蔵王町教育委員会 1997 『堀の内遺跡』蔵王町文化財調査報告書 1
- 蔵王町教育委員会 2002 『諏訪館前遺跡』蔵王町文化財調査報告書 2
- 蔵王町教育委員会 2005 『都遺跡ほか（都遺跡・窪田遺跡・新城館跡）』蔵王町文化財調査報告書 3
- 蔵王町教育委員会 2006 『車地蔵遺跡・鍛冶屋敷遺跡ほか』蔵王町文化財調査報告書 4
- 蔵王町教育委員会 2007 『中沢 A 遺跡』蔵王町文化財調査報告書 5
- 蔵王町教育委員会 2008 『六角遺跡―経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査―』蔵王町文化財調査報告書 6
- 蔵王町教育委員会 2009a 『戸ノ内遺跡―経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査―』蔵王町文化財調査報告書 8
- 蔵王町教育委員会 2009b 『青竹遺跡』蔵王町文化財調査報告書 9
- 蔵王町教育委員会 2009c 「蔵王町前戸内遺跡―県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の概要―」『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨』
- 蔵王町教育委員会 2011a 『西浦 B 遺跡―商業施設出店計画に伴う緊急発掘調査―』蔵王町文化財調査報告書 10
- 蔵王町教育委員会 2011b 『窪田遺跡―経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査―』蔵王町文化財調査報告書 11
- 蔵王町教育委員会 2011c 『小原遺跡―特別養護老人ホーム増床事業に伴う緊急発掘調査―』蔵王町文化財調査報告書 12
- 蔵王町教育委員会 2011d 『十郎田遺跡 1 - 経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査 - 』蔵王町文化財調査報告書 13
- 蔵王町教育委員会 2011e 『十郎田遺跡 2 - 経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査 - SE66 井戸跡出土木製遺物編 附 十郎田遺跡出土木製遺物に関する自然科学的分析』蔵王町文化財調査報告書 14
- 蔵王町教育委員会 2012 『西屋敷遺跡 - 経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査 - 』

蔵王町文化財調査報告書 15

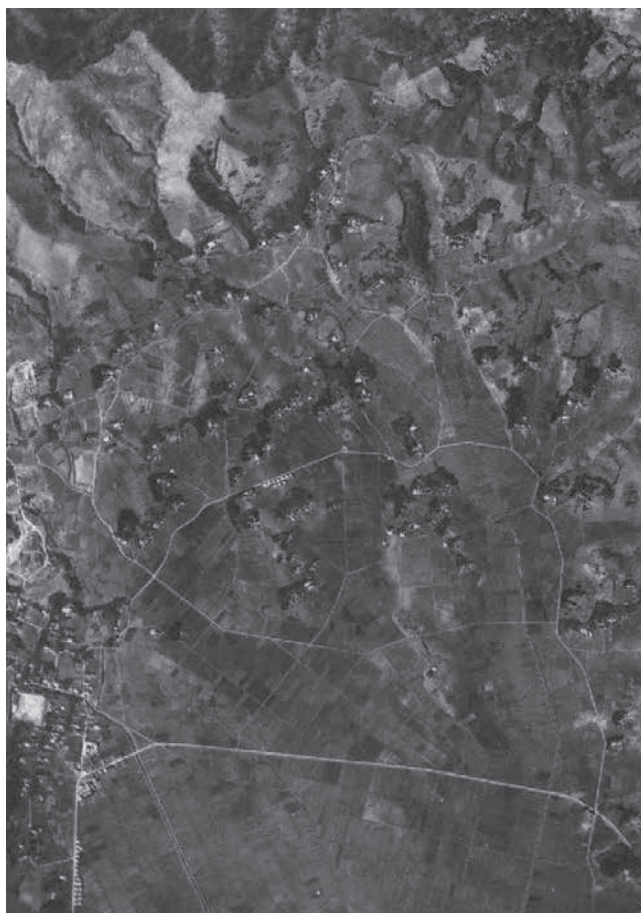
- 白鳥良一 1980 「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要Ⅶ』宮城県多賀城跡調査研究所
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2005 「福島盆地西縁断層帯の長期評価について」http://www.jishin.go.jp/main/chousa/05apr_fukushima/
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2002 「長町一利府線断層帯の評価」http://www.jishin.go.jp/main/chousa/02feb_rifu/
- 菅原祥夫 1998 「陸奥国南部における富豪層居宅の倉庫群 - 福島県郡山市正直 C 遺跡・東山田遺跡の分析事例を中心として - 」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所
- 菅原祥夫 2007 「東北の豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 菅原祥夫 2008 「東北の豪族居宅（補遺）」『南蔵王山麓の郷土誌』中橋省吾先生追悼論集刊行会
- 仙台市教育委員会 1987 『五本松窯跡 - 都市計画道路「川内・南小泉線」関連遺跡発掘調査報告書 - 』仙台市文化財調査報告書 99
- 仙台市教育委員会 1994 『南小泉遺跡 第 22 次・23 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書 192
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター 1991 『山王遺跡 - 第 10 次発掘調査報告書 - 』多賀城市文化財調査報告書 27
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター 2003 『市川橋遺跡 - 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ - 』
- 田中広明 2003 『地方の豪族と地方の官人 - 考古学が解く古代社会の権力構造 - 』KASHIWA 学術ライブラリー 01 柏書房
- 田中広明 2008 『豪族のくらし』すいれん舎
- 辻秀人編 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』「東北・北海道における 6～8 世紀の土器変遷と地域の相互関係」平成 15～18 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書
- 東京大学史料編纂所 2011a 『平安遺文フルテキストデータベース』<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>
- 東京大学史料編纂所 2011b 『鎌倉遺文フルテキストデータベース』<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>
- 東北古代土器研究会 2005a 『東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—<福島>』研究報告 1
- 東北古代土器研究会 2005b 『東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—<宮城>』研究報告 2
- 東北古代土器研究会 2008a 『東北古代土器集成—須恵器・窯跡編<陸奥>—』研究報告 3
- 東北古代土器研究会 2008b 『東北古代土器集成—須恵器・窯跡編<出羽>—』研究報告 4
- 福島県教育委員会・福島県文化財センター 1981 『国営総合農地開発事業母畑地区遺跡発掘調査報告書Ⅶ（沼田平東遺跡）』福島県文化財調査報告書 96
- 福島県教育委員会・福島県文化財センター 2000 『常磐自動車道遺跡調査報告 21 鍛冶屋遺跡（第 1 次）』福島県文化財調査報告書 365
- 福島県立博物館 1993 『企画展 東北からの弥生文化』
- 藤沢敦 2000 「阿武隈川下流域の前方後円墳（その 1）」宮城考古学 2 宮城県考古学会
- 古田和誠 2011 「総括」『観音堂山遺跡』宮城県文化財調査報告書 227 宮城県教育委員会
- 松田順一郎・井上智博 2005 「風倒木痕とは似て非なる古地震痕跡 - 大阪府讃良郡条里遺跡の例」日本文化財科学会第 22 回大会ポスターセッション資料
- 宮城県教育委員会 1980a 『東北新幹線関係遺跡調査報告書 2（台ノ山遺跡）』宮城県文化財調査報告書 62
- 宮城県教育委員会 1980b 『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ（赤鬼上遺跡）』宮城県文化財調査報告書 63
- 宮城県教育委員会 1980c 『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ（青木遺跡・伊原沢下遺跡・大橋遺跡・持長地遺跡）』宮城県文化財調査報告書 80
- 宮城県教育委員会 1981 『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ（東山遺跡）』宮城県文化財調査報告書 81
- 宮城県教育委員会 1982 『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅵ（御駒堂遺跡）』宮城県文化財調査報告書 83
- 宮城県教育委員会 1984 『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ（二屋敷遺跡）』宮城県文化財調査報告書 99
- 宮城県教育委員会 1987 『硯沢・大沢窯跡ほか - 仙台～松島道路建設関係遺跡調査報告書 - 』宮城県文化財調査報告書 116
- 宮城県教育委員会 1989 『亘理町三十三間堂遺跡ほか（戸ノ内脇遺跡・台遺跡）』宮城県文化財調査報告書 131
- 宮城県教育委員会 1990 『寂光寺跡ほか（白山遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 135
- 宮城県教育委員会 1991 『合戦原遺跡ほか（中組遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 140
- 宮城県教育委員会 1996 『一本杉窯跡群』宮城県文化財調査報告書 172
- 宮城県教育委員会 2001 『一本柳遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書 185

- 宮城県教育委員会 2002『名生館遺跡ほか（窪田遺跡・都遺跡・新城館跡）』宮城県文化財調査報告書 188
- 宮城県教育委員会 2003『壇の越遺跡ほか（壇の越遺跡・十郎田遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 195
- 宮城県教育委員会 2005『角山遺跡 - 三陸縦貫自動車道建設関係遺跡調査報告書Ⅳ - 』宮城県文化財調査報告書 200
- 宮城県教育委員会 2010『鍛冶沢遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書 222
- 宮城県教育委員会 2011『観音堂山遺跡』宮城県文化財調査報告書 227
- 宮城県教育委員会・利府町教育委員会 1990『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書 134 / 利府町文化財調査報告書 5
- 宮崎肇 2003「草手」『日本荘園史大辞典』瀬野精一郎編 吉川弘文館
- 村田晃一 1994「土器からみた官衙の終末―東北地方の場合―」『第3回東日本埋蔵文化財研究会 古代官衙の終末をめぐる諸問題 第1分冊 問題提起・各地方の概要』東日本埋蔵文化財研究会
- 村田晃一 2007「宮城県中部から南部」「東北・北海道における6-8世紀の土器変遷と地域の相互関係」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』辻秀人編
- 柳澤和明 1994「東北の施釉陶器―陸奥を中心に―」『古代の土器研究 - 律令的土器様式の西・東 3 施釉陶器 - 』「古代の土器研究会 第3回シンポジウム」古代の土器研究会

写真図版



1. 円田盆地北部 航空写真 (2002年撮影)



2. 円田盆地北部 航空写真 (1956年米軍撮影)



3. 前戸内遺跡 近景 (南東から)



4. 前戸内遺跡 近景 (東から)



1. 1区南 遺構確認状況 (南から)



2. 1区南 調査風景 (南東から)



1. 1区南遺構確認状況(南西から)



2. 1区南SB15・229・235・238掘立柱建物跡確認状況(南から)



1. 1区南 SB30・229・230・235 掘立柱建物跡、SA240 柱列跡 確認状況（東から）



2. 1区南 SB24・28・230・236・237 掘立柱建物跡 確認状況（東から）



1. 1区南SB9・10・17・18・22・26 掘立柱建物跡、SA27・241・242 柱列跡 確認状況（南から）



2. 1区南SB20・21・231・234 掘立柱建物跡、SA232・233 柱列跡 確認状況（西から）



1. SI1 竪穴住居跡 カマド (南から)



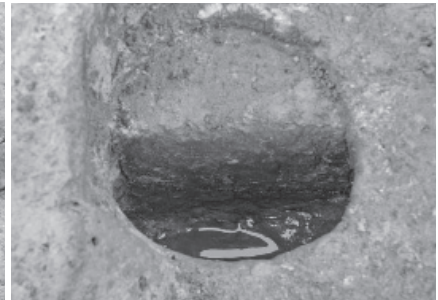
2. SI1 竪穴住居跡 カマド (南から)



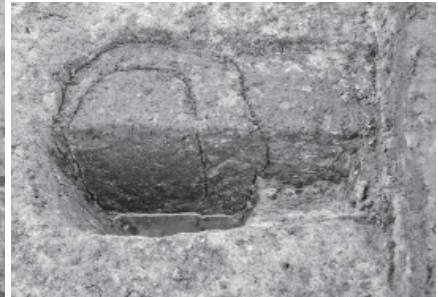
3. SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



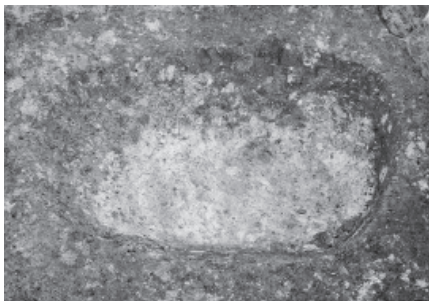
4. SI1 竪穴住居跡 (南から)



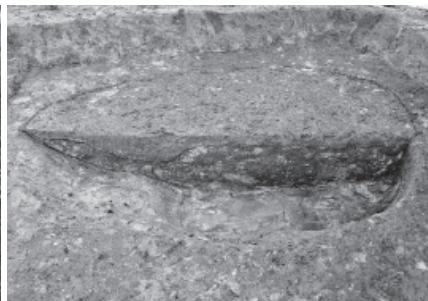
5. SI1 竪穴住居跡 P2 断面 (東から)



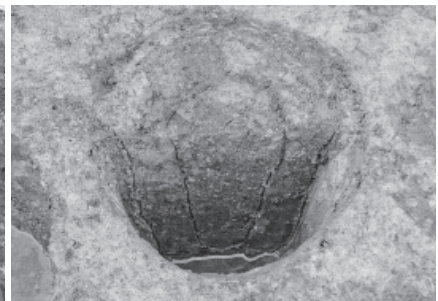
6. SI1 竪穴住居跡 P3 断面 (西から)



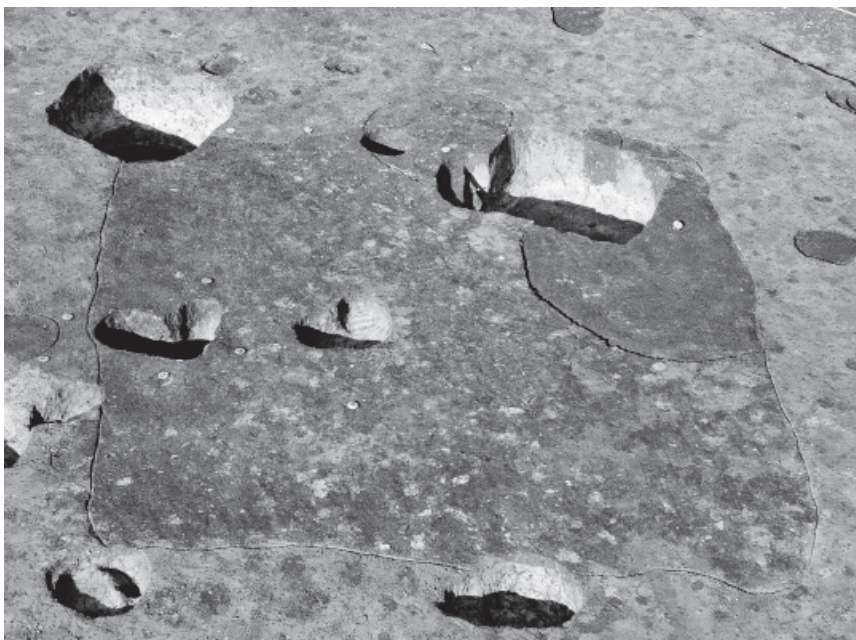
7. SI1 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



8. SI1 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



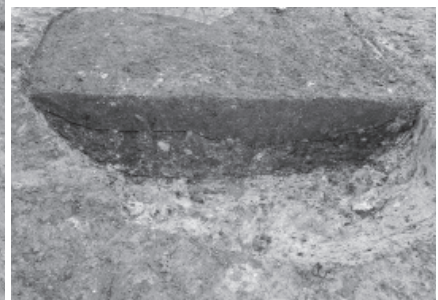
9. SI1 竪穴住居跡 P5 断面 (東から)



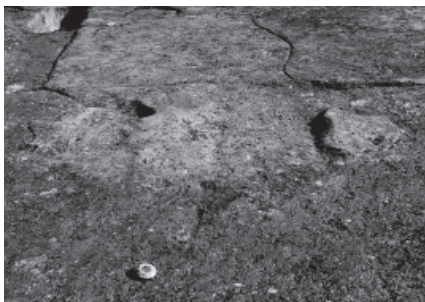
10. SI2 竪穴住居跡 (南から)



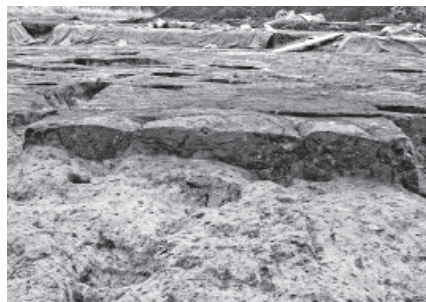
11. SI2 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



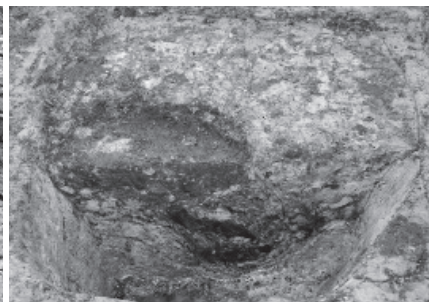
12. SI2 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



1. SI3 竪穴住居跡 カマド (西から)



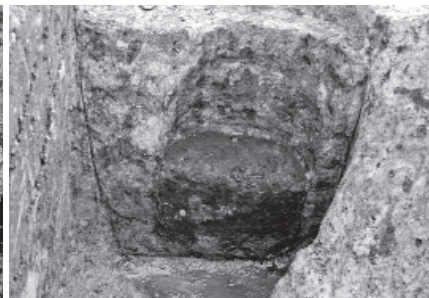
2. SI3 竪穴住居跡 カマド 断面 (西から)



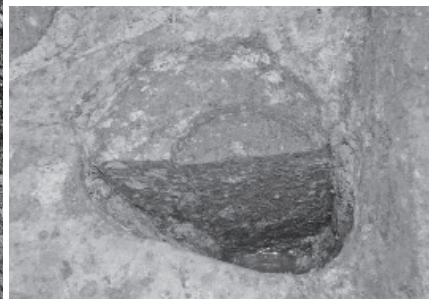
3. SI3 竪穴住居跡 P2a (東から)



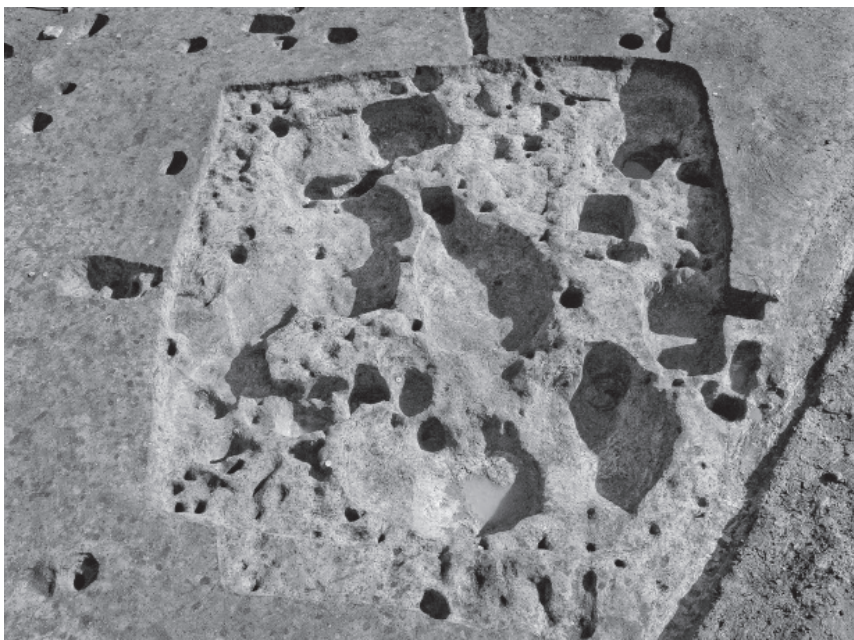
4. SI3・14 竪穴住居跡 (西から)



5. SI3 竪穴住居跡 P3a 断面 (西から)



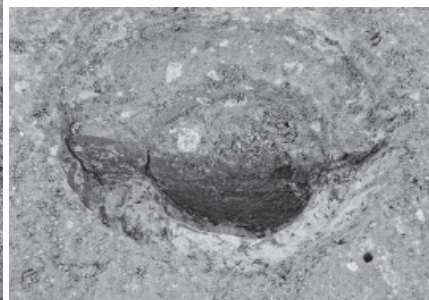
6. SI3 竪穴住居跡 P2b 断面 (西から)



7. SI3・14 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



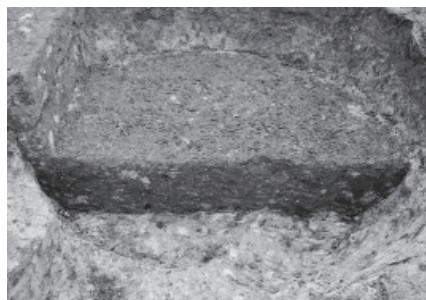
8. SI3 竪穴住居跡 P3b (南西から)



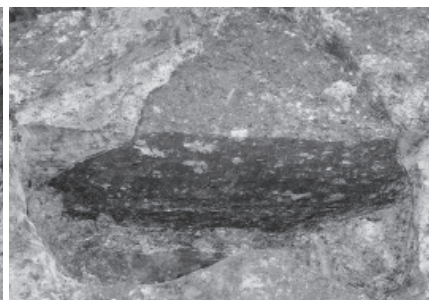
9. SI3 竪穴住居跡 P5 断面 (西から)



10. SI3 竪穴住居跡 K1 断面 (西から)



11. SI3 竪穴住居跡 K2 断面 (西から)

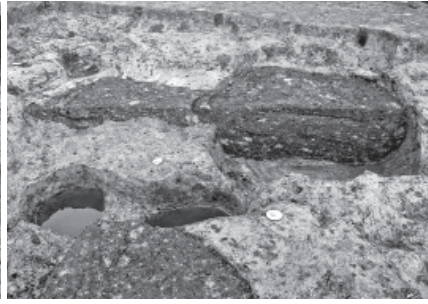


12. SI3 竪穴住居跡 K3 断面 (東から)

写真図版 8



1. SI3 竪穴住居跡 K5 断面 (西から)



2. SI3 竪穴住居跡 K12・13 断面 (西から)



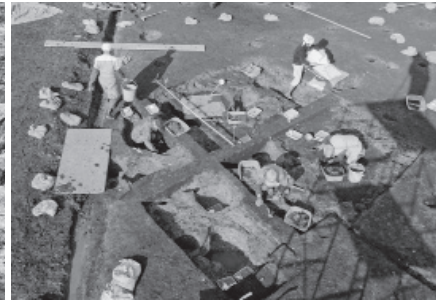
3. SI3 竪穴住居跡 K8・9・11・16 断面(西から)



4. SI3 竪穴住居跡 K6・14・15 断面 (南から)



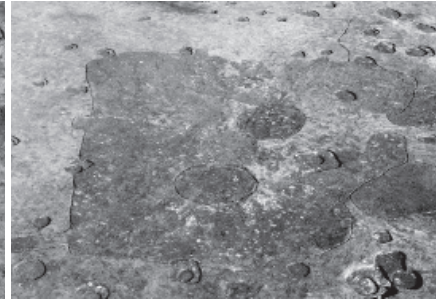
5. SI3 竪穴住居跡 K4 断面 (北から)



6. SI3 竪穴住居跡 調査風景



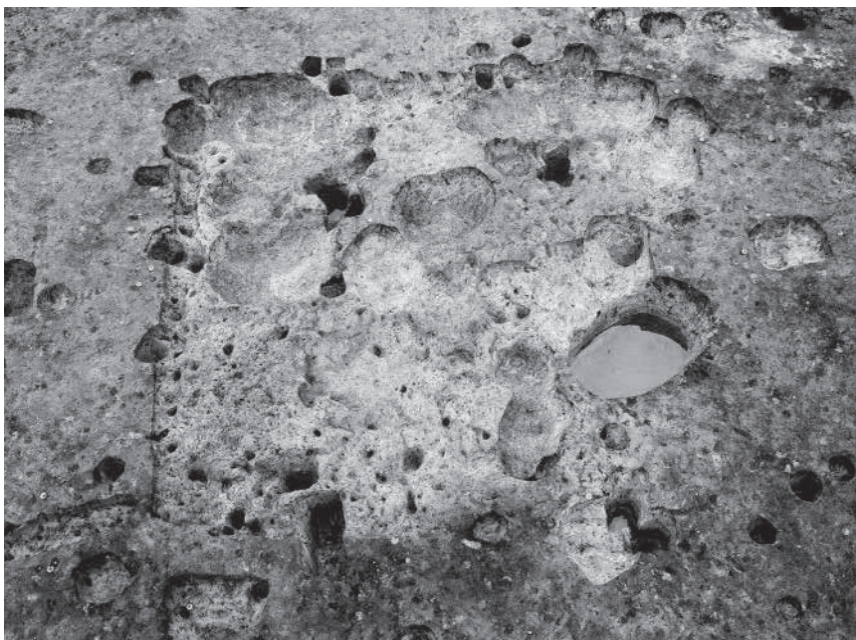
7. SI4 竪穴住居跡 (南から)



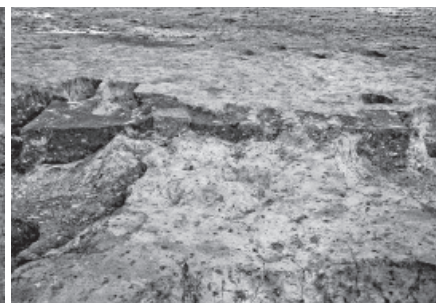
8. SI4 竪穴住居跡 検出状況 (南から)



9. SI4 竪穴住居跡 カマド燃焼部底面 (南から)



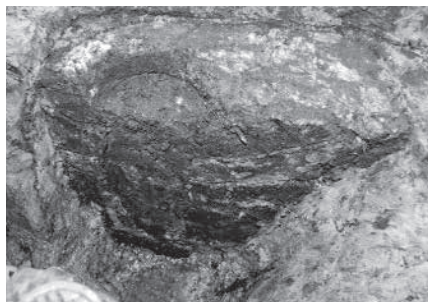
10. SI4 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



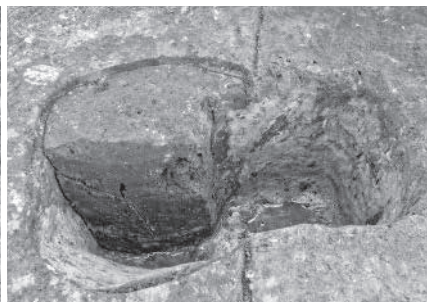
11. SI4 竪穴住居跡 カマド断面 (南から)



12. SI4 竪穴住居跡 P1ab 断面 (西から)



1. SI4 竪穴住居跡 P3a 断面 (東から)



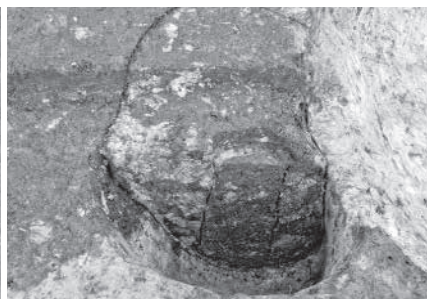
2. SI4 竪穴住居跡 P4a 断面 (西から)



3. SI4 竪穴住居跡 P2b・K1 断面 (北東から)



4. SI4 竪穴住居跡 P4b 断面 (西から)



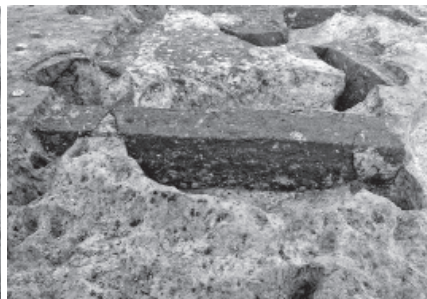
5. SI4 竪穴住居跡 P5 断面 (南から)



6. SI4 竪穴住居跡 P6 断面 (北から)



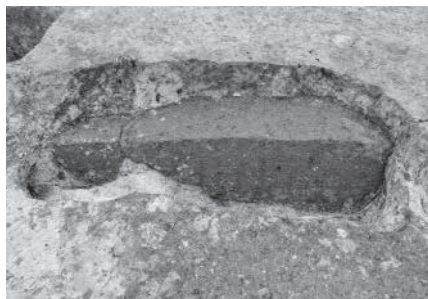
7. SI4 竪穴住居跡 P8 断面 (南から)



8. SI4-P5・P10・K2・壁材痕跡断面 (南から)



9. SI4 竪穴住居跡 K3・4 断面 (東から)



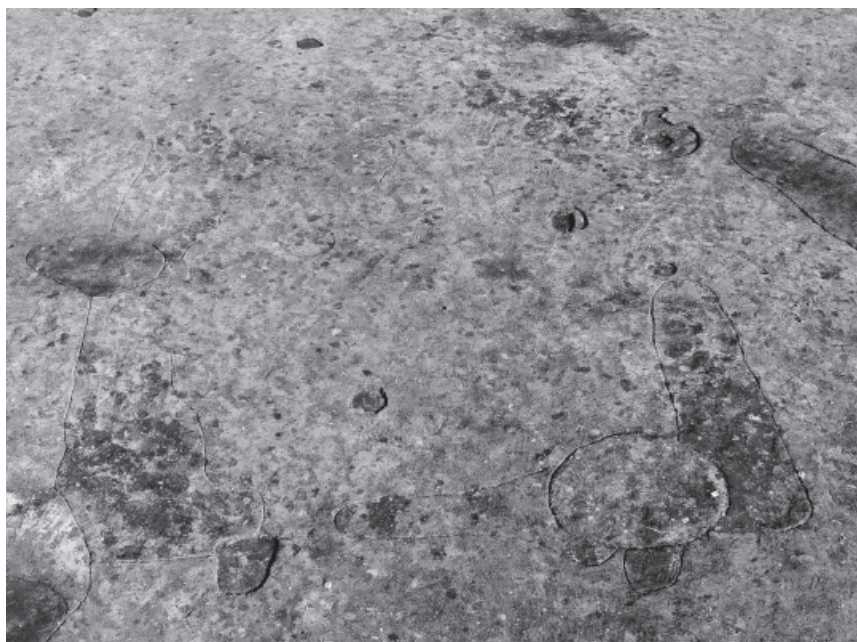
10. SI4 竪穴住居跡 K6・7 断面 (東から)



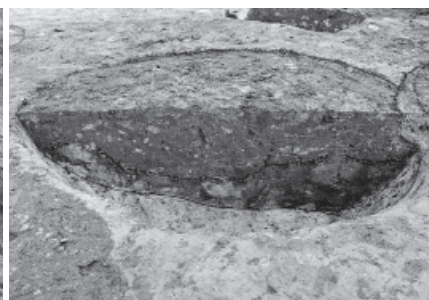
11. SI4 竪穴住居跡 K8 断面 (南から)



12. SI4 竪穴住居跡 K9 断面 (北西から)



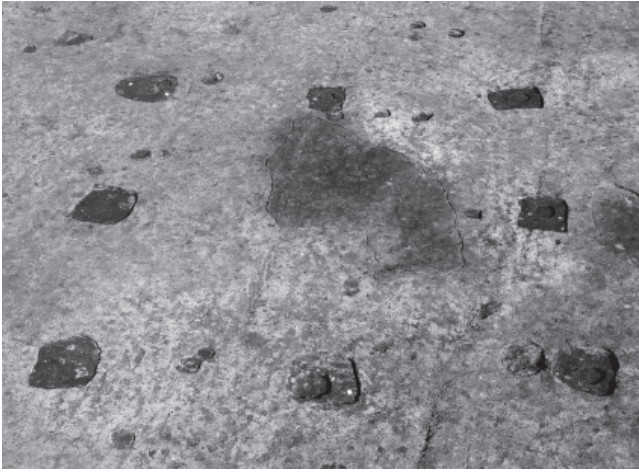
14. SI8 竪穴住居跡 (南から)



13. SI4 竪穴住居跡 K10 断面 (北西から)



15. SI8 竪穴住居跡 P2 断面 (北から)



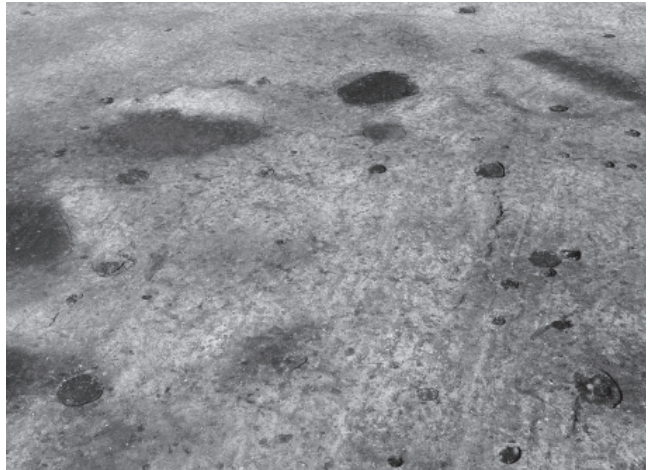
1. SB9 掘立柱建物跡 (南から)



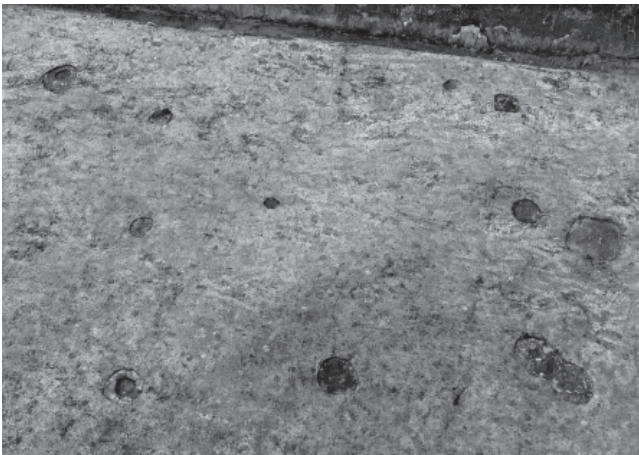
2. SB10 掘立柱建物跡 (東から)



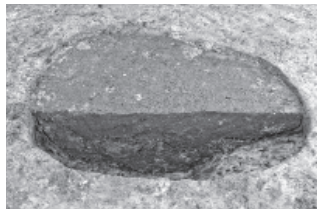
3. SB15 掘立柱建物跡 (南から)



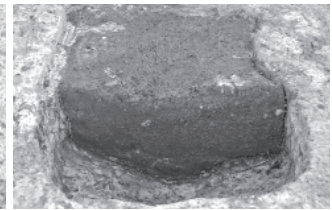
4. SB17 掘立柱建物跡 (南から)



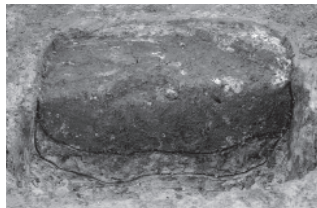
5. SB18 掘立柱建物跡 (東から)



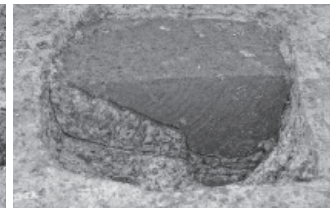
6. SB9-P1 断面 (北東から)



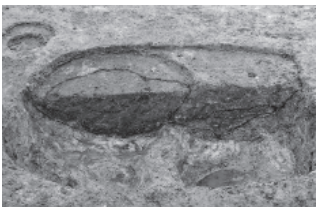
7. SB9-P2 断面 (北東から)



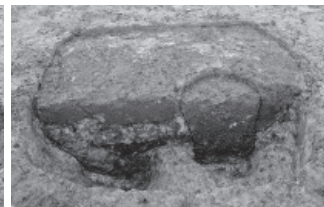
8. SB9-P5 断面 (北東から)



9. SB9-P8 断面 (北東から)



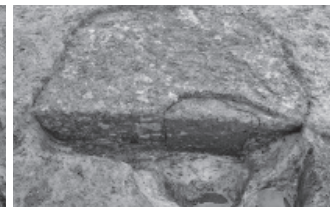
10. SB10-P1 断面 (南から)



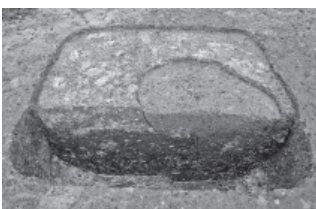
11. SB10-P3 断面 (南から)



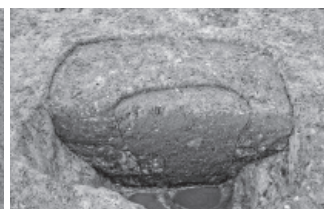
12. SB10-P5 断面 (南から)



13. SB10-P6 断面 (南西から)



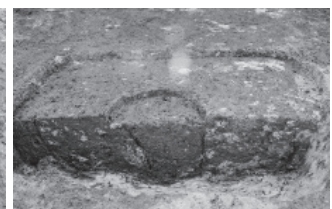
14. SB10-P7 断面 (南から)



15. SB10-P8 断面 (南から)



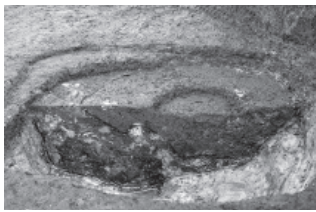
16. SB10-P10 断面 (南から)



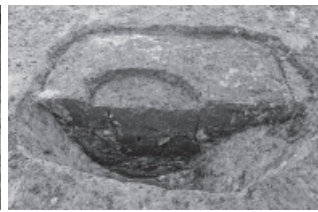
17. SB15-P1 断面 (北から)



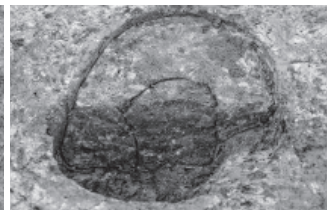
1. SB15-P2 断面 (南から)



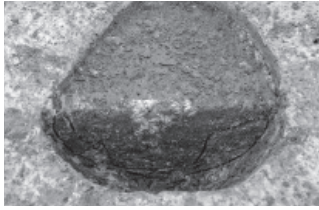
2. SB15-P5 断面 (西から)



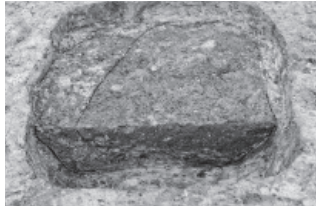
3. SB15-P8 断面 (西から)



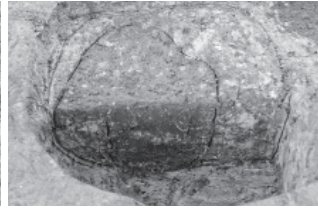
4. SB17-P2 断面 (南から)



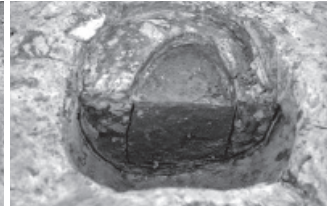
5. SB17-P3 断面 (南から)



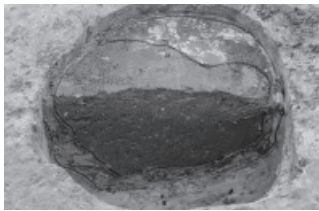
6. SB17-P4 断面 (南から)



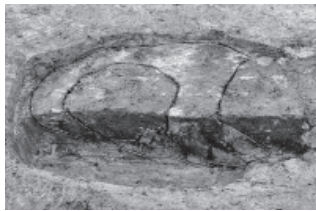
7. SB17-P5 断面 (南西から)



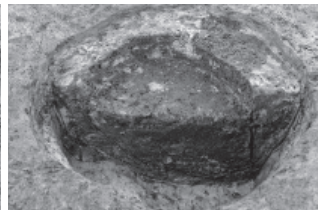
8. SB18-P1 断面 (南から)



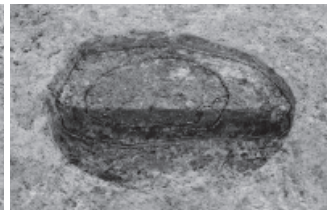
9. SB18-P2 断面 (南西から)



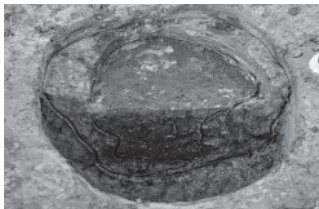
10. SB18-P3 断面 (南東から)



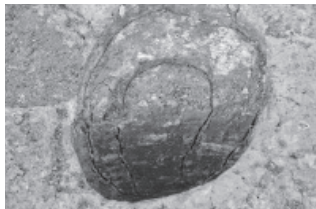
11. SB18-P5 断面 (南から)



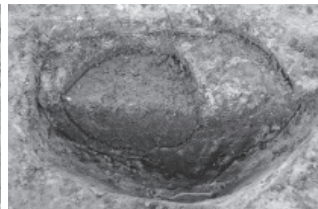
12. SB18-P6 断面 (南西から)



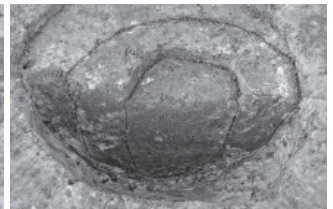
13. SB18-P7 断面 (南から)



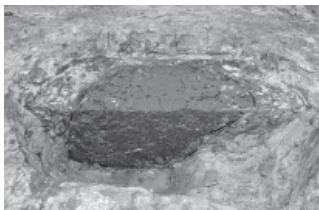
14. SB20-P1 断面 (南から)



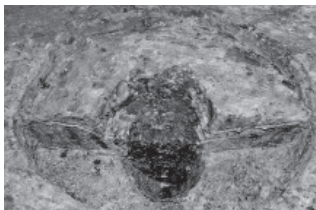
15. SB20-P5 断面 (南西から)



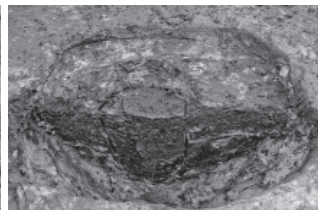
16. SB20-P10 断面 (南から)



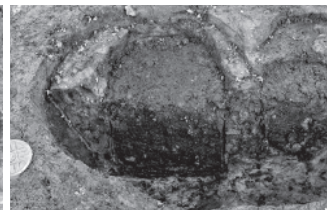
17. SB21-P2 断面 (南西から)



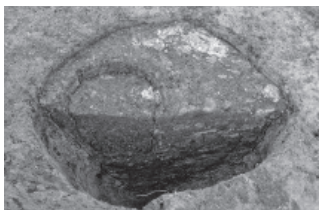
18. SB21-P3 断面 (南から)



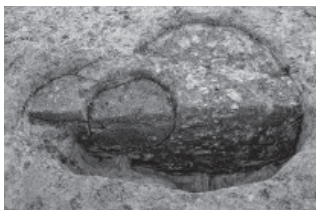
19. SB21-P6 断面 (北西から)



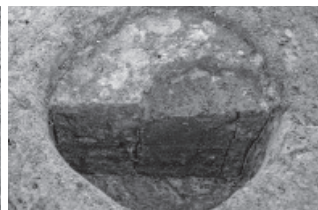
20. SB22-P2 断面 (南西から)



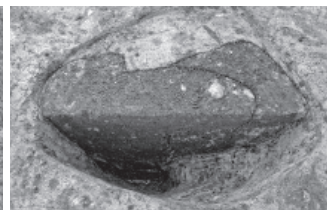
21. SB22-P3 断面 (南から)



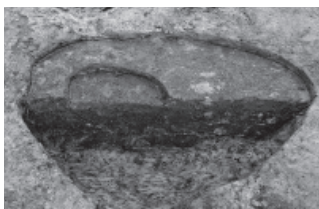
22. SB22-P4 断面 (南西から)



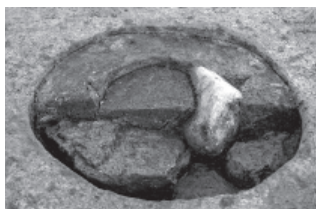
23. SB22-P5 断面 (南西から)



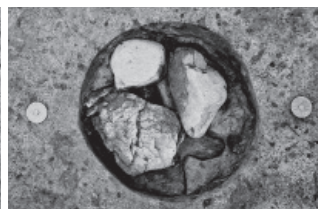
24. SB22-P6 断面 (北西から)



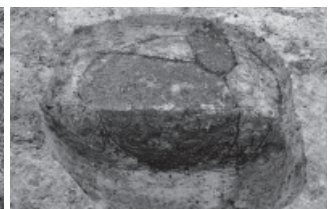
25. SB23-P1 断面 (南から)



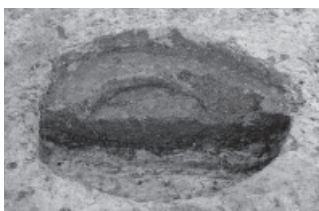
26. SB23-P2 断面 (西から)



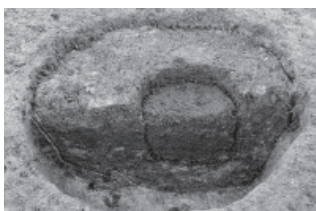
27. SB23-P2 根石出土状況 (西から)



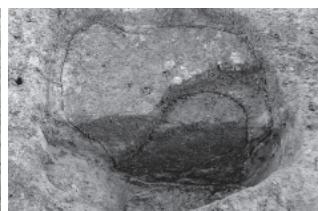
28. SB23-P3 断面 (南から)



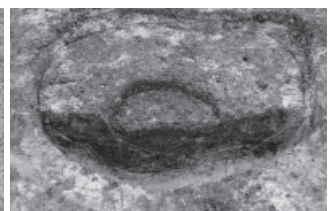
29. SB23-P4 断面 (南から)



30. SB24-P1 断面 (南から)

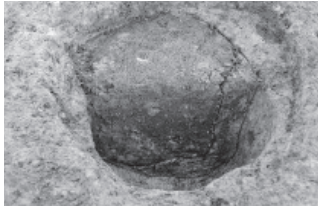


31. SB24-P3 断面 (南西から)

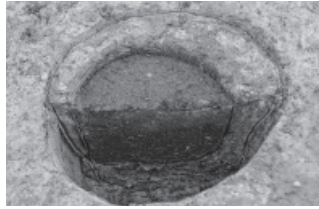


32. SB24-P8 断面 (南から)

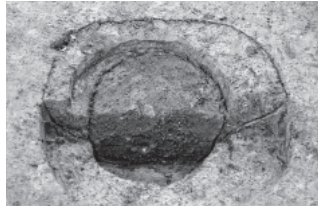
写真図版 12



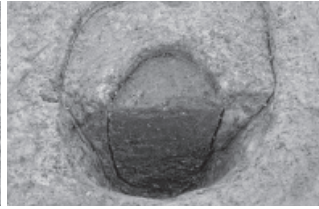
1. SB24-P9 断面 (南から)



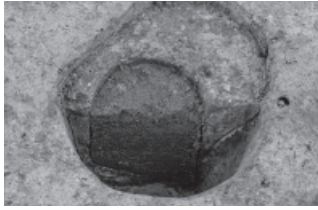
2. SB25-P2 断面 (南西から)



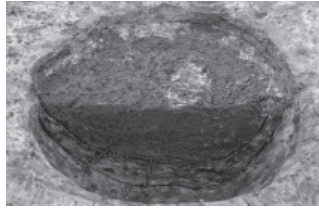
3. SB25-P3 断面 (南西から)



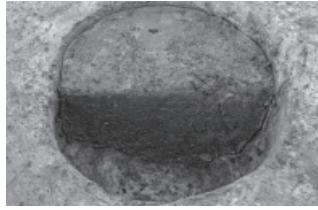
4. SB25-P4 断面 (南西から)



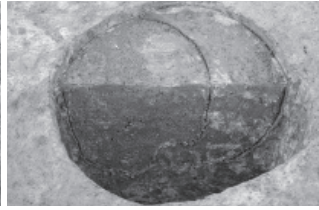
5. SB25-P6 断面 (南西から)



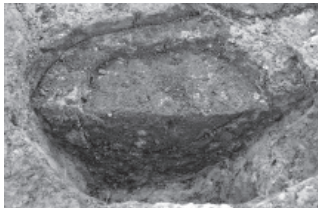
6. SB26-P2 断面 (南から)



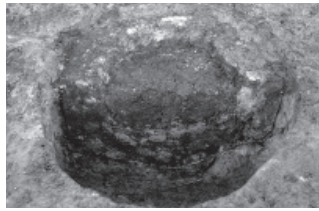
7. SB26-P3 断面 (南から)



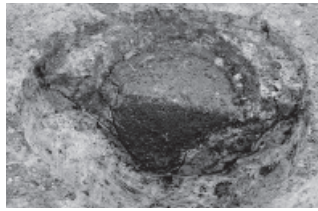
8. SB26-P4 断面 (南東から)



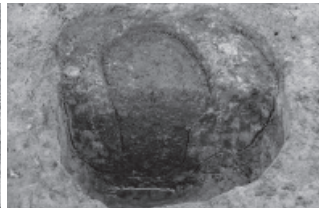
9. SB28-P3 断面 (北東から)



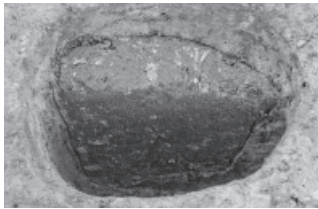
10. SB30-P1 断面 (南から)



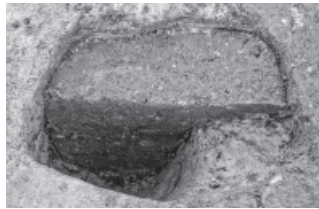
11. SB30-P2 断面 (南西から)



12. SB30-P3 断面 (南から)



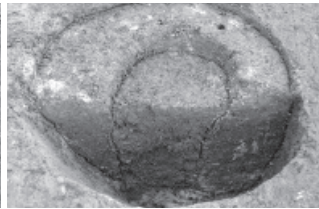
13. SB30-P5 断面 (北から)



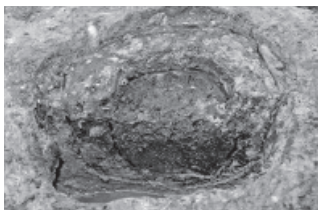
14. SB30-P6 断面 (西から)



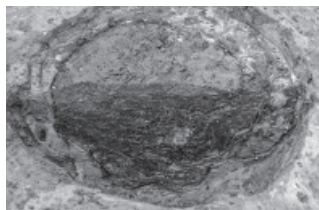
15. SB229-P4 断面 (東から)



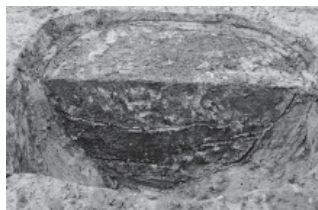
16. SB230-P5 断面 (東から)



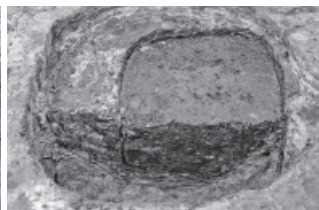
17. SB234-P1 断面 (南西から)



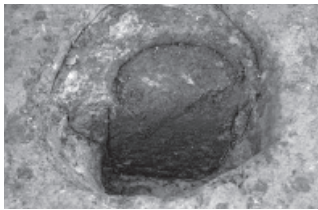
18. SB234-P2 断面 (南東から)



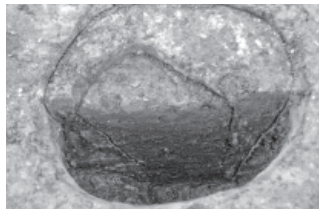
19. SB234-P3 断面 (西から)



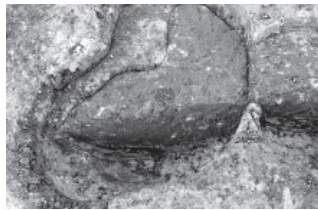
20. SB234-P5 断面 (西から)



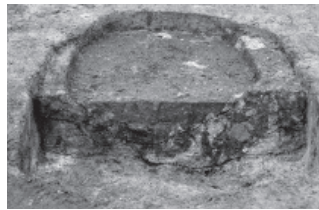
21. SB236-P6 断面 (北東から)



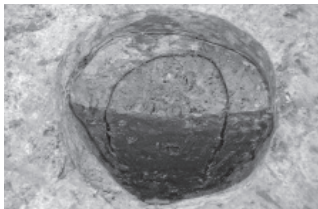
22. SB236-P7 断面 (南東から)



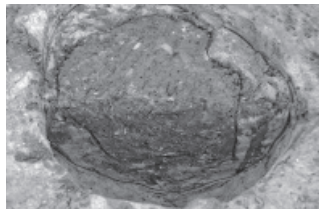
23. SB237-P5 断面 (南から)



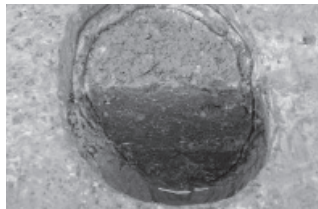
24. SB237-P6 断面 (南から)



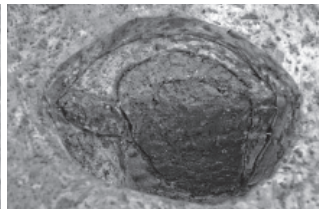
25. SA27-P1 断面 (北西から)



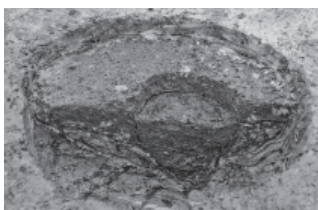
26. SA27-P2 断面 (南東から)



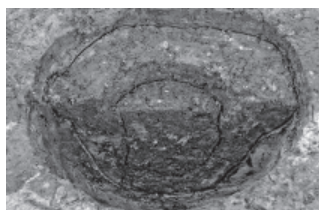
27. SA27-P3 断面 (南東から)



28. SA27-P4 断面 (北西から)



29. SA232-P1 断面 (南から)



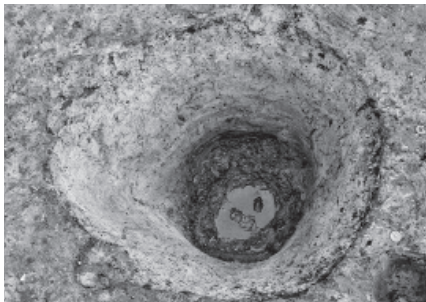
30. SA232-P2 断面 (南東から)



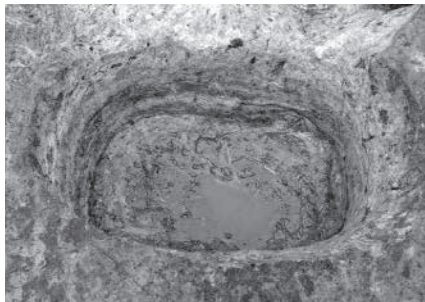
31. SA240-P3、P59 断面 (北西から)



32. 1区南遺構平面実測作業風景



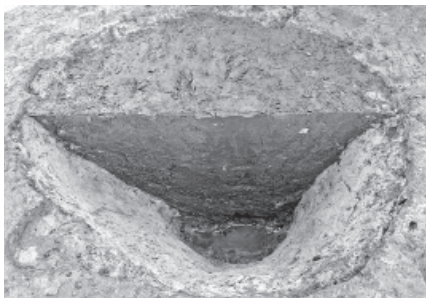
1. SE63 井戸跡 完掘状況 (北西から)



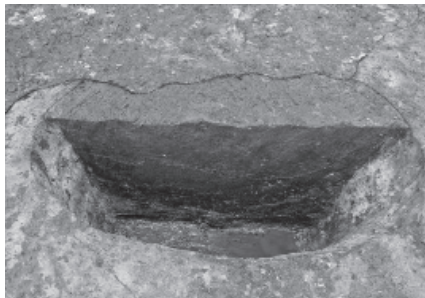
3. SK16 落とし穴状土坑 完掘状況(南東から)



5. SK65 落とし穴状土坑 完掘状況 (西から)



2. SE63 井戸跡 断面 (北西から)



4. SK16 落とし穴状土坑 断面 (南東から)



6. SK65 落とし穴状土坑 断面 (西から)



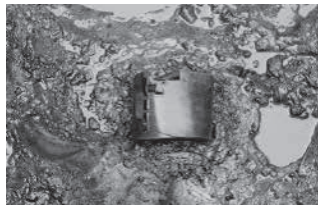
7. SE63 井戸跡 曲物出土状況 (北から)



8. SE63 井戸跡 曲物出土状況 (西から)



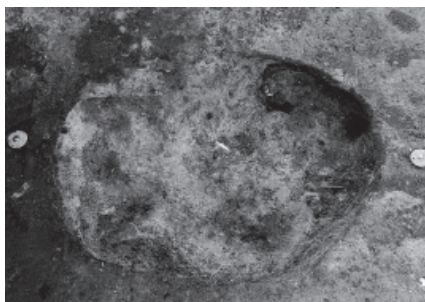
9. SE63 井戸跡 柄杓出土状況 (北から)



10. SE63 井戸跡 柄杓出土状況 (東から)



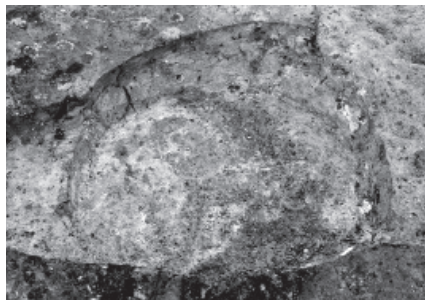
11. SK58 落とし穴状土坑 完掘状況 (南から)



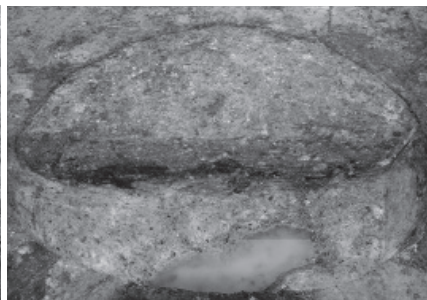
13. SK6 土坑 完掘状況 (東から)



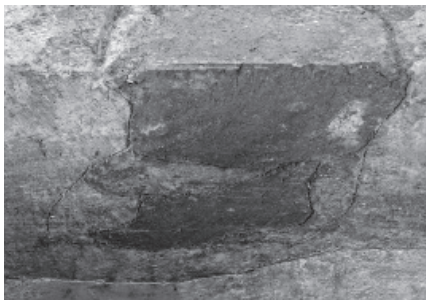
14. SK6 土坑 断面 (東から)



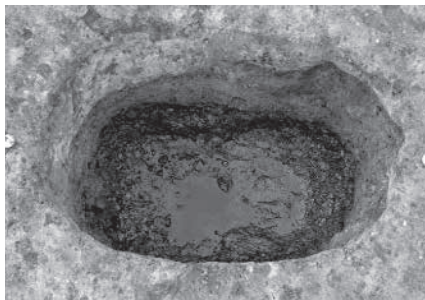
15. SK7 土坑 完掘状況 (南から)



16. SK7 土坑 断面 (南から)



12. SK58 落とし穴状土坑 断面 (南から)



17. SK34 土坑 完掘状況 (南東から)



18. SK34 土坑 断面 (南東から)



1. SD64 溝跡 完掘状況 (南東から)



2. SD64 溝跡・K2 断面 (B-B' 南東から)



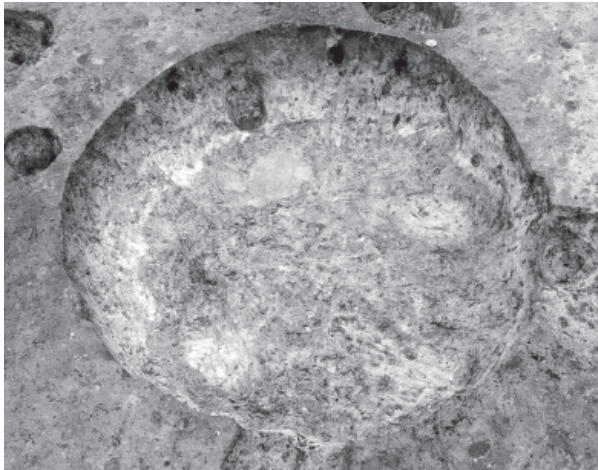
3. SD64 溝跡・K1 断面 (C-C' 南西から)



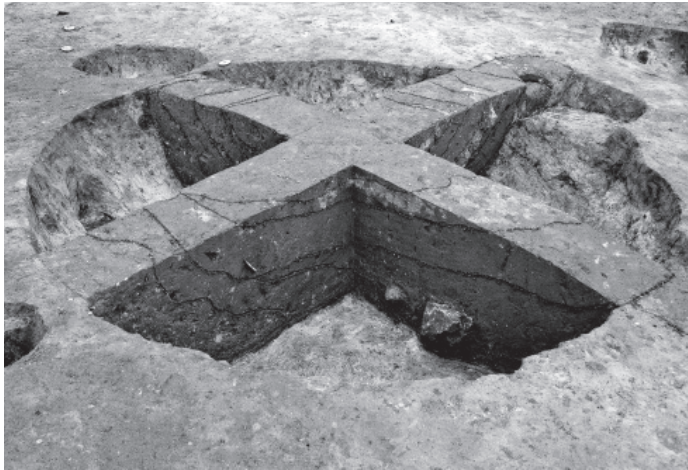
4. 1区南 遺構平面実測作業風景



5. 1区南 遺構確認作業風景



6. SX13 廃棄土坑 完掘状況 (南から)



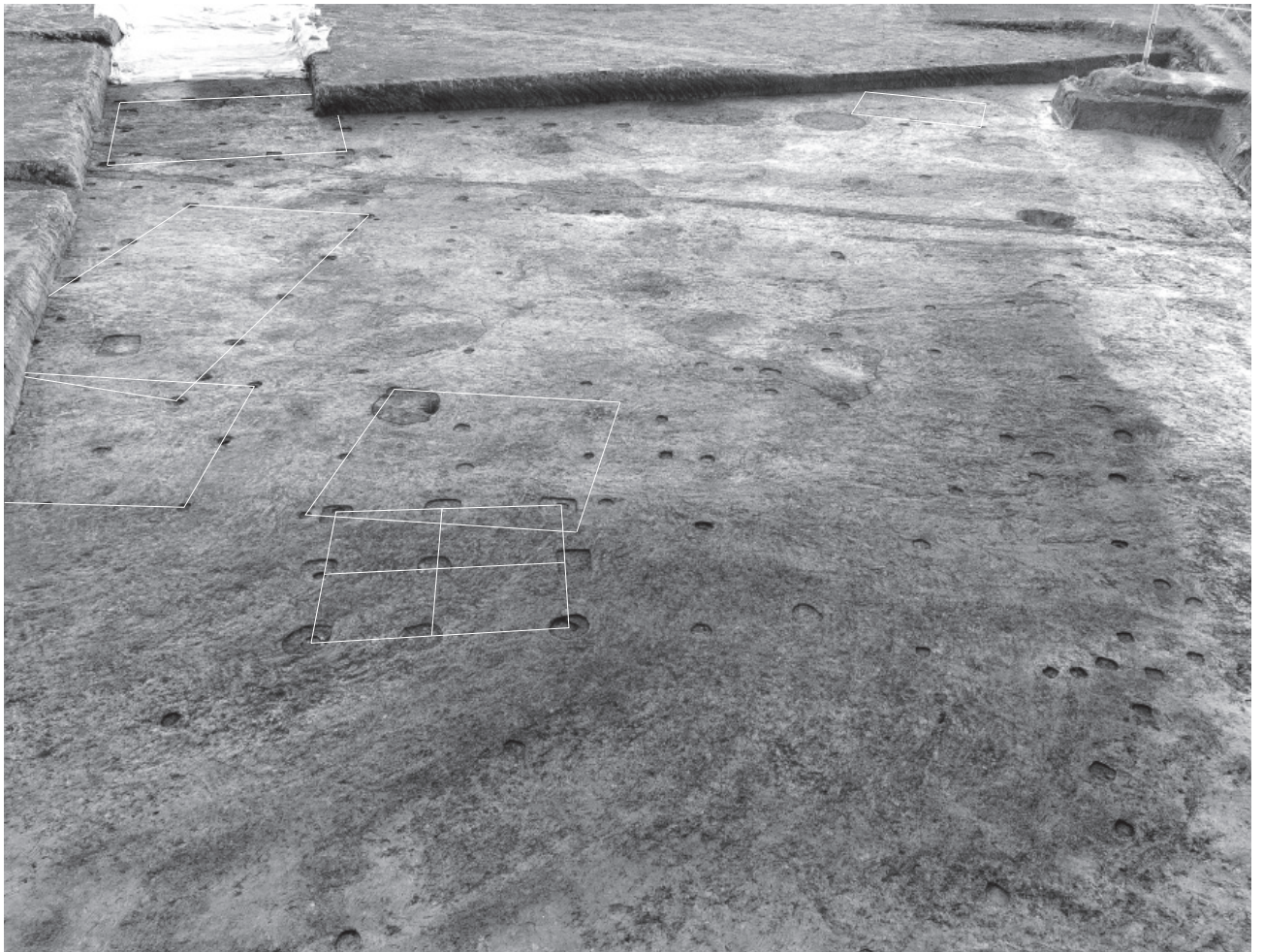
7. SX13 廃棄土坑 断面 (西から)



8. SX13 廃棄土坑 断面 (南西から)



9. SX13 廃棄土坑 断面 (南東から)



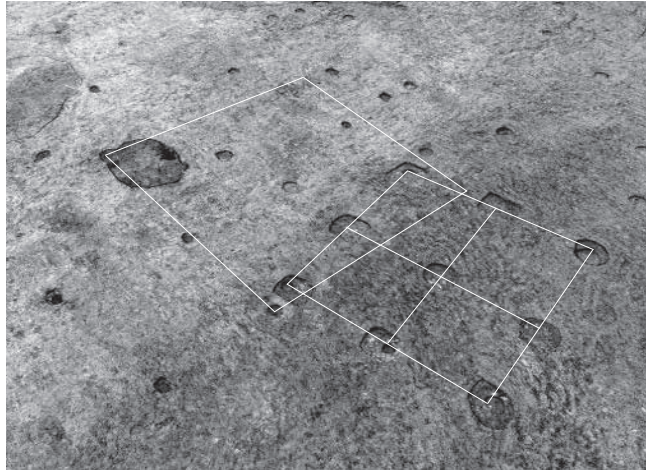
1. 1区北遺構確認状況、SB101・102・103・243・244・245 掘立柱建物跡（西から）



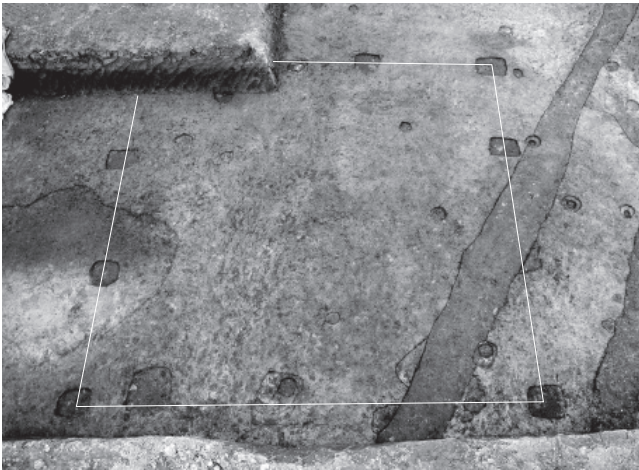
2. 1区北遺構確認状況、SB103・245 掘立柱建物跡（北東から）



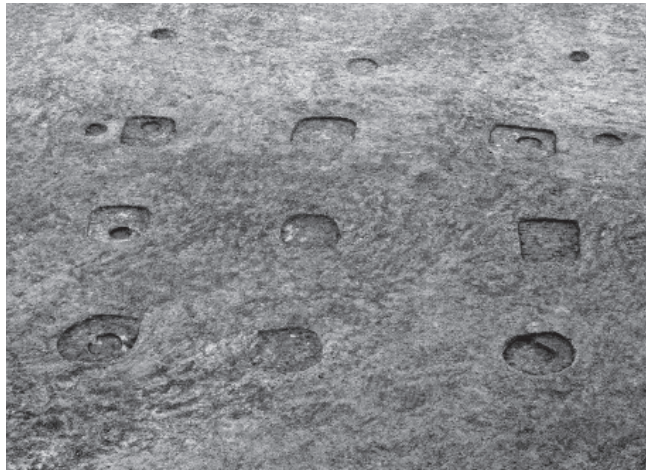
1. SB101 掘立柱建物跡 (北西から)



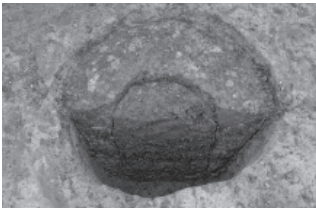
2. SB102・244 掘立柱建物跡 (北西から)



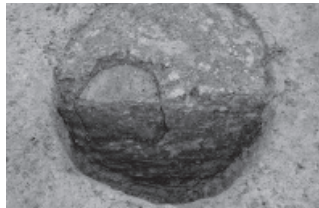
3. SB103・145 掘立柱建物跡 (北から)



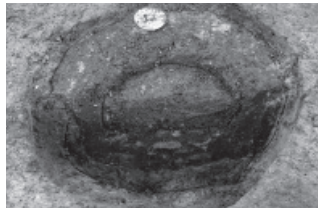
4. SB102 掘立柱建物跡 (西から)



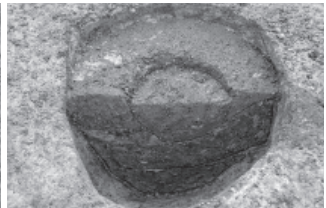
5. SB101-P1 断面 (南から)



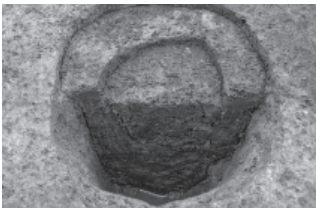
6. SB101-P2 断面 (南東から)



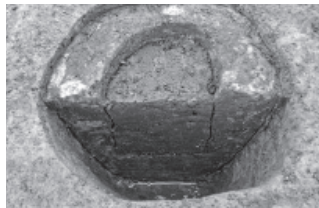
7. SB101-P3 断面 (南西から)



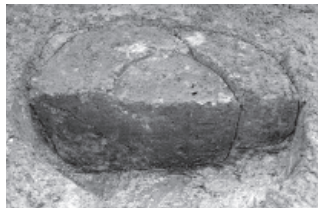
8. SB101-P4 断面 (北東から)



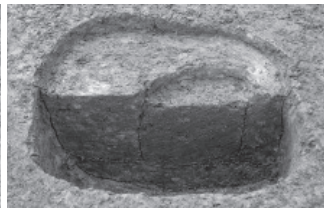
9. SB101-P5 断面 (北東から)



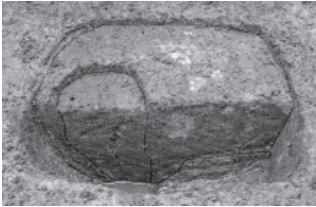
10. SB101-P8 断面 (北東から)



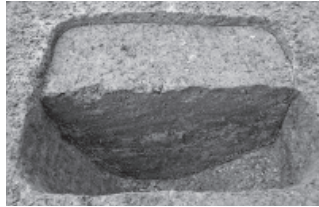
11. SB102-P1 断面 (北東から)



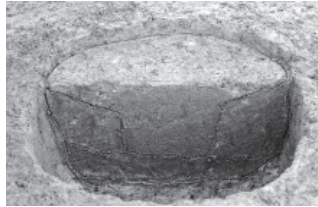
12. SB102-P2 断面 (北東から)



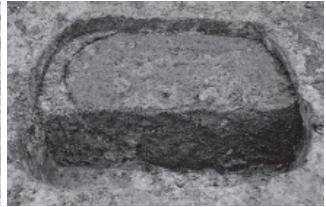
13. SB102-P3 断面 (北東から)



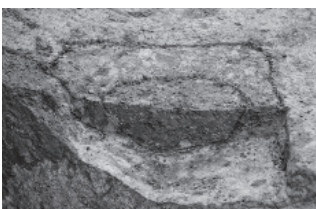
14. SB102-P6 断面 (北東から)



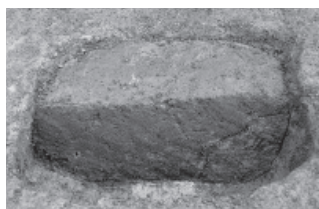
15. SB102-P9 断面 (北東から)



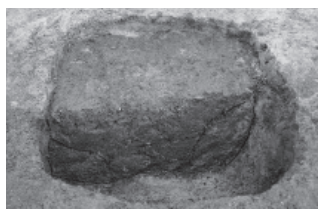
16. SB103-P1 断面 (南から)



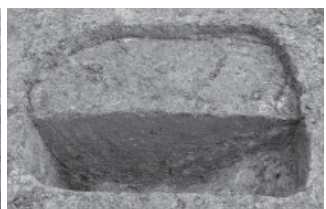
17. SB103-P2 断面 (西から)



18. SB103-P4 断面 (南から)



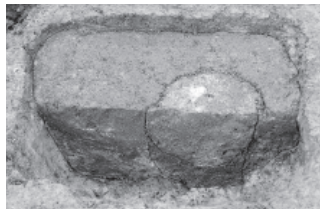
19. SB103-P5 断面 (南から)



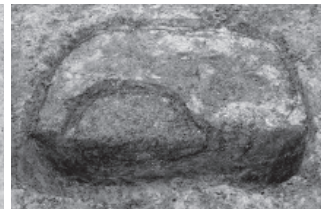
20. SB103-P6 断面 (南から)



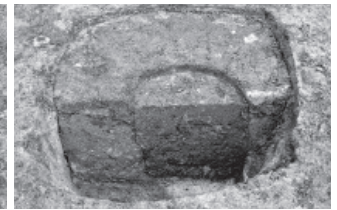
1. SB103-P10 断面 (南から)



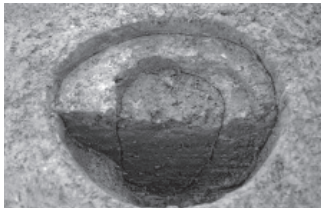
2. SB103-P11 断面 (南から)



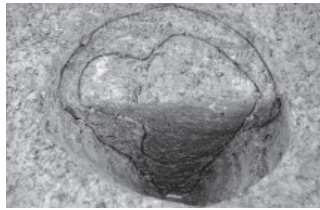
3. SB145-P2 断面 (南西から)



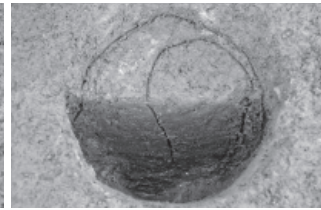
4. SB145-P3 断面 (南から)



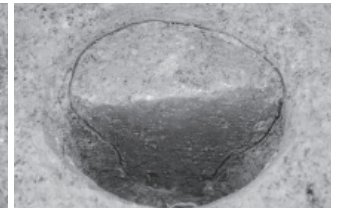
5. SB244-P3 断面 (南西から)



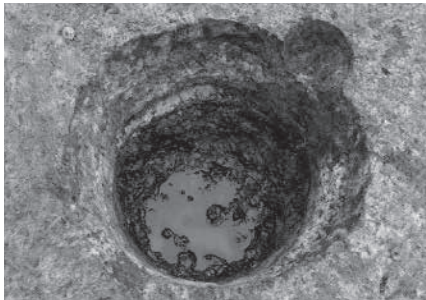
6. SA109-P1 断面 (西から)



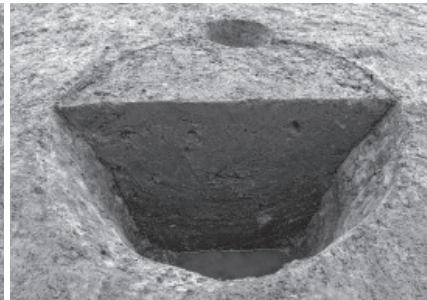
7. SA109-P2 断面 (北東から)



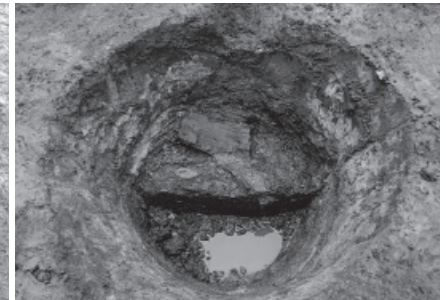
8. SA109-P3 断面 (北西から)



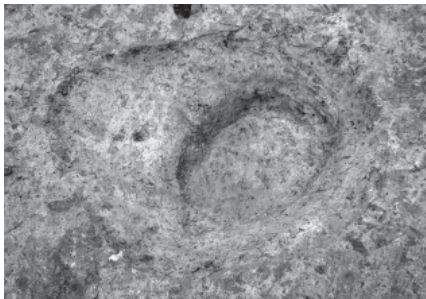
9. SE106 井戸跡 完掘状況 (南西から)



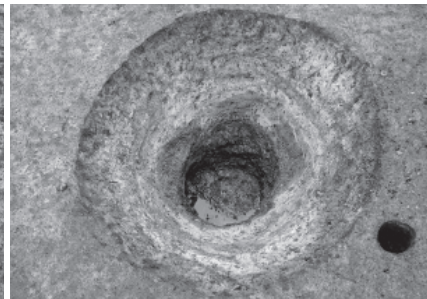
10. SE106 井戸跡 断面 (西から)



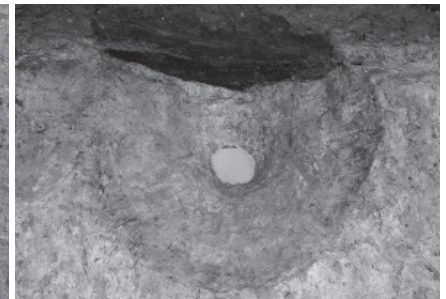
11. SE106 井戸跡 曲物側板出土状況 (西から)



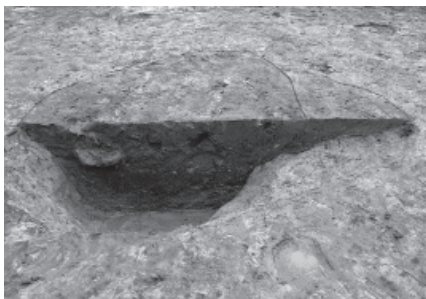
12. SE107 井戸跡, SK108 土坑 完掘状況 (北東から)



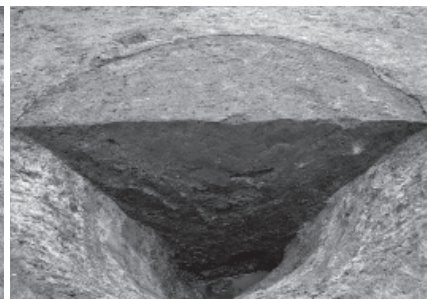
14. SE111 井戸跡 完掘状況 (南から)



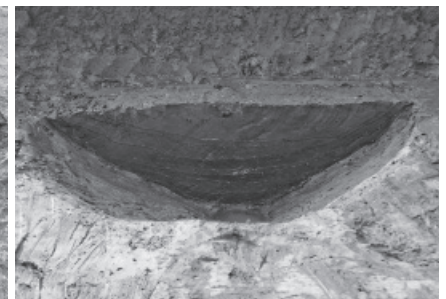
16. SE112 井戸跡 完掘状況 (北東から)



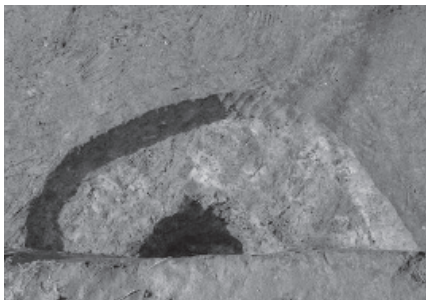
13. SE107 井戸跡, SK108 土坑 断面 (南西から)



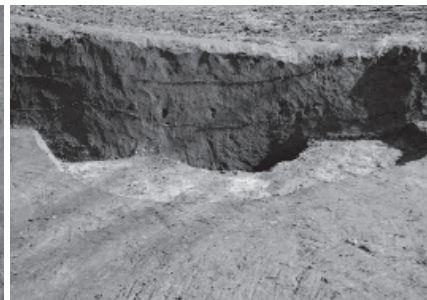
15. SE111 井戸跡 断面 (北から)



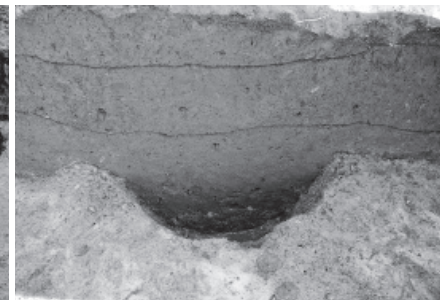
17. SE112 井戸跡 断面 (北東から)



18. SE113 井戸跡 完掘状況 (東から)



19. SE113 井戸跡 断面 (西から)



20. SE113 井戸跡 断面 (西から)



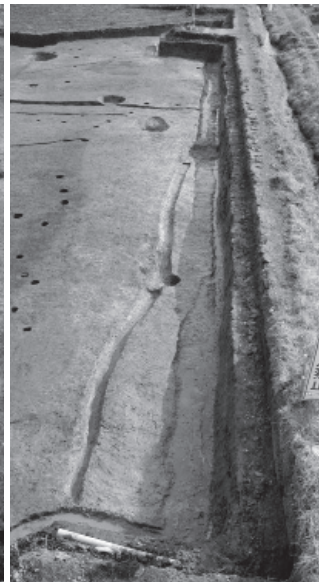
1. SD104・105 溝跡 (北東から)



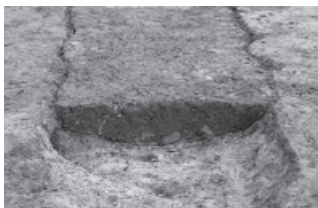
2. SD104・105 溝跡 完掘状況 (北東から)



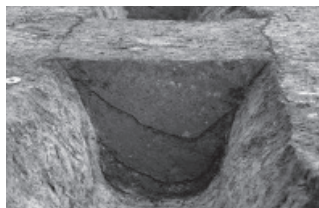
5. SD128・129 溝跡 完掘状況 (南東から)



6. SD128・129 溝跡 完掘状況 (北西から)



3. SD104 溝跡 断面 (南西から)



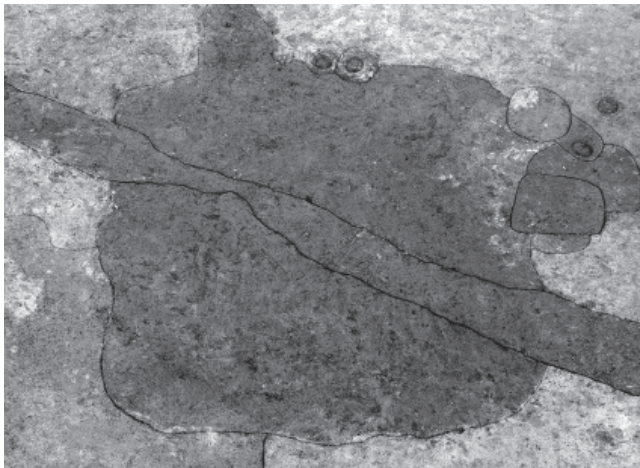
4. SD105 溝跡 断面 (南西から)



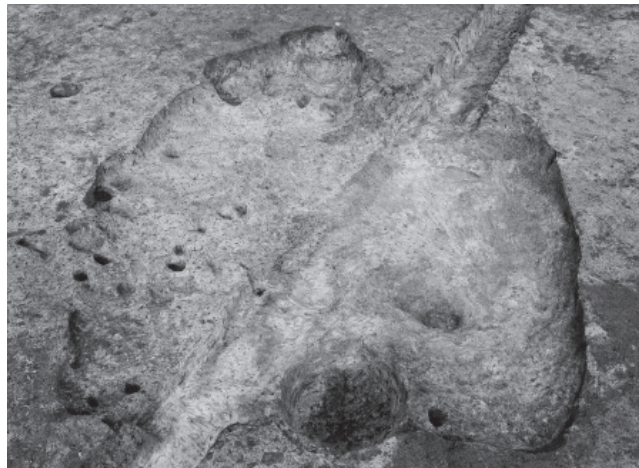
7. SD128 溝跡 西部断面(A-A' 南東から)



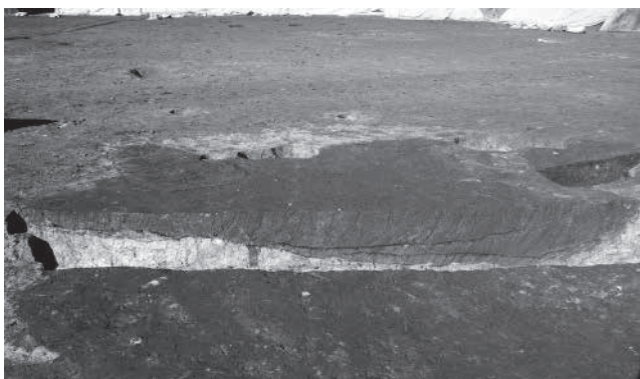
8. SD129 溝跡 西部断面(D-D' 南東から)



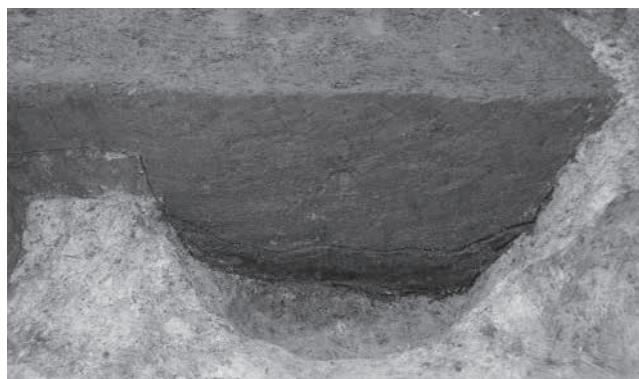
9. SX117 竪穴状遺構 (東から)



10. SX117 竪穴状遺構 完掘状況 (南から)



11. SX117 竪穴状遺構 断面 (南東から)



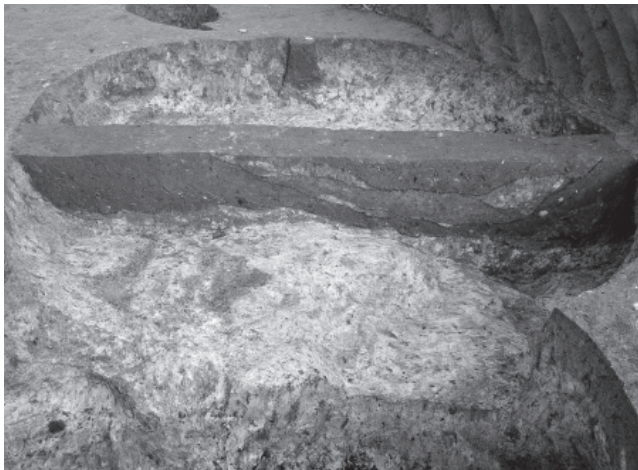
12. SX117 竪穴状遺構 断面 (北西から)



1. SX114 粘土採掘坑 完掘状況 (北西から)



2. SX114 粘土採掘坑 完掘状況 (東から)



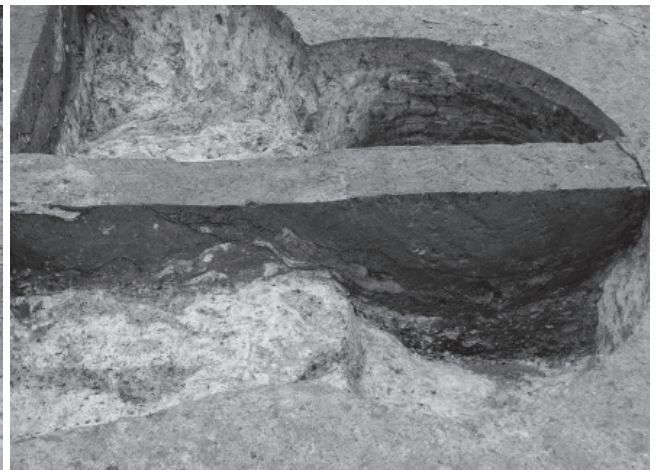
3. SX114 粘土採掘坑 断面 (B-B' 南西から)



4. SX114 粘土採掘坑 断面 (南から)



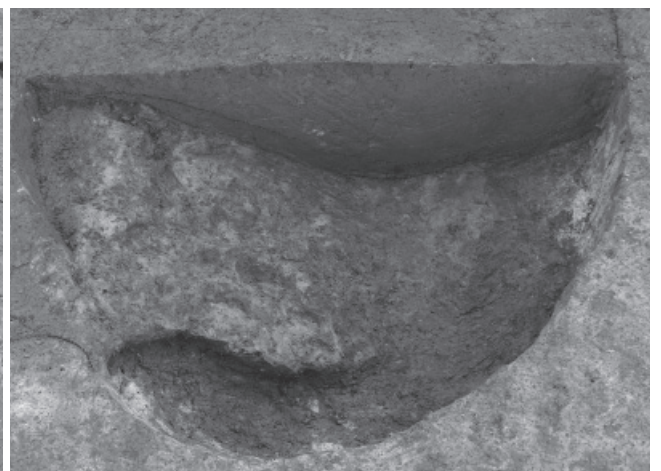
5. SX114 粘土採掘坑 断面 (A-A' 北西から)



6. SX114 粘土採掘坑 断面 (A-A' 北西から)



7. SX114 粘土採掘坑 調査風景



8. SX114 粘土採掘坑 焼土ブロック出土状況 (北西から)



1. 2区 遺構確認状況（西から）



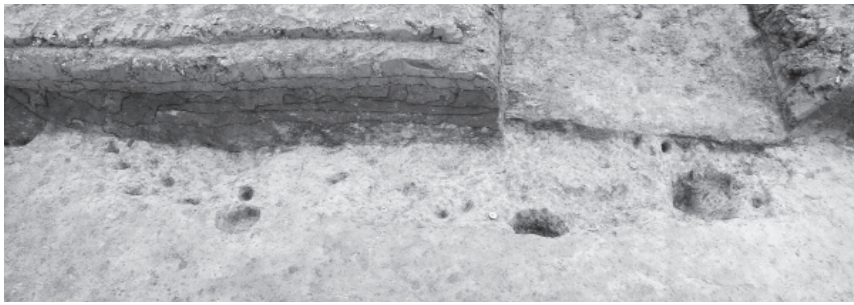
2. 2区 遺構確認状況（西から）



3. 2区 遺構確認状況（東から）



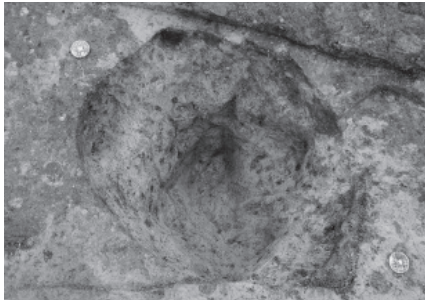
4. 2区 遺構確認状況（東から）



1. SI125 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



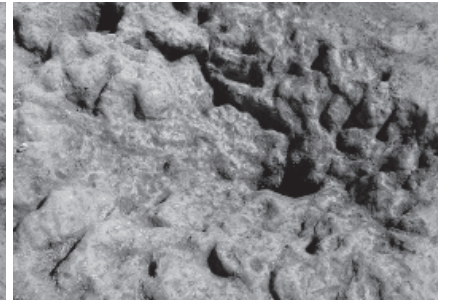
2. SI125 竪穴住居跡 断面 (南から)



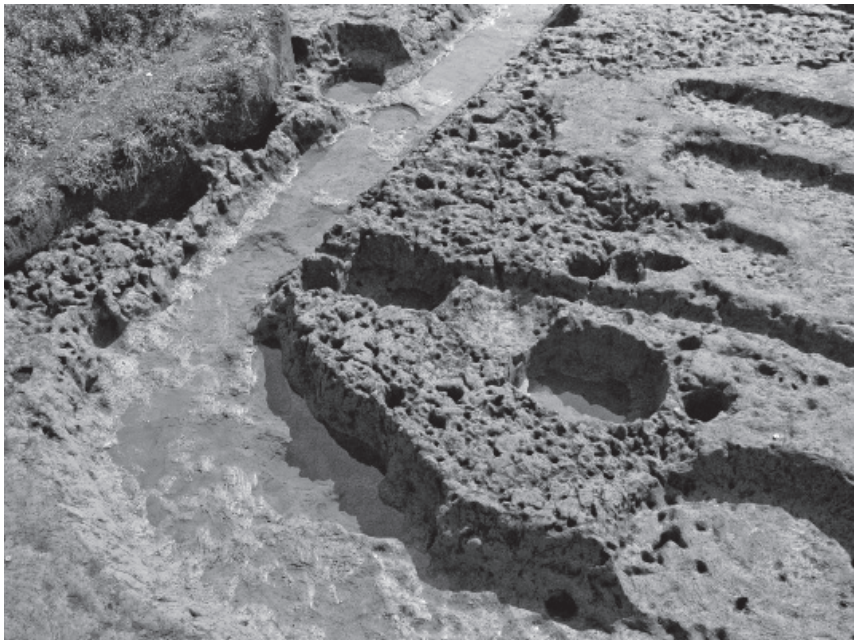
3. SI125 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



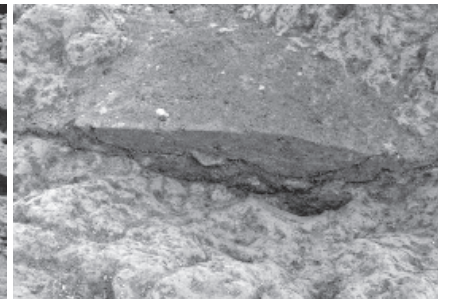
4. SI125 竪穴住居跡 K1 断面 (南西から)



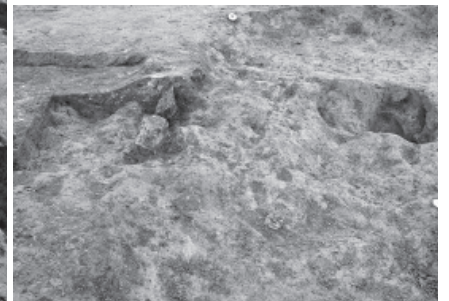
5. SI139 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (西から)



6. SI139 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



7. SI139 竪穴住居跡 K1 断面 (西から)



8. SI140 竪穴住居跡 カマド (南から)



9. SI140 竪穴住居跡 (南から)



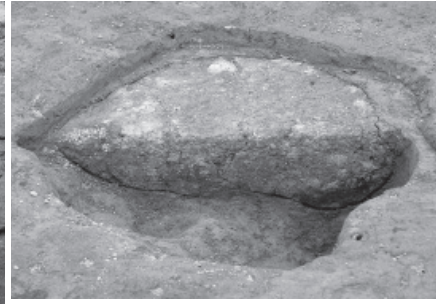
10. SI140 竪穴住居跡 カマド (南から)



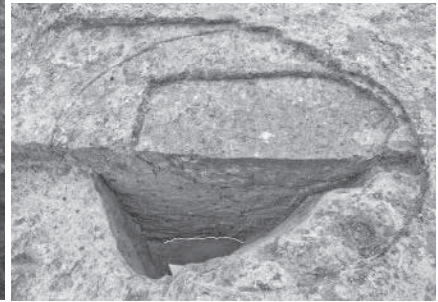
11. SI140 竪穴住居跡 カマド断面 (南から)



1. SI140 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



2. SI140 竪穴住居跡 煙出しピット断面(西から)



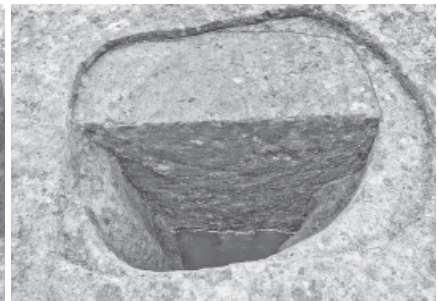
3. SI140 竪穴住居跡 P1 断面 (南西から)



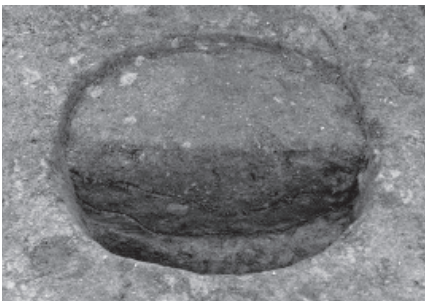
4. SI140 竪穴住居跡 P2 断面 (西から)



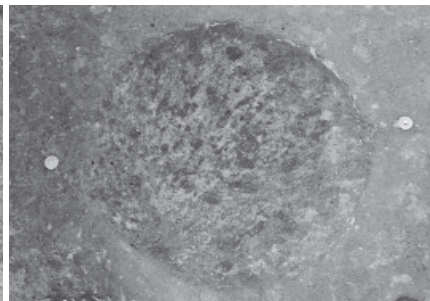
5. SI140 竪穴住居跡 P3 断面 (南から)



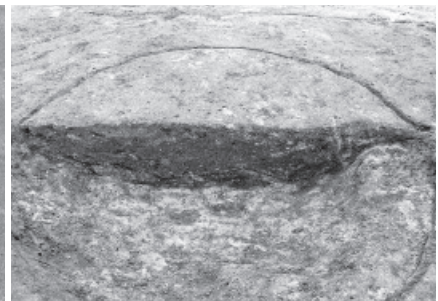
6. SI140 竪穴住居跡 P4 断面 (南西から)



7. SI140 竪穴住居跡 P5 断面 (西から)



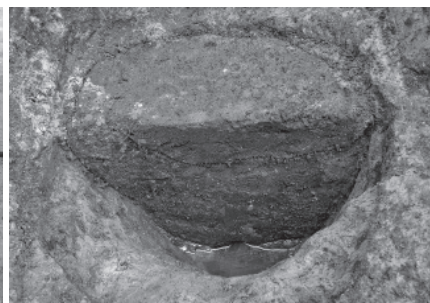
8. SI140 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



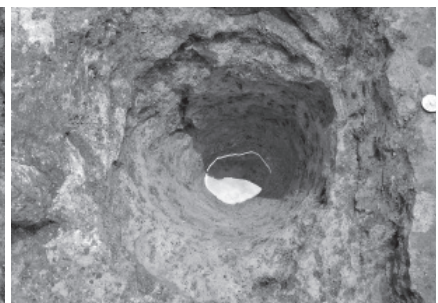
9. SI140 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



10. SI140 竪穴住居跡 炉跡断面 (東から)



11. SI142 竪穴住居跡 K1 断面 (西から)



12. SI142 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (西から)



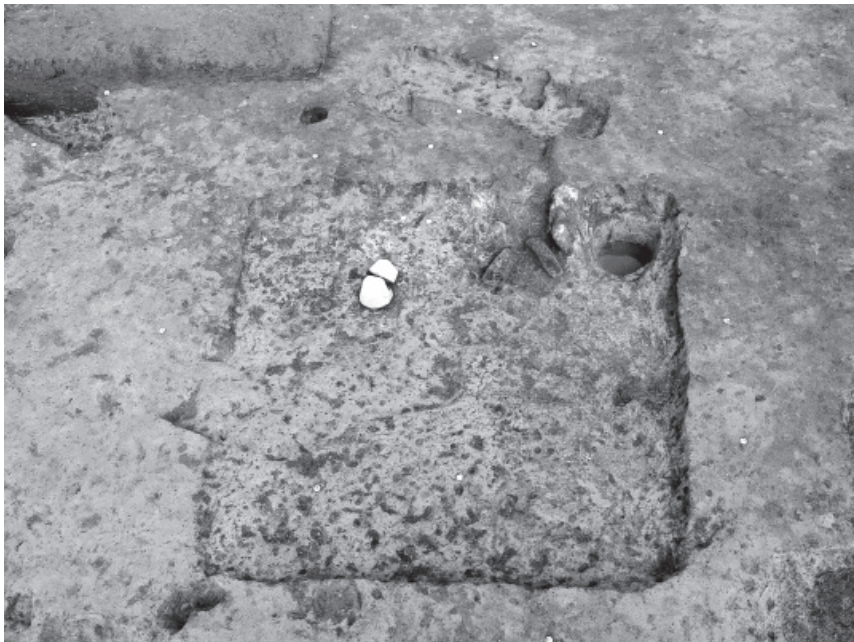
13. SI142 竪穴住居跡 煙出しピット断面 (南から)



14. SI142 竪穴住居跡 (南から)



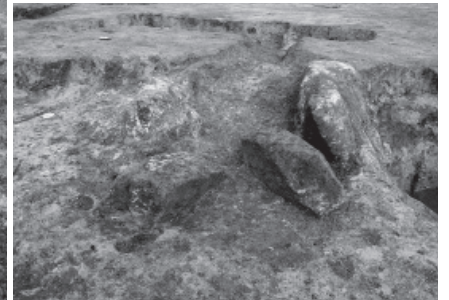
15. SI142 竪穴住居跡 調査風景 (西から)



1. SI142 竪穴住居跡 (西から)



2. SI142 竪穴住居跡 カマド (西から)



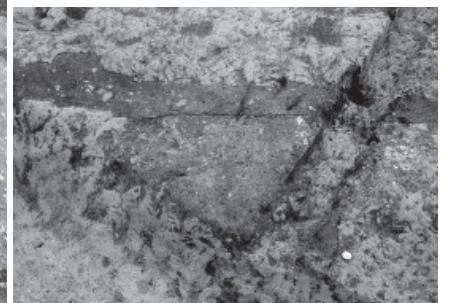
3. SI142 竪穴住居跡 カマド (西から)



5. SI143 竪穴住居跡 (南から)



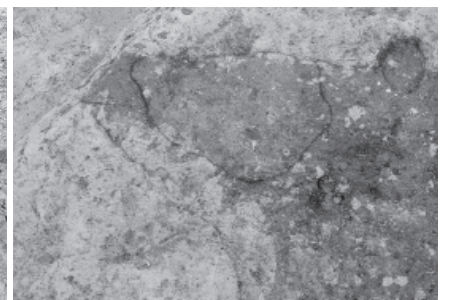
4. SI142 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



6. SI143 竪穴住居跡北壁 カマド燃烧部底面(南から)



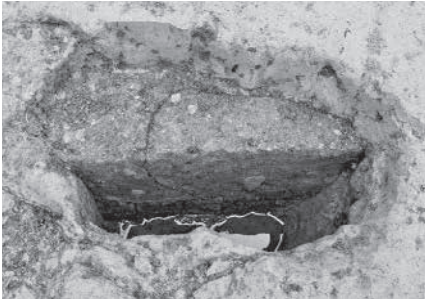
7. SI143 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



8. SI143 竪穴住居跡東壁 カマド燃烧部底面(西から)



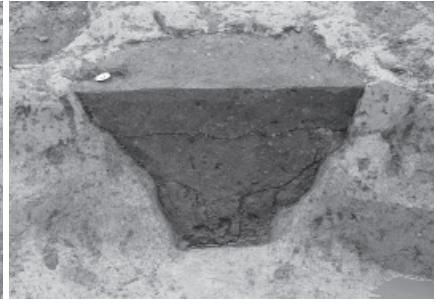
9. SI143 竪穴住居跡 P1 断面 (南西から)



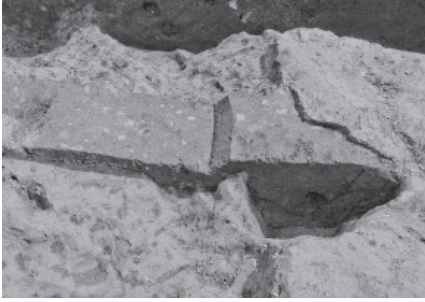
1. SI143 竪穴住居跡 P2a・b 断面 (西から)



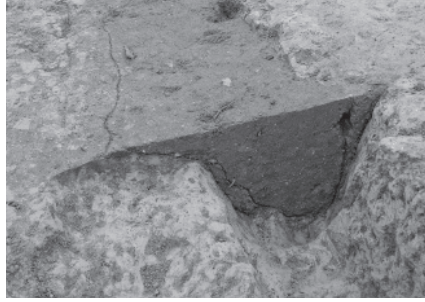
2. SI143 竪穴住居跡 P3 断面 (南から)



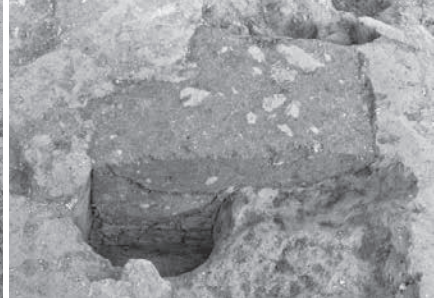
3. SI143 竪穴住居跡 P4 断面 (北東から)



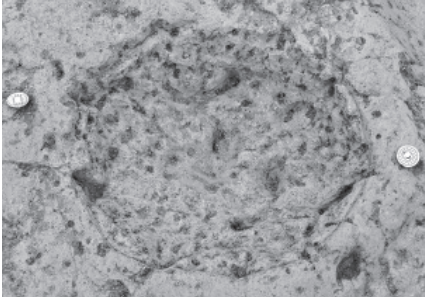
4. SI143 竪穴住居跡 P12 断面 (西から)



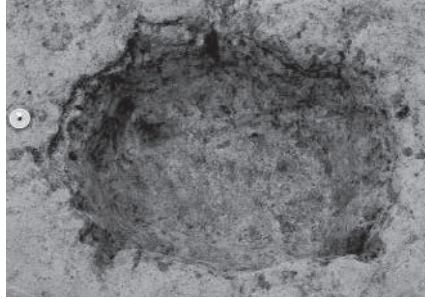
5. SI143 竪穴住居跡 P20 断面 (北から)



6. SI143 竪穴住居跡 P22 断面 (西から)



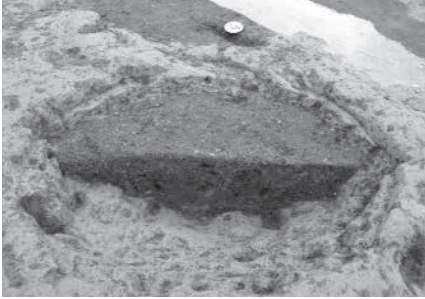
7. SI143 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南東から)



9. SI143 竪穴住居跡 K2 完掘状況 (南東から)



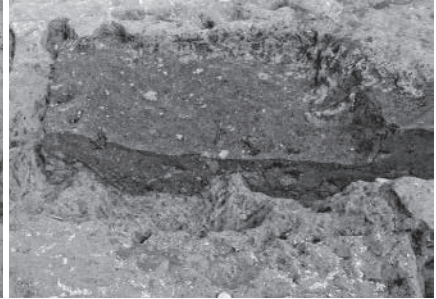
11. SI143 竪穴住居跡 K6 完掘状況 (西から)



8. SI143 竪穴住居跡 K1 断面 (南東から)



10. SI143 竪穴住居跡 K2 断面 (南東から)



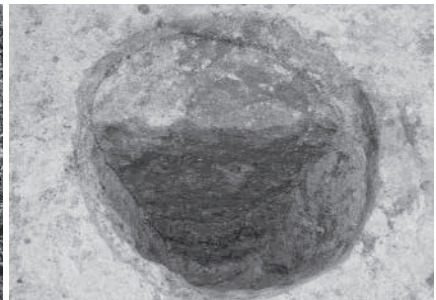
12. SI143 竪穴住居跡 K6 断面 (西から)



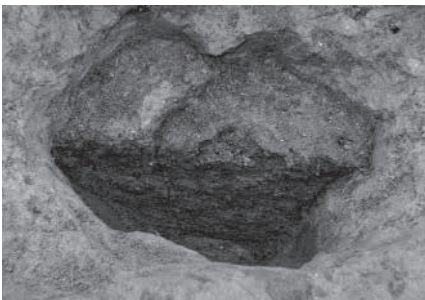
13. SI143-K6, SK225 落とし穴状土坑 断面 (南西から)



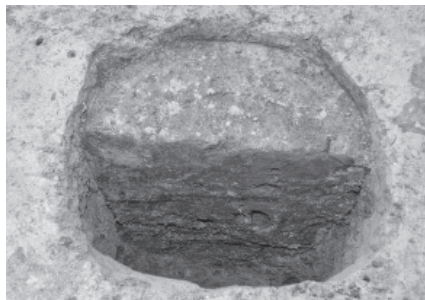
14. SI160 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



15. SI160 竪穴住居跡 P1 断面 (東から)



16. SI160 竪穴住居跡 P2 断面 (南東から)



17. SI160 竪穴住居跡 P3 断面 (東から)



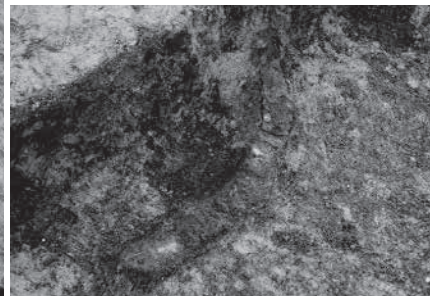
18. SI160 竪穴住居跡 P4 断面 (東から)



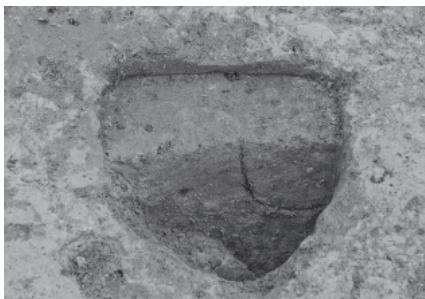
1. SI157 竪穴住居跡 (西から)



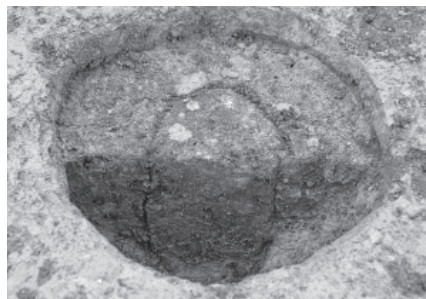
2. SI157 竪穴住居跡 カマド (西から)



3. SI157 竪穴住居跡 鎌先出土状況 (南東から)



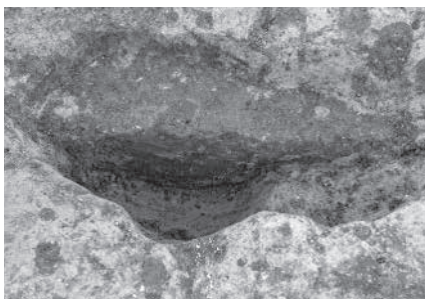
4. SI157 竪穴住居跡 P2 断面 (南から)



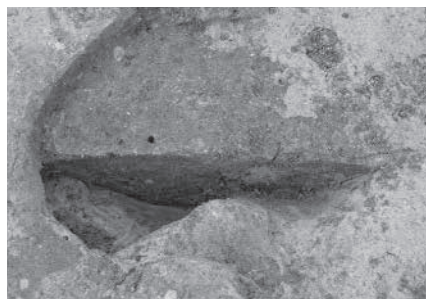
5. SI157 竪穴住居跡 P3 断面 (北東から)



6. SI157 竪穴住居跡 鎌先出土状況 (北から)



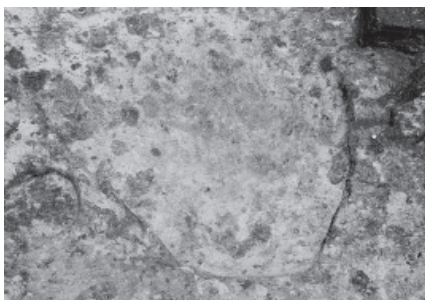
7. SI157 竪穴住居跡 P4 断面 (南から)



8. SI157 竪穴住居跡 P5 断面 (北から)



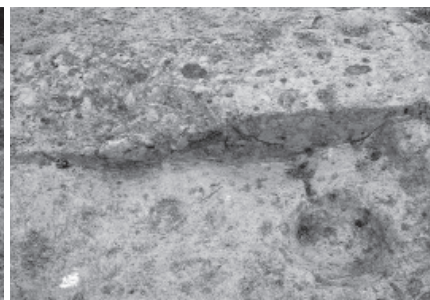
9. SI157 竪穴住居跡 P6 断面 (北から)



10. SI157 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



11. SI157 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



12. SI157 竪穴住居跡 K2 断面 (東から)



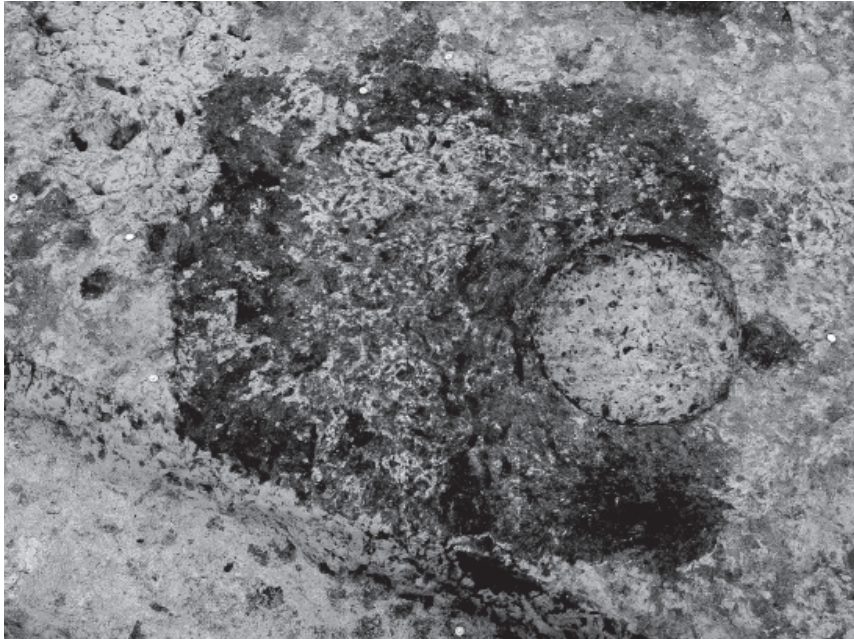
13. SI157 竪穴住居跡 K3 完掘状況 (西から)



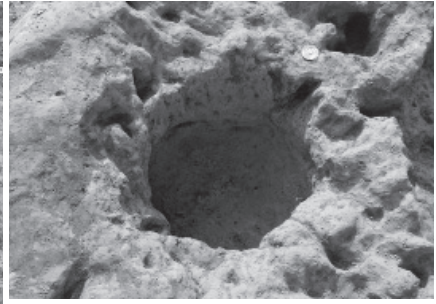
14. SI178 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



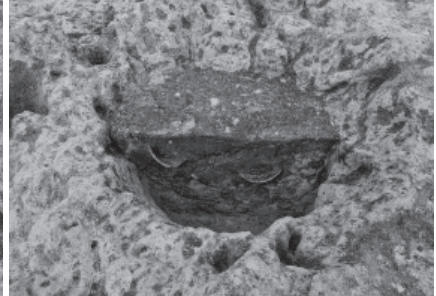
15. SI178 竪穴住居跡 断面 (東から)



1. SI156 竪穴住居跡 (南から)



2. SI156 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (東から)



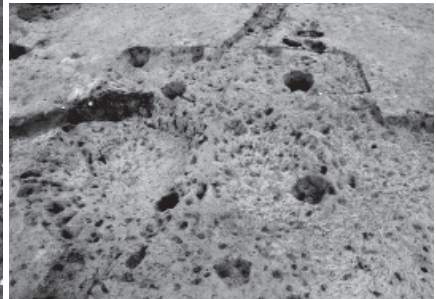
3. SI156 竪穴住居跡 K1 断面 (南西から)



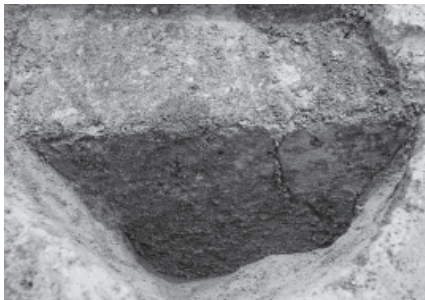
4. SI159 竪穴住居跡 (南から)



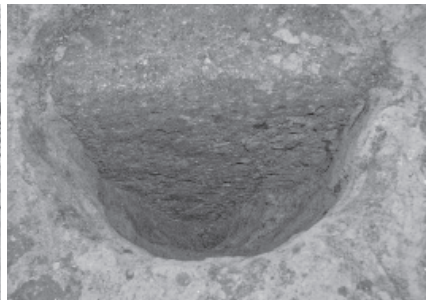
5. SI159 竪穴住居跡 K1 断面 (北から)



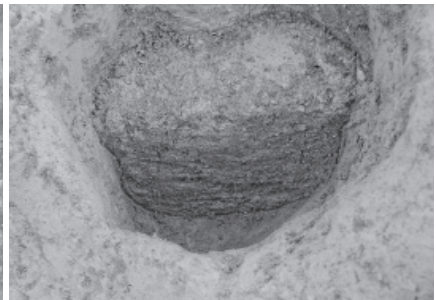
6. SI159 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



7. SI159 竪穴住居跡 P1 断面 (西から)



8. SI159 竪穴住居跡 P2 断面 (東から)



9. SI159 竪穴住居跡 P4 断面 (西から)



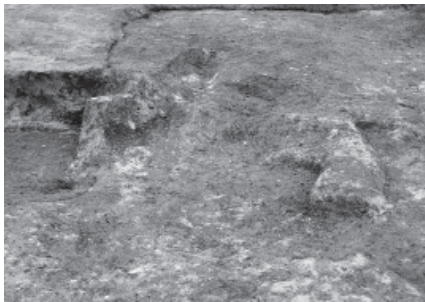
10. 発掘体験学習



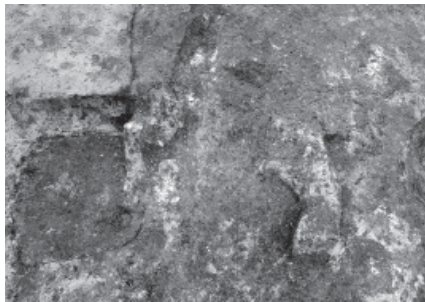
11. 発掘体験学習



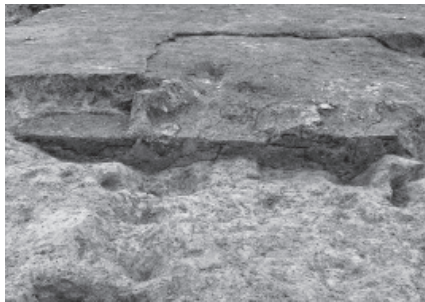
12. 発掘体験学習



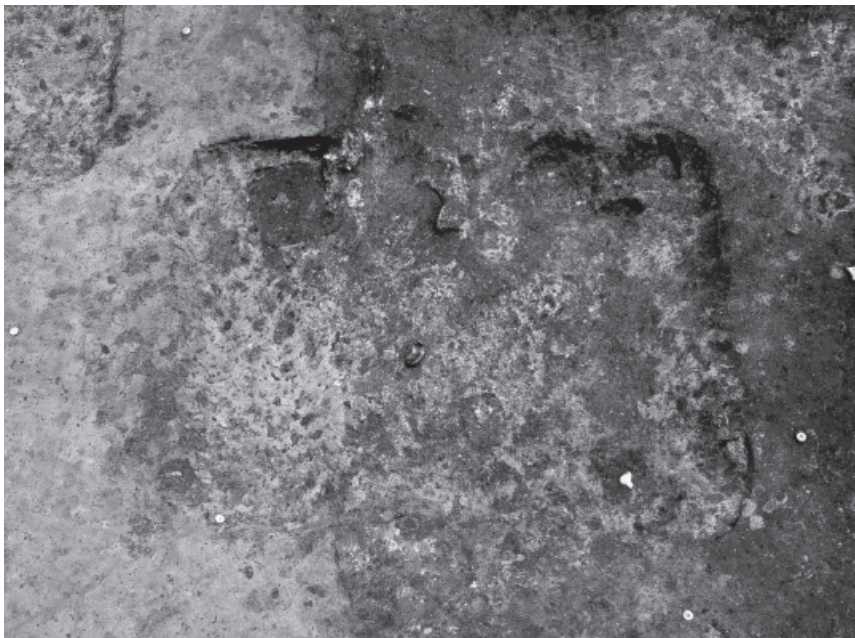
1. SI194 竪穴住居跡 カマド (西から)



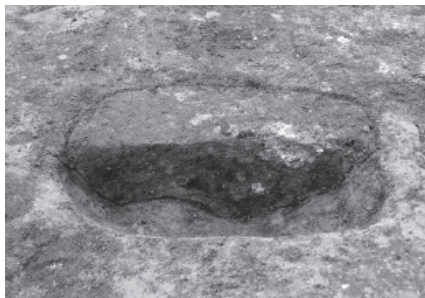
2. SI194 竪穴住居跡 カマド (西から)



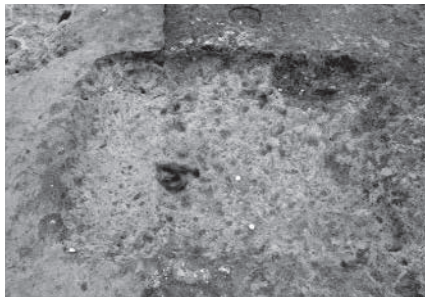
3. SI194 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



4. SI194 竪穴住居跡 (西から)



5. SI194 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



6. SI194 竪穴住居跡 完掘状況 (西から)



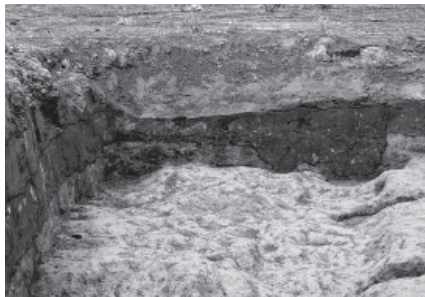
8. SI196 竪穴住居跡 (北から)



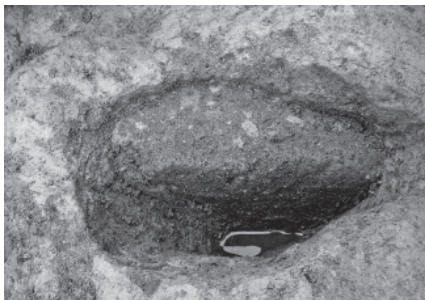
9. SI196 竪穴住居跡 完掘状況 (北から)



7. SI194 竪穴住居跡 床面検出作業風景



10. SI196 竪穴住居跡 断面 (南から)



11. SI196 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



12. SI196 竪穴住居跡 P2 断面 (北から)



13. SI196 竪穴住居跡 断面 (東から)



1. SB127 掘立柱建物跡 (北から)



2. SB127 掘立柱建物跡 (東から)



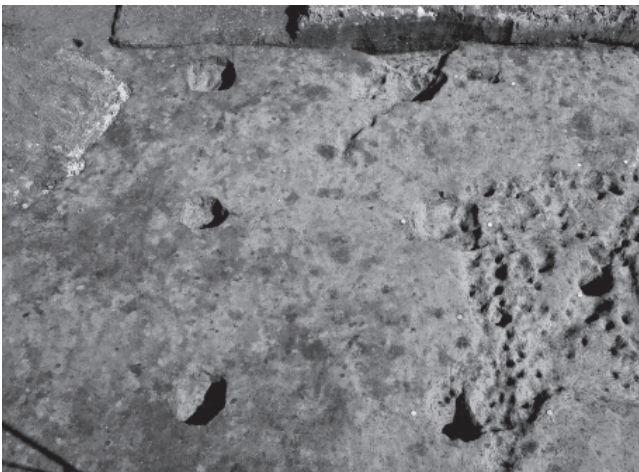
3. SB127 掘立柱建物跡 (西から)



4. SB127 掘立柱建物跡 (北から)



5. SB127 掘立柱建物跡 (南から)



6. SB199 掘立柱建物跡 完掘状況 (南から)



7. SA118 柱列跡 (東から)



8. SB127-P1 断面 (北から)



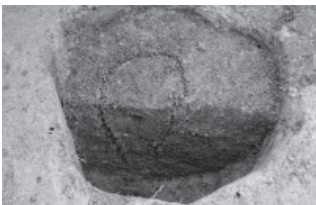
9. SB127-P2 断面 (北から)



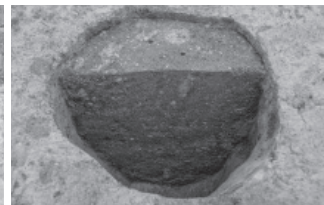
10. SB127-P3 断面 (北から)



11. SB127-P4 断面 (東から)



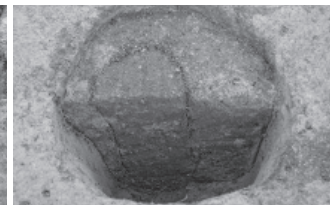
12. SB146-P1 断面 (北東から)



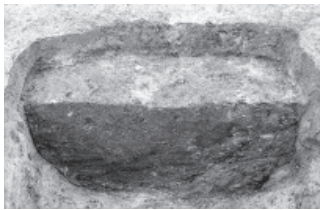
13. SB146-P2 断面 (南東から)



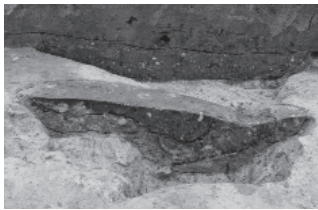
14. SB147-P1 断面 (南西から)



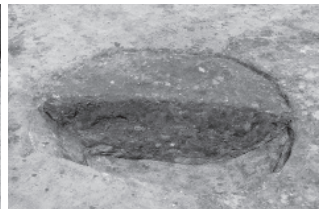
15. SB147-P4 断面 (南から)



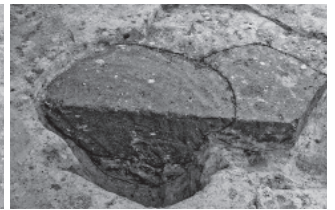
1. SB199-P1 断面 (東から)



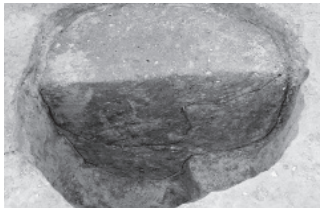
2. SB199-P2 断面 (南から)



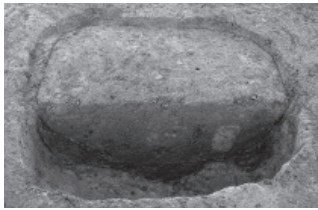
3. SB199-P3 断面 (南から)



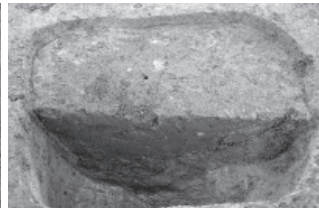
4. SB199-P4 断面 (南から)



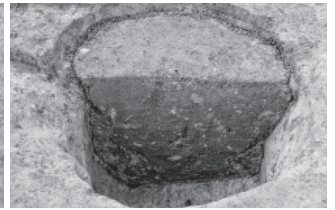
5. SB199-P6 断面 (東から)



6. SA118-P1 断面 (南から)



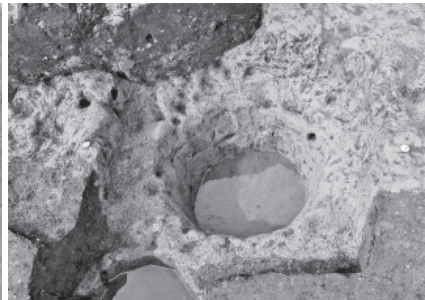
7. SA118-P2 断面 (南から)



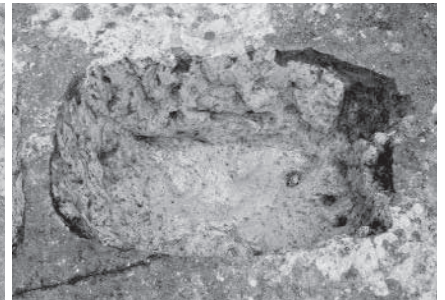
8. SA118-P3 断面 (南東から)



9. SE183 井戸跡 完掘状況 (東から)



11. SK166 近世墓 完掘状況 (南西から)



13. SK206 近世墓 完掘状況 (南東から)



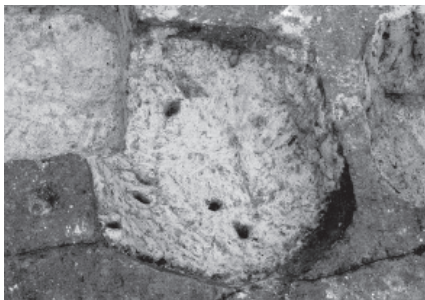
10. SE183 井戸跡 断面 (東から)



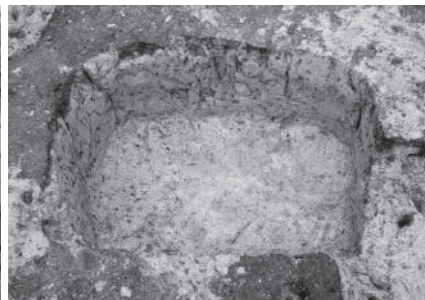
12. SK166 近世墓 断面 (南西から)



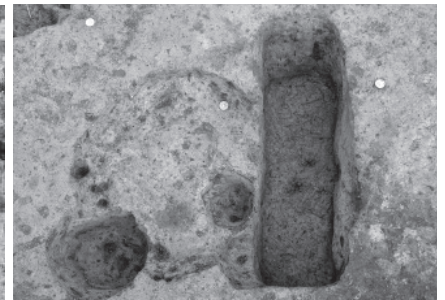
14. SK206 近世墓 断面 (北西から)



15. SK207 近世墓 完掘状況 (南東から)



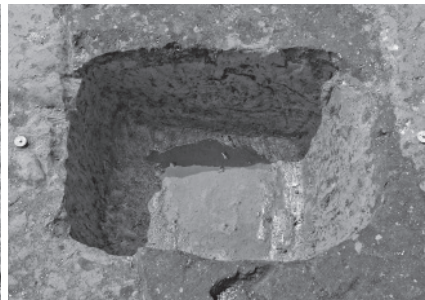
17. SK208 近世墓 完掘状況 (南東から)



19. SK134 土坑・135 落とし穴状土坑 完掘 (南から)



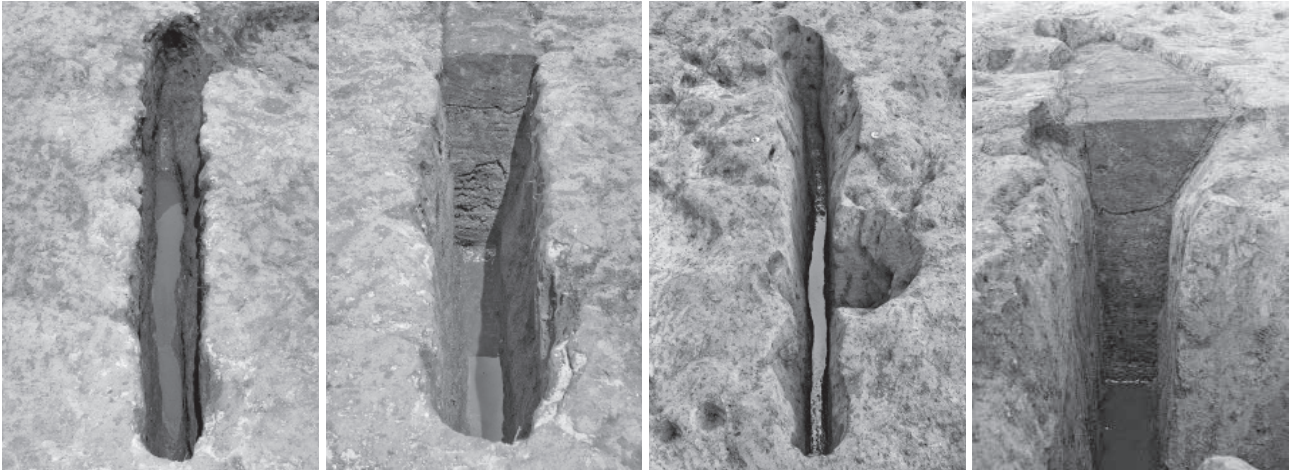
16. SK207 近世墓 断面 (北西から)



18. SK224 近世墓 完掘状況 (東から)



20. SK135 落とし穴状土坑 断面 (北から)



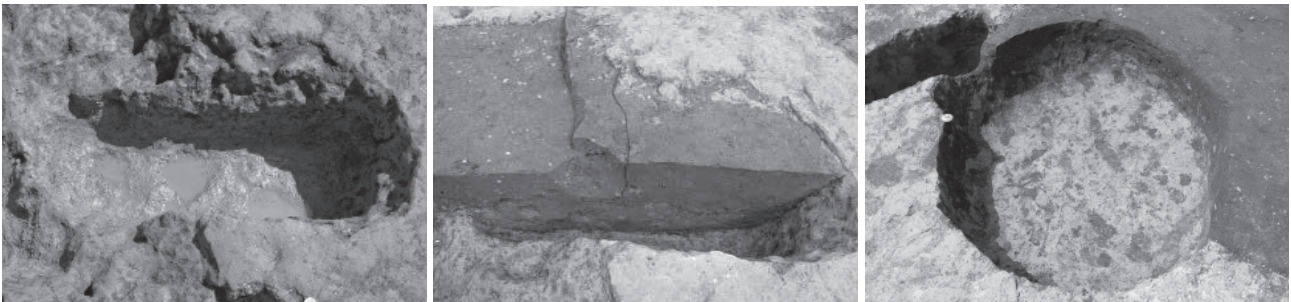
1. SK169 落とし穴状土坑 完掘 (南から) 2. SK169 落とし穴状土坑 断面 (南から) 3. SK210 落とし穴状土坑 完掘 (南西から) 4. SK210 落とし穴状土坑 断面 (南西から)



5. SK213 落とし穴状土坑 完掘 (東から) 6. SK213 落とし穴状土坑 断面 (西から) 7. SK222 落とし穴状土坑 完掘 (東から) 8. SK222 落とし穴状土坑 断面 (東から)



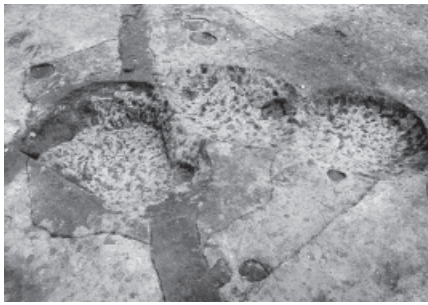
9. SK211 落とし穴状土坑 完掘状況 (南から) 10. SK211 落とし穴状土坑 断面 (南から) 11. SK222 落とし穴状土坑 堆積土掘削作業風景



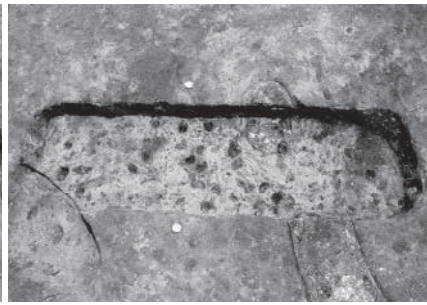
12. SK225 落とし穴状土坑 完掘状況 (北西から) 13. SK225 落とし穴状土坑 断面 (北西から) 16. SK170 土坑 完掘状況 (南東から)



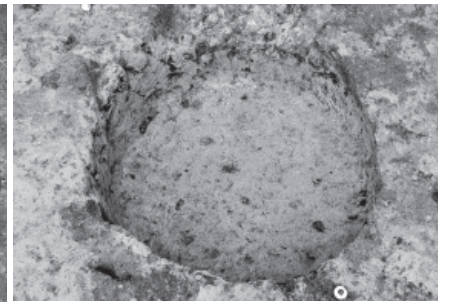
14. SK131・132 土坑 完掘状況 (南から) 15. SK131・132 土坑 断面 (南から) 17. SK170 土坑 断面 (北東から)



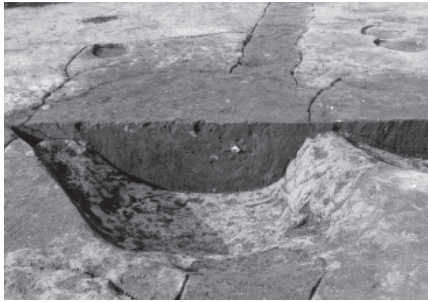
1. SK151・167・168 土坑 完掘状況 (南西から)



4. SK180 土坑 完掘状況 (北西から)



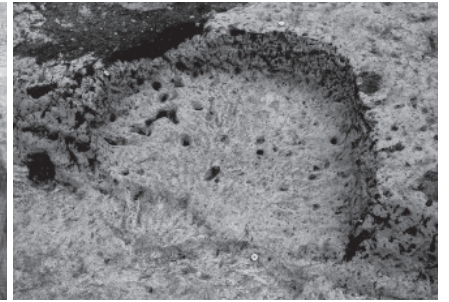
6. SK192 土坑 断面 (南東から)



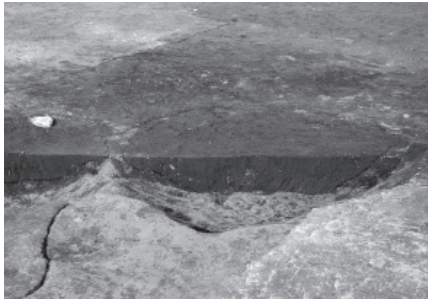
2. SK151・SK167 土坑 断面 (南から)



5. SK180 土坑 断面 (北東から)



7. SK209 土坑 完掘状況 (西から)



3. SK167・168 土坑 断面 (南西から)



8. SX153 性格不明遺構 断面 (北から)



9. SD144 溝跡 堆積土掘削作業風景



10. SD144 溝跡 (南西から)



1. SI139 竪穴住居跡、SD144 溝跡 (西から)



2. 2区 遺構完掘状況 (東から)



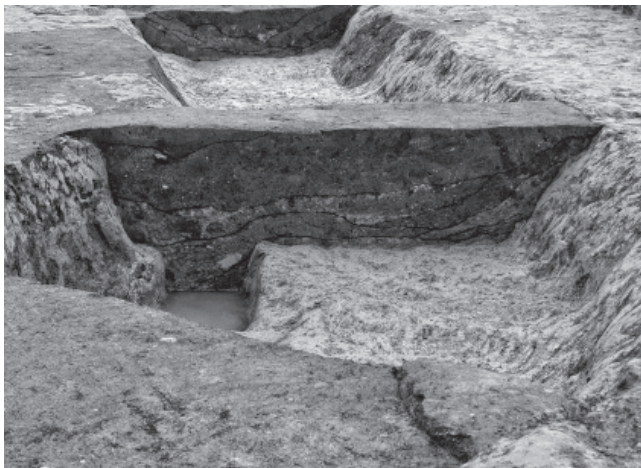
3. SD144 溝跡 完掘状況 (西から)



4. SD144 溝跡 北辺断面 (A-A' 南東から)



5. SD144 溝跡 北辺断面 (B-B' 南東から)



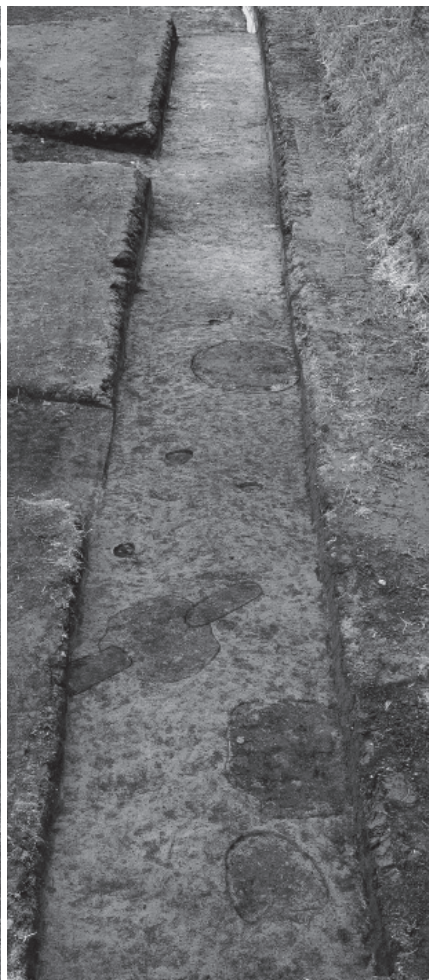
6. SD144 溝跡 西辺断面 (C-C' 北東から)



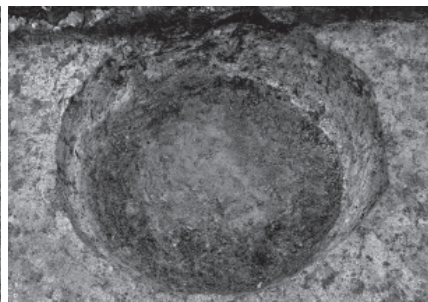
7. SD144 溝跡 西辺断面 (D-D' 北東から)



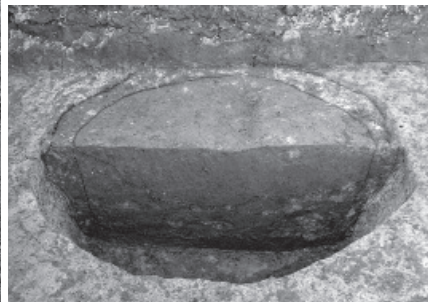
1. 3区 遺構確認状況 (南西から)



2. 3区 遺構確認状況 (北西から)



3. SE112 井戸跡 完掘状況 (南東から)



4. SE112 井戸跡 断面 (南東から)



5. SK123・124 土坑 断面 (東から)



6. 発掘調査成果見学会



7. 発掘調査成果見学会



8. 発掘調査成果見学会



9. 発掘調査成果見学会



1. T2区 遺構確認状況（東から）



2. T2区 遺構確認状況（西から）



3. T3区 遺構確認状況（南東から）



4. T4区 遺構確認状況、T4~6区 トレンチ掘削状況（南から）



5. T5区 遺構確認状況（南東から）



6. T6区 遺構確認状況（東から）



7. 遺物洗浄作業風景



8. 土器接合作業風景



9. 土器修復作業風景



10. 土器拓本作業風景



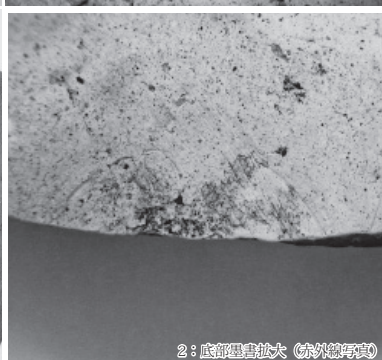
11. 土器実測作業風景



1

1: 底部墨書拡大 (赤外線写真)

2



1: 底部拡大

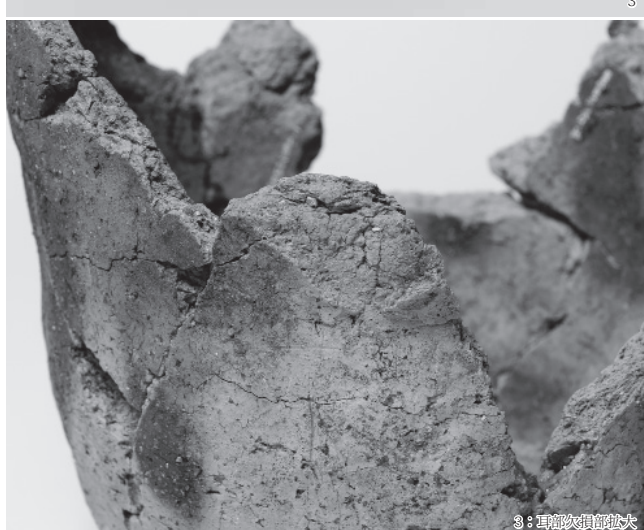
2: 底部墨書拡大 (赤外線写真)

2: 底部拡大



3

3: 底部拡大

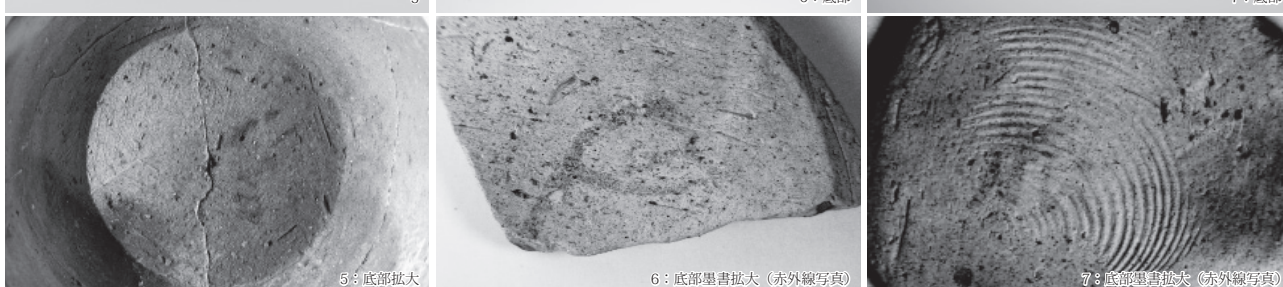
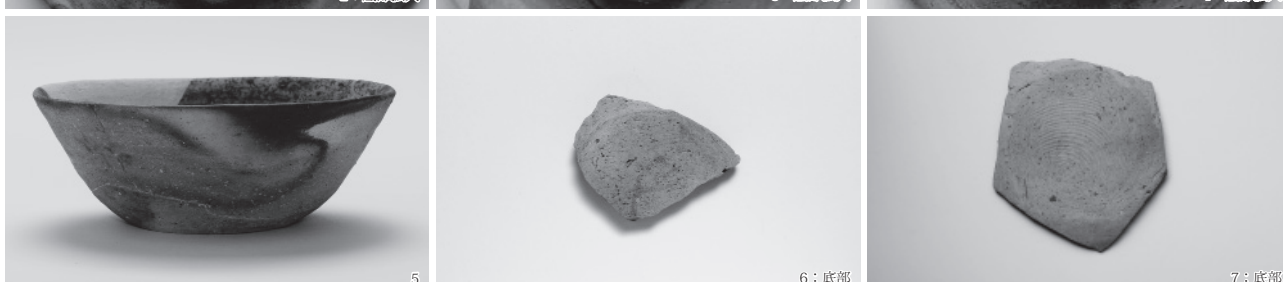
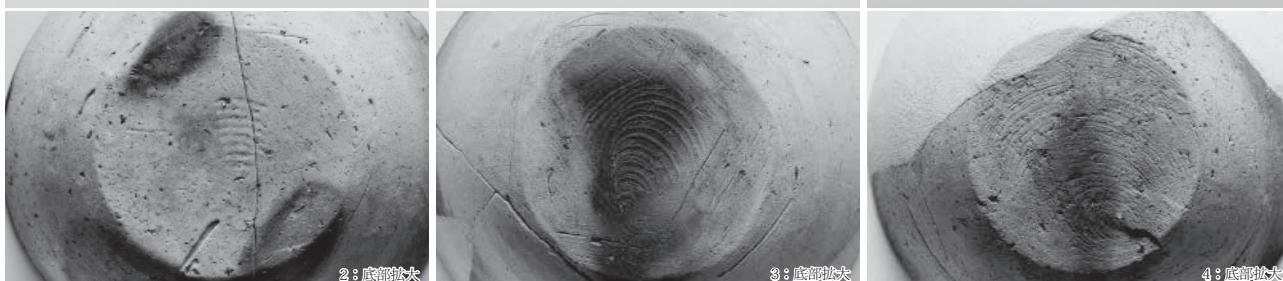


3: 耳輪欠損部拡大

4

(S ≒ 1/3)

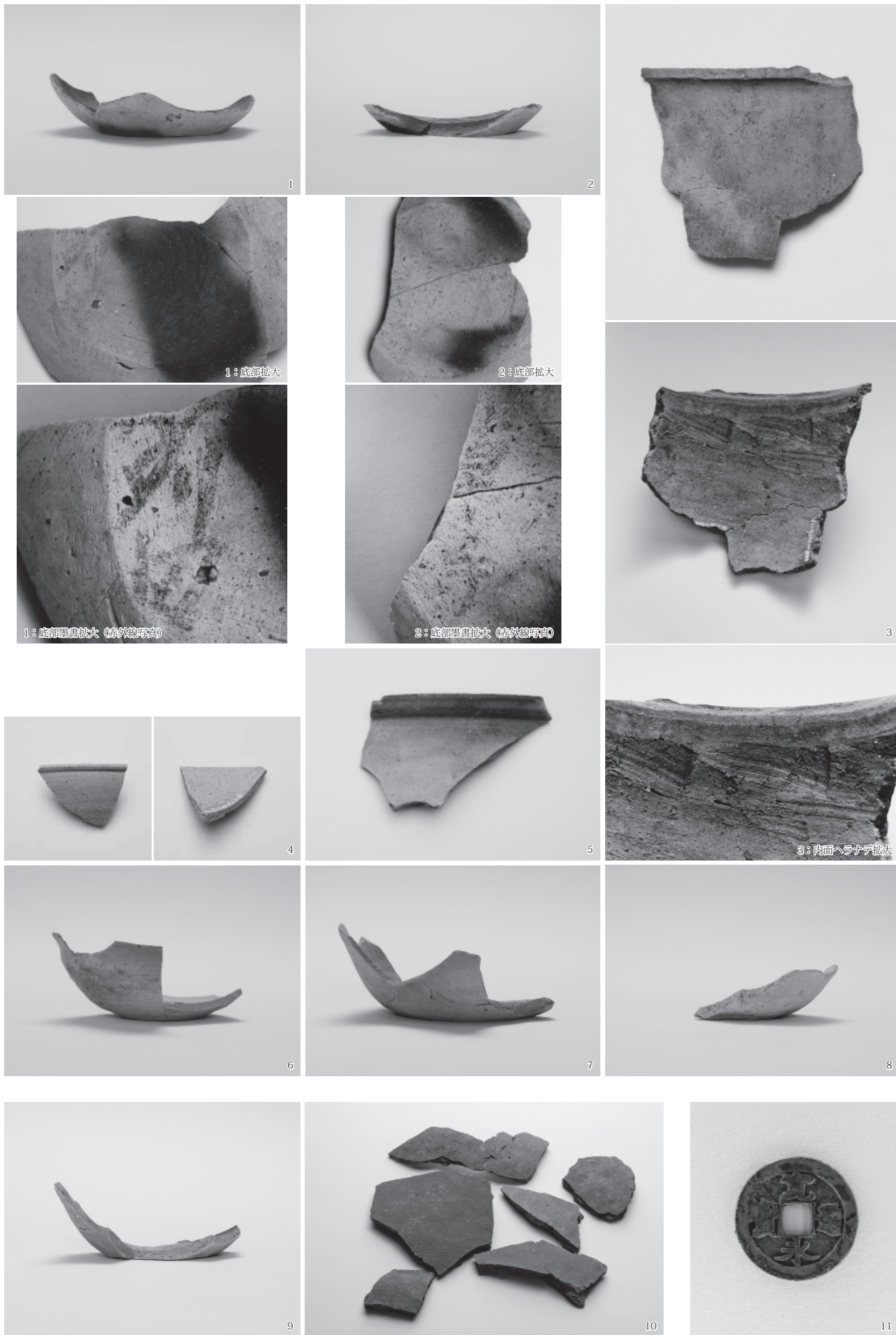
S11 竪穴住居跡出土遺物
(第10図)



(2~7: S ≒ 1/3 1: 任意)

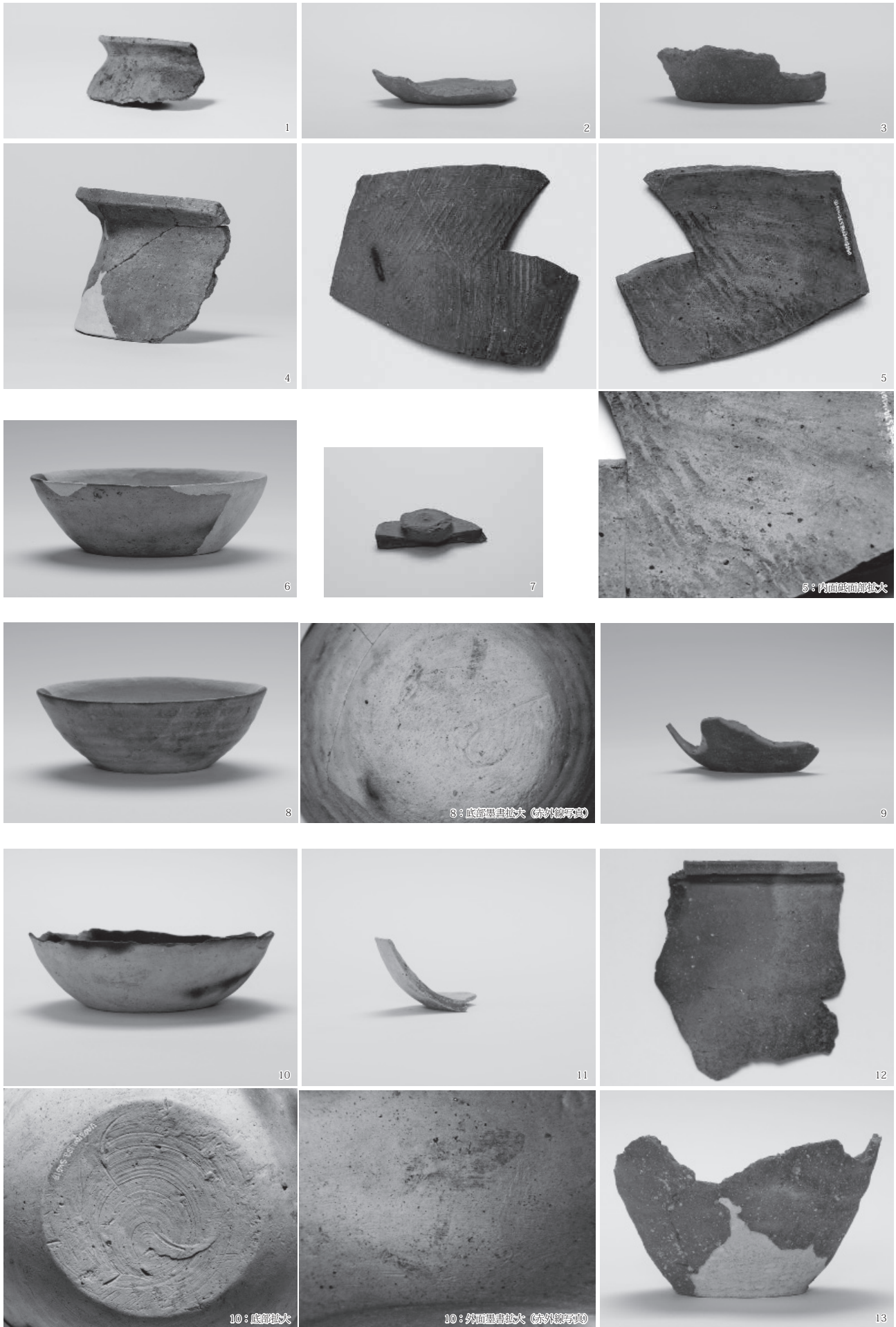
S13 竪穴住居跡出土遺物 (1)

(第16図)



(1 ~ 10 : S ≒ 1/3 11 : S ≒ 1/1)

S13 竪穴住居跡 (2)、SK7 土坑、SD64 溝跡出土遺物
 (1~8 : S13・第16・17図、9 : SK7・第43図、10 : SK7、11 : SD64・第47図)



(S ≡ 1/3)

S14 竪穴住居跡、SB10・SB15・SB20 掘立柱建物跡、SK6 土坑出土遺物

(1~5: S14・第21図、6: SB20・第25図、7: SB15・第25図、8・9: SB10・第25図7、10~13: SK6・第42図)



SE63 井戸跡出土遺物 (1)
(第 39 図)



b: 樺皮綴じ部分外面拡大



b: 樺皮綴じ部分内面拡大

SE63 井戸跡出土遺物 (2)

(第39図)

(S ≒ 1/3)



1



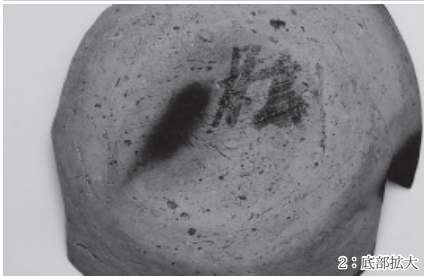
2



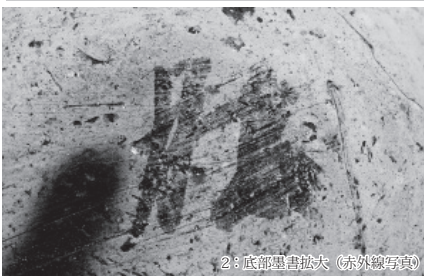
3



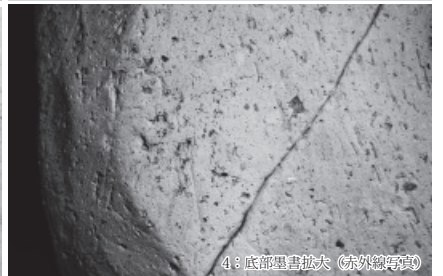
4



2: 底部拡大



2: 底部墨書拡大 (赤外線写真)



4: 底部墨書拡大 (赤外線写真)



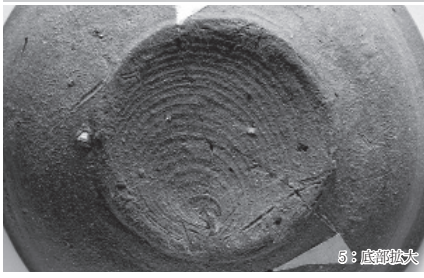
5



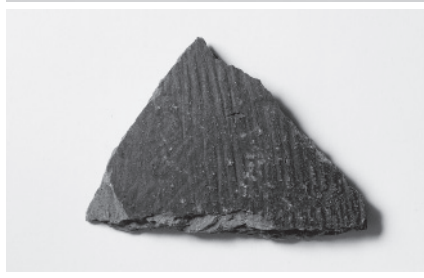
6



7



5: 底部拡大

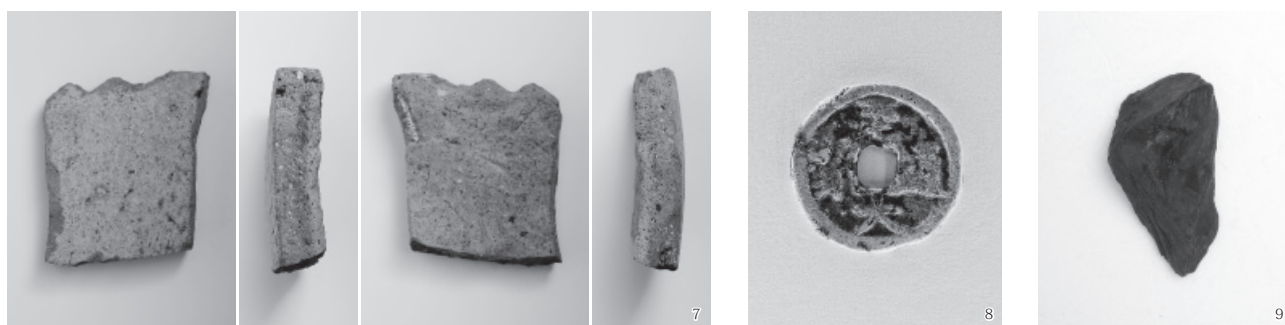
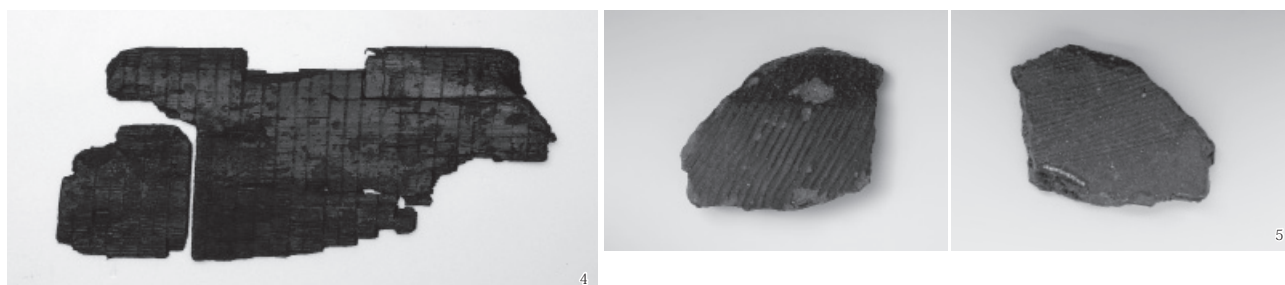


8

(2~8: 5 ≒ 1/3 1: 任意)

SX13 廃棄土坑出土遺物 (1)

(第40図)



(1・2・5～7・9 : S ≒ 1/3 3 : S ≒ 2/3 4 : S ≒ 1/5 8 : S ≒ 1/1)

SB101 掘立柱建物跡、SA233 柱列跡、SE106・SE111・SE112 井戸跡出土遺物、SX13 廃棄土坑出土遺物 (2)

(1～3 : SX13・第40図、4 : SE106、5 : SE106・第53図、6 : SE111・第53図、7 : SE112・第53図、8 : SB101・第48図、9 : SA233)



1



2



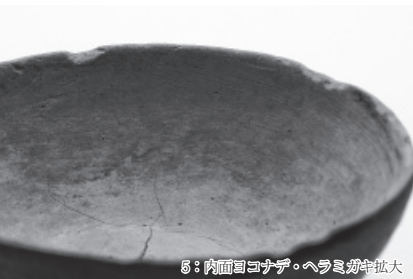
3



4



5



6: 内面ヨコナデ・ヘラミ羽半拡大



6



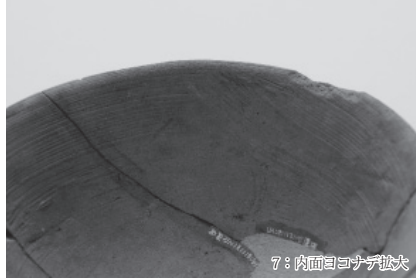
7



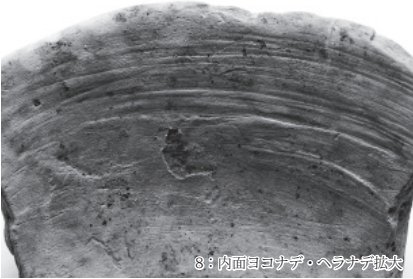
8



9



7: 内面ヨコナデ拡大



8: 内面ヨコナデ・ヘラミ羽半拡大

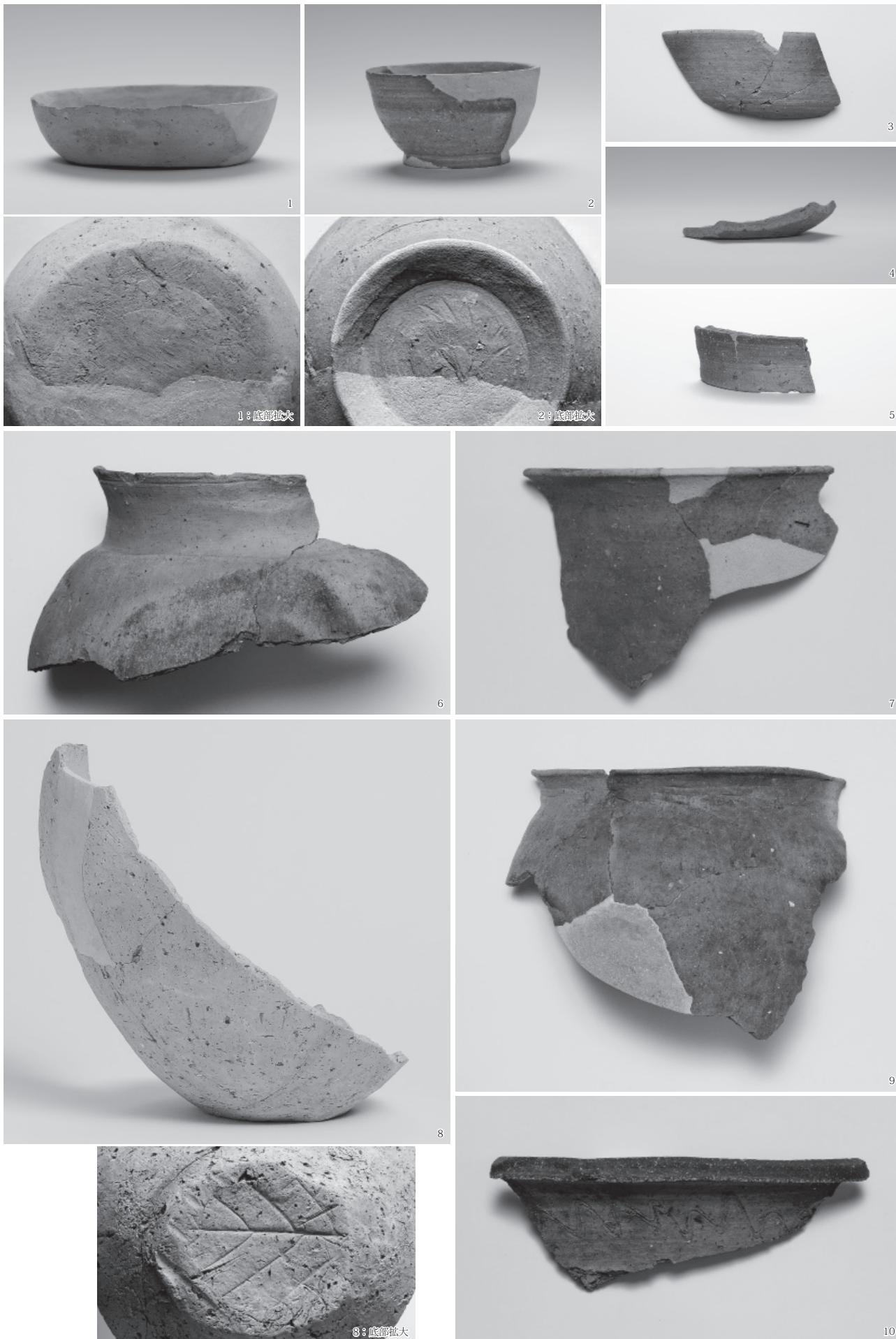


10

(2~10: S ≒ 1/3 1: 任意)

SX114 粘土採掘坑出土遺物 (1)

(第59図)



(S ≒ 1/3)

SX114 粘土採掘坑出土遺物 (2)

(第 59・60・61 図)



1



2



3



4



5



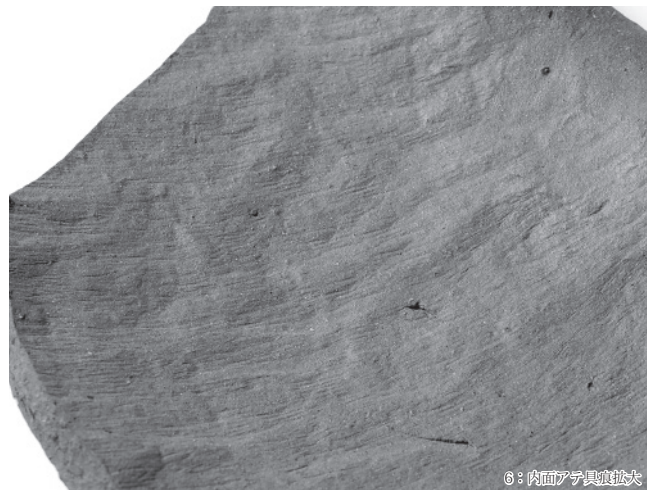
6



7



8

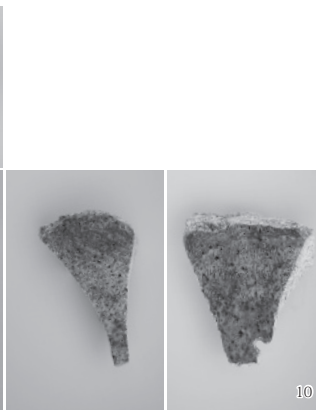
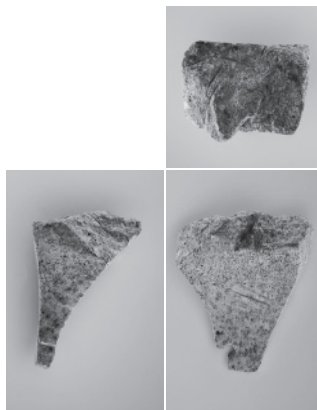
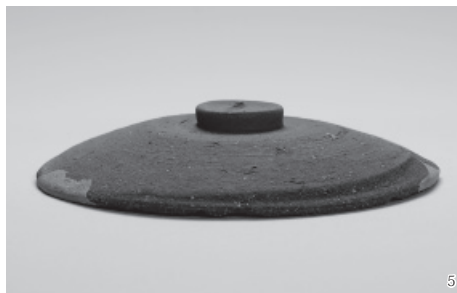
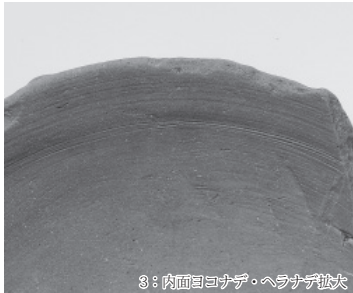
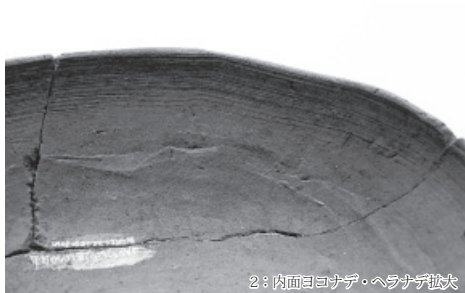


6: 肉面アテ具類磁土

(1~6・8: S ≒ 1/3 7: S ≒ 1/5)

SI125 竪穴住居跡出土遺物、SX114 粘土採掘坑出土遺物 (3)、SX117 竪穴状遺構出土遺物

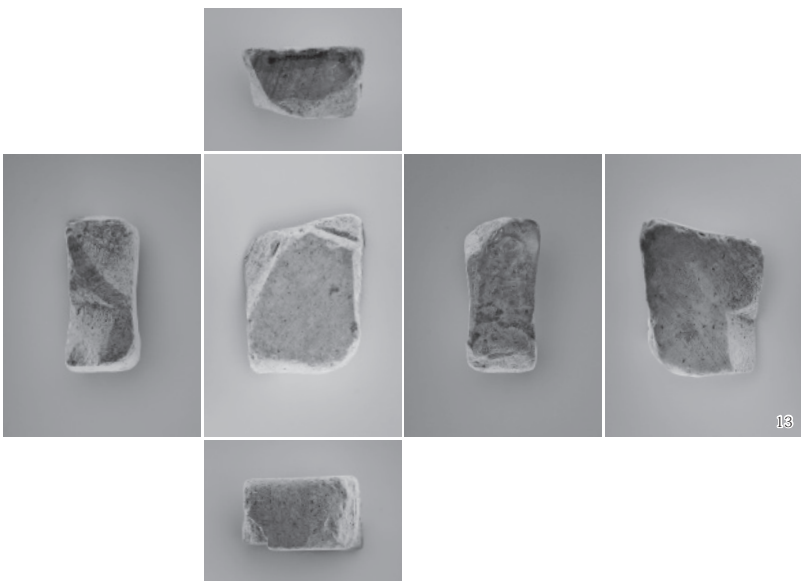
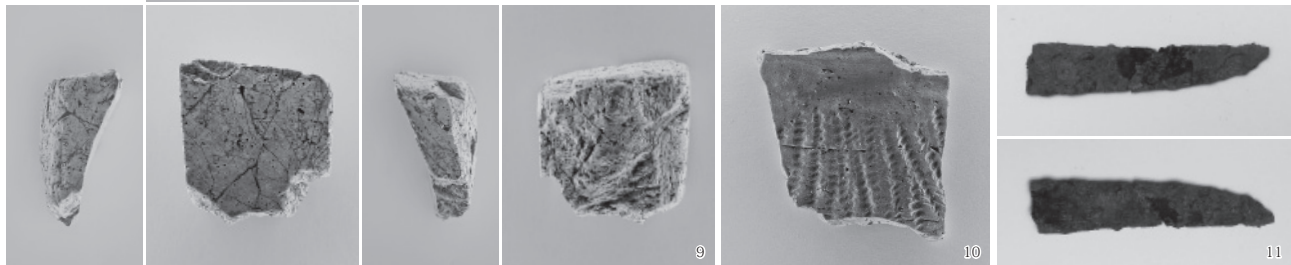
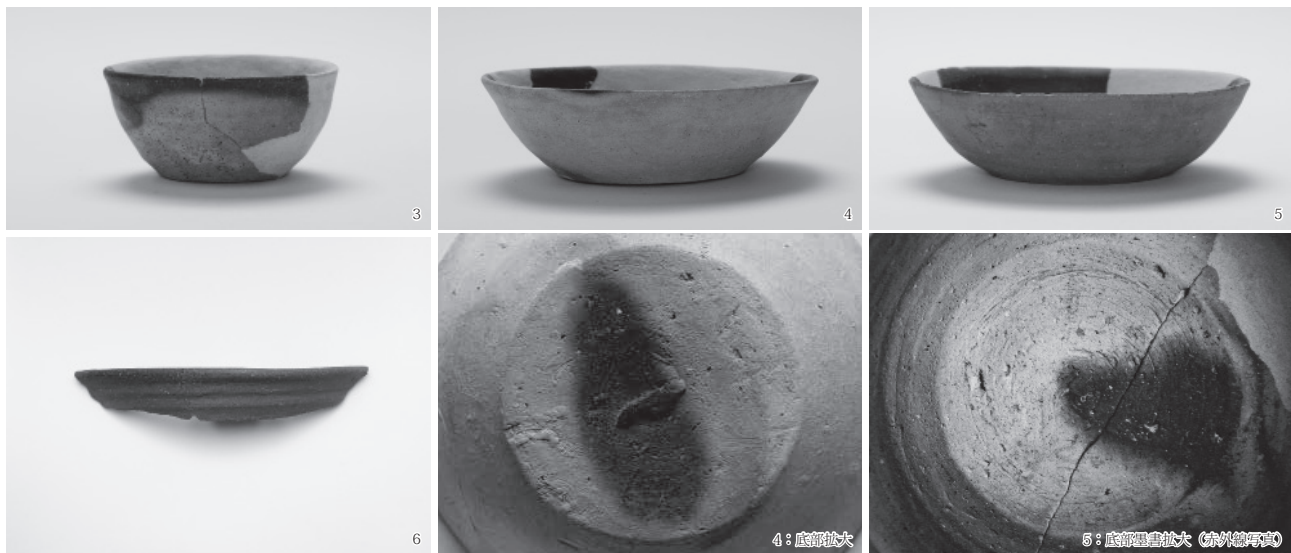
(1~3: SX114・第60図、4~6: SI125・64図、7: SX117・第62図、8: SX117)



(2~5・10: S ≒ 1/3 6~8: S ≒ 1/2 9: S ≒ 2/3 1: 任意)

S1140 竪穴住居跡出土遺物

(2~8: 第69図、9・10: 第70図)



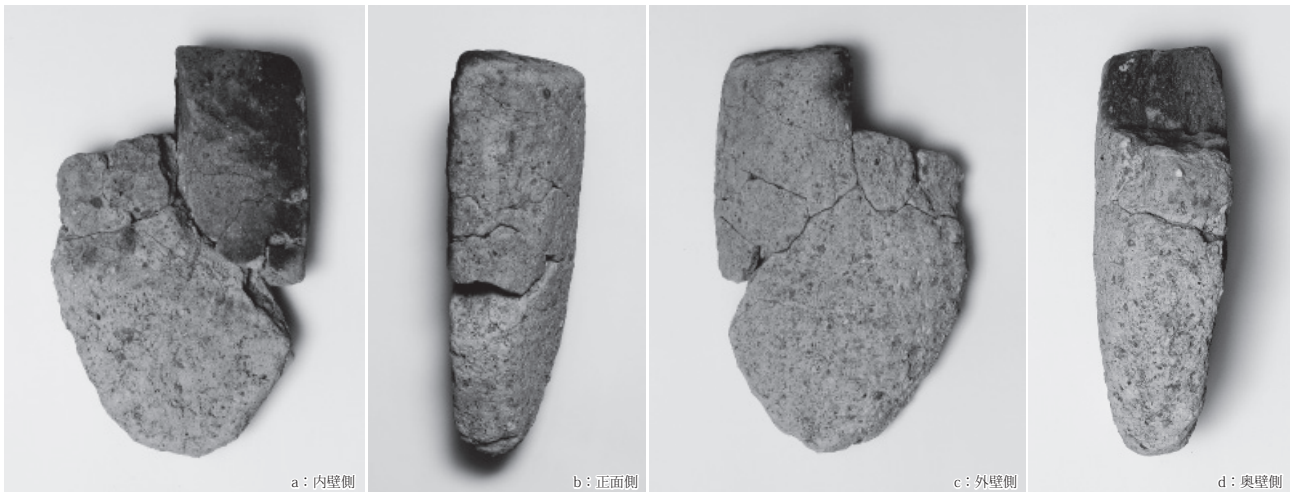
(1・2・10: S ≒ 1/2 3~9・12・13: S ≒ 1/3 11: S ≒ 2/3)

SI139・142・143 竪穴住居跡出土遺物

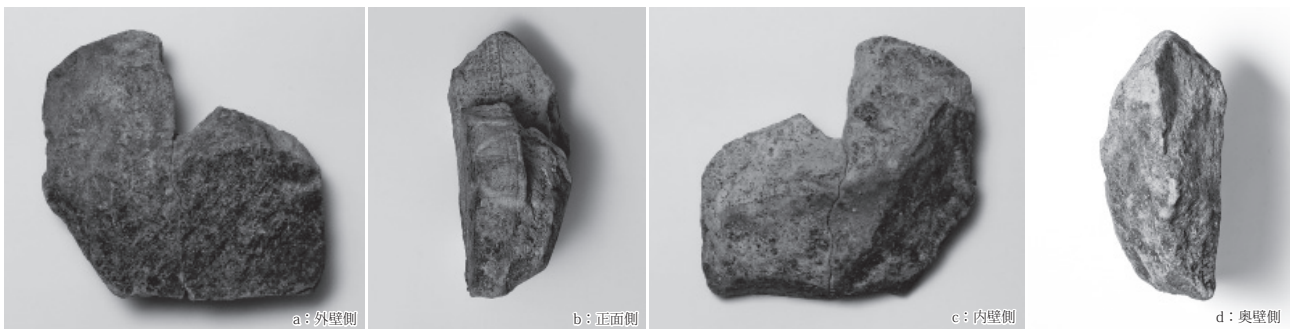
(1・2: SI139・第66図、3~11: SI143・第75図、12・13: SI142・第71図)



1: 焚口部横架材



2: 焚口部右側構築材

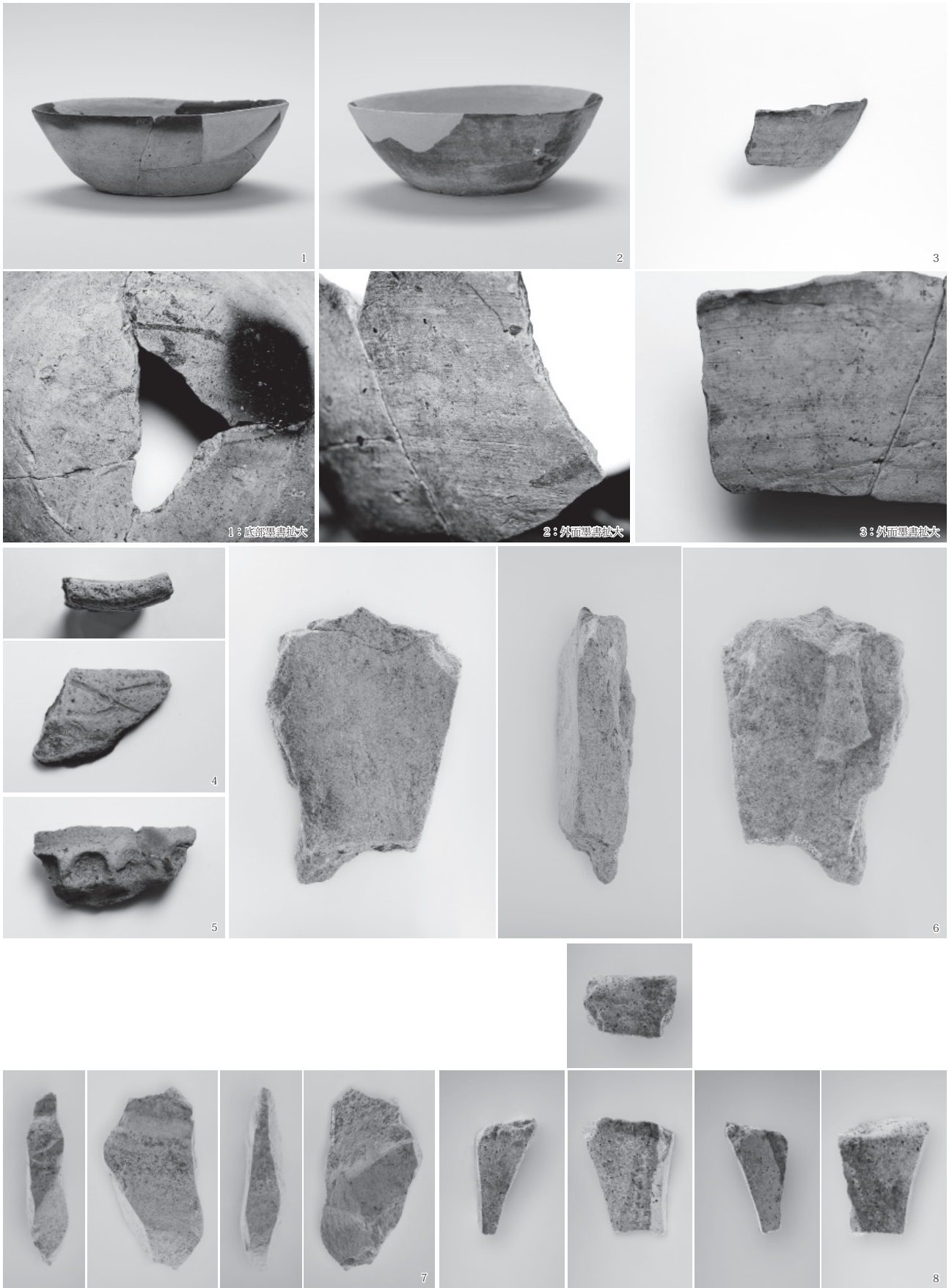


3: 焚口部左側構築材
(S ≒ 1/6)



(1~3・5・6 : S ≒ 1/3 4 : S ≒ 2/3)

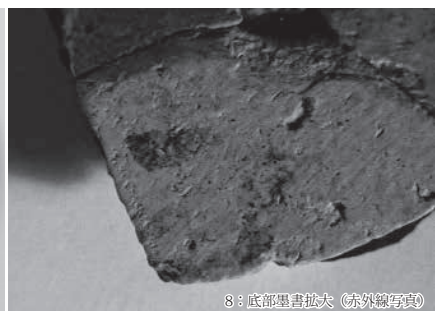
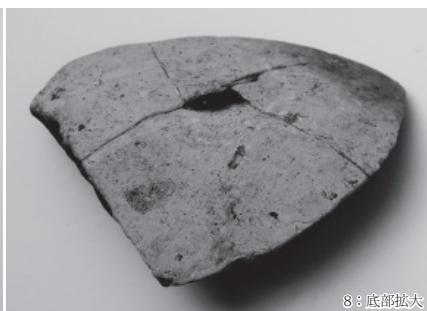
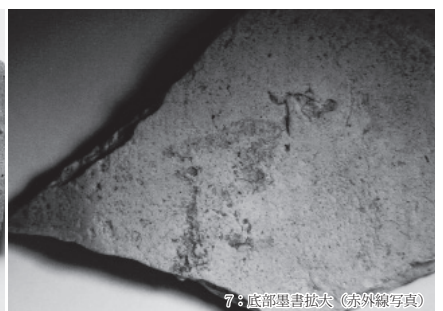
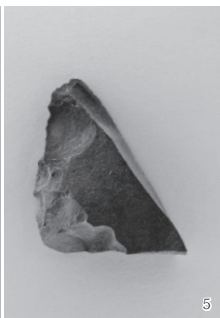
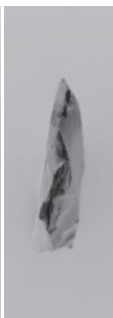
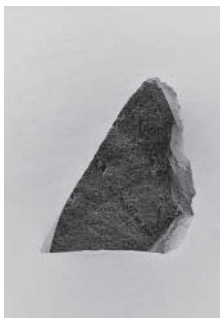
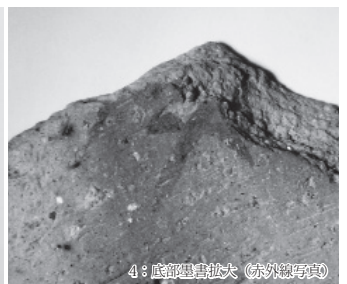
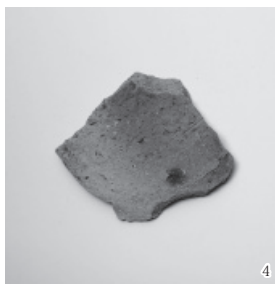
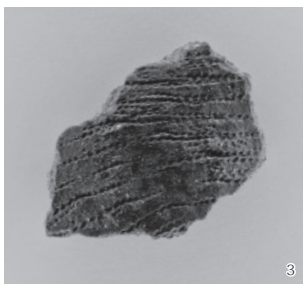
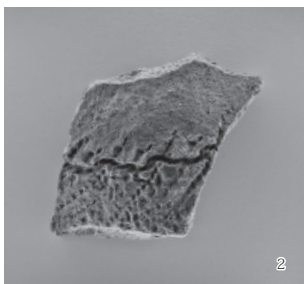
SI156・178 竪穴住居跡出土遺物
(1~5 : SI156・第77図、6 : SI178・第83図)



(1~3・6~8: S ≒ 1/3 4・5: S ≒ 1/2)

SI157 竪穴住居跡出土遺物 (1)

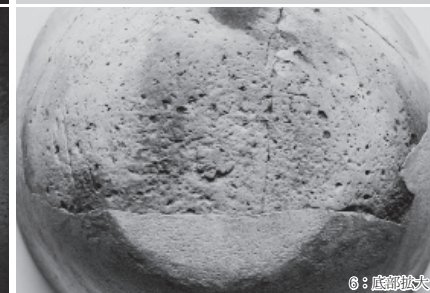
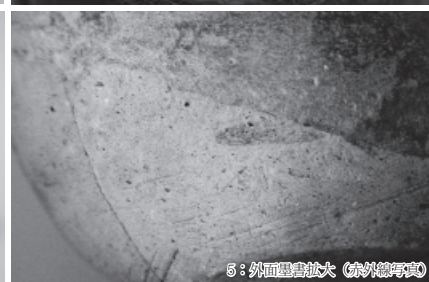
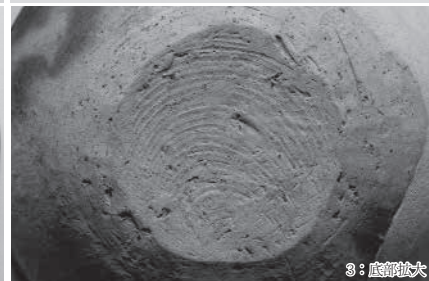
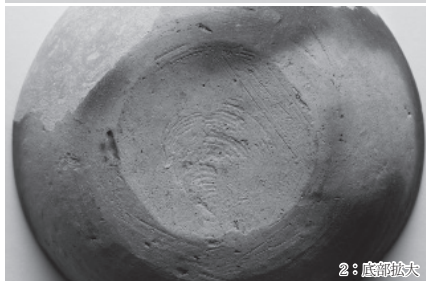
(1~5: 第80図、6~8: 第81図)



(1・5: S ≒ 2/3 2・3: S ≒ 1/2 4・6~8: S ≒ 1/3)

SI157 竪穴住居跡出土遺物 (2)、SB127 掘立柱建物跡、SK131・132・151・170・193・227 土坑出土遺物

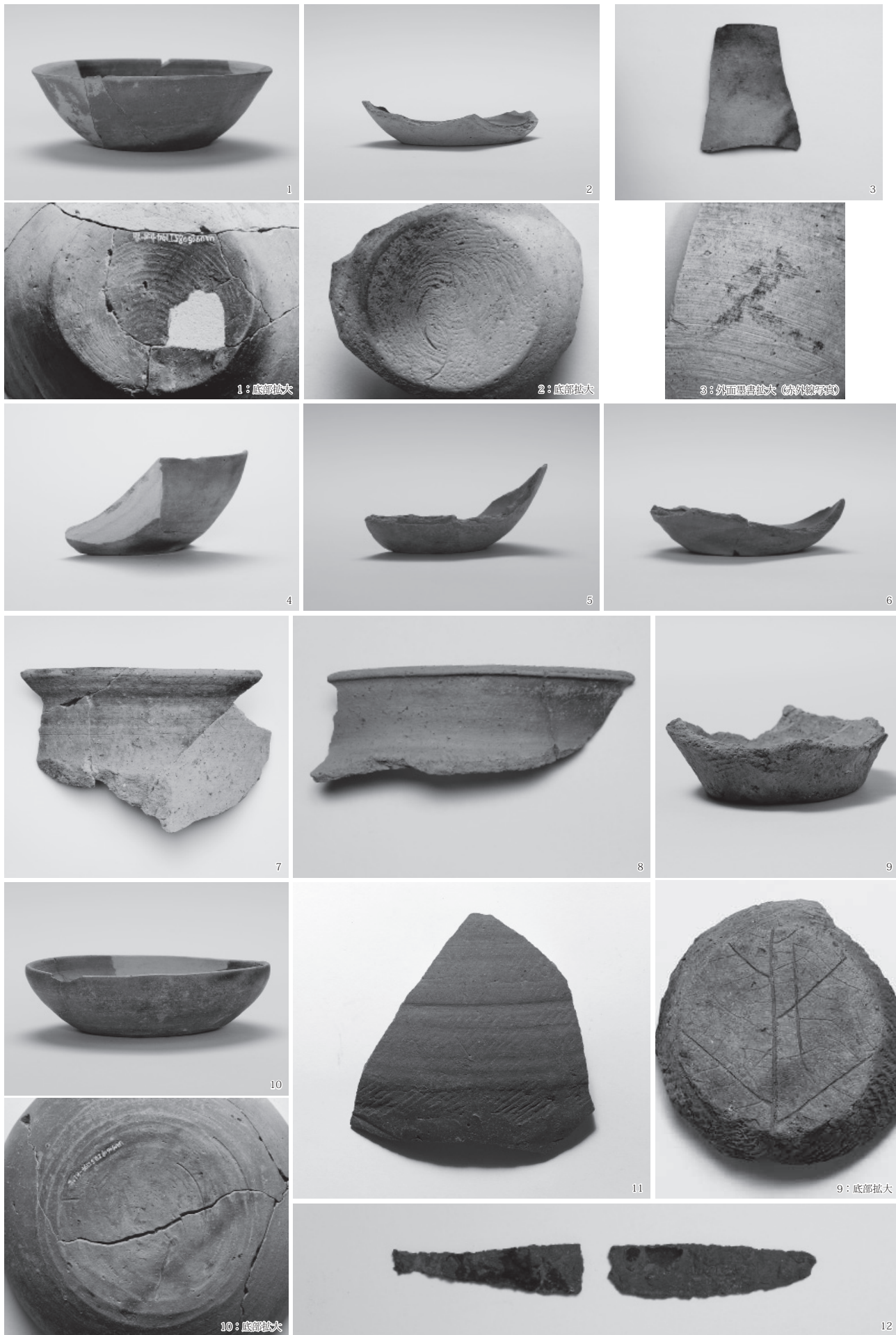
(1: SI157・第80図、2: SB127・第87図、3: SK131・132・第96図、4: SK170・第98図、5: SK151・第97図、6: SK151、7: SK193・第102図、8: SK227・第102図)



(2~6: 5 ≒ 1/3 1: 任意)

SI194 竪穴住居跡出土遺物 (1)

(第 85 図)



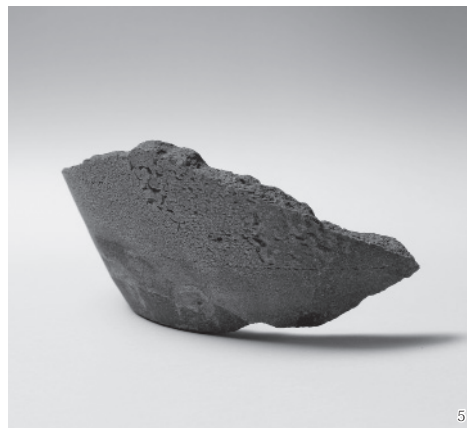
(1~8・10・11: S ≒ 1/3 9: S ≒ 1/2 12: S ≒ 2/3)

SI194 竪穴住居跡出土遺物 (2)

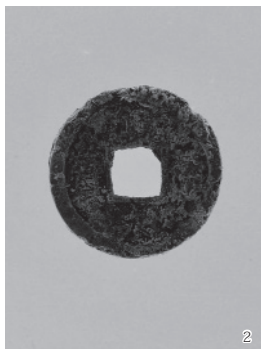
(1~7: 第85図、8~12: 第86図)



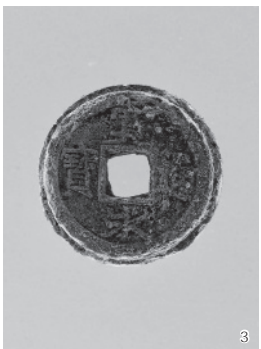
1



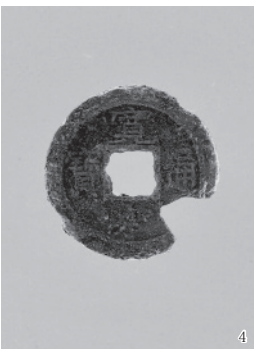
5



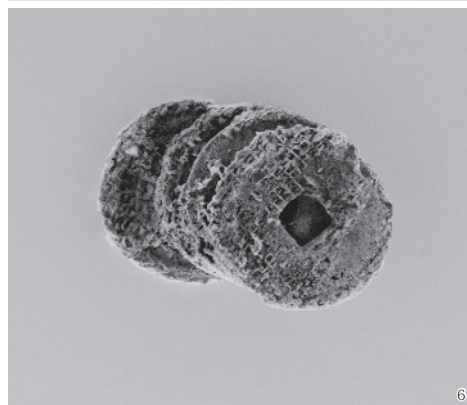
2



3



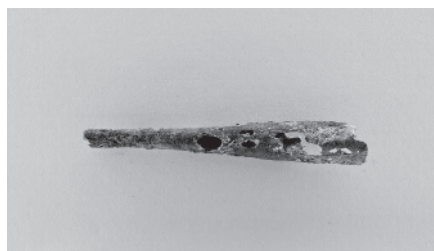
4



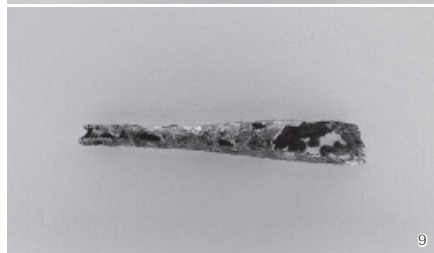
6



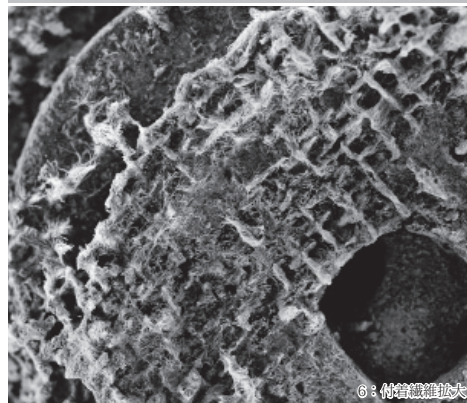
7



8



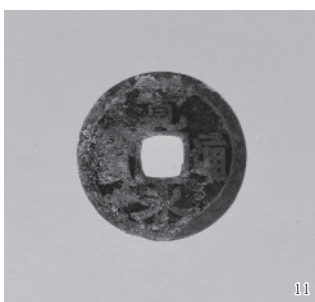
9



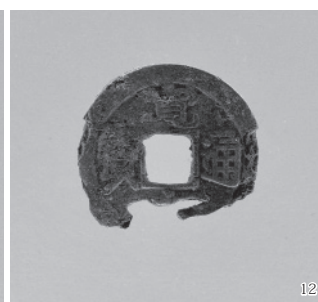
6: 竹筒織羅拡大



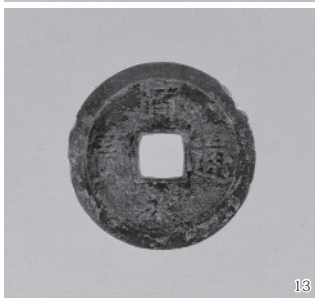
10



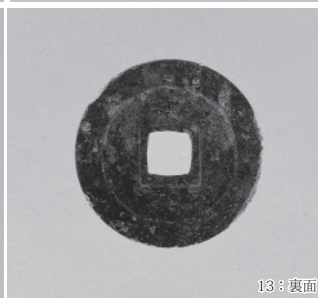
11



12



13

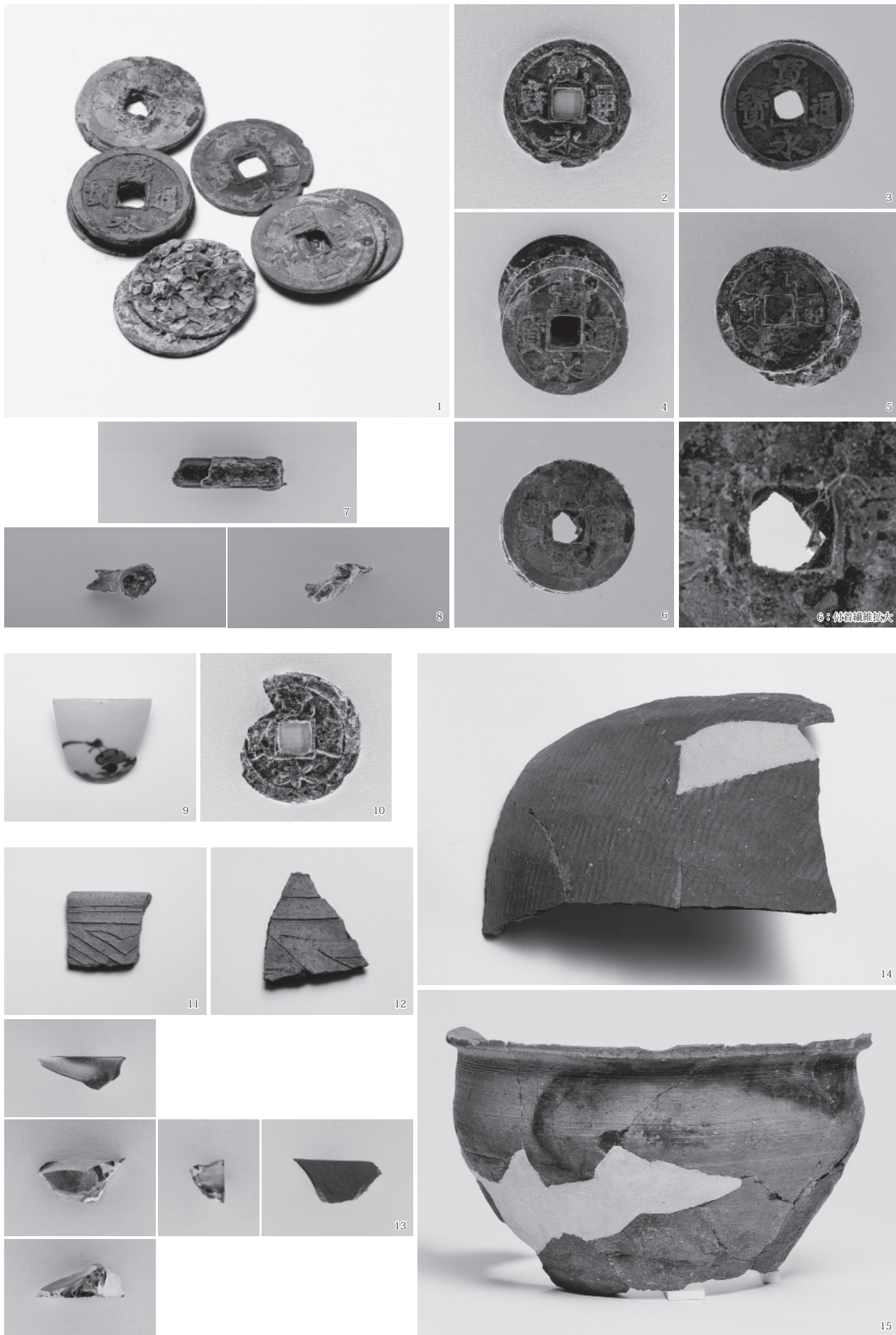


13: 裏面

(2~4・6・11~13: S ≒ 1/1 5: S ≒ 1/3 7~9: S ≒ 2/3 1・10: 任意)

SK163・166・205・207・208 近世墓出土遺物

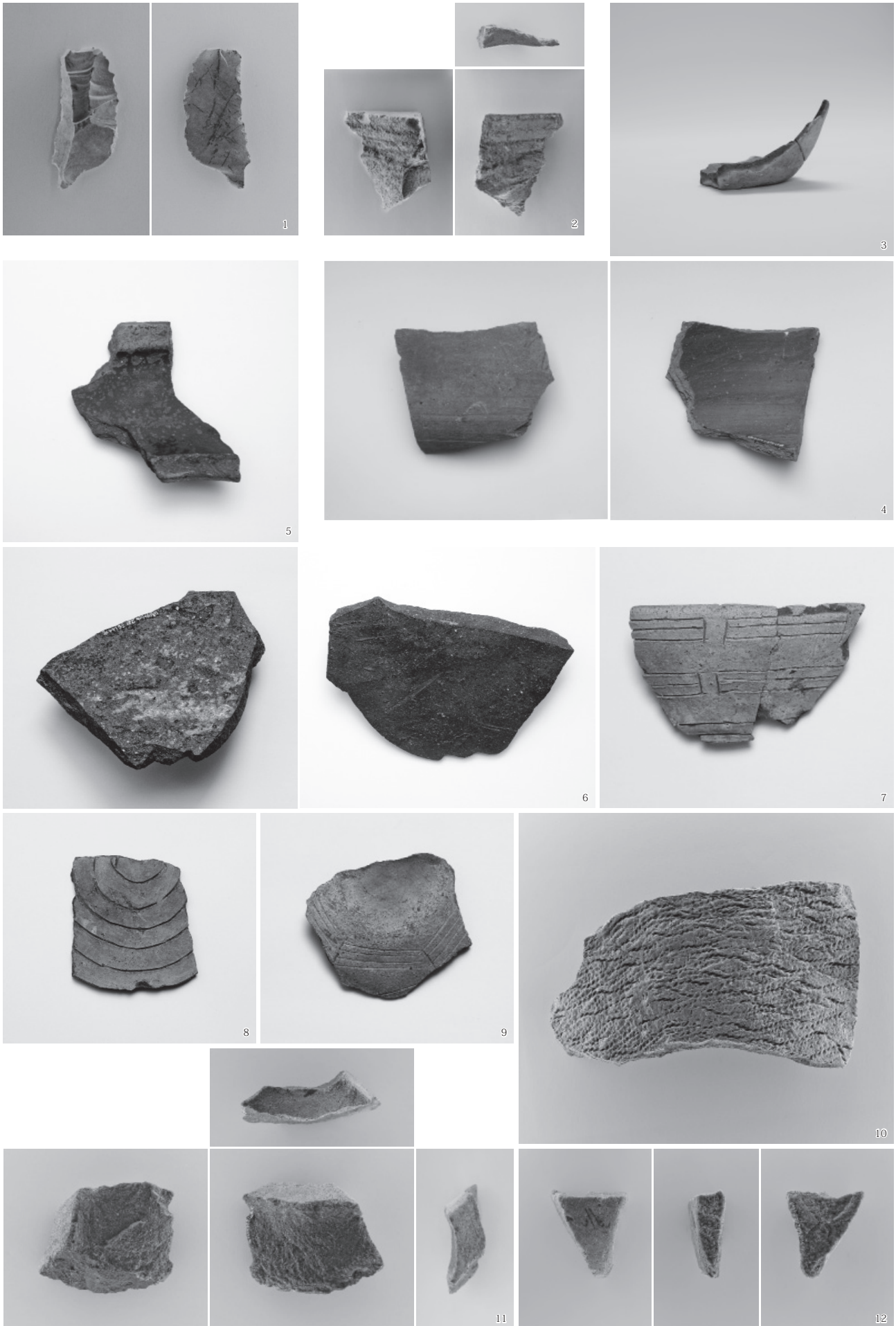
(1~4: SK163, 5: SK166・第91図, 6: SK166, 7: SK205, 8・9: SK207, 10・12: SK208, 11・13: SK208・第92図)



(2~6・10: S ≒ 1/1 7・8・13: S ≒ 2/3 9・14・15: S ≒ 1/3 11・12: S ≒ 1/2 1: 任意)

SK216 近世墓、SK226 落とし穴状土坑、SK209 土坑出土遺物

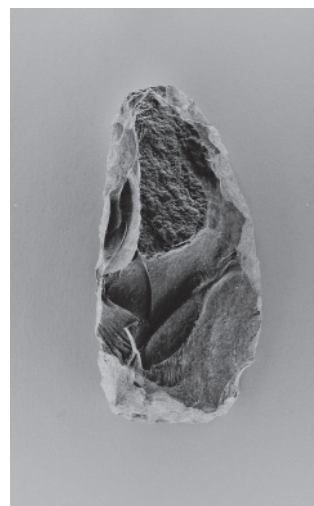
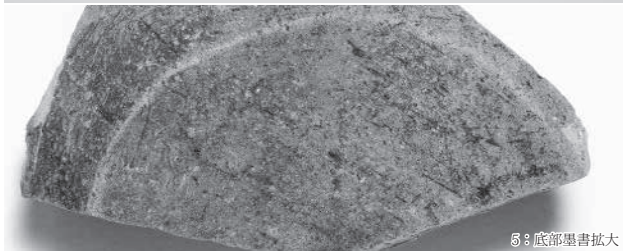
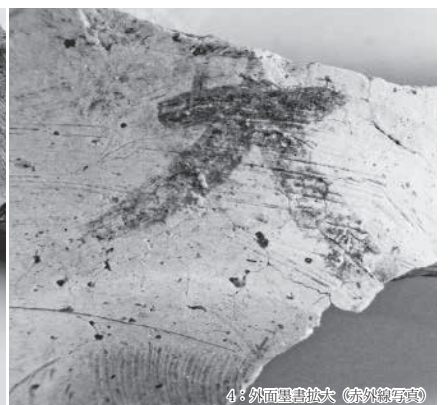
(1・5~8: SK216、2~4: SK216・第93図、9: SK226・第103図、10: SK226、11~15: SK209・第102図)



(1 : S ≒ 2/3 2~6・11・12 : S ≒ 1/3 7~10 : S ≒ 1/2)

SK211 土坑、SD150・161・144 溝跡出土遺物

(1 : SK211・第95図、2 : SD161・第106図、3・4 : SD150・第110図、5~12 : SD144・第105図)



(1・3～5 : S ≒ 1/3 2 : S ≒ 1/5 6 : S ≒ 2/3)

P82・130 柱穴跡、遺構外出土遺物

(1 : P130・第111図、2 : P82、3～6 : 遺構外・7 : S)

【 解 説 】

かけがえのない遺跡を未来へ

私たちの足もとには、昔の人びとが暮らした家の跡や、そこで使われた土器や石器などの道具が埋もれている場所があります。このように、昔の人びとの生活の跡が残されている場所を、「遺跡」と呼んでいます。遺跡は、長い歴史の中で大地に刻み込まれた私たち人間の生活の記憶なのです。

蔵王山麓の豊かな自然環境に恵まれた蔵王町には、私たちの祖先が残した多くの遺跡があります。人々がいつ、どのようにして郷土蔵王に住み着いたのか。彼らは日々の生活をどのように送り、何歳まで生きたのか。土器づくりは誰の仕事だったのか。興味の尽きないテーマです。

遺跡を調べることで昔の人びとの知恵に学び、私たちの歴史や文化をよく知ることは、私たち自身の生活を見直したり、将来を考えるためにとても大切な役割を果たしています。そのためには、長い歴史を経て今日に伝えられている大切な遺跡を、私たち国民共有の財産として、未来の子どもたちの世代へ守り伝えていかななくてはなりません。

遺跡を記録に残すための発掘調査

前戸内遺跡は、小村崎地区のなだらかな丘の上に埋もれている昔の人々の生活の跡です。小村崎・平沢地区の円田盆地では、水田や畑を使いやすく作り変えるほ場整備工事が計画されました。できるだけ遺跡を壊さないで工事を行なうために、地元地権者の皆さんでつくる蔵王町土地改良区や工事を行なう宮城県大河原地方振興事務所ではたくさんの工夫をしました。それでも、どうしても遺跡が壊れてしまう部分では、工事を行なう前にどのような遺跡が残されているかを詳しく調べ、その様子を写真や図面に記録するために、蔵王町教育委員会が発掘調査を行なうことになりました。発掘調査では、たくさんの発掘作業員の皆さんが汗を流しました。このように、たくさんの人びとの努力によって、前戸内遺跡の記録を残すことができたのです。

前戸内遺跡の時代

ここに刊行した「前戸内遺跡発掘調査報告書」をひも解くと、雄大な蔵王山麓に抱かれた円田盆地に暮らした人びとの歴史であり、前戸内遺跡が平安時代の地方の村の様子を具体的に知ることができる重要な遺跡だったことが分かります。発掘調査では、今から1,200～1,150年ほど前（平安時代はじめ頃）の村の跡が発見されました。当時の普通の農民の家は竪穴住居で、各地の遺跡からたくさんの住居跡が見つっています。前戸内の村にも、たくさんの竪穴住居があったようです。そのような農民の村の一角に、豪族の居宅（住まい）がつくられたのです。豪族とはどんな人で、前戸内の村でどんな暮らしをしていたのでしょうか。



前戸内遺跡の発掘調査 平安時代の村の一角で、掘立柱建物が建ち並んでいた場所が見つかりました。主屋と倉庫などを備えた豪族の家の跡だったと考えられ、文字の書かれた土器などが出土しています。写真は、見つかった建物の柱の跡などを調査員がひとつひとつ図面に記録しているところです。

「豪族」と聞いて、みなさんはどんな人をイメージするでしょうか。歴史の授業を思い出してみよう。飛鳥時代に大和政権の中枢を担ったのは、蘇我氏や物部氏、葛城氏といった大和盆地に勢力を広げた豪族たちです。一方、平安時代には関東平野の平将門や瀬戸内地方の藤原純友といった地方の豪族が古代国家へ反逆を企てました。みなさんは、名取市の雷神山古墳や、仙台市の遠見塚古墳へ行ったことがあるでしょうか。これらは、古墳時代に仙台平野で活躍した豪族の墓です。私たちの住む東北地方でも、古くから様々な豪族たちが活躍していたのです。「豪族」は、その地域に昔から代々住み着き、多くの人々を使って農業や漁業などを大規模に経営した人々で、古代国家ともつながりがありました。彼らは地域のリーダーであり、有能な経営者であり、そして地方の役人でした（田中広明さん『豪族の暮らし』より）。

もう少し日本の歴史を思い出してみよう。奈良時代の中頃、仏教によって国を守り繁栄させようと考えた聖武天皇は、諸国に国分寺と国分尼寺を、奈良に東大寺と法華寺を建立する国家プロジェクトを進めていました。東大寺には大仏を造立するのです。しかし、これには莫大な資金が必要でした。このため、国家の税収を増やす方策として考え出されたのが「墾田永年私財法」の発布でした。これまで、田はすべて朝廷のものでしたが、この法律によって、新しく開墾した田は永久に開墾した人に所有権が認められたのです。地方の豪族たちは農民を集めて田を切り拓き、農民たちに稲を貸し付けて米づくりをさせ、そこから土地代や年貢を徴収しました。農民に暇ができる農閑期には、機織りや鉄器づくりといった手工業に従事させました。こうして税をはるかに超える生産を行ない、豪族たちは富を集積していったのです。前戸内遺跡は、このような豪族たちが活躍した時代の地方の様子を知ることができる興味深い遺跡なのです。

平安時代の村と豪族の居宅

平安時代のはじめ頃になると、前戸内の丘にはたくさんの竪穴住居や掘立柱建物が建てられました。人びとが盆地の一角に村を作り、稲作を行っていたのです。丘の少し小高いところには、豪族の居宅（住まい）がありました。主屋や倉が広場を囲むように建ち並び、まるで郡の役所を小さくしたようなつくりです。役所のように周りを取り囲む高い塀や大きな溝はなく、瓦を用いた建物もありますが、当時の郡の名前である「苅田」など、文字の書かれた土器がたくさん出土しているので、広場では大事な儀式や村の人びとを招いて酒宴が行なわれたようです。

当時の村は、およそ50戸ごとに「郷」という単位でまとめられ、その土地の豪族や有力な農民から「郷長」が選ばれました。郷長は、村の代表者であると同時に、税の取り立てや稲の貸付の管理にあたる役人でもあったのです。前戸内の村につくられた豪族の居宅には稲を納めた倉が建ち並



竪穴住居跡の調査 竪穴住居は地面を四角く掘り窪めたところに柱を立て、屋根を葺いた建物です。写真奥の壁際に見えるのはカマドの跡です。



大型の掘立柱建物跡 掘立柱建物は周囲に柱を立て、その上に屋根を葺いた建物です。写真は柱を立てた穴の跡で、柱の位置に人が立っています。

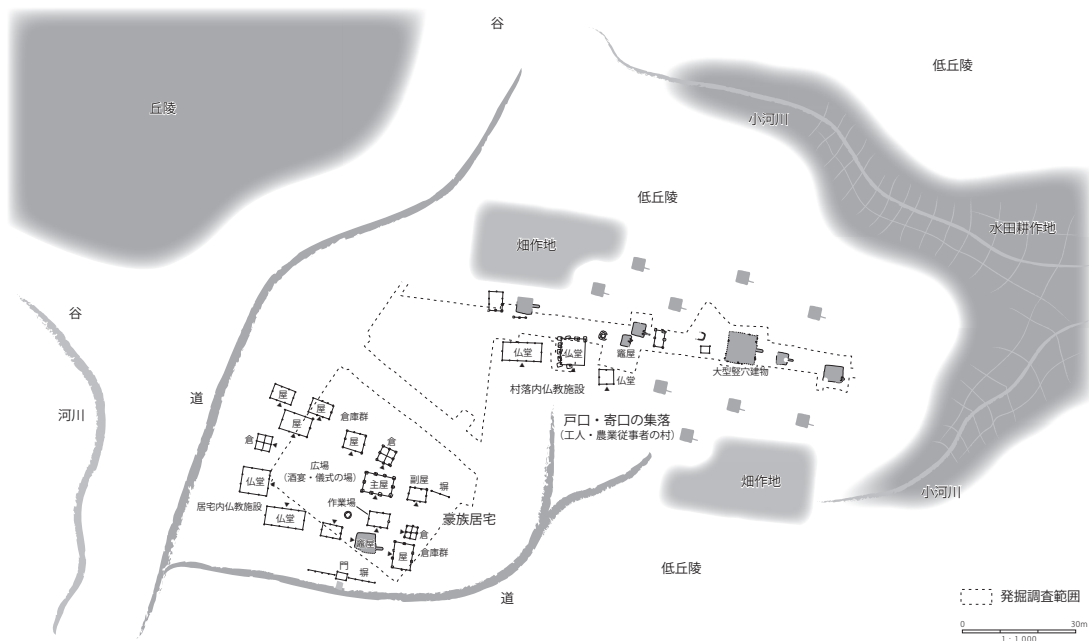
んでいたようですから、彼もまた郷長という役人でもあったのかもしれません。

豪族の居宅から少し離れた水辺の近くには、農民の住居が建ち並んでいました。水辺の湿地に田を拓き、米づくりをしていたのでしょう。住居やその周りからは鉄の小刀や鎌、鉄くずや砥石が出土したので、米づくりの終わった冬には鍛冶をして鉄の道具づくりをしていたようです。そして、農民の村の一角には、正方形の大きな建物が建てられました。豪族の居宅の主屋よりも大きな建物です。この建物が何に使われたのか、発掘調査でははっきりとは分かりませんでした。他の地域で発掘された遺跡について調べてみると、このような建物の周辺から仏教に関係する道具などが出土することがあるので、仏像を安置した仏堂だったのかもしれません。奈良時代に聖武天皇が全国に広めた仏教は、平安時代には地方の村にも広まりつつありました。地方ではたくさんの農民たちの働きが豪族の活躍を支え、豪族は農民へ仏教の教えを広める窓口となったのでしょう。

平安時代の村を復元する

発掘調査で見つかった村の跡や出土した土器などを詳しく調べ、各地の遺跡などと比較した結果、前戸内遺跡には平安時代の村がつくられ、そこには村を代表する豪族の居宅もあったことが分かりました。このようにして解き明かされた村の様子を視覚的に表現してみなさんに分かりやすく伝えるために、復元画を製作しました。遺跡から発掘されたのは、建物の柱を立てた穴やカマドで火を焚いた跡など地面に残された痕跡なので、地上の建物がどんな造りになっていたのか、屋根はどのように葺かれていたのかを知ることはできません。前戸内遺跡の村の跡を詳しく調べた鈴木調査員は、発見された建物の柱の配置をもとに、現在まで残されている平安時代の建物や、中世の絵図に描かれた建物などを参考にしながら村の様子を復元し、我妻調査員が復元画を製作しました。

今回発掘調査されたのは前戸内遺跡のごく一部なので、発掘の結果だけでは村の景観を十分に表現できません。このため復元画の製作にあたっては、調査の結果や他の遺跡の事例などを参考にしながら、周辺にあった可能性のある建物などをいくつか追加した想定復元図を作成しました。この想定復元図を基に、建物の様子などを描いた復元画を製作しました。



平安時代の村の想定復元図 破線で囲まれた部分が発掘調査をした範囲です。発見された建物は様々な時期のものがあるので、位置関係などから同時に存在した建物を推定し、最大公約数的な集落の姿を示しています。また、調査範囲内の建物の分布状況や類似する遺跡の事例などから、周辺に存在したと推定される建物や施設をいくつか追加しています。この復元図に基づいて復元画を製作しました。



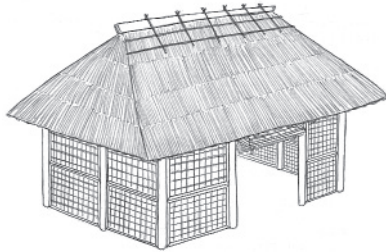
← <門と塀>

調査では発見されていませんが、いくつかの豪族の居宅跡では簡単な塀と門が見つかっています。ただし役所や寺などとは違い、居宅の敷地全体を取り囲むような塀は造られていません。



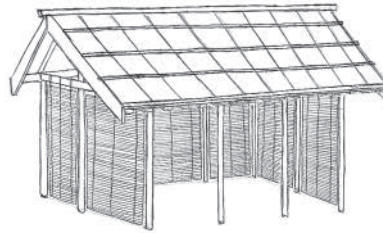
↗ <竈屋>

カマドのある建物です。居宅の人びとの日々の食事を用意したり、広場で開かれる儀式や酒宴の食膳を提供したりしました。台所あるいは厨房のような施設です。地面を掘り窪めたところに柱を立て、茅葺きの屋根を地面近くまで葺き下ろした建物で、農民の住まいも同じ造りでした。



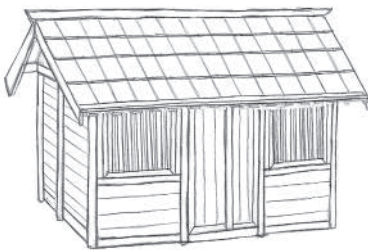
↗ <主屋>

豪族の住まいと考えられる建物で、他の建物よりも柱穴が大きく、太い柱を用いています。壁はなく吹き抜けで、むき出しの柱が重厚な茅葺きの屋根を支えています。壁がないかわりに、部戸という建具が吊るされました。



← <作業小屋>

竈屋のそばにある建物は、居宅内の労働者が様々な仕事をする作業場だったと考えられます。壁はなく吹き抜けで、主屋の部戸よりも簡単な筵が吊るされていました。



← <倉庫>

主に種籾として用いるための、穂首刈りの状態の稲を保管したと考えられる倉庫です。種籾を農民に貸し付け、新しく拓いた田で稲作に従事させました。

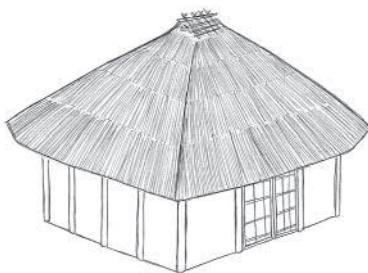
→ <高床倉庫>

内部にも柱がある高床の建物で、穂首刈りした稲から取った籾付きの米を保存したと考えられる倉庫です。食料としての貯蔵用の倉だったのでしょか。



← <仏堂>

調査では見つかりませんが、いくつかの村の跡では、仏堂と考えられる正方形の建物跡の隣に長方形の建物跡が見つかっています。経典の講義や説法を聞く講堂のような使われ方をしたのかもしれない。



↑ <仏堂>

農民の村の一角に建てられた正方形の建物で、豪族の居宅の主屋よりも柱穴が大きく、太い柱を用いていました。調査では出土していませんが、いくつかの村の跡では、このような建物の周りから仏教に関する仏具などが出土しているので、仏像を安置した仏堂だったと考えられます。



<居宅内の仏堂>

調査では見つかりませんが、いくつかの豪族の居宅跡では村の中に建てられたのと同じような仏堂の跡が見つかっています。当時の豪族たちも、仏教を篤く信仰したのです。前戸内の豪族の居宅では、広場の西側にこのような施設が設けられていたかもしれません。

建物や施設の復元パース 発掘調査で見つかった柱穴の配置などを基に、現存する古代の建物や絵図に描かれた建物を参考にしながら建物を復元し、復元画の中に配置しました。

↑ <広場での儀式や酒宴>

居宅内の広場では、さまざまな儀式や酒宴が行なわれていたと推定されます。折に触れて農民たちを酒宴に招き、村の人びとの結束を強めたのでしょう。

おわりに

前戸内遺跡の発掘調査ではこのほかにも、縄文～弥生時代の人びとがシカやイノシシを捕らえた落とし穴の跡、奈良時代の住居跡、鎌倉時代の屋敷の跡、江戸時代のお墓の跡などが見つかりました。このように、前戸内の丘には、縄文時代から現代にいたるまで、幾重にもわたって人びとの生活の痕跡が残されていることが分かったのです。ここに記録された前戸内遺跡の考古学的成果は、地域の歴史を解き明かす鍵として大変貴重なものです。



復元画 前戸内遺跡で営まれた平安時代の村（画 我妻なおみ）

報告書抄録

ふりがな	まえとうちいせき							
書名	前戸内遺跡							
副書名	経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査							
巻・次								
シリーズ名	蔵王町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	鈴木 雅							
編集機関	蔵王町教育委員会							
所在地	〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北10 TEL 0224-33-3008 Fax0224-33-3831							
発行年月日	西暦2013年（平成25年）3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
まえとうちいせき 前戸内遺跡	宮城県刈田郡 蔵王町大字小 村崎字前戸内 地内	43010	05108	38° 7' 37"	140° 41' 09"	2008.11.10 2008.12.19 2009.6.1 2009.9.30	3,557.2㎡	経営体育成 基盤整備事業 （県営ほ場整備 事業・円田2期 地区）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
前戸内遺跡	狩猟場跡	縄文～弥生	落とし穴状土坑 10基		石器			
	集落跡	奈良	竪穴住居跡 4軒 竪穴状遺構 1基 粘土採掘坑 2基		土師器 須恵器 鉄滓		・関東系土師器を伴う ・粘土採掘坑出土炭化物を試料とした放射性炭素年代測定（AMS測定）に基づく暦年較正年代は665-808ADと示された。	
	集落跡 居宅跡	平安	竪穴住居跡 16軒 掘立柱建物跡 25棟 柱列跡 3条 廃棄土坑 1基 土坑 48基 性格不明遺構 1基 溝跡 1条		土師器 ロクロ土師器 須恵器 墨書土器 鉄製品 鉄滓		・墨書土器 28点を伴う ・判読した文字は下記のものがある 「菟田」「草手」「勝」「大」「文」 「三〇〇」「(中)」「(天)」「(一)」	
	屋敷跡	中世	掘立柱建物跡 10棟 柱列跡 5条 井戸跡 2基 溝跡 2条		中世陶器 古銭（至大通宝）			
	墓域跡	近世	近世墓 10基 土坑 4基 溝跡 1条		近世陶磁器 古銭（寛永通宝）・煙管			
	(屋敷跡)	中世～近世	井戸跡 2基 溝跡 5条 土坑 8基					
	不明	不明	柱列跡 3条 井戸跡 4基 土坑 25基 溝跡 1条					
要約	<p>平安時代前葉の竪穴住居跡 14軒、掘立柱建物跡 21棟などが確認され、まとまった集落が営まれていたことが判明した。集落内に掘立柱建物などを逆L字形に配置する官衙風建物群が形成され、郷長・有力百姓クラスの豪族居宅と考えられる。居宅とやや距離を置いて展開する竪穴住居群とその周辺では鉄滓や鉄製品、砥石が出土し、居宅の運営を補完した工人や農業従事者の集落と考えられる。居宅内部には主屋、倉庫群などみられる建物が広場を囲むように配置され、集落の一角には仏堂の可能性がある正方形建物が建てられるなど、多様な機能が窺われる。平安時代の律令型型在地拠点集落の典型例とも言えるものであり、当時の在地社会における集落景観や律令支配の実態を考える上できわめて重要な成果である。</p> <p>このほか、縄文～弥生時代の落とし穴状土坑群、奈良時代中頃・平安時代初頭の竪穴住居跡など、中世の溝跡・掘立柱建物跡群、近世墓群などを確認した。奈良時代中頃の集落が保有した土器群は在地色が希薄で関東系土師器が主体的である。このことから集落の主要な構成員は関東系移民と考えられ、粘土採掘坑の存在や鉄滓の出土から土器製作や小鍛冶などの生産活動を営んでいたことが窺われる。奈良時代の律令政府による対蝦夷政策の一端を反映したものと考えられ、円田盆地北部における伝統的在地社会の変化を知る上で重要な成果である。</p>							

蔵王町文化財調査報告書 第16集

前戸内遺跡

—経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査—

2013年（平成25年）3月25日 印刷・発行

発行 蔵王町教育委員会

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町円田字西浦北10

TEL 0224-33-3008 FAX 0224-33-3831

印刷 株式会社 津田印刷

〒989-1236 宮城県柴田郡大河原町字東原町13-5

TEL 0224-52-5550 FAX 0224-52-3097
